三菱重工

暖ガンハイパーインバータシリーズ

技術資料

天井埋込形4方向吹出し（FDT）
天井埋込形2方向吹出し（FDTW）
天埋カセテリア（FDR）
高静圧ダクト形（FDU）
天吊形（FDE）
壁掛形（FDK）
床置形（FDF）

4-547-1-D
'19-8 発行

目　次

1. 仕　　様 …… 2
2. 使用範囲 …… 38
3. 外　形　図 …… 42
4. 塗　装　色 …… 71
5. 能力特性 …… 74
6. 送風機特性 …… 89
7. 気流分布 …… 99
8. 運　転　音 …… 111
9. 電気配線図 …… 116
10. 電源・配線仕様 …… 130
11. 防振設計用参考資料 …… 133
12. 冷媒配管系統図 …… 135
13. 据付関連事項 …… 138
14. マイコン運転制御機能 …… 284
15. 電装品故障診断要領 …… 324
16. 標準運転データ …… 419
17. 耐重塩害仕様室外ユニット …… 421
18. 別売品 …… 423

●形式記号説明（例）

セット形式

FD T K 80 5 H 5S

- 室内シリーズNo.
- ヒートポンプ機
- 室外シリーズNo.
- 冷房最大能力を示す（8.0kW）
- 暖ガンハイパーインバータ
- タイプ(1)
- ファンコイルダイレクト

室内ユニット形式

FD T(1) K P112 5S

- シリーズNo.
- 冷房最大能力を示す（11.2kW）
- 暖ガンハイパーインバータ
- タイプ(1)
- ファンコイルダイレクト

室外ユニット形式

FD C K P80 5 H

- ヒートポンプ機
- シリーズNo.
- 冷房最大能力を示す（8.0kW）
- 暖ガンハイパーインバータ
- 室外ユニット
- ファンコイルダイレクト

注（1）T…天井埋込形4方向吹出し，TW…天井埋込形2方向吹出し，R…天埋カセテリア，U…高静圧ダクト形，E…天吊形，K…壁掛形，F…床置形

1. 仕　　様

(a) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTK-H〕

PJF000Z590 Ⓐ　PJF000Z594 Ⓐ
PJF000Z598 Ⓐ　PJF000Z602 Ⓐ

項目 ＼ セット形式				FDTK805H5S	FDTK1125H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTKP1125S 室外：FDCKP805H	室内：FDTKP1125S 室外：FDCKP1125H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G(5)	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［2.9～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.8～10.0］（最小：2.8）	11.2［2.8～14.3］（最小：2.8）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		12.5（極低温：12.5）	14.5（極低温：14.5）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.88
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	5.1	6.2
		暖房		5.2	7.0
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.68	2.40
		冷房 中間		0.490（中温：0.375）	0.785（中温：0.590）
		冷房 最小中温		0.315	0.330
		暖房 定格標準		1.71（最小：0.410）	2.38（最小：0.415）
		暖房 中間		0.580	0.770
		暖房 最大低温		5.88（極低温：6.13）	6.00（極低温：6.41）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.23，中間：6.53	定格：4.17，中間：5.73
		暖房		定格：4.68，中間：6.21	定格：4.71，中間：6.62
	通年エネルギー消費効率	(2015)		6.7	6.8
		(2006)		6.0	6.0
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：58，強：53，弱：46	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：48，急：42，強：38，弱：31	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：298 ×840×840 (7)，パネル：35×950×950	
	製品質量		kg	本体：27，標準パネル：5，エアフレックスパネル：6，ラクリーナパネル：7，お掃除ラクリーナパネル：12	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）×1	
		風量	m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：20	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	120	
		エアフィルタ		プラスチックネット(洗浄可能)，ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			側板を利用して可能（100×100，200×100ダクト接続）	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65×112ダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度−15℃～50℃で冷房運転可能(10)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5×3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) エアフレックスパネル，ラクリーナパネル，お掃除ラクリーナパネルについては，RC-DX3Bのみ使用可能です。
(6) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(7) お掃除ラクリーナパネル使用時，外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）
(8) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.14kW × 1台
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTK-H〕

セット形式					FDTK1405H5S	FDTK1605H5S
項目 ＼ 形式					室内：FDTKP1605S 室外：FDCKP1405H	室内：FDTKP1605S 室外：FDCKP1405H
パネル形式（別売品）					71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ					RC-DX3B，RC-D4G(5)	
電源					三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格		kW	12.5［6.0～14.0］	14.0［6.3～16.0］
		中間			6.0（中温：6.5）	6.3（中温：6.6）
		最小中温			－	－
	暖房能力	定格標準			14.0［5.6～18.3］（最小：5.6）	16.0［5.7～20.3］（最小：5.7）
		中間			6.3	7.2
		最大低温			17.0（極低温：17.0）	18.0（極低温：17.0）
定格冷房時の顕熱比					0.78	0.74
(1)運転特性	運転電流	冷房		A	9.2	11.3
		暖房			11.0	13.2
	始動電流（最大電流）				5（27）	
	消費電力	冷房	定格	kW	3.02	3.72
			中間		1.37（中温：1.17）	1.38（中温：1.17）
			最小中温		－	－
		暖房	定格標準		3.62（最小：1.14）	4.36（最小：1.15）
			中間		1.20	1.42
			最大低温		7.45（極低温：7.80）	7.75（極低温：7.95）
	力率			%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房			定格：4.14，中間：4.38	定格：3.76，中間：4.57
		暖房			定格：3.87，中間：5.25	定格：3.67，中間：5.07
	通年エネルギー消費効率	（2015）			4.7	4.8
		（2006）			4.8	4.7
運転音	室内ユニット	パワーレベル		dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：58，強：53，弱：46	
		音圧レベル			（冷/暖）P急：48，急：42，強：38，弱：31	
	室外ユニット	パワーレベル			冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル			冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）			mm	本体：298 ×840×840 (7)，パネル：35×950×950	
	製品質量			kg	本体：27，標準パネル：5，エアフレックスパネル：6，ラクリーナパネル：7，お掃除ラクリーナパネル：12	
	空気熱交換器				アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）×1	
		風量		m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：20	
		機外静圧（標準風量時）		Pa	0	
		電動機	定格出力	W	120	
		エアフィルタ			プラスチックネット(洗浄可能)，ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口				側板を利用して可能（100×100，200×100ダクト接続）	
	新鮮空気取入口				側板を利用して可能（65×112ダクト接続）	
	運転調整				操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器				－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材				送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	1505×970×370	
	製品質量			kg	165	
	冷却装置	圧縮機	形式・台数		GTC5150MC40KC×1	
			電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器			電子膨張弁	
		冷媒封入量		kg	7.2（R410A）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量		ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数			軸流式（モータ直結）×2	
		風量		m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機	定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ			W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能				室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)	
	除霜				マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置				圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管		mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管			φ15.88（フレア接続）	
	排水口				〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）			mm^2	8.0×3本（39m）(11)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）			A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）				60（40）	
	アース線サイズ			mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線			mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力				MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力				トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード					室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置					高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) エアフレックスパネル，ラクリーナパネル，お掃除ラクリーナパネルについては，RC-DX3Bのみ使用可能です。
(6) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(7) お掃除ラクリーナパネル使用時，外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）
(8) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.14kW×1台
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(11) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDTK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDTK805HP5S	FDTK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTKP565S × 2台 室外：FDCKP805H	室内：FDTKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G (5)	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8 ～ 8.0］	10.0［2.9 ～ 11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5 （中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.8 ～ 10.0］（最小：2.8）	11.2［2.9 ～ 14.3］（最小：2.9）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		12.5（極低温：12.5）	14.5（極低温：14.5）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.89
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	3.8	6.3
		暖房		4.6	7.2
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.26	2.06
		冷房 中間		0.500（中温：0.430）	0.660（中温：0.500）
		冷房 最小中温		0.340	0.370
		暖房 定格標準		1.50 （最小：0.490）	2.37 （最小：0.510）
		暖房 中間		0.615	0.760
		暖房 最大低温		5.70（極低温：5.85）	5.85（極低温：6.01）
	力率		%	冷：96 ，暖：94	冷：95 ，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：5.63，中間：6.40	定格：4.85，中間：6.82
		暖房		定格：5.33，中間：5.85	定格：4.73，中間：6.71
	通年エネルギー消費効率	(2015)		6.2	6.8
		(2006)		6.1	6.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：53，急：48，強：47，弱：44	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：38，急：33，強：31，弱：29	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：236 × 840 × 840 (7)，パネル：35 × 950 × 950	
	製品質量		kg	本体：21，標準パネル：5，エアフレックスパネル：6，ラクリーナパネル：7，お掃除ラクリーナパネル：12	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）× 1	
		風量	m^3/min	P急：19，急：15 ，強：13，弱：11	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	58	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			側板を利用して可能（100 × 100，200 × 100 ダクト接続）	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112ダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(10)	kg	4.2（R32）	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(13)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(11)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52， 室外接続：φ9.52 （フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) エアフレックスパネル，ラクリーナパネル，お掃除ラクリーナパネルについては，RC-DX3Bのみ使用可能です。
(6) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(7) お掃除ラクリーナパネル使用時，外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）
(8) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.03kW × 2台
(9) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(10) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(11) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(12) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP40形，P56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(13) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDTK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDTK1405HP5S	FDTK1605HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTKP1125S × 2台 室外：FDCKP1405H	室内：FDTKP1125S × 2台 室外：FDCKP1605H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G(5)	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.6 ～ 14.0］	14.0［6.6 ～ 16.0］
		中間		6.6（中温：6.9）	6.6（中温：6.9）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6 ～ 18.3］（最小：5.6）	16.0［5.9 ～ 20.3］（最小：5.9）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		17.0（極低温：17.0）	18.0（極低温：17.0）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.98
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	8.2	10.0
		暖房		8.3	10.3
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	2.67	3.25
		冷房 中間		1.35（中温：1.05）	1.36（中温：1.05）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		2.85（最小：1.10）	3.36（最小：1.22）
		暖房 中間		1.08	1.25
		暖房 最大低温		7.34（極低温：7.54）	7.65（極低温：7.74）
	力率		%	冷：94 ，暖：93	冷：94 ，暖：94
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.68，中間：4.89	定格：4.31，中間：4.85
		暖房		定格：4.91，中間：5.83	定格：4.76，中間：5.76
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.4	5.3
		(2006)		5.5	5.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：58，強：53，弱：46	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：48，急：42，強：38，弱：31	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：298 × 840 × 840 (7)，パネル：35 × 950 × 950	
	製品質量		kg	本体：27，標準パネル：5，エアフレックスパネル：6，ラクリーナパネル：7，お掃除ラクリーナパネル：12	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）× 1	
		風量	m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：20	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	120	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			側板を利用して可能（口 100ダクト接続）	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112ダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(10)	kg	7.2（R410A）	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(13)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(11)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（39m）(14)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) エアフレックスパネル，ラクリーナパネル，お掃除ラクリーナパネルについては，RC-DX3Bのみ使用可能です。
(6) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(7) お掃除ラクリーナパネル使用時，外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）
(8) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.14kW × 2台
(9) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(10) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(11) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(12) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP71形，P80形に設定され，上記の仕様で運転します。
(13) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(14) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）トリプル形（室内ユニット：3 台，室外ユニット：1 台）〔FDTK-HT〕

項目 ＼ セット形式				FDTK1605HT5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTKP565S × 3台 室外：FDCKP1605H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G(5)
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	14.0 [7.0 ～ 16.0]
		中間		7.0（中温：7.6）
		最小中温		ー
	暖房能力	定格標準		16.0 [5.6 ～ 20.3]（最小：5.6）
		中間		7.2
		最大低温		18.0（極低温：17.0）
定格冷房時の顕熱比				0.93
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	10.6
		暖房		10.6
	始動電流（最大電流）			5（27）
	消費電力	冷房 定格	kW	3.46
		冷房 中間		1.34（中温：1.14）
		冷房 最小中温		ー
		暖房 定格標準		3.48（最小：1.05）
		暖房 中間		1.18
		暖房 最大低温		8.10（極低温：8.14）
	力率		%	冷：94 ，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.05，中間：5.22
		暖房		定格：4.60，中間：6.10
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.5
		(2006)		5.6
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：53 ，急：48 ，強：47 ，弱：44
		音圧レベル		（冷/暖）P急：38 ，急：33 ，強：31 ，弱：29
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68 ，暖：73
		音圧レベル		冷：56 ，暖：60
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：236 × 840 × 840 (7)，パネル：35 × 950 × 950
	製品質量		kg	本体：21，標準パネル：5，エアフレックスパネル：6，ラクリーナパネル：7，お掃除ラクリーナパネル：12
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）× 1
		風量	m^3/min	P急：19 ，急：15 ，強：13 ，弱：11
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0
		電動機 定格出力	W	58×1
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）
	吹出ダクト接続口			側板を利用して可能（□ 100ダクト接続）
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112ダクト接続）
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	165
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(10)	kg	7.2（R410A）
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：114 ，暖：130
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度−15℃～50℃で冷房運転可能(13)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(11)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，　室外接続：φ9.52 （フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，　室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（39m）(14)
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21
法定冷凍能力			トン	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。[～]は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) エアフレックスパネル，ラクリーナパネル，お掃除ラクリーナパネルについては，RC-DX3Bのみ使用可能です。
(6) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(7) お掃除ラクリーナパネル使用時，外形寸法の本体高さはプラス110mm高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）
(8) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.03kW × 3台
(9) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット3台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(10) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(11) トリプル機の分岐配管は，必ず下記を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
① 各室内ユニットまでの配管長差が3m未満 ：DIS-TB1G　　② 各室内ユニットまでの配管長差が3m以上 ：DIS-WA1G+DIS-WB1G
(12) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(13) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(14) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

(b) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTWK-H〕

PJB001Z855Ⓐ PJB001Z860Ⓐ

項目 ＼ セット形式 / 形式				FDTWK805H5S	FDTWK1125H5S
				室内：FDTWKP805S 室外：FDCKP805H	室内：FDTWKP1605S 室外：FDCKP1125H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［2.9～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.6～14.3］（最小：2.6）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.0（極低温：13.0）
定格冷房時の顕熱比				0.89	0.75
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	6.2	8.1
		暖房		7.0	8.2
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	2.05	2.67
		冷房 中間		0.590（中温：0.450）	0.720（中温：0.650）
		冷房 最小中温		0.400	0.390
		暖房 定格標準		2.30（最小：0.470）	2.71（最小：0.470）
		暖房 中間		0.680	0.910
		暖房 最大低温		6.55（極低温：6.66）	6.82（極低温：6.96）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.46，中間：5.42	定格：3.75，中間：6.25
		暖房		定格：3.48，中間：5.29	定格：4.13，中間：5.60
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.5	5.8
		(2006)		4.9	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	(冷/暖)P急：63，急：60，強：56，弱：52	
		音圧レベル		(冷/暖)P急：48，急：45，強：41，弱：37	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：325×1535×620，パネル：20×1835×680	
	製品質量		kg	本体：35（P112形：37），標準パネル：13，ラクリーナパネル：15	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	P急：31，急：27，強：23，弱：20	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	35×2	40×2
		エアフィルタ		プラスチックネット(洗浄可能)，ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			φ200mmフレシキブルダクト×1，接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能）(8)	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（φ125 フレシキブルダクト接続可能・天井内）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度−15℃～50℃で冷房運転可能(9)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5×3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［ ～ ］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.1kW × 1台

(7) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80用）および共用タイプ（P112，P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。

(8) 遮風は吹出分岐ダクト側にしてください。

(9) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDTWK-H〕

項目 ＼ セット形式				FDTWK1405H5S	FDTWK1605H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTWKP1605S 室外：FDCKP1405H	室内：FDTWKP1605S 室外：FDCKP1605H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.0～14.0］	14.0［6.3～16.0］
		中間		6.0（中温：6.5）	6.3（中温：6.6）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.8～18.3］（最小：5.8）	16.0［5.9～20.3］（最小：5.9）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		15.2（極低温：15.2）	15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比				0.68	0.65
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	10.0	12.3
		暖房		12.0	14.8
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.29	4.05
		冷房 中間		1.39（中温：1.23）	1.40（中温：1.25）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		3.95（最小：1.27）	4.88（最小：1.29）
		暖房 中間		1.26	1.48
		暖房 最大低温		7.30（極低温：7.62）	7.65（極低温：7.76）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.80，中間：4.32	定格：3.46，中間：4.50
		暖房		定格：3.54，中間：5.00	定格：3.28，中間：4.86
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.4	4.4
		（2006）		4.5	4.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：60，強：56，弱：52	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：48，急：45，強：41，弱：37	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：325×1535×620，パネル：20×1835×680	
	製品質量		kg	本体：37，標準パネル：13，ラクリーナパネル：15	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）×2	
		風量	m³/min	P急：31，急：27，強：23，弱：20	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	40×2	
	エアフィルタ			プラスチックネット(洗浄可能)，ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			φ200mmフレシキブルダクト×1，接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能）(8)	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（φ125 フレシキブルダクト接続可能・天井内）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	7.2（R410A）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m³/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(9)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm²	8.0×3本（39m）(10)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm²	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm²	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.1kW × 1台
(7) 室内ユニットは共用タイプ（P112，P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。
(8) 遮風は吹出分岐ダクト側にしてください。
(9) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(10) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDTWK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDTWK805HP5S	FDTWK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTWKP565S × 2台 室外：FDCKP805H	室内：FDTWKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［2.9～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6 ～ 10.0］（最小：2.6）	11.2［2.9 ～ 14.3］（最小：2.9）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.0（極低温：13.0）
定格冷房時の顕熱比				0.91	0.75
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.7	8.5
		暖房		5.9	9.0
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.89	2.81
		冷房 中間		0.580（中温：0.490）	0.770（中温：0.650）
		冷房 最小中温		0.380	0.410
		暖房 定格標準		1.93 （最小：0.490）	2.95 （最小：0.590）
		暖房 中間		0.670	0.960
		暖房 最大低温		6.58（極低温：6.64）	6.88（極低温：6.95）
	力率		%	冷：95 ，暖：95	冷：95 ，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.76 ，中間：5.52	定格：3.56 ，中間：5.84
		暖房		定格：4.15 ，中間：5.37	定格：3.80 ，中間：5.31
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.4	5.5
		（2006）		5.2	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：61 ，急：56 ，強：54 ，弱：50	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：45 ，急：40 ，強：38 ，弱：34	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66 ，暖：68
		音圧レベル		冷：49 ，暖：50	冷：49 ，暖：50
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：325 × 820 × 620，パネル：20 × 1120 × 680	
	製品質量		kg	本体：23，標準パネル：8.5，ラクリーナパネル：10	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）× 1	
		風量	m³/min	P急：17，急：13 ，強：12 ，弱：10	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	50	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			φ200mmフレシキブルダクト × 1，接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能）(11)	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（φ125 フレシキブルダクト接続可能・天井内）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(8)	kg	4.2（R32）	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m³/min	冷：95 ，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(12)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，　室外接続：φ9.52 （フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm²	5.5 × 3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm²	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm²	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.06kW × 2台
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音・補助電熱器の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP40形，P56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 遮風は吹出分岐ダクト側にしてください。
(12) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDTWK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDTWK1405HP5S	FDTWK1605HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDTWKP805S × 2台 室外：FDCKP1405H	室内：FDTWKP805S × 2台 室外：FDCKP1605H
パネル形式（別売品）				71ページをご覧ください。	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.8～14.0］	14.0［6.8～16.0］
		中間		6.8（中温：7.2）	6.8（中温：7.2）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6～18.3］（最小：5.6）	16.0［5.9～20.3］（最小：5.9）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		15.2（極低温：15.2）	15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比				0.91	0.84
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	9.7	11.7
		暖房		9.4	11.2
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.17	3.80
		冷房 中間		1.44（中温：1.18）	1.44（中温：1.18）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		3.07（最小：1.19）	3.64（最小：1.34）
		暖房 中間		1.17	1.32
		暖房 最大低温		7.55（極低温：7.67）	7.85（極低温：7.97）
	力率		%	冷：94，暖：94	冷：94，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.94，中間：4.72	定格：3.68，中間：4.72
		暖房		定格：4.56，中間：5.38	定格：4.40，中間：5.45
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.9	4.8
		（2006）		5.1	5.0
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：60，強：56，弱：52	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：48，急：45，強：41，弱：37	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	本体：325×1535×620，パネル：20×1835×680	
	製品質量		kg	本体：35，標準パネル：13，ラクリーナパネル：15	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		ターボ式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	P急：31，急：27，強：23，弱：20	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	35×2	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			φ200mmフレシキブルダクト×1，接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能）(11)	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（φ125 フレシキブルダクト接続可能・天井内）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(8)	kg	7.2（R410A）	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(12)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0×3本（39m）(13)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.10kW × 2台
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP71形，P80形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 遮風は吹出分岐ダクト側にしてください。
(12) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(13) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）トリプル形（室内ユニット：3台，室外ユニット：1台）〔FDTWK-HT〕

項目 ＼ セット形式					FDTWK1605HT5S
項目 ＼ 形式					室内：FDTWKP565S × 3台 室外：FDCKP1605H
パネル形式（別売品）					71ページをご覧ください。
リモートコントローラ					RC-DX3B，RC-D4G
電源					三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格		kW	14.0［6.5～16.0］
		中間			6.5（中温：7.4）
		最小中温			－
	暖房能力	定格標準			16.0［6.0～20.3］（最小：6.0）
		中間			7.2
		最大低温			15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比					0.72
(1)運転特性	運転電流	冷房		A	12.4
		暖房			11.7
	始動電流（最大電流）				5（27）
	消費電力	冷房	定格	kW	3.98
			中間		1.42（中温：1.25）
			最小中温		－
		暖房	定格標準		3.82（最小：1.52）
			中間		1.42
			最大低温		7.83（極低温：7.85）
	力率			%	冷：93，暖：94
	エネルギー消費効率	冷房			定格：3.52，中間：4.58
		暖房			定格：4.19，中間：5.07
	通年エネルギー消費効率	（2015）			4.5
		（2006）			4.7
運転音	室内ユニット	パワーレベル		dB(A)	（冷/暖）P急：61，急：56，強：54，弱：50
		音圧レベル			（冷/暖）P急：42，急：38，強：34，弱：31
	室外ユニット	パワーレベル			冷：68，暖：73
		音圧レベル			冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）			mm	本体：325×820×620，パネル：20×1120×680
	製品質量			kg	本体：23，標準パネル：8.5，ラクリーナパネル：10
	空気熱交換器				アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）×1
		風量		m^3/min	P急：17，急：13，強：12，弱：10
		機外静圧（標準風量時）		Pa	0
		電動機	定格出力	W	50×1
		エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）
	吹出ダクト接続口				φ200mmフレシキブルダクト×1，接続可能（ユニット側面）（片側直吹と併設可能）(11)
	新鮮空気取入口				側板を利用して可能（φ125 フレシキブルダクト接続可能・天井内）
	運転調整				操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器				－（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材				送風用電動機：防振ゴム
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	1505×970×370
	製品質量			kg	165
	冷却装置	圧縮機	形式・台数		GTC5150MC40KC×1
			電動機出力	kW	4.2
		空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器			電子膨張弁
		冷媒封入量(8)		kg	7.2（R410A）
		冷凍機油封入量		ℓ	1.55（M-MA32R）
	送風装置	形式・台数			軸流式（モータ直結）×2
		風量		m^3/min	冷：114，暖：130
		電動機	定格出力	W	86×2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ			W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能				室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(12)
	除霜				マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置				圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管		mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，　室外接続：φ9.52　（フレア）
		ガス管			室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口				〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）			mm^2	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）			A	40
	開閉器容量（ヒューズ容量）				60（40）
	アース線サイズ			mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線			mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）
設計圧力				MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21
法定冷凍能力				トン	1.64（届出不要）
IPコード					室内：IPX0，室外：IPX4
保護装置					高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.06kW × 3台
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット3台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) トリプル機の分岐配管は，必ず下記を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
① 各室内ユニットまでの配管長差が3m未満　：DIS-TB1G　　② 各室内ユニットまでの配管長差が3m以上　：DIS-WA1G+DIS-WB1G
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 遮風は吹出分岐ダクト側にしてください。
(12) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(13) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

ⒸC　天埋カセテリア形（FDR）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRK-H〕

PJG000Z626Ⓐ　PJG000Z631Ⓐ

セット形式 / 形式 / 項目				FDRK805H5S		FDRK1125H5S	
				室内：FDRKP1125S 室外：FDCKP805H		室内：FDRKP1125S 室外：FDCKP1125H	
吸込パネル				サイレントパネル	キャンバスパネル	サイレントパネル	キャンバスパネル
パネル形式（別売品）				R-PNS-4AW	R-PNC-4AW	R-PNS-4AW	R-PNC-4AW
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G			
電源				三相　200V　50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］		10.0［2.9～11.2］	
		中間		3.2（中温：3.3）		4.5（中温：4.7）	
		最小中温		2.8		2.9	
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）		11.2［2.6～14.3］（最小：2.6）	
		中間		3.6		5.1	
		最大低温		11.8（極低温：11.8）		13.7（極低温：13.7）	
定格冷房時の顕熱比				0.98		0.89	
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.3		7.7	
		暖房		5.8		8.3	
	始動電流（最大電流）			5（27）			
	消費電力	冷房 定格	kW	1.75		2.54	
		冷房 中間		0.580（中温：0.485）		0.800（中温：0.680）	
		冷房 最小中温		0.420		0.430	
		暖房 定格標準		1.90（最小：0.510）		2.72（最小：0.520）	
		暖房 中間		0.660		0.970	
		暖房 最大低温		6.50（極低温：6.62）		6.65（極低温：6.79）	
	力率		%	冷：95，暖：95		冷：95，暖：95	
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.06，中間：5.52		定格：3.94，中間：5.63	
		暖房		定格：4.21，中間：5.45		定格：4.12，中間：5.26	
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.4		5.5	
		(2006)		5.3		5.2	
運転音	室内ユニット	パワーレベル（冷/暖）	dB(A)	P急：74，急：68，強：63，弱：58	P急：75，急：69，強：64，弱：59	P急：74，急：68，強：63，弱：58	P急：75，急：69，強：64，弱：59
		音圧レベル（冷/暖）		P急：53，急：47，強：42，弱：37	P急：54，急：48，強：43，弱：38	P急：53，急：47，強：42，弱：37	P急：54，急：48，強：43，弱：38
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66		冷：66，暖：68	
		音圧レベル		冷：49，暖：50		冷：49，暖：50	
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）	本体	mm	348×1370×738	(348＋α)×1370×738 (6)	348×1370×738	(348＋α)×1370×738 (6)
		パネル		20×1658×850	20×1484×585	20×1658×850	20×1484×585
	製品質量		kg	本体：54，パネル：17	本体：54，パネル：13.5	本体：54，パネル：17	本体：54，パネル：13.5
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式			
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3			
		風量	m³/min	P急：48，急：35，強：28，弱：22			
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）			
		電動機 定格出力	W	100×1+200×1			
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）			
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト×4スポット接続）			
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）			
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）			
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）			
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付			
室外ユニット	外形寸法 高さ×幅×奥行		mm	1505×970×370			
	製品質量		kg	115			
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1			
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7		2.3	
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式			
		冷媒制御器		電子膨張弁			
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］			
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）			
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2			
		風量	m³/min	冷：95，暖：84			
		電動機 定格出力	W	86×2			
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115			
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(9)			
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式			
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付			
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）			
		ガス管		φ15.88（フレア接続）			
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個			
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm²	5.5×3本（25m）			
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40			
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）			
	アース線サイズ		mm²	2.0以上（M5）			
	室内外ユニット接続配線		mm²	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）			
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26			
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）		0.72（届出不要）	
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4			
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ			

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。

(6) キャンバスパネル仕様の外形寸法室内高さはキャンバスダクト（別売）分が＋αされます。（外形図参照）

(7) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.4kW × 1台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.44kW（静圧100Pa）× 1台となります。］

(8) 室内ユニットは共用タイプ（P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。

(9) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRK-H〕

セット形式	FDRK1405H5S		FDRK1605H5S	
項目 ＼ 形式	室内：FDRKP1605S 室外：FDCKP1405H		室内：FDRKP1605S 室外：FDCKP1605H	
吸込パネル	サイレントパネル	キャンバスパネル	サイレントパネル	キャンバスパネル
パネル形式（別売品）	R-PNS-4AW	R-PNC-4AW	R-PNS-4AW	R-PNC-4AW
リモートコントローラ	RC-DX3B，RC-D4G			
電源	三相　200V　50/60Hz			
(1) 能力 冷房能力 定格	12.5［6.2～14.0］		14.0［6.3～16.0］	
冷房能力 中間	6.2（中温：6.3）		6.3（中温：6.4）	
冷房能力 最小中温	－		－	
暖房能力 定格標準	14.0［6.0～18.3］（最小：6.0）		16.0［6.1～20.3］（最小：6.1）	
暖房能力 中間	6.3		7.2	
暖房能力 最大低温	15.7（極低温：15.7）		16.2（極低温：16.2）	
定格冷房時の顕熱比	0.78		0.73	
(1) 運転特性 運転電流 冷房	10.6		12.5	
運転電流 暖房	11.1		13.4	
始動電流（最大電流）	5（32）			
消費電力 冷房 定格	3.45		4.06	
消費電力 冷房 中間	1.48（中温：1.30）		1.50（中温：1.30）	
消費電力 冷房 最小中温	－		－	
消費電力 暖房 定格標準	3.61（最小：1.39）		4.37（最小：1.38）	
消費電力 暖房 中間	1.30		1.54	
消費電力 暖房 最大低温	7.50（極低温：7.65）		7.90（極低温：8.01）	
力率	冷：94，暖：94		冷：94，暖：94	
エネルギー消費効率 冷房	定格：3.62，中間：4.19		定格：3.45，中間：4.20	
エネルギー消費効率 暖房	定格：3.88，中間：4.85		定格：3.66，中間：4.68	
通年エネルギー消費効率（2015）	4.1		4.2	
通年エネルギー消費効率（2006）	4.5		4.4	
運転音 室内ユニット パワーレベル（冷/暖）	P急：74，急：68，強：63，弱：58	P急：75，急：69，強：64，弱：59	P急：74，急：68，強：63，弱：58	P急：75，急：69，強：64，弱：59
運転音 室内ユニット 音圧レベル（冷/暖）	P急：53，急：47，強：42，弱：37	P急：54，急：48，強：43，弱：38	P急：53，急：47，強：42，弱：37	P急：54，急：48，強：43，弱：38
運転音 室外ユニット パワーレベル	冷：68，暖：73		冷：68，暖：73	
運転音 室外ユニット 音圧レベル	冷：55，暖：60		冷：56，暖：60	
室内ユニット 外形寸法（高さ×幅×奥行） 本体	348×1370×738	(348＋α)×1370×738 (6)	348×1370×738	(348＋α)×1370×738 (6)
室内ユニット 外形寸法（高さ×幅×奥行） パネル	20×1658×850	20×1484×585	20×1658×850	20×1484×585
室内ユニット 製品質量	本体：54，パネル：17	本体：54，パネル：13.5	本体：54，パネル：17	本体：54，パネル：13.5
室内ユニット 空気熱交換器	アルミフィン＆銅チューブ式			
室内ユニット 送風装置 形式・台数	両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3			
室内ユニット 送風装置 風量	P急：48，急：35，強：28，弱：22			
室内ユニット 送風装置 機外静圧（標準風量時）	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）			
室内ユニット 送風装置 電動機 定格出力	100×1+200×1			
室内ユニット 送風装置 エアフィルタ	プラスチックネット（洗浄可能）			
室内ユニット 吹出ダクト接続口	前面（φ200mm フレキシブルダクト×4スポット接続）			
室内ユニット 新鮮空気取入口	新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）			
室内ユニット 運転調整	操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転·点検用·LED，液晶表示）			
室内ユニット 遠方発停用機能	遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
室内ユニット 加湿器	－（気化式加湿器取付可能）			
室内ユニット 防振装置・防音・断熱材	送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付			
室外ユニット 外形寸法 高さ×幅×奥行	1505×970×370			
室外ユニット 製品質量	165			
室外ユニット 冷却装置 圧縮機 形式・台数	GTC5150MC40KC×1			
室外ユニット 冷却装置 圧縮機 電動機出力	3.5		4.2	
室外ユニット 冷却装置 空気熱交換器	アルミフィン＆銅チューブ式			
室外ユニット 冷却装置 冷媒制御器	電子膨張弁			
室外ユニット 冷却装置 冷媒封入量	7.2（R410A）［配管30m分封入済］			
室外ユニット 冷却装置 冷凍機油封入量	1.55（M-MA32R）			
室外ユニット 送風装置 形式・台数	軸流式（モータ直結）×2			
室外ユニット 送風装置 風量	冷：114，暖：130			
室外ユニット 送風装置 電動機 定格出力	86×2			
室外ユニット クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ	20/115			
室外ユニット 低外気温時冷房運転制御機能	室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(9)			
室外ユニット 除霜	マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式			
室外ユニット 防振・防音装置	圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付			
配管寸法（外径） 冷媒配管 液管	φ9.52（フレア接続）			
配管寸法（外径） 冷媒配管 ガス管	φ15.88（フレア接続）			
配管寸法 排水口	〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個			
電気配線 電源配線サイズ（こう長）	8.0×3本（31m）(10)			
電気配線 漏電しゃ断器（高調波対応品）	50			
電気配線 開閉器容量（ヒューズ容量）	60（50）			
電気配線 アース線サイズ	2.0以上（M5）			
電気配線 室内外ユニット接続配線	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）			
設計圧力	高圧部：4.15，低圧部：2.21			
法定冷凍能力	1.35（届出不要）		1.64（届出不要）	
IPコード	室内：IPXO，室外：IP24			
保護装置	高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ			

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) キャンバスパネル仕様の外形寸法室内高さはキャンバスダクト（別売）分が＋αされます。（外形図参照）
(7) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.4kW × 1台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.44kW（静圧100Pa）× 1台となります。］
(8) 室内ユニットは共用タイプ（P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。
(9) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(10) 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，長さ：55mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDRK-HP〕

セット形式 / 項目 / 形式				FDRK805HP5S		FDRK1125HP5S	
				室内：FDRKP565S × 2台 室外：FDCKP805H		室内：FDRKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H	
吸込パネル				サイレントパネル	キャンバスパネル	サイレントパネル	キャンバスパネル
パネル形式（別売品）				R-PNS-3AW × 2枚	R-PNC-3AW × 2枚	R-PNS-3AW × 2枚	R-PNC-3AW × 2枚
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G			
電源				三相　200V　50/60Hz			
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］		10.0［3.3～11.2］	
		中間		3.2（中温：3.3）		4.5（中温：4.7）	
		最小中温		2.8		3.3	
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）		11.2［2.9～14.3］（最小：2.9）	
		中間		3.6		5.1	
		最大低温		11.8（極低温：11.8）		13.2（極低温：13.2）	
定格冷房時の顕熱比				0.98		0.94	
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.1		8.1	
		暖房		5.8		8.4	
	始動電流（最大電流）			5（26）			
	消費電力	冷房 定格	kW	1.69		2.65	
		冷房 中間		0.650（中温：0.510）		0.810（中温：0.680）	
		冷房 最小中温		0.410		0.460	
		暖房 定格標準		1.90（最小：0.560）		2.78（最小：0.630）	
		暖房 中間		0.720		0.970	
		暖房 最大低温		6.50（極低温：6.74）		6.85（極低温：7.04）	
	力率		%	冷：95，暖：95		冷：94，暖：96	
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.20，中間：4.92		定格：3.77，中間：5.56	
		暖房		定格：4.21，中間：5.00		定格：4.03，中間：5.26	
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.1		5.3	
		（2006）		4.9		5.1	
運転音	室内ユニット	パワーレベル（冷/暖）	dB(A)	P急：68，急：64，強：60，弱：52	P急：69，急：65，強：61，弱：53	P急：68，急：64，強：60，弱：52	P急：69，急：65，強：61，弱：53
		音圧レベル（冷/暖）		P急：47，急：43，強：39，弱：31	P急：48，急：44，強：40，弱：32	P急：47，急：43，強：39，弱：31	P急：48，急：44，強：40，弱：32
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66		冷：66，暖：68	
		音圧レベル		冷：49，暖：50		冷：49，暖：50	
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）	本体	mm	サイレントパネル使用：348 × 950 × 635，キャンバスパネル使用：（348 ＋α）× 950 × 635 (6)			
		パネル		20 × 1240 × 750	20 × 1064 × 585	20 × 1240 × 750	20 × 1064 × 585
	製品質量		kg	本体：34，パネル：11.4	本体：34，パネル：9.3	本体：34，パネル：11.4	本体：34，パネル：9.3
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式			
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2			
		風量	m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10			
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）			
		電動機 定格出力	W	130 × 1			
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）			
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト × 3 スポット接続）			
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）			
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）			
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）			
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付			
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370			
	製品質量		kg	115			
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1			
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7		2.3	
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式			
		冷媒制御器		電子膨張弁			
		冷媒封入量(9)	kg	4.2（R32）			
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）			
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2			
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84			
		電動機 定格出力	W	86 × 2			
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115			
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(12)			
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式			
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付			
配管寸法	冷媒配管(10)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）			
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）			
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個			
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（26m）			
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40			
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）			
	アース線サイズ		mm^2	3.5			
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）			
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26			
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）		1.02（届出不要）	
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4			
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ			

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) キャンバスパネル仕様の外形寸法室内高さはキャンバスダクト（別売）分が＋αされます。（外形図参照）
(7) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.14kW × 2台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.19kW（静圧100Pa）× 2台となります。］
(8) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(9) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(10) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(11) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP40形，P56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(12) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDRK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDRK1405HP5S	
項目 ＼ 形式				室内：FDRKP715S × 2台 室外：FDCKP1405H	
吸込パネル				サイレントパネル	キャンバスパネル
パネル形式（別売品）				R-PNS-4AW × 2枚	R-PNC-4AW × 2枚
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	12.5 [6.9 ～ 14.0]	
		中間		6.9（中温：7.4）	
		最小中温		－	
	暖房能力	定格標準		14.0 [5.6 ～ 18.3]（最小：5.6）	
		中間		6.3	
		最大低温		15.7（極低温：15.7）	
定格冷房時の顕熱比				0.98	
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	9.5	
		暖房		9.1	
	始動電流（最大電流）			5（33）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.07	
		冷房 中間		1.47（中温：1.24）	
		冷房 最小中温		－	
		暖房 定格標準		2.93　（最小：1.24）	
		暖房 中間		1.23	
		暖房 最大低温		7.55（極低温：7.68）	
	力率		%	冷：93，暖：93	
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.07，中間：4.69	
		暖房		定格：4.78，中間：5.12	
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.7	
		（2006）		4.9	
運転音	室内ユニット	パワーレベル（冷/暖）	dB(A)	P急：70，急：65，強：62，弱：56	P急：71，急：66，強：63，弱：57
		音圧レベル（冷/暖）		P急：49，急：44，強：41，弱：35	P急：50，急：45，強：42，弱：36
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	
		音圧レベル		冷：55，暖：60	
室内ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）	本体	mm	348 × 1370 × 738	(348 ＋α) × 1370 × 738 (6)
		パネル		20 × 1658 × 850	20 × 1484 × 585
	製品質量		kg	本体：54，パネル：17	本体：54，パネル：13.5
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3	
		風量	m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）	
		電動機 定格出力	W	100 × 1 ＋ 130 × 1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト × 4 スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法（高さ×幅×奥行）		mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(9)	kg	7.2（R410A）	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(12)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(10)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，　室外接続：φ9.52　（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（31m）(13)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	50	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（50）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。[　～　]は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し，天井内部分は本体高さに含まれます。
(6) キャンバスパネル仕様の外形寸法室内高さはキャンバスダクト（別売）分が＋αされます。（外形図参照）
(7) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.22kW × 2台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.3kW（静圧100Pa）× 2台となります。］
(8) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(9) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(10) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(11) 室内ユニットは共用タイプ（P71用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。
(12) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(13) 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，長さ：55mになります。

■天井リターン設置仕様（オプション）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRK-H〕

PJG000Z634 A

項目 ＼ セット形式				FDRK805H5S	FDRK1125H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDRKP1125S 室外：FDCKP805H	室内：FDRKP1125S 室外：FDCKP1125H
天井リターンキット				R-FL-4A	R-FL-4A
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［2.9～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.6～14.3］（最小：2.6）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.7（極低温：13.7）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.89
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.3	7.7
		暖房		5.8	8.3
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.75	2.54
		冷房 中間		0.580（中温：0.485）	0.800（中温：0.680）
		冷房 最小中温		0.420	0.430
		暖房 定格標準		1.90（最小：0.510）	2.72（最小：0.520）
		暖房 中間		0.660	0.970
		暖房 最大低温		6.50（極低温：6.62）	6.65（極低温：6.79）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.06，中間：5.52	定格：3.94，中間：5.63
		暖房		定格：4.21，中間：5.45	定格：4.12，中間：5.26
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.4	5.5
		(2006)		5.3	5.2
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：80，急：75，強：69，弱：64	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：59，急：54，強：48，弱：43	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	(280＋37)×1370×738	
	製品質量		kg	54	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3	
		風量	m^3/min	P急：48，急：35，強：28，弱：22	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：20，最大：100（リモコンから設定）(5)	
		電動機 定格出力	W	100×1＋200×1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト×4スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(8)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5×3本（25m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) 天井リターン仕様の場合は，標準機に対して機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.4kW×1台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.44kW（静圧100Pa）×1台となります。］

(7) 室内ユニットは共用タイプ（P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。

(8) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDRK-H〕

項目 ＼ セット形式					FDRK1405H5S	FDRK1605H5S
項目 ＼ 形式					室内：FDRKP1605S 室外：FDCKP1405H	室内：FDRKP1605S 室外：FDCKP1605H
天井リターンキット					R-FL-4A	
リモートコントローラ					RC-DX3B，RC-D4G	
電源					三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格		kW	12.5［6.2～14.0］	14.0［6.3～16.0］
		中間			6.2（中温：6.3）	6.3（中温：6.4）
		最小中温			－	－
	暖房能力	定格標準			14.0［6.0～18.3］（最小：6.0）	16.0［6.1～20.3］（最小：6.1）
		中間			6.3	7.2
		最大低温			15.7（極低温：15.7）	16.2（極低温：16.2）
定格冷房時の顕熱比					0.78	0.73
(1)運転特性	運転電流	冷房		A	10.6	12.5
		暖房			11.1	13.4
	始動電流（最大電流）				5（32）	
	消費電力	冷房	定格	kW	3.45	4.06
			中間		1.48（中温：1.30）	1.50（中温：1.30）
			最小中温		－	－
		暖房	定格標準		3.61（最小：1.39）	4.37（最小：1.38）
			中間		1.30	1.54
			最大低温		7.50（極低温：7.65）	7.90（極低温：8.01）
	力率			%	冷：94，暖：94	冷：94，暖：94
	エネルギー消費効率	冷房			定格：3.62，中間：4.19	定格：3.45，中間：4.20
		暖房			定格：3.88，中間：4.85	定格：3.66，中間：4.68
	通年エネルギー消費効率	（2015）			4.1	4.2
		（2006）			4.5	4.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル		dB(A)	（冷/暖）P急：80，急：75，強：69，弱：64	
		音圧レベル			（冷/暖）P急：59，急：54，強：48，弱：43	
	室外ユニット	パワーレベル			冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル			冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	（280＋37）×1370×738	
	製品質量			kg	54	
	空気熱交換器				アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3	
		風量		m^3/min	P急：48，急：35，強：28，弱：22	
		機外静圧（標準風量時）		Pa	定格：30，最小：20，最大：100（リモコンから設定）(5)	
		電動機	定格出力	W	100×1＋200×1	
		エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口				前面（φ200mm フレキシブルダクト×4スポット接続）	
	新鮮空気取入口				新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整				操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器				－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材				送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	1505×970×370	
	製品質量			kg	165	
	冷却装置	圧縮機	形式・台数		GTC5150MC40KC×1	
			電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器			電子膨張弁	
		冷媒封入量		kg	7.2（R410A）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量		ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数			軸流式（モータ直結）×2	
		風量		m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機	定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ			W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能				室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(8)	
	除霜				マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置				圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管		mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管			φ15.88（フレア接続）	
	排水口				〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）			mm^2	8.0×3本（31m）(9)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）			A	50	
	開閉器容量（ヒューズ容量）				60（50）	
	アース線サイズ			mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線			mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力				MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力				トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード					室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置					高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) 天井リターン仕様の場合は，標準機に対して機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.4kW×1台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.44kW（静圧100Pa）×1台となります。］

(7) 室内ユニットは共用タイプ（P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。

(8) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

(9) 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：55mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDRK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDRK805HP5S	FDRK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDRKP565S × 2台 室外：FDCKP805H	室内：FDRKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
天井リターンキット				R-FL-3A	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［3.3～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	3.3
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.9～14.3］（最小：2.9）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.2（極低温：13.2）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.94
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	5.1	8.1
		暖房		5.8	8.4
	始動電流（最大電流）			5（26）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.69	2.65
		冷房 中間		0.650（中温：0.510）	0.810（中温：0.680 ）
		冷房 最小中温		0.410	0.460
		暖房 定格標準		1.90（最小：0.560）	2.78（最小：0.630）
		暖房 中間		0.720	0.970
		暖房 最大低温		6.50（極低温：6.74）	6.85（極低温：7.04）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：94，暖：96
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.20，中間：4.92	定格：3.77，中間：5.56
		暖房		定格：4.21，中間：5.00	定格：4.03，中間：5.26
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.1	5.3
		(2006)		4.9	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：74，急：70，強：66，弱：58	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：53，急：49，強：45，弱：37	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	(280 +37) × 950 × 635	
	製品質量		kg	34	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：20，最大：100（リモコンから設定）(5)	
		電動機 定格出力	W	130 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト × 3 スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
	冷媒封入量(8)		kg	4.2（R32）	
	冷凍機油封入量		ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(11)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52 （フレア），分岐管：φ9.52，　主管：φ9.52，　室外接続：φ9.52 （フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（26m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.62（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) 天井リターン仕様の場合は，標準機に対して機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.14kW × 2台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.190kW（静圧100Pa）× 2台となります。］
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP40形，P56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDRK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDRK1405HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDRKP715S × 2台 室外：FDCKP1405H
天井リターンキット				R-FL-4A × 2セット
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.9～14.0］
		中間		6.9（中温：7.4）
		最小中温		―
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6～18.3］（最小：5.6）
		中間		6.3
		最大低温		15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比				0.98
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	9.5
		暖房		9.1
	始動電流（最大電流）			5（33）
	消費電力	冷房 定格	kW	3.07
		冷房 中間		1.47（中温：1.24）
		冷房 最小中温		―
		暖房 定格標準		2.93（最小：1.24）
		暖房 中間		1.23
		暖房 最大低温		7.55（極低温：7.68）
	力率		%	冷：93，暖：93
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.07，中間：4.69
		暖房		定格：4.78，中間：5.12
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.7
		（2006）		4.9
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：77，急：72，強：68，弱：62
		音圧レベル		（冷/暖）P急：56，急：51，強：47，弱：41
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	(280 +37) × 1370 × 738
	製品質量		kg	54
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3
		風量	m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：20，最大：100（リモコンから設定）(5)
		電動機 定格出力	W	100 × 1 ＋ 130 × 1
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能）
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト × 4 スポット接続）
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm，背面：φ150mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			―（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	165
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(8)	kg	7.2（R410A）
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(11)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（31m）(12)
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	50
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（50）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5 ×3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) 天井リターン仕様の場合は，標準機に対して機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.22kW × 2台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により，最大0.30kW（静圧100Pa）× 2台となります。］
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P71用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP71形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(12) 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：55mになります。

(d) 高静圧ダクト形（FDU）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUK-H〕

PJG000Z637 A

項目 ＼ セット形式 / 形式				FDUK805H5S	FDUK1125H5S
				室内：FDUKP1125S 室外：FDCKP805H	室内：FDUKP1125S 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B，DC-D4G	
電源				三相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［2.9～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.6～14.3］（最小：2.6）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.7（極低温：13.7）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.89
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.5	7.9
		暖房		6.3	8.7
	始動電流（最大電流）			5（26）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.81	2.60
		冷房 中間		0.620（中温：0.510）	0.810（中温：0.660）
		冷房 最小中温		0.400	0.420
		暖房 定格標準		2.08（最小：0.500）	2.85（最小：0.510）
		暖房 中間		0.690	0.990
		暖房 最大低温		6.25（極低温：6.42）	6.46（極低温：6.71）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.92，中間：5.16	定格：3.85，中間：5.56
		暖房		定格：3.85，中間：5.22	定格：3.93，中間：5.15
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.3	5.5
		(2006)		5.0	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：74，急：67，強：62，弱：57	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：49，急：42，強：37，弱：32	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	280×1370×738	
	製品質量		kg	54	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3	
		風量	m^3/min	P急：48，急：35，強：28，弱：22	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：100，最小：10，最大：200（リモコンから設定）(6)	
		電動機 定格出力	W	100×1＋200×1	
		エアフィルタ		ー（現地手配）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度−15℃～50℃で冷房運転可能(8)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5×3本（26m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPX0，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［ ～ ］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用 室内送風機消費電力：0.35kW × 1台 ［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.43kW（静圧200Pa）× 1台となります。］

(6) 丸ダクト変換キットを使用した場合は，設定可能な機外静圧は10～100Paとなります。

(7) 室内ユニットは共用タイプ（P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P120形に設定され，上記の仕様で運転します。

(8) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUK-H〕

項目 ＼ セット形式				FDUK1405H5S	FDUK1605H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDUKP1605S 室外：FDCKP1405H	室内：FDUKP1605S 室外：FDCKP1605H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.6～14.0］	14.0［6.6～16.0］
		中間		6.6（中温：7.2）	6.6（中温：7.3）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［6.1～18.3］（最小：6.1）	16.0［6.0～20.3］（最小：6.0）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		16.0（極低温：16.0）	16.8（極低温：16.8）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.93
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	11.3	13.4
		暖房		10.7	12.4
	始動電流（最大電流）			5（40）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.65	4.32
		冷房 中間		1.62（中温：1.42）	1.64（中温：1.45）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		3.45（最小：1.39）	4.00（最小：1.39）
		暖房 中間		1.31	1.56
		暖房 最大低温		7.90（極低温：7.96）	8.10（極低温：8.16）
	力率		%	冷：93，暖：93	冷：93，暖：93
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.42，中間：4.07	定格：3.24，中間：4.02
		暖房		定格：4.06，中間：4.81	定格：4.00，中間：4.62
	通年エネルギー消費効率	(2015)		4.2	4.2
		(2006)		4.5	4.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：77，急：74，強：71，弱：68	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：55，急：52，強：49，弱：46	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	379×1600×893	
	製品質量		kg	89	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3	
		風量	m^3/min	P急：80，急：72，強：64，弱：56	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：100，最小：10，最大：200（リモコンから設定）(6)	
		電動機 定格出力	W	130×1＋350×1	
		エアフィルタ		－（現地手配）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転·点検用·LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	7.2（R410A）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(8)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	14.0×3本（45m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	50	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（50）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.93kW × 1台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大1.08kW（静圧200Pa）× 1台となります。］
(6) 丸ダクト変換キットを使用した場合は，設定可能な機外静圧は10～100Paとなります。
(7) 室内ユニットは共用タイプ（P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。
(8) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDUK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDUK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDUKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	10.0［3.3～11.2］
		中間		4.5（中温：4.6）
		最小中温		3.3
	暖房能力	定格標準		11.2［2.9～14.3］（最小：2.9）
		中間		5.1
		最大低温		13.2（極低温：13.2）
定格冷房時の顕熱比				0.94
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	7.9
		暖房		8.7
	始動電流（最大電流）			5（27）
	消費電力	冷房 定格	kW	2.81
		冷房 中間		0.800（中温：0.660）
		冷房 最小中温		0.460
		暖房 定格標準		2.94（最小：0.630）
		暖房 中間		0.960
		暖房 最大低温		6.40（極低温：7.06）
	力率		%	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.56，中間：5.63
		暖房		定格：3.81，中間：5.31
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.3
		（2006）		5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：68，急：62，強：58，弱：57
		音圧レベル		（冷/暖）P急：44，急：38，強：34，弱：28
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	280 × 950 × 635
	製品質量		kg	34
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10
		機外静圧（標準風量時）(4)	Pa	定格：100，最小：10，最大：200（リモコンから設定）(9)
		電動機 定格出力	W	130 × 1
		エアフィルタ		ー（現地手配）
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mmフレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	115
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(7)	kg	4.2（R32）
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(11)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法（外径）	冷媒配管(8)	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（25m）
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26
法定冷凍能力			トン	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.160kW × 2台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により，最大0.250kW（静圧200Pa）× 2台となります。］
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(9) 丸ダクト変換キットを使用した場合は，設定可能な機外静圧は10～100Paとなります。
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDUK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDUK1405HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDUKP715S × 2台 室外：FDCKP1405H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.9～14.0］
		中間		6.9（中温：7.7）
		最小中温		－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6～18.3］（最小：5.6）
		中間		6.3
		最大低温		16.0（極低温：16.0）
定格冷房時の顕熱比				0.98
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	11.2
		暖房		10.7
	始動電流（最大電流）			5（33）
	消費電力	冷房 定格	kW	2.90
		冷房 中間		1.39（中温：1.23）
		冷房 最小中温		－
		暖房 定格標準		2.86（最小：1.23）
		暖房 中間		1.16
		暖房 最大低温		7.55（極低温：7.57）
	力率		%	冷：94，暖：93
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.31，中間：4.96
		暖房		定格：4.90，中間：5.43
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.9
		（2006）		5.2
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：70，急：65，強：62，弱：57
		音圧レベル		（冷/暖）P急：45，急：40，強：37，弱：32
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	280 × 1370 × 738
	製品質量		kg	54
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3
		風量	m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：100，最小：10，最大：200（リモコンから設定）(9)
		電動機 定格出力	W	100 × 1＋ 130 × 1
		エアフィルタ		－（現地手配）
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mmフレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	165
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(7)	kg	7.2（R410A）
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(11)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(8)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（31m）(12)
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	50
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（50）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）
IPコード				室内：IPX0，室外：IP24
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.230kW × 2台，［ダクト機の場合，機外静圧設定により，最大0.320kW（静圧200Pa）× 2台となります。］
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(9) 丸ダクト変換キットを使用した場合は，設定可能な機外静圧は10～100Paとなります。
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P71用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP71形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(12) 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：55mになります。

■丸ダクト仕様（オプション）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDUK-H〕

PJG000Z644 A

項目 ＼ セット形式				FDUK805H5S	FDUK1125H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDUKP1125S 室外：FDCKP805H	室内：FDUKP1125S 室外：FDCKP1125H
丸ダクト変換キット				U-UM-4A	
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［2.9～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	2.9
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.6～14.3］（最小：2.6）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.7（極低温：13.7）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.89
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.5	7.9
		暖房		6.3	8.7
	始動電流（最大電流）			5（26）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.81	2.60
		冷房 中間		0.620（中温：0.510）	0.810（中温：0.660）
		冷房 最小中温		04.00	0.420
		暖房 定格標準		2.08（最小：0.500）	2.85（最小：0.510）
		暖房 中間		0.690	0.990
		暖房 最大低温		6.25（極低温：6.42）	6.46（極低温：6.71）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.92，中間：5.16	定格：3.85，中間：5.56
		暖房		定格：3.85，中間：5.22	定格：3.93，中間：5.15
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.3	5.5
		(2006)		5.0	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：74，急：67，強：62，弱：57	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：49，急：42，強：37，弱：32	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	280 × 1370 × 738	
	製品質量		kg	54	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×3	
		風量	m^3/min	P急：48，急：35，強：28，弱：22	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）(5)	
		電動機 定格出力	W	100 × 1 ＋ 200 × 1	
	エアフィルタ			ー（現地手配）	
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト ×4スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
	冷媒封入量		kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
	冷凍機油封入量		ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(8)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（26m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	40	50	60	70	80	90	100	110	130	140

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.33kW × 1台　［ダクト機の場合，機外静圧設定により：最大0.35kW（静圧100Pa）× 1台となります。］

(7) 室内ユニットは共用タイプ（P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。

(8) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDUK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDUK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDUKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
丸ダクト変換キット				U-UM-3A × 2セット
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	10.0 [3.3 ～ 11.2]
		中間		4.5（中温：4.6）
		最小中温		3.3
	暖房能力	定格標準		11.2 [2.9 ～ 14.3]（最小：2.9）
		中間		5.1
		最大低温		13.2（極低温：13.2）
定格冷房時の顕熱比				0.94
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	7.9
		暖房		8.7
	始動電流（最大電流）			5（27）
	消費電力	冷房 定格	kW	2.81
		冷房 中間		0.800（中温：0.660）
		冷房 最小中温		0.460
		暖房 定格標準		2.94（最小：0.630）
		暖房 中間		0.960
		暖房 最大低温		6.40（極低温：7.06）
	力率		%	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.56，中間：5.63
		暖房		定格：3.81，中間：5.31
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.3
		（2006）		5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：68，急：62，強：58，弱：57
		音圧レベル		（冷/暖）P急：44，急：38，強：34，弱：28
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	280 × 950 × 635
	製品質量		kg	34
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）(5)
		電動機 定格出力	W	130 × 1
	エアフィルタ			ー（現地手配）
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト × 3 スポット接続）
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mmフレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	115
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(8)	kg	4.2（R32）
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(11)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（25m）
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40
	開閉器容量（ヒューズ容量）		A	60（40）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26
法定冷凍能力			トン	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。[　～　]は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.113kW × 2台　[ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.160kW（静圧100Pa）× 2台となります。]
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDUK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDUK1405HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDUKP715S × 2台 室外：FDCKP1405H
丸ダクト変換キット				U-UM-4A × 2セット
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.9 ～ 14.0］
		中間		6.9（中温：7.7）
		最小中温		―
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6 ～ 18.3］（最小：5.6）
		中間		6.3
		最大低温		16.0（極低温：16.0）
定格冷房時の顕熱比				0.98
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	11.2
		暖房		10.7
	始動電流（最大電流）			5（33）
	消費電力	冷房 定格	kW	2.90
		冷房 中間		1.39（中温：1.23）
		冷房 最小中温		―
		暖房 定格標準		2.86（最小：1.23）
		暖房 中間		1.16
		暖房 最大低温		7.55（極低温：7.57）
	力率		%	冷：94，暖：93
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.31，中間：4.96
		暖房		定格：4.90，中間：5.43
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.9
		（2006）		5.2
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：70，急：65，強：62，弱：57
		音圧レベル		（冷/暖）P急：45，急：40，強：37，弱：32
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	280 × 1370 × 738
	製品質量		kg	54
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3
		風量	m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19
		機外静圧（標準風量時）	Pa	定格：30，最小：10，最大：100（リモコンから設定）(5)
		電動機 定格出力	W	100 × 1 ＋ 130 × 1
	エアフィルタ			―（現地手配）
	吹出ダクト接続口			前面（φ200mm フレキシブルダクト × 4 スポット接続）
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入（側面：φ125mmフレキシブルダクト接続），排気（側面：φ125mm フレキシブルダクト接続）
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，換気），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			―（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	165
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(8)	kg	7.2（R410A）
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(11)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(9)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP25の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（31m）(12)
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	50
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（50）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

(6) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.17kW × 2台［ダクト機の場合，機外静圧設定により最大0.230kW（静圧100Pa）× 2台となります。］
(7) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(8) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(9) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(10) 室内ユニットは共用タイプ（P71用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP71形に設定され，上記の仕様で運転します。
(11) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(12) 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：55mになります。

(e) 天吊形（FDE）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDEK-H〕

PFA004Z111 A

項目 ＼ セット形式				FDEK805H5S	FDEK1125H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDEKP1125S 室外：FDCKP805H	室内：FDEKP1125S 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.7～8.0］	10.0［2.8～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.7	2.8
	暖房能力	定格標準		8.0［2.4～10.0］（最小：2.4）	11.2［2.4～14.3］（最小：2.4）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.2（極低温：13.2）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.79
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	4.9	8.1
		暖房		5.2	9.3
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.61	2.65
		冷房 中間		0.520（中温：0.410）	0.780（中温：0.610）
		冷房 最小中温		0.340	0.350
		暖房 定格標準		1.72（最小：0.430）	3.05（最小：0.430）
		暖房 中間		0.740	0.920
		暖房 最大低温		6.38（極低温：6.60）	6.55（極低温：6.90）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：94，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.41，中間：6.15	定格：3.77，中間：5.77
		暖房		定格：4.65，中間：4.86	定格：3.67，中間：5.54
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.9	6.0
		(2006)		5.3	5.2
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：65，急：62，強：56，弱：52	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：49，急：46，強：40，弱：36	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	250 × 1620 × 690	
	製品質量		kg	43	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4	
		風量	m^3/min	P急：34，急：30，強：23，弱：18	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	90 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(7)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5× 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPX0，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［ ～ ］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.12kW × 1台

(6) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。

(7) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDEK-H〕

セット形式				FDEK1405H5S	FDEK1605H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDEKP1605S 室外：FDCKP1405H	室内：FDEKP1605S 室外：FDCKP1605H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.0～14.0］	14.0［6.3～16.0］
		中間		6.0（中温：6.4）	6.3（中温：6.5）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.9～18.3］（最小：5.9）	16.0［6.0～20.3］（最小：6.0）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		15.2（極低温：15.2）	15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比				0.71	0.68
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	10.2	12.5
		暖房		11.9	14.7
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.31	4.06
		冷房 中間		1.38（中温：1.19）	1.40（中温：1.27）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		3.88（最小：1.18）	4.78（最小：1.16）
		暖房 中間		1.25	1.46
		暖房 最大低温		7.26（極低温：7.76）	7.50（極低温：7.91）
	力率		%	冷：94，暖：94	冷：94，暖：94
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.78，中間：4.35	定格：3.45，中間：4.50
		暖房		定格：3.61，中間：5.04	定格：3.35，中間：4.93
	通年エネルギー消費効率	（2015）		4.6	4.5
		（2006）		4.6	4.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：65，急：62，強：56，弱：52	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：49，急：46，強：40，弱：36	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	250 × 1620 × 690	
	製品質量		kg	43	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4	
		風量	m^3/min	P急：34，急：30，強：23，弱：18	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	90 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	7.2（R410A）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(7)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（39m）(8)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5× 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.12kW × 1台

(6) 室内ユニットは共用タイプ（P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。

(7) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

(8) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDEK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDEK805HP5S	FDEK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDEKP565S × 2台 室外：FDCKP805H	室内：FDEKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［3.2～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.8	3.2
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.9～14.3］（最小：2.9）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.2（極低温：13.2）
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.90
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	4.4	7.7
		暖房		5.0	8.1
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.45	2.52
		冷房 中間		0.590（中温：0.500）	0.800（中温：0.620）
		冷房 最小中温		0.360	0.410
		暖房 定格標準		1.64　（最小：0.480）	2.65　（最小：0.530）
		暖房 中間		0.670	0.960
		暖房 最大低温		6.45（極低温：6.57）	6.85（極低温：6.91）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：94，暖：94
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.90，中間：5.42	定格：3.97，中間：5.63
		暖房		定格：4.88，中間：5.37	定格：4.23，中間：5.31
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.6	5.9
		(2006)		5.5	5.2
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：52，強：49，弱：46	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：50，急：39，強：36，弱：33	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	210 × 1320 × 690	
	製品質量		kg	33	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4	
		風量	m^3/min	P急：22，急：15，強：13，弱：10	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	55 × 1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(7)	kg	4.2（R32）	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(8)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，　室外接続：φ9.52　（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.07kW × 2台

(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。

(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。

(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）

(9) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP40形，P56形に設定され，上記の仕様で運転します。

(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDEK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDEK1405HP5S	FDEK1605HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDEKP1125S × 2台 室外：FDCKP1405H	室内：FDEKP1125S × 2台 室外：FDCKP1605H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.9～14.0］	14.0［6.9～16.0］
		中間		6.9（中温：7.3）	6.9（中温：7.3）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6～18.3］（最小：5.6）	16.0［5.9～20.3］（最小：5.9）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		15.2（極低温：15.2）	15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比				0.85	0.79
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	9.8	11.6
		暖房		9.3	11.3
	始動電流（最大電流）			5（33）	5（35）
	消費電力	冷房 定格	kW	3.15	3.74
		冷房 中間		1.39（中温：1.16）	1.39（中温：1.16）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		3.01（最小：1.15）	3.64（最小：1.25）
		暖房 中間		1.11	1.29
		暖房 最大低温		7.38（極低温：7.52）	7.59（極低温：7.67）
	力率		%	冷：93，暖：93	冷：93，暖：93
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.97，中間：4.96	定格：3.74，中間：4.96
		暖房		定格：4.65，中間：5.68	定格：4.40，中間：5.58
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.0	5.0
		（2006）		5.2	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：61，急：58，強：54，弱：50	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：45，急：42，強：38，弱：34	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	250 × 1620 × 690	
	製品質量		kg	43	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4	
		風量	m^3/min	P急：28，急：26，強：21，弱：17	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	90 × 1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(7)	kg	7.2（R410A）	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法（外径）	冷媒配管(8)	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ		mm^2	8.0 × 3本（39m）(11)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）開閉器容量（ヒューズ容量）		A	40	
				60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.08kW × 2台
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP71形，P80形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(11) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）トリプル形（室内ユニット：3 台，室外ユニット：1 台）〔FDEK-HT〕

項目 ＼ セット形式				FDEK1605HT5S
項目 ＼ 形式				室内：FDEKP565S × 3台 室外：FDCKP1605H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	14.0 [6.7 ～ 16.0]
		中間		6.7（中温：7.5）
		最小中温		－
	暖房能力	定格標準		16.0 [6.0 ～ 20.3]（最小：6.0）
		中間		7.2
		最大低温		15.7（極低温：15.7）
定格冷房時の顕熱比				0.87
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	11.4
		暖房		10.5
	始動電流（最大電流）			5（27）
	消費電力	冷房 定格	kW	3.70
		冷房 中間		1.38（中温：1.25）
		冷房 最小中温		－
		暖房 定格標準		3.44（最小：1.29）
		暖房 中間		1.30
		暖房 最大低温		7.42（極低温：7.47）
	力率		%	冷：94，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.78，中間：4.86
		暖房		定格：4.65，中間：5.54
	通年エネルギー消費効率	(2015)		4.8
		(2006)		5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：63，急：52，強：49，弱：46
		音圧レベル		（冷/暖）P急：50，急：39，強：36，弱：33
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	210 × 1320 × 690
	製品質量		kg	33
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4
		風量	m^3/min	P急：22，急：15，強：13，弱：10
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0
		電動機 定格出力	W	55 × 1
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能），ロングライフフィルタ（防カビ仕様）
	吹出ダクト接続口			不可能
	新鮮空気取入口			不可能
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，グリル昇降），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	165
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1
		圧縮機 電動機出力		4.2
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量(7)	kg	7.2（R410A）
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(8)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0 × 3本（39m）(11)
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21
法定冷凍能力			トン	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。[　～　]は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.07kW × 3台
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット3台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) トリプル機の分岐配管は，必ず下記を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
① 各室内ユニットまでの配管長差が3m未満 ：DIS-TB1G　　② 各室内ユニットまでの配管長差が3m以上 ：DIS-WA1G，DIS-WB1Gを各1セット
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(11) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

（f） 壁掛形（FDK）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDKK-H〕

PHA001Z153 A

項目 ＼ セット形式				FDKK805H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDKKP805S 室外：FDCKP805H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.7～8.0］
		中間		3.2（中温：3.3）
		最小中温		2.7
	暖房能力	定格標準		8.0［2.3～10.0］（最小：2.3）
		中間		3.6
		最大低温		11.8（極低温：11.8）
定格冷房時の顕熱比				0.84
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	5.9
		暖房		7.7
	始動電流（最大電流）			5（23）
	消費電力	冷房 定格	kW	1.95
		冷房 中間		0.550（中温：0.390）
		冷房 最小中温		0.330
		暖房 定格標準		2.53　（最小：0.470）
		暖房 中間		0.660
		暖房 最大低温		5.50（極低温：7.28）
	力率		%	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.64，中間：5.82
		暖房		定格：3.16，中間：5.45
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.8
		（2006）		5.0
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：60，急：58，強：55，弱：51
		音圧レベル		（冷/暖）P急：45，急：43，強：39，弱：35
	室外ユニット	パワーレベル		冷：70，暖：71
		音圧レベル		冷：58，暖：58
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	339×1197×262
	製品質量		kg	17
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		横断流式（モータ直結）×1
		風量	m^3/min	P急：24，急：22，強：18，弱：16
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0
		電動機 定格出力	W	56×1
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能）（防カビ仕様）
	吹出ダクト接続口			―
	新鮮空気取入口			不可能
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）
	加湿器			―（組込不可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370
	製品質量		kg	115
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式
		冷媒制御器		電子膨張弁
		冷媒封入量	kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84
		電動機 定格出力	W	86×2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度−15℃～50℃で冷房運転可能(7)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52　（フレア接続）
		ガス管		φ15.88（フレア接続）
	排水口			〔室内〕VP16の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5×3本（30m）
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26
法定冷凍能力			トン	1.22（届出不要）
IPコード				室内：IPX0，室外：IPX4
保護装置				冷房時フロスト防止，過負荷保護，吐出温度保護

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.06kW×1台

(6) 室内ユニットは共用タイプ（P80用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP80形に設定され，上記の仕様で運転します。

(7) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDKK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDKK805HP5S	FDKK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDKKP565S × 2台 室外：FDCKP805H	室内：FDKKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B，RC-D4G	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.8～8.0］	10.0［3.3～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.6）
		最小中温		2.8	3.3
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.9～14.3］（最小：2.9）
		中間		3.5	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.2（極低温：13.2）
定格冷房時の顕熱比				0.78	0.80
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	6.0	8.1
		暖房		5.3	8.2
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	1.98	2.65
		冷房 中間		0.640（中温：0.550）	0.760（中温：0.620）
		冷房 最小中温		0.410	0.510
		暖房 定格標準		1.75（最小：0.530）	2.69（最小：0.600）
		暖房 中間		0.650	0.900
		暖房 最大低温		5.75（極低温：6.35）	5.95（極低温：6.64）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：94，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.59，中間：5.00	定格：3.77，中間：5.92
		暖房		定格：4.57，中間：5.38	定格：4.16，中間：5.67
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.1	5.6
		（2006）		5.2	5.4
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：56，急：54，強：52，弱：49	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：40，急：38，強：36，弱：33	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	339 × 1197 × 262	
	製品質量		kg	17	
	空気熱交換器			アルミフィン＆銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		横断流式（モータ直結）× 1	
		風量	m^3/min	P急：19，急：18，強：16，弱：14	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	56 × 1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能）（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			-	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（組込不可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505× 970 × 370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
		空気熱交換器		アルミフィン＆銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(7)	kg	4.2（R32）	
		冷凍機油封入量	ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86× 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(8)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP16の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm²	5.5 × 3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm²	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm²	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.05kW × 2台
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P40，P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP40形，P56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

(g) 床置形（FDF）

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDFK-H〕

PGA000Z835 A

項目 ＼ セット形式				FDFK805H5S	FDFK1125H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDFKP1125S 室外：FDCKP805H	室内：FDFKP1125S 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B（標準装備）	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	7.1［2.6～8.0］	10.0［2.7～11.2］
		中間		3.2（中温：3.3）	4.5（中温：4.7）
		最小中温		2.6	2.7
	暖房能力	定格標準		8.0［2.6～10.0］（最小：2.6）	11.2［2.7～14.3］（最小：2.7）
		中間		3.6	5.1
		最大低温		11.8（極低温：11.8）	13.0（極低温：13.0）
定格冷房時の顕熱比				0.93	0.78
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	6.1	8.4
		暖房		7.0	8.7
	始動電流（最大電流）			5（23）	
	消費電力	冷房 定格	kW	2.01	2.75
		冷房 中間		0.610（中温：0.460）	0.860（中温：0.670）
		冷房 最小中温		0.420	0.480
		暖房 定格標準		2.30（最小：0.520）	2.85（最小：0.590）
		暖房 中間		0.720	0.940
		暖房 最大低温		5.80（極低温：6.86）	5.95（極低温：7.18）
	力率		%	冷：95，暖：95	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.53，中間：5.25	定格：3.64，中間：5.23
		暖房		定格：3.48，中間：5.00	定格：3.93，中間：5.43
	通年エネルギー消費効率	(2015)		5.2	5.3
		(2006)		4.8	5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：66，急：63，強：61，弱：56	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：55，急：51，強：49，弱：44	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：66	冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50	冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1850×600×329	
	製品質量		kg	51	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×1	
		風量	m^3/min	P急：29，急：26，強：23，弱：19	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	157×1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，オートスイング），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	115	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	1.7	2.3
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
	冷媒封入量		kg	4.2（R32）［配管30m分封入済］	
	冷凍機油封入量		ℓ	0.9（M-MB75）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度−15℃～50℃で冷房運転可能(7)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法（外径）	冷媒配管	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5×3本（30m）	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26	
法定冷凍能力			トン	0.66（届出不要）	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.21kW×1台

(6) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80, P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP80形，P112形に設定され，上記の仕様で運転します。

(7) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）〔FDFK-H〕

項目 ＼ セット形式				FDFK1405H5S	FDFK1605H5S
項目 ＼ 形式				室内：FDFKP1605S 室外：FDCKP1405H	室内：FDFKP1605S 室外：FDCKP1605H
リモートコントローラ				RC-DX3B（標準装備）	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1) 能力	冷房能力	定格	kW	12.5［5.7～14.0］	14.0［6.3～16.0］
		中間		5.7（中温：6.3）	6.3（中温：6.4）
		最小中温		―	―
	暖房能力	定格標準		14.0［5.9～18.3］（最小：5.9）	16.0［6.0～20.3］（最小：6.0）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		15.0（極低温：15.0）	15.6（極低温：15.5）
定格冷房時の顕熱比				0.71	0.68
(1) 運転特性	運転電流	冷房	A	10.8	13.5
		暖房		12.7	15.7
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.51	4.41
		冷房 中間		1.39（中温：1.20）	1.46（中温：1.25）
		冷房 最小中温		―	―
		暖房 定格標準		4.15（最小：1.46）	5.10（最小：1.44）
		暖房 中間		1.34	1.59
		暖房 最大低温		7.34（極低温：7.68）	7.85（極低温：7.91）
	力率		%	冷：94，暖：94	冷：94，暖：94
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.56，中間：4.10	定格：3.17，中間：4.32
		暖房		定格：3.37，中間：4.70	定格：3.14，中間：4.53
	通年エネルギー消費効率	(2015)		4.2	4.1
		(2006)		4.3	4.2
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：66，急：63，強：61，弱：56	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：55，急：51，強：49，弱：44	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1850×600×329	
	製品質量		kg	51	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）×1	
		風量	m^3/min	P急：29，急：26，強：23，弱：19	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	157×1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能）（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，オートスイング），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			―（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505×970×370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC×1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量	kg	7.2（R410A）［配管30m分封入済］	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-MA32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）×2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86×2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能 (7)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ15.88（フレア接続）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴×3個	
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	8.0×3本（39m）(8)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）×3本（～70m），3.5×3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	1.64（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。

(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。

(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。

(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.21kW×1台

(6) 室内ユニットは共用タイプ（P140，P160用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP140形，P160形に設定され，上記の仕様で運転します。

(7) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

(8) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDFK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDFK1125HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDFKP565S × 2台 室外：FDCKP1125H
リモートコントローラ				RC-DX3B（標準装備）
電源				三相　200V　50/60Hz
(1)能力	冷房能力	定格	kW	10.0［3.3～11.2］
		中間		4.5（中温：4.6）
		最小中温		3.3
	暖房能力	定格標準		11.2［2.9～14.3］（最小：2.9）
		中間		7.2
		最大低温		13.0（極低温：13.0）
定格冷房時の顕熱比				0.87
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	7.3
		暖房		8.6
	始動電流（最大電流）			5（23）
	消費電力	冷房 定格	kW	2.40
		冷房 中間		0.700（中温：0.710）
		冷房 最小中温		0.520
		暖房 定格標準		2.84（最小：0.620）
		暖房 中間		1.45
		暖房 最大低温		5.65（極低温：6.97）
	力率		%	冷：95，暖：95
	エネルギー消費効率	冷房		定格：4.17，中間：6.43
		暖房		定格：3.94，中間：4.97
	通年エネルギー消費効率	（2015）		5.1
		（2006）		5.1
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：54，急：52，強：49，弱：47
		音圧レベル		（冷/暖）P急：42，急：39，強：35，弱：33
	室外ユニット	パワーレベル		冷：66，暖：68
		音圧レベル		冷：49，暖：50
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1850 × 600 × 329
	製品質量		kg	48
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1
		風量	m^3/min	P急：18，急：16，強：14，弱：12
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0
		電動機 定格出力	W	157 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）（防カビ仕様）
	吹出ダクト接続口			不可能
	新鮮空気取入口			不可能
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，オートスイング），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能）
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370
	製品質量		kg	115
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		RMT5126SWE2 × 1
		圧縮機 電動機出力	kW	2.3
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式
	冷媒制御器			電子膨張弁
	冷媒封入量(7)		kg	4.2（R32）
	冷凍機油封入量		ℓ	0.9（M-MB75）
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2
		風量	m^3/min	冷：95，暖：84
		電動機 定格出力	W	86 × 2
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付
配管寸法	冷媒配管(8)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），室内分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），室内分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個
電気配線	電源配線サイズ（こう長）		mm^2	5.5 × 3本（30m）
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	30
	開閉器容量（ヒューズ容量）			30（30）
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.26
法定冷凍能力			トン	1.02（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IPX4
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，電流センサ，ヒューズ

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.06kW × 2台
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WA1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P56用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではP56形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。

冷暖房兼用機（ヒータレス形）ツイン形（室内ユニット：２台，室外ユニット：１台）〔FDFK-HP〕

項目 ＼ セット形式				FDFK1405HP5S	FDFK1605HP5S
項目 ＼ 形式				室内：FDFKP1125S × 2台 室外：FDCKP1405H	室内：FDFKP1125S × 2台 室外：FDCKP1605H
リモートコントローラ				RC-DX3B（標準装備）	
電源				三相　200V　50/60Hz	
(1)能力	冷房能力	定格	kW	12.5［6.6～14.0］	14.0［6.6～16.0］
		中間		6.6（中温：7.4）	6.6（中温：7.4）
		最小中温		－	－
	暖房能力	定格標準		14.0［5.6～ 18.3］（最小：5.6）	16.0［5.9～20.3］（最小：5.9）
		中間		6.3	7.2
		最大低温		15.0（極低温：15.0）	15.6（極低温：15.6）
定格冷房時の顕熱比				0.96	0.89
(1)運転特性	運転電流	冷房	A	10.4	12.2
		暖房		9.5	11.3
	始動電流（最大電流）			5（27）	
	消費電力	冷房 定格	kW	3.36	3.94
		冷房 中間		1.48（中温：1.22）	1.48（中温：1.22）
		冷房 最小中温		－	－
		暖房 定格標準		3.07（最小：1.24）	3.63（最小：1.34）
		暖房 中間		1.29	1.46
		暖房 最大低温		7.52（極低温：7.63）	7.75（極低温：7.93）
	力率		%	冷：93，暖：93	冷：93，暖：93
	エネルギー消費効率	冷房		定格：3.72，中間：4.46	定格：3.55，中間：4.46
		暖房		定格：4.56，中間：4.88	定格：4.41，中間：4.93
	通年エネルギー消費効率	(2015)		4.7	4.7
		(2006)		4.8	4.7
運転音	室内ユニット	パワーレベル	dB(A)	（冷/暖）P急：66，急：63，強：61，弱：56	
		音圧レベル		（冷/暖）P急：55，急：51，強：49，弱：44	
	室外ユニット	パワーレベル		冷：68，暖：73	冷：68，暖：73
		音圧レベル		冷：55，暖：60	冷：56，暖：60
室内ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1850 × 600 × 329	
	製品質量		kg	51	
	空気熱交換器			アルミフィン&銅チューブ式	
	送風装置	形式・台数		両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1	
		風量	m^3/min	P急：29，急：26，強：23，弱：19	
		機外静圧（標準風量時）	Pa	0	
		電動機 定格出力	W	157 × 1	
		エアフィルタ		プラスチックネット（洗浄可能）（防カビ仕様）	
	吹出ダクト接続口			不可能	
	新鮮空気取入口			不可能	
	運転調整			操作（運転切換，風量調整，タイマ，オートスイング），室温調節（電子サーモスタット），表示（運転･点検用･LED，液晶表示）	
	遠方発停用機能			遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
	加湿器			－（気化式加湿器取付可能）	
	防振装置・防音・断熱材			送風用電動機：防振ゴム，外板：吸音断熱材貼付	
室外ユニット	外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	1505 × 970 × 370	
	製品質量		kg	165	
	冷却装置	圧縮機 形式・台数		GTC5150MC40KC × 1	
		圧縮機 電動機出力	kW	3.5	4.2
		空気熱交換器		アルミフィン&銅チューブ式	
		冷媒制御器		電子膨張弁	
		冷媒封入量(7)	kg	7.2（R410A）	
		冷凍機油封入量	ℓ	1.55（M-M32R）	
	送風装置	形式・台数		軸流式（モータ直結）× 2	
		風量	m^3/min	冷：114，暖：130	
		電動機 定格出力	W	86 × 2	
	クランクケースヒータ/ドレンパンヒータ		W	20/115	
	低外気温時冷房運転制御機能			室外送風用電動機制御および圧縮機制御により外気温度－15℃～50℃で冷房運転可能(10)	
	除霜			マイコン差温式デアイサによる逆サイクル方式	
	防振・防音装置			圧縮機：防振ゴム，吸音断熱材巻付	
配管寸法	冷媒配管(8)（外径）	液管	mm	室内接続：φ9.52（フレア），分岐管：φ9.52，主管：φ9.52，室外接続：φ9.52（フレア）	
		ガス管		室内接続：φ15.88（フレア），分岐管：φ15.88，主管：φ15.88，室外接続：φ15.88（フレア）	
	排水口			〔室内〕VP20の排水管の接続可能〔室外〕内径φ20mmの排水穴 × 3個	
電気配線	電源配線サイズ		mm^2	8.0 × 3本（39m）(11)	
	漏電しゃ断器（高調波対応品）		A	40	
	開閉器容量（ヒューズ容量）			60（40）	
	アース線サイズ		mm^2	2.0以上（M5）	
	室内外ユニット接続配線		mm^2	2.0（φ1.6）× 3本（～70m），3.5 × 3本（～120m）	
設計圧力			MPa	高圧部：4.15，低圧部：2.21	
法定冷凍能力			トン	1.35（届出不要）	3.75（届出不要）
IPコード				室内：IPXO，室外：IP24	
保護装置				高圧スイッチ，低圧センサ，吐出管温度センサ，熱交温度センサ，パワトラ温度センサ，電流センサ，ヒューズ	

注(1) 冷房・暖房能力，通年エネルギー消費効率（2015）および電気特性は，適正冷媒量において日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。［　～　］は最小最大範囲幅を示します。
(2) 通年エネルギー消費効率（2006）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）条件により運転した数値です。
(3) 運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧レベル）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け，表示値より大きくなるのが普通です。なお，室外ユニットは本体前方1m，高さ1mにて測定した値です。
(5) BEST計算用　室内送風機消費電力：0.21kW × 2台
(6) 外形寸法・製品質量・送風装置・運転音の項目はユニット1台分の仕様を示し，その他の項目は記載の室内ユニット2台と室外ユニットの組合せの仕様を示します。
(7) 本組合せでは主管配管長30m相当分までは冷媒追加チャージ不要です。
(8) ツイン機の分岐配管は，必ず分岐管セットDIS-WB1G（別売品）を使用して接続してください。（詳細は234ページをご覧ください。）
(9) 室内ユニットは共用タイプ（P71，P80，P112用）で，室外ユニットを接続すると機種容量が自動設定されます。この組合せではそれぞれP71形，P80形に設定され，上記の仕様で運転します。
(10) 外気温度が-5℃以下で冷房運転を行う場合，フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売）を取付けてください。
(11) 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm^2，長さ：67mになります。

2. 使用範囲

(1) 使用範囲・使用制限

室内吸込空気温度	冷房時	詳細は使用温度範囲（次ページ）をご覧ください。
	暖房時	
室外吸込空気温度	冷房時	
	暖房時	
適用地域		ヒートポンプ機（暖房運転を考慮して）降雪の多くない地域。降雪地域では，防雪フード（オプション）を組付け使用してください。
設置場所		外形図に据付スペースに関する制限を記載しております。 室内ユニットの据付は，床面から 2.5m 以上としてください。（除く FDK，FDF）
室内ユニット雰囲気（天井裏）温度・湿度(2)		露点温度 28℃以下，相対湿度 80％以下（除く FDE） 露点温度 23℃以下，相対湿度 80％以下（FDE の場合）
風量・静圧		送風機特性範囲内で断熱性の良いダクト・吹出口を接続してください。（FDR，FDU のみ）
エアフィルタ		必ず，メンテナンスが容易な位置にエアフィルタを設置（現地手配）してください。（FDR，FDU のみ）
冷媒配管の断熱		相対温度が 70％を越える天井内等では，厚さ 20mm 以上の断熱が必要になります。
ドレン配管の断熱		相対温度が 70％を越える天井内等では，厚さ 10mm 以上の断熱が必要になります。
圧縮機の発停頻度	1サイクル時間	7 分以上（停止～停止／始動～始動）
	停止時間	3 分以上
電源電圧	電圧変動	定格電圧 200V ± 10％以内
	始動時の電圧降下	定格電圧 200V の 15％
	相間アンバランス	3％以内

注(1) 次のような場所への設置は行わないでください。
- 調理場や機械工場など，油の飛沫や油煙，蒸気・湿気の立ち込める場所。
- 可燃性ガスの漏れる恐れがある場所。
- 硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ等，機器に影響する物質の発生・滞留するところ。
- 海岸地帯の潮風が直接当たる場所。
- 化粧品，特殊なスプレーを頻繁に使用するところ。
- 電磁波・高周波の発生する機器の近く。
- カーボン繊維や金属分・粉およびパウダー等が浮遊する場所。
- 煙突の煙がかかる場所。
- 標高 1000m 以上の場所。
- 洗たく室等 水が掛かる場所。
  室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。
- ツイン，トリプル仕様の場合，同じ室外ユニットに接続されている室内ユニットは，間仕切りのない同一の部屋に設置し，空調負荷が同一となる条件で使用してください。
- 車両・船舶等移動するものへの設置。
- 積雪の多い所。（設置する場合，所定の架台・防雪フードを取付けることが必要です。）
- ワイヤレス仕様で使れわる場合，受信部に影響のある光線が飛び交うところ。
- お掃除ラクリーナパネル仕様で使われる場合，温度制御が重要なところ。
  エアコン運転中に清掃運転を開始すると，風量 Lo・風向制御停止となります。
  24 時間運転等のところでは，自動清掃（約 1 時間）運転状態（能力低下）が変わります。

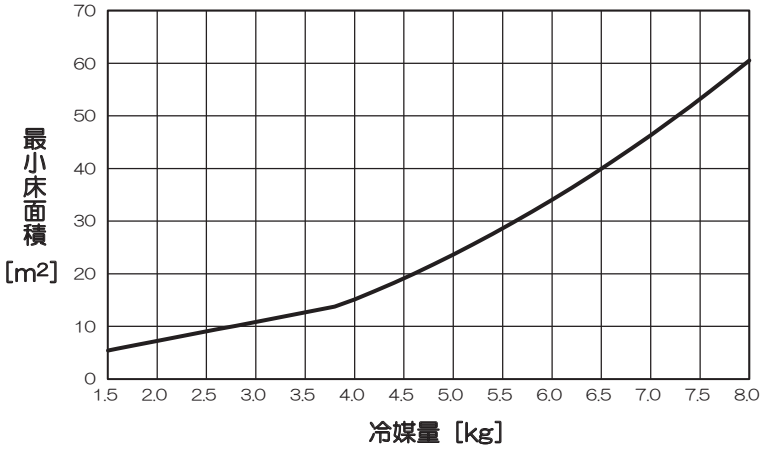
(2) 雰囲気の温湿度が上記の値を超える場合は外板の断熱材のポリウレタンホーム（t10 以上）を追加してください。

(3) 冷媒 R32 には，わずかながら燃焼性があります。そのため，半地下や狭小部など換気の悪い場所で室外ユニットを設置・修理・移設する際の作業時は，冷媒漏えいセンサを携行してください。冷媒が漏えいした場合は，窒息や着火の原因となる恐れがあります。

■冷媒量と最小床面積の関係

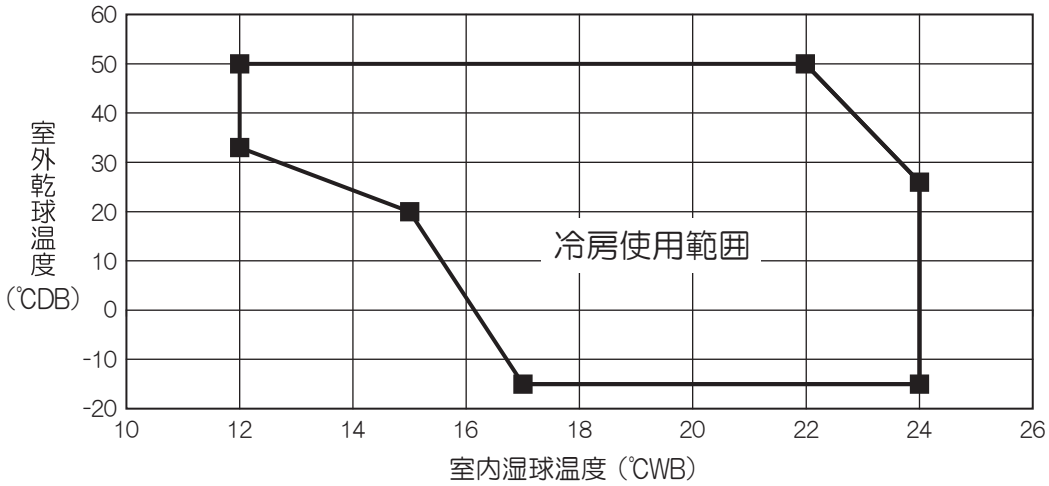
冷媒量ごとに規定している室内の最小床面積を下回るスペースへの設置はできません。

冷媒量 kg	最小床面積 m^2
1.5	5.4
2.0	7.2
2.5	9.1
3.0	10.9
3.5	12.7
4.0	15.1
4.5	19.2
5.0	23.7
5.5	28.6
6.0	34.1
6.5	40.0
7.0	46.3
7.5	53.2
8.0	60.5



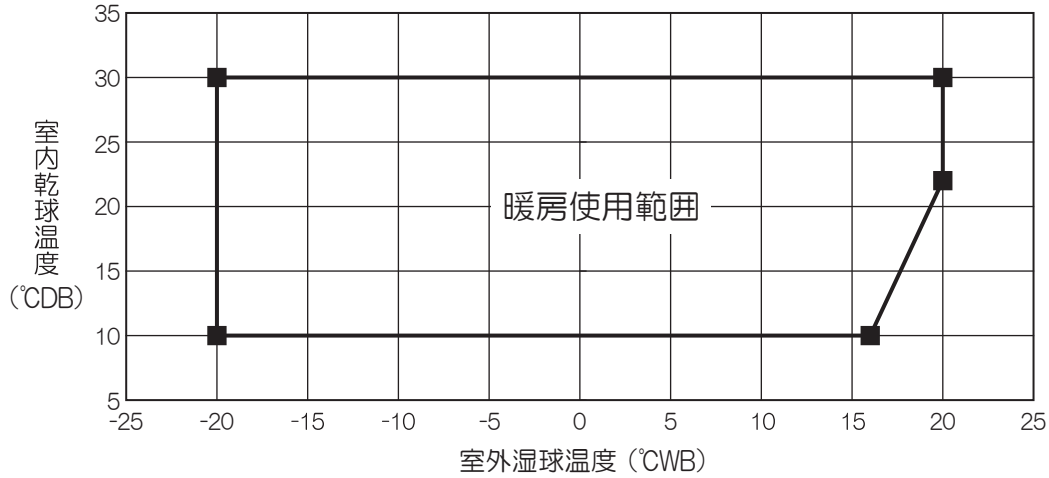
■使用温度範囲

• 冷房運転



注(1)　※－5℃以下で使用する場合は，防雪フード（オプション）を組付けてください。

• 暖房運転



■ ユニットの風量を妨げる様な場所，室外ユニットに強風・他のユニット吹出風が当たる場所に設置された場合，冷房・暖房能力の減少，制御により連続運転をしない範囲が発生します。

PCA001Z859

PCA001Z868

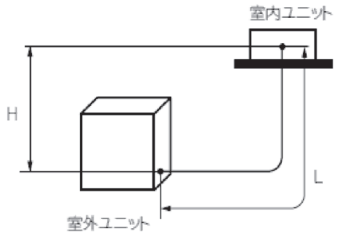
(2) 配管制限

(a) FDCKP805H，1125H の場合

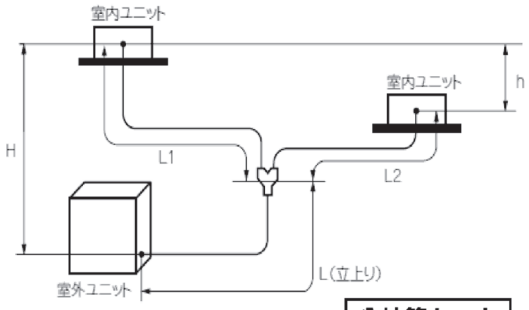
配管制限（シングル機･ツイン機）

制限項目		第1分岐管～各室内ユニットまでの配管長差		
	室外ユニット容量	制限長さ	シングル機	ツイン機
片道配管長	KP805･KP1125	100m以下	L	L+L1+L2
主管長	KP805･KP1125	100m以下	L	L
第1分岐～室内ユニット間の片道長さ	KP805･KP1125	30m以下	-	L1,L2
第1分岐～室内ユニット間の片道長さの差		10m以下	-	|L1-L2| |L2-L1|
室内･室外ユニット間の高さの差	室外ユニットが上の場合	30m以下	H	H
	室外ユニットが下の場合	15m以下		
室内ユニット間の高さの差		0.5m以内		h

<シングル機>



<ツイン機>



分岐管セット（別売品）
DIS-WA1G

注 (1)立ち上がり配管は主管としてください。
また、分岐管は室内ユニットの近辺に水平分岐するように設置してください。
(2)配管は、使用する雰囲気に対応した断熱を実施してください。
相対湿度が70%を超える天井内等では、厚さ20mm以上の断熱が必要になります。
(3)室内･室外ユニット･分岐管セット付属の据付説明書に施工上の確認事項を記載しております。
据付される前に据付説明書をよくお読みいただき、指示通りに施工してください。

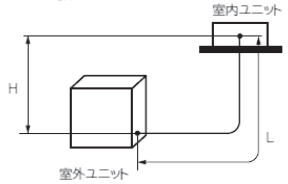
配管制限　（シングル機・ツイン機・トリプル機）

制限項目		第1分岐管～各室内ユニットまでの配管長差				３ｍ未満	３ｍ以上　１０ｍ以下
		室外ﾕﾆｯﾄ容量	制限長さ	シングル機	ツイン機	トリプルＡ機 図Ａ	トリプルＢ機 図Ｂ
片道配管長		KP140	100m以下	L	L+L1+L2	－	－
		KP160				L+L1+L2+L3	L+La+L1+L2+L3
主管長		KP140	100m以下	L	L	－	－
		KP160				L	L
第１分岐～第２分岐間の片道長さ		KP160	5m以下	－	－	－	La
第１分岐～室内ユニット間の片道長さ		KP140	30m以下	－	L1, L2	－	－
		KP160				L1, L2, L3	L1 ※1
第１分岐～第２分岐以降に接続する室内ユニット間の片道長さ		KP160	30m以下	－	－	－	La+L2, La+L3
第１分岐～室内ユニット間の片道長さの差	ツイン	KP140,KP160	10m以下	－	|L1-L2|	－	－
	トリプル	KP160	3m未満	－	－	|L1-L2|, |L2-L3|, |L3-L1|	－
			3m以上10m以下			＜使用不可＞	L1-(La+L2), L1-(La+L3) ※1
第２分岐～室内ユニット間の片道長さの差	トリプル	KP160	10m以下	－	－	－	|L2-L3|
室内・室外ユニット間の高さの差	室外ﾕﾆｯﾄが上の場合		30m以下	H	H	H	H
	室外ﾕﾆｯﾄが下の場合		15m以下				
室内ﾕﾆｯﾄ間の高さの差			0.5m以下	－	h	h1, h2, h3	h1, h2, h3

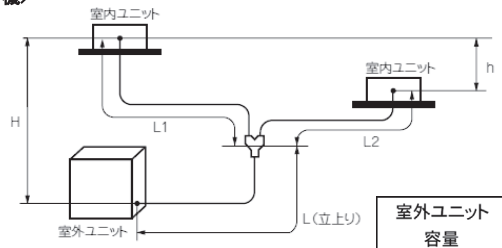
注意！

※１　Ｌ１には片道長さが最大となる室内ユニットを接続してください。
　　(La+L2)と(La+L3)は、L1に対し片道長さの差が3m以上10m以下の制限長さ内にしてください。
※２　Ｌ１には、機種容量が最大となる室内ユニットを接続してください。

<シングル機>

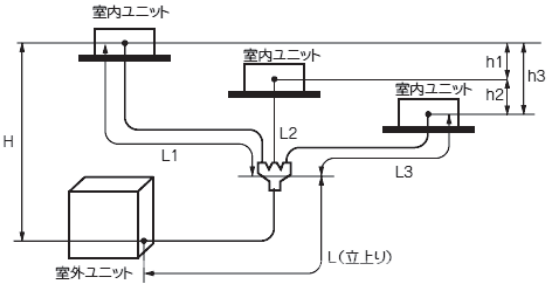


<ツイン機>



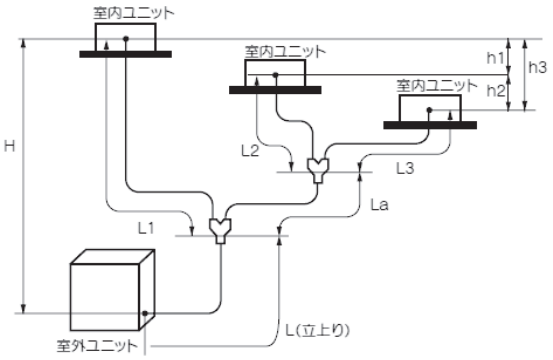
室外ユニット容量	分岐管セット(別売品)
KP140,KP160	DIS-WB1G

<トリプルA機>図A



室外ユニット容量	分岐管セット(別売品)
KP140,KP160	DIS-TB1

<トリプルB機>図B



室外ユニット容量	分岐管セット(別売品)	
	第1分岐	第2分岐
KP140,KP160	DIS-WB1	DIS-WA1

1)立ち上がり配管は主管としてください。
　また、分岐管は室内ユニットの近辺に水平分岐するように設置してください。
2)配管は、使用する雰囲気に対応した断熱を実施してください。
　相対湿度が７０％を越える天井内等では、厚さ２０㎜以上の断熱が必要になります。
3)室内・室外ユニット付属の据付説明書に施工上の確認事項を記載しております。
　据付される前に据付説明書をよくお読みいただき、指示通りに施工してください。
　分岐管セット使用時は室外ユニットに同梱している異径継手(φ２５．４→φ１５．８８)を使用し接続してください。
　接続方法詳細は室外ユニットに同梱している「付属配管の接続方法」を参照ください。

3. 外形図

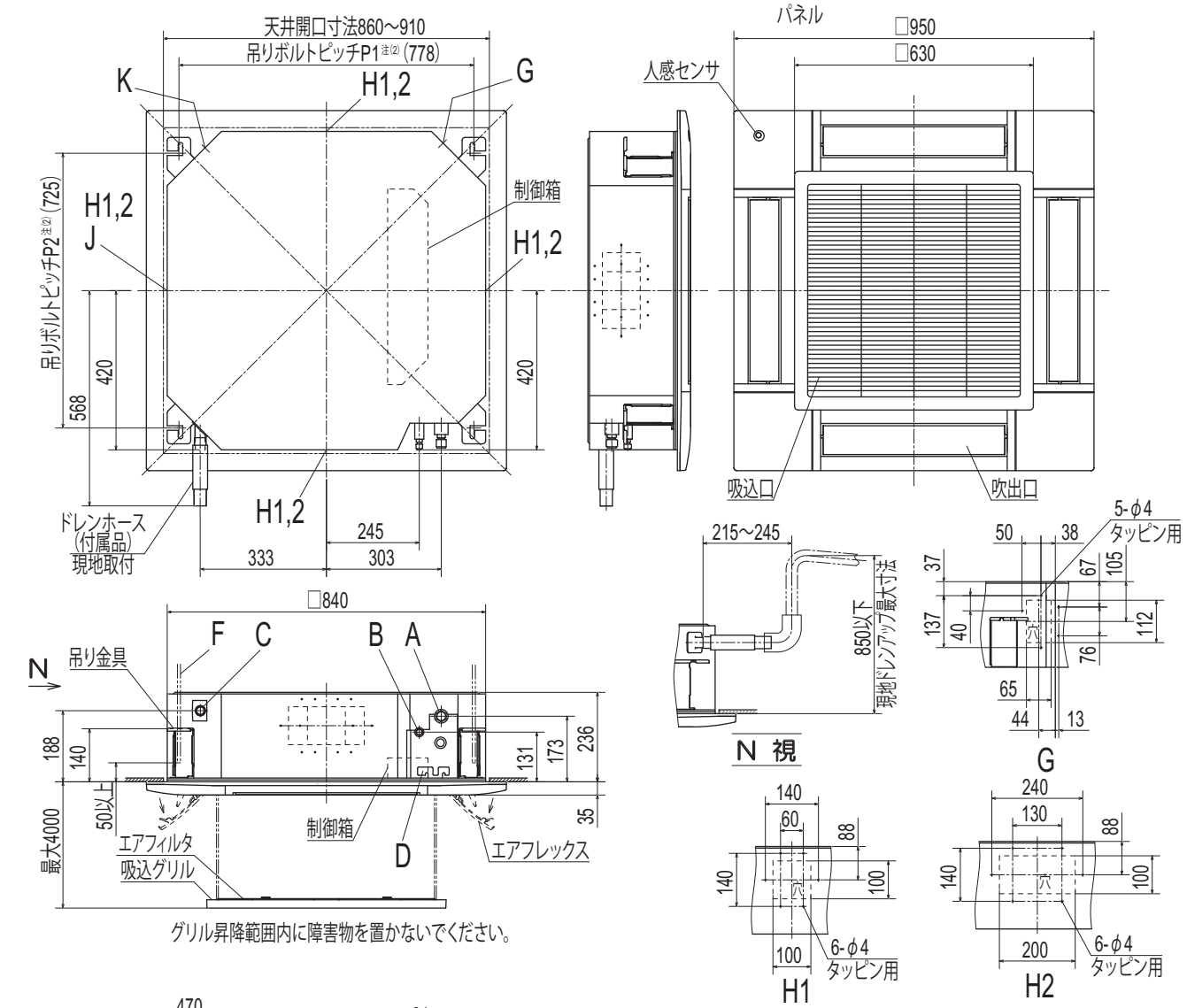
（単位：mm）

(1) 室内ユニット

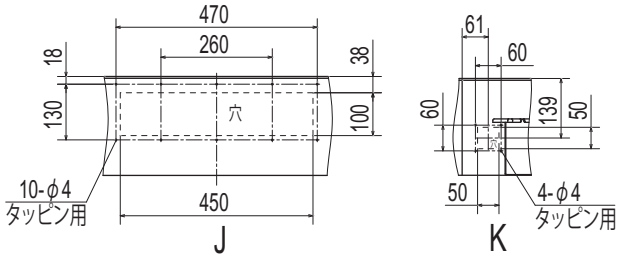
(a) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

(i) 標準パネル・エアフレックスパネル・ラクリーナパネル仕様

FDTKP565S



グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。



●記号説明

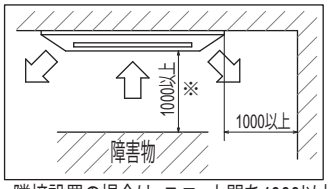
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200
J	加湿器接続口	
K	加湿器余剰水接続口	

注(1)装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

据付スペース



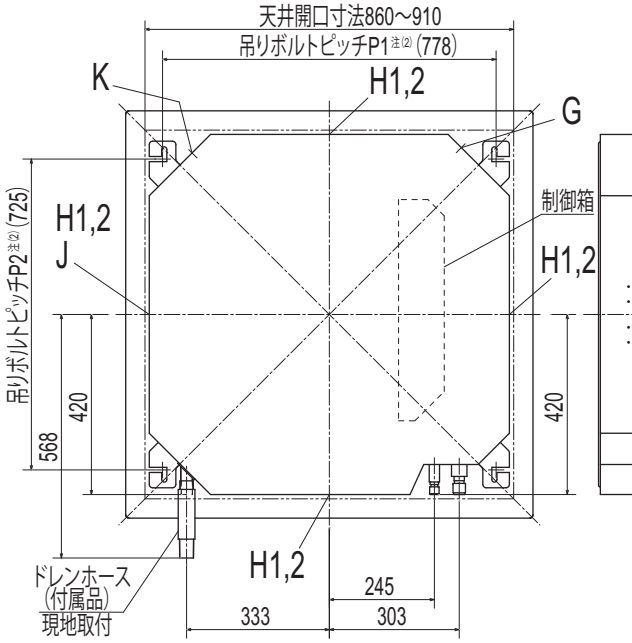
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。
ラクリーナパネル仕様の場合, ※寸法は1400以上です。

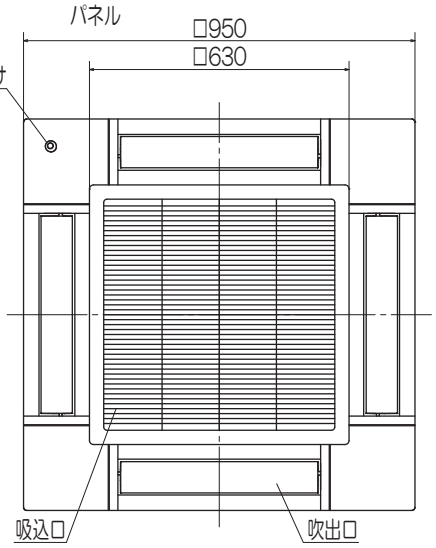
PJF000Z591

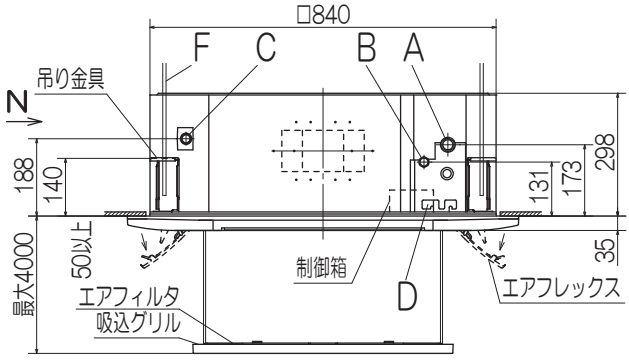
PJF000Z595

PJF000Z599

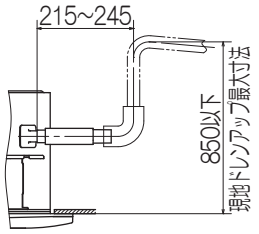
FDTKP1125S, 1605S



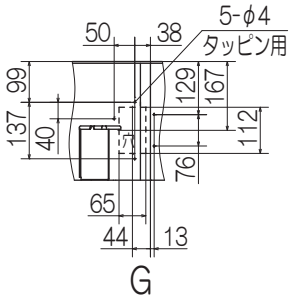


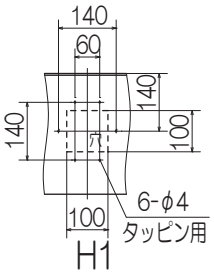


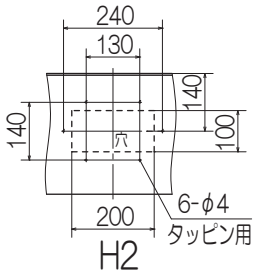
グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。

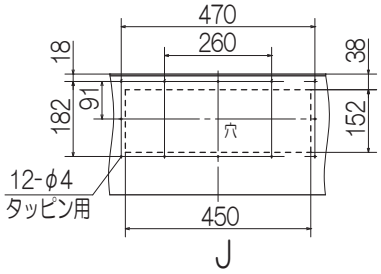


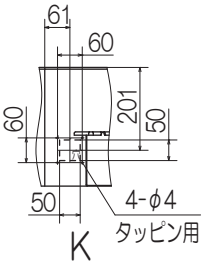
N 視











●記号説明

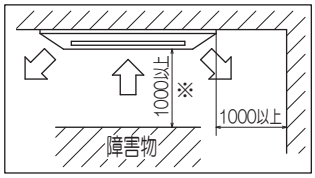
記号	内	容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200
J	加湿器接続口	
K	加湿器余剰水接続口	

注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
（2）吊りボルトピッチP1, P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

据付スペース



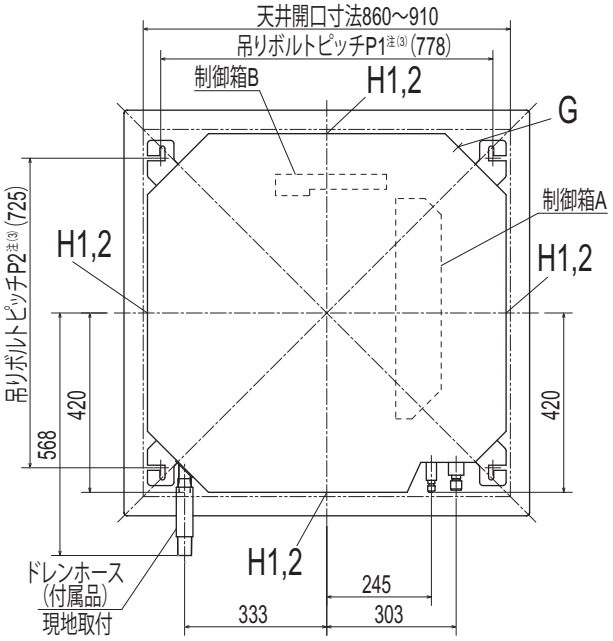
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。
ラクリーナパネル仕様の場合、※寸法は1400以上です。

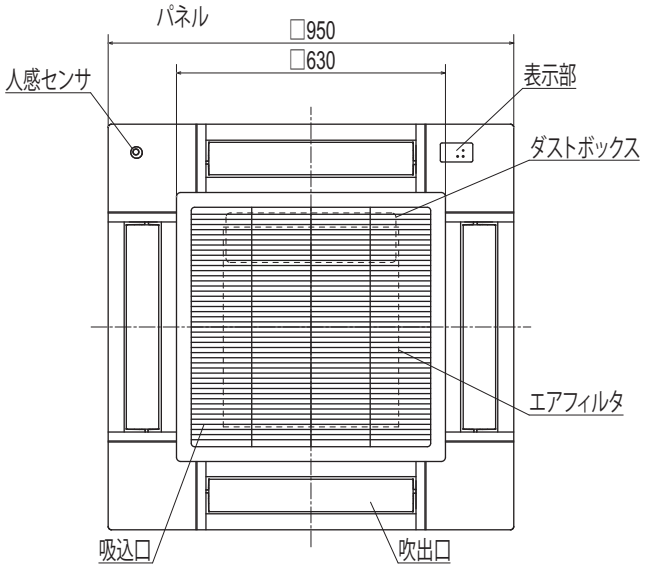
PJF000Z592

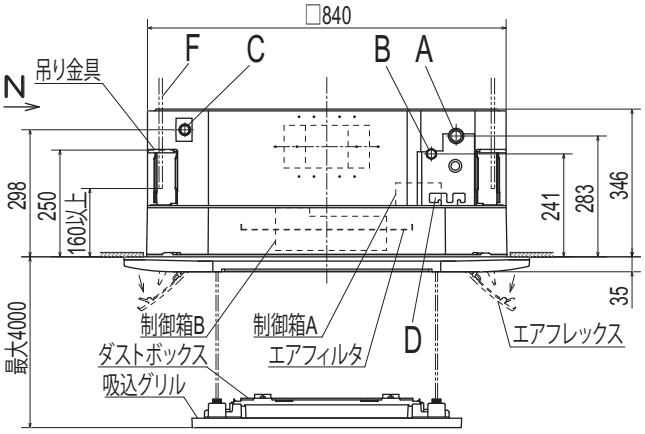
PJF000Z596

PJF000Z600

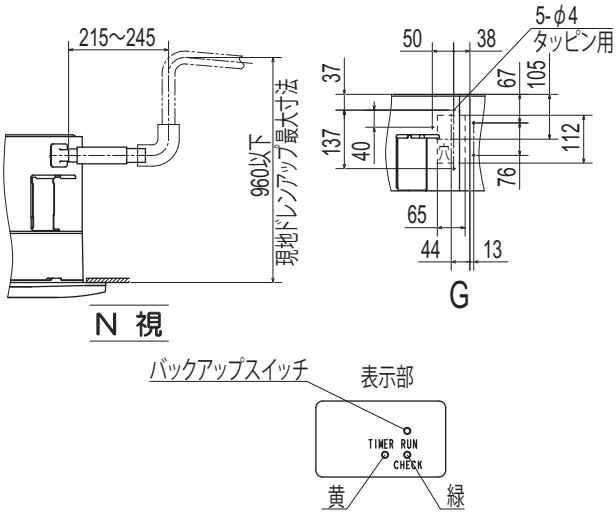
(ii) お掃除ラクリーナパネル仕様
FDTKP565S

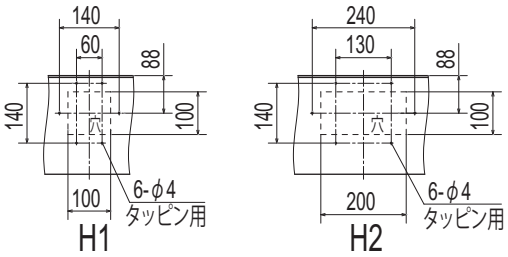






グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。





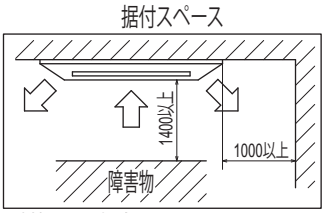
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200

注(1)装置銘板は制御箱Aの蓋に付いてます。
(2)吸込グリルには方向性があります、
90度回転方向には取付きません。
(3)吊りボルトピッチP1,P2は下表の
パターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

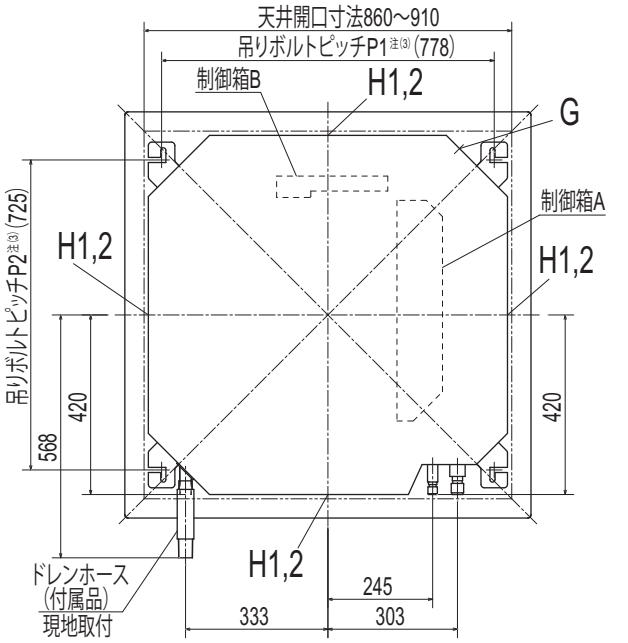
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

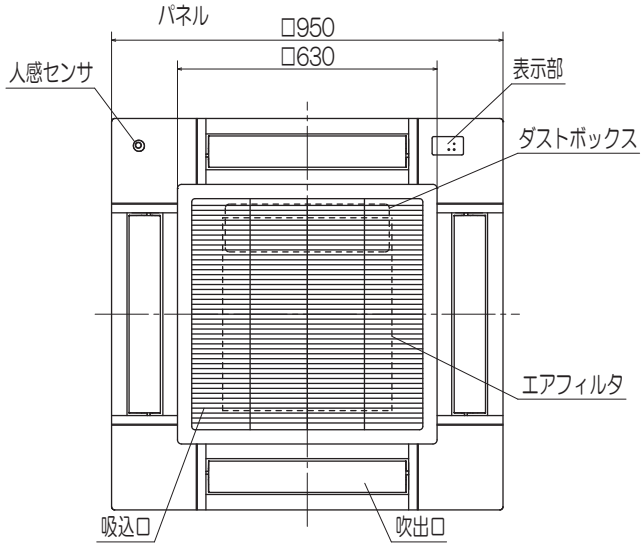


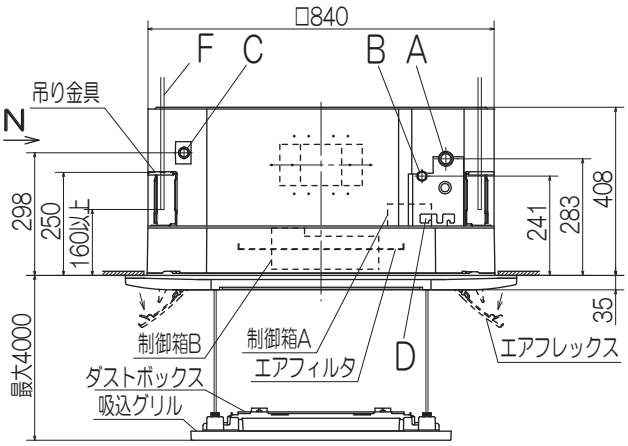
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

PJF000Z603

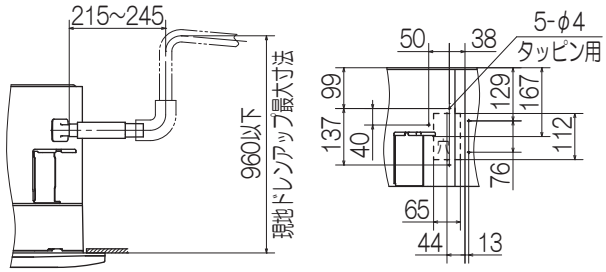
FDTKP1125S，1605S

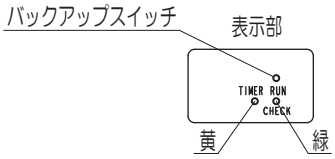


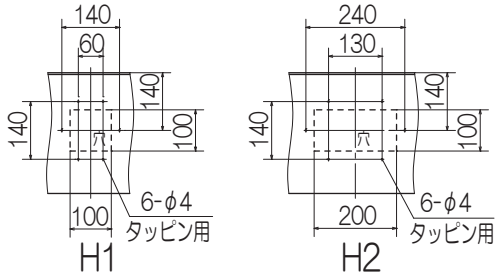


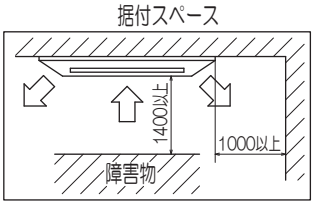


グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。









隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

●記号説明

記号	内	容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200

注（1）装置銘板は制御箱Aの蓋に付いてます。
（2）吸込グリルには方向性があります，
90度回転方向には取付きません。
（3）吊りボルトピッチP1,P2は下表の
パターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

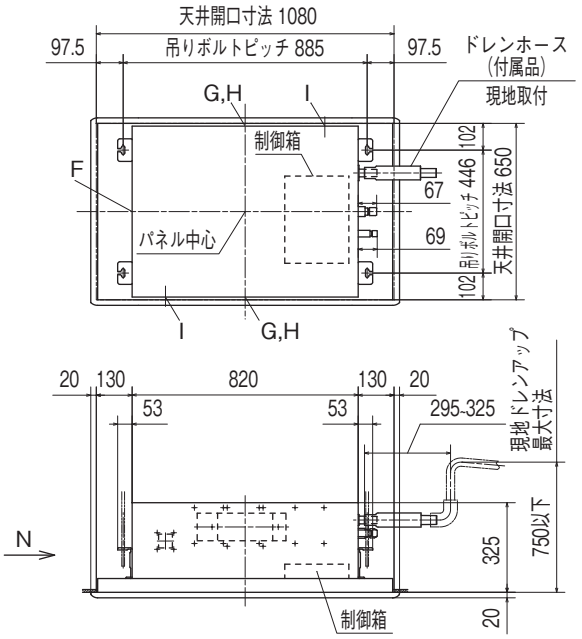
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

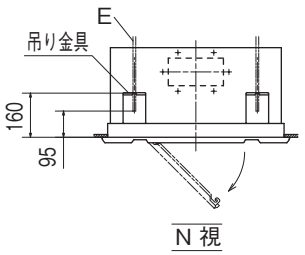
PJF000Z604

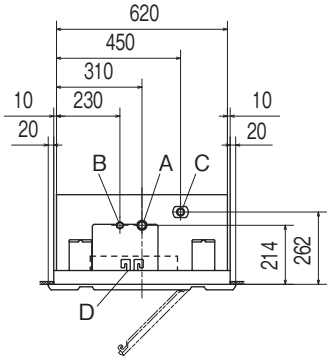
(b) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

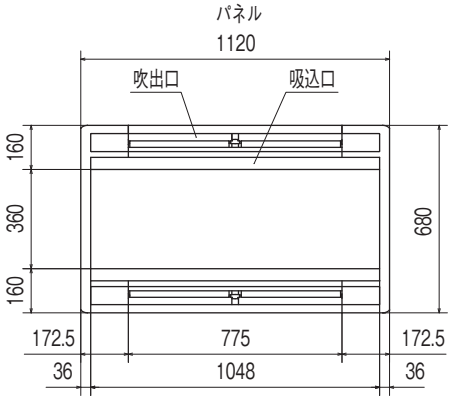
(i) 標準パネル仕様

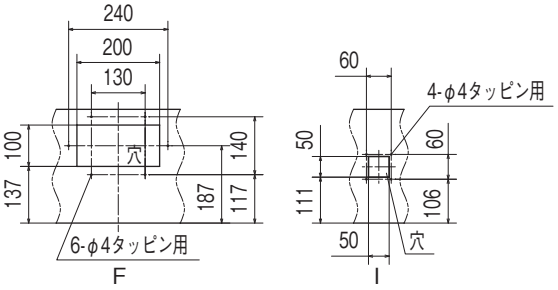
FDTWKP565S

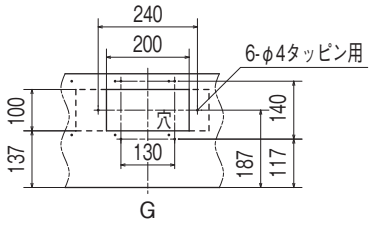


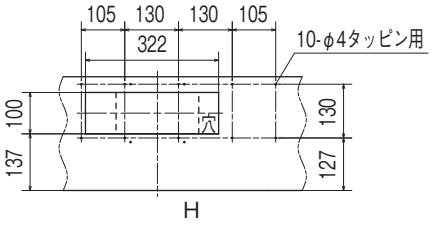








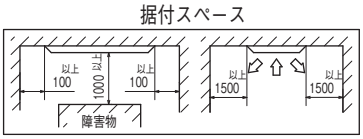




●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	

据付スペース

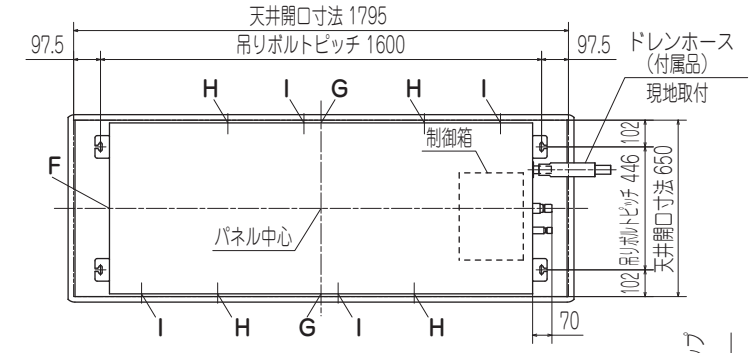


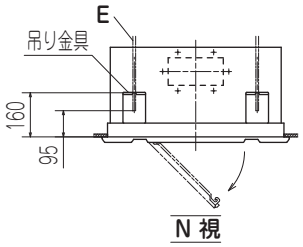
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

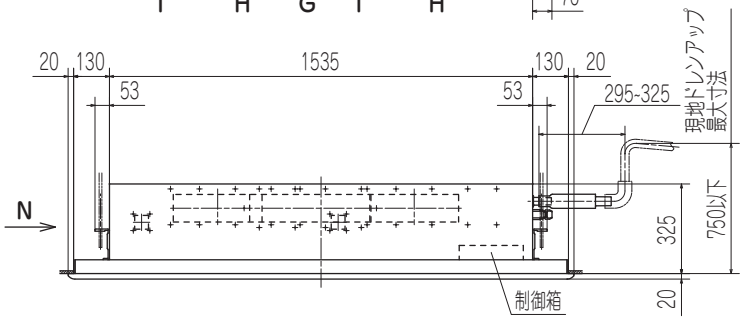
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

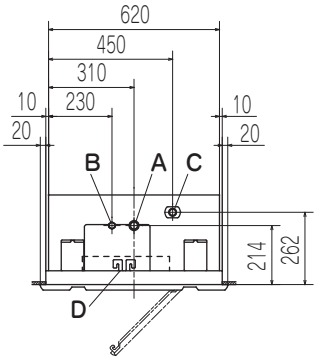
PJB001Z856

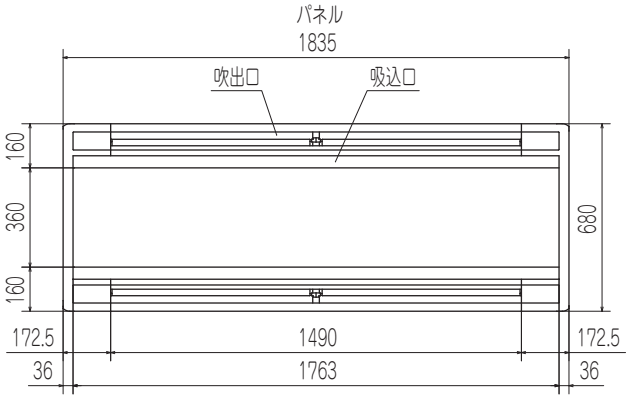
FDTWKP805S，1605S

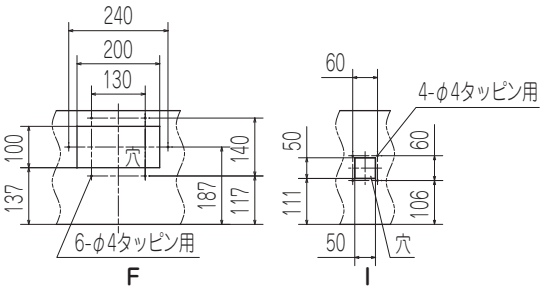


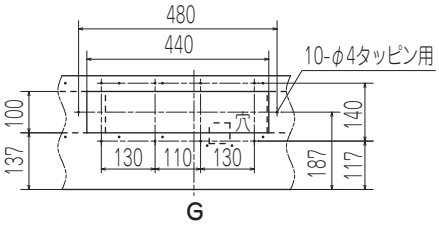


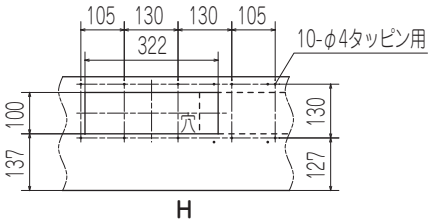








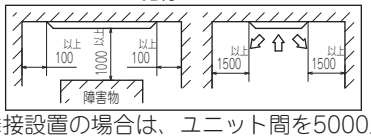




●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	

据付スペース

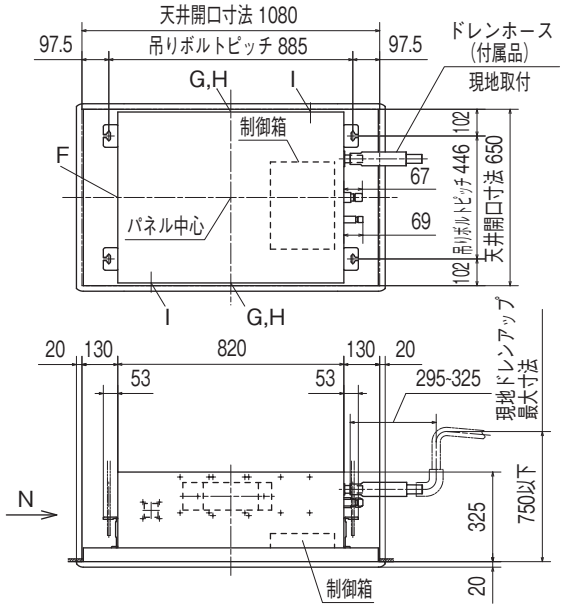


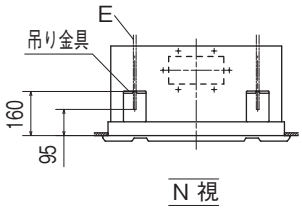
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

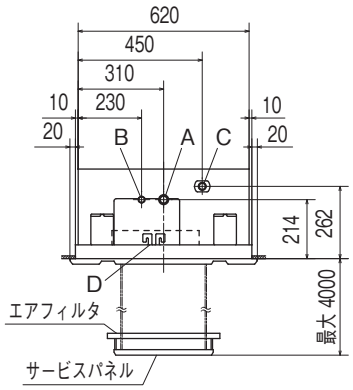
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

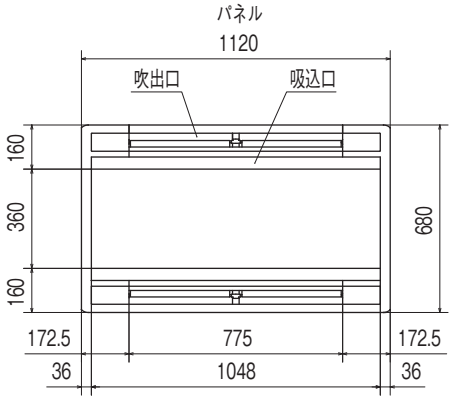
PJB001Z857

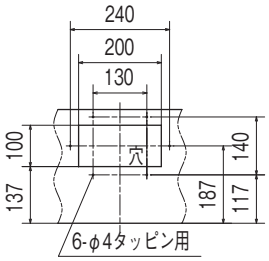
(ii) ラクリーナパネル仕様
FDTWKP565S

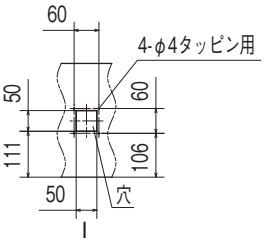


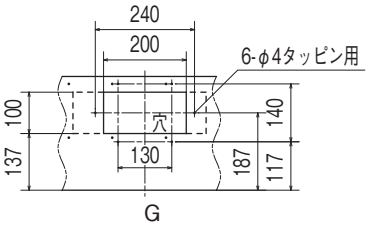


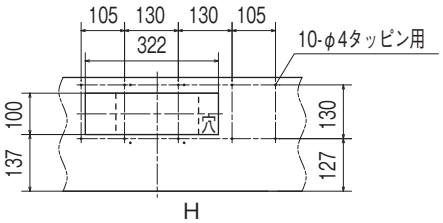








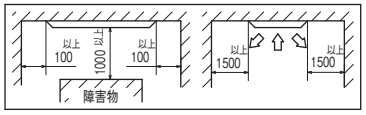




●記号説明

記号		内　　容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	

据付スペース

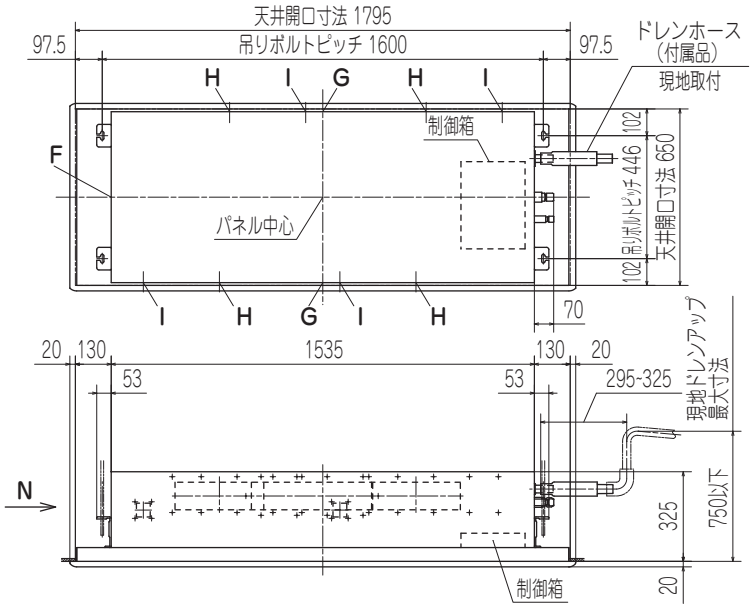


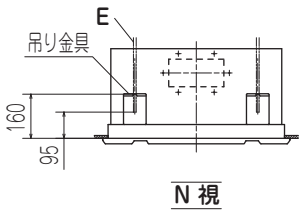
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

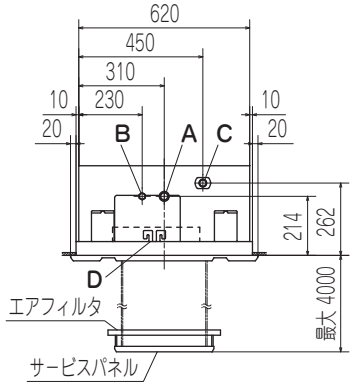
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

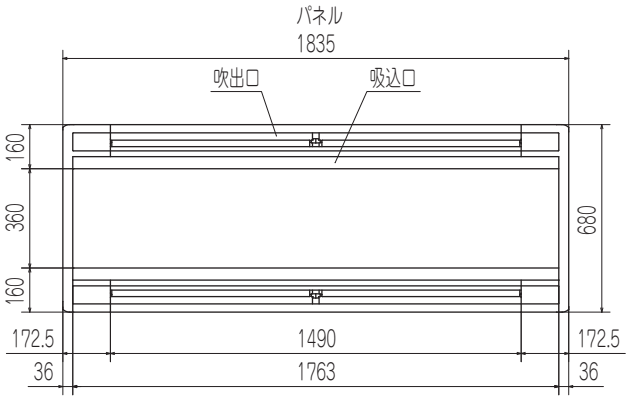
PJB001Z861

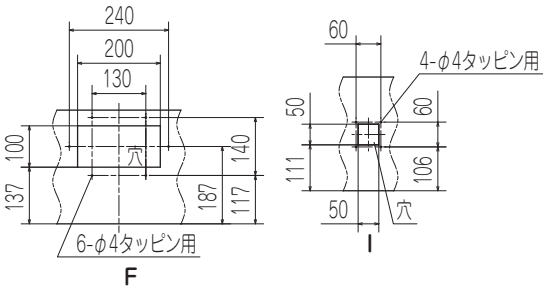
FDTWKP805S，1605S

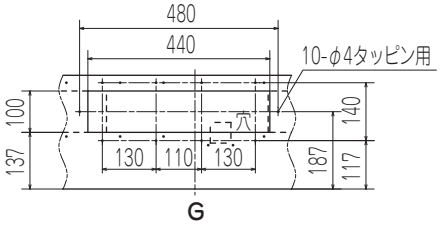


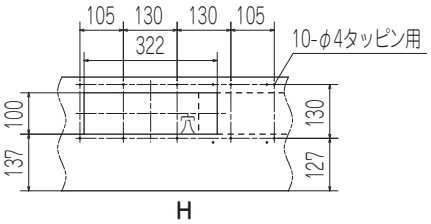








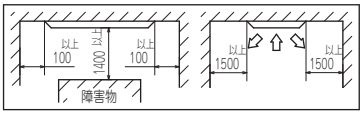




●記号説明

記号	内　容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	

据付スペース



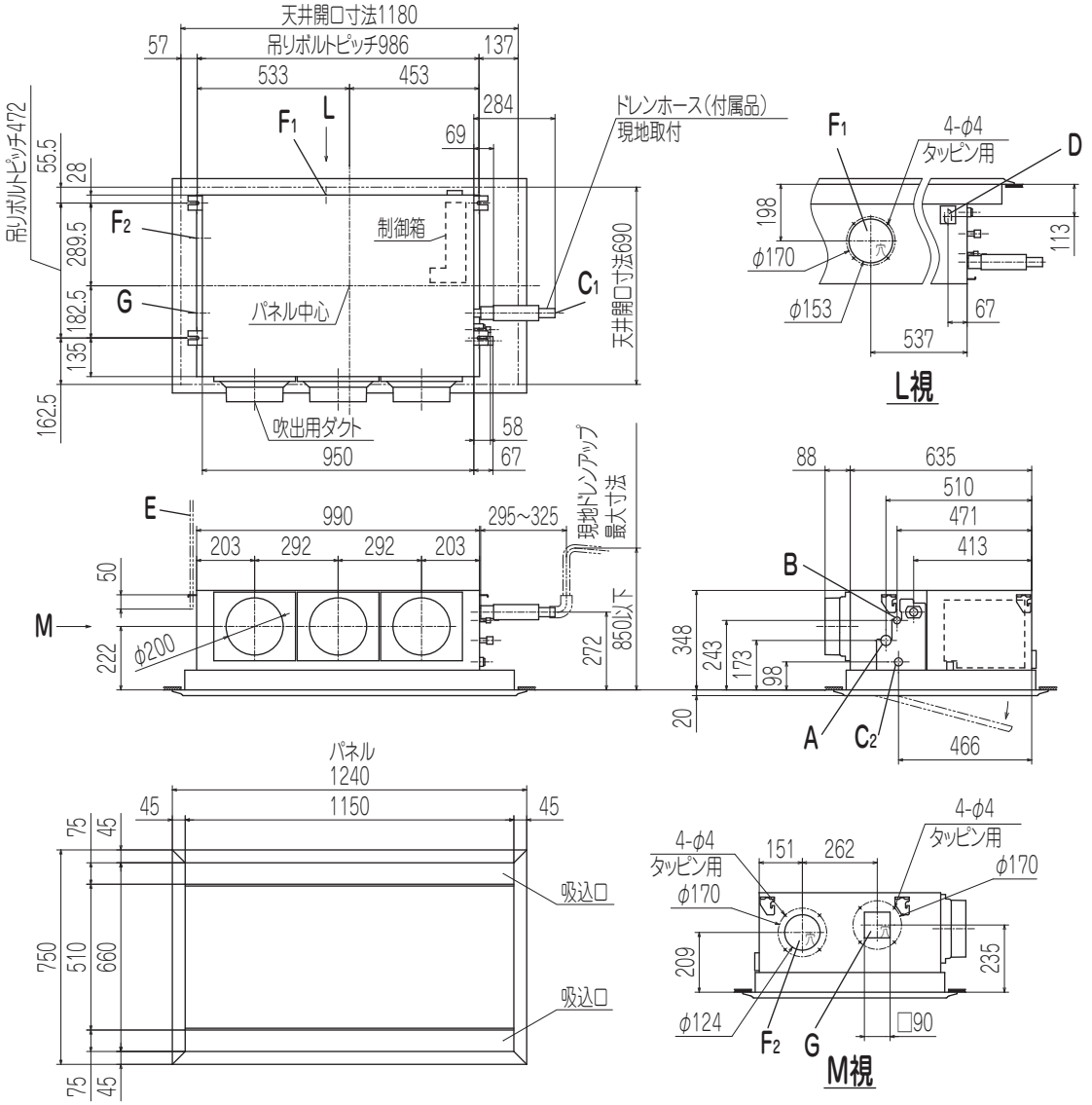
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

PJB001Z862

(c) 天埋カセテリア（FDR）
FDRKP565S

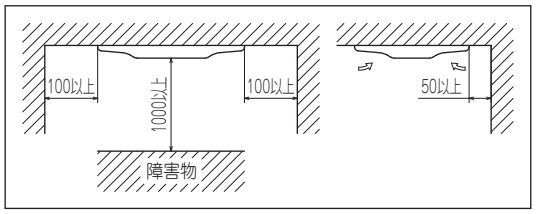
サイレントパネル（品番：R-PNS-3AW）使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース

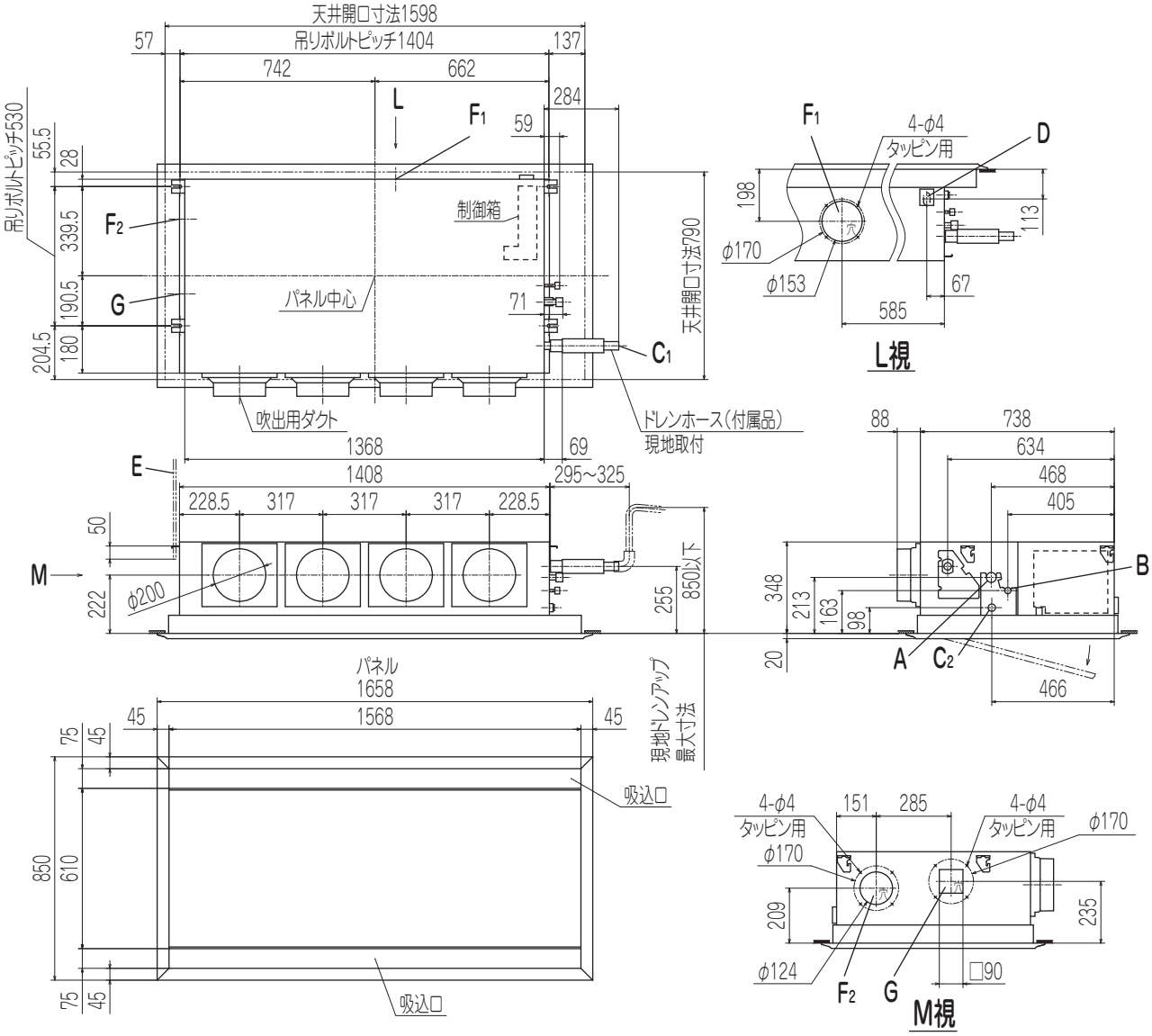


注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z627

FDRKP715S，1125S，1605S

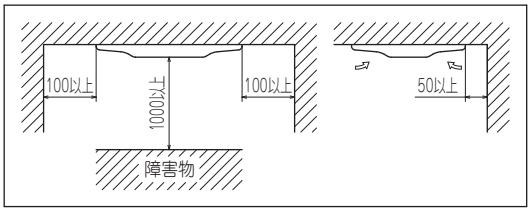
サイレントパネル（品番：R-PNS-4AW）使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C_2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース

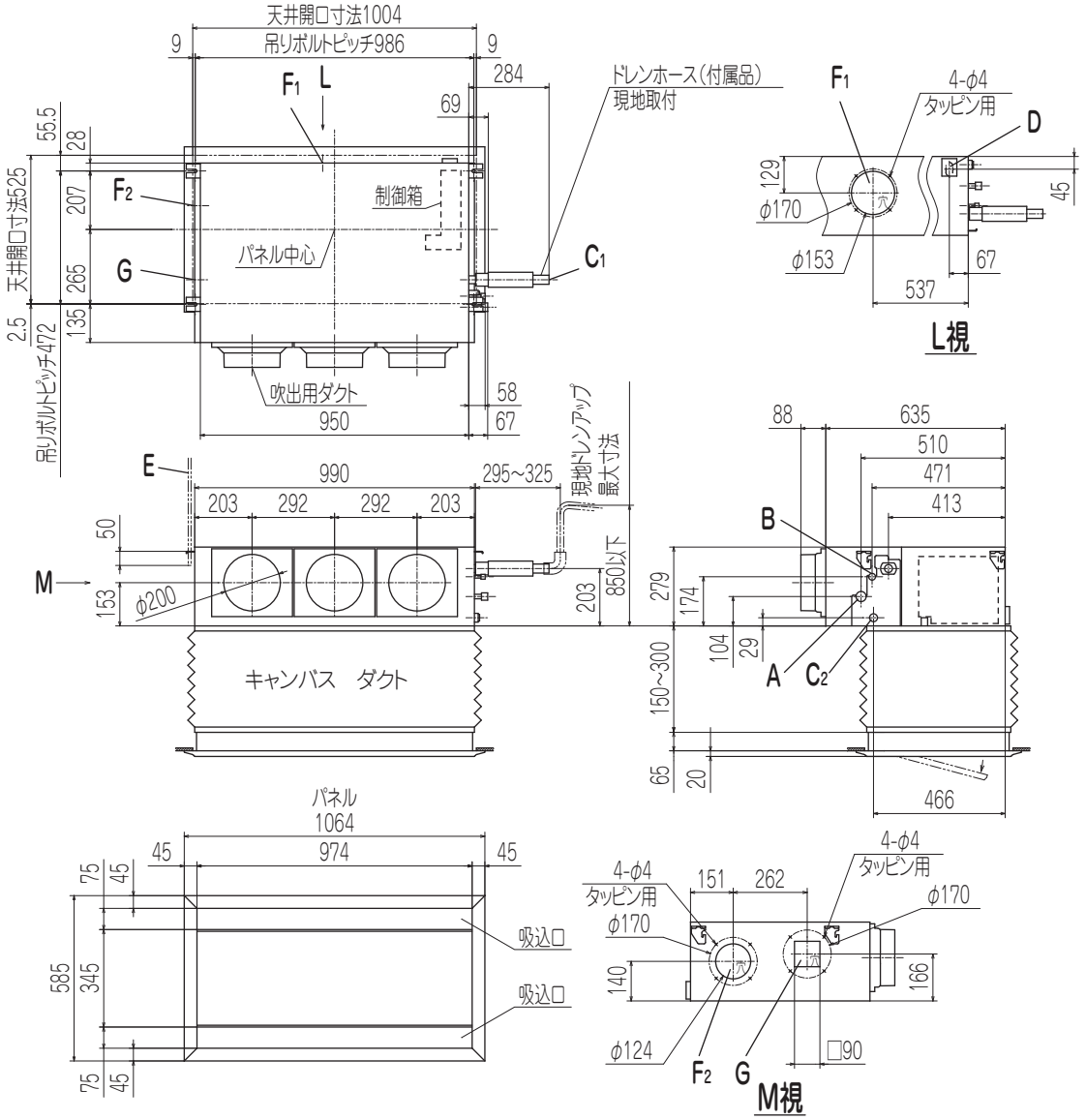


注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

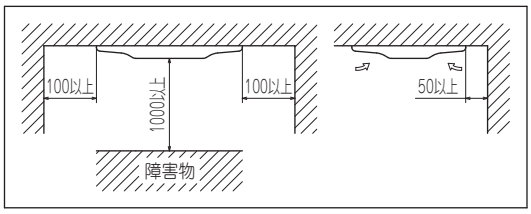
PJG000Z628

FDRKP565S

キャンバスパネル（品番：R-PNC-3AW）使用の場合



据付スペース



●記号説明

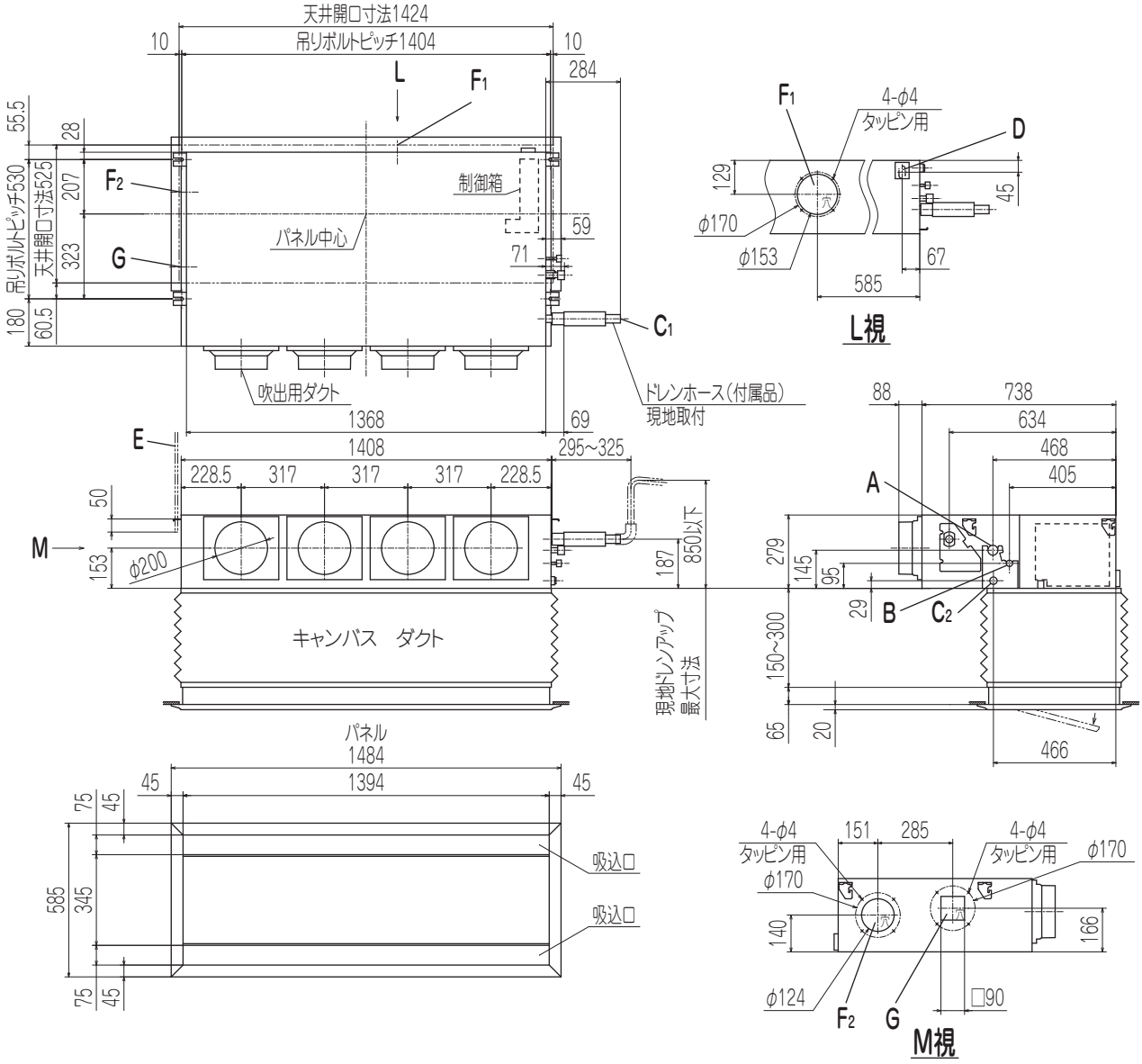
記号		内容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C_2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z632

FDRKP715S，1125S，1605S

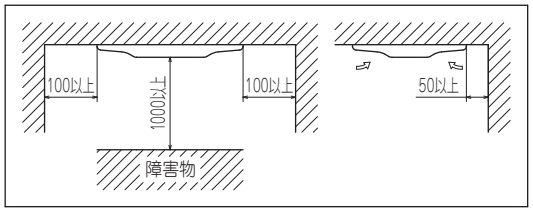
キャンバスパネル（品番：R-PNC-4AW）使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース

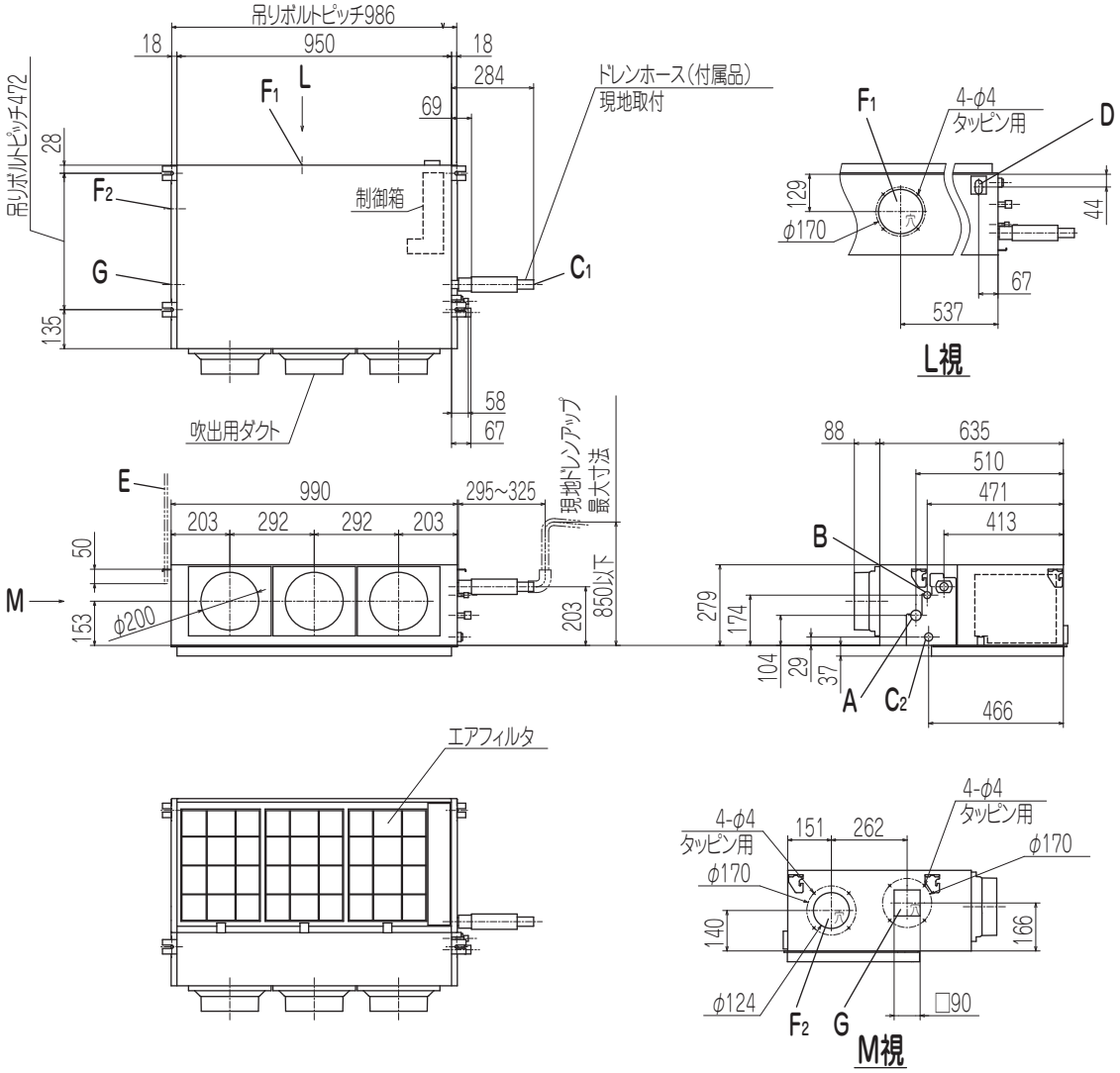


注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z633

FDRKP565S

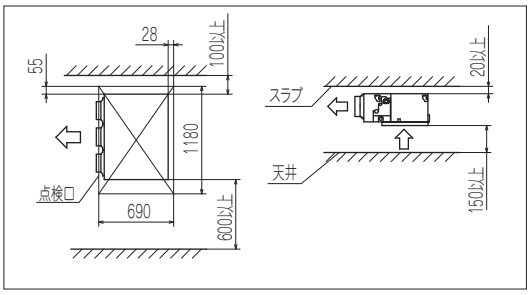
天井リターンキット（品番：R-FL-3A）使用の場合



●記号説明

記号		内容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C_2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース

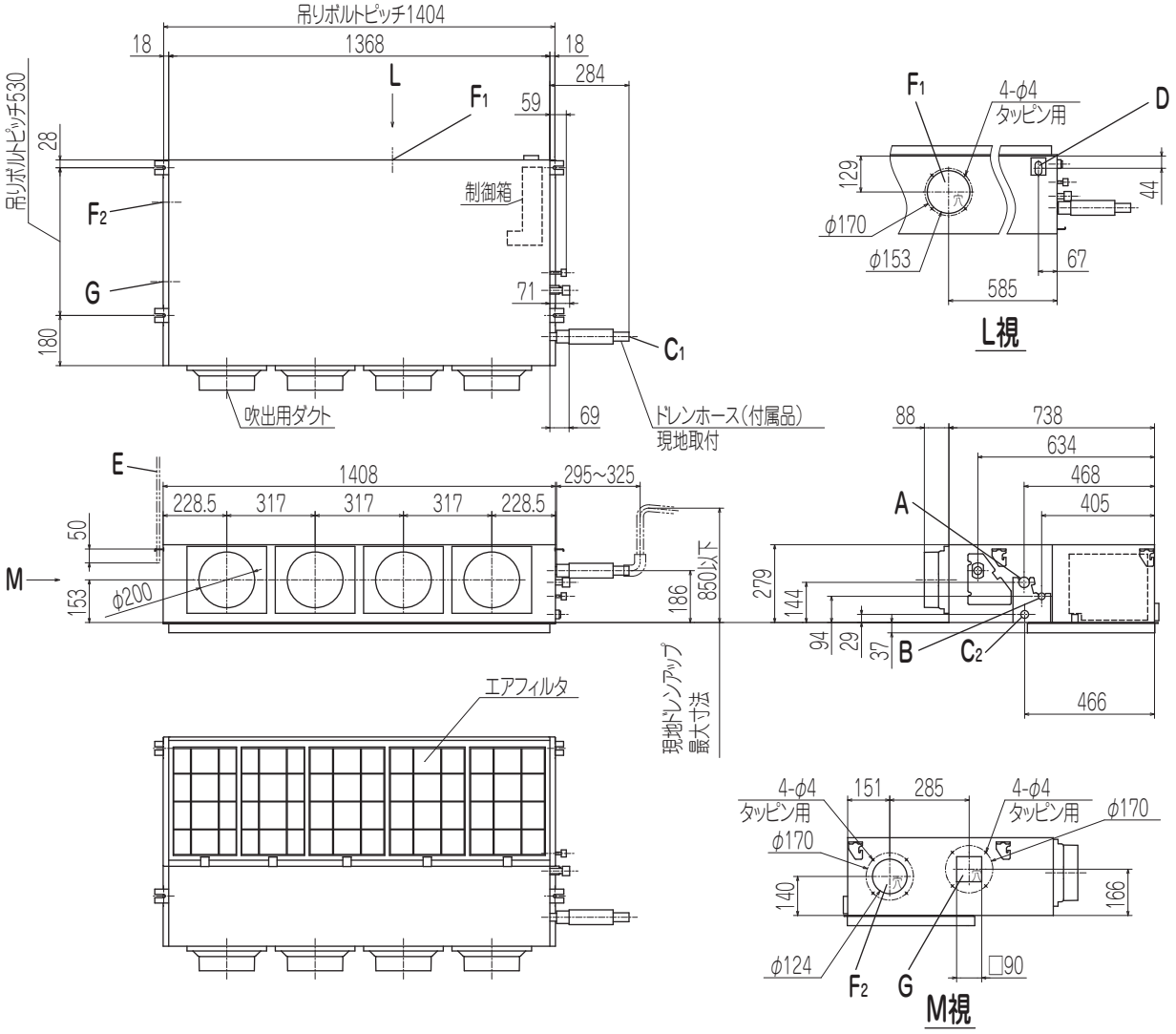


注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z635

FDRKP715S，1125S，1605S

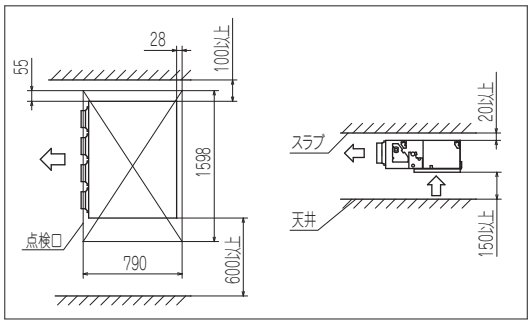
天井リターンキット（品番：R-FL-4A）使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



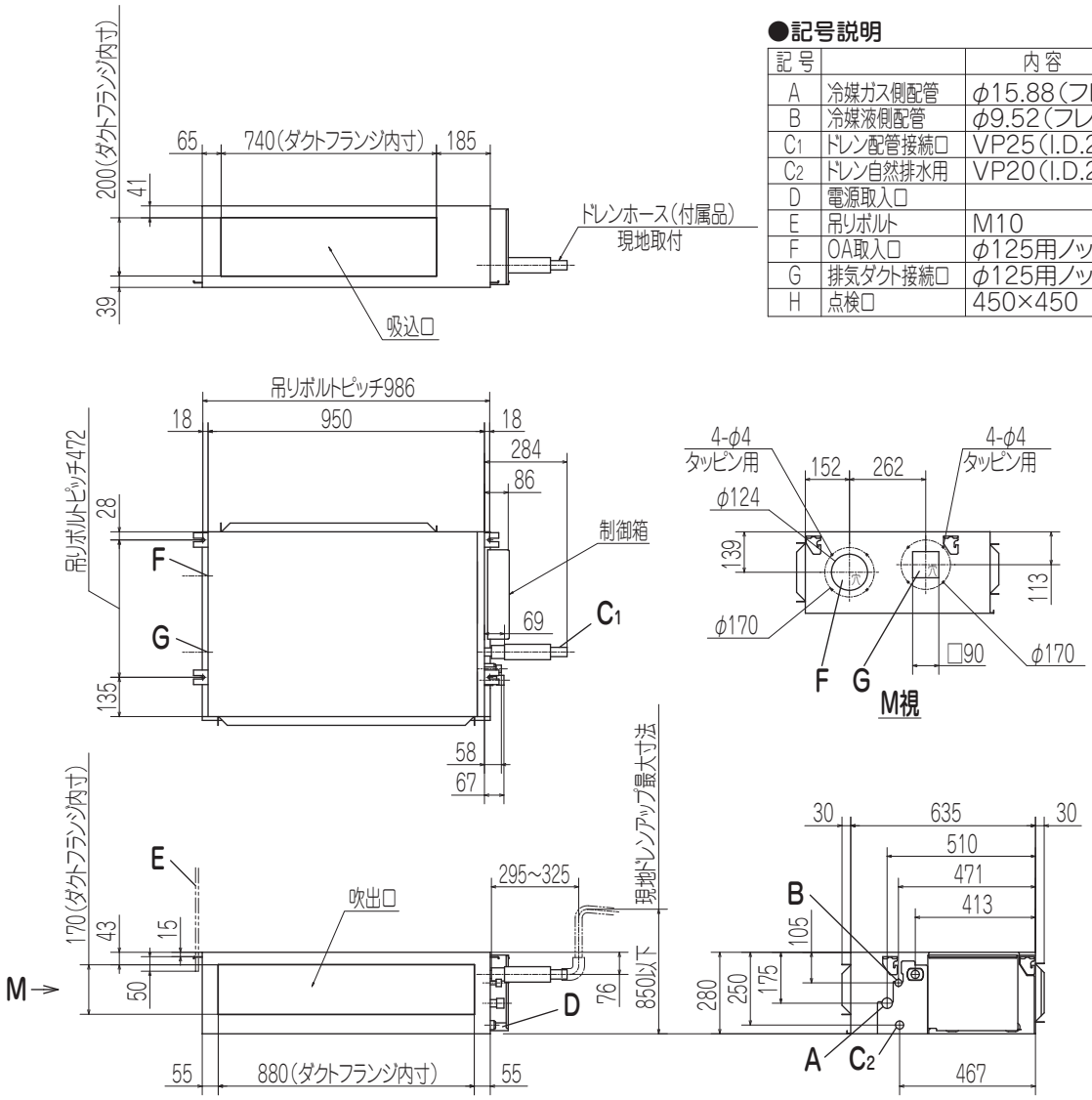
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z636

(d) 高静圧ダクト形（FDU）

(i) 標準仕様

FDUKP565S



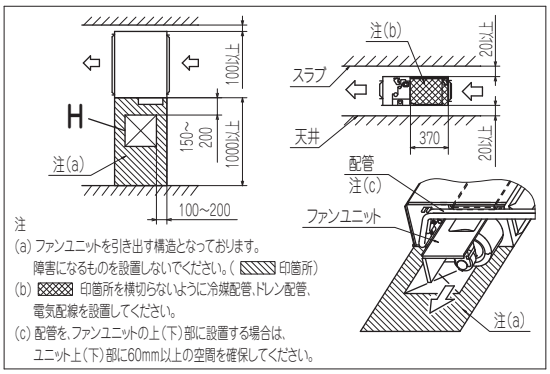
●記号説明

記号		内容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

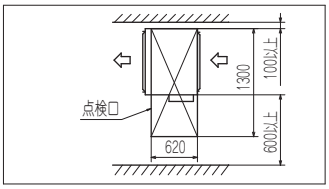
室内ユニット据付スペース

必ず吸込･吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から



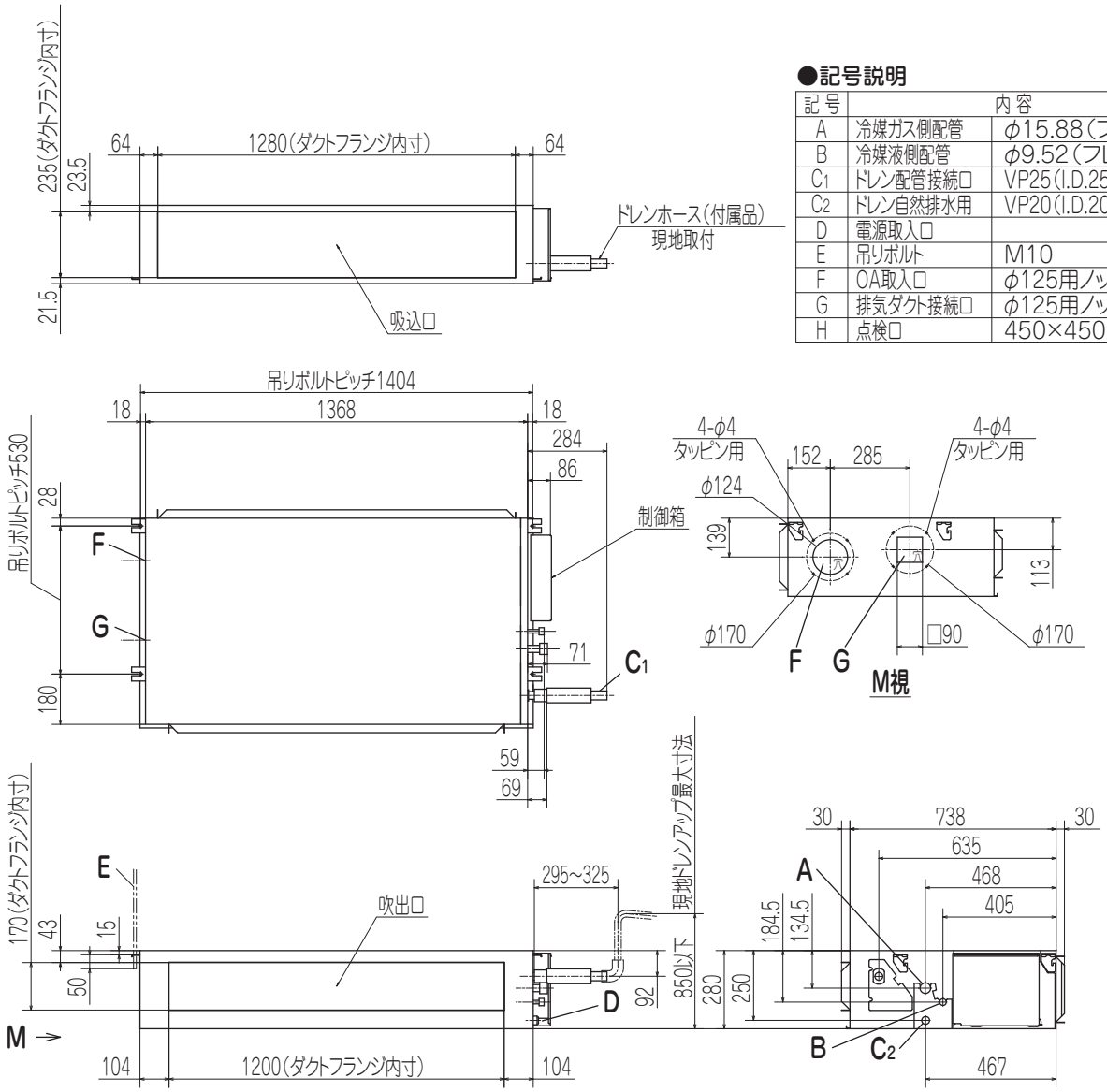
(ケース2) ユニット下面から



注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z638

FDUKP715S，1125S



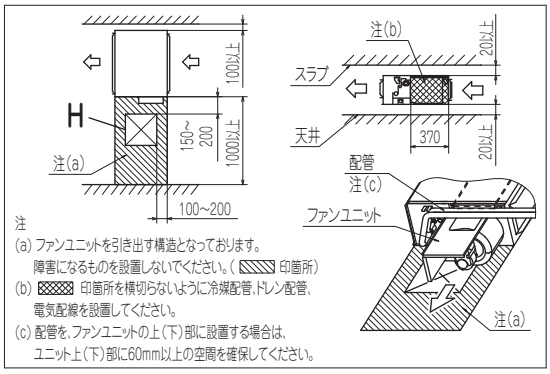
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

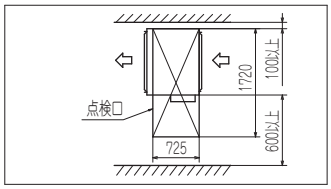
室内ユニット据付スペース

吸込･吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から



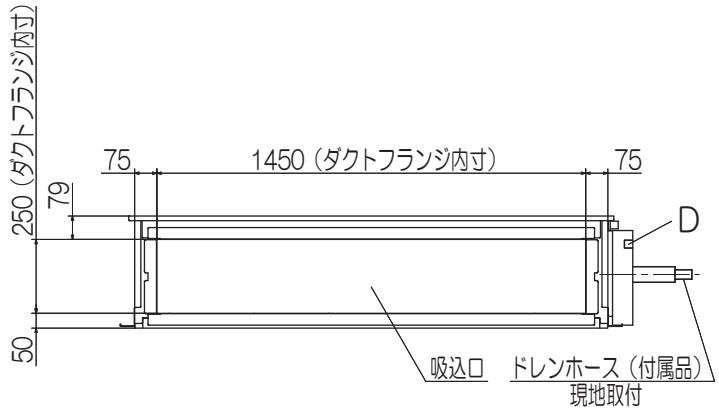
(ケース2) ユニット下面から



注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

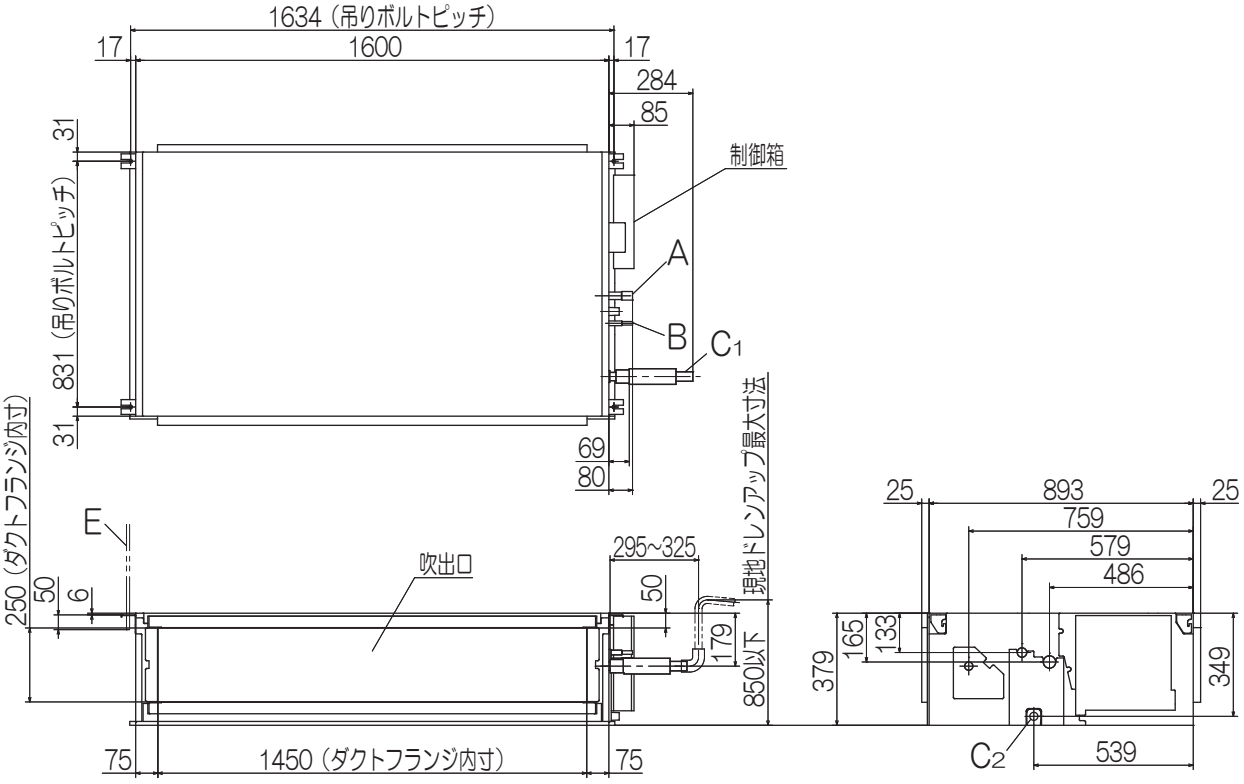
PJG000Z639

FDUKP1605S



●記号説明

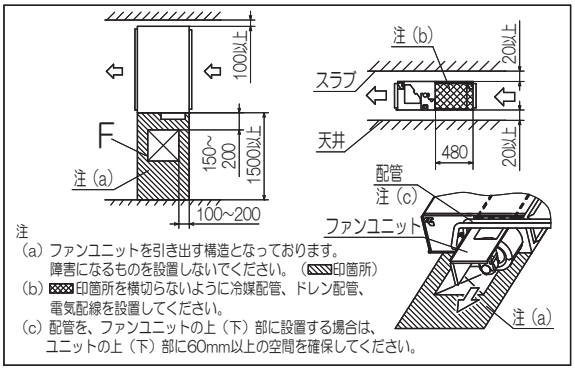
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ25.4（ろう付）
B	冷媒液側配管	φ9.52（ろう付）
C1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C2	ドレン自然排水用	VP25
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	点検口	450×450



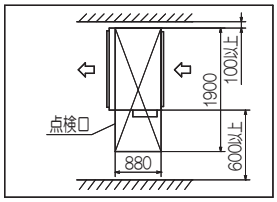
室内ユニット据付スペース

吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

（ケース1） ユニット側面から



（ケース2） ユニット下面から



注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

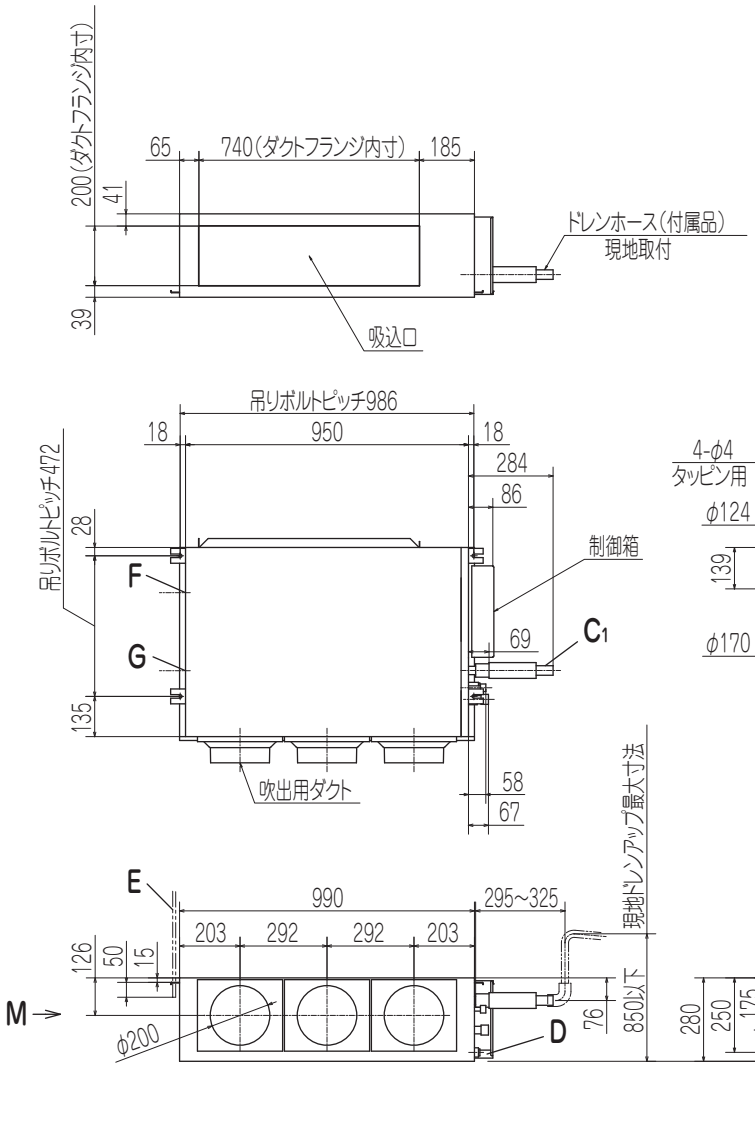
PJG000Z640

(ii) 丸ダクト仕様

FDUKP565S

丸ダクト変換キット（品番：U-UM-3A）使用の場合

機外静圧設定範囲は10～100Paとなります。
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加するため、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。
283ページをご参照ください。



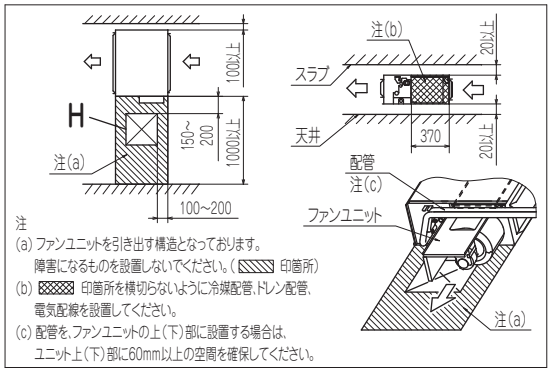
●記号説明

記号		内容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25(I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	M10
E	吊りボルト	
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

室内ユニット据付スペース

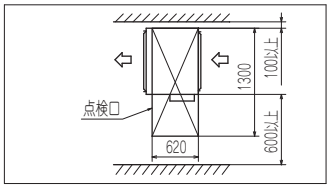
必ず吸込･吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から



注
(a) ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。(印箇所)
(b) 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設置してください。
(c) 配管を、ファンユニットの上(下)部に設置する場合は、ユニット上(下)部に60mm以上の空間を確保してください。

(ケース2) ユニット下面から



注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z645

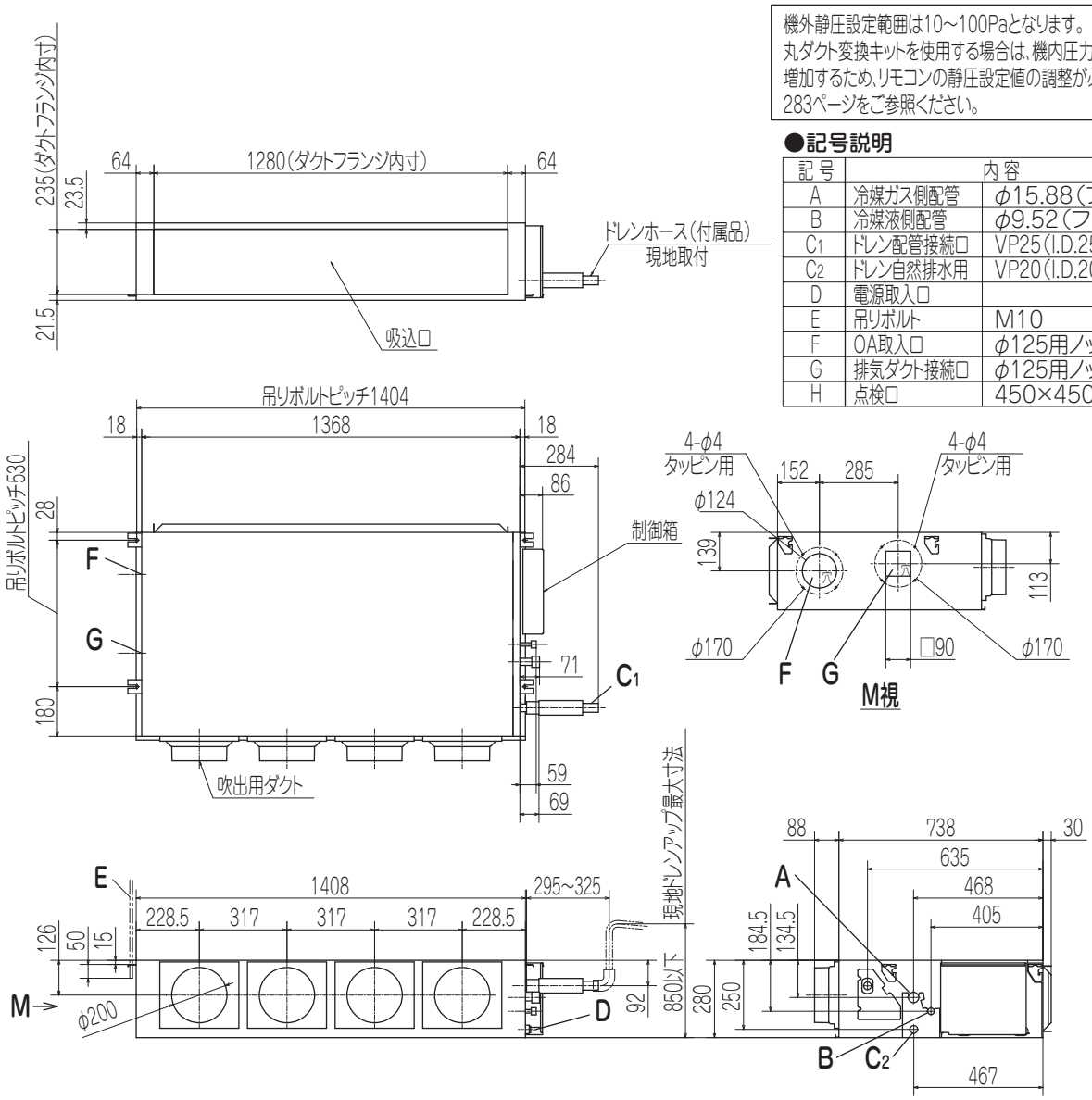
FDUKP715S，1125S

丸ダクト変換キット（品番：U-UM-4A）使用の場合

機外静圧設定範囲は10～100Paとなります。
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加するため、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。
283ページをご参照ください。

●記号説明

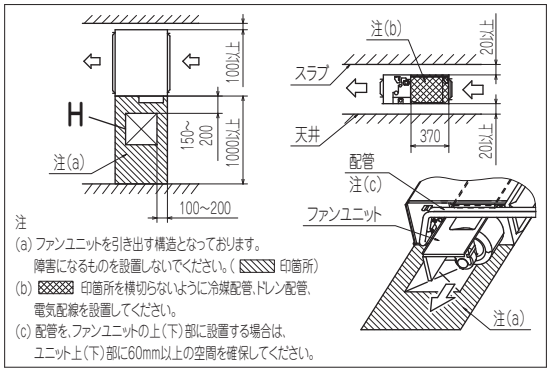
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C_2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450



室内ユニット据付スペース

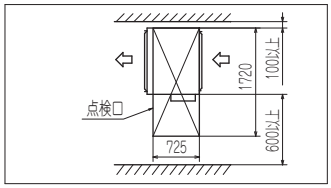
吸込･吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

（ケース1）ユニット側面から



注
(a) ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。（ 印箇所）
(b) 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設置してください。
(c) 配管を、ファンユニットの上（下）部に設置する場合は、ユニット上（下）部に60mm以上の空間を確保してください。

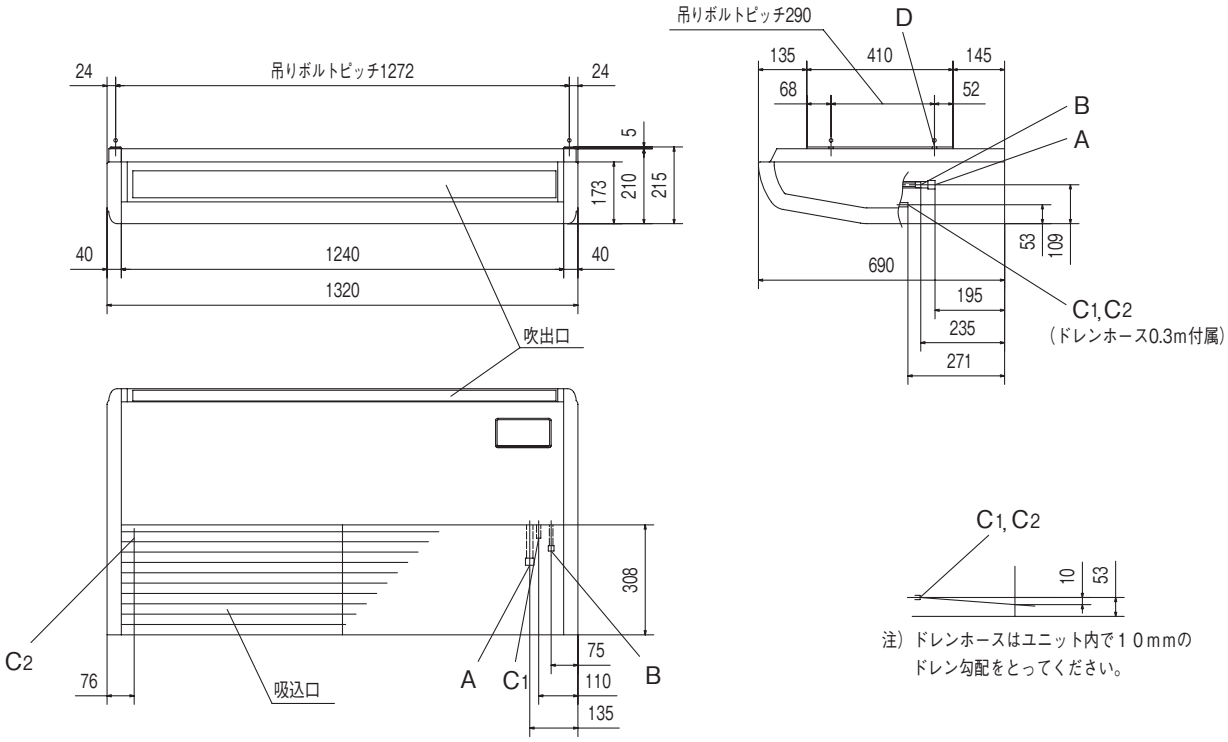
（ケース2）ユニット下面から

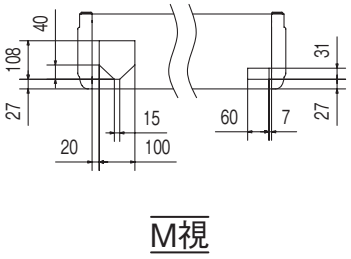


注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z646

(e) 天吊形（FDE）
FDEKP565S



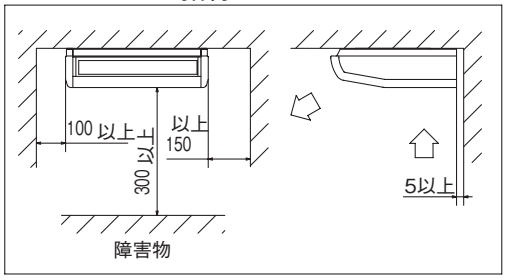


●記号説明

記号	内　　容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C 1,2	ドレン配管接続口	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	吊りボルト用穴	M10
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト

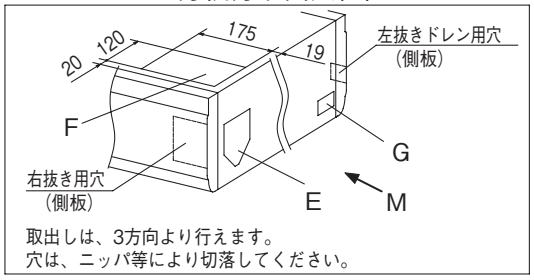
注（1） 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

据付スペース



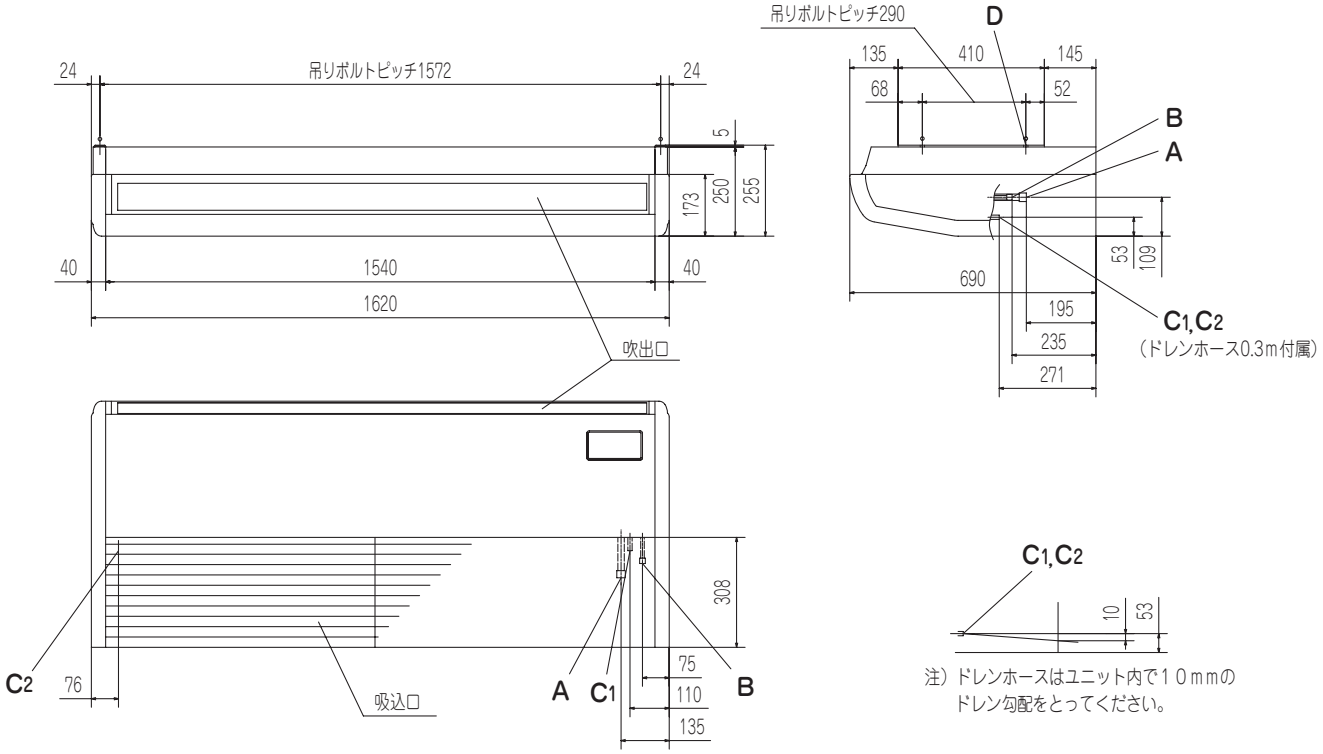
隣接設置の場合は、ユニット間を4500以上離してください。

上方後方取出穴位置



PFA004Z112

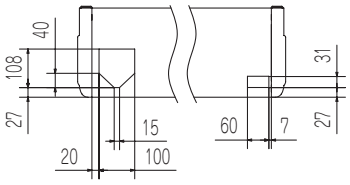
FDEKP1125S，1605S



注）ドレンホースはユニット内で１０mmの
ドレン勾配をとってください。

●記号説明

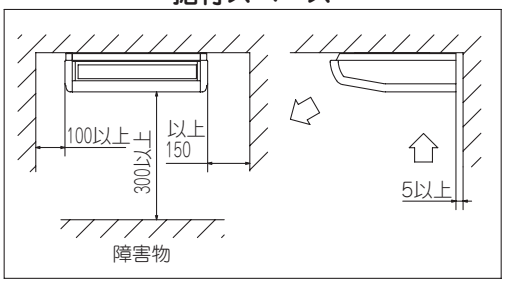
記号	内　　容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C 1,2	ドレン配管接続口	ＶＰ20(I.D.20,O.D.26)
D	吊りボルト用穴	M10
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト



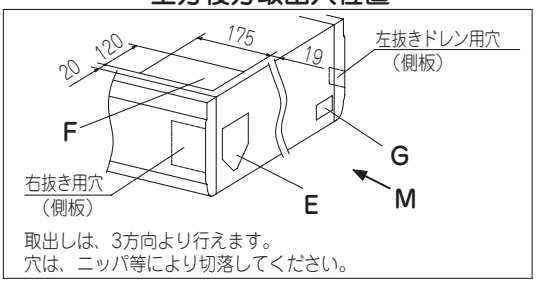
M視

注（１） 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

据付スペース



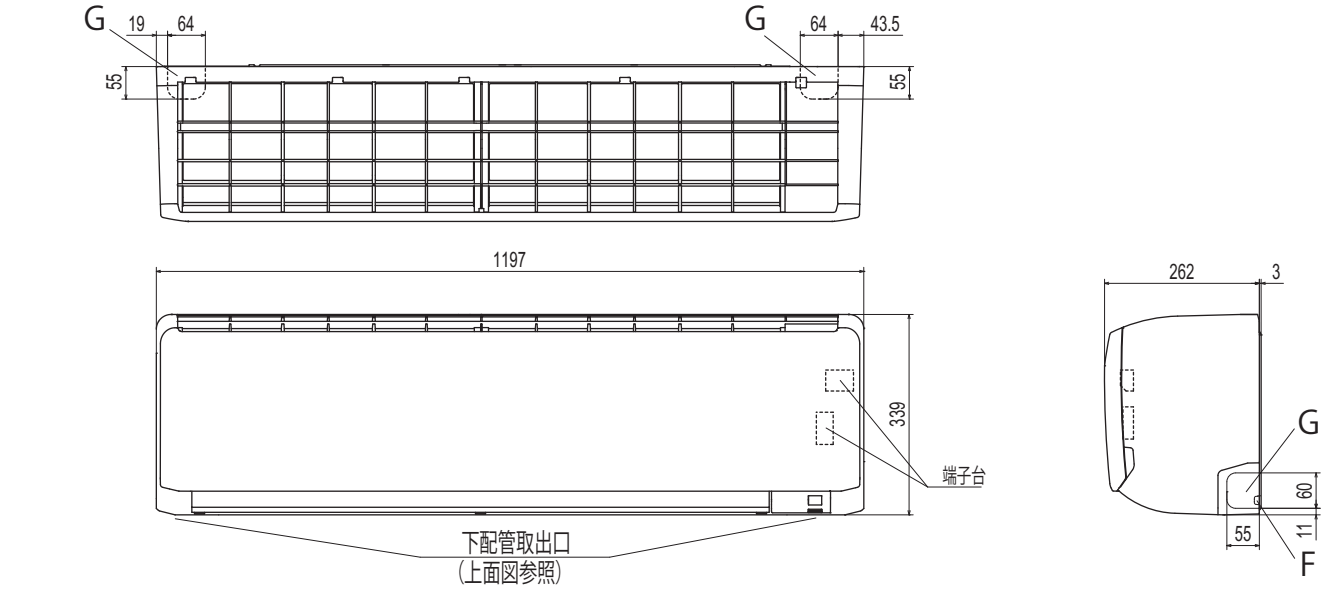
上方後方取出穴位置

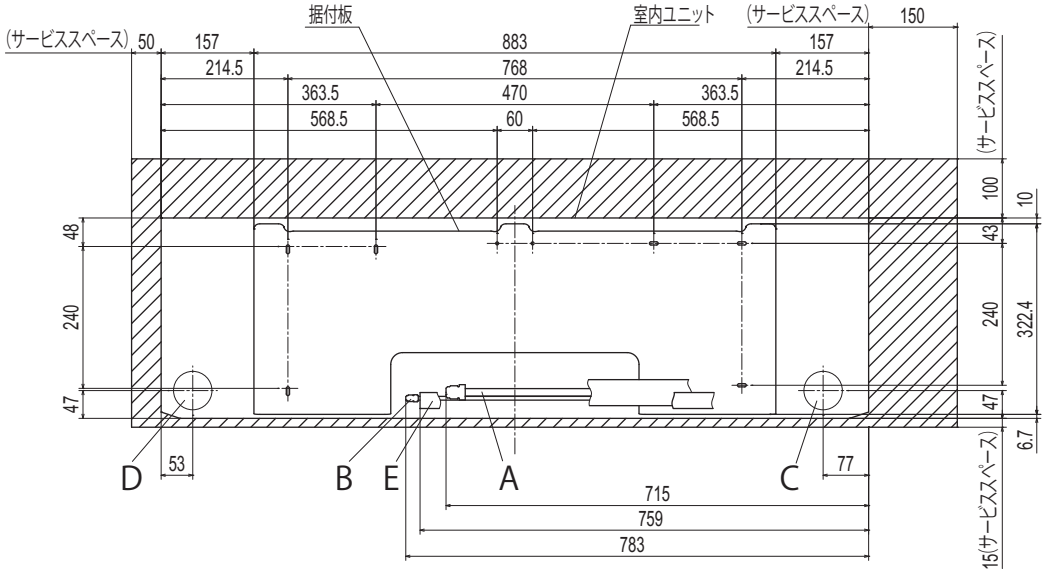


隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

PFA004Z113

(f) 壁掛形（FDK）
FDKKP565S，805S





正面から見た据付位置図および据付スペース

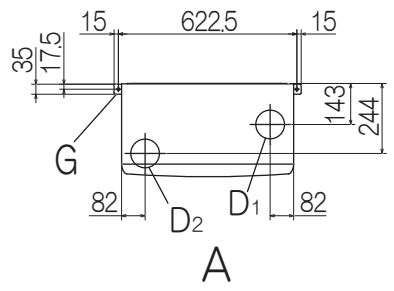
● 記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(5／8") (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(3／8") (フレア)
C	配管右後方抜壁穴	(φ65)
D	配管左後方抜壁穴	(φ65)
E	ドレンホース	VP16
F	電源コード取出口(左右)	
G	配管取出口(左右)	

注(1)装置銘板は下部パネルに付いています。

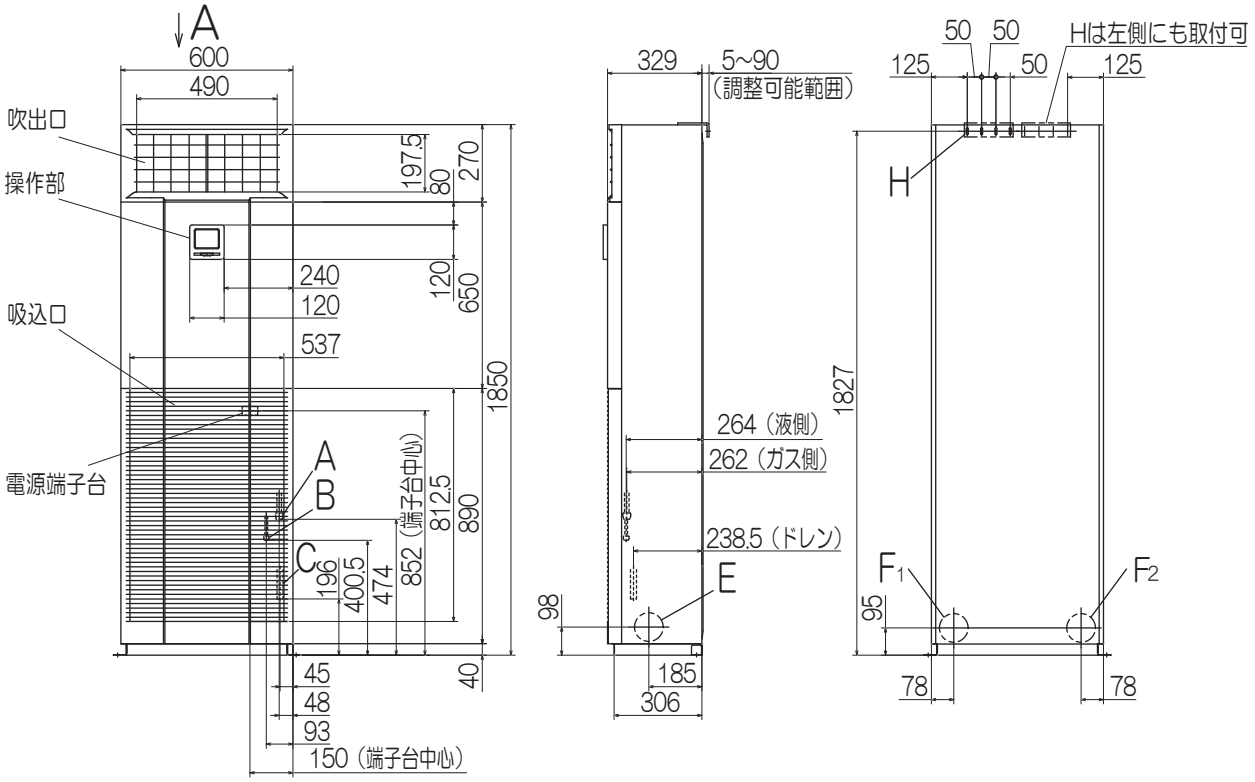
PHA001Z154

(g) 床置形（FDF）
FDFKP565S, 1125S, 1605S



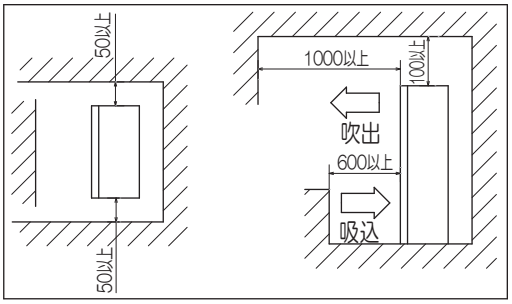
●記号一覧

記号	内	容
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP20
D1,2	下抜き用穴	φ100（樹脂キャップ有）
E	横抜き穴兼新鮮空気取入口（左右共）	φ100ノックアウト
F1,2	後抜き用穴	φ100ノックアウト
G	床面固定用金具	M8用 2か所
H	転倒防止金具	4-7×25（長穴）



注（1）装置銘板は吸込口グリルを開けて、左側の側板下部に貼付してあります。

据付スペース



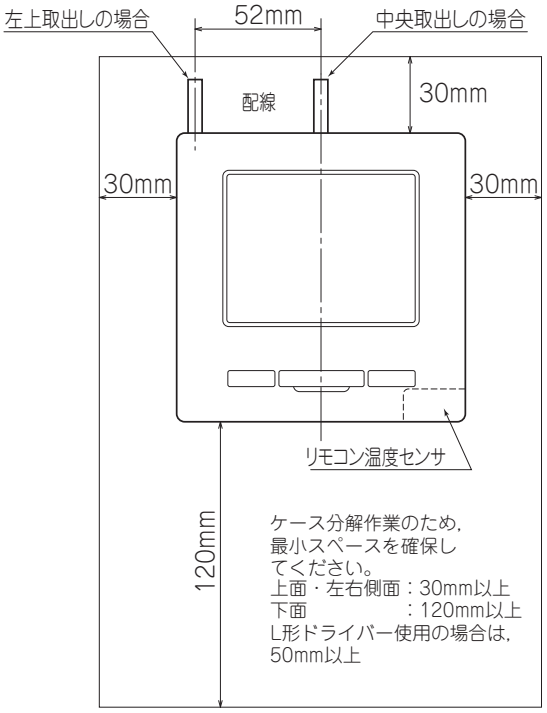
PGA000Z836

(2) リモートコントローラ

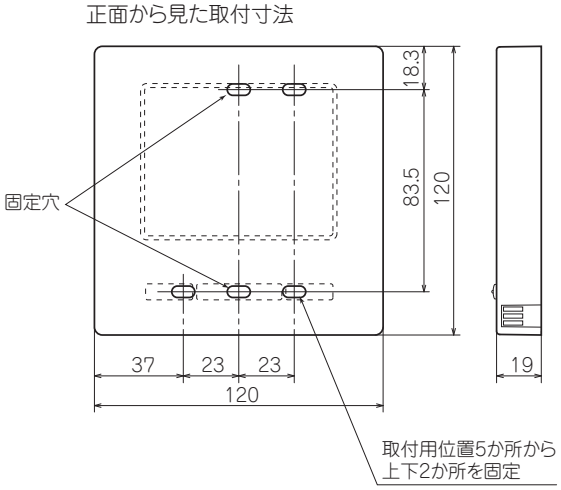
(a) ワイヤードリモコン(別売品)(FDF のみ標準付属)

(i) RC-DX3B

設置スペース



リモコン取付寸法



リモコンコードを延長する場合の注意 最大総延長600m

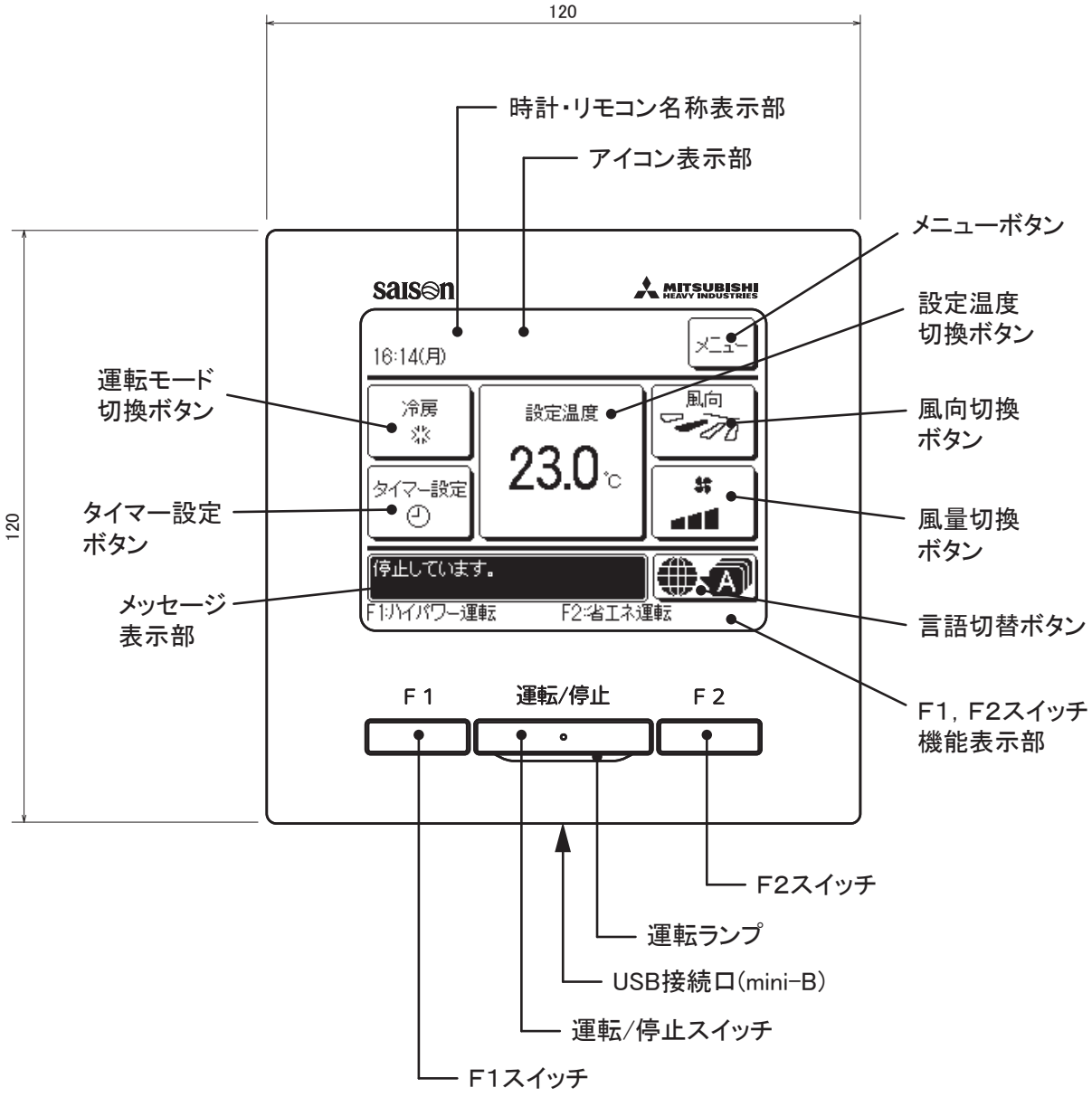
●リモコンコードは0.3mm²×2心です。

延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm²×2心
～300m以内…0.75mm²×2心
～400m以内…1.25mm²×2心
～600m以内…2.00mm²×2心

PJZ000Z332

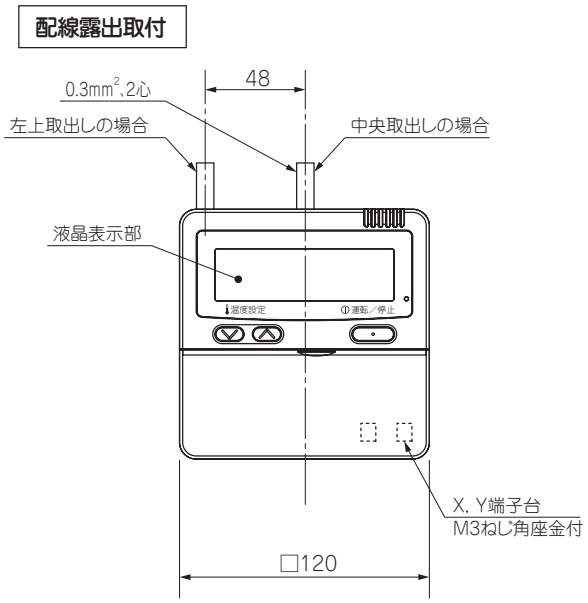
●操作部（フルドット表示，タッチパネル操作）

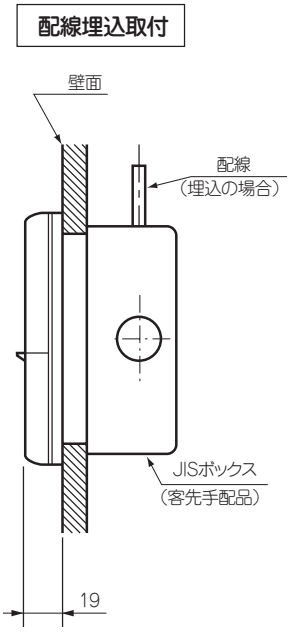


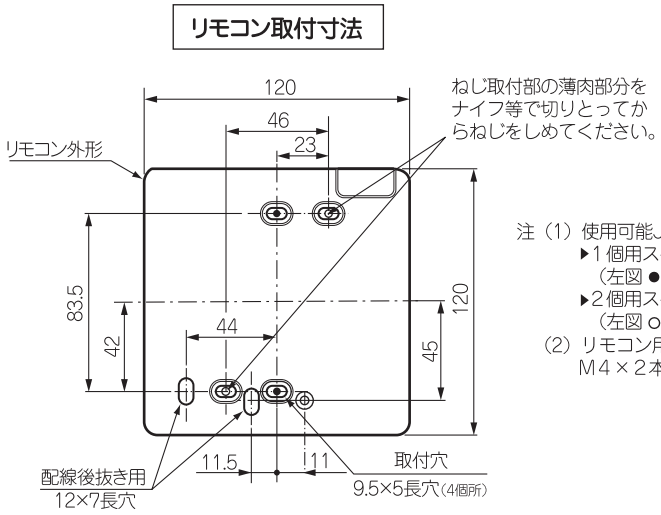
＊図中、液晶表示部は説明のため全部同時に表示してありますが実際には該当部分にのみ表示されます。

PJZ000Z332

(ii) RC-D4G







注（1）使用可能JISボックス JIS C 8340
▸1個用スイッチボックス
（左図 ● 印穴使用）
▸2個用スイッチボックス
（左図 o 印穴使用）
（2）リモコン用取付ねじ
M4×2本

リモコンコードを延長する場合の注意

最大総延長600m

●リモコンコードは0.3mm²×2心です。

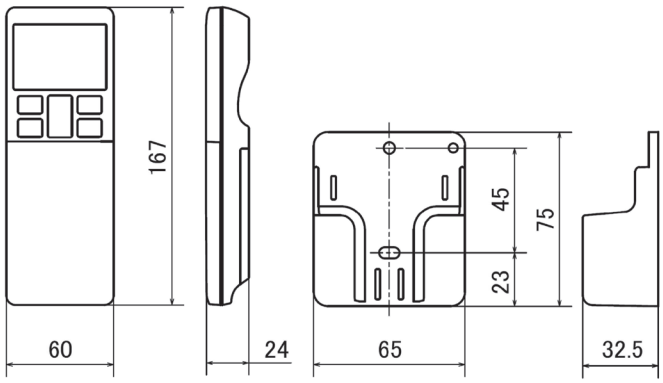
延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm²×2心
～300m以内…0.75mm²×2心
～400m以内…1.25mm²×2心
～600m以内…2.00mm²×2心

PJZ000Z290

(b) ワイヤレスリモコン（別売品）：RCN-D5, D5K

(i) リモコン

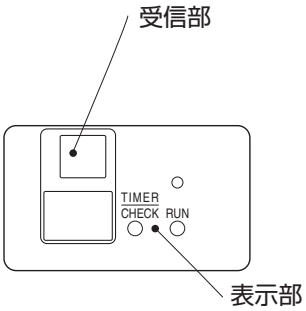


リモコン　　リモコン用ホルダー

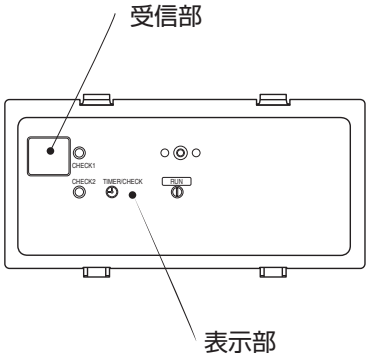
PJZ000Z324 A

(ii) 本体受信・表示部

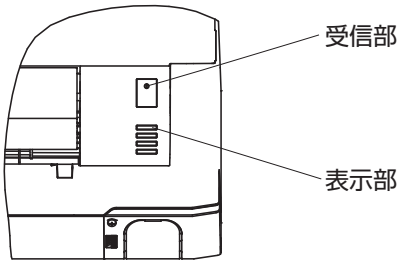
■天吊形（FDE）
■天井埋込形（FDT）



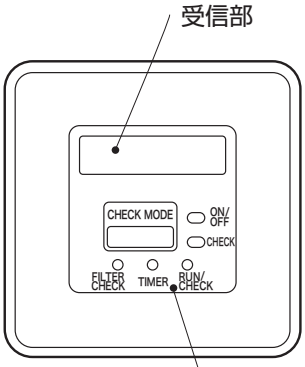
■天井埋込形（FDTW）



■壁掛形（FDK）

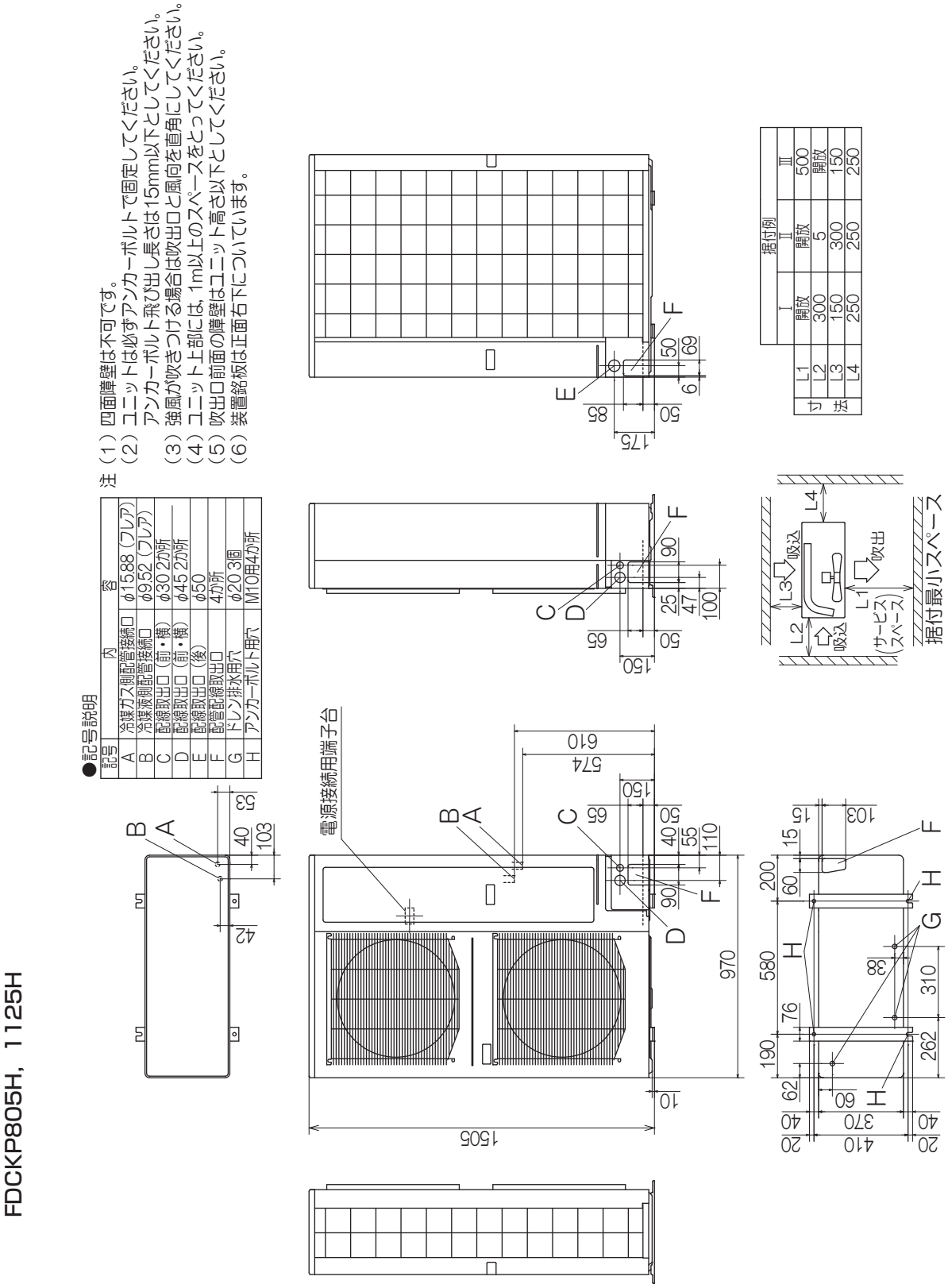


■天埋カセテリア（FDR）
■高静圧ダクト形（FDU）
■床置形（FDF）



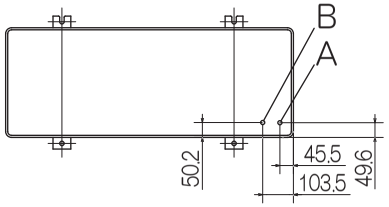
（壁設置タイプ）

(3) 室外ユニット



PCA001Z860

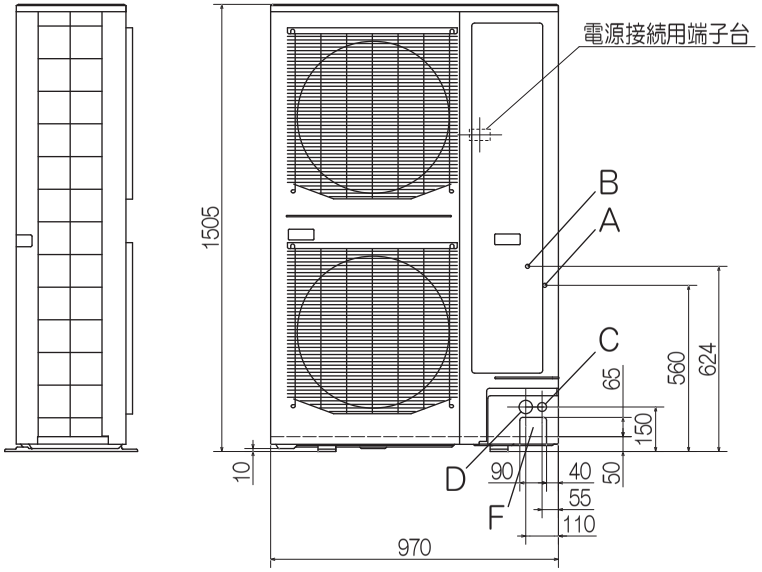
FDCKP1405H，1605H

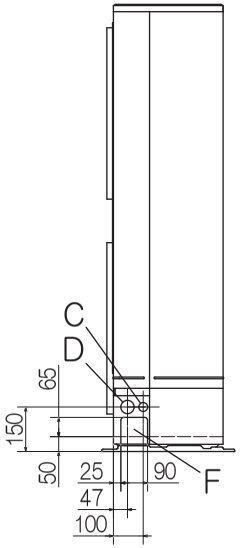


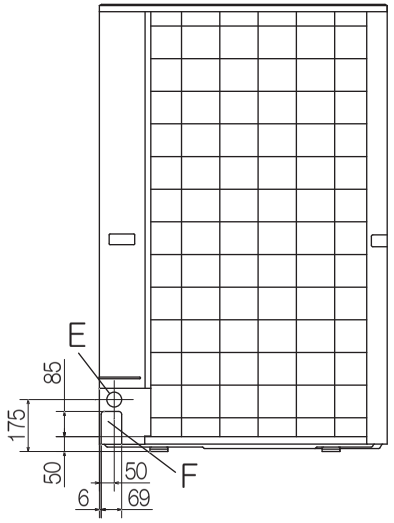
●記号説明

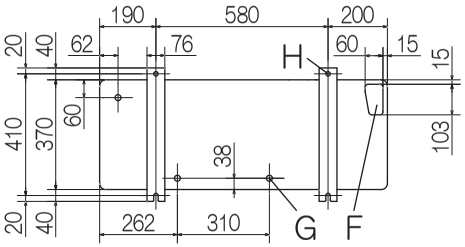
記号	内　容	
A	冷媒ガス側付属配管接続口	φ19.05（フレア）
B	冷媒液側配管接続口	φ9.52（フレア）
C	配線取出口（前・横）	φ30 2か所
D	配線取出口（前・横）	φ45 2か所
E	配線取出口（後）	φ50
F	配管配線取出口	4か所
G	ドレン排水用穴	φ20 3か所
H	アンカーボルト用穴	M10用4か所

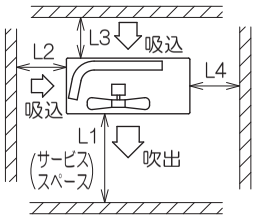
注（1）四面障壁は不可です。
（2）ユニットは必ずアンカーボルト で固定してください。
アンカーボルト飛び出し長さは15mm以下と してください。
（3）強風が吹きつける場合は吹出口と風向を直角にしてください。
（4）ユニット上部には,1m以上のスペースをとってください。
（5）吹出口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。
（6）装置銘板は正面右下についています。
（7）冷媒ガス配管は付属のφ15.88接続用配管を使用し
現地配管と接続してください。
（8）接続用付属配管を取付ける場合は，付属の配管据付説明書を
御参照ください。











据付最小スペース

		据付例		
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
寸法	L1	開放	開放	500
	L2	300	5	開放
	L3	150	300	150
	L4	250	250	250

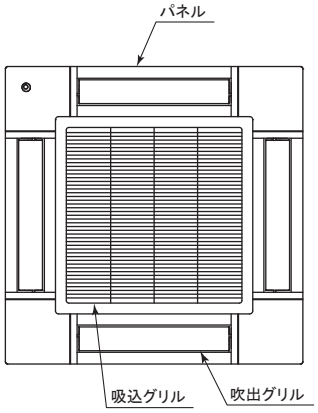
4. 塗 装 色

(1) 室内ユニット

(a) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

(i) パネル

（商品ご注文時パネル形式を指定してください。）



(ii) パネル形式（オートスイング付）

区　分	パネル形式	降下長	パネル色
標準パネル	T-PSA-5AW	—	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
	T-PSA-5ASB	—	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
	T-PSA-5AC	—	ウッドベージュ（マンセル6.8Y7.9/3.9近似）
エアフレックスパネル	T-PSAE-5AW	—	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
	T-PSAE-5ASB	—	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
ラクリーナパネル	T-PSCL-5AW	～ 4.0m	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
	T-PSCL-5ASB	～ 4.0m	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-5AW	～ 4.0m	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）

(iii) ワイヤレスキット，ワイヤレス受信部（標準・エアフレックス・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネル共通）

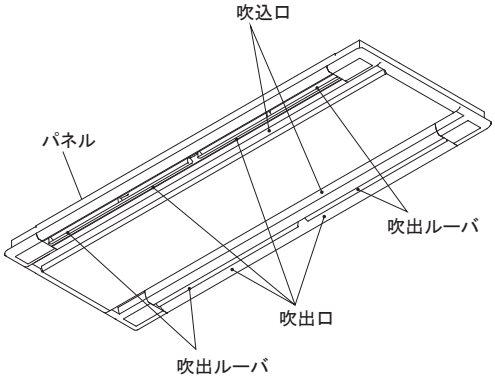
形　式	塗 装 色
RCNLA-T-5W LA-T-5W	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
LA-T-5SB	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）

注(1) ワイヤレスキットおよびワイヤレス受信部の取付方法は，423ページをご覧ください。
(2) お掃除ラクリーナパネルに取付ける場合は，別売のハーネスセット（RCN-T-HA6G）が必要です。
(3) ワイヤレスキット（RCNLA-T-5W）はお掃除ラクリーナパネルのみ取付可能です。

(b) 天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

(i) パネル

（商品ご注文時パネル形式を指定してください。）

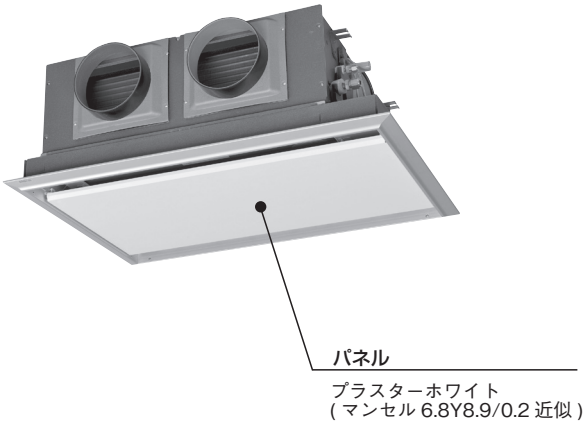


(ii) パネル形式（オートスイング付）

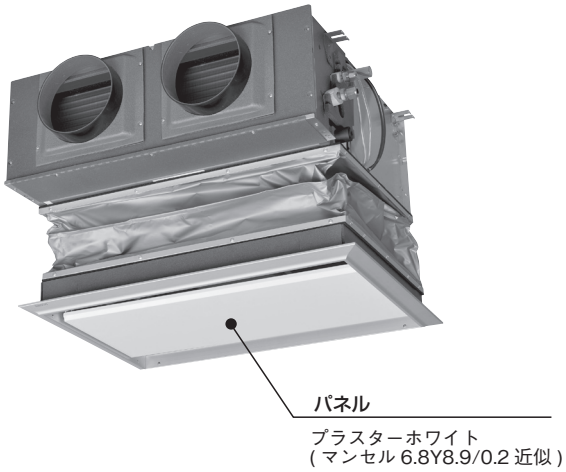
区　分	パネル形式	パネル色	形　式
標準パネル	TW-PSA-27W	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）	FDTWKP565S
	TW-PSA-47W		FDTWKP805S FDTWKP1605S
ラクリーナパネル	TW-PSL-27W	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）	FDTWKP565S
	TW-PSL-47W		FDTWKP805S FDTWKP1605S

(c) 天埋カセテリア（FDR）

(i) サイレントパネル仕様



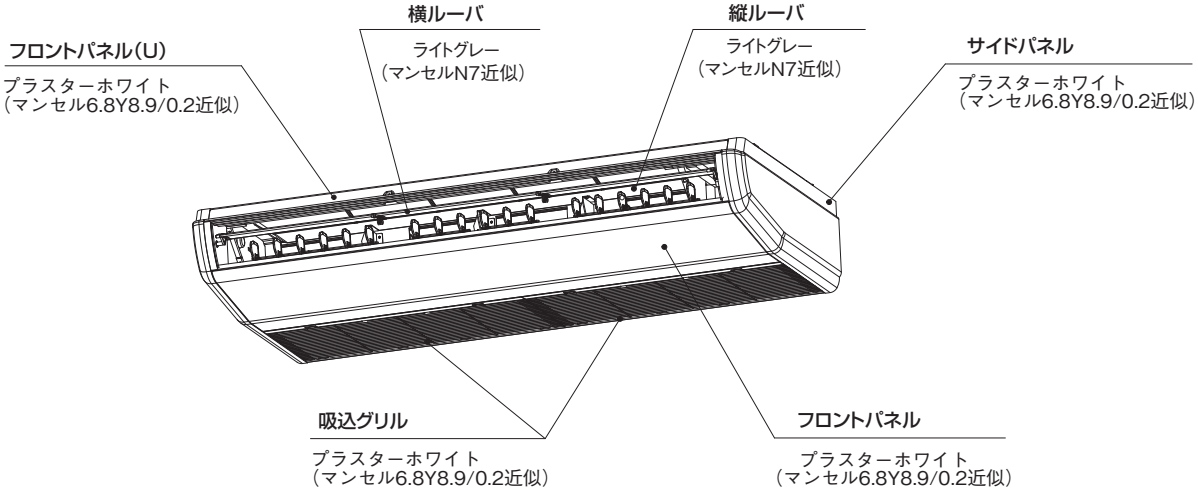
(ii) キャンバスパネル仕様



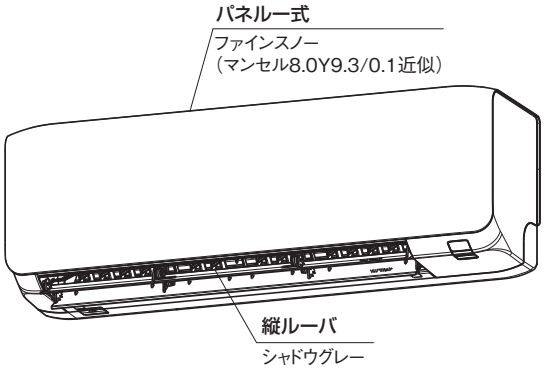
(iii) 天井リターン仕様……クロメートフリー鋼板

(d) 高静圧ダクト形（FDU）……クロメートフリー鋼板

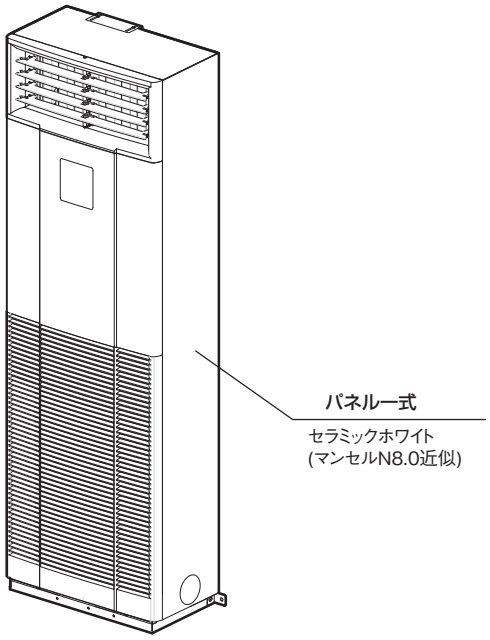
(e) 天吊形（FDE）



(f) 壁掛形（FDK）

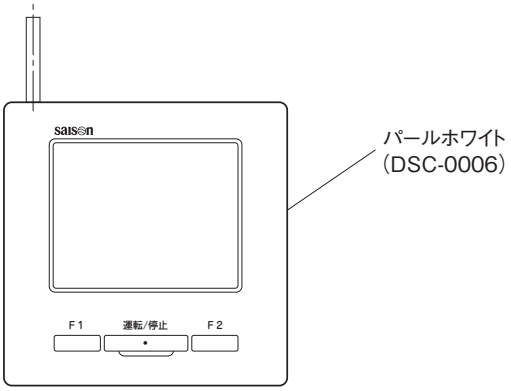


(g) 床置形（FDF）

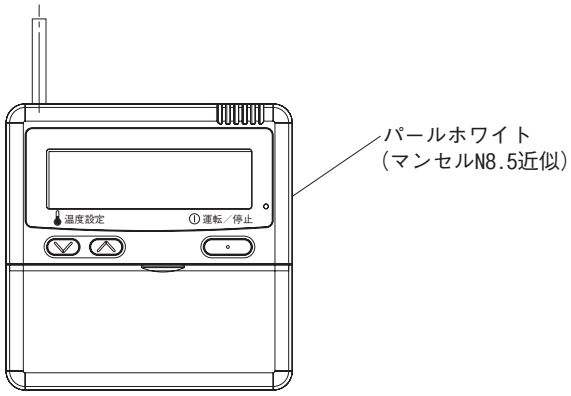


(2) リモートコントローラ

(a) RC − DX3B

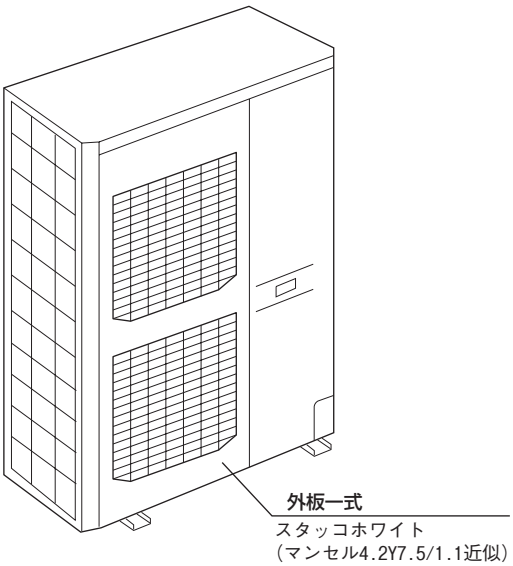


(b) RC − D4G



(3) 室外ユニット

FDCKP805H, 1125H
FDCKP1405H, 1605H



5. 能力特性

仕様の能力値はJIS B 8616条件による値です。実際の能力は下式により求めてください。
（なお，暖房能力は，補助ヒータを含まないヒートポンプのみの値です。）

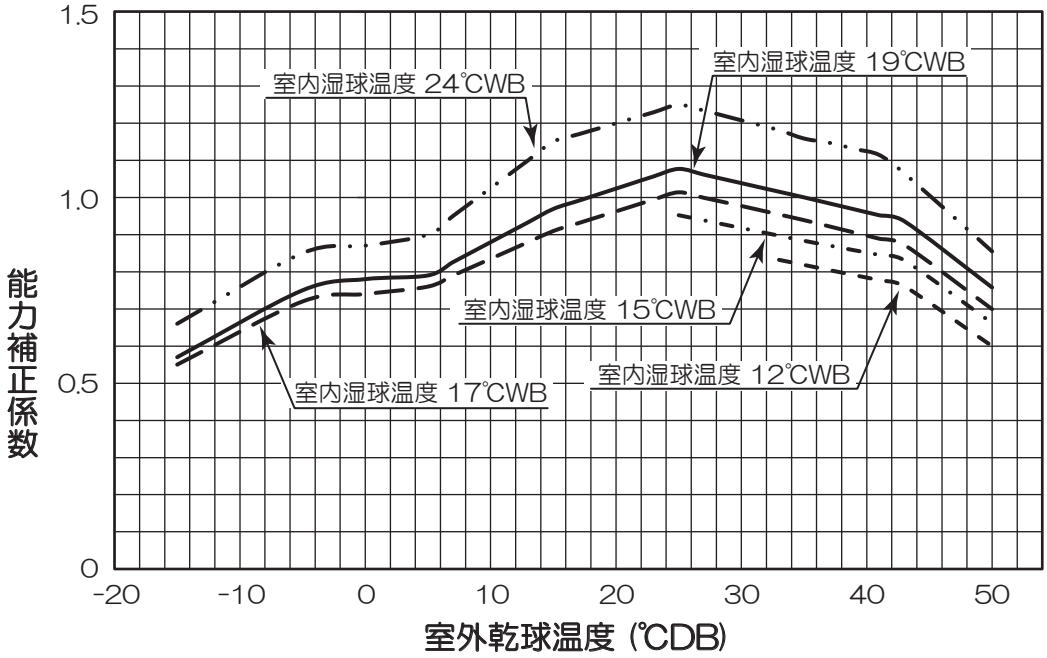
実際のユニット能力	＝	定格能力	×	温度条件による補正係数	×	配管相当長による補正係数	×	室内･外高低差による補正係数	×	風量変更時の補正係数

ご注意：外気温度が−5℃以下で冷房運転する場合は，できるだけ室外ユニットは自然風の影響を受けない設置状態としてください。風が当たると，低圧圧力の低下により圧縮機の停止頻度が多くなり，能力が更に低下しユニットの故障原因となります。

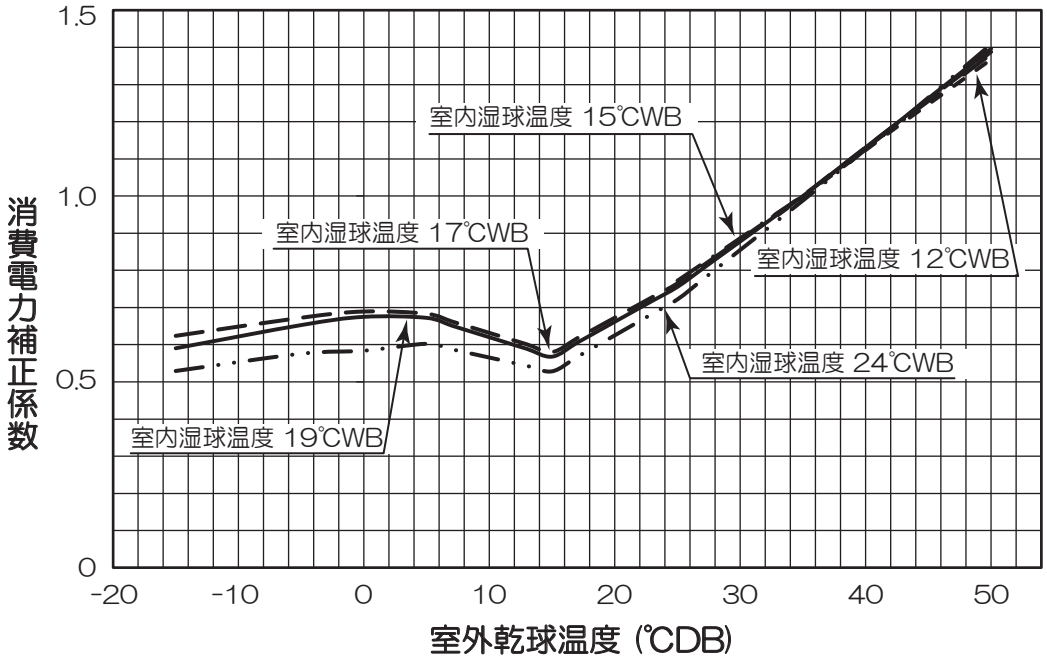
(1) KP805H

(a) 冷房

（i） 室内・外温度条件による能力補正



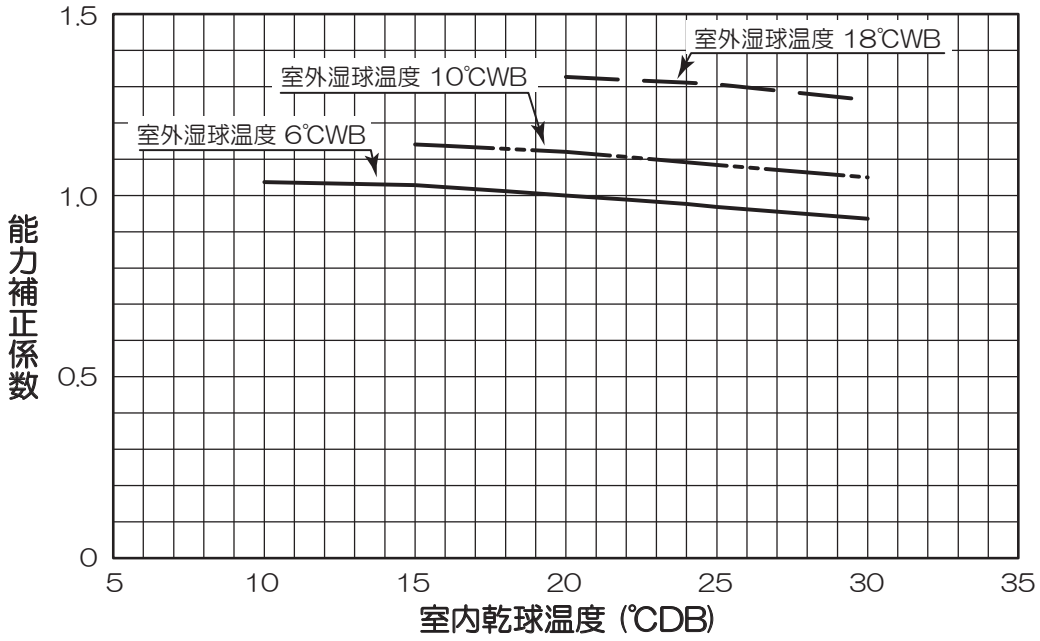
（ii） 室内・外温度条件による消費電力補正



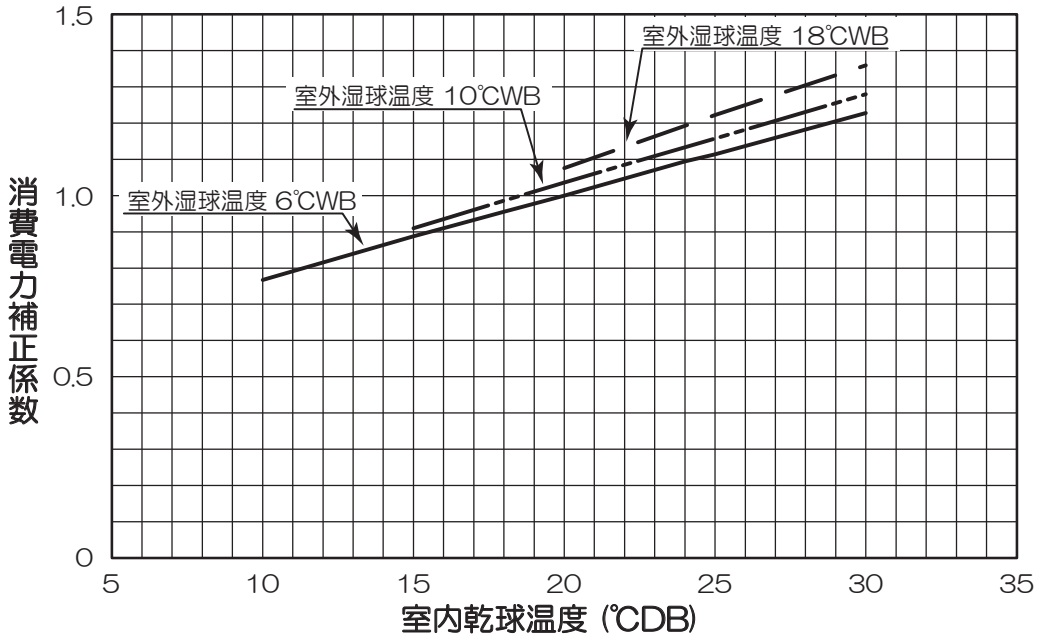
(b) 暖房

（ｉ） 定格暖房標準条件の定格暖房能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正

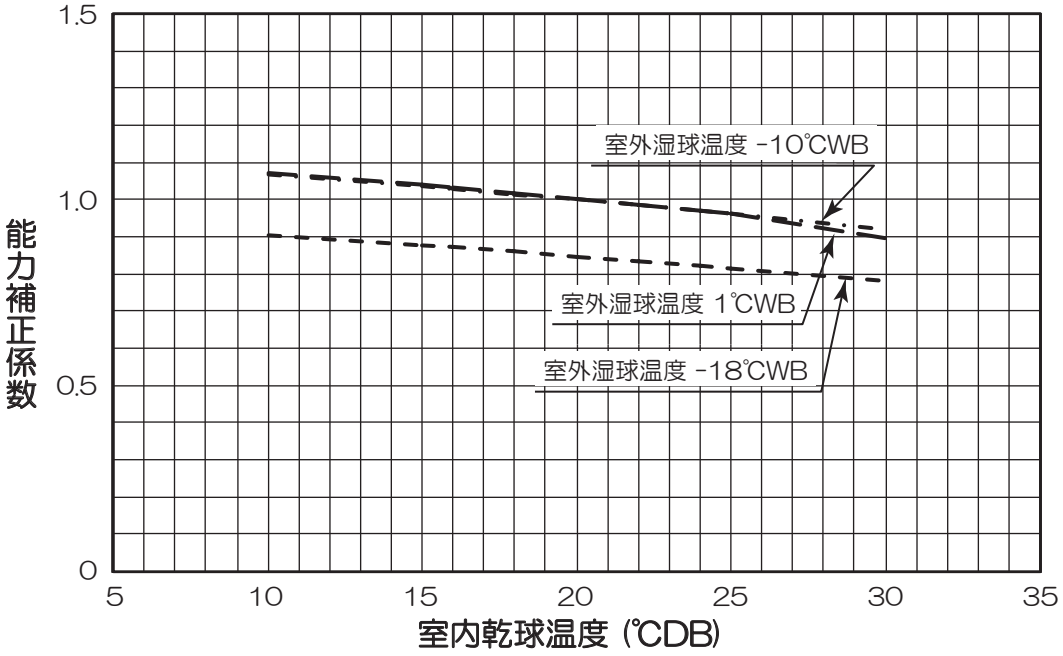


2） 室内・外温度条件による消費電力補正

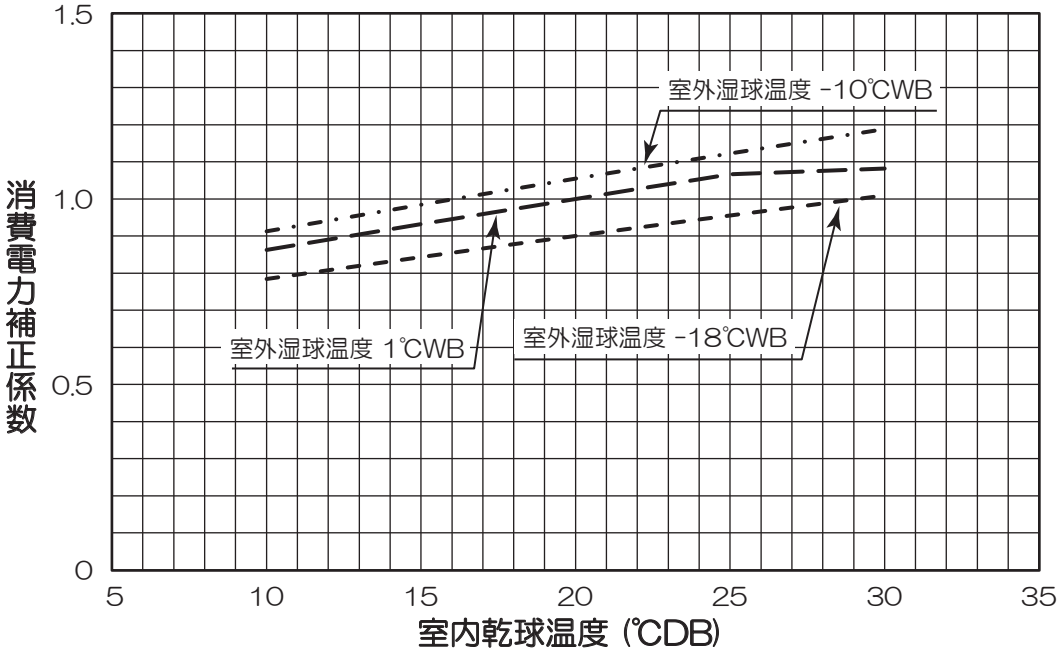


（ⅱ） 最大暖房低温条件の最大暖房低温能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正



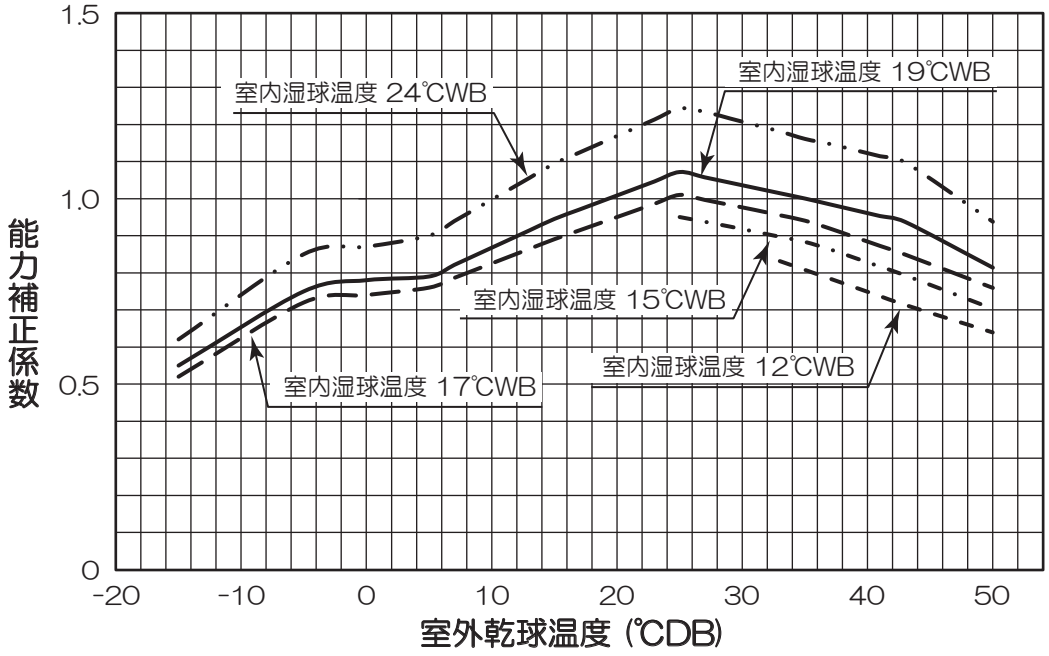
2） 室内・外温度条件による消費電力補正



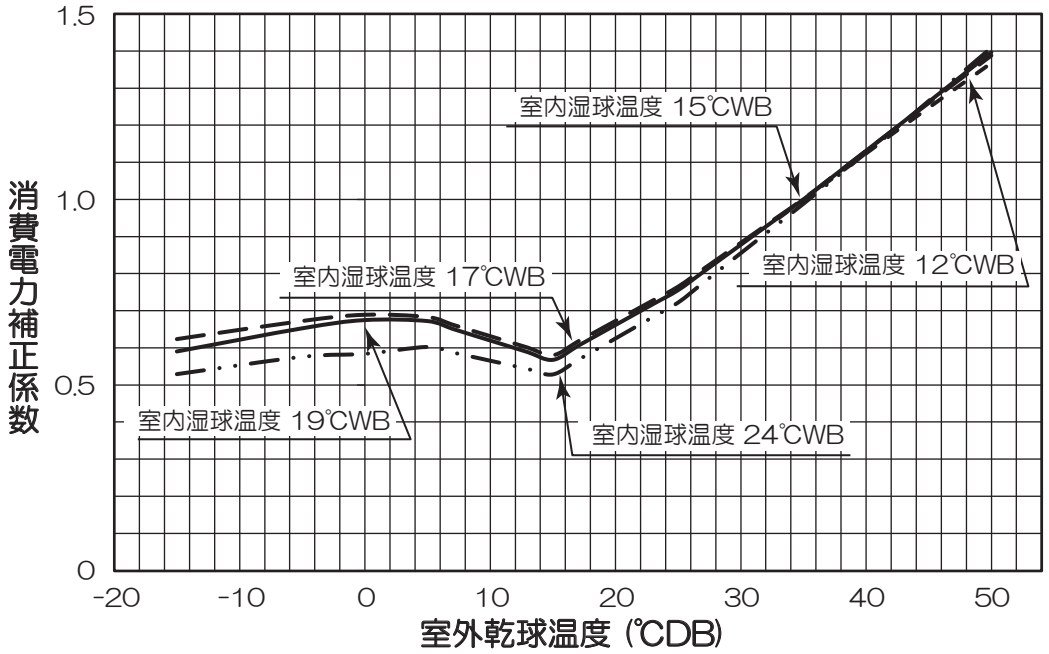
⑵ KP1125H

⒜ 冷房

（ｉ） 室内・外温度条件による能力補正



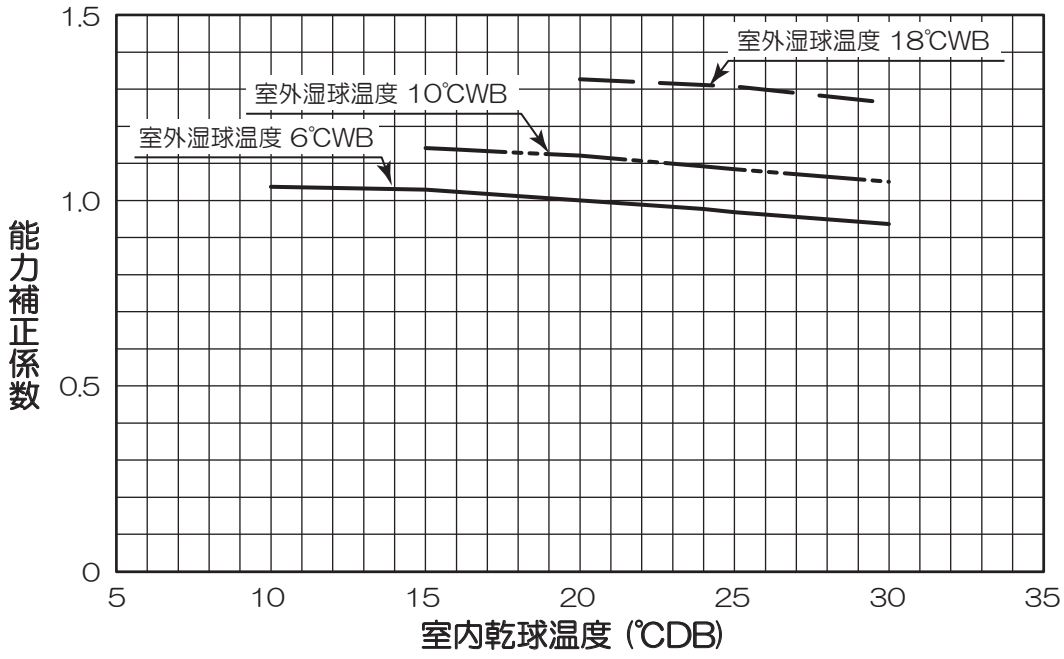
（ii） 室内・外温度条件による消費電力補正



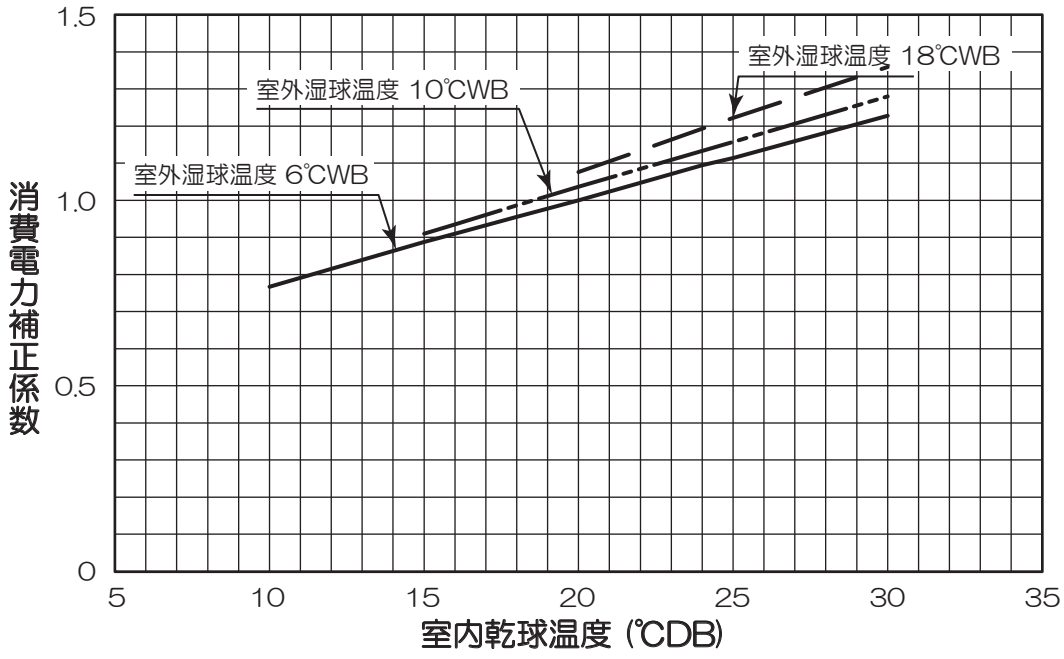
(b) 暖房

（ｉ） 定格暖房標準条件の定格暖房能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正

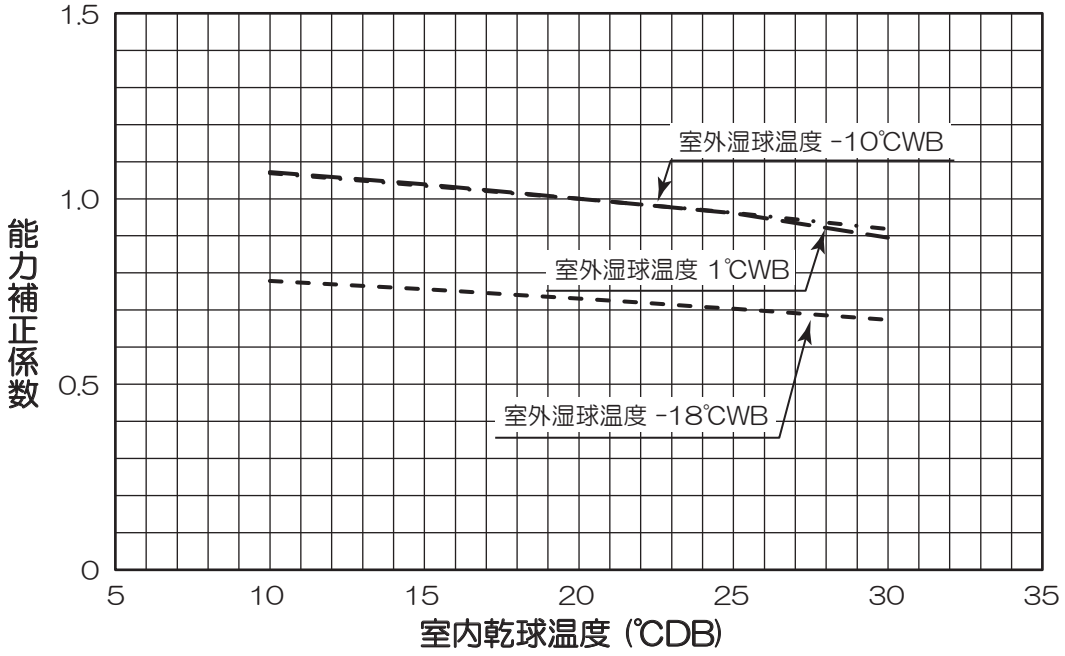


2） 室内・外温度条件による消費電力補正

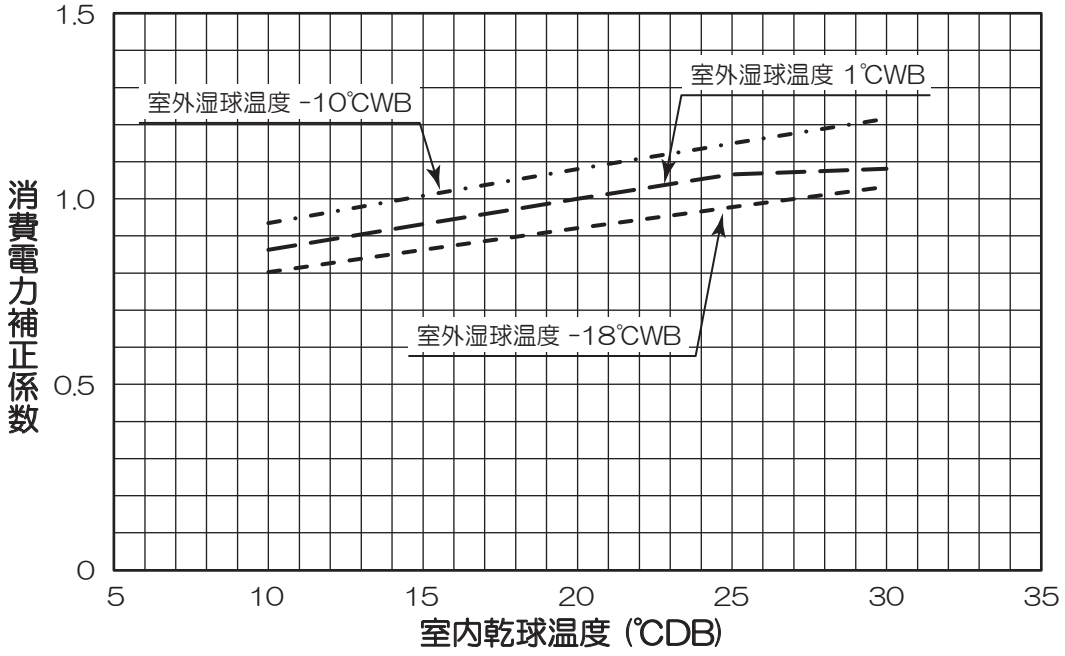


（ⅱ） 最大暖房低温条件の最大暖房低温能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正



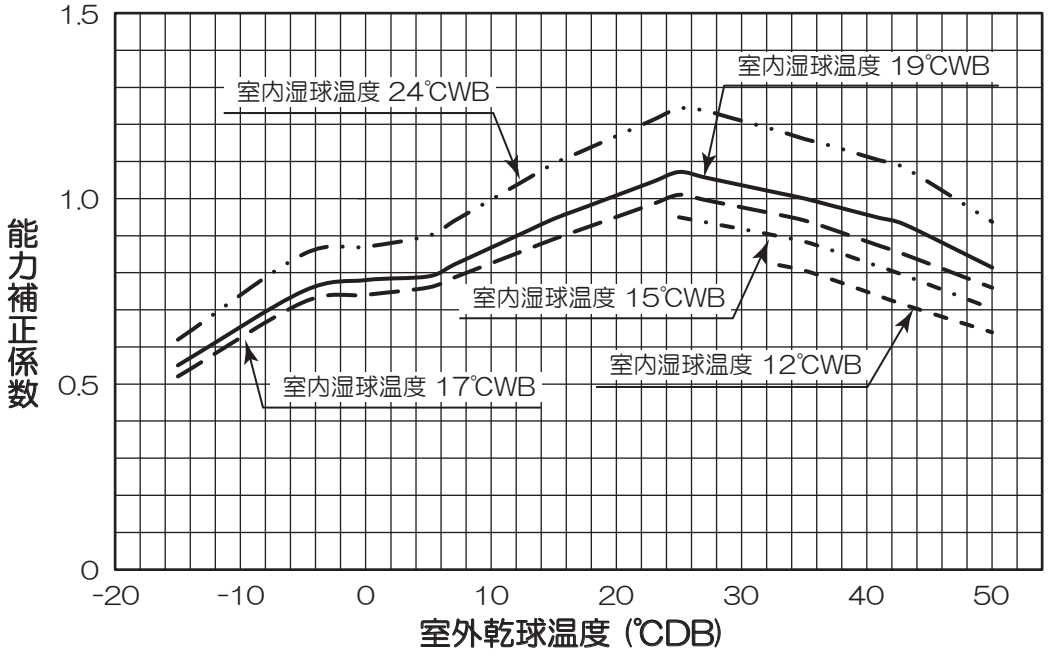
2） 室内・外温度条件による消費電力補正



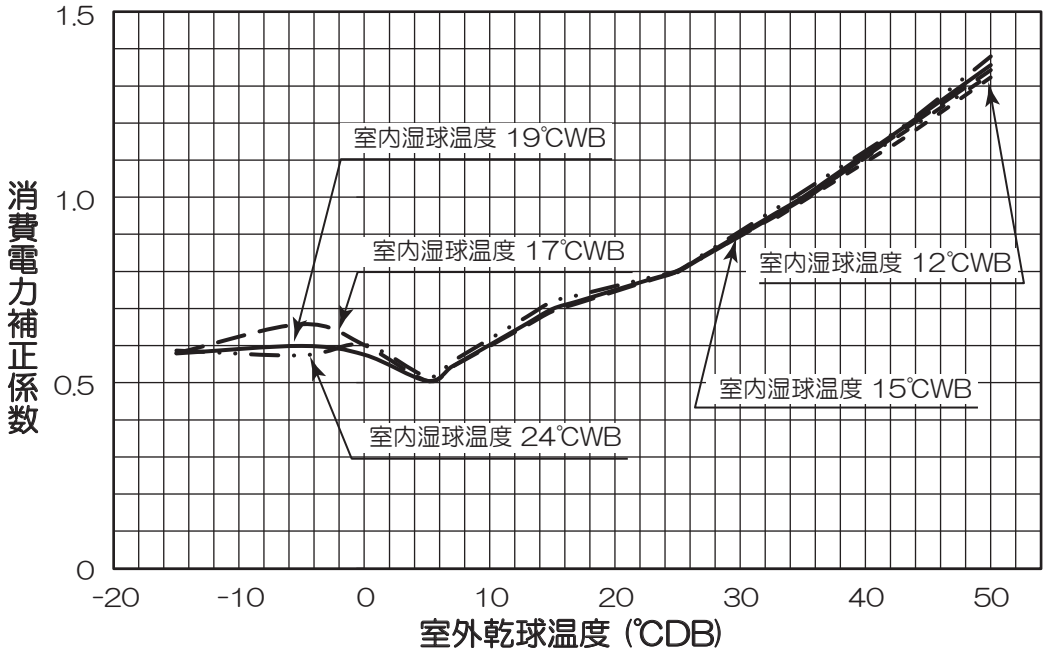
(3) KP1405H

(a) 冷房

（ｉ） 室内・外温度条件による能力補正



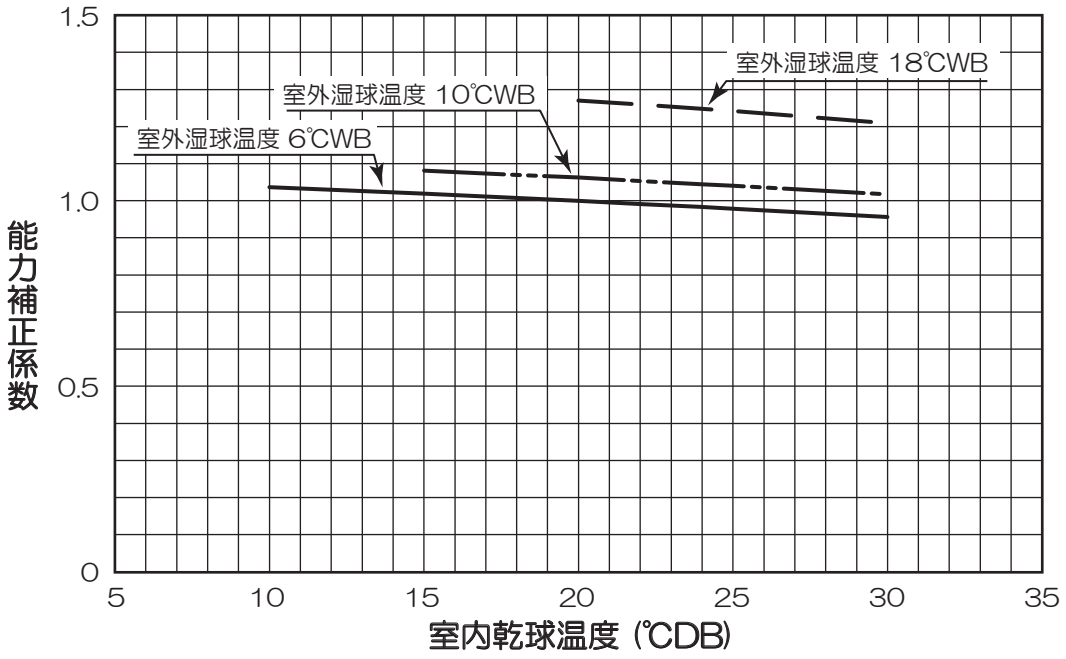
（ii） 室内・外温度条件による消費電力補正



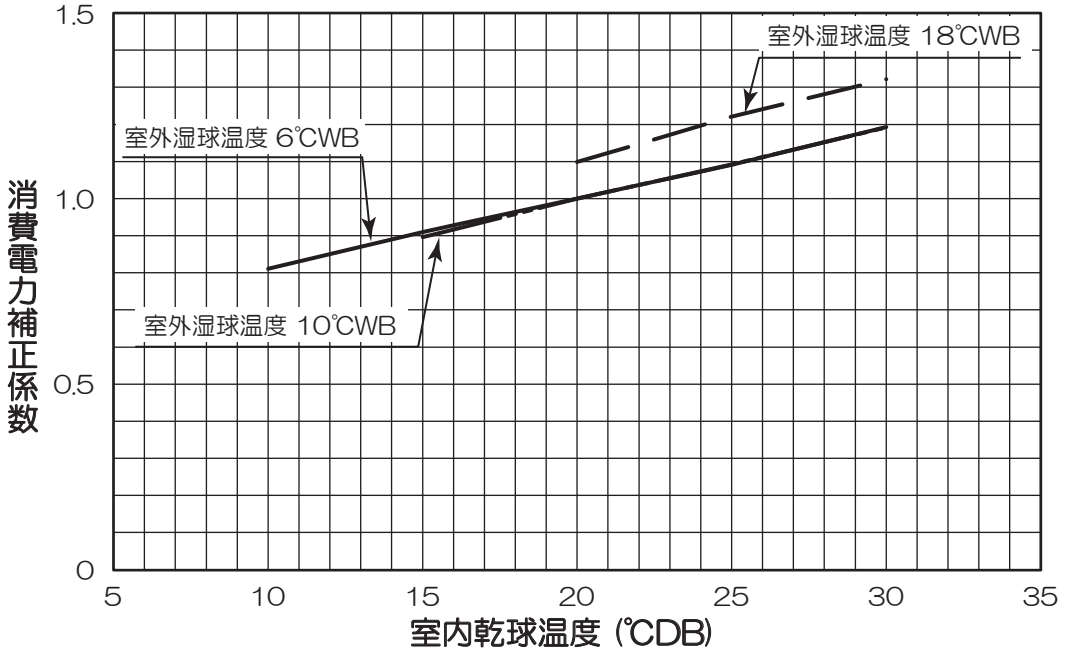
(b) 暖房

（ｉ） 定格暖房標準条件の定格暖房能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正

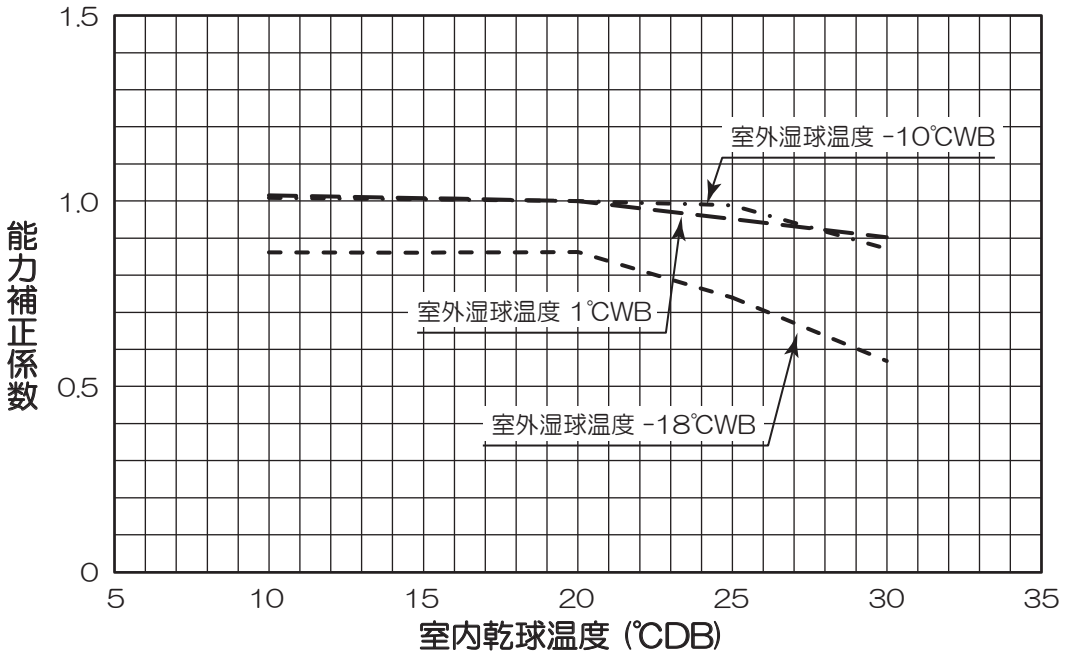


2） 室内・外温度条件による消費電力補正

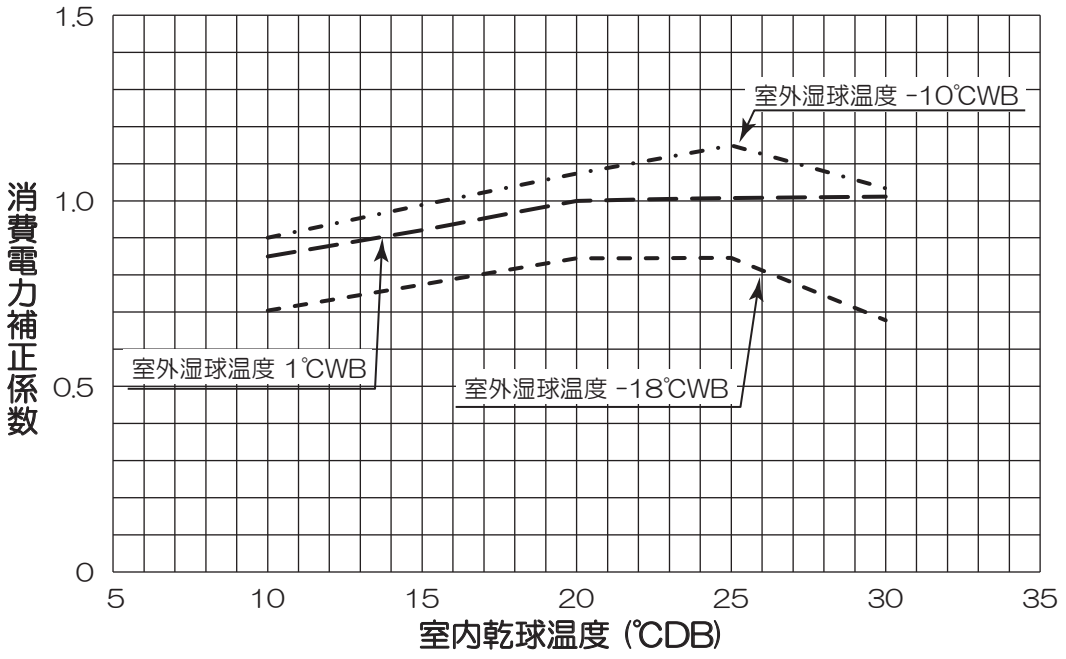


（ⅱ） 最大暖房低温条件の最大暖房低温能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正



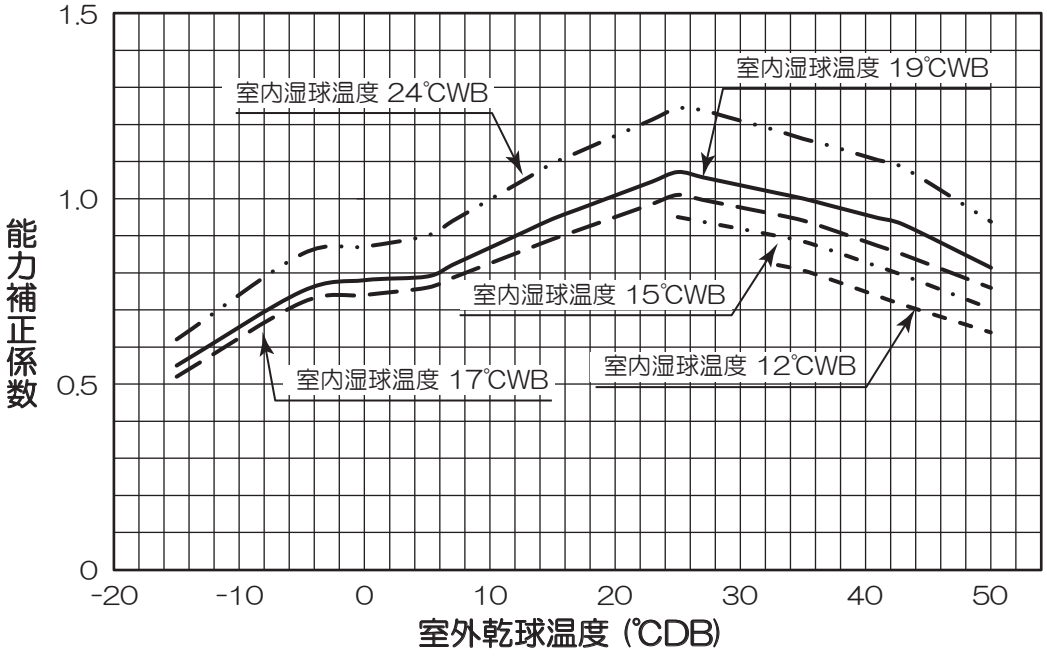
2） 室内・外温度条件による消費電力補正



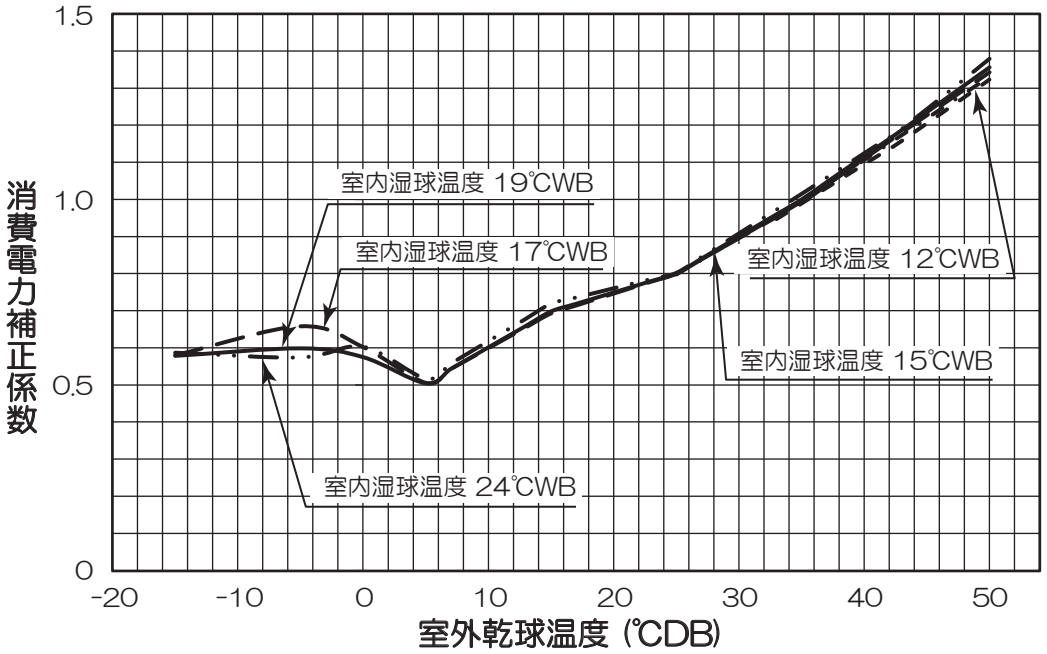
(4) KP1605H

(a) 冷房

（i） 室内・外温度条件による能力補正



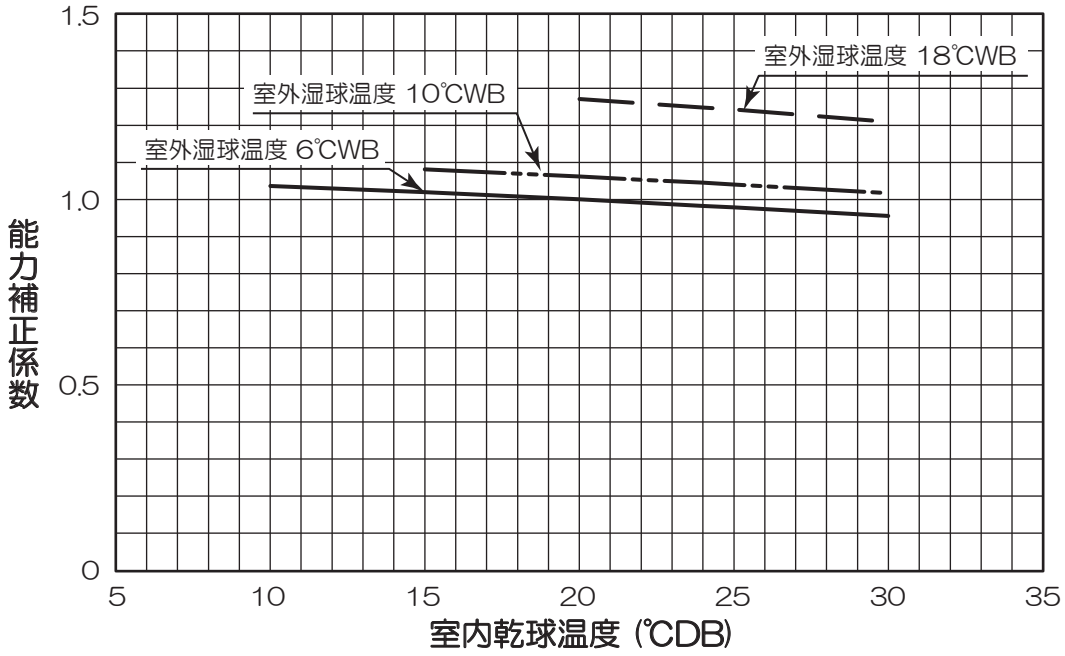
（ii） 室内・外温度条件による消費電力補正



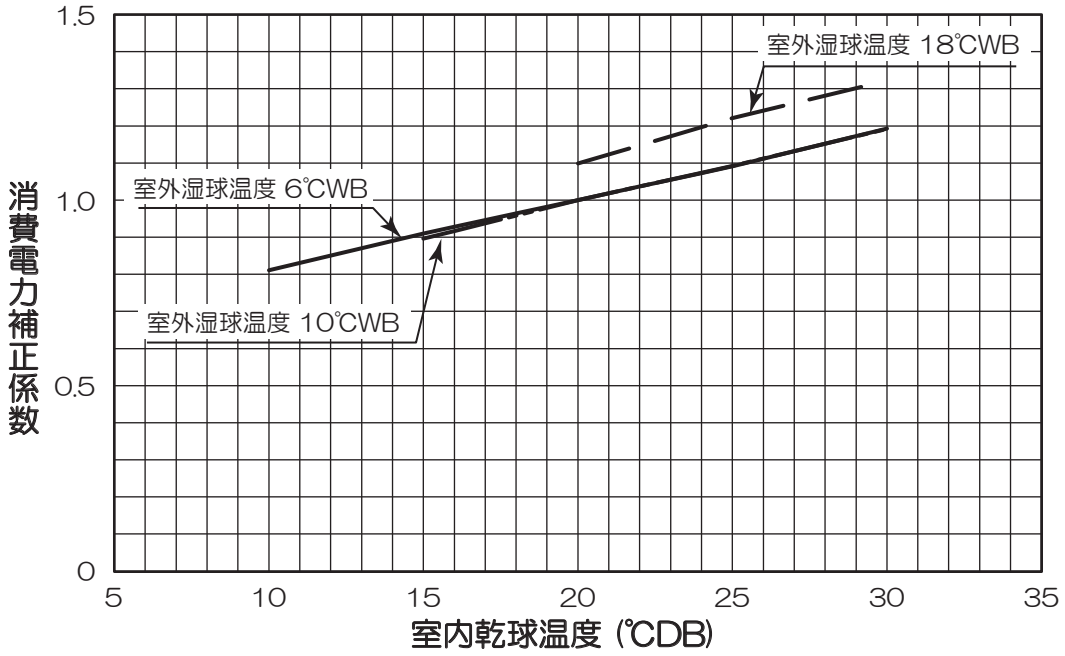
(b) 暖房

（ｉ） 定格暖房標準条件の定格暖房能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正

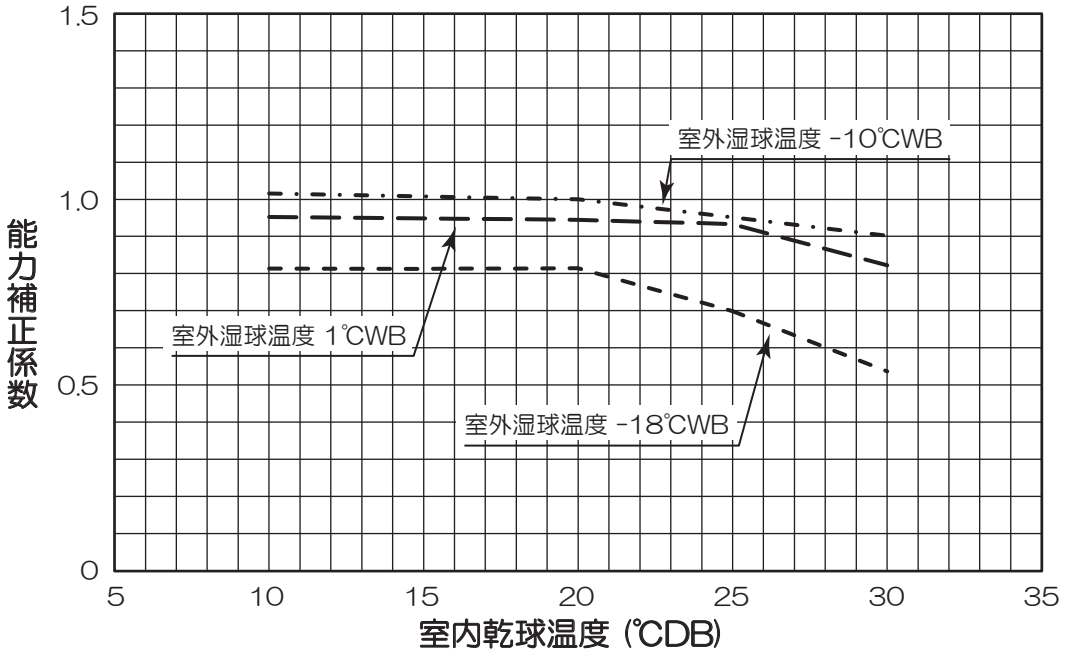


2） 室内・外温度条件による消費電力補正

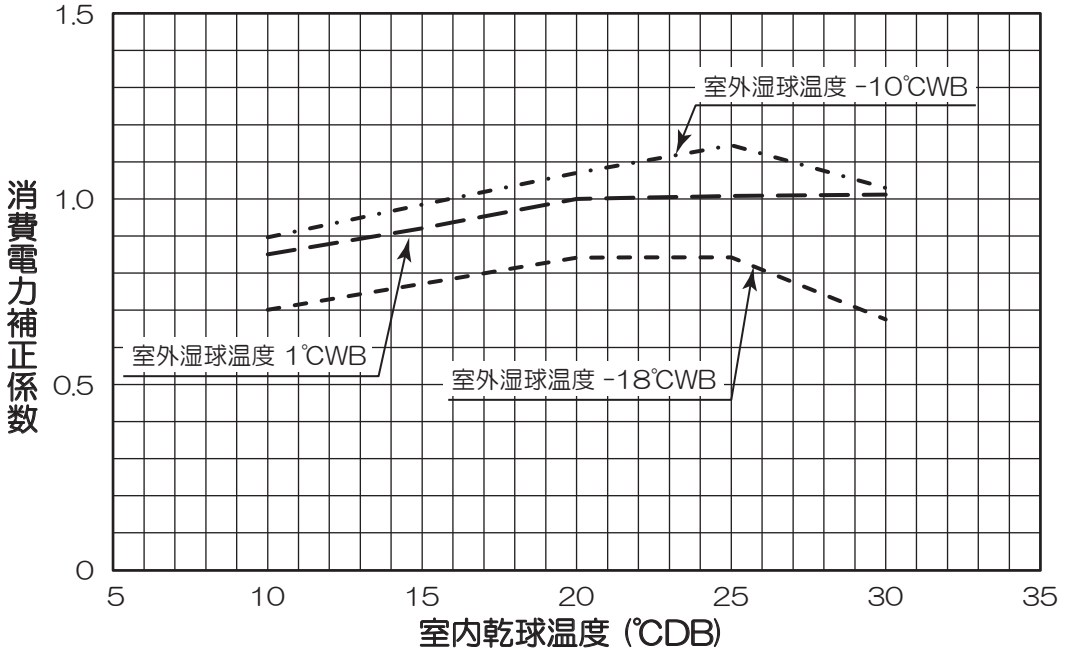


（ⅱ） 最大暖房低温条件の最大暖房低温能力を基準

1） 室内・外温度条件による能力補正



2） 室内・外温度条件による消費電力補正



参考　能力特性表

形式 FDTK805H5S（室内ユニット：FDTKP805S, 室外ユニット：FDCKP805H）

冷房　(kW)

外気温度	室内吸込温度													
	21℃DB		23℃DB		26℃DB		27℃DB		28℃DB		31℃DB		33℃DB	
	14℃WB		16℃WB		18℃WB		19℃WB		20℃WB		22℃WB		24℃WB	
℃DB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC
11					6.20	6.08	6.37	6.24	6.59	6.46	7.02	6.88	7.46	7.12
13					6.44	6.31	6.63	6.49	6.86	6.73	7.34	7.19	7.81	7.23
15					6.67	6.54	6.88	6.74	7.14	6.90	7.65	7.40	8.17	7.32
17					6.82	6.69	7.03	6.89	7.29	6.95	7.80	7.44	8.31	7.39
19					6.97	6.83	7.19	7.02	7.44	6.99	7.94	7.50	8.45	7.43
21					7.13	6.98	7.35	7.09	7.59	7.06	8.09	7.54	8.59	7.46
23					7.28	7.13	7.50	7.14	7.75	7.11	8.24	7.59	8.73	7.50
25			6.98	6.71	7.42	7.23	7.64	7.19	7.89	7.16	8.38	7.63	8.87	7.54
27			6.88	6.67	7.31	7.17	7.54	7.15	7.78	7.12	8.26	7.59		
29			6.78	6.63	7.21	7.06	7.43	7.12	7.67	7.09	8.14	7.56		
31			6.68	6.54	7.10	6.96	7.32	7.08	7.55	7.05	8.02	7.52		
33	6.21	6.09	6.57	6.44	6.99	6.85	7.21	7.02	7.44	6.99	7.90	7.49		
35	6.12	5.99	6.47	6.34	6.88	6.74	7.10	6.96	7.32	6.96	7.77	7.43		
37	6.02	5.90	6.38	6.25	6.77	6.63	6.99	6.85	7.20	6.92	7.63	7.39		
39	5.93	5.81	6.28	6.16	6.65	6.52	6.87	6.73	7.08	6.88	7.48	7.33		
41	5.84	5.72	6.16	6.04	6.53	6.40	6.76	6.62	6.95	6.81	7.34	7.19		
43	5.73	5.62	6.04	5.92	6.42	6.29	6.64	6.51	6.83	6.69	7.19	7.05		

暖房　(kW)

外気温度			室内吸込温度 ℃DB				
	℃DB	℃WB	16℃DB	18℃DB	20℃DB	22℃DB	24℃DB
最大暖房低温条件を基準	-19.8	-20.0	9.82	9.69	9.55	9.41	9.27
	-17.7	-18.0	10.89	10.74	10.59	10.44	10.28
	-15.0	-15.3	12.34	12.17	12.00	11.82	11.65
	-14.5	-15.0	12.37	12.20	12.03	11.85	11.68
	-13.5	-14.0	12.47	12.30	12.14	11.96	11.78
	-11.5	-12.0	12.69	12.52	12.34	12.16	11.97
	-10.0	-10.5	12.85	12.68	12.50	12.31	12.12
	-7.0	-8.0	12.88	12.69	12.50	12.31	12.12
	-5.5	-6.0	12.85	12.67	12.50	12.32	12.13
	-3.0	-4.0	12.86	12.68	12.50	12.31	12.13
	-1.0	-2.0	12.88	12.69	12.50	12.31	12.12
	1.0	0.0	12.89	12.69	12.50	12.31	12.12
	2.0	1.0	12.89	12.70	12.50	12.31	12.11
	3.0	2.0	12.90	12.70	12.50	12.31	12.11
定格暖房標準条件を基準	5.0	4.0	7.73	7.62	7.52	7.44	7.36
	7.0	6.0	8.19	8.09	8.00	7.91	7.81
	9.0	8.0	8.64	8.56	8.48	8.38	8.27
	11.5	10.0	9.10	9.03	8.97	8.85	8.73
	13.5	12.0	9.53	9.46	9.38	9.27	9.17
	15.5	14.0	9.97	9.88	9.79	9.70	9.61
	17.5	16.0	10.41	10.31	10.20	10.13	10.05

形式 FDTK1125H5S（室内ユニット：FDTKP1125S, 室外ユニット：FDCKP1125H）

冷房　(kW)

外気温度	室内吸込温度													
	21℃DB		23℃DB		26℃DB		27℃DB		28℃DB		31℃DB		33℃DB	
	14℃WB		16℃WB		18℃WB		19℃WB		20℃WB		22℃WB		24℃WB	
℃DB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC
11					8.61	8.46	8.83	8.41	9.10	8.36	9.63	8.89	10.17	8.77
13					8.89	8.57	9.14	8.52	9.42	8.47	9.99	9.00	10.55	8.89
15					9.18	8.68	9.45	8.63	9.75	8.59	10.35	9.12	10.94	9.00
17					9.42	8.77	9.70	8.72	10.01	8.68	10.63	9.21	11.24	9.09
19					9.67	8.86	9.96	8.83	10.27	8.79	10.91	9.29	11.54	9.17
21					9.91	8.97	10.21	8.92	10.53	8.88	11.19	9.39	11.84	9.26
23					10.16	9.06	10.46	9.02	10.80	8.97	11.46	9.48	12.13	9.35
25			9.80	8.59	10.41	9.16	10.71	9.11	11.06	9.06	11.74	9.57	12.43	9.44
27			9.67	8.53	10.27	9.11	10.57	9.06	10.91	9.01	11.59	9.52		
29			9.54	8.48	10.13	9.05	10.43	9.00	10.76	8.96	11.43	9.47		
31			9.40	8.40	9.99	9.00	10.29	8.95	10.62	8.91	11.28	9.42		
33	8.75	8.43	9.26	8.35	9.85	8.95	10.14	8.90	10.47	8.86	11.12	9.37		
35	8.60	8.37	9.12	8.29	9.70	8.87	10.00	8.85	10.32	8.81	10.97	9.32		
37	8.37	8.26	8.91	8.20	9.52	8.80	9.84	8.77	10.17	8.75	10.82	9.27		
39	8.14	8.14	8.68	8.11	9.32	8.73	9.69	8.71	10.01	8.68	10.66	9.22		
41	7.90	7.90	8.44	8.01	9.13	8.66	9.53	8.66	9.86	8.62	10.51	9.17		
43	7.67	7.67	8.21	7.92	8.93	8.58	9.37	8.60	9.70	8.57	10.36	9.12		

暖房　(kW)

外気温度			室内吸込温度 ℃DB				
	℃DB	℃WB	16℃DB	18℃DB	20℃DB	22℃DB	24℃DB
最大暖房低温条件を基準	-19.8	-20.0	9.82	9.69	9.55	9.41	9.27
	-17.7	-18.0	10.89	10.74	10.59	10.44	10.28
	-15.0	-15.3	12.34	12.17	12.00	11.82	11.65
	-14.5	-15.0	12.50	12.33	12.16	11.98	11.80
	-13.5	-14.0	13.03	12.85	12.68	12.49	12.30
	-11.5	-12.0	14.10	13.91	13.72	13.51	13.31
	-10.0	-10.5	14.91	14.71	14.50	14.28	14.06
	-7.0	-8.0	14.94	14.72	14.50	14.28	14.06
	-5.5	-6.0	14.91	14.70	14.50	14.29	14.08
	-3.0	-4.0	14.92	14.71	14.50	14.28	14.07
	-1.0	-2.0	14.94	14.72	14.50	14.28	14.06
	1.0	0.0	14.95	14.72	14.50	14.28	14.06
	2.0	1.0	14.96	14.73	14.50	14.28	14.05
	3.0	2.0	14.96	14.73	14.50	14.27	14.05
定格暖房標準条件を基準	5.0	4.0	10.82	10.67	10.52	10.41	10.30
	7.0	6.0	11.46	11.33	11.20	11.07	10.94
	9.0	8.0	12.10	11.99	11.88	11.73	11.58
	11.5	10.0	12.73	12.64	12.55	12.39	12.22
	13.5	12.0	13.35	13.24	13.13	12.98	12.84
	15.5	14.0	13.96	13.83	13.71	13.58	13.45
	17.5	16.0	14.57	14.43	14.28	14.18	14.07

記事(1)　能力は下記条件での計算値です。ただし、制御により圧縮機回転数が変化する場合は、その能力変化を考慮しています。

(a)　冷房能力：定格冷房標準条件（室内側：27℃DB/19℃WB、室外側：35℃DB）の定格能力時における圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。

(b)　暖房能力

（ｉ）　定格暖房標準条件を基準：定格暖房標準条件（室内側：20℃DB、室外側：7℃DB/6℃WB）の定格能力時における圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。

（ii）　最大暖房低温条件を基準：最大暖房低温条件（室内側：20℃DB、室外側：2℃DB/1℃WB）の最大能力時における圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。

(2) 運転条件

配管長：7.5m　室内外ユニット高低差：0m

(3) 記号説明

TC　：冷房能力 (kW)

SHC：顕熱能力 (kW)

参考　能力特性表

形式 FDTKP1405H5S（室内ユニット：FDTKP1405S, 室外ユニット：FDCKP1405H）

冷房　(kW)

外気温度	室内吸込温度													
	21℃CDB		23℃CDB		26℃CDB		27℃CDB		28℃CDB		31℃CDB		33℃CDB	
	14℃WB		16℃WB		18℃WB		19℃WB		20℃WB		22℃WB		24℃WB	
℃DB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC
11					10.76	9.21	11.04	9.15	11.37	9.09	12.04	9.65	12.71	9.51
13					11.12	9.39	11.43	9.34	11.78	9.30	12.49	9.82	13.19	9.68
15					11.47	9.54	11.81	9.49	12.19	9.44	12.93	9.97	13.68	9.83
17					11.78	9.66	12.13	9.61	12.51	9.56	13.28	10.10	14.05	9.96
19					12.09	9.80	12.45	9.75	12.84	9.70	13.63	10.22	14.42	10.08
21					12.39	9.92	12.76	9.87	13.17	9.82	13.98	10.34	14.79	10.21
23					12.70	10.04	13.08	10.00	13.50	9.96	14.33	10.48	15.17	10.33
25			12.25	9.62	13.01	10.18	13.39	10.12	13.82	10.08	14.68	10.59	15.54	10.44
27			12.09	9.54	12.83	10.12	13.21	10.06	13.64	10.01	14.49	10.53		
29			11.92	9.47	12.66	10.03	13.04	9.97	13.45	9.94	14.29	10.46		
31			11.75	9.37	12.49	9.96	12.86	9.90	13.27	9.85	14.10	10.40		
33	10.93	9.39	11.57	9.29	12.31	9.89	12.68	9.83	13.09	9.79	13.90	10.31		
35	10.75	9.31	11.40	9.22	12.13	9.82	12.50	9.77	12.90	9.72	13.71	10.24		
37	10.46	9.17	11.14	9.11	11.90	9.71	12.30	9.69	12.71	9.65	13.52	10.18		
39	10.17	9.04	10.85	8.98	11.65	9.61	12.11	9.60	12.51	9.56	13.33	10.12		
41	9.88	8.91	10.56	8.86	11.41	9.52	11.91	9.52	12.32	9.49	13.14	10.06		
43	9.58	8.78	10.26	8.74	11.16	9.42	11.71	9.45	12.13	9.42	12.94	9.97		

暖房　(kW)

外気温度			室内吸込温度 ℃DB				
	℃DB	℃WB	16℃CDB	18℃CDB	20℃CDB	22℃CDB	24℃CDB
最大暖房低温条件を基準	-19.8	-20.0	13.98	14.01	14.03	12.76	11.49
	-17.7	-18.0	14.64	14.65	14.66	13.82	12.99
	-15.0	-15.3	15.52	15.51	15.50	15.24	14.98
	-14.5	-15.0	15.62	15.60	15.59	15.27	14.94
	-13.5	-14.0	15.94	15.92	15.91	15.67	15.43
	-11.5	-12.0	16.58	16.56	16.53	16.38	16.24
	-10.0	-10.5	17.06	17.03	17.00	16.92	16.84
	-7.0	-8.0	17.09	17.05	17.00	16.71	16.43
	-5.5	-6.0	17.05	17.02	17.00	16.97	16.95
	-3.0	-4.0	17.07	17.03	17.00	16.88	16.75
	-1.0	-2.0	17.08	17.04	17.00	16.79	16.58
	1.0	0.0	17.10	17.05	17.00	16.71	16.42
	2.0	1.0	17.11	17.05	17.00	16.67	16.34
	3.0	2.0	17.11	17.06	17.00	16.63	16.26
定格暖房標準条件を基準	5.0	4.0	13.79	13.68	13.56	13.45	13.33
	7.0	6.0	14.22	14.11	14.00	13.88	13.76
	9.0	8.0	14.65	14.54	14.44	14.31	14.19
	11.5	10.0	15.08	14.98	14.87	14.75	14.63
	13.5	12.0	15.85	15.72	15.60	15.47	15.34
	15.5	14.0	16.61	16.47	16.33	16.19	16.05
	17.5	16.0	17.38	17.22	17.06	16.91	16.76

形式 FDTKP1605H5S（室内ユニット：FDTKP1605S, 室外ユニット：FDCKP1605H）

冷房　(kW)

外気温度	室内吸込温度													
	21℃CDB		23℃CDB		26℃CDB		27℃CDB		28℃CDB		31℃CDB		33℃CDB	
	14℃WB		16℃WB		18℃WB		19℃WB		20℃WB		22℃WB		24℃WB	
℃DB	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC	TC	SHC
11					12.05	9.79	12.36	9.71	12.74	9.66	13.48	10.17	14.23	10.02
13					12.45	9.95	12.80	9.88	13.19	9.83	13.98	10.34	14.78	10.21
15					12.85	10.12	13.23	10.06	13.65	10.01	14.49	10.53	15.32	10.38
17					13.19	10.26	13.59	10.20	14.02	10.15	14.88	10.68	15.74	10.53
19					13.54	10.42	13.94	10.36	14.38	10.30	15.27	10.81	16.15	10.66
21					13.88	10.56	14.29	10.49	14.75	10.44	15.66	10.97	16.57	10.81
23					14.22	10.71	14.65	10.65	15.11	10.60	16.05	11.10	16.99	10.94
25			13.72	10.31	14.57	10.86	15.00	10.79	15.48	10.75	16.44	11.26	17.40	11.10
27			13.54	10.21	14.37	10.77	14.80	10.71	15.27	10.66	16.22	11.18		
29			13.35	10.13	14.18	10.69	14.60	10.63	15.07	10.58	16.01	11.09		
31			13.17	10.05	13.99	10.60	14.40	10.53	14.86	10.50	15.79	11.01		
33	12.23	10.04	12.98	9.97	13.79	10.52	14.20	10.46	14.66	10.41	15.57	10.94		
35	12.02	9.94	12.78	9.86	13.59	10.44	14.00	10.38	14.45	10.33	15.35	10.84		
37	11.72	9.79	12.48	9.73	13.32	10.31	13.75	10.27	14.21	10.24	15.11	10.76		
39	11.39	9.63	12.15	9.57	13.05	10.20	13.51	10.17	13.95	10.12	14.84	10.67		
41	11.06	9.45	11.82	9.40	12.78	10.09	13.26	10.08	13.70	10.03	14.57	10.56		
43	10.73	9.30	11.50	9.26	12.50	9.97	13.02	9.97	13.45	9.94	14.31	10.47		

暖房　(kW)

外気温度			室内吸込温度 ℃DB				
	℃DB	℃WB	16℃CDB	18℃CDB	20℃CDB	22℃CDB	24℃CDB
最大暖房低温条件を基準	-19.8	-20.0	13.98	14.01	14.03	12.76	11.49
	-17.7	-18.0	14.64	14.65	14.66	13.82	12.99
	-15.0	-15.3	15.52	15.51	15.50	15.24	14.98
	-14.5	-15.0	15.62	15.60	15.59	15.27	14.94
	-13.5	-14.0	15.94	15.92	15.91	15.67	15.43
	-11.5	-12.0	16.58	16.56	16.53	16.38	16.24
	-10.0	-10.5	17.06	17.03	17.00	16.92	16.84
	-7.0	-8.0	17.09	17.05	17.00	16.71	16.43
	-5.5	-6.0	17.27	17.25	17.22	17.19	17.17
	-3.0	-4.0	17.51	17.48	17.44	17.32	17.19
	-1.0	-2.0	17.75	17.71	17.67	17.45	17.23
	1.0	0.0	17.99	17.94	17.89	17.58	17.27
	2.0	1.0	18.11	18.06	18.00	17.65	17.30
	3.0	2.0	18.23	18.17	18.00	17.72	17.32
定格暖房標準条件を基準	5.0	4.0	15.76	15.63	15.50	15.37	15.23
	7.0	6.0	16.25	16.13	16.00	15.86	15.73
	9.0	8.0	16.74	16.62	16.50	16.36	16.22
	11.5	10.0	17.24	17.12	17.00	16.86	16.71
	13.5	12.0	18.11	17.97	17.83	17.68	17.53
	15.5	14.0	18.99	18.82	18.66	18.50	18.34
	17.5	16.0	19.86	19.68	19.49	19.32	19.15

記事(1)　能力は下記条件での計算値です。ただし、制御により圧縮機回転数が変化する場合は、その能力変化を考慮しています。

(a)　冷房能力：定格冷房標準条件（室内側：27℃CDB/19℃WB、室外側：35℃CDB）の定格能力時における圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。

(b)　暖房能力

（ｉ）　定格暖房標準条件を基準：定格暖房標準条件（室内側：20℃CDB、室外側：7℃CDB/6℃WB）の定格能力時における圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。

（ii）　最大暖房低温条件を基準：最大暖房低温条件（室内側：20℃CDB、室外側：2℃CDB/1℃WB）の最大能力時における圧縮機回転数で固定した条件での計算値です。

(2) 運転条件

配管長：7.5m　室内外ユニット高低差：0m

(3) 記号説明

TC　：冷房能力 (kW)

SHC：顕熱能力 (kW)

(5) 配管距離・室内・外ユニット高低差による能力補正

冷媒配管長（室内･室外ユニット間の片道長）および室内･室外ユニット高低差により，冷房・暖房能力の補正が必要です。

(a) 配管相当長による能力補正係数

室内･外ユニット間の高低差0mの場合の配管相当長対応の補正係数は下表のとおりです。

相当長(m)		7.5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
暖房	共通	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	0.998	0.998	0.993	0.993	0.988	0.988
冷房	P805	1.000	0.993	0.980	0.967	0.954	0.941	0.932	0.918	0.907	0.896	0.885
	P1125	1.000	0.993	0.980	0.967	0.954	0.941	0.932	0.918	0.907	0.896	0.885
	P1405	1.000	0.993	0.980	0.967	0.954	0.941	0.932	0.918	0.907	0.896	0.885
	P1605	1.000	0.993	0.980	0.967	0.954	0.941	0.932	0.918	0.907	0.896	0.885

相当長(m)		60	65	70	75	80	85	90	95	100	105
暖房	共通	0.983	0.983	0.978	0.978	0.973	0.973	0.968	0.968	0.963	0.963
冷房	P805	0.874	0.864	0.853	0.844	0.835	0.826	0.817	0.808	0.799	0.790
	P1125	0.874	0.864	0.853	0.844	0.835	0.826	0.817	0.808	0.799	0.790
	P1405	0.874	0.864	0.853	0.844	0.835	0.826	0.817	0.808	0.799	0.790
	P1605	0.874	0.864	0.853	0.844	0.835	0.826	0.817	0.808	0.799	0.790

注(1)　相当長は下記の式により計算してください。
　　ただし相当長としてそれぞれの形式の配管距離制限長さ（実長）＋5m以内となるよう設置してください。

●相当長＝実長＋（ベンドの相当長×途中配管のベンド数）
ベンド1個当りの相当長

ガス配管径(mm)	φ9.52	φ12.7	φ15.88	φ19.05	φ25.4	φ25.88
ベンドの相当長	0.15	0.20	0.25	0.30	0.40	0.45

(b) 室内･外ユニット高低差による能力補正係数

冷房時室外ユニットが下，暖房時室外ユニットが上，の場合のみ補正してください。

室内・室外ユニットの高さ方向の差（m）	5	10	15	20	25	30
補正係数	0.99	0.98	0.97	0.96	0.95	0.94

■配管距離の制限値

項目＼形式	P805～P1605
最大片道長さ（実長）(1)(m)	100
高さ方向 (2) (m)	30(15)

注(1)　表中の数値は室内，室外ユニット間の配管片道長さを示します。
　(2)　(　)は室外ユニットが室内ユニットよりも下にある場合を示します。

(6) 風量変更時の能力補正係数

風量	P急	強	弱
能力補正係数	1.00	0.97	0.95

冷暖房能力算出方法

●例１…暖房
形式：FDTK1405H5S，風量：P急，
室外湿球温度：1℃WB，室内乾球温度：23℃DB
配管距離相当長：30m
室内，室外ユニットの高さ方向の差：10m
（室外ユニットが上）

この場合の暖房能力：

14.0 × 0.97 × 0.998 × 0.98 × 1.0 ≒ 13.3kW

FDTZ1405H5S 定格暖房能力　温度条件による補正　相当長 30m　高低差 10m　風量 P急

●例2…冷房
形式：FDTK1405H5S，風量：P急，
室外乾球温度：32℃DB，室内湿球温度：19℃WB
配管距離相当長：30m
室内，室外ユニットの高さ方向の差：5m
（室外ユニットが下）

この場合の冷房能力：

12.5 × 1.01 × 0.941 × 0.99 × 1.0 ≒ 11.8kW

FDTZ1405H5S 定格冷房能力　温度条件による補正　相当長 30m　高低差 5m　風量 P急

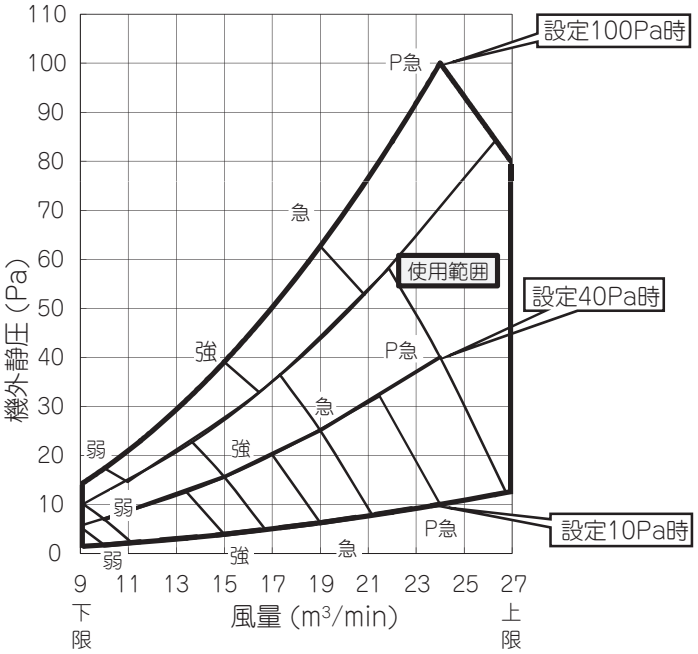
6. 送風機特性

(1) 天理カセテリア（FDR）

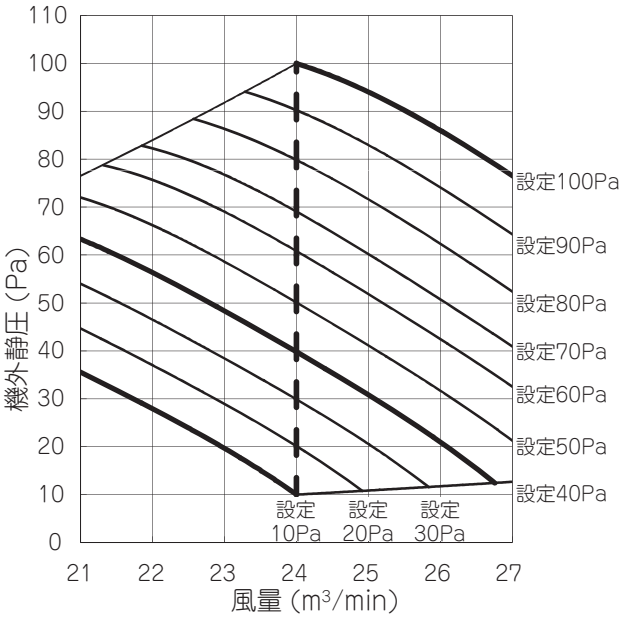
(a) サイレントパネル，キャンバスパネル仕様

FDRKP565S（P40, P56 設定）

①各タップの機外静圧特性



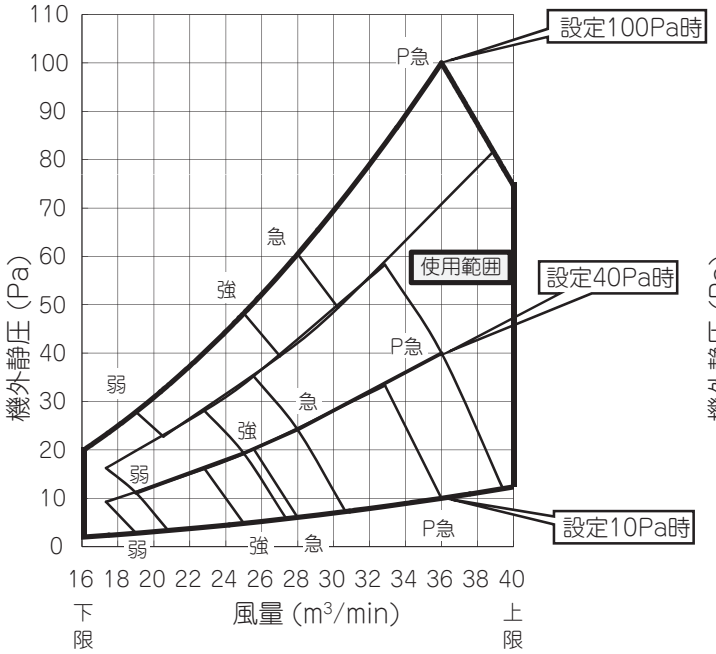
②P急タップの機外静圧特性



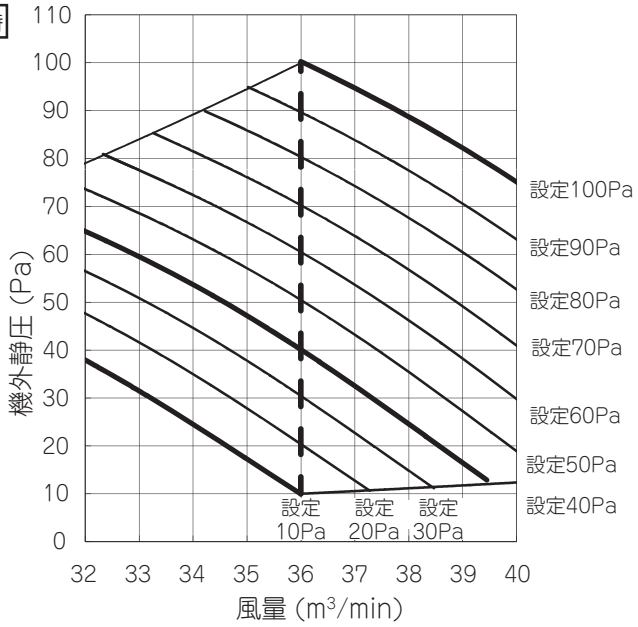
注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

FDRKP715S

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

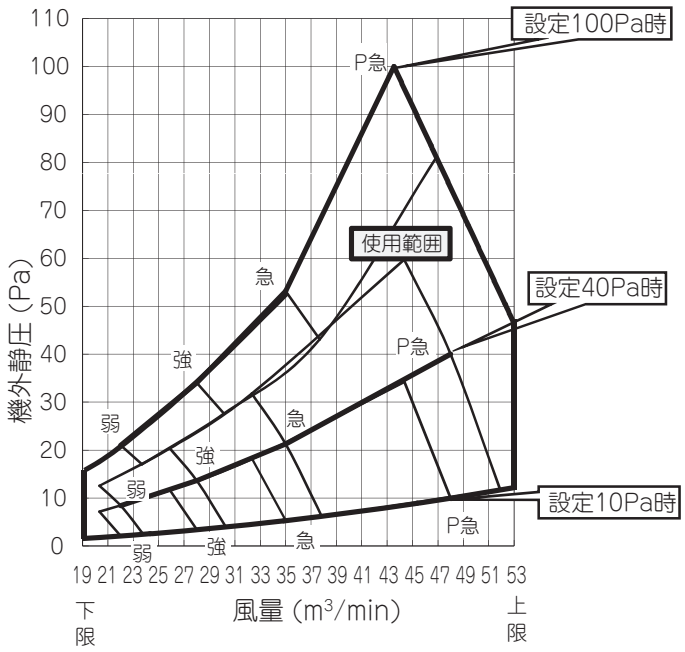


注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

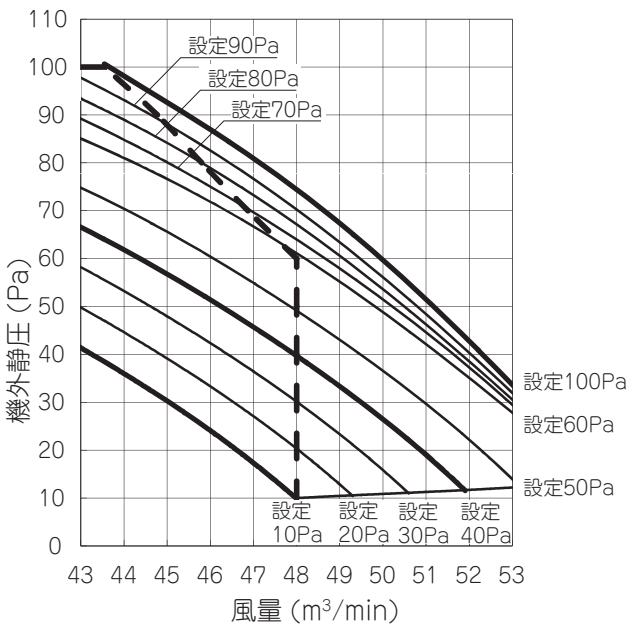
PJG000Z193

FDRKP1125S（P80, P112 設定）

①各タップの機外静圧特性



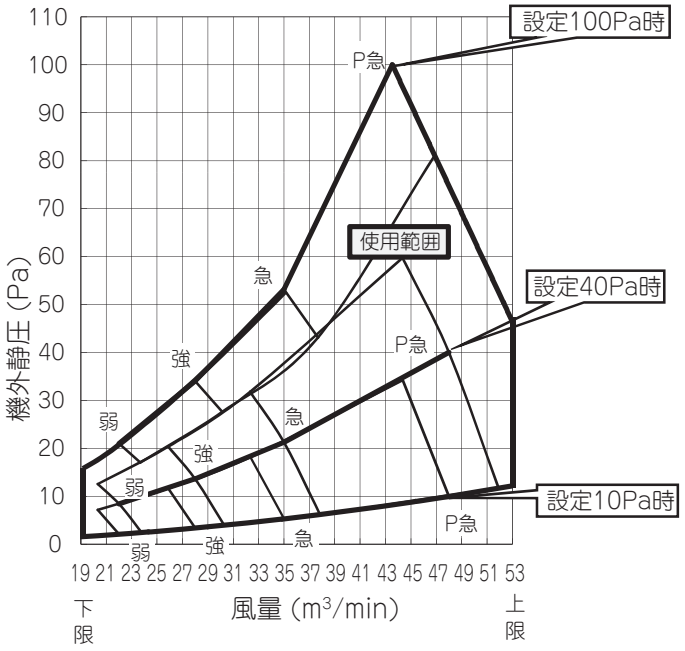
②P急タップの機外静圧特性



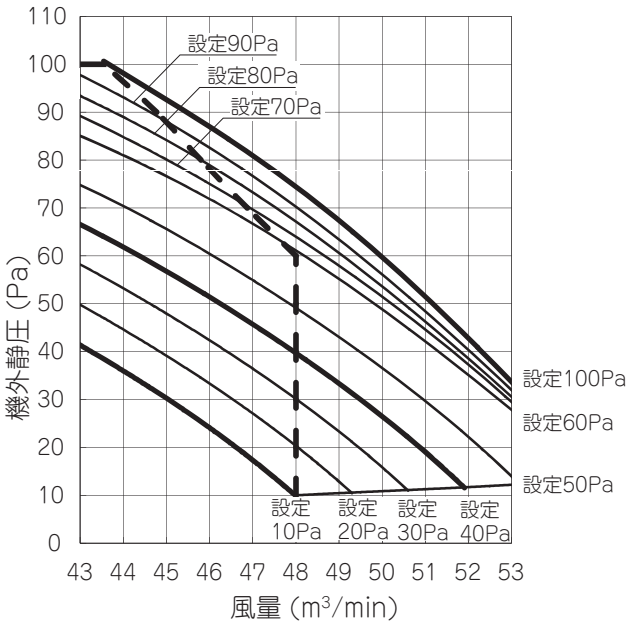
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

FDRKP1605S（P140, P160 設定）

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



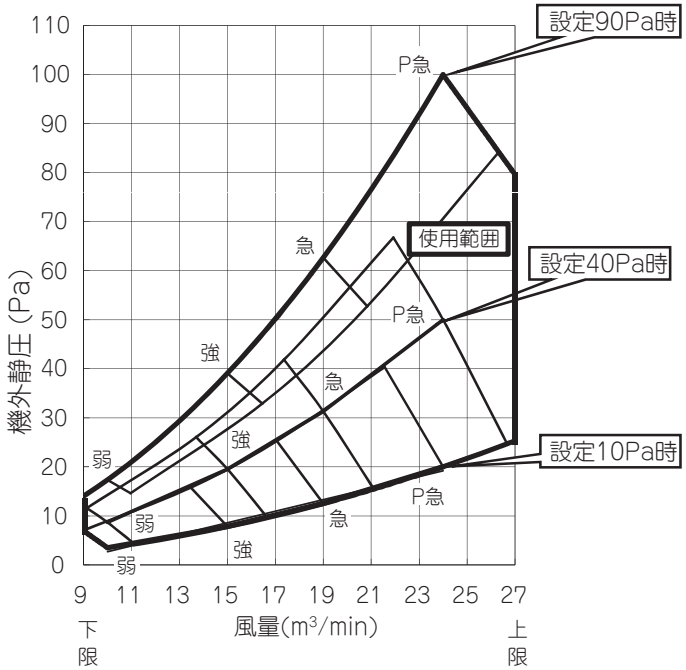
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

PJG000Z193

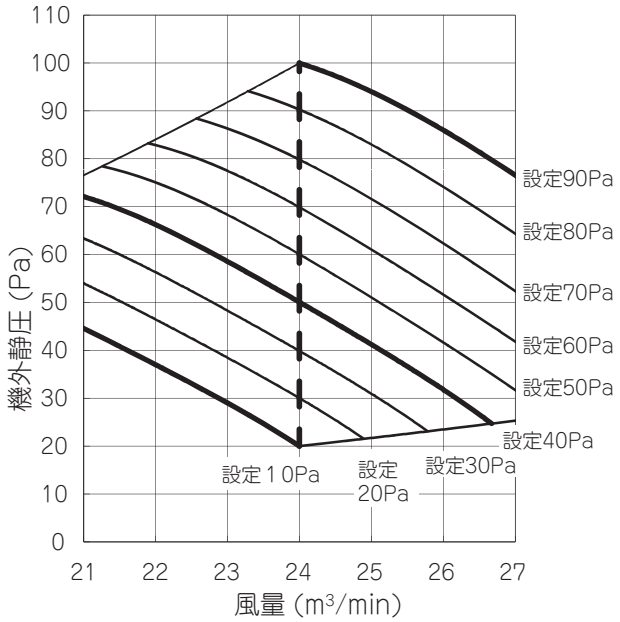
(b) 天井リターン仕様

FDRKP565S（P40, P56 設定）

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

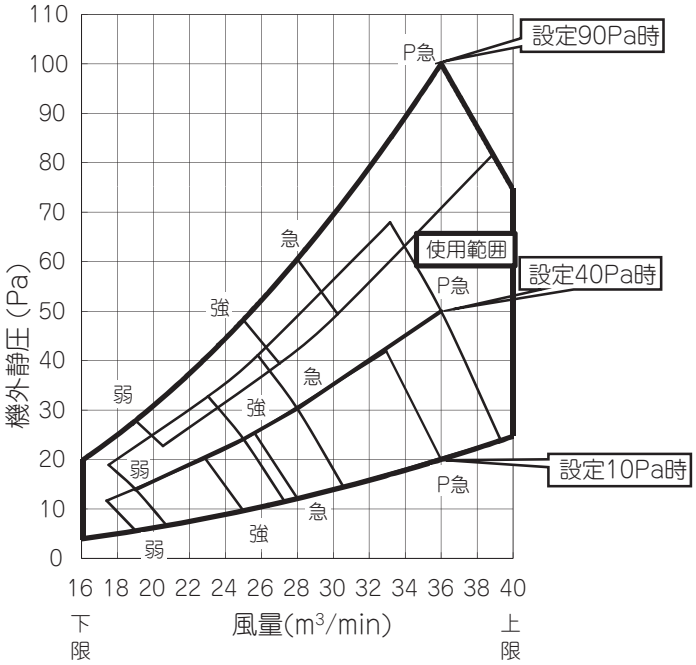


注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) 専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 283ページをご覧ください。

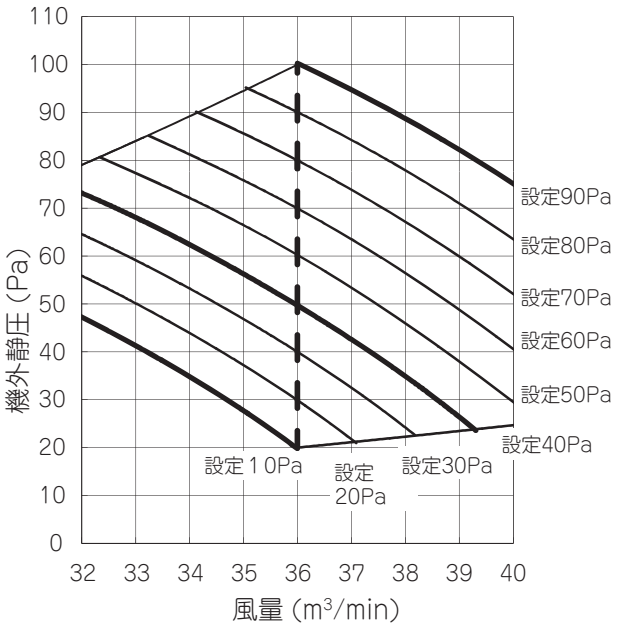
必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

FDRKP715S

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



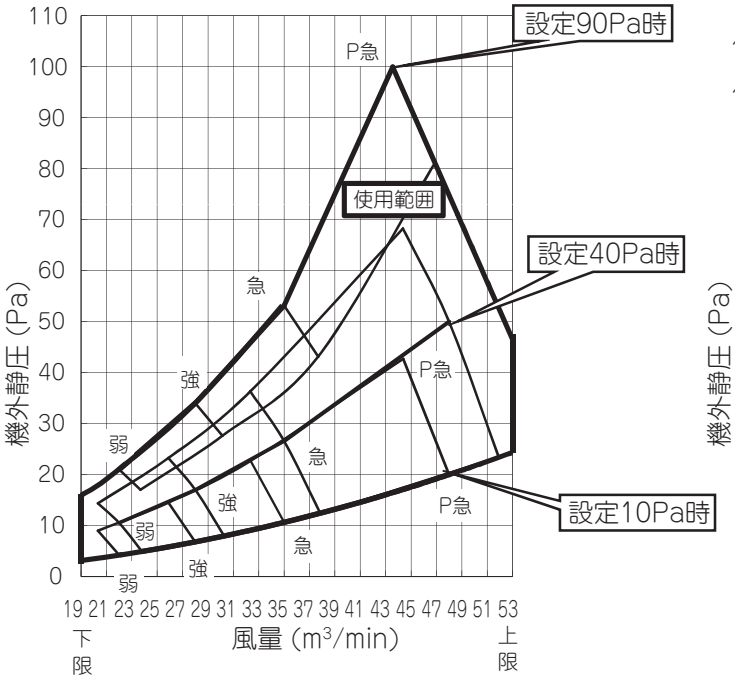
注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) 専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 283ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

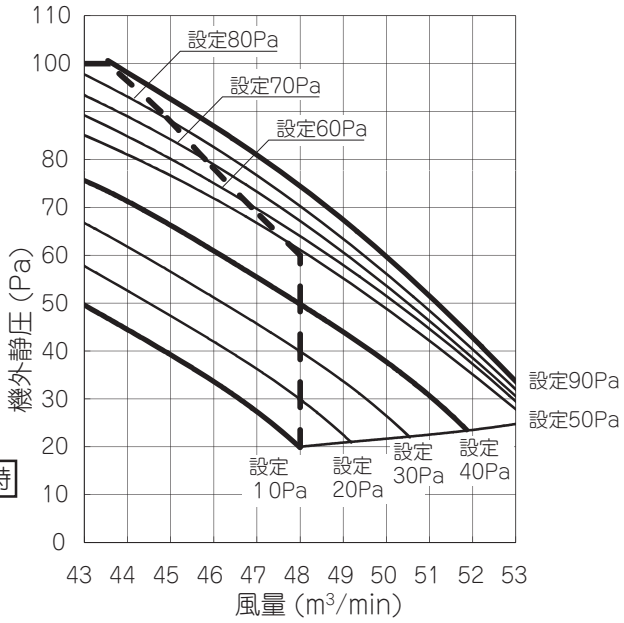
PJG000Z193

FDRKP1125S（P80, P112 設定）

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

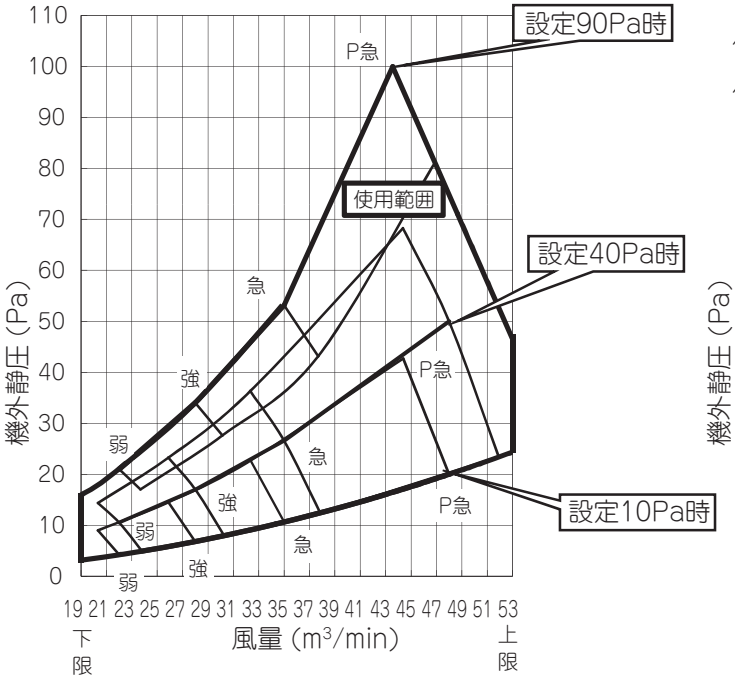


注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3)　天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，283ページをご覧ください。

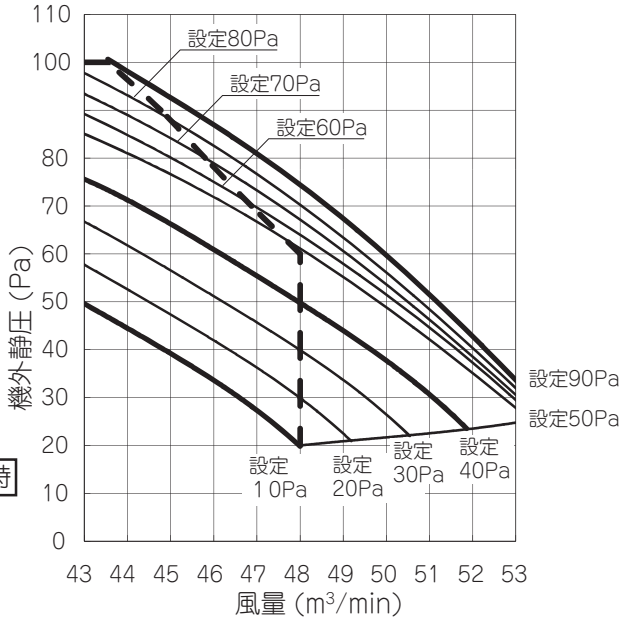
必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

FDRKP1605S（P140, P160 設定）

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3)　天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，283ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

PJG000Z193

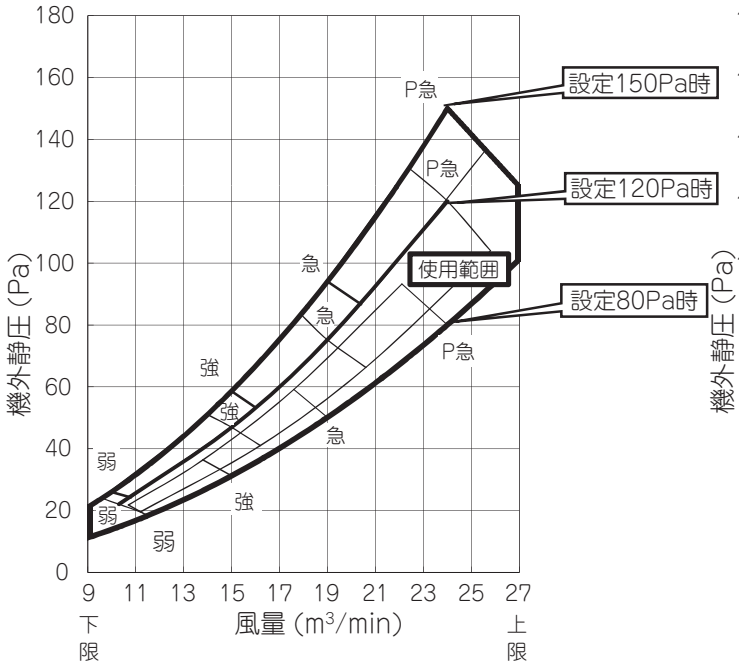
⑵ 高静圧ダクト形（FDU）

⒜ 標準仕様

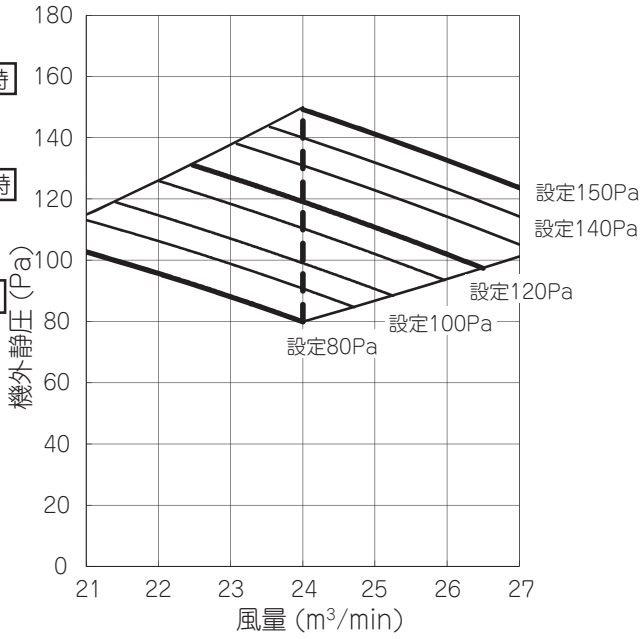
FDUKP565S

(ⅰ) SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



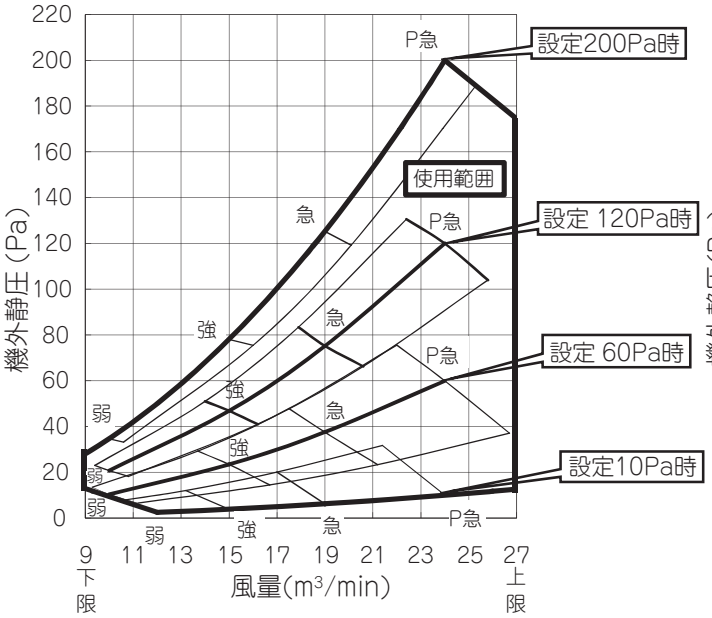
②P急タップの機外静圧特性



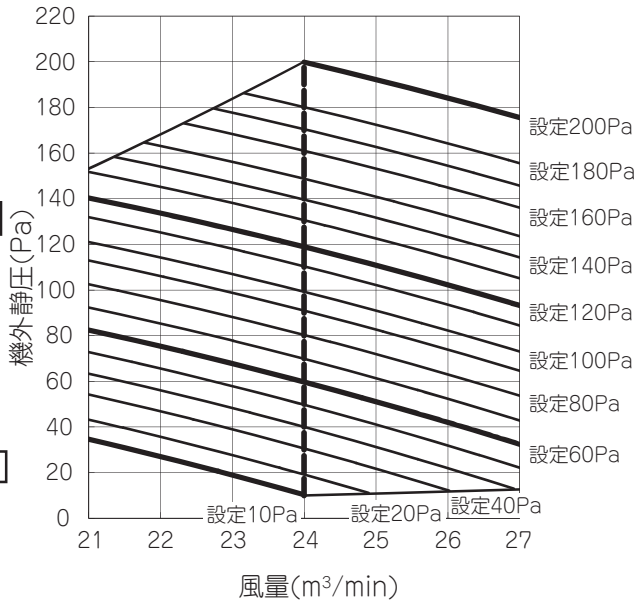
注(1) 表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80 ～ 150paとしています。

(ⅱ) SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



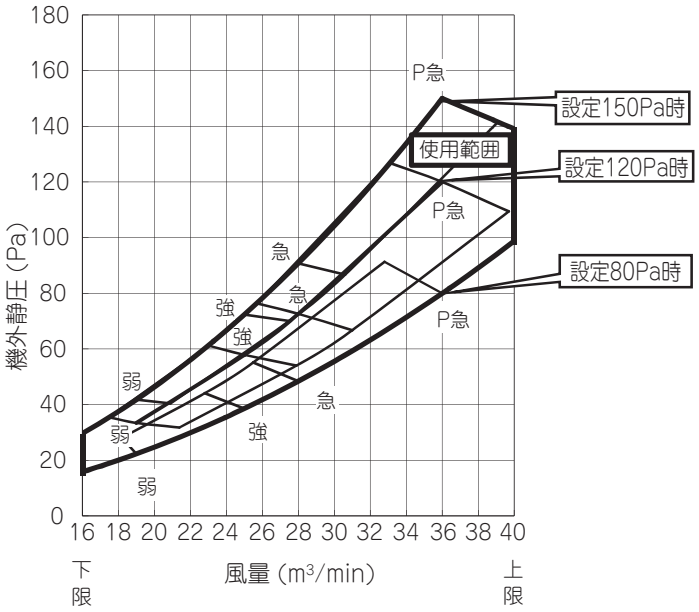
注(1) 表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
(3) 基板上の SW8-4をON にすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 283 ページを参照ください。

PJG000Z194

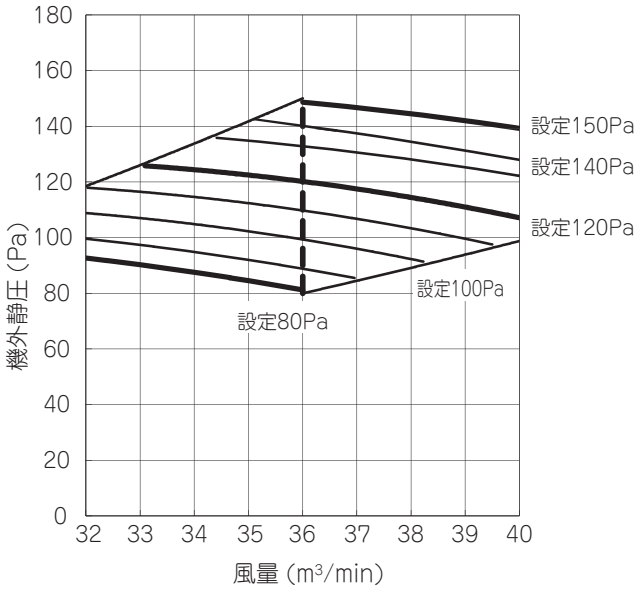
FDUKP715S

(ⅰ) SW8-4:OFF(出荷状態)の場合

①各タップの機外静圧特性



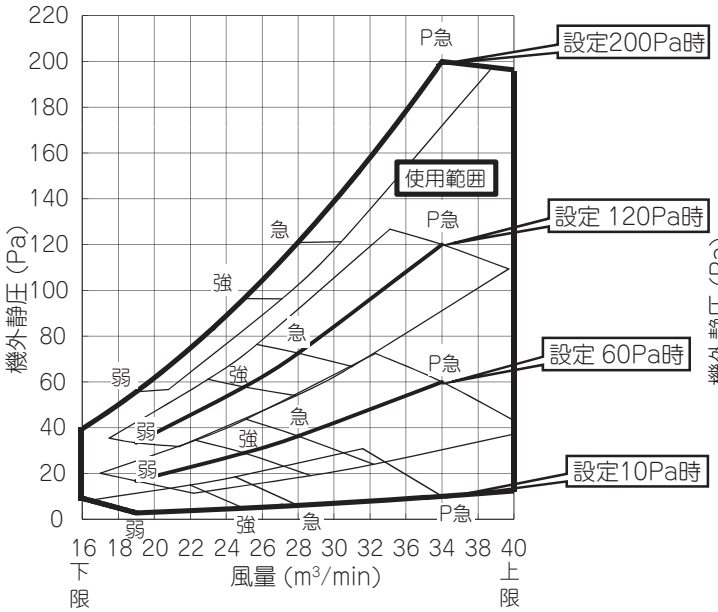
②P急タップの機外静圧特性



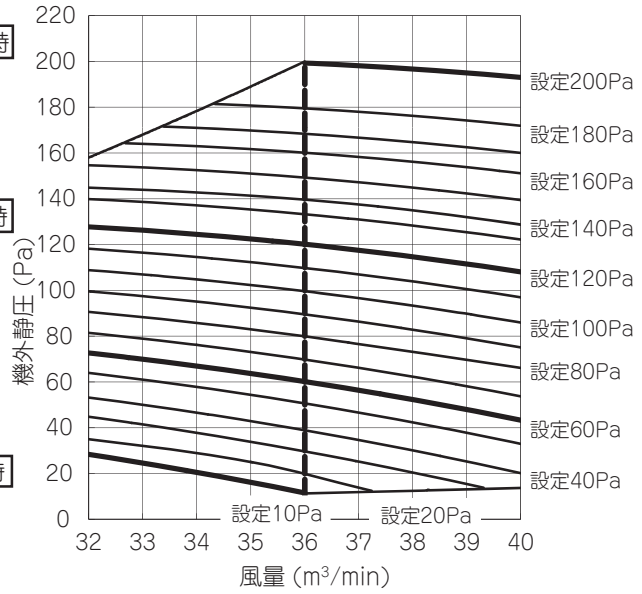
注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

(ⅱ) SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



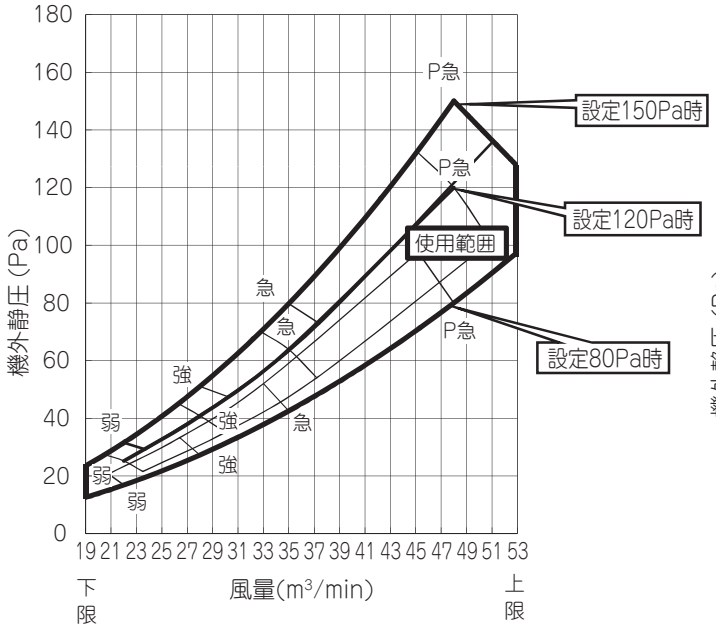
注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
(3) 基板上の SW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 283ページを参照ください。

PJG000Z194

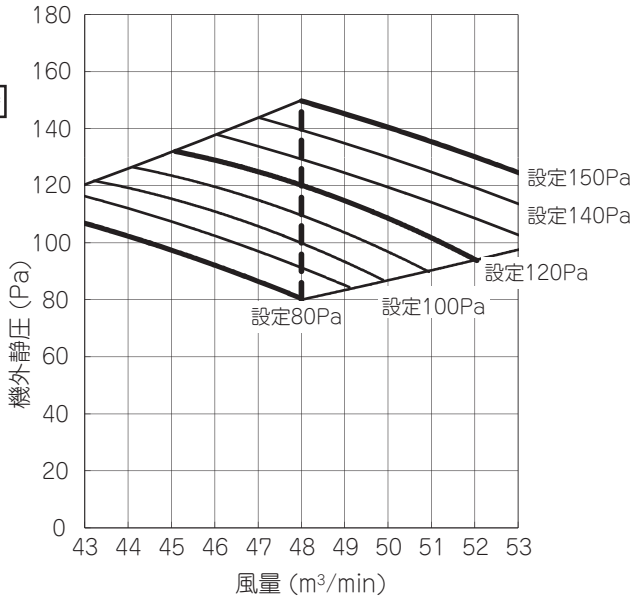
FDUKP1125S（P80, P112 設定）

(ⅰ) SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



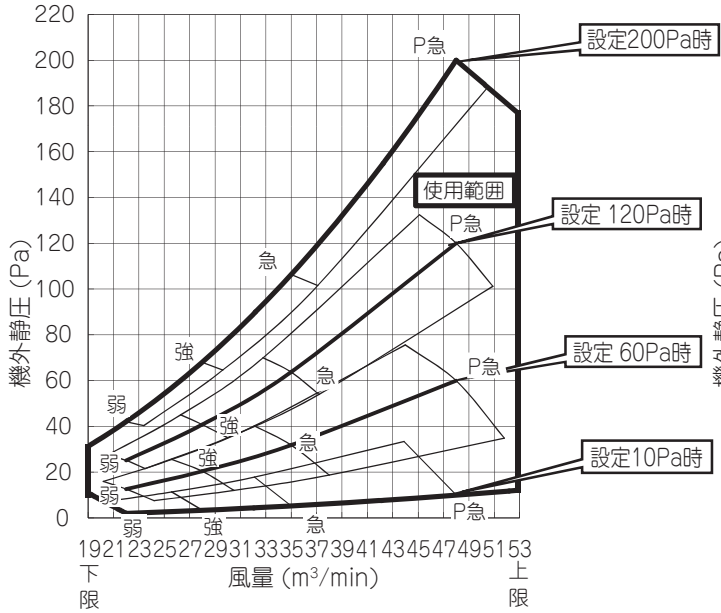
②P急タップの機外静圧特性



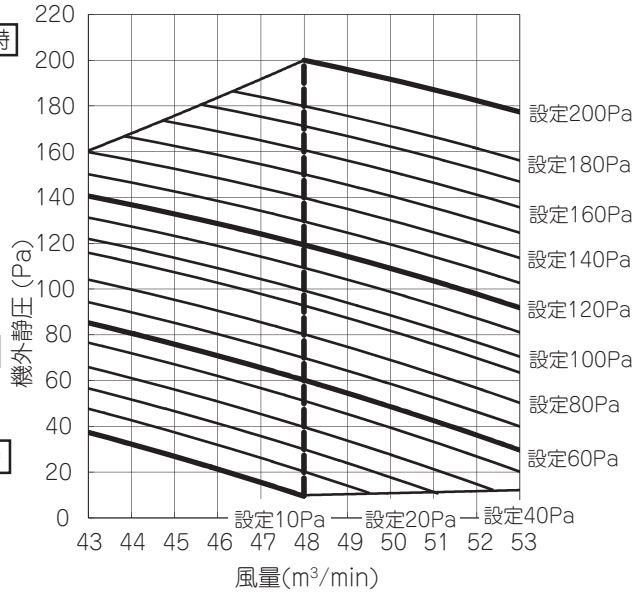
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

(ⅱ) SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



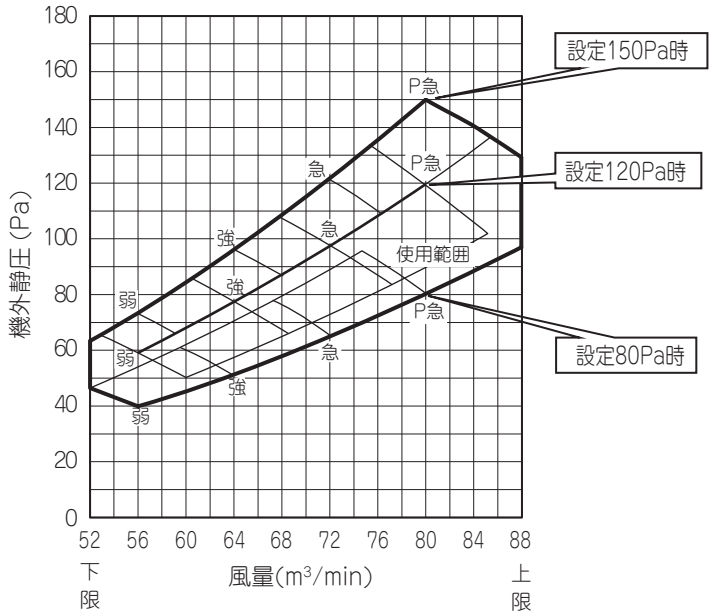
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
(3)　基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 283ページを参照ください。

PJG000Z194

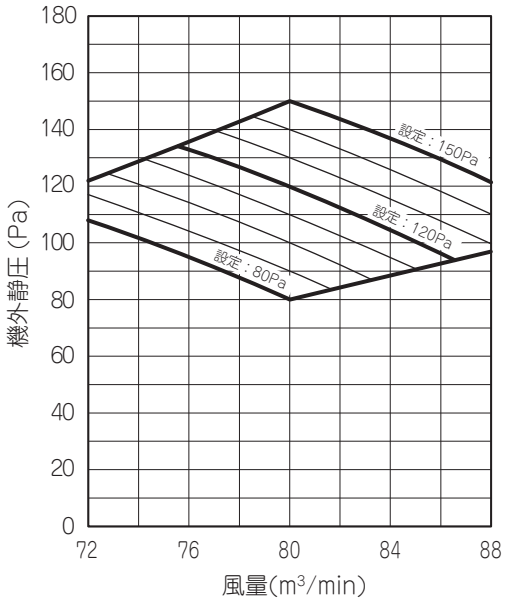
FDUKP1605S（P140, P160 設定）

（ｉ）SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



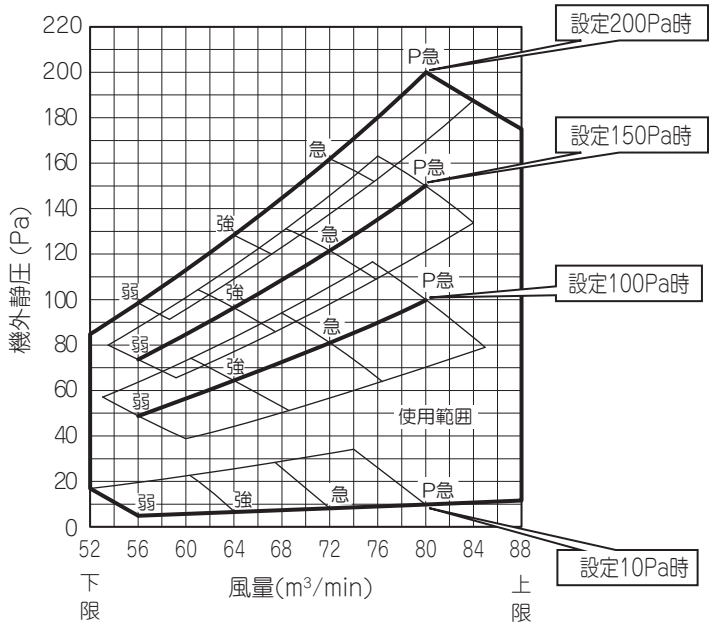
②P急タップの機外静圧特性



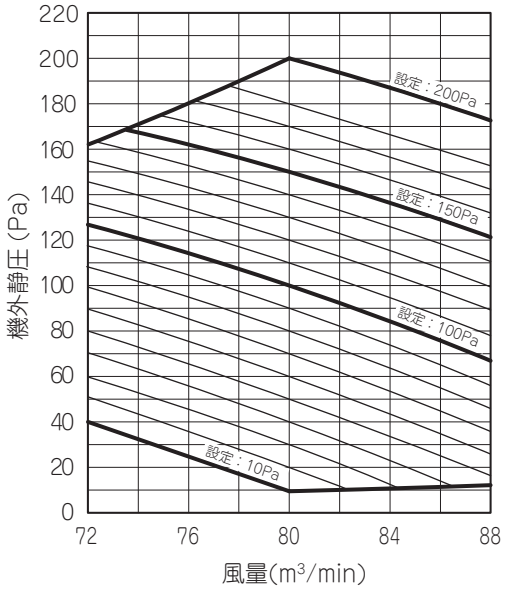
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2）　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛･不冷･不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

（ii）SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



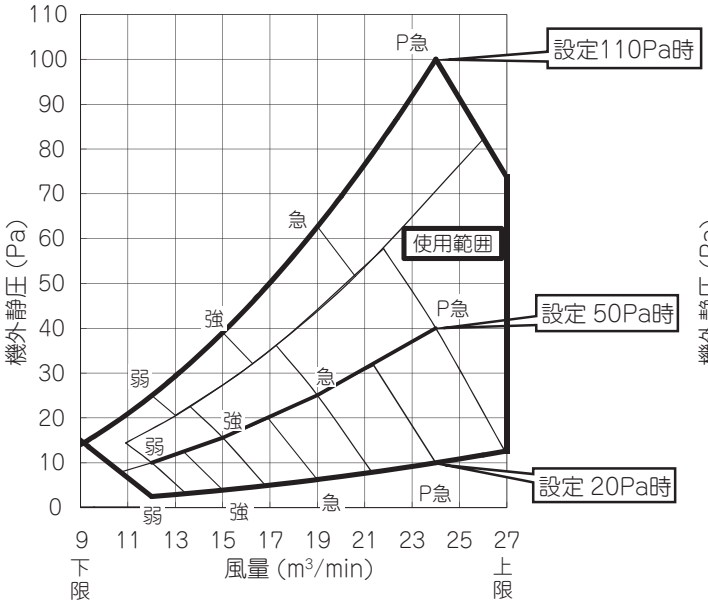
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2）　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛･不冷･不暖の原因となります。
（3）　基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 283ページを参照ください。

PJG000Z345

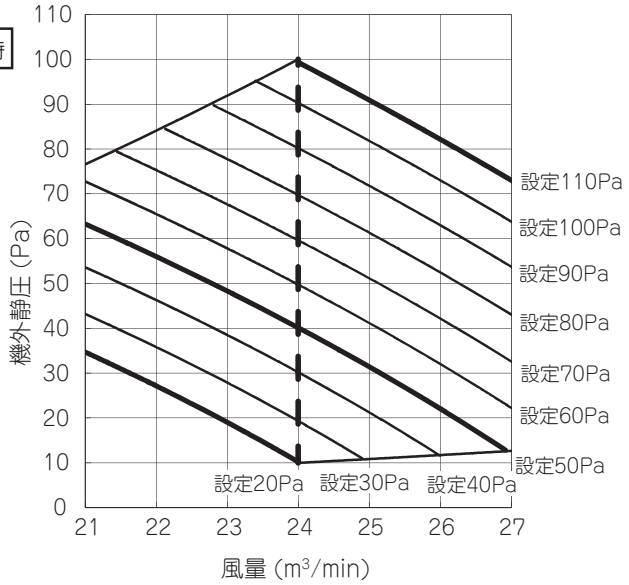
(b) 丸ダクト仕様

FDUKP565S
SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

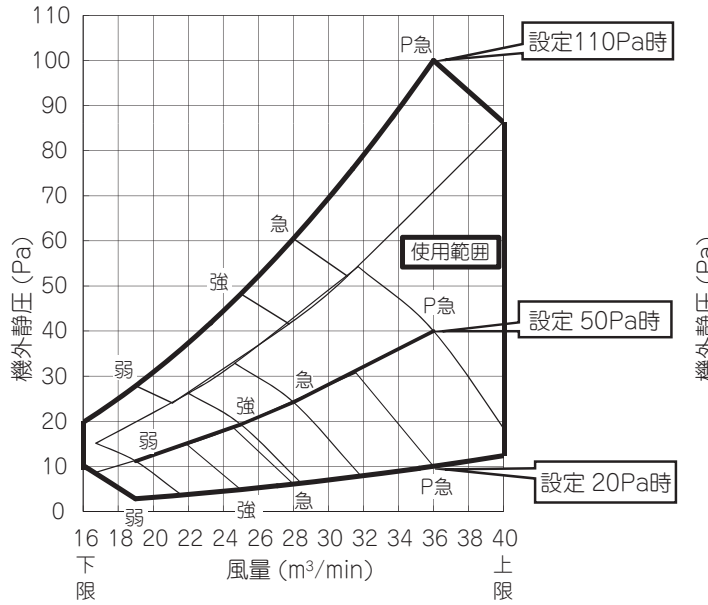


注(1) 表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) 丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，283 ページをご覧ください。

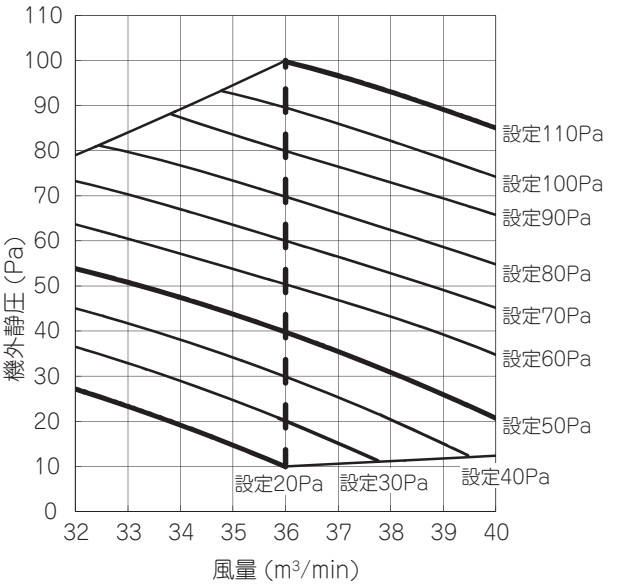
必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

FDUKP715S
SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



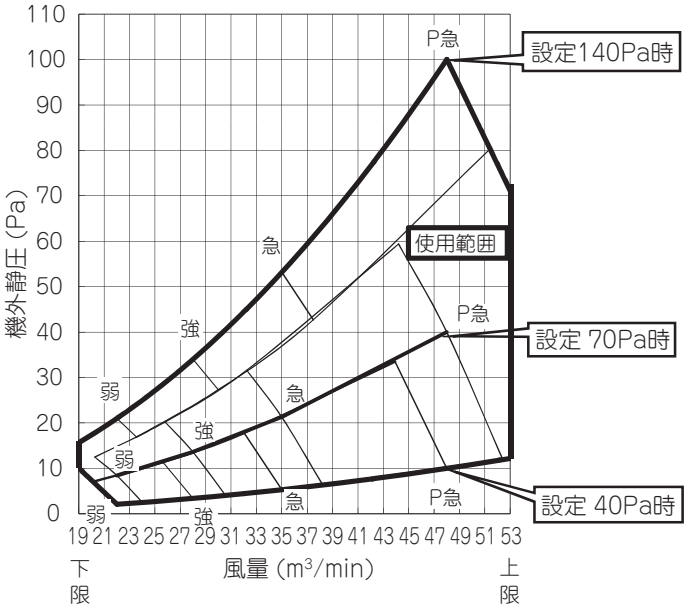
注(1) 表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) 丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機(角ダクト)に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，283 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

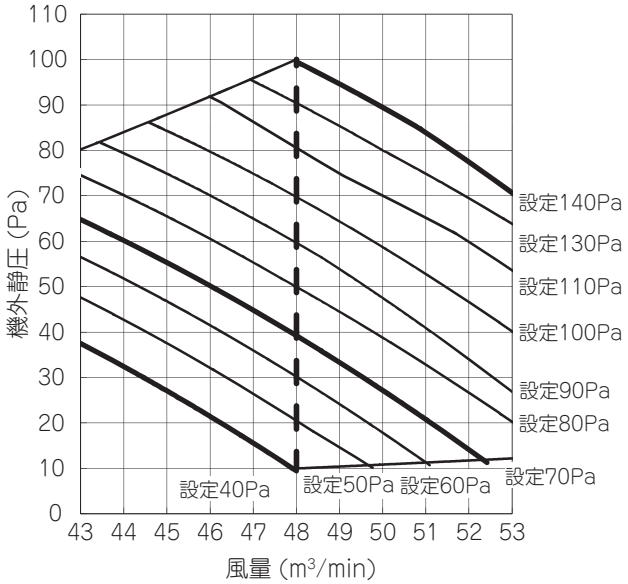
PJG000Z194

FDUKP1125S（P80, P112 設定）
SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3)　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，283 ページをご覧ください。

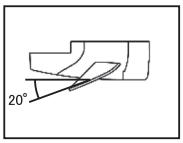
必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	40	50	60	70	80	90	100	110	130	140

PJG000Z194

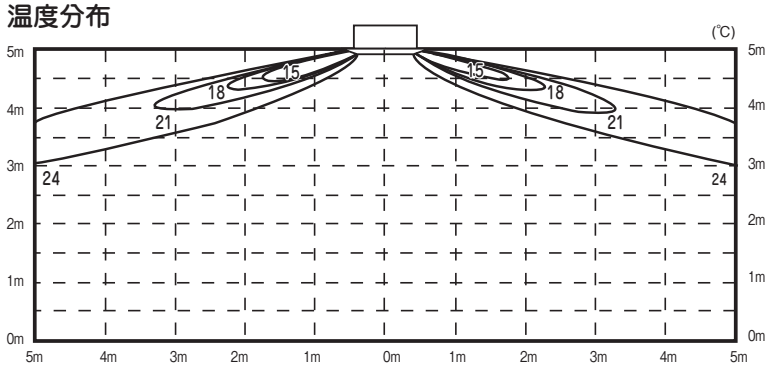
7. 気流分布

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し(FDT)
FDTKP565S

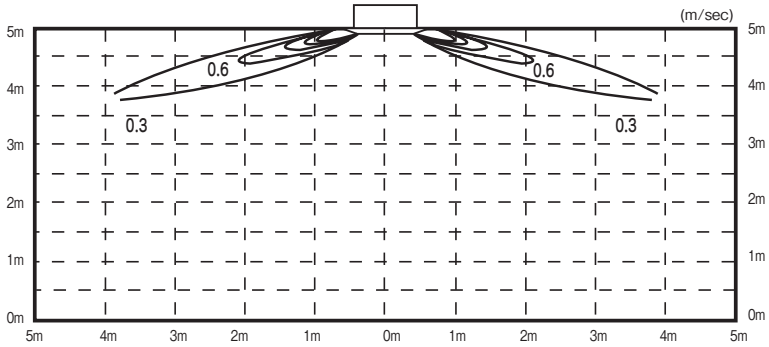
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



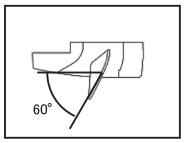
温度分布



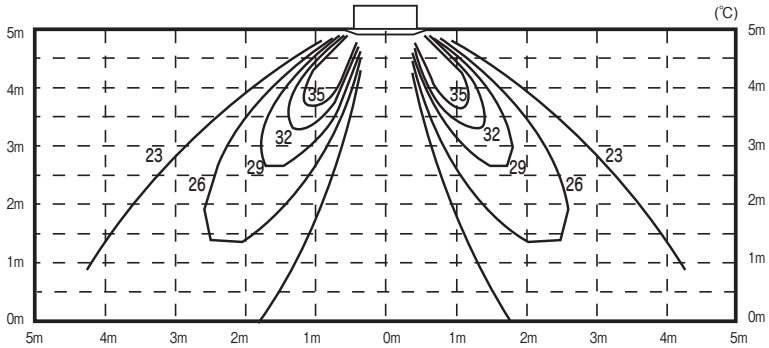
風速分布



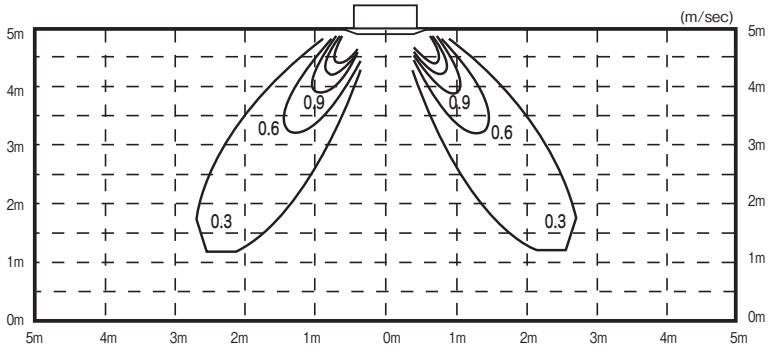
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布



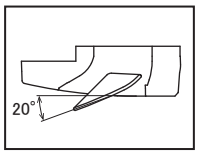
風速分布



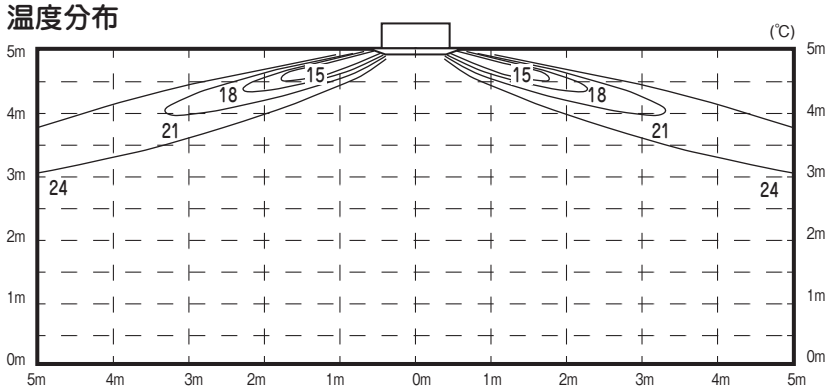
ISD16126△

FDTKP1125S, 1605S

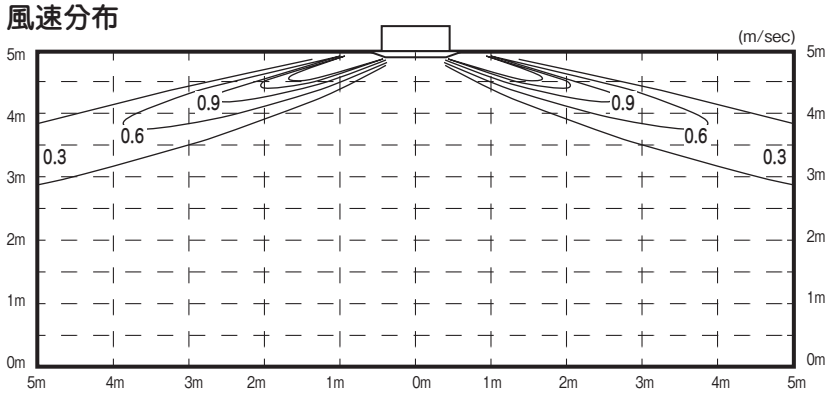
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



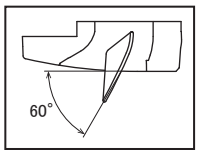
温度分布



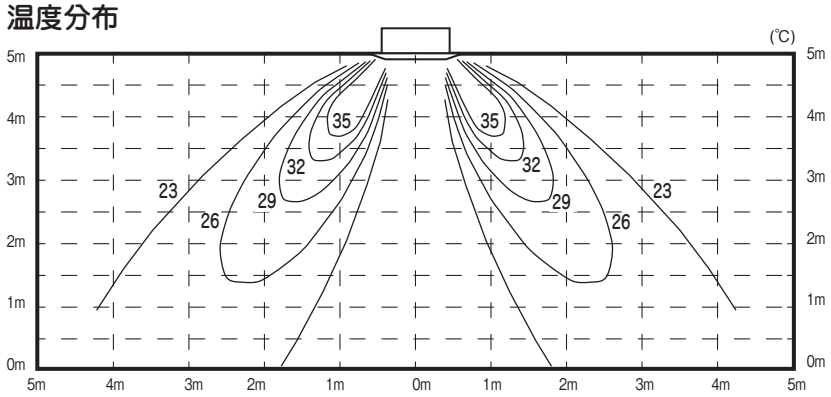
風速分布



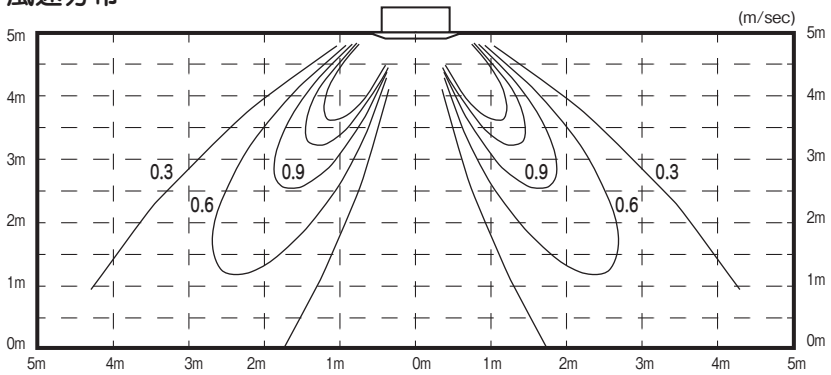
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布

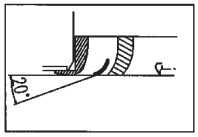


風速分布

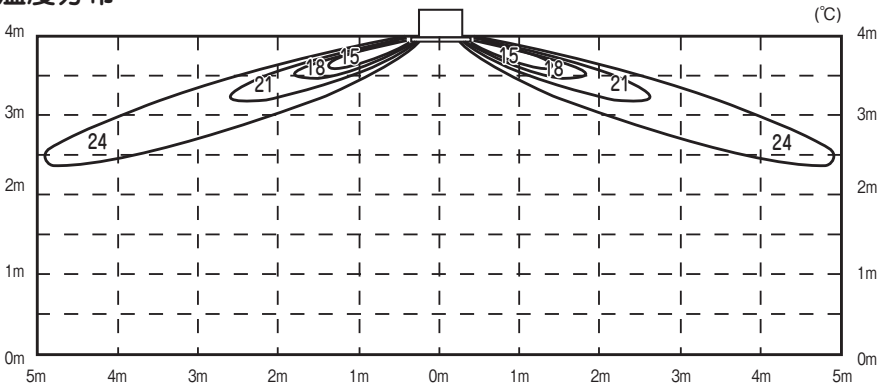


(2) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）
FDTWKP565S（ツイン接続）

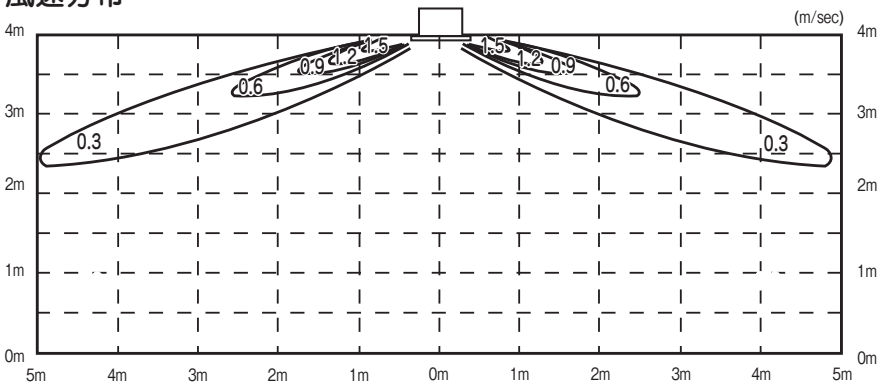
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



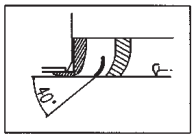
温度分布



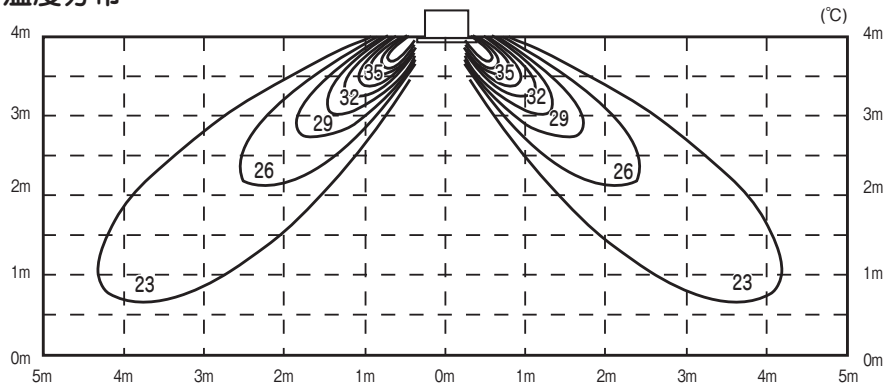
風速分布



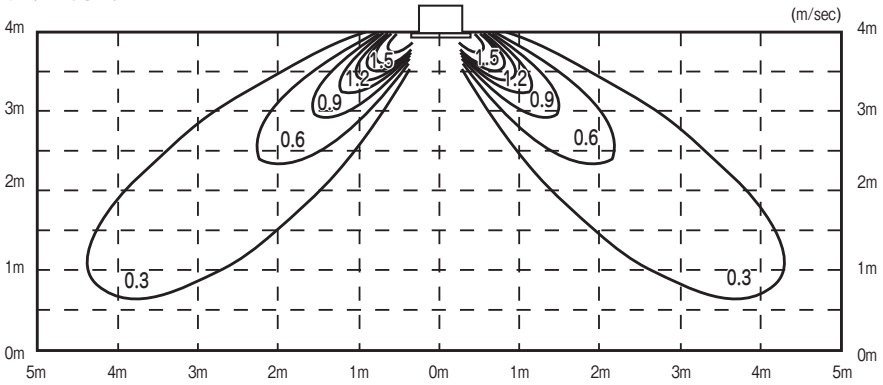
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布

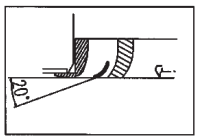


風速分布

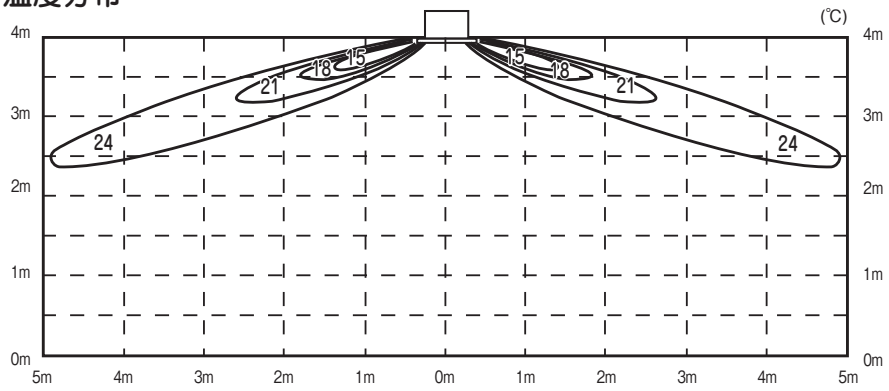


FDTWKP565S（トリプル接続）

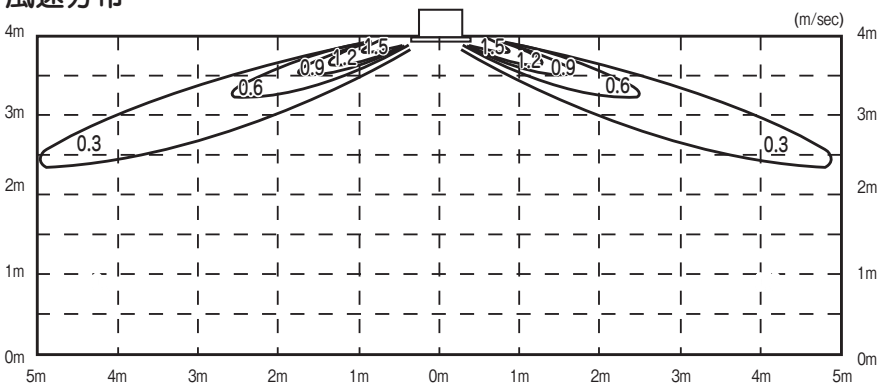
(a)　冷房　風量：P 急
ルーバ位置



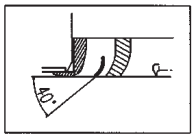
温度分布



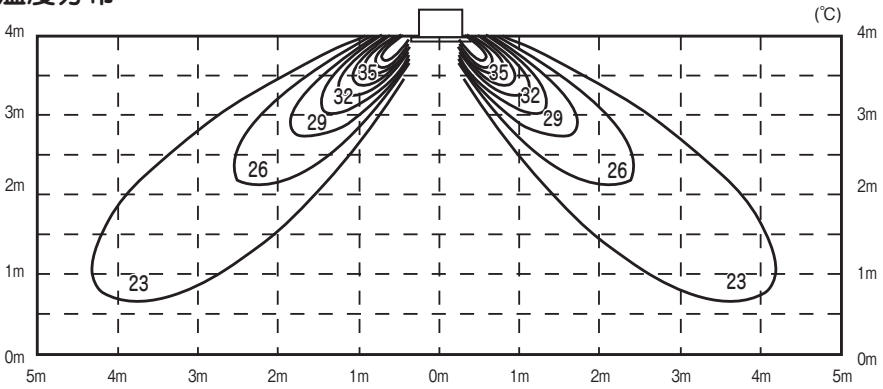
風速分布



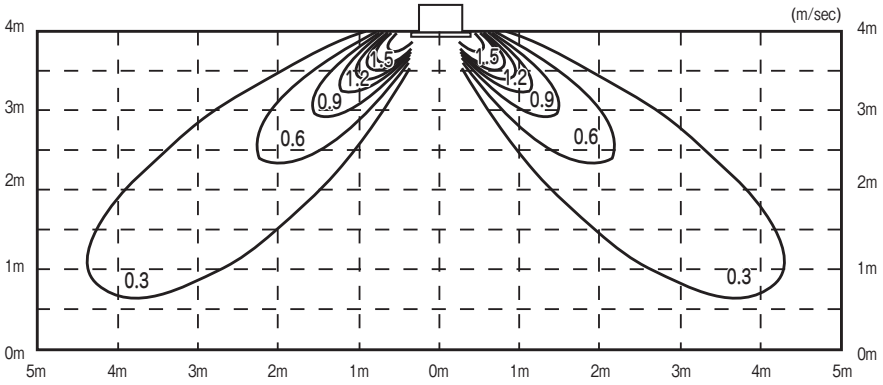
(b)　暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布

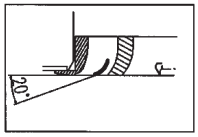


風速分布

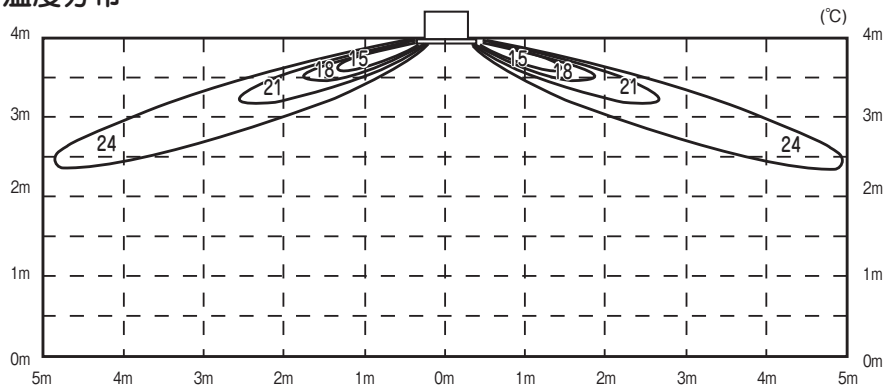


FDTWKP805S，1605S

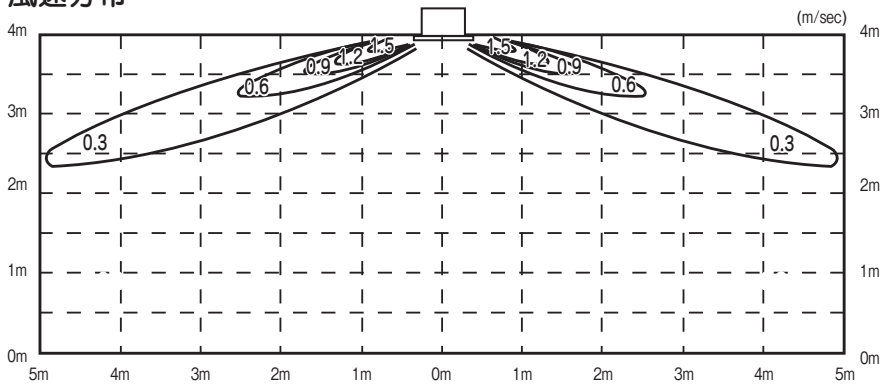
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



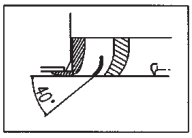
温度分布



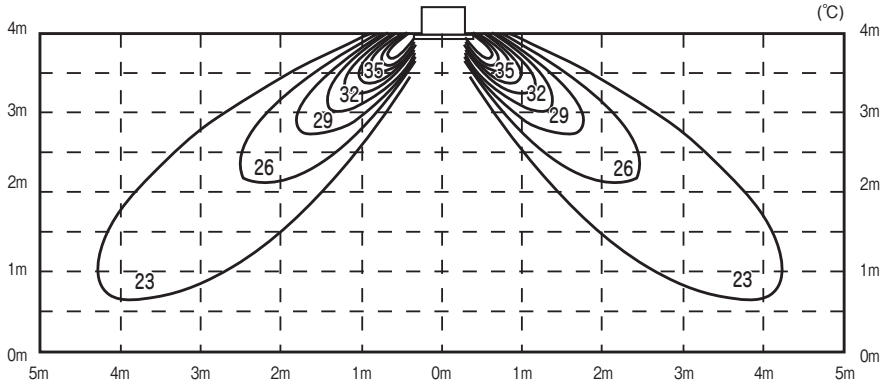
風速分布



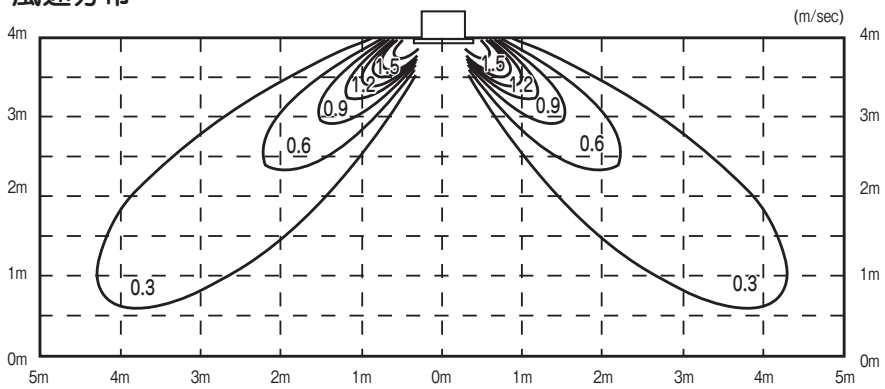
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布



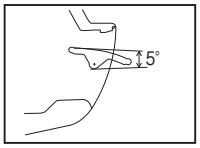
風速分布



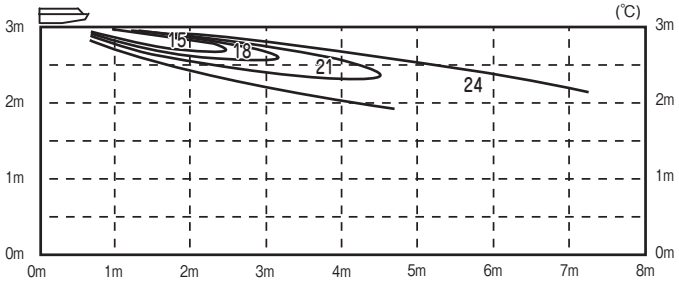
(3) 天吊形（FDE）

FDEKP565S

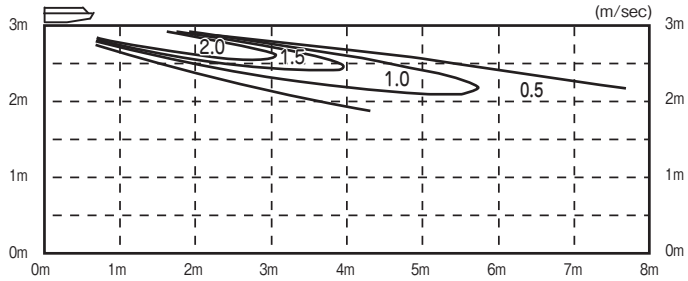
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



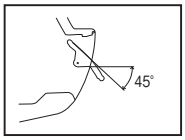
温度分布



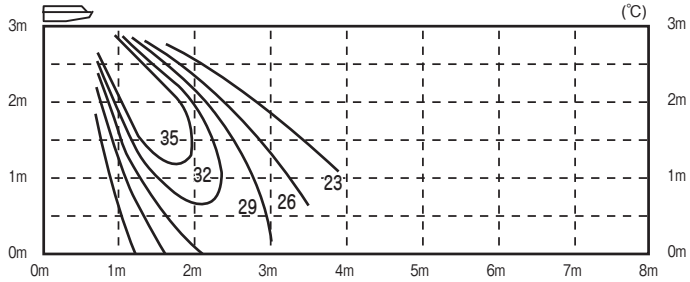
風速分布



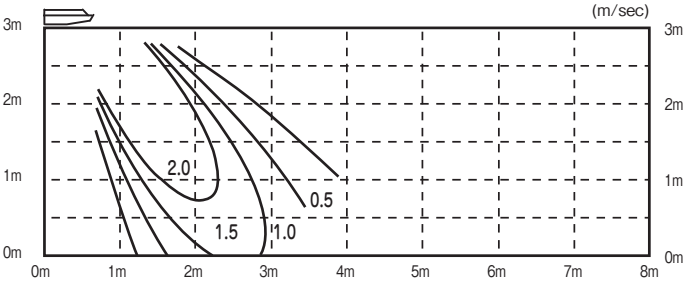
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布



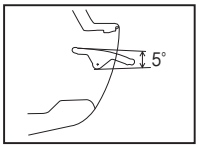
風速分布



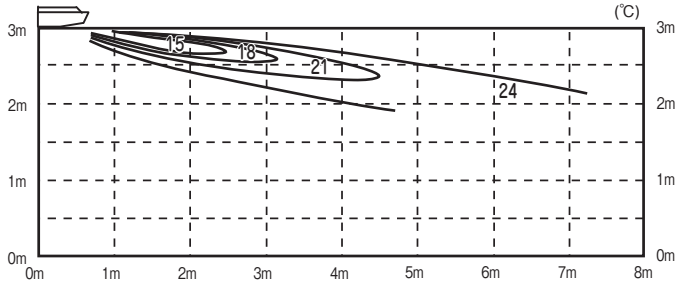
ISD14210 A

FDEKP1125S（ツイン接続）

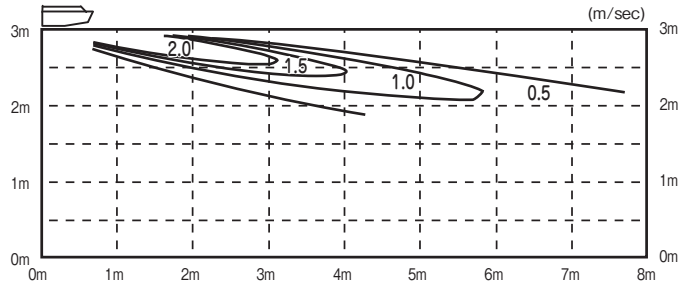
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



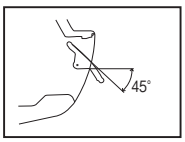
温度分布



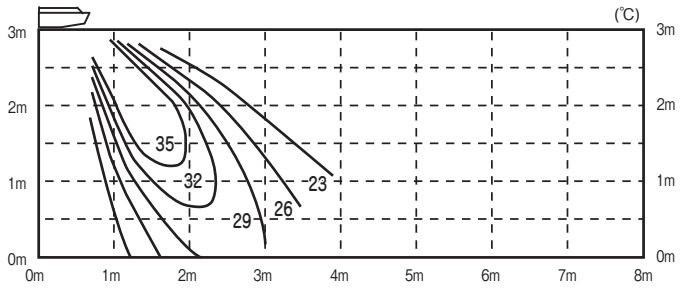
風速分布



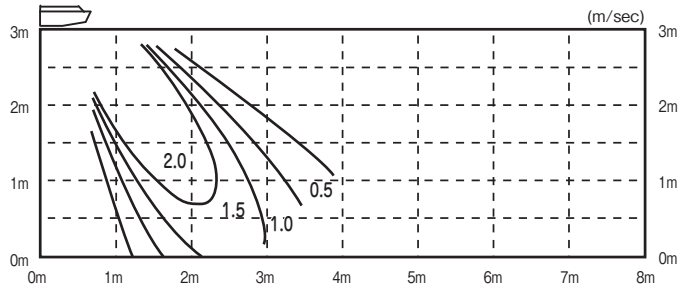
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布



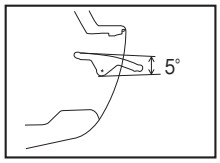
風速分布



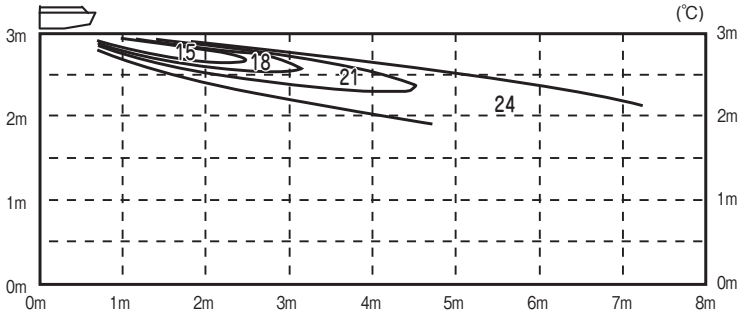
ISD14210 A

FDEKP1125S（シングル接続），1605S

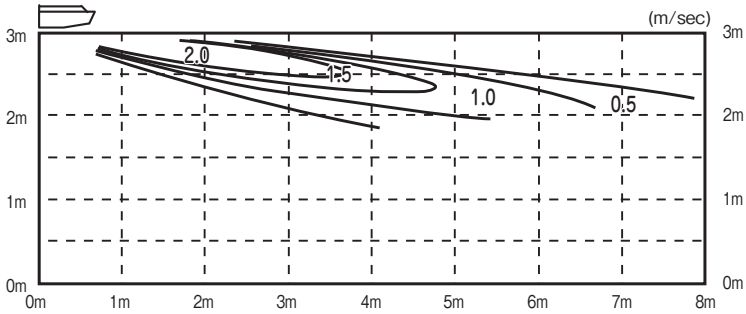
(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置



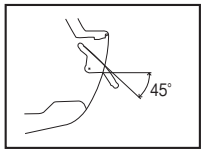
温度分布



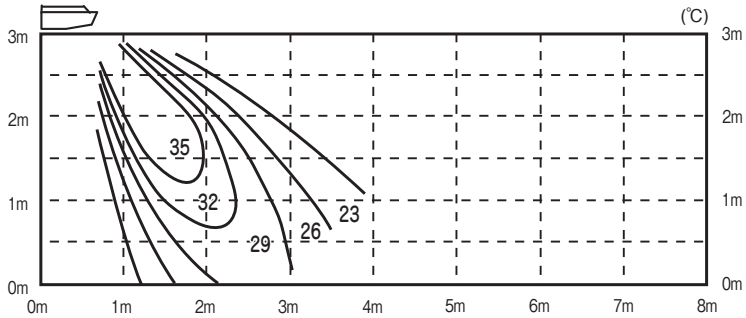
風速分布



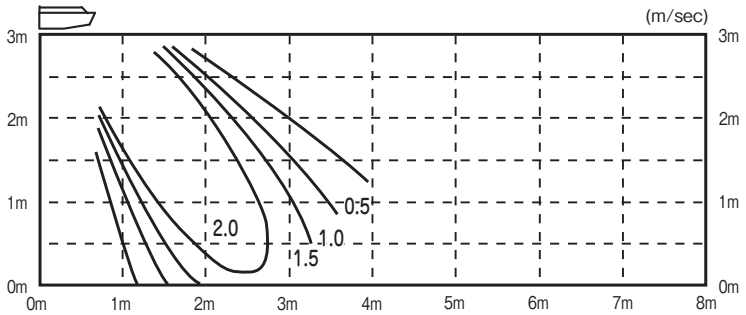
(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置



温度分布



風速分布



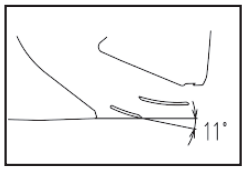
ISD14210 A

(4) 壁掛形(FDK)

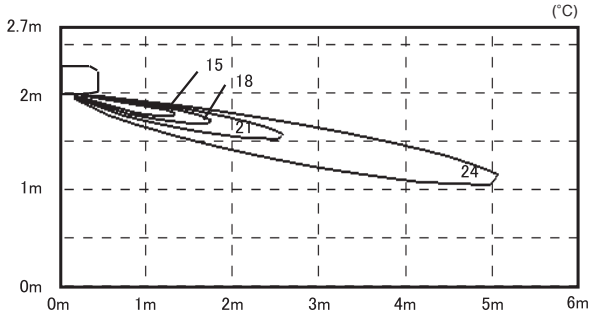
FDKKP565S

(a) 冷房　風量：P 急

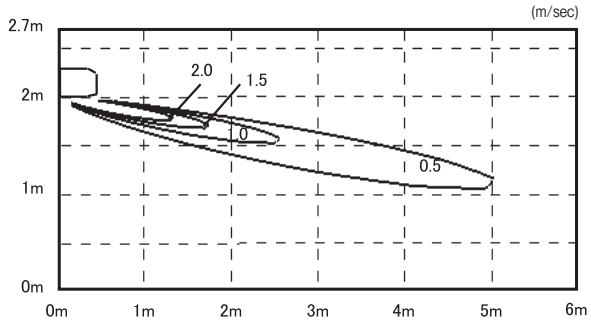
ルーバ位置



温度分布

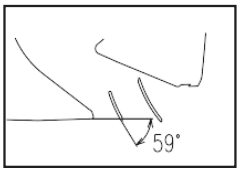


風速分布

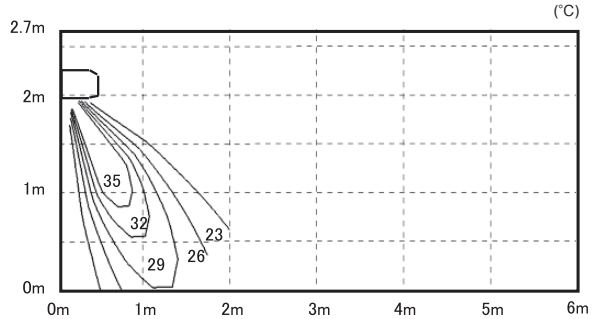


(b) 暖房　風量：P 急

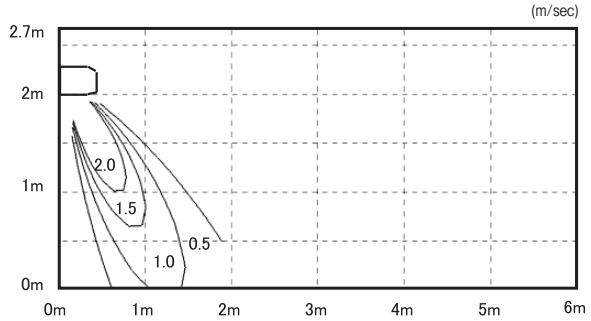
ルーバ位置



温度分布



風速分布

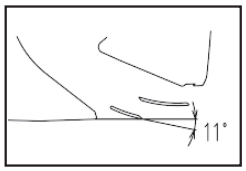


ISD17025

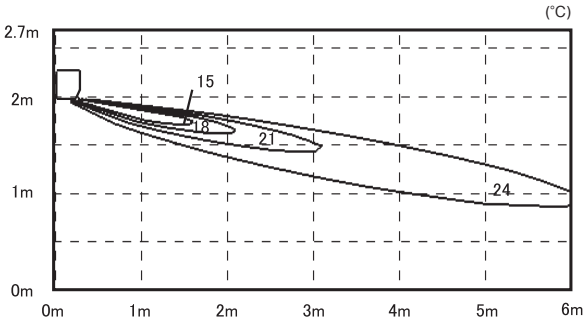
FDKKP805S

(a) 冷房　風量：P 急

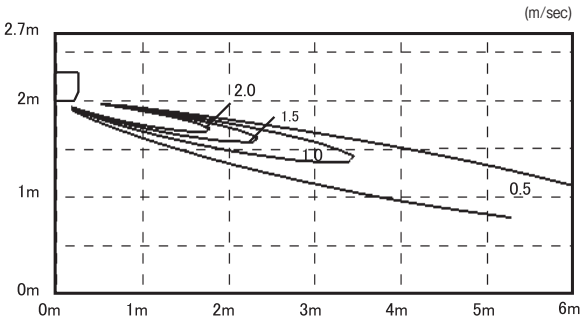
ルーバ位置



温度分布

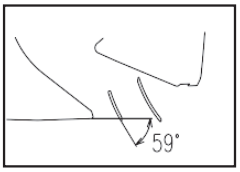


風速分布

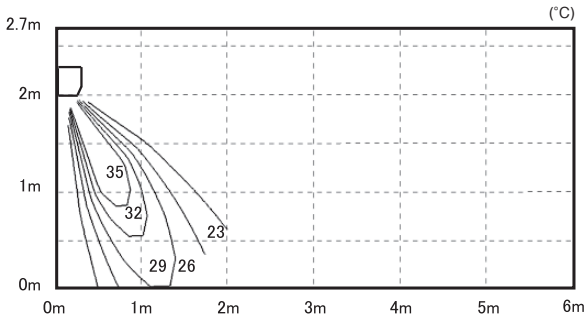


(b) 暖房　風量：P 急

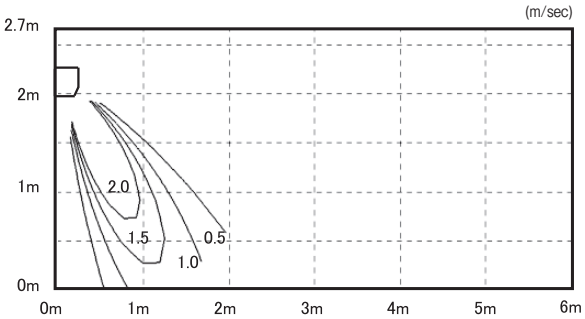
ルーバ位置



温度分布



風速分布



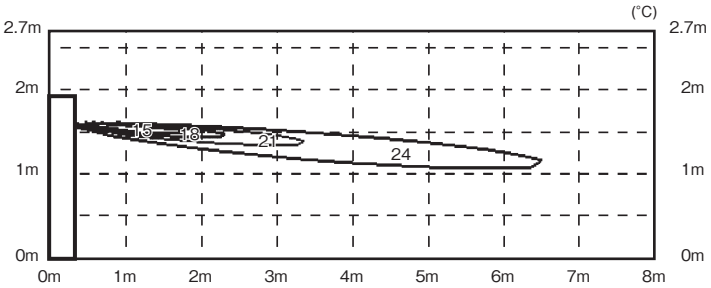
ISD17025

(5) 床置形（FDF）

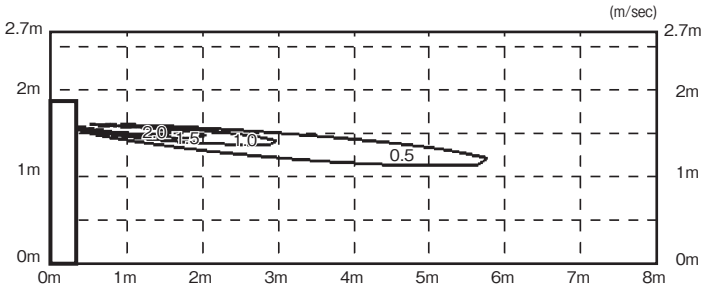
FDFKP565S

(a) 冷房　風量：P 急

ルーバ位置：水平　温度分布

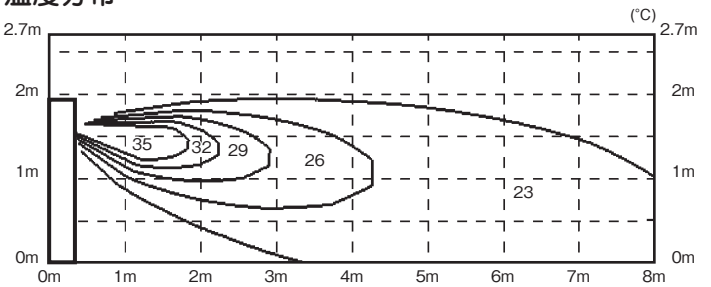


風速分布

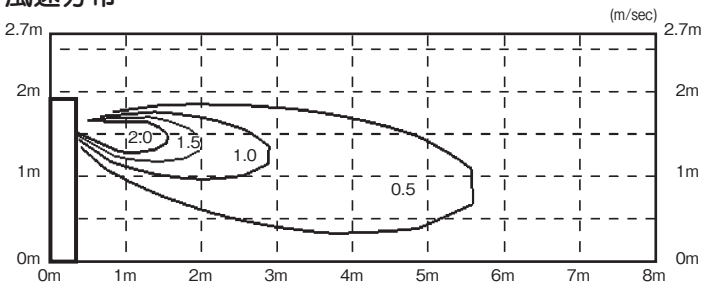


(b) 暖房　風量：P 急

ルーバ位置：水平　温度分布



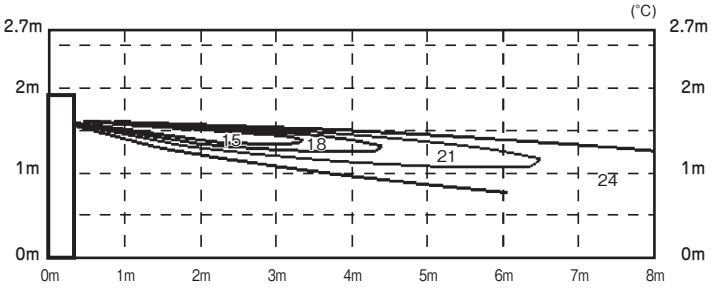
風速分布



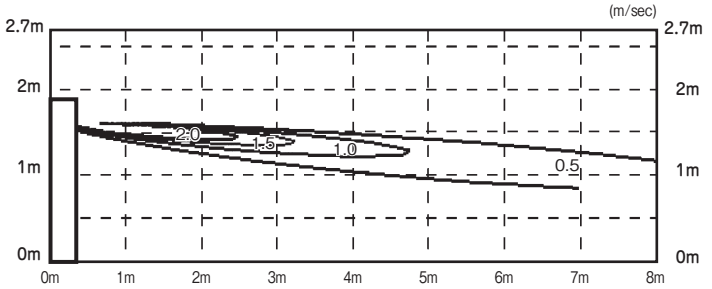
FDFKP1125S, 1605S

(a) 冷房　風量：P 急
ルーバ位置：水平

温度分布

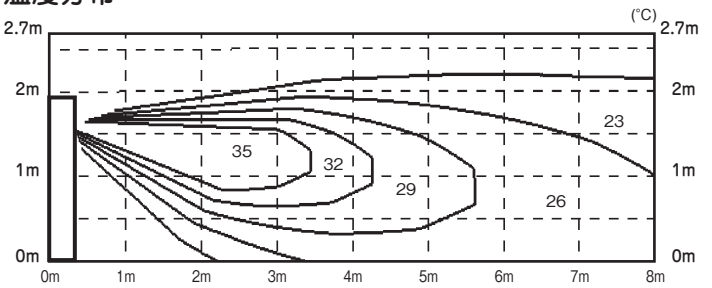


風速分布

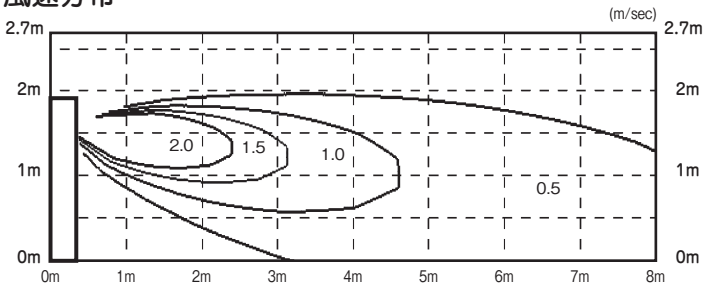


(b) 暖房　風量：P 急
ルーバ位置：水平

温度分布



風速分布



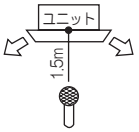
8. 運転音

運転音は，JIS規格に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

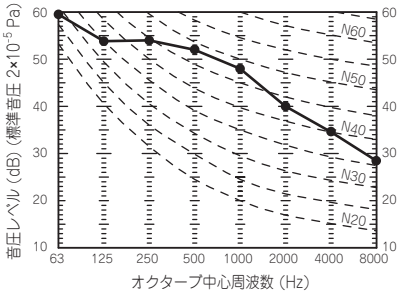
(1) 室内ユニット

(a) 天井埋込形4方向吹出し（FDT）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）



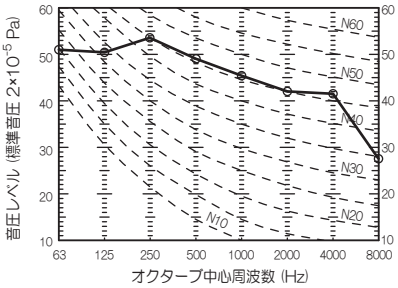
FDTKP565S



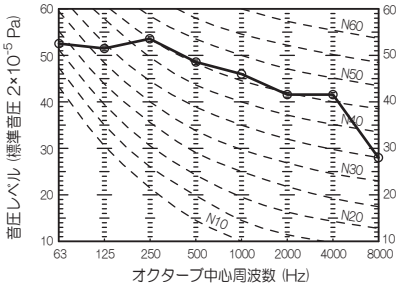
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTKP1125S, 1605S

冷房

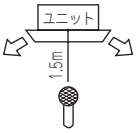


暖房

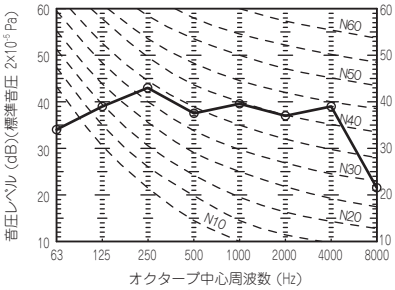


(b) 天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方 1.5m）

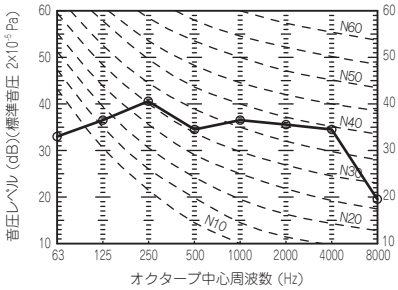


FDTWKP565S（ツイン接続）



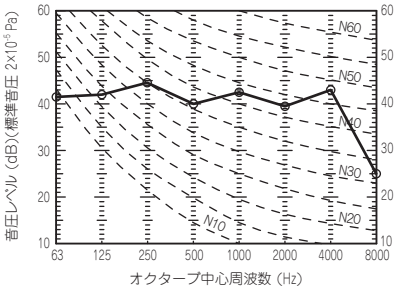
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWKP565S（トリプル接続）



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWKP805S，1605S

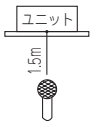


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

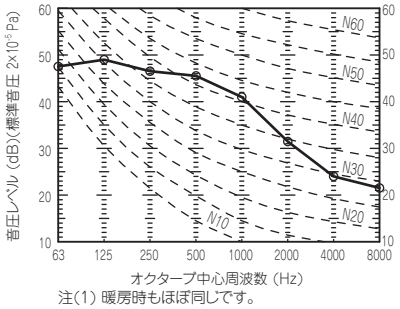
(C) 天井カセテリア（FDR）

(i) サイレントパネル仕様

（測定条件：JIS B 8616・冷房
マイク位置：吸込パネル中央下方1.5m）

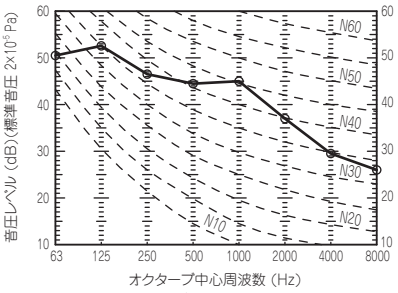


FDRKP565S



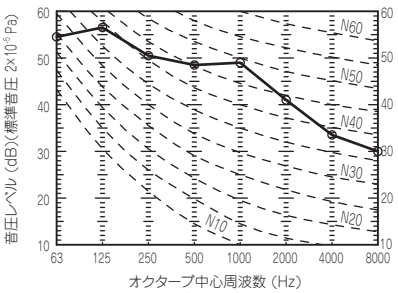
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRKP715S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

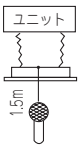
FDRKP1125S, 1605S



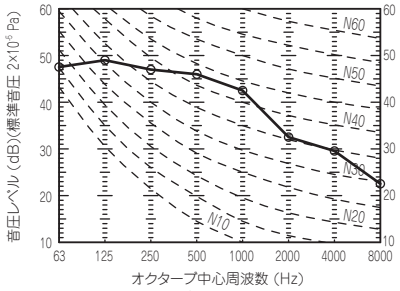
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(ii) キャンバスパネル仕様

（測定条件：JIS B 8616・冷房
マイク位置：吸込パネル中央下方1.5m）

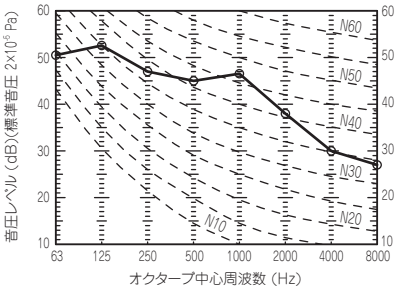


FDRKP565S



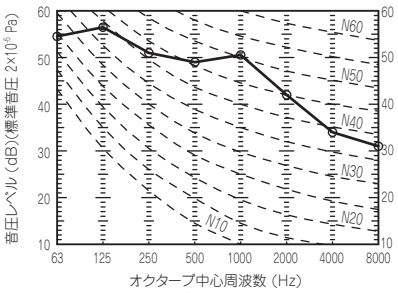
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRKP715S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

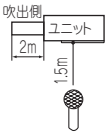
FDRKP1125S, 1605S



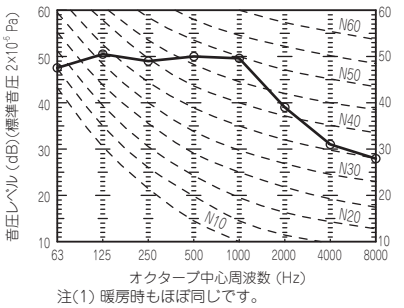
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(iii) 天井リターン仕様

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

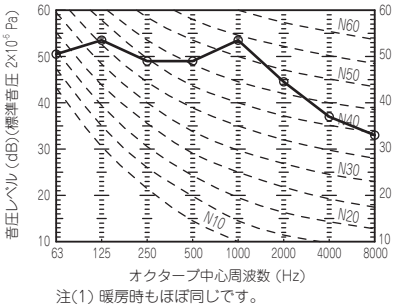


FDRKP565S



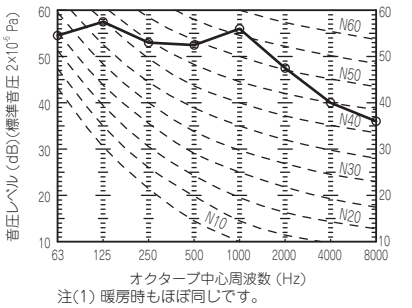
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRKP715S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

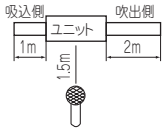
FDRKP1125S, 1605S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

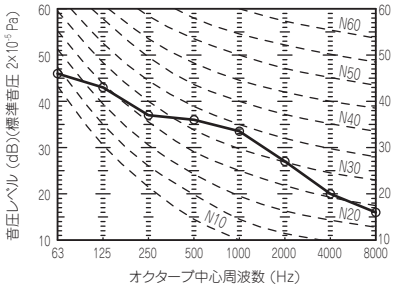
(d) 高静圧ダクト形 (FDU)

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）



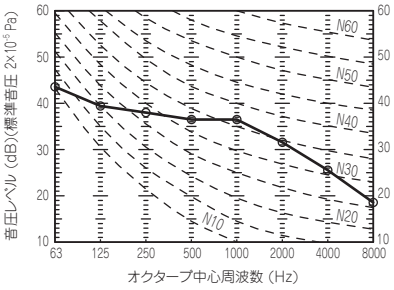
(i) 標準仕様
(ii) 丸ダクト仕様

FDUKP565S



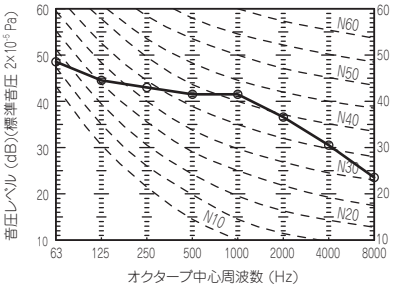
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUKP715S



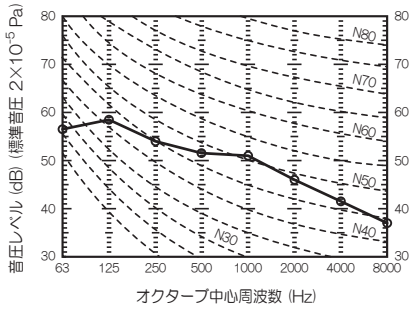
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUKP1125S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

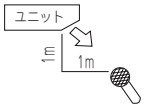
FDUKP1605S



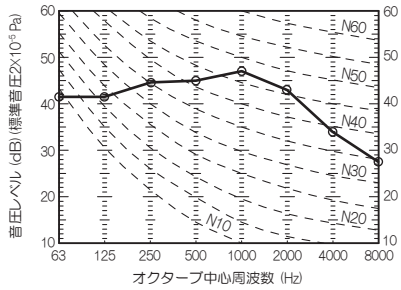
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(e) 天吊形 (FDE)

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット前方 1m, 下方 1m）

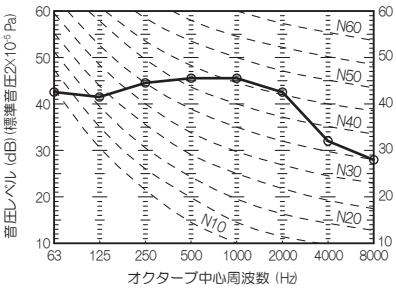


FDEKP565S



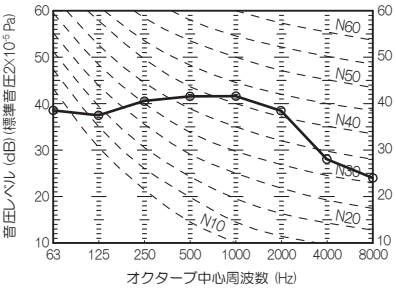
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDEKP1125S（シングル接続),1605S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

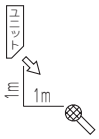
FDEKP1125S（ツイン接続）



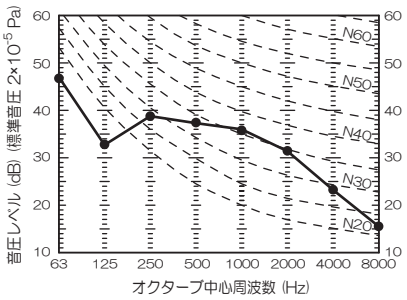
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(f) 壁掛形（FDK）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット前方 1m, 下方 1m）

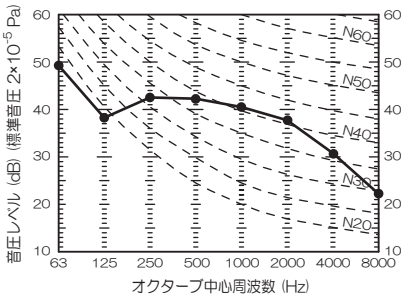


FDKKP565S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDKKP1125S

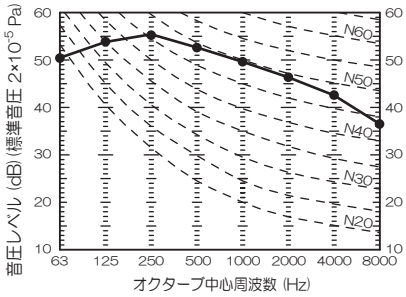


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(g) 床置形（FDF）

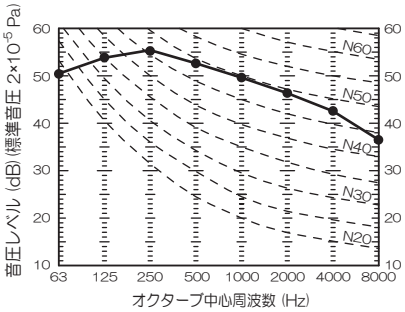
（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：正面, 前方，高さ各 1m）

FDFKP1125S（シングル接続），1605S



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

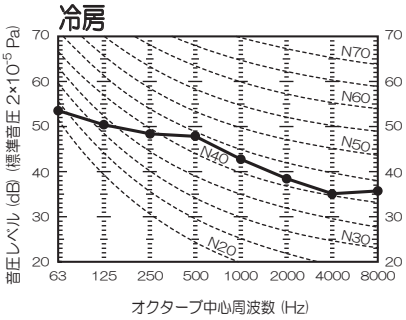
FDFKP1125S（ツイン接続）

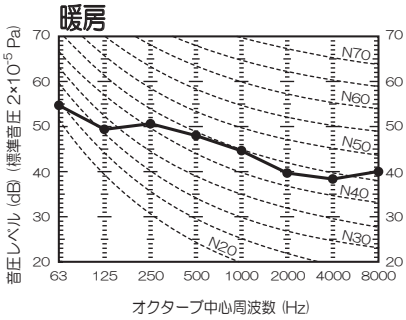


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

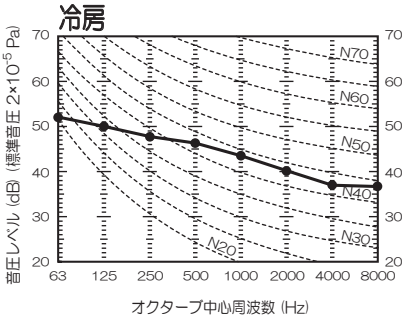
(2) 室外ユニット

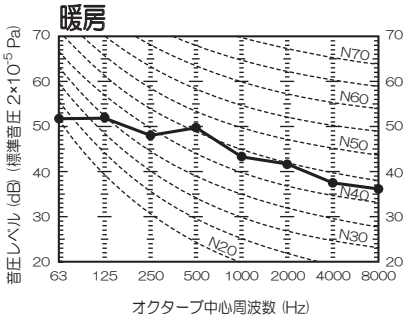
FDCKP805H



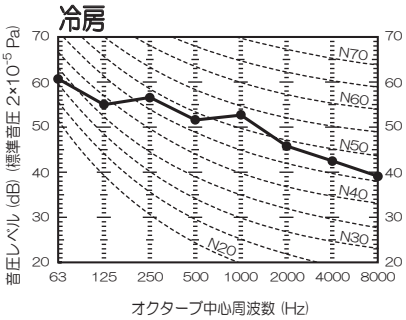


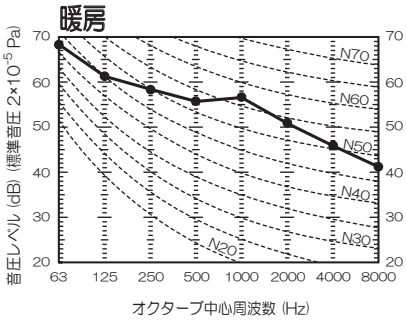
FDCKP1125H



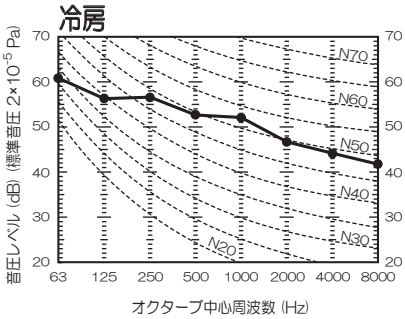


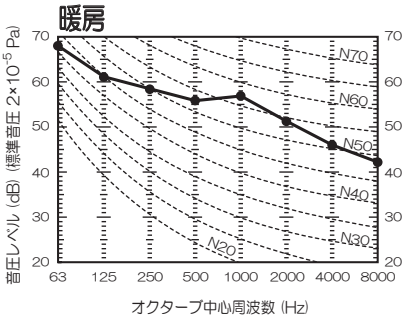
FDCKP1405H





FDCKP1605H





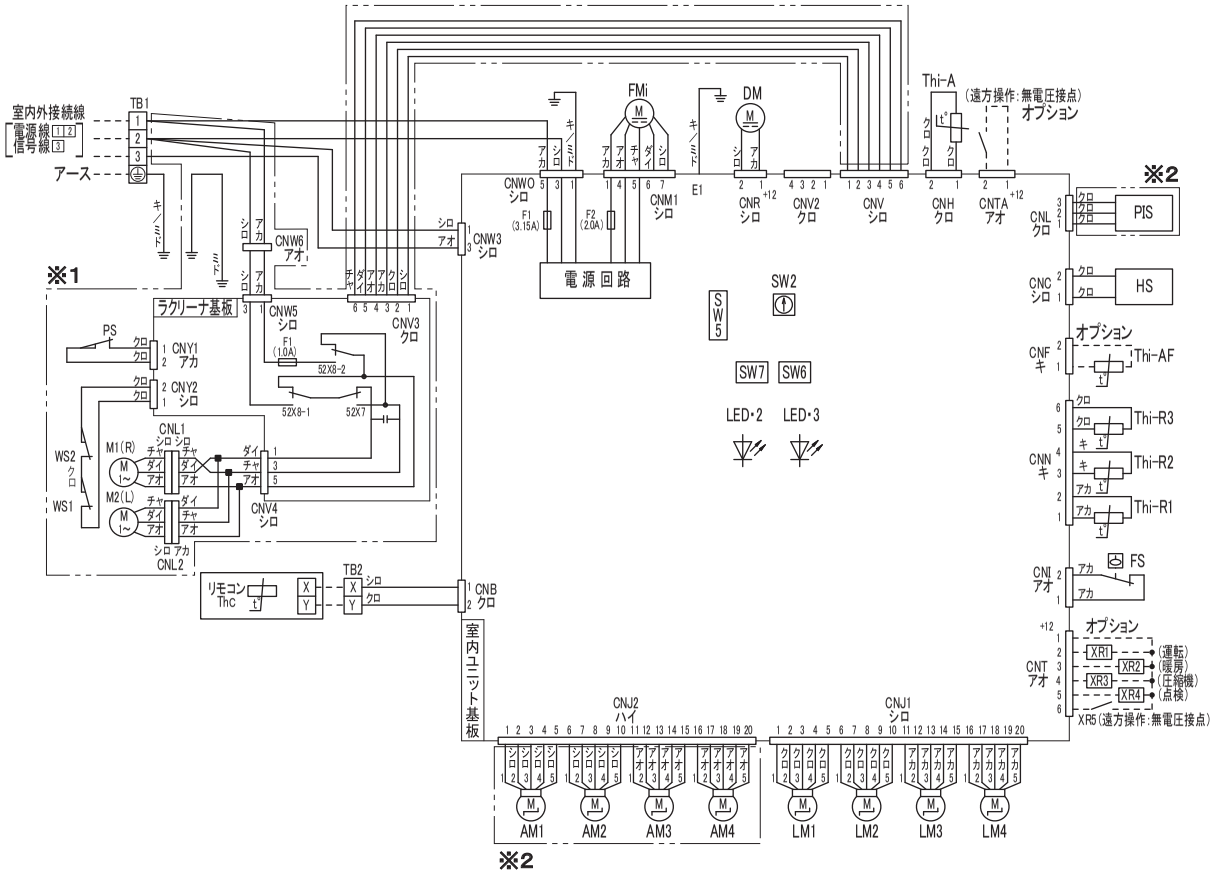
9. 電気配線図

(1) 室内ユニット

(a) 天井埋込形4方向吹出し(FDT)

FDTKP565S, 1125S, 1605S

注(1) 本図はエアコン本体側部分について示しています。お掃除パネル部分については, 次ページをご覧ください。



●記号説明

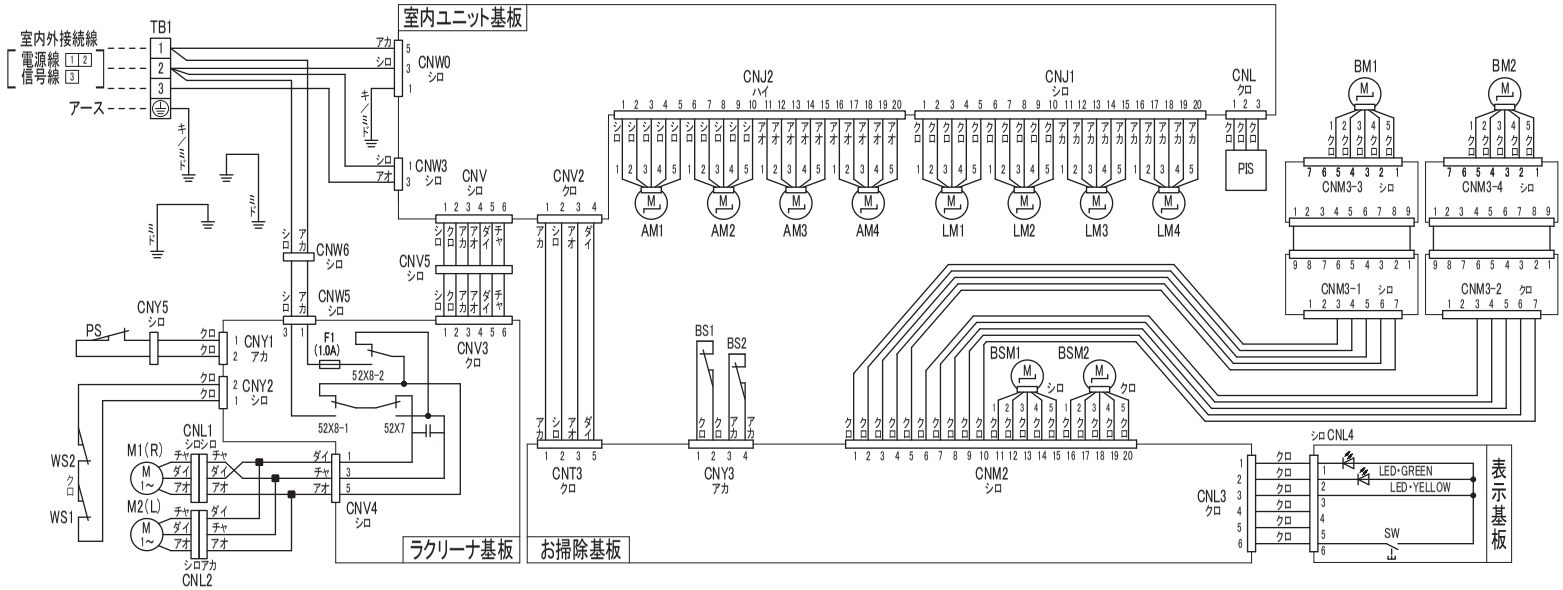
記号	名称
AM1～4	エアフレックスモータ
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1, 2	ヒューズ(室内ユニット基板)
F1	ヒューズ(ラクリーナ基板)
FMi	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
HS	湿度センサ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
LM1～4	ルーバモータ
M1,2	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS	パネルスイッチ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機 親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
ThC	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-AF	吹出空気温度センサ
Thi-R1, 2, 3	熱交温度センサ
WS1,2	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1, 2	M1,M2用リレー

記事 1. ------は現地配線を示します。
2. TB1は強電用端子台(室内外接続線), TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3. 室内外接続線は, 室外ユニット配線図をご覧ください。
4. リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5. リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6. 標準パネルまたはエアフレックスパネルの場合は, ※1のラクリーナ基板および配線等はありません。
7. 標準パネルの場合は, ※2か所の配線等はありません。

PJF000Z593
PJF000Z597
PJF000Z601

FDTKP565S，1125S，1605S

注(1)　本図はお掃除パネル部分について示しています。エアコン本体側部分については，前ページをご覧ください。



●記号説明

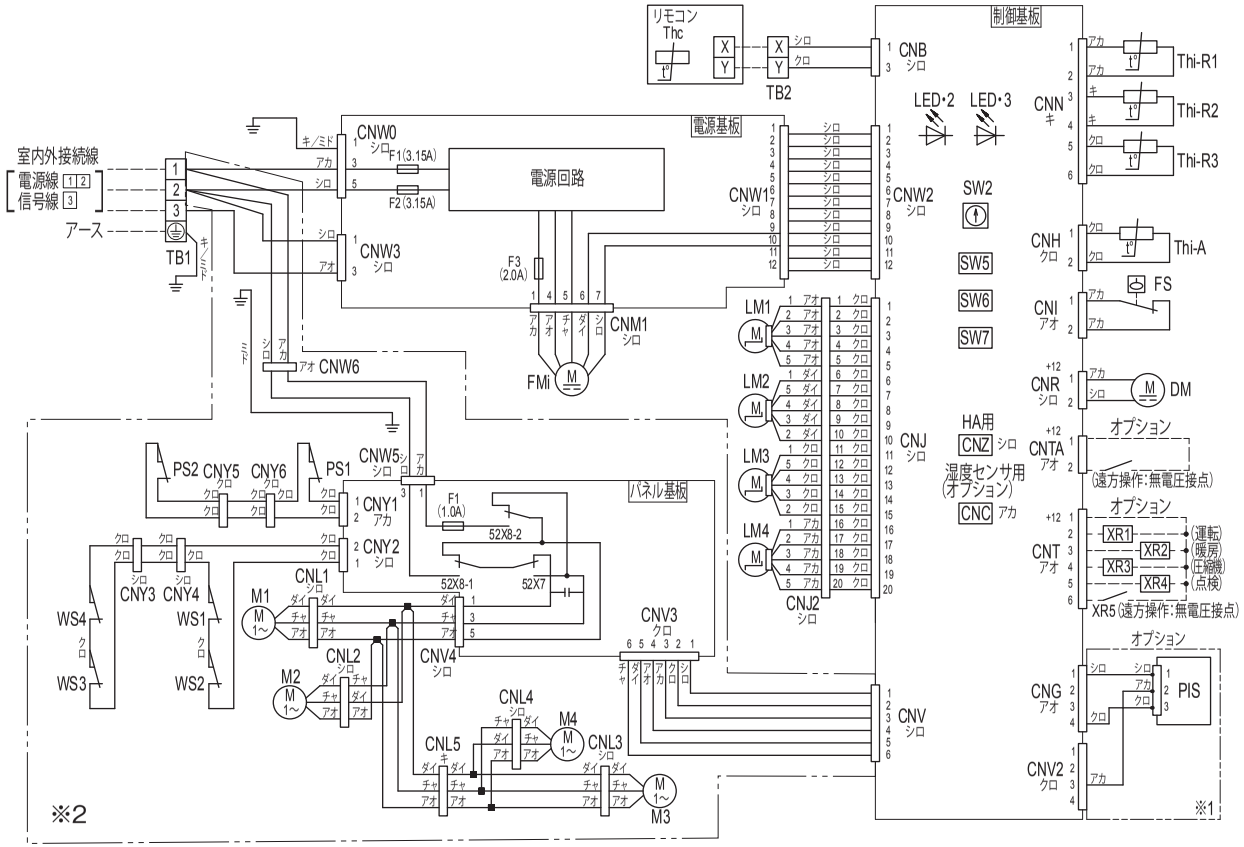
記　号	名　　称
AM1～4	エアフレックスモータ
BM1,2	ブラシモータ
BS1,2	ブラシ位置検知スイッチ
BSM1,2	シャフト駆動モータ
CNA～Z	コネクタ
F1	ヒューズ
LED・GREEN	表示灯(緑)右表参照
LED・YELLOW	表示灯(黄)右表参照
LM1～4	ルーバモータ
M1,2	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS	パネルスイッチ
SW	バックアップスイッチ
TB1	端子台(電源)(口印)
WS1,2	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1,M2用リレー

パネル表示部	内容
緑の点灯	お掃除運転中
黄の点灯	ダスト回収表示
緑の連続点滅	通信異常
緑の1回点滅	位置検知不能
緑の2回点滅	作動不良
緑の3回点滅	誤検知
緑の4回点滅	パネルSW作動

バックアップSW

ON時間	制御内容
3秒未満	エアフィルタ清掃開始
3～6秒	ブラシ清掃開始
6秒以上	表示消灯

(b) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

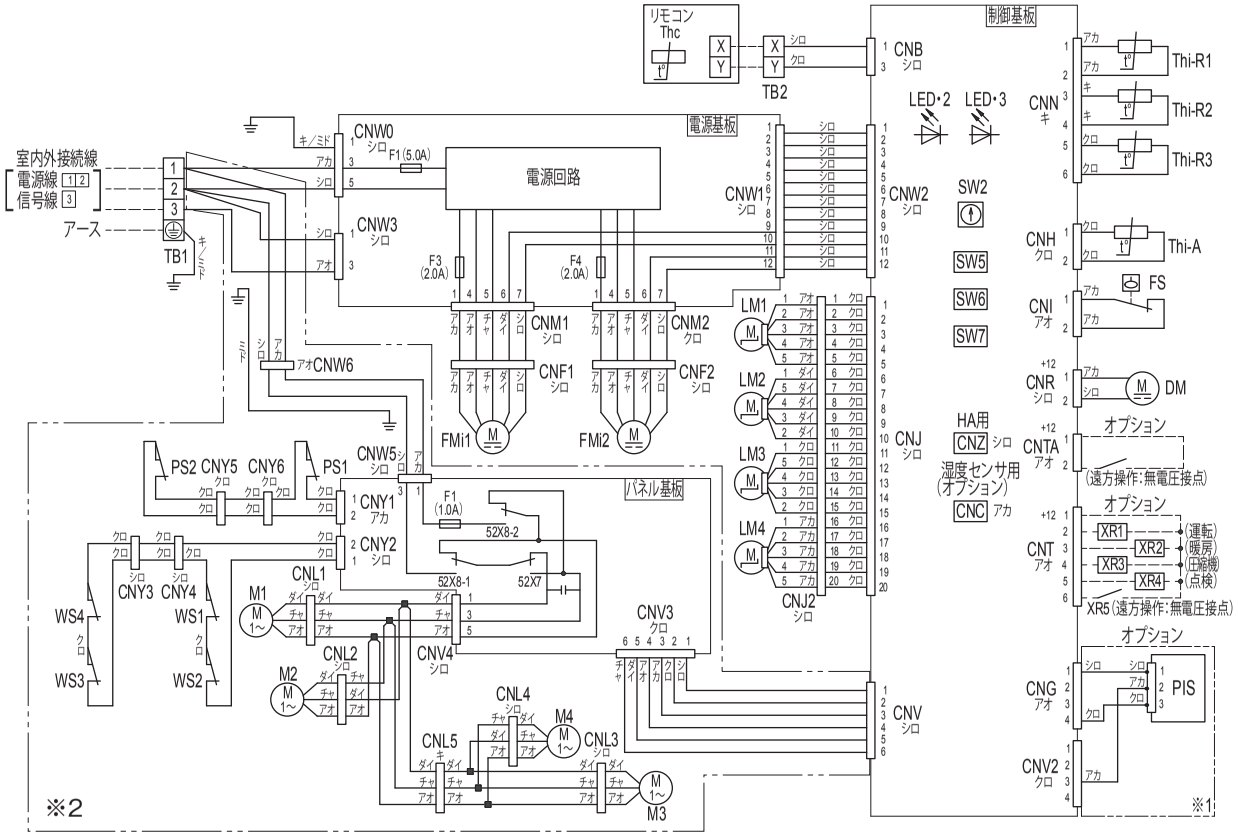


●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1～3	ヒューズ
FMi	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
LED・2	表示灯（緑-マイコン正常表示）
LED・3	表示灯（赤-点検表示）
LM1～4	ルーバモータ
M1～4	ラクリーナモータ
PS1,2	パネルスイッチ
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親／子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台（電源）（□印）
TB2	端子台（通信）（□印）
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
WS1～4	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1～4用リレー

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（室内外接続線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線）です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内（※1印）の回路は人感センサ（オプション）無しの場合配線されていません。
7.ラクリーナパネルを使用しない場合は※２箇所のパネル基板および配線はありません。

PJB001Z858
PJB001Z863



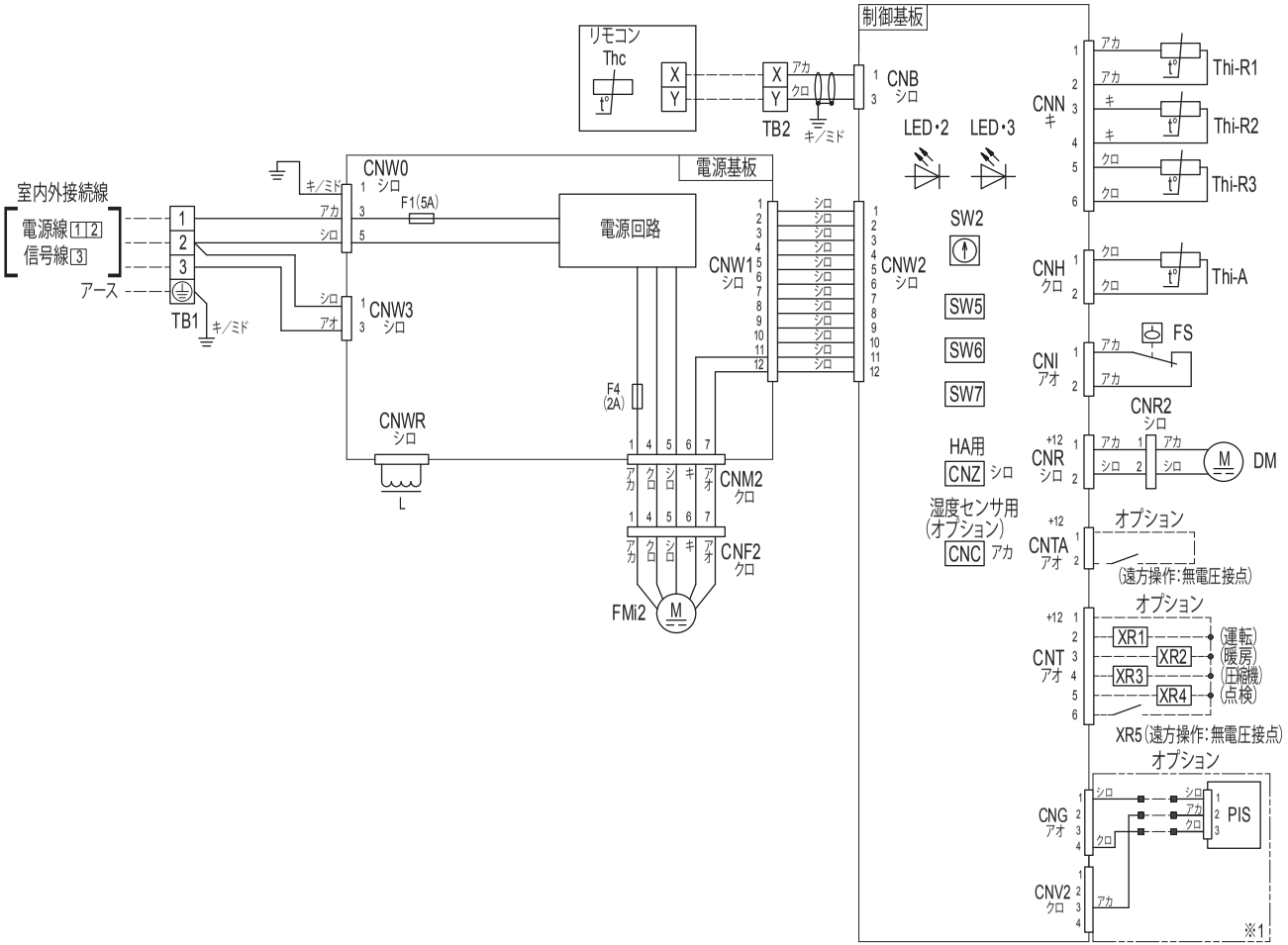
●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
LM1～4	ルーバモータ
M1～4	ラクリーナモータ
PS1,2	パネルスイッチ
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親／子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
WS1～4	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1～4用リレー

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。
7.ラクリーナパネルを使用しない場合は※2箇所のパネル基板および配線はありません。

PJB001Z859
PJB001Z864

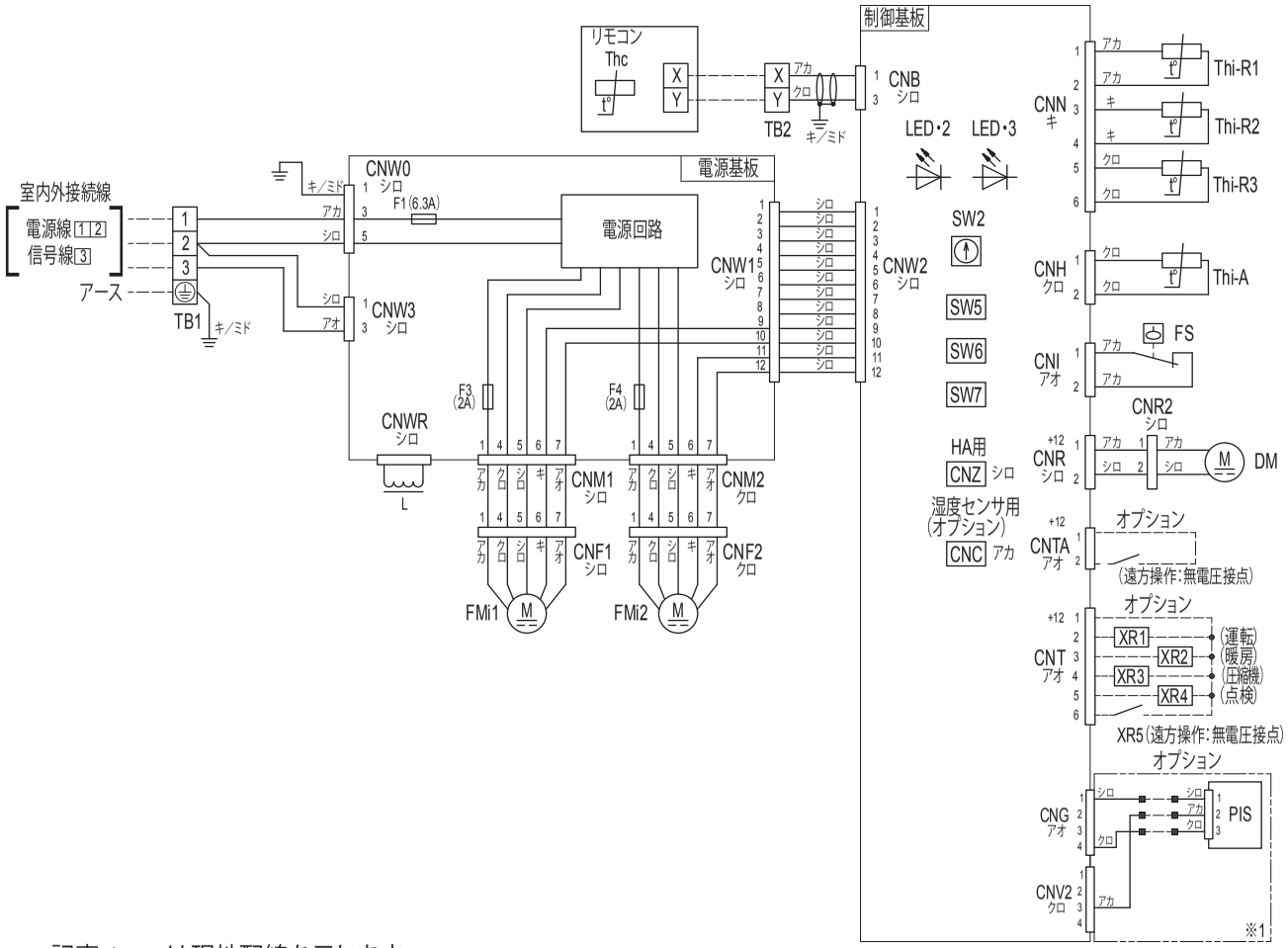
(c) 天埋カセテリア(FDR)



●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,4	ヒューズ
FMi2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

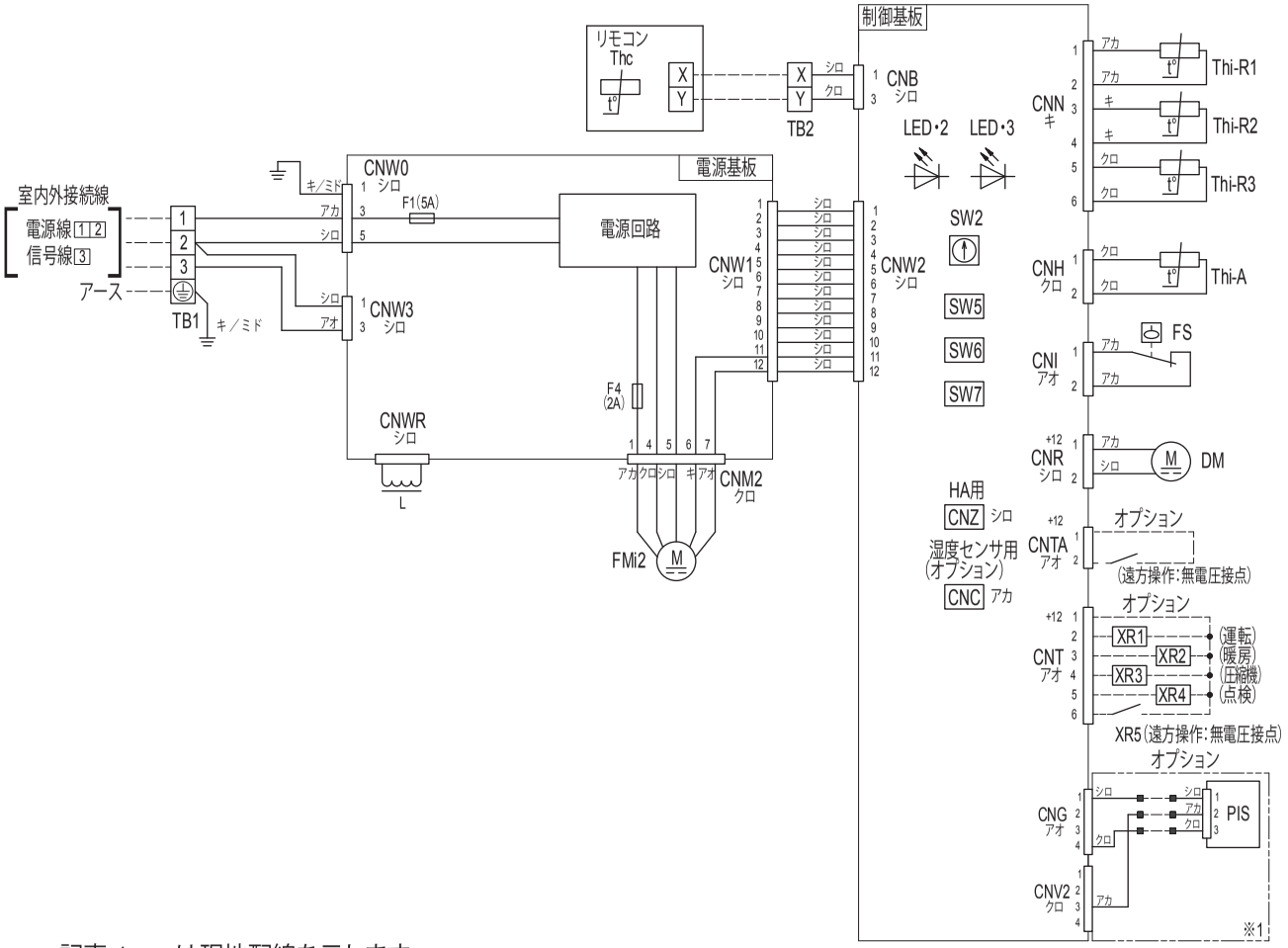


●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親／子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm² ×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

FDUKP565S

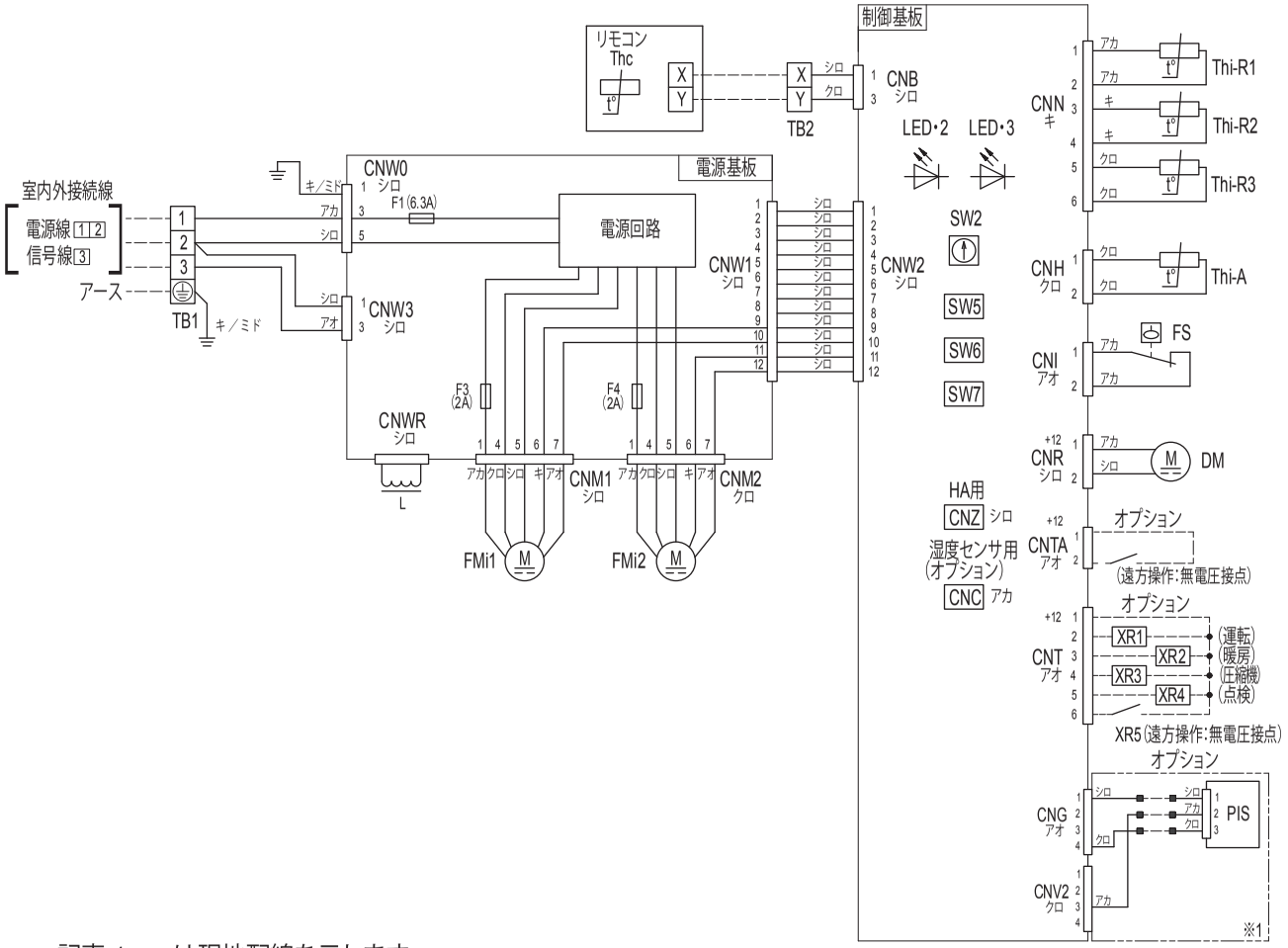


●記号説明

記　号	名　　称
CNB~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,4	ヒューズ
FMi2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親/子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

PJG000Z641

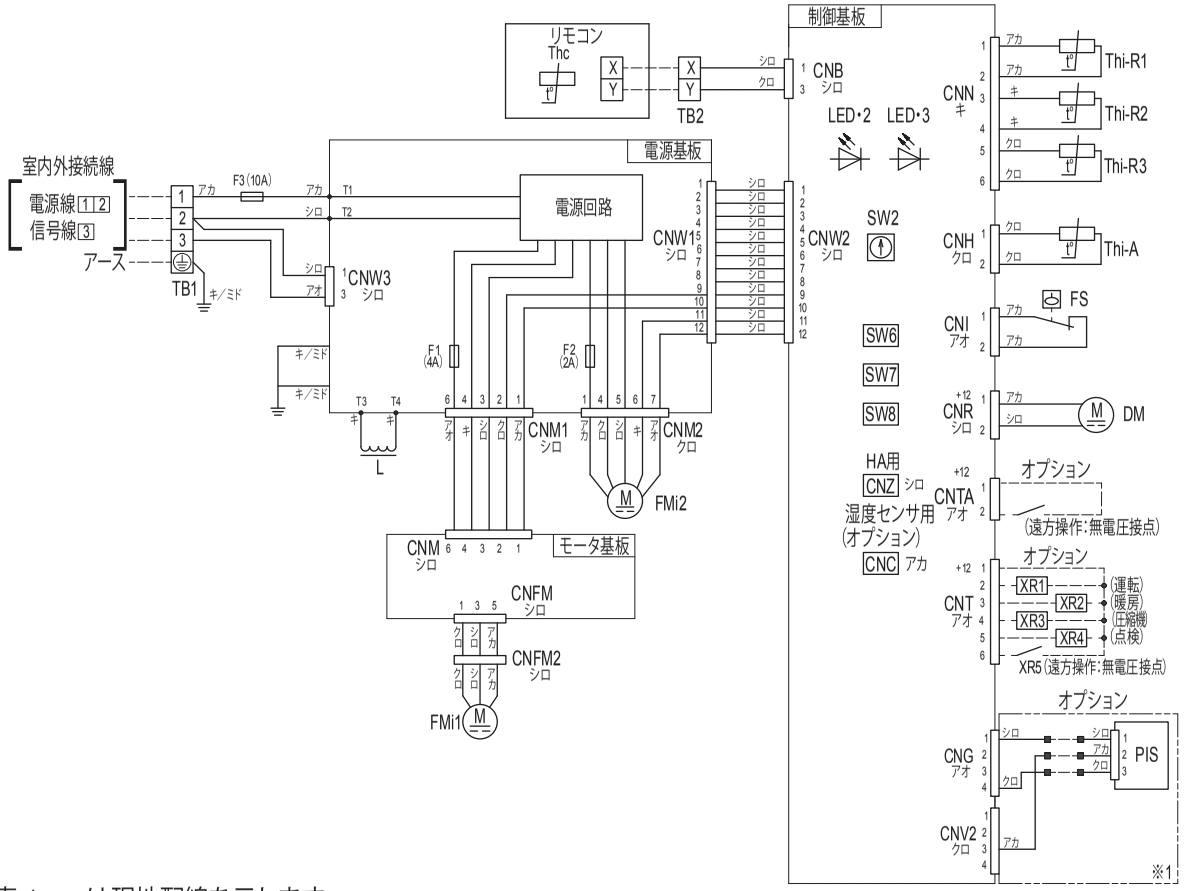


●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	ブルーラル機　親／子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm² ×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

PJG000Z642



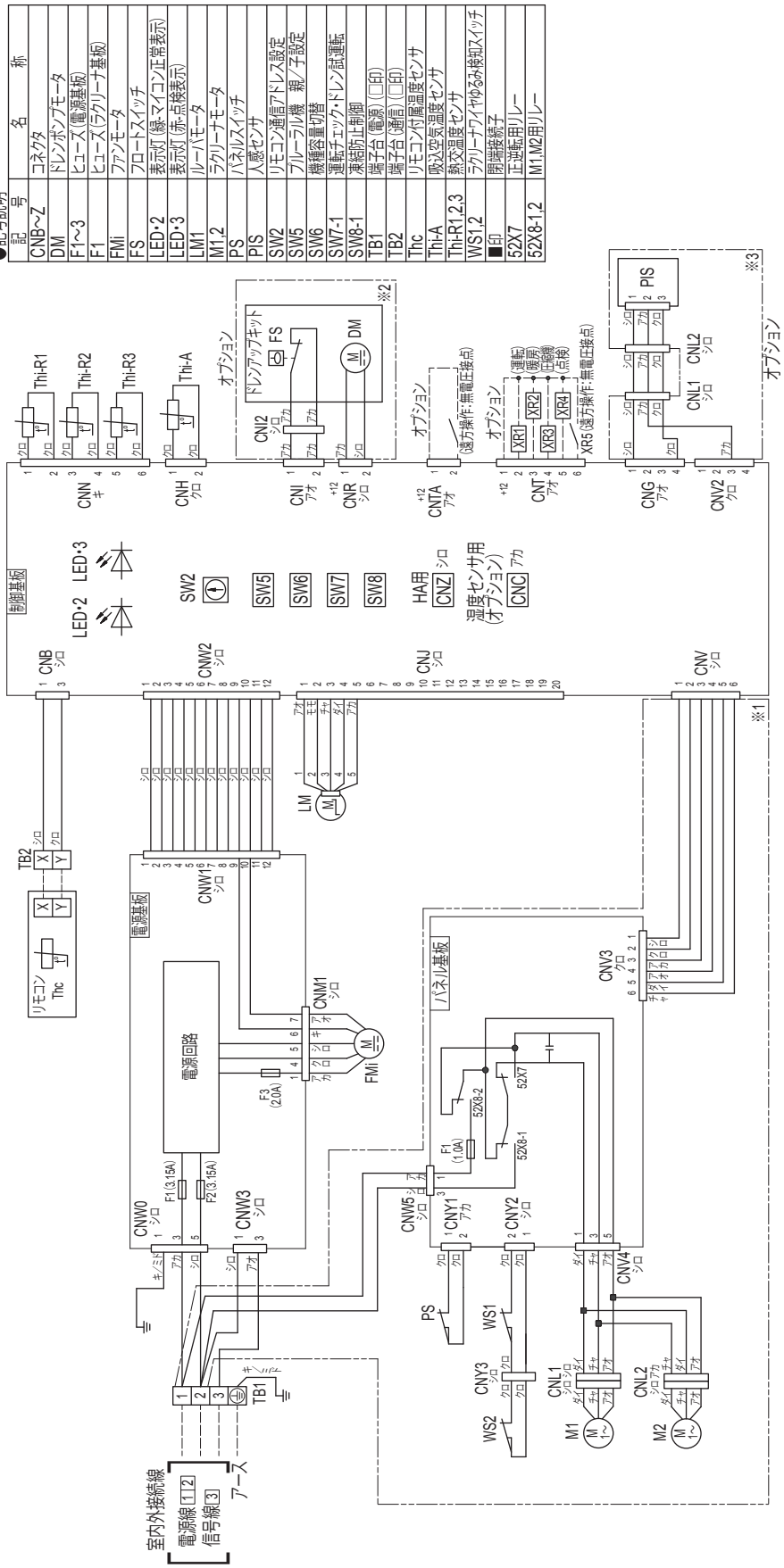
●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1～3	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
SW8-4	機外静圧使用範囲切替 出荷時／最大
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm^2 ×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

(e) 天吊形(FDE)

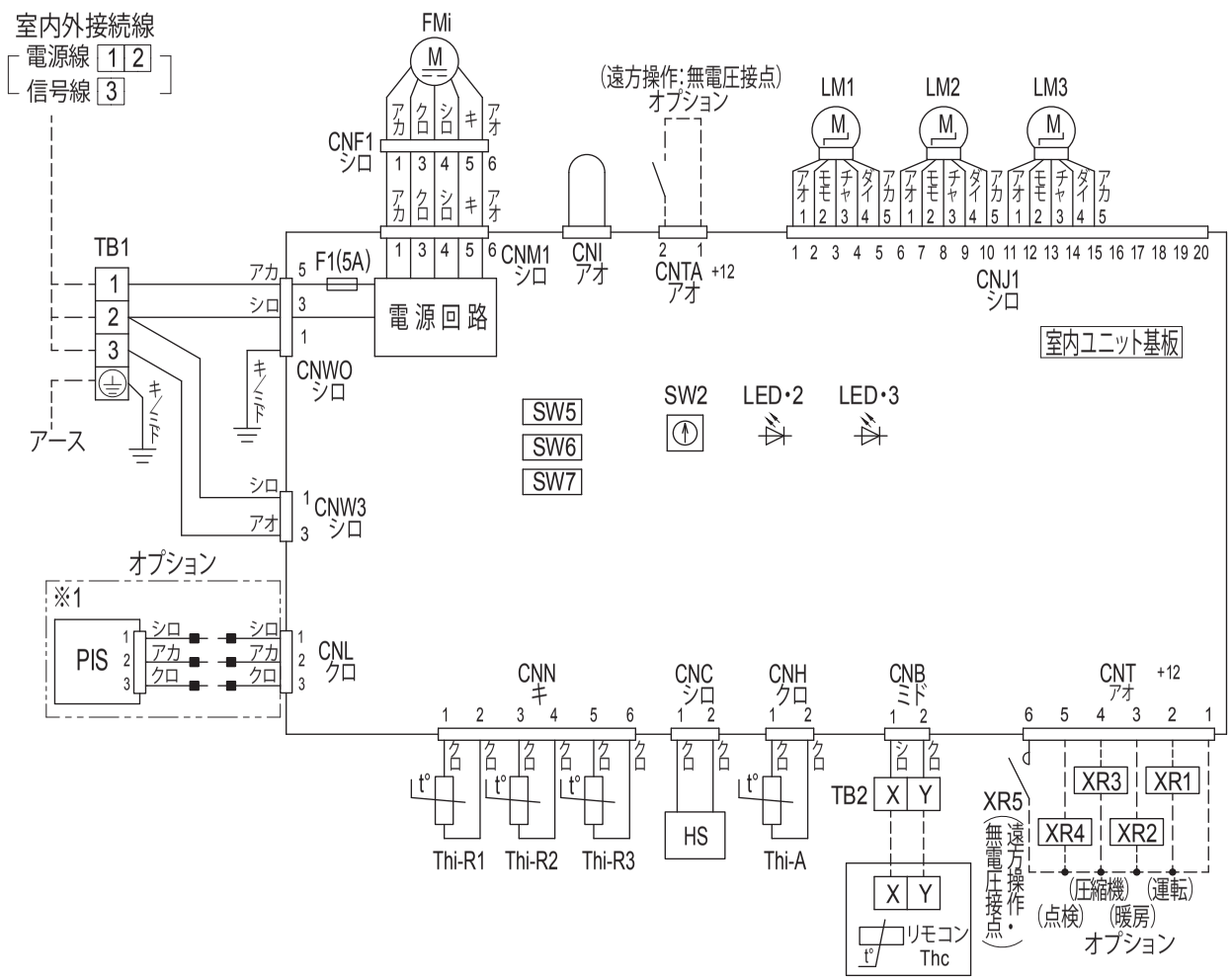
FDEKP565S, 1125S, 1605S



記事 1.----は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(室内外接続線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線)です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路はラクリーナ(オプション)無しの場合配線されていません。
7.2点鎖線内(※2印)の回路はドレンアップキット(オプション)無しの場合配線されていません。
8.2点鎖線内(※3印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

PFA004Z114

FDKKP565S，805S

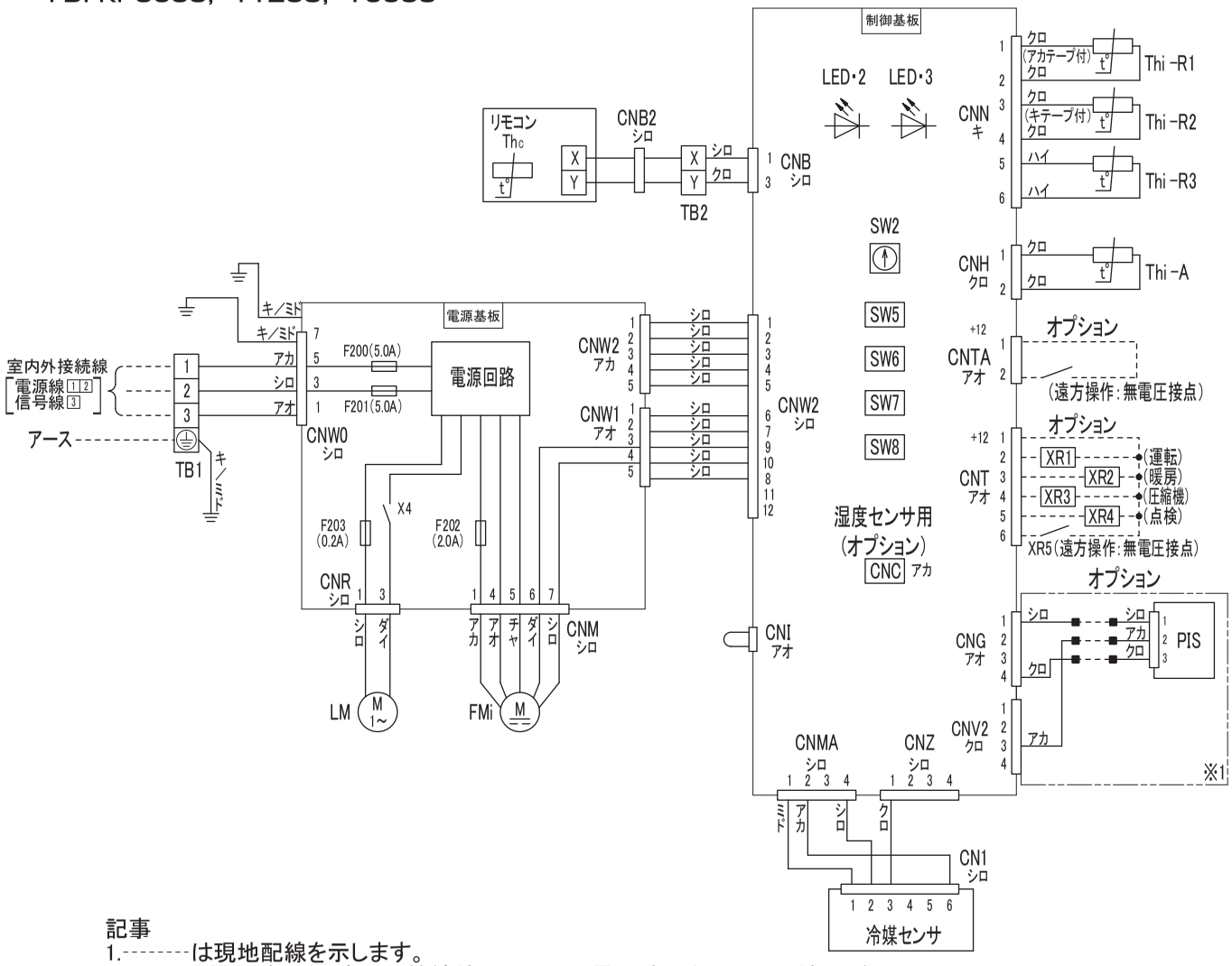


●記号説明

記　号	名　　称
CNB～Z	コネクタ
F1	ヒューズ
FMi	ファンモータ
HS	湿度センサ
LED・2	表示灯（緑-マイコン正常表示）
LED・3	表示灯（赤-点検表示）
LM1	フラップモータ
LM2	ルーバモータ（左）
LM3	ルーバモータ（右）
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親／子設定
SW6	機種容量切替
SW7 -1	運転チェック
TB1	端子台（電源）（□印）
TB2	端子台（通信）（□印）
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1.---は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（室内外接続線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線）です。
3.室内外接続線は、室外ユニット配線図をご覧ください。
4.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
5.リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内（※1印）の回路は人感センサ（オプション）無しの場合配線されていません。

FDFKP565S，1125S，1605S



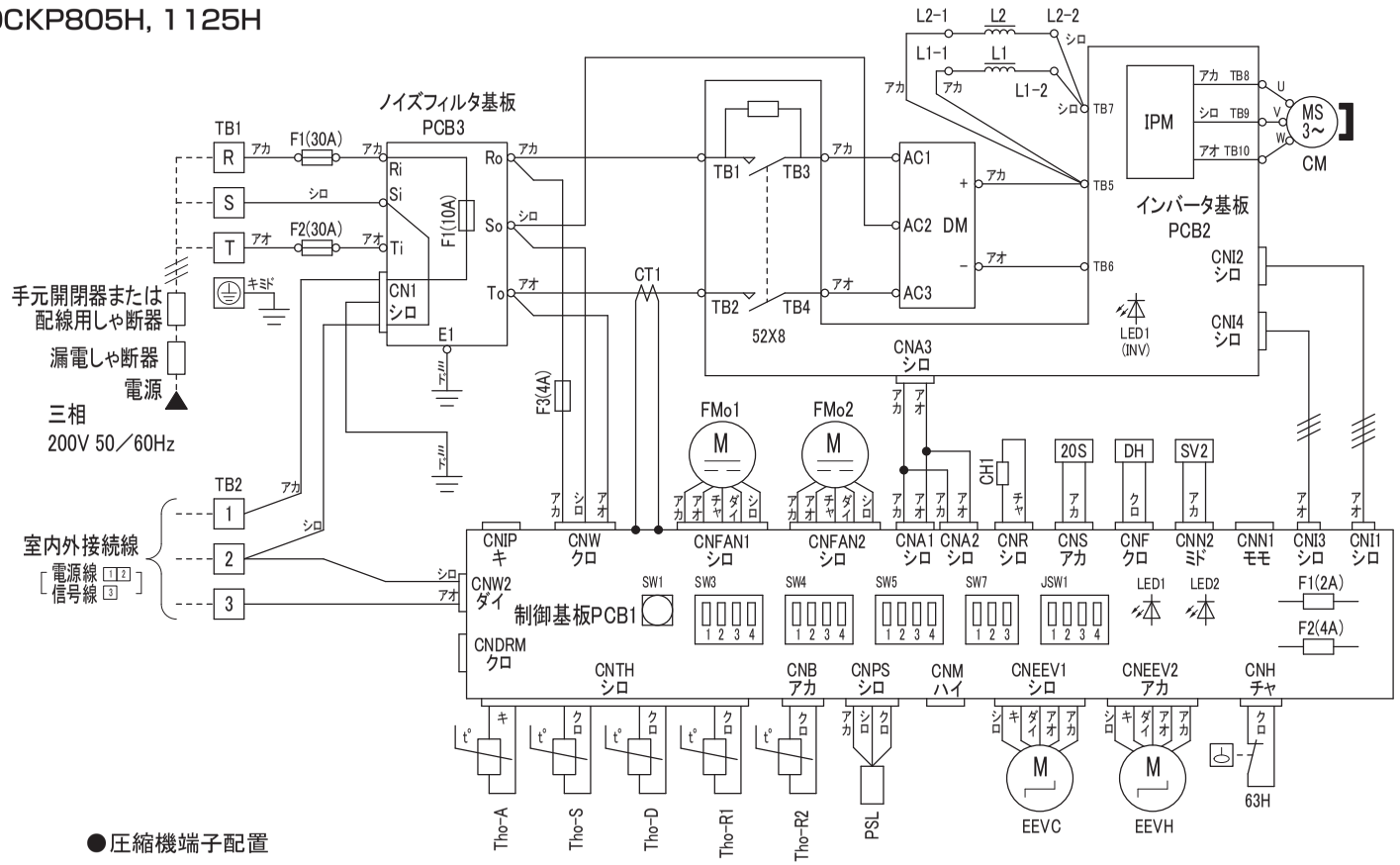
●記号説明

記号	名称
CNB～Z	コネクタ
F200～203	ヒューズ
FMi	ファンモータ
LED・2	表示灯（緑-マイコン正常表示）
LED・3	表示灯（赤-点検表示）
LM	ルーバモータ
PIS	人感センサ
SW2	リモコン通信アドレス設定
SW5	プルーラル機　親／子設定
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック
TB1	端子台（電源）（□印）
TB2	端子台（通信）（□印）
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
X4	LM用リレー
■印	閉端接続子

記事
1.--------は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（室内外接続線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線）です。
3.室内外接続線は、室外ユニットの配線図をご覧ください。
4.リモコンを別の場所に設置する場合、またはリモコンを複数（親・子）使用する場合。
①リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
延長距離が100mを超える場合の仕様については212ページをご覧ください。
②リモコン配線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
5.2点鎖線内（※1印）の回路は人感センサ（オプション）無しの場合配線されていません。

PGA000Z837

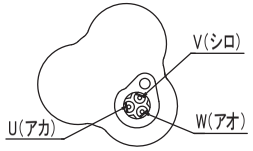
FDCKP805H, 1125H



●記号説明

記号	名称
CH1	クランクケースヒータ
CM	圧縮用電動機
CNA～Z	コネクタ
CT1	電流センサ
DH	ドレンパンヒータ
DM	ダイオードモジュール
EEVC	電子膨張弁(冷房用)
EEVH	電子膨張弁(暖房用)
F1,2,3	ヒューズ
FMo1,2	送風用電動機
IPM	インテリジェントパワーモジュール
L1,2	直流リアクトル
LED1	表示灯(赤-点検表示)
LED1(INV)	正常(黄)点滅
LED2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
PSL	低圧センサ
SV2	電磁弁(配管洗浄用)
SW1	ポンプダウン(ON／OFF)
SW3-1	デフロスト開始温度(寒冷地／通常)
SW3-3	試運転(ON／OFF)
SW3-4	試運転冷暖切換
SW5-1	既設配管対応
SW5-2	既設配管洗浄運転
SW7-1	長配管対応
SW7-3	サイレントモード
TB1,2	端子台
Tho-A	外気温度センサ
Tho-D	吐出管温度センサ
Tho-R1,R2	熱交温度センサ
Tho-S	吸入管温度センサ
20S	四方切換電磁弁
52X8	CM用電磁接触機
63H	高圧圧力開閉器(保護)

●圧縮機端子配置



機種	漏電しゃ断器定格電流	手元開閉器		配線用しゃ断器定格電流	電源配線		内外接続線	アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ		太さ X 本数	こう長	太さ X 本数	太さ	ねじ
FDCKP805H FDCKP1125H	30A, 30mA, 0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²x3	30m	2.0mm²x3 (70mまで) 3.5mm²x3 (120mまで)	φ1.6	M5

注(1) 配線仕様は,金属管または合成樹脂管配線で,管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。
(2) 室内外接続線は, 3心ケーブルを使用してください。
太さは2.0mm²以上です。
(3) 右表以外の設定切換スイッチは操作しないでください。

●切換スイッチ一覧

記号	名称	
SW1	ポンプダウン制御 ON／OFF	
SW3-1	ON	降雪地域デフロスト条件 強化
	OFF	降雪地域デフロスト条件 通常
SW3-3	ON	試運転 試運転
	OFF	試運転 通常運転
SW3-4	ON	試運転 冷／暖 暖房
	OFF	試運転 冷／暖 冷房
SW5-1	ON	既設配管制御 有効
	OFF	既設配管制御 無効
SW5-2	ON	配管洗浄運転 有効
	OFF	配管洗浄運転 無効
SW7-1	ON	長配管対応 有効
	OFF	長配管対応 無効

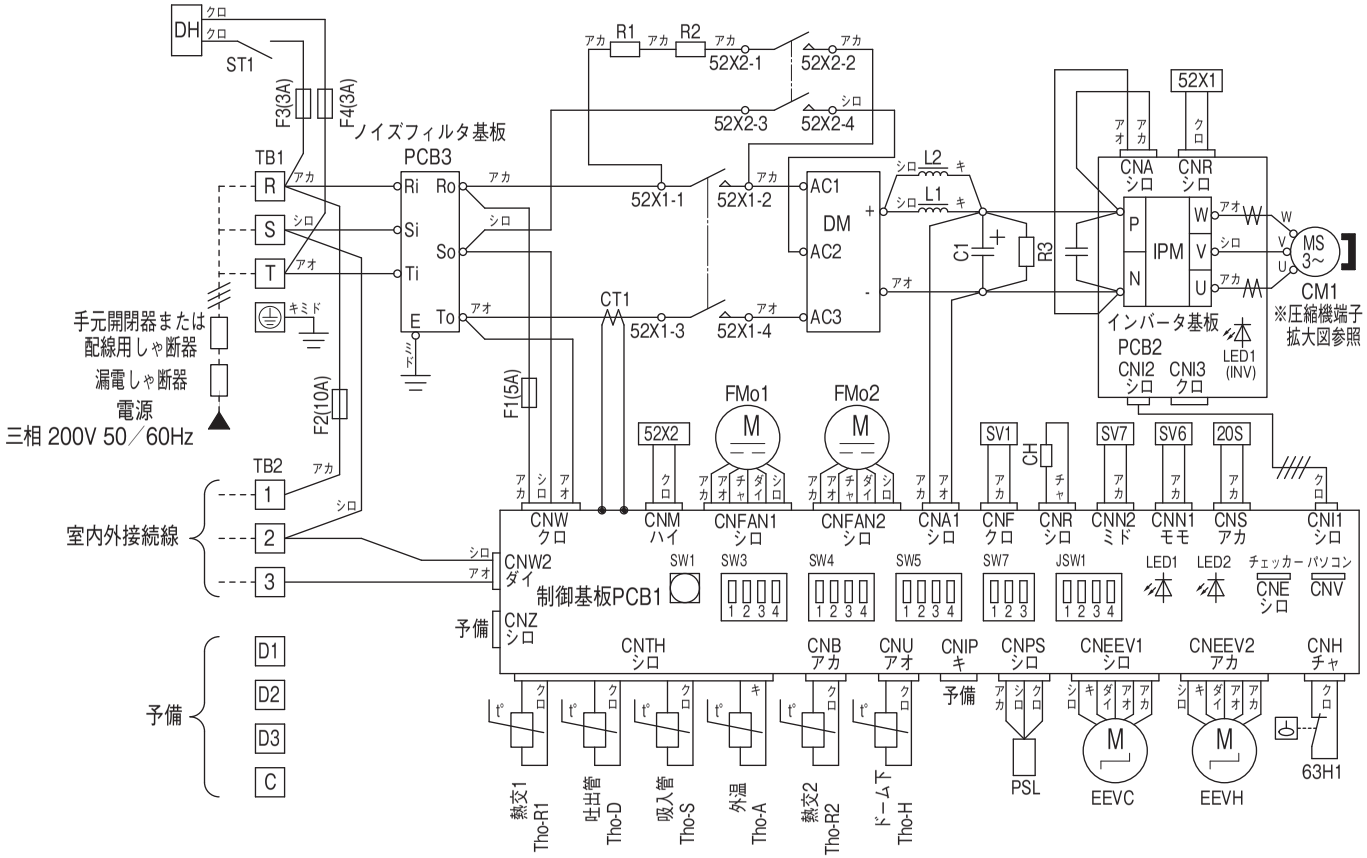
室内ユニットがFDRK, FDUKの場合

機種	漏電しゃ断器定格電流	手元開閉器		配線用しゃ断器定格電流	電源配線		内外接続線	アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ		太さ X 本数	こう長	太さ X 本数	太さ	ねじ
FDCKP805H FDCKP1125H	40A, 100mA, 0.1sec以下	60A	40A	40A	5.5mm²x3	26m(1)	2.0mm²x3 (70mまで) 3.5mm²x3 (120mまで)	φ2.0	M5

注(1) 室内ユニットがFDRKの場合は25mになります。
●上表はヒータレス機の場合を示します。ヒータ付機の場合は室内ユニットの据付説明書、工事説明書をご覧ください。
●上表はシングル機の場合を示します。プルーラル接続の場合は「10.電源・配線仕様」をご参照ください。

PCA001Z861

FDCKP1405H，1605H

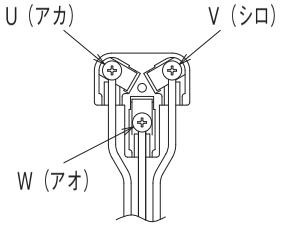


●記号説明

記号	名称
C1	電解コンデンサ
CH	クランクケースヒータ
CM1	圧縮用電動機
CNA~Z	コネクタ
CT1	電流センサ
DH	ドレンパンヒータ
DM	ダイオードモジュール
EEVC	電子膨張弁（過冷却用）
EEVH	電子膨張弁（暖房用）
F1,2,3,4	ヒューズ
FMo1,2	送風用電動機
IPM	インテリジェントパワーモジュール
L1,2	直流リアクトル

記号	名称
LED1	表示灯（赤-点検表示）
LED1（INV）	正常（黄）点滅
LED2	表示灯（緑-マイコン正常表示）
PSL	低圧センサ
R1,2	突入抑制抵抗
R3	放電抵抗
ST1	外温サーモ（ON:2℃, OFF:8℃）
SV1	電磁弁（液戻し）
SV6	電磁弁（油戻し）
SV7	電磁弁（リフレッシュ）
SW1	ポンプダウン（ON／OFF）
SW3-1	デフロスト開始温度（寒冷地／通常）
SW3-3	試運転（ON／OFF）

記号	名称
SW3-4	試運転冷暖切換
SW5-1	既設配管対応
SW5-2	既設配管洗浄運転
SW7-3	サイレントモード
TB1,2	端子台
Tho-A	外気温度センサ
Tho-D	吐出管温度センサ
Tho-H	ドーム下温度センサ
Tho-R1,R2	熱交温度センサ
Tho-S	吸入管温度センサ
20S	四方切換電磁弁
52X1,2	CM用電磁接触機
63H1	高圧圧力開閉器（保護）



※圧縮機端子拡大図

PCA001Z865

10. 電源・配線仕様

（電気特性についてはそれぞれの形式の仕様をご覧ください。）

■暖ガンハイパーインバータシリーズ

ヒータレス冷暖房機

■三相200V機

《標準仕様》

項目（単位）／形式		電源容量(kVA)	漏電しゃ断器定格容量	手元開閉器 開閉器容量(A)	手元開閉器 B種ヒューズ(A)	配線用しゃ断器定格電流(A)	電源配線用 太さ×本数	電源配線用 こう長	内外接続線太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ねじ
80シリーズ	FDTK805H5S 室内：FDTKP1125S 室外：FDCKP805H	2.2	30A,30mA, 0.1sec以下	30	30	30	5.5mm² ×3	30m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
	FDTWK805H5S 室内：FDTWKP805S 室外：FDCKP805H	3.0									
	FDRK805H5S 室内：FDRKP1125S 室外：FDCKP805H	2.5	40A,100mA, 0.1sec以下	60	40	40		25m			
	FDUK805H5S 室内：FDUKP1125S 室外：FDCKP805H	2.7						26m			
	FDEK805H5S 室内：FDEKP1125S 室外：FDCKP805H	2.2	30A,30mA, 0.1sec以下	30	30	30		30m			
	FDKK805H5S 室内：FDKKP805S 室外：FDCKP805H	3.3									
	FDFK805H5S 室内：FDFKP1125S 室外：FDCKP805H	3.0									
112シリーズ	FDTK1125H5S 室内：FDTKP1125S 室外：FDCKP1125H	3.0	30A,30mA, 0.1sec以下	30	30	30	5.5mm² ×3	30m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
	FDTWK1125H5S 室内：FDTWKP1605S 室外：FDCKP1125H	3.5									
	FDRK1125H5S 室内：FDRKP1125S 室外：FDCKP1125H	3.5	40A,100mA, 0.1sec以下	60	40	40		25m			
	FDUK1125H5S 室内：FDUKP1125S 室外：FDCKP1125H	3.7						26m			
	FDEK1125H5S 室内：FDEKP1125S 室外：FDCKP1125H	3.9	30A,30mA, 0.1sec以下	30	30	30		30m			
	FDFK1125H5S 室内：FDFKP1125S 室外：FDCKP1125H	3.7									
140シリーズ	FDTK1405H5S 室内：FDTKP1605S 室外：FDCKP1405H	4.6	40A,100mA, 0.1sec以下	60	40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
	FDTWK1405H5S 室内：FDTWKP1605S 室外：FDCKP1405H	5.0									
	FDRK1405H5S 室内：FDRKP1605S 室外：FDCKP1405H	4.7	50A,100mA, 0.1sec以下		50	50	8.0mm² ×3 (3)	31m			
	FDUK1405H5S 室内：FDUKP1605S 室外：FDCKP1405H	4.7					14.0mm² ×3	45m			
	FDEK1405H5S 室内：FDEKP1605S 室外：FDCKP1405H	5.0	40A,100mA, 0.1sec以下		40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m			
	FDFK1405H5S 室内：FDFKP1605S 室外：FDCKP1405H	5.3									

〔備考〕共通
（1） 配線こう長は電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は，内線規程により配線太さを見直してください。
（2） シングル機を複数台制御する時は，電源容量は形式毎の容量の加算値としてください。
（3） 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，こう長：55mになります。
（4） 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，こう長：67mになります。

■三相200V機

《標準仕様》

項目（単位）／形式		電源容量(kVA)	漏電しゃ断器定格容量	手元開閉器 開閉器容量(A)	手元開閉器 B種ヒューズ(A)	配線用しゃ断器定格電流(A)	電源配線用 太さ×本数	電源配線用 こう長	内外接続線太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ねじ
160シリーズ	FDTK1605H5S 室内：FDTKP1605S 室外：FDCKP1605H	5.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
	FDTWK1605H5S 室内：FDTWKP1605S 室外：FDCKP1605H	6.2									
	FDRK1605H5S 室内：FDRKP1605S 室外：FDCKP1605H	5.6	50A, 100mA, 0.1sec以下		50	50	8.0mm² ×3 (3)	31m			
	FDUK1605H5S 室内：FDUKP1605S 室外：FDCKP1605H	5.6					14.0mm² ×3	45m			
	FDEK1605H5S 室内：FDEKP1605S 室外：FDCKP1605H	6.2	40A, 100mA, 0.1sec以下		40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m			
	FDFK1605H5S 室内：FDFKP1605S 室外：FDCKP1605H	6.6									

■三相200V機

《ツイン仕様》

項目（単位）／形式		電源容量(kVA)	漏電しゃ断器定格容量	手元開閉器 開閉器容量(A)	手元開閉器 B種ヒューズ(A)	配線用しゃ断器定格電流(A)	電源配線用 太さ×本数	電源配線用 こう長	内外接続線太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ねじ
80シリーズ	FDTK805HP5S 室内：FDTKP565S ×2 室外：FDCKP805H	2.0	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	30	5.5mm²×3	30m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
	FDTWK805HP5S 室内：FDTWKP565S ×2 室外：FDCKP805H	2.5									
	FDRK805HP5S 室内：FDRKP565S ×2 室外：FDCKP805H	2.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40	40		26m			
	FDEK805HP5S 室内：FDEKP565S ×2 室外：FDCKP805H	2.1	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	30		30m			
	FDKK805HP5S 室内：FDKKP565S ×2 室外：FDCKP805H	2.5									
112シリーズ	FDTK1125HP5S 室内：FDTKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.0	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	30	5.5mm²×3	30m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
	FDTWK1125HP5S 室内：FDTWKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.8									
	FDRK1125HP5S 室内：FDRKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40	40		26m			
	FDUK1125HP5S 室内：FDUKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.7						25m			
	FDEK1125HP5S 室内：FDEKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.4	30A, 30mA, 0.1sec以下	30	30	30		30m			
	FDKK1125HP5S 室内：FDKKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.5									
	FDFK1125HP5S 室内：FDFKP565S ×2 室外：FDCKP1125H	3.6									

〔備考〕共通

（1） 配線こう長は電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は，内線規程により配線太さを見直してください。

（2） シングル機を複数台制御する時は，電源容量は形式毎の容量の加算値としてください。

（3） 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，こう長：55mになります。

（4） 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，こう長：67mになります。

■三相200V機

《ツイン仕様》

項目（単位）／形式		電源容量(kVA)	漏電しゃ断器定格容量	手元開閉器 開閉器容量(A)	手元開閉器 B種ヒューズ(A)	配線用しゃ断器定格電流(A)	電源配線用 太さ×本数	電源配線用 こう長	内外接続線太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ねじ
140シリーズ	FDTK1405HP5S 室内：FDTKP1125S ×2 室外：FDCKP1405H	3.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
140シリーズ	FDTWK1405HP5S 室内：FDTWKP805S ×2 室外：FDCKP1405H	4.1									
140シリーズ	FDRK1405HP5S 室内：FDRKP715S ×2 室外：FDCKP1405H	4.0	50A, 100mA, 0.1sec以下		50	50	8.0mm² ×3 (3)	31m			
140シリーズ	FDUK1405HP5S 室内：FDUKP715S ×2 室外：FDCKP1405H	4.7									
140シリーズ	FDEK1405HP5S 室内：FDEKP1125S ×2 室外：FDCKP1405H	4.1	40A, 100mA, 0.1sec以下		40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m			
140シリーズ	FDFK1405HP5S 室内：FDFKP1125S ×2 室外：FDCKP1405H	4.4									
160シリーズ	FDTK1605HP5S 室内：FDTKP1125S ×2 室外：FDCKP1605H	4.3	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40	40	8.0mm² ×3 (4)	39m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
160シリーズ	FDTWK1605HP5S 室内：FDTWKP805S ×2 室外：FDCKP1605H	4.9									
160シリーズ	FDEK1605HP5S 室内：FDEKP1125S ×2 室外：FDCKP1605H	4.9									
160シリーズ	FDFK1605HP5S 室内：FDFKP1125S ×2 室外：FDCKP1605H	5.1									

■三相200V機

《トリプル仕様》

項目（単位）／形式		電源容量(kVA)	漏電しゃ断器定格容量	手元開閉器 開閉器容量(A)	手元開閉器 B種ヒューズ(A)	配線用しゃ断器定格電流(A)	電源配線用 太さ×本数	電源配線用 こう長	内外接続線太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ねじ
160シリーズ	FDTK1605HT5S 室内：FDTKP565S ×3 室外：FDCKP1605H	4.5	40A, 100mA, 0.1sec以下	60	40	40	8.0mm²×3 (4)	39m	2.0mm²（φ1.6mm）×3（70mまで）3.5mm² ×3（120mまで）	2.0mm²（φ1.6mm）以上	M5
160シリーズ	FDTWK1605HT5S 室内：FDTWKP565S ×3 室外：FDCKP1605H	5.2									
160シリーズ	FDEK1605HT5S 室内：FDEKP565S ×3 室外：FDCKP1605H	4.8									

〔備考〕共通

（1） 配線こう長は電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は，内線規程により配線太さを見直してください。

（2） シングル機を複数台制御する時は，電源容量は形式毎の容量の加算値としてください。

（3） 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，こう長：55mになります。

（4） 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合，電源配線は太さ：14mm²，こう長：67mになります。

11. 防振設計用参考資料

(1) 暖ガンハイパーインバータシリーズ

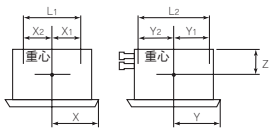
(a) 耐震データ

(i) 室内ユニット

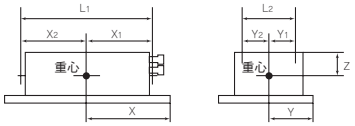
形式	項目	製品外形寸法(1) 幅×奥行×高さ (mm)	製品質量(1) (kg)	重心位置(mm)(2) 幅方向 X	幅方向 X_1	幅方向 X_2	幅方向 L_1	奥行方向 Y	奥行方向 Y_1	奥行方向 Y_2	奥行方向 L_2	高さ Z
FDTシリーズ	FDTKP565S	950×950×271	26	470	384	394	778	470	360	365	725	100
	FDTKP1125S	950×950×333	32	465	378	400	778	490	348	377	725	135
	FDTKP1605S											
FDTWシリーズ	FDTWKP565S	1120×680×345	31.5	525	407.5	477.5	885	340	223	223	446	110
	FDTWKP805S	1835×680×345	48	867.5	750	850	1600	340	223	223	446	105
	FDTWKP1605S		50									
FDRシリーズ	FDRKP565S	1240×750×368	45.4	616	449	537	986	343	257.5	214.5	472	173
	FDRKP715S	1658×850×368	71	798	631	773	1404	405	319.5	210.5	530	167
	FDRKP1125S											
	FDRKP1605S											
FDUシリーズ	FDUKP565S	950×635×280	34	430	448	538	986	275	247	225	472	125
	FDUKP715S	1370×738×280	54	603	621	783	1404	343	315	215	530	120
	FDUKP1125S											
	FDUKP1605S	1600×893×379	89	675	692	942	1634	382	357	474	831	183
FDEシリーズ	FDEKP565S	1320×690×210	33	638	614	658	1272	302	185	105	290	93
	FDEKP1125S	1620×690×250	43	814	790	782	1572	334	153	137	290	110
	FDEKP1605S											
FDFシリーズ	FDFKP565S	600×329×1850	47	330	341	281	622	159	-	-	-	920
	FDFKP1125S		49									
	FDFKP1605S											

注（1）FDT ・ FDTWシリーズは標準パネル装着時を示しています。
（2）L_1（X_1, X_2）, L_2（Y_1, Y_2）寸法は据付ボルトの位置を示します。
（3）FDRシリーズはサイレント仕様を示します。

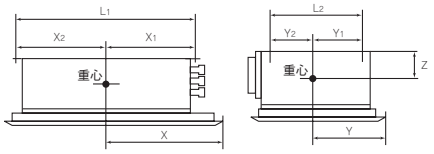
FDT形



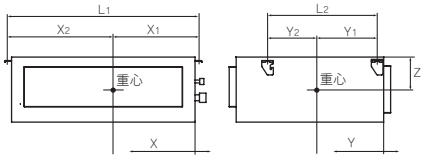
FDTW形



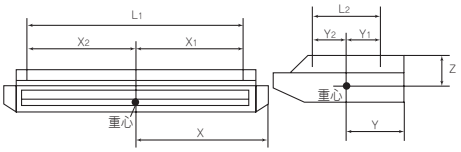
FDR形



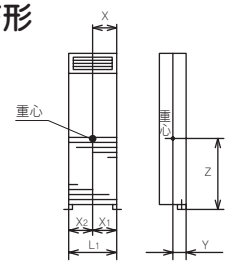
FDU形



FDE形



FDF形

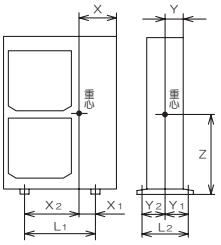


(ii) 室外ユニット

項目 / 形式	製品外形寸法 幅×奥行×高さ (mm)	製品質量 (kg)	重心位置 (mm) (1) 幅方向 X	幅方向 X_1	幅方向 X_2	幅方向 L_1	奥行方向 Y	奥行方向 Y_1	奥行方向 Y_2	奥行方向 L_2	高さ Z
FDCKP805H	970×370×1505	115	385	184	396	580	191	211	199	410	668
FDCKP1125H											
FDCKP1405H		165	387	187	393	580	181	202	208	410	659
FDCKP1605H											

注（1）L_1（X_1, X_2）, L_2（Y_1, Y_2）寸法は据付ボルトの位置を示します。

・KP805 ～ P1605形



(b) 防振データ

(i) 室内ユニット

(50/60Hz)

項目 / 形式	送風機回転数 (1) (min-1)
FDTKP565S	630
FDTKP1125S	
FDTKP1605S	770
FDTWKP565S	1120
FDTWKP805S	1050
FDTWKP1605S	1080
FDEKP565S	1330
FDEKP1125S	1250
FDEKP1605S	

注（1）P急運転時の数値を示します。
（2）FDR，FDUシリーズは機外静圧10Paでの数値を示します。

項目 / 形式	送風機回転数 (1)(2) (min-1)
FDRKP565S	1230
FDRKP715S	1260
FDRKP1125S	1570
FDRKP1605S	
FDUKP565S	1120
FDUKP715S	980
FDUKP1125S	1200
FDUKP1605S	1370
FDKKP565S	1400
FDKKP805S	
FDFKP565S	355
FDFKP1125S	580
FDFKP1605S	

(ii) 室外ユニット

項目 / 形式	圧縮機回転数 (min-1)	送風機回転数 (min-1)
FDCKP805H	7800	800
FDCKP1125H		
FDCKP1405H	7200	950
FDCKP1605H		

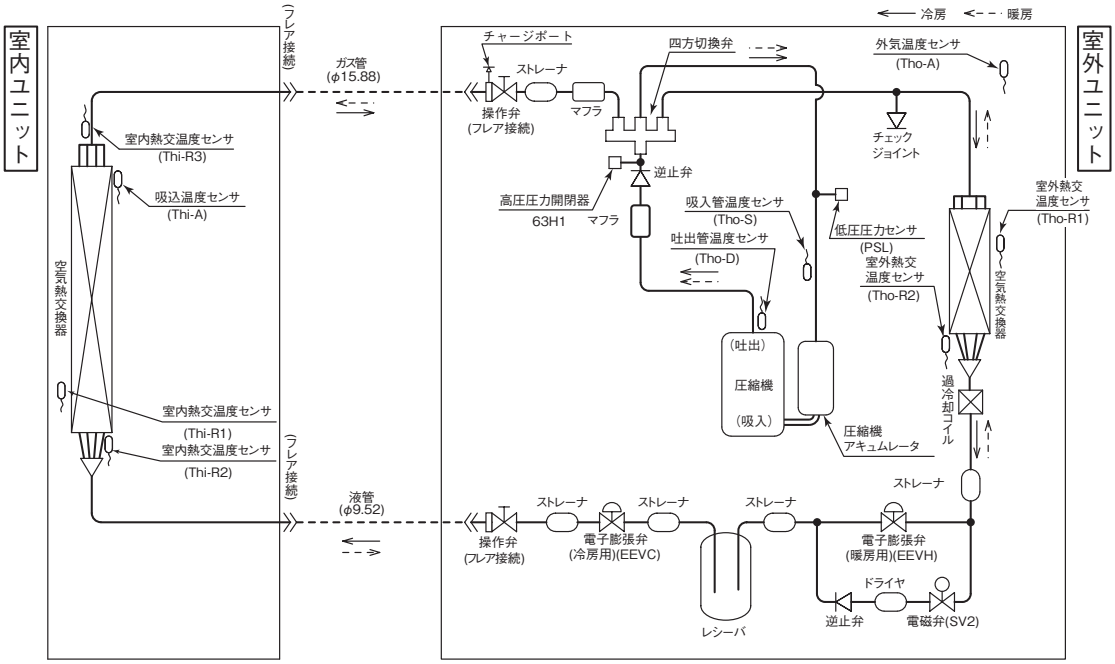
注（1）急運転時の数値を示します。

12. 冷媒配管系統図

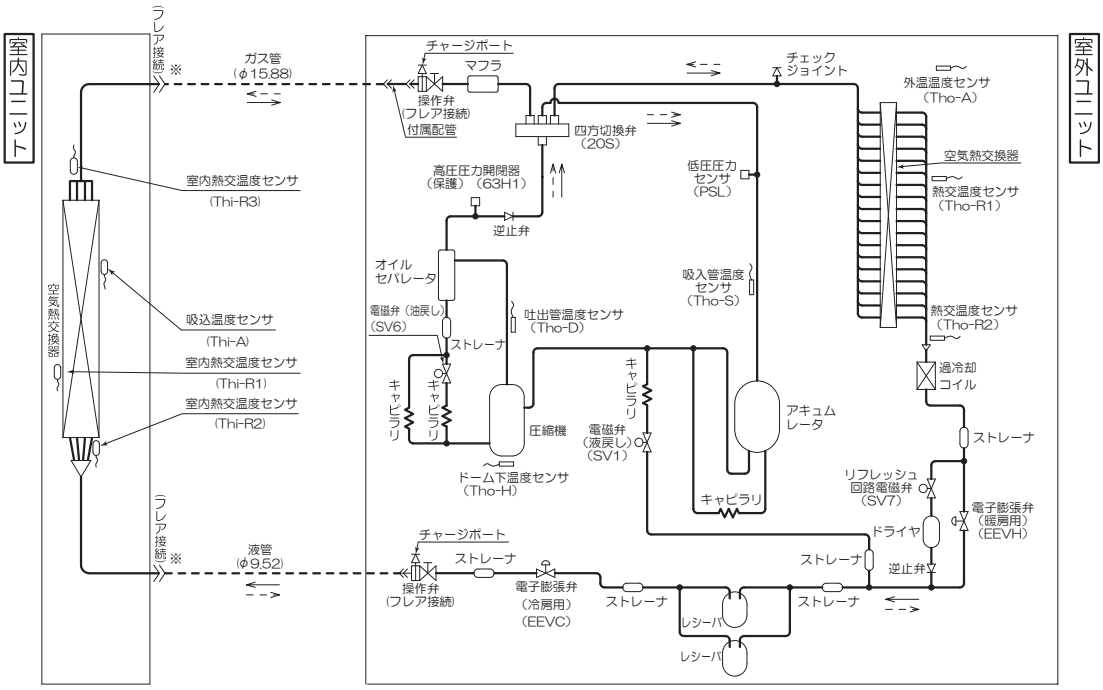
■ 暖ガンハイパーインバータシリーズ

(a) シングル形

KP805, KP1125形



KP1405, KP1605形



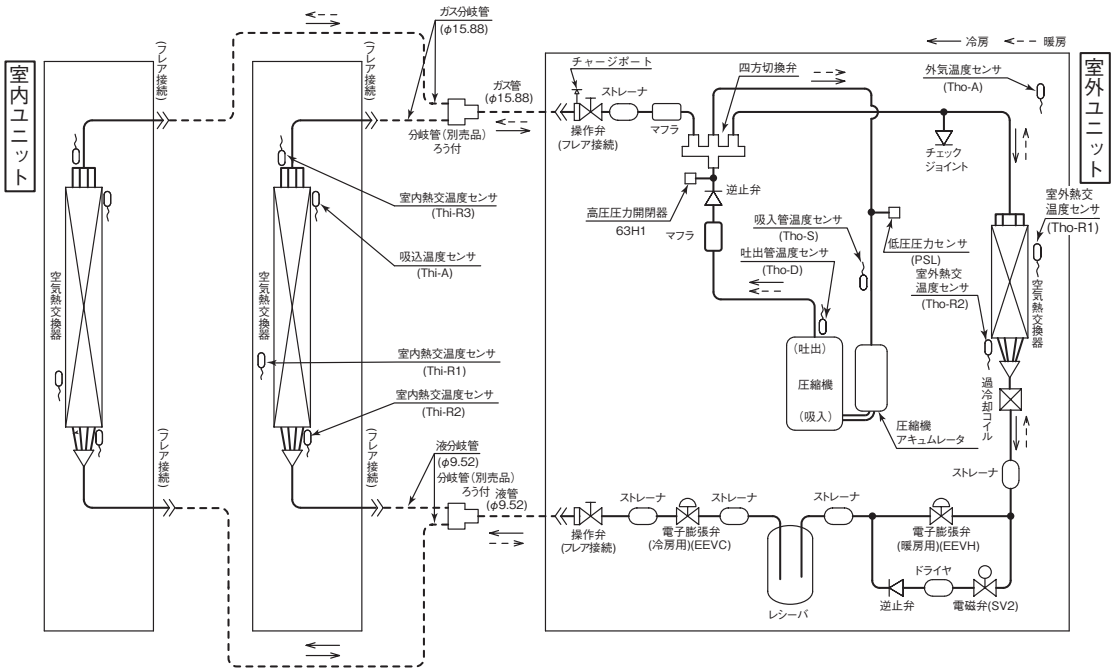
※FDUKP1605Sのみろう付接続となります。詳しくは225ページをご覧ください。

設定値一覧表（運転停止に至る代表的な設定値を示します。詳細は室内，室外コントローラによる運転制御機能をご覧ください。）

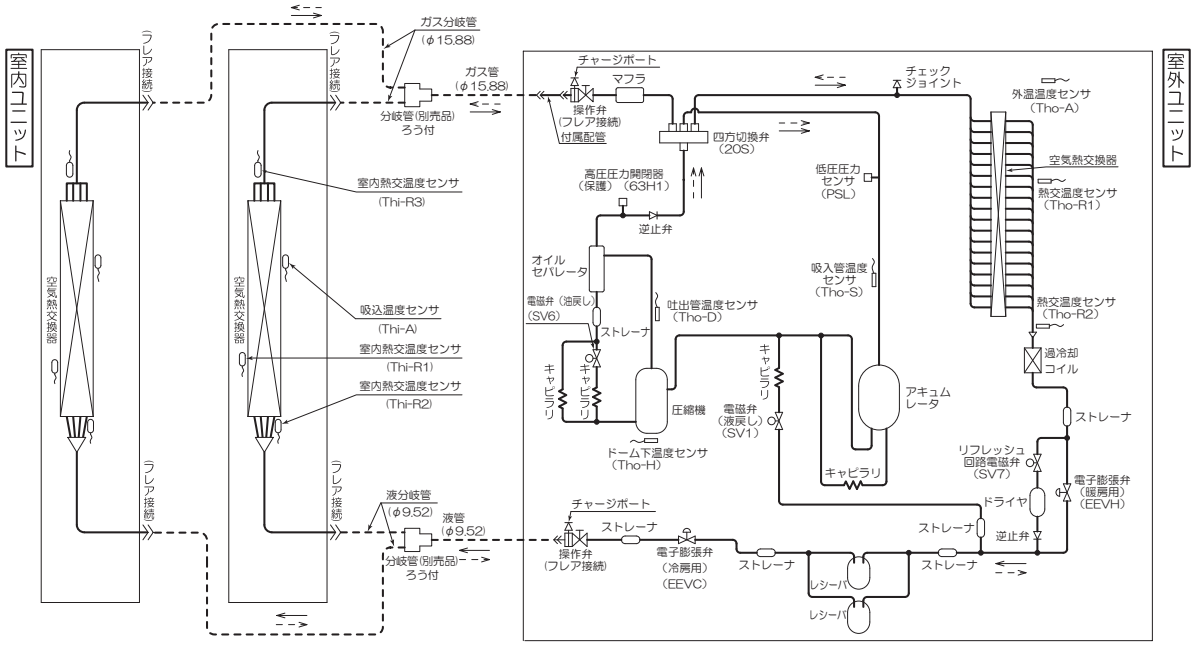
形式 / 名称	設定値	
	KP805，KP1125形	KP1405，KP1605形
室内熱交センサ(Thi-R1,2)	1.0 OFF/10 ON(℃)…冷房時フロスト防止 63 OFF/56 ON(℃)…暖房時過負荷保護	
室外熱交センサ(Tho-R1,2)	63 OFF/51 ON (℃)…冷房時高圧保護	65 OFF/51 ON(℃)…冷房時高圧保護
吐出管温度センサ(Tho-D)	115 OFF/85 ON(℃)…吐出管温度異常上昇保護	135 OFF/90 ON(℃)…吐出管温度異常上昇保護
高圧圧力開閉器(63H1)	4.15 開/3.15 閉(MPa)…高圧保護	
低圧圧力センサ(PSL)	0.079 OFF/0.227 ON(MPa)…低圧保護	

(b) ツイン形

KP805，KP1125形



KP1405，KP1605形

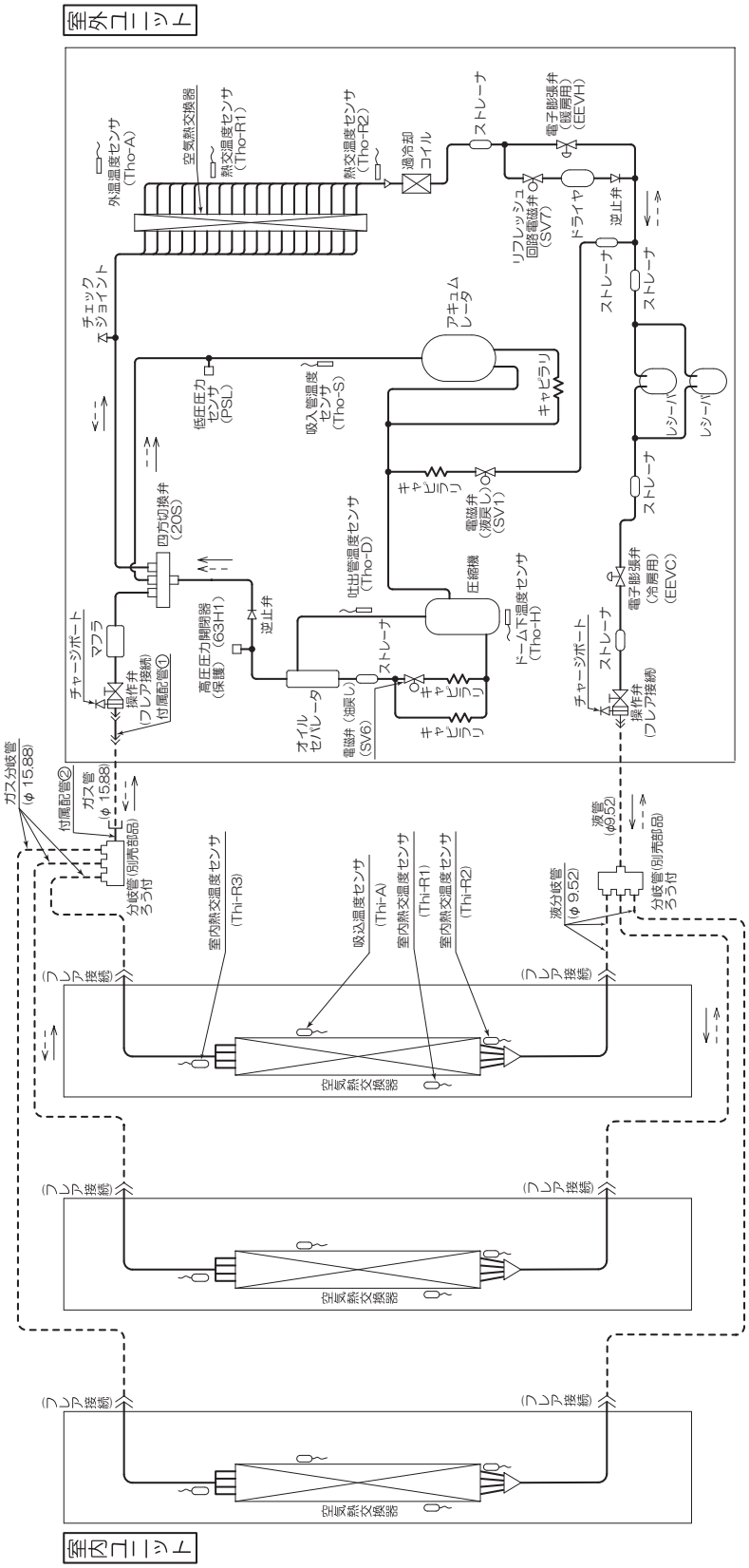


設定値一覧表（運転停止に至る代表的な設定値を示します。詳細は室内，室外コントローラによる運転制御機能をご覧ください。）

形式 / 名称	設定値	
	KP805，KP1125形	KP1405，KP1605形
室内熱交センサ(Thi-R1,2)	1.0 OFF/10 ON(℃)…冷房時フロスト防止 63 OFF/56 ON(℃)…暖房時過負荷保護	
室外熱交センサ(Tho-R1,2)	63 OFF/51 ON (℃)…冷房時高圧保護	65 OFF/51 ON(℃)…冷房時高圧保護
吐出管温度センサ(Tho-D)	115 OFF/85 ON(℃)…吐出管温度異常上昇保護	135 OFF/90 ON(℃)…吐出管温度異常上昇保護
高圧圧力開閉器(63H1)	4.15 開/3.15 閉(MPa)…高圧保護	
低圧圧力センサ(PSL)	0.079 OFF/0.227 ON(MPa)…低圧保護	

(c) **トリプル形**

KP1605 形



設定値一覧表（運転停止に至る代表的な設定値を示します。詳細は室内，室外コントローラによる運転制御機能をご覧ください。）

名称 ＼ 形式	設定値 KP1605形
室内熱交温度センサ(Thi-R)	1.0 OFF/10 ON (℃)…冷房時フロスト防止 63 OFF/56 ON (℃)…暖房時過負荷保護
室外熱交温度センサ(Tho-R1, 2)	65 OFF/51 ON (℃)…冷房時高圧保護
吐出管温度センサ(Tho-D)	135 OFF/90 ON (℃)…吐出管温度異常上昇保護
高圧圧力開閉器(63H1)	4.15開/3.15閉(MPa)…高圧保護
低圧圧力センサ(PSL)	0.079 OFF/0.227 ON (MPa)…低圧保護

13. 据付関連事項

(1) 室内ユニット

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。
リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない | ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。

●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下・転倒などにより、ケガの原因になります。

●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。

●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。

●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。

●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電遮断器は必ず取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

●室内ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●電源ブレーカが入っている時は、ファンの回転に注意する。
冷媒センサが冷媒の漏えいを検知すると、ファンが自動で回転し、ケガの原因になることがあります。(FDFのみ)

●可燃性ガスを使用する環境には設置しない。
冷媒センサの誤検知により異常停止し、運転できなくなる場合があります。(FDFのみ)

●冷媒センサに水滴が付着しないよう冷媒配管、ドレン配管を接続する。(FDFのみ)
冷媒センサに水が掛かると、冷媒センサの故障や感電・火災の原因になることがあります。

(a) 天井埋込形４方向吹出し（FDT）

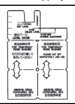
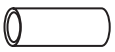
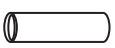
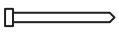
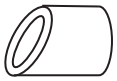
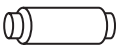
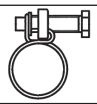
PJF012D053

(i) 室内ユニットの据付

①据付け前に

●据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

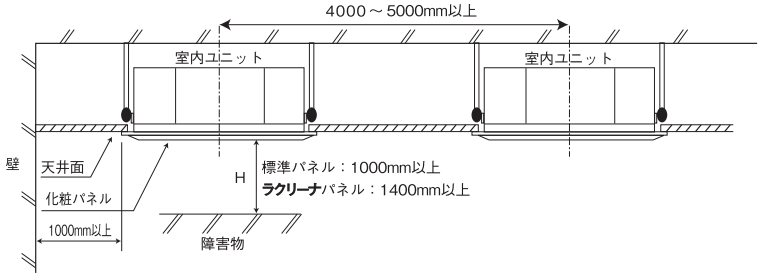
室内ユニット吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用				
平座金（M10）	レベルゲージおよび平座金仮固定	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ	抗菌材
									
８個	１個	１個	１個	４本	１個	１個	１個	１個	１個
吊りボルト用	室内ユニットの位置調整および吊り込み時の補助用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	ドレンパン防汚用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　本室内ユニットはJIS露付条件（室内:27℃/85%RH、天井裏:32℃/80%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全および配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

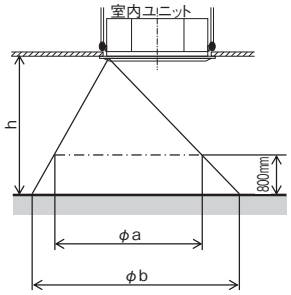
室内ユニット据付スペース

●室内ユニット－壁、室内ユニット－室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。
●**据付高さは２．５m以上としてください。**



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能なように点検口などを設けてください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

吹出パターンの設定

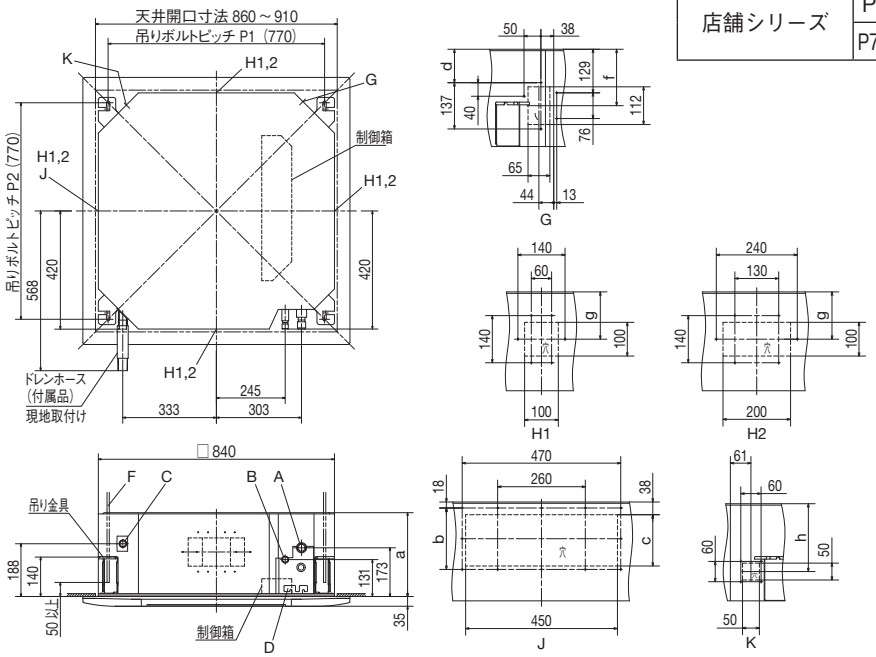
●部屋の形や据付け位置に最適な吹出方向を４方向・３方向・２方向から選定してください。（１方向はできません。）
●吹出口数を変更する場合は、別売の遮風材を手配してください。
●２方向・３方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
●高温・多湿環境での２方向吹出は行わないでください。（結露・水漏れの原因になります。）
●吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

（mm）

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



シリーズ	機種	a	b	c	d	f	g	h
店舗シリーズ	P40,P56 形	236	130	100	37	105	88	139
	P71～P160 形	298	182	152	99	167	140	201

記号	内容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D	電源取入口
F	吊りボルト
G	ＯＡ取入口
H1	吹出分岐ダクト接続口
H2	吹出分岐ダクト接続口
J	加湿器接続口
K	加湿器余剰水接続口

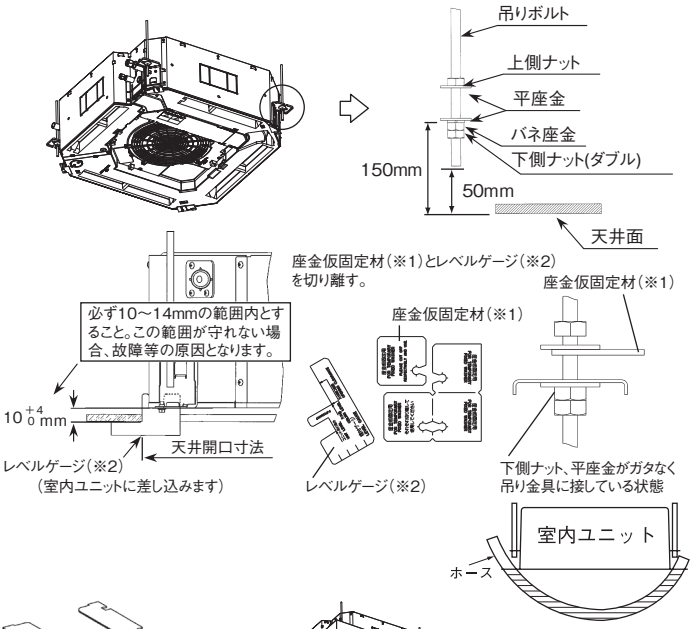
※吊りボルトピッチ P1、P2 は下表のパターンで調整可能です。

パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

④室内ユニットの据付

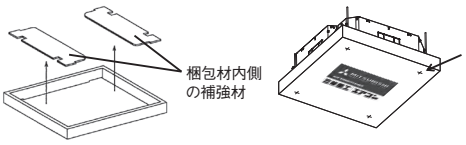
作業手順

1. 吊りボルト長さは、天井面より 50mm 程度としてください。
2. 吊りボルトの下側ナット(4か所)は、天井面から 150mm 程度に仮止めしてください。
3. 吊りボルトの上側ナット(4か所)は、室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めしてください。
4. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4か所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
5. 室内ユニットを吊り込んでください。
6. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4か所)を緩めた状態で、下側ナット(4か所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4ヶ所)が下側ナット，平座金にガタなく接していることを確認してください。
7. 座金仮固定材(4か所全て)を取外してください。
8. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
(室内ユニットの両端での高さ許容差は 3mm 以内)
9. 吊りボルトの上側ナット(4か所)を締付けてください。



室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、梱包材 (天面ダンボール) を使用して、室内ユニットを養生してください。



パネル取付用ボルトを使用して、梱包材を取付けてください。パネル取付ピッチと同じ位置に十のスリットがあります。

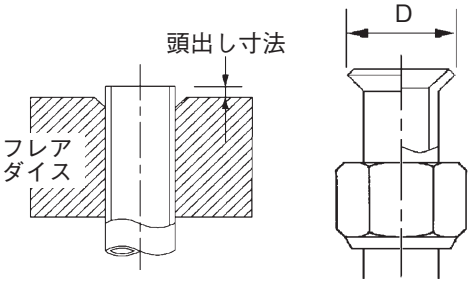
室内ユニット据付時のお願い

●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルを据付後、室内ユニット高さの微調整ができます。詳細はパネルの据付説明書をご覧ください。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたはJIS B 8607 2種適合品をご使用ください。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの**または**JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

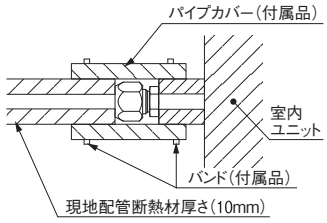
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

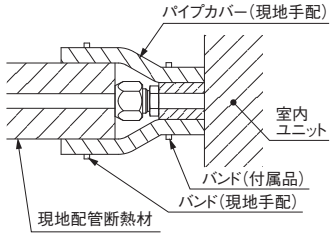
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は､以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の 室外ユニット付属据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。

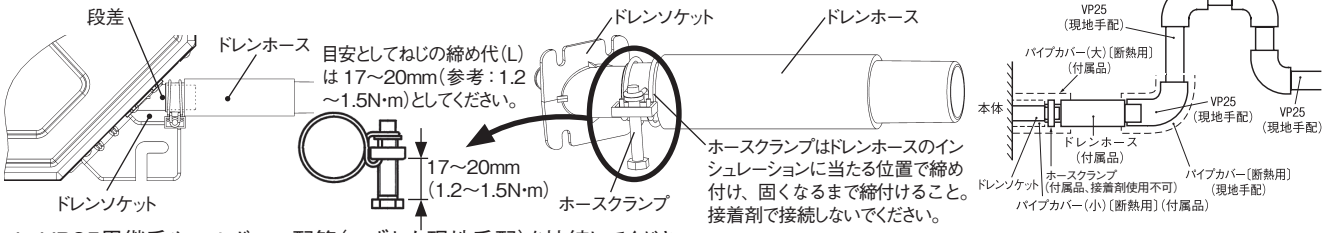
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。

●ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

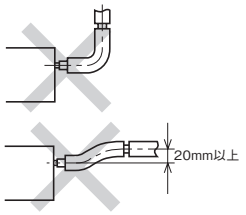
⑥ドレン配管

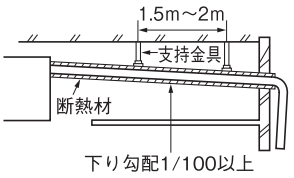
作業手順

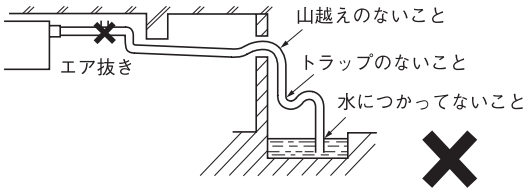
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ソケットの段差部まで確実に挿入してください。
   その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
   ●接着剤使用不可
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付けが固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。

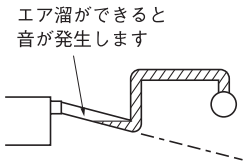


4. VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
5. ドレン配管は下り勾配(1／100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。
   途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加わらないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。

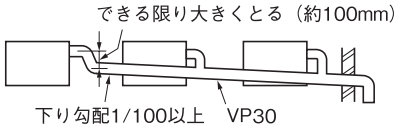








●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合配管はVP30以上を使用してください。

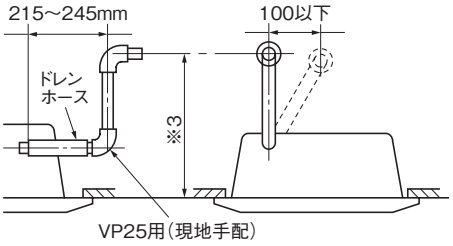


6. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまたは960mm(※3)まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

※3：お掃除ラクリーナパネルの場合：960mm以下、かつ天井に接触しない高さ以上
お掃除ラクリーナパネル以外の場合：850mm以下、かつ天井に接触しない高さ以上

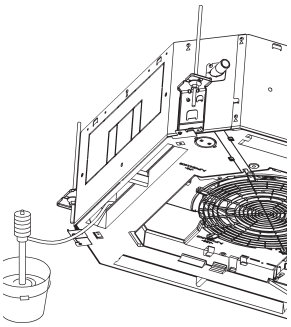


ドレン排水テスト

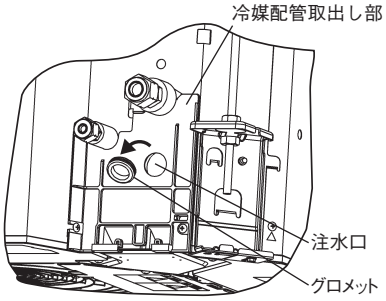
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc注水してください。注水時は、ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
   注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出部の注水口から行ってください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。
   リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。

●吹出口から注水する場合



●冷媒配管取出部の注水口から注水する場合



⑥ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。

○電源が供給されている場合

室内ユニット基板上のSW7−1をONにし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7−1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCnBを差し込んでください。

○電源が供給されていない場合

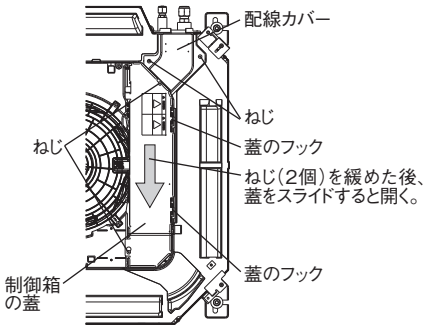
ドレンポンプ試運転用チェッカー(別売)でドレンポンプを運転することが可能です。操作方法はドレンポンプ試運転チェッカに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

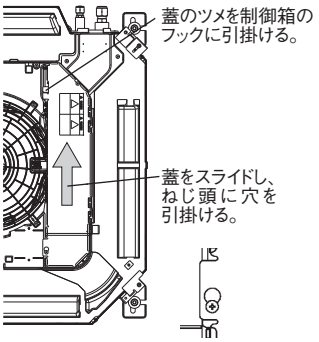
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 制御箱の蓋のねじ(2個)を緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドしてください。蓋を開くことができます。
2. 蓋のフックを制御箱の穴から外して、蓋を取外してください。
3. 配線カバーのねじ(2個)を取外して、配線カバーを取外してください。
4. 各配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
5. 各配線をバンドで固定してください。
6. 配線カバー , 制御箱の蓋を取付けてください。

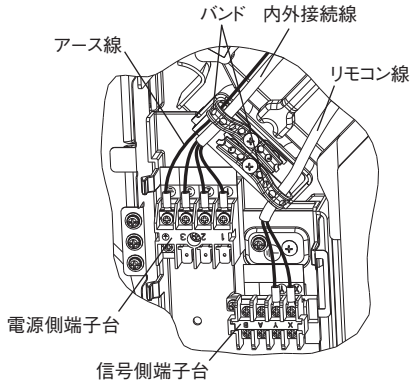
制御箱の蓋を開ける場合



制御箱の蓋を閉める場合



店舗シリーズ

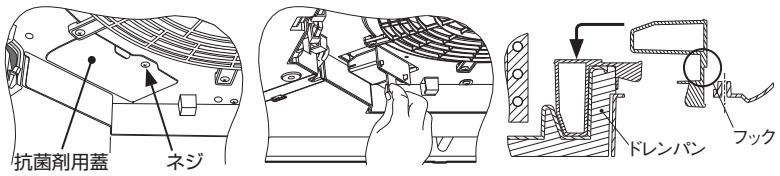


⑧抗菌剤の取付

●付属の抗菌剤ケースをドレンパン内に取付けてください。抗菌剤ケースの中に抗菌剤は入っています。
●抗菌剤ケースの取付は室内ユニットを吊った後に実施してください。室内ユニットが天地逆では取付けられません。

作業手順 (付属抗菌剤の交換目安:冷房1シーズン)

1. 抗菌剤用蓋のねじ(1個)を取外し、抗菌剤用蓋を取外してください。
2. 取出口から抗菌剤を取付けてください。抗菌剤ケースのフックの奥まで、ドレンパンが達するように取付けてください。
3. 抗菌剤用蓋を取付けてください。風漏れや異常音の原因となります。



⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、146ページをご覧ください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目のつづき

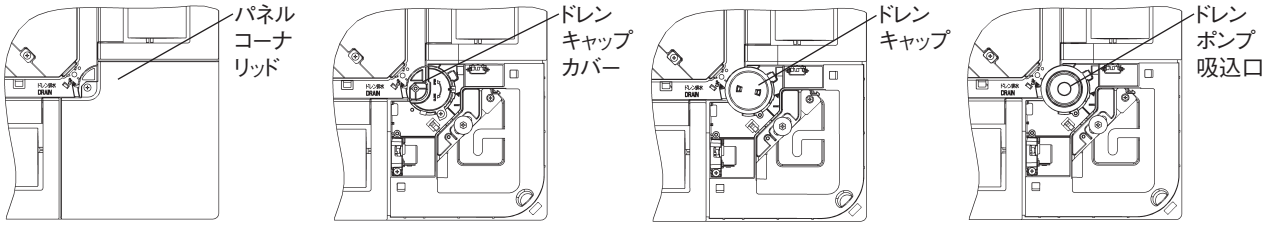
チェック項目	不良の場合	チェック欄
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑪ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

●パネルを取外さずに、ドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口の状況を確認できます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付時は確認できません。）

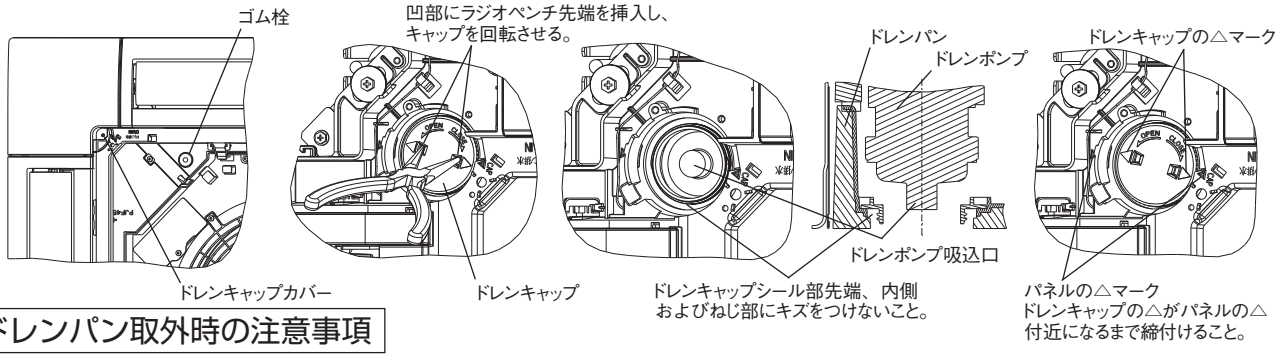
1. パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナリッドを取外してください。
2. パネルコーナにあるドレンキャップカバー（ねじ１個）を取外してください。
3. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。
4. 取外したドレンキャップカバーは確実に装着してください。
   装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンポンプ吸込口の清掃

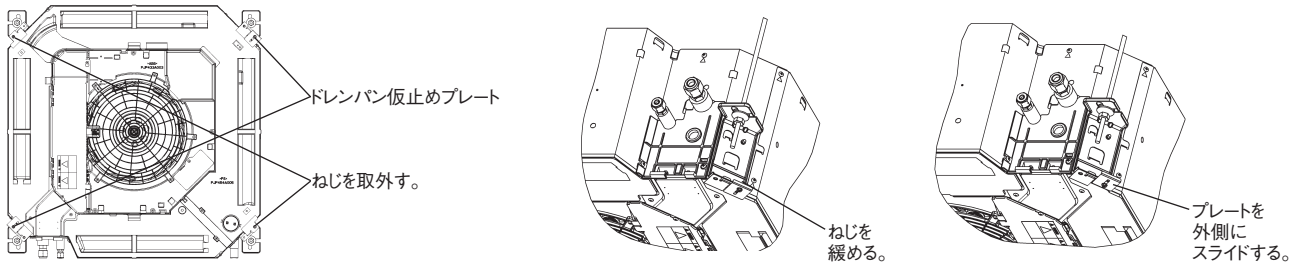
●パネルやドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口およびその付近の清掃ができます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付時は確認できません。）
●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. 前述のようにドレンキャップカバーを取外してください。
2. ドレンキャップの凹部（２か所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約１回転するとドレンキャップを取外せます。
3. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付部をキズつけ、水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**ドレンキャップ内側の異物を取除いてください。**異物が付着したままドレンキャップを取付ると水漏れの原因になります。
5. ドレンキャップの取付は、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約１回転させ、**キャップが回転しなくなるまで締付けてください。**キャップが１回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。
   一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付け直してください。
6. ドレンキャップ締付け後、ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にない場合は、増し締めしてください。
7. 取外したドレンキャップカバー，ゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。
●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ（2個）を取外し、仮止めプレートのねじ（2個）を緩めてください。
仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。
●ドレンパン取付時は、仮止めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取付ねじ（2個）と仮止めプレートのねじ（2個）を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



(ii) **パネルの据付**
標準パネル，エアフレックスパネル，ラクリーナパネル

PJF012D032

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠ 警　告

●配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

エアフレックス　：　ドラフト防止機能
ラクリーナ　　：　エアフィルタ自動昇降機能

お願い　<ラクリーナパネルの場合>

・吸込グリルの動作範囲の周辺および下方30cm以内に障害物を置かないでください。
・電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作はできません。
・電源投入前に吸込グリルを収納する場合は、付属のクランプで仮固定する事ができます。
・電源投入後は付属のクランプを外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・吸込グリル取付後の初回はリモコンで「上げる」の操作を行い、吸込グリルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤは、折曲げ、ねじり、噛込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

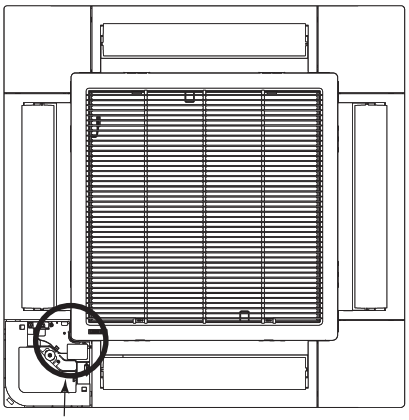
① 据付の前に

・据付けはこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
○パネル・リモコンのタイプ
○付属品

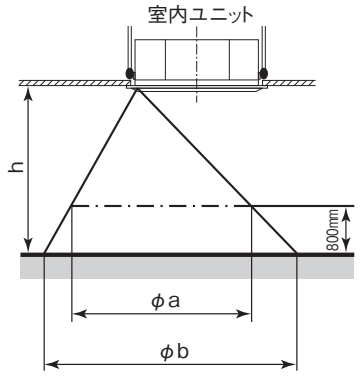
付属品

ボルト		4本	パネル取付用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
クランプ		4本	吸込グリル仮止用（ラクリーナパネル）
ねじ		4本	コーナリッド固定用＊1

注1：＊1 ラクリーナパネルの場合、吸込グリル仮止クランプ固定用にも使用します。
注2：付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



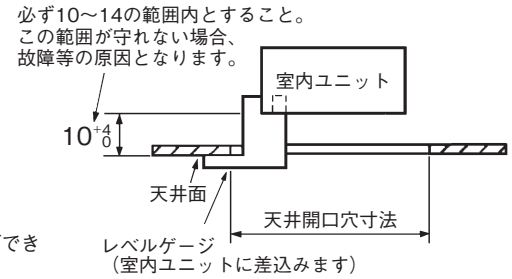
人感センサ検知範囲の目安 ＜エアフレックスパネル、ラクリーナパネル＞



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②　φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

② 室内ユニットの取付レベルの確認

- 室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
- 室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
- 室内ユニットと天井材との取付レベルを確認してください。
- 室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。
- レベルゲージはパネル取付前に取外してください。



ご注意

室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。パネルが変形し破損の恐れがあります。

- 室内ユニットの取付高さはパネル取付後、コーナ開口部より微調整ができます。

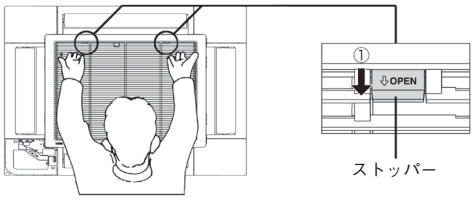
（詳細は ⑥パネルの取付 をご参照ください。）

③ 吸込グリルの取外し

＜標準パネル、エアフレックスパネルの場合＞

1．吸込グリルのストッパー（２か所）に指をかけて「OPEN」の方向（矢印①）に押したまま吸込グリルを下方へ引くと吸込グリルが開きます。
2．吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。

〈取外し〉

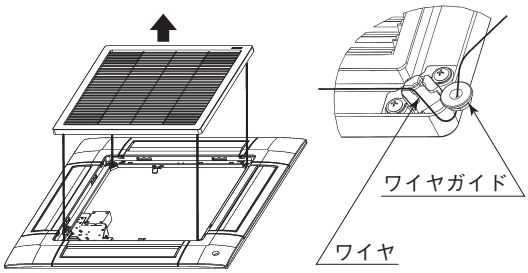


＜ラクリーナパネルの場合＞

1．吸込グリルを少し持上げて、吸込グリルを開けます。
2．吸込グリルの４コーナに取付けてあるワイヤガイドを外側にスライドさせて外してください。

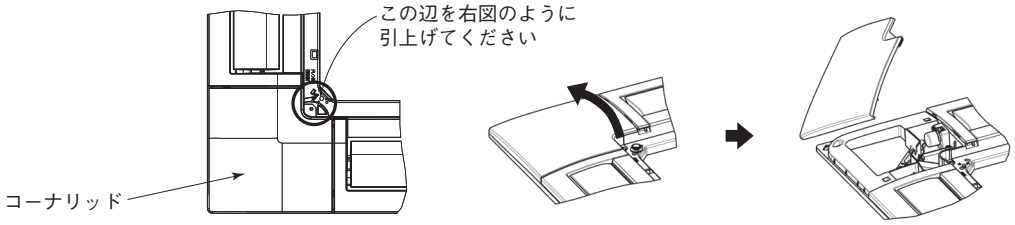
ご注意

吸込グリルはゆっくり持上げてください。
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。



④ コーナリッドの取外し

・コーナリッドを矢印の方向へ引上げて取外してください。(4コーナとも)

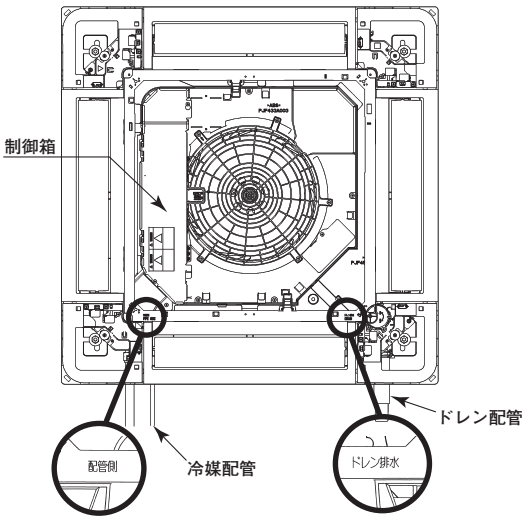


⑤ パネルの取付方向

・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは、右図に示す方向で取付けてください。
・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。

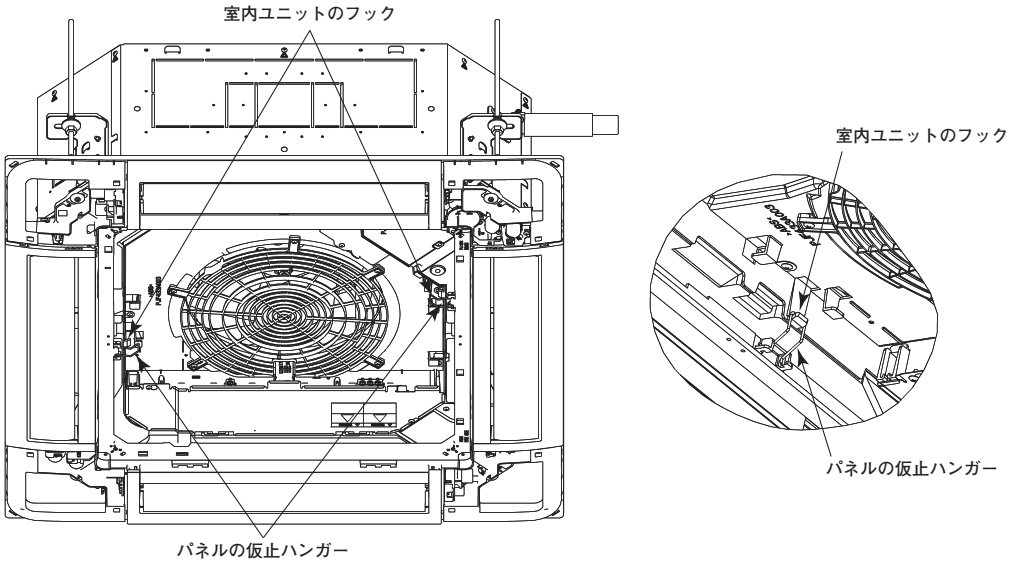
ご注意

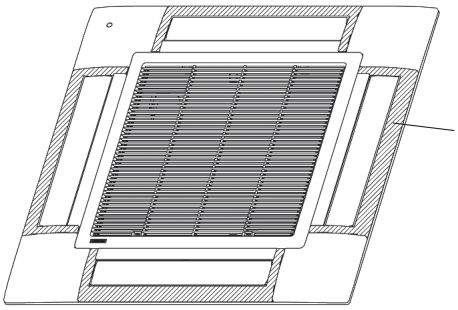
・右図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。



⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止
・パネルの仮止用ハンガーを起こします。（２か所）
・パネルの仮止用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。





標準パネル以外の場合、斜線部(４か所)は可動します。
手で無理に動かすと破損します。
標準パネルの場合もパネル本体とは別部品ですが、
取外すことはできません。

ご注意

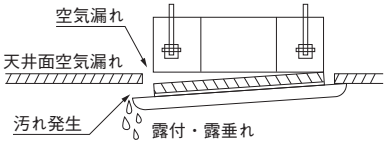
・パネルの吹出口周囲のエアフレックス(斜線部)は別部品です。パネルを持つ際は取扱いに注意してください。
特に、エアフレックスパネル、ラクリーナパネルの斜線部は可動します。手で無理に動かすと破損します。

２．パネルの室内ユニットへの固定

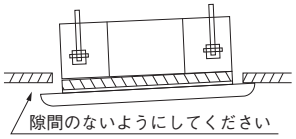
・付属のパネル取付用ボルト４本を用いて、室内ユニットに締付けてください。

ご注意

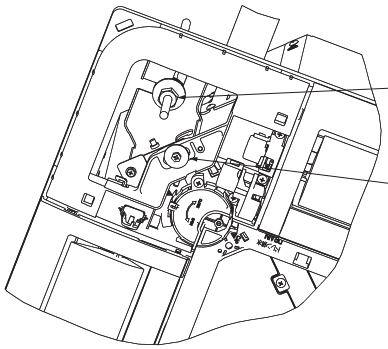
・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。



・室内ユニットの水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま、室内ユニットの据付高さを微調整できます。



コーナ開口部よりスパナ等の一般工具にて
室内ユニットのナットを微調整してください。

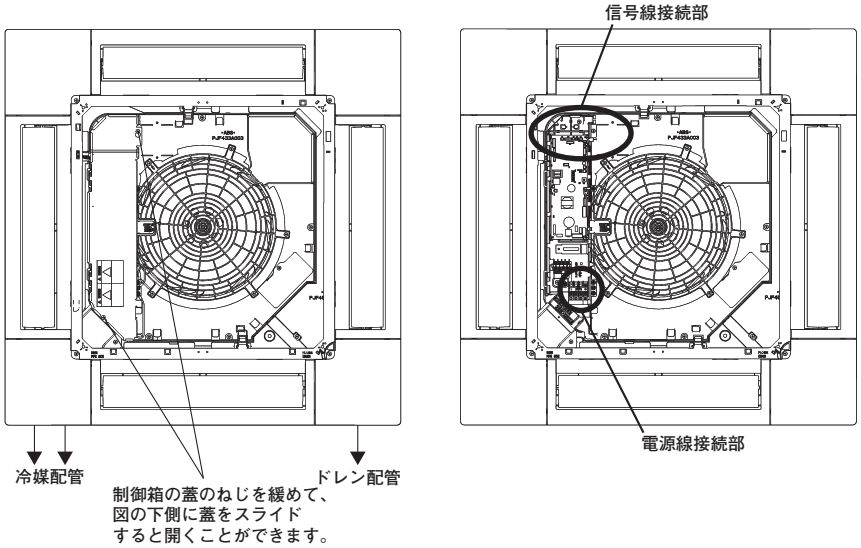
パネル取付用ボルト

ご注意

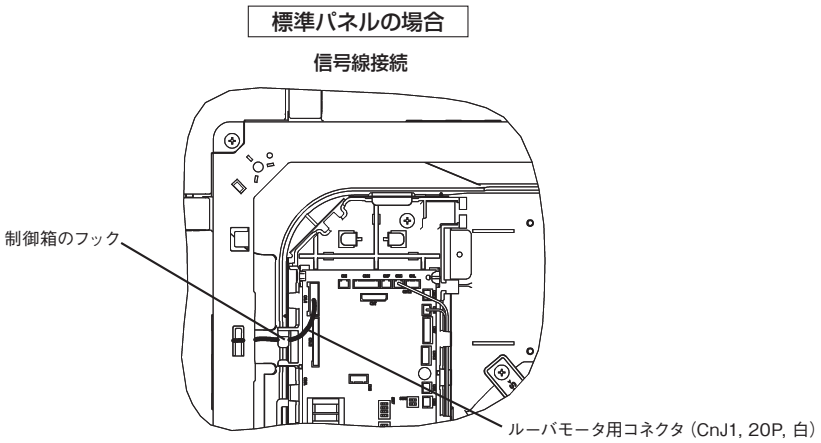
パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

⑦ 電気配線

パネルの種類により、配線処理が異なります。パネルの種類にあわせて配線処理を行ってください。
室内ユニットの接続位置はパネルの種類によらず下図のとおり同じです。



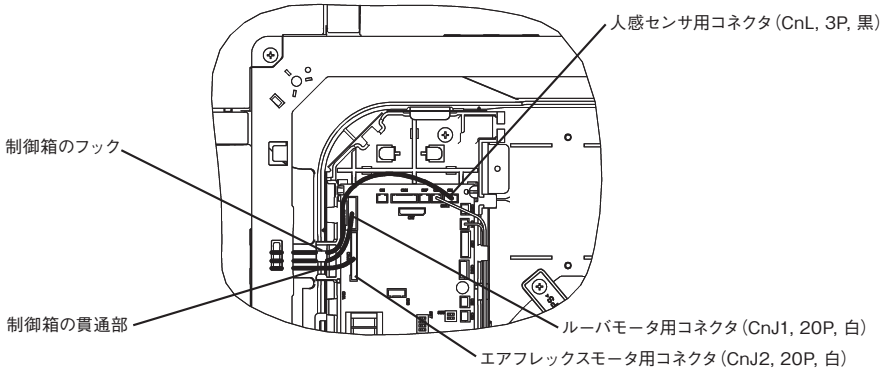
＜標準パネルの場合＞
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ1（20P,白）を接続してください。
3. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。



＜エアフレックスパネルの場合＞
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ1（20P,白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ2（20P,白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し、コネクタCnL（3P,黒）を接続してください。
5. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

エアフレックスパネルの場合

信号線接続

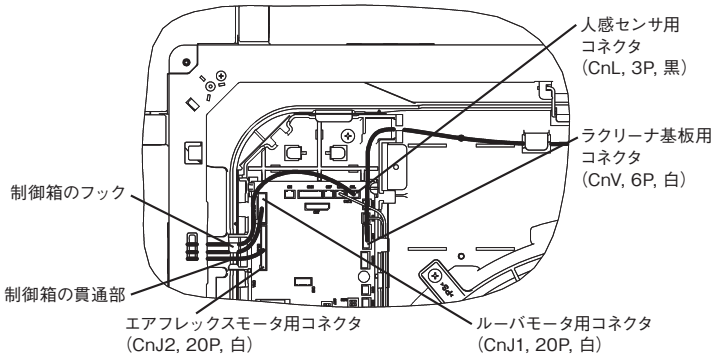


<ラクリーナパネルの場合>

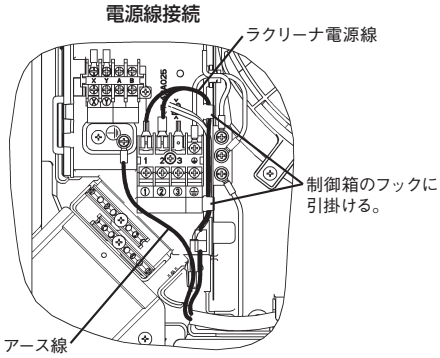
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ1（20P,白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ2（20P,白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し、コネクタCnL（3P,黒）を接続してください。
5. 電源線のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の1番,2番に挿入してください。
   電源線の赤を端子台の1番に、白を2番に挿入してください。
6. アース線[緑]を室内ユニット制御箱の⏚に接続してください。
7. ラクリーナ基板用信号線（6線）を室内ユニット制御箱内の基板のコネクタCnV（6P,白）に接続してください。
   コネクタCnVにショートコネクタが接続されている場合は取外しの上、信号線を接続してください。
8. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

ラクリーナパネルの場合

信号線接続

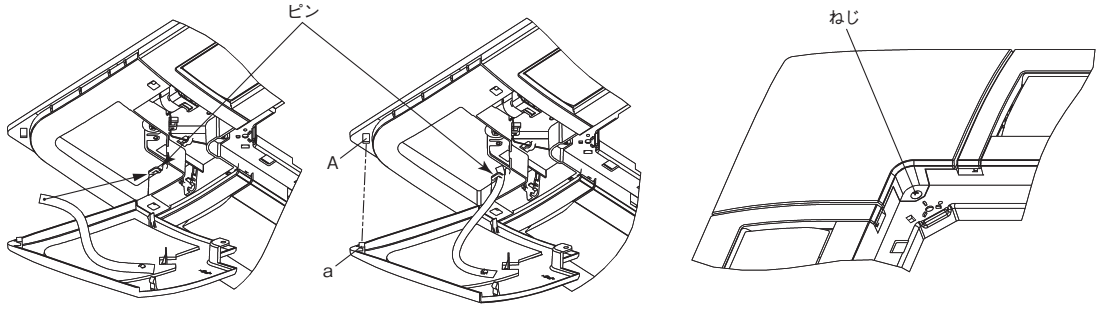


電源線接続



⑧ コーナリッドの取付

1．付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折返して引掛けてください。
2．コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引掛けてください。
3．コーナリッドのａ部をパネルのA部に挿入してから、コーナリッドのつめ2か所をはめてください。
4．付属のねじで固定してください。



⑨ 吸込グリルの取付

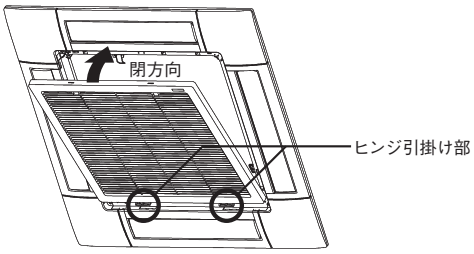
パネルと吸込グリルには方向性がありません。

＜標準パネル、エアフレックスパネルの場合＞

吸込グリルの取付方法は ③ 吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。

1．吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付けてください。(吸込グリルのヒンジは４辺どこでも取付可能です。)
2．吸込グリルのヒンジを取付後、ストッパー(２か所)を「OPEN」の方向へ押したまま、閉じてください。
　両方のストッパーから「カチッ」と音がしたことを確認してください。

〈取付け〉



ご注意

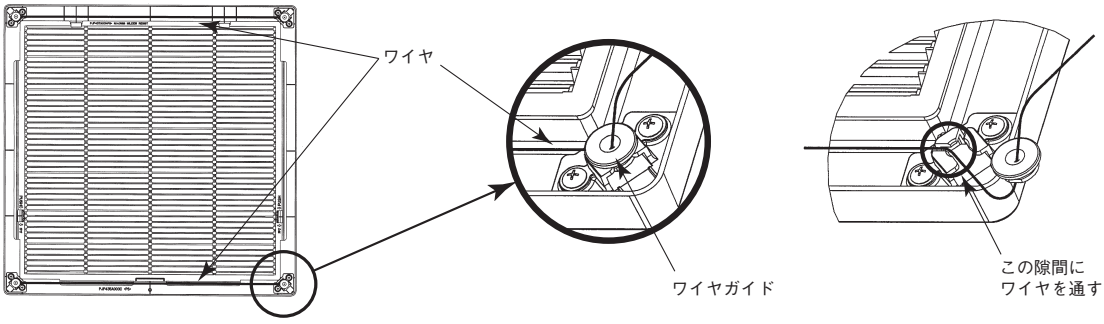
・吸込グリルの取付は、必ずヒンジ側から行ってください。
・吸込グリルは確実に取付けてください。取付が不十分ですと落下する恐れがあります。
・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

＜ラクリーナパネルの場合＞

1．吸込グリルの方向を決定してください。
2．ワイヤを通してあるワイヤガイドを吸込グリルの４コーナの取付部に固定して装着します。
3．ワイヤガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。
　装着の際、取付部の隙間をワイヤが通過するようにワイヤの向きに注意して確実に取付けてください。
4．ワイヤガイド装着後、ワイヤの曲がり、ねじり、噛込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、吸込グリルを昇降できなくなったり、吸込グリルが落下する恐れがあります。



⑩ パネルの設定

＜ルーバの動作範囲設定(フリーフロー設定)＞

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

＜エアフレックスの設定(ドラフト防止設定)＞

エアフレックスパネル, ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、ドラフト防止設定を有効にしてください。(ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。)
本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜人感センサの設定（赤外線センサー設定）＞

エアフレックスパネル, ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、赤外線センサー設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル昇降の設定（グリル昇降操作）＞

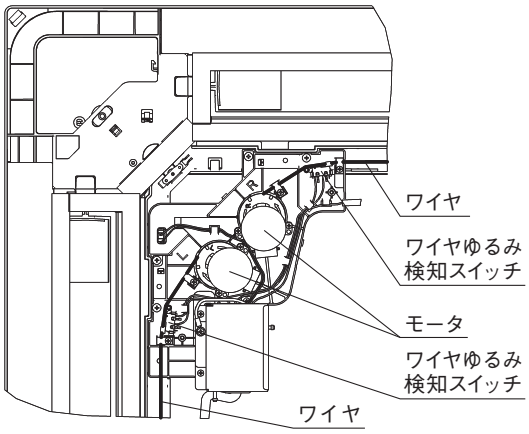
ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。
吸込グリルの昇降を可能にするために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリル昇降を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル下降長さの設定（降下長設定）＞

吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は２mに設定されています。
お好みの下降長さにしたい場合は、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリルの下降長さを設定してください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

ご注意

＜ワイヤゆるみ検知機構について＞
ラクリーナパネルには、ワイヤの絡まり防止のため、「ワイヤゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤがゆるんだ場合、ワイヤゆるみ検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。
パネル据付後、 グリルが動かない場合、「ワイヤゆるみ検知機構」が作動している可能性がありますので、据付時にワイヤの噛込み、絡まり等が無いか、ワイヤ経路をご確認ください。

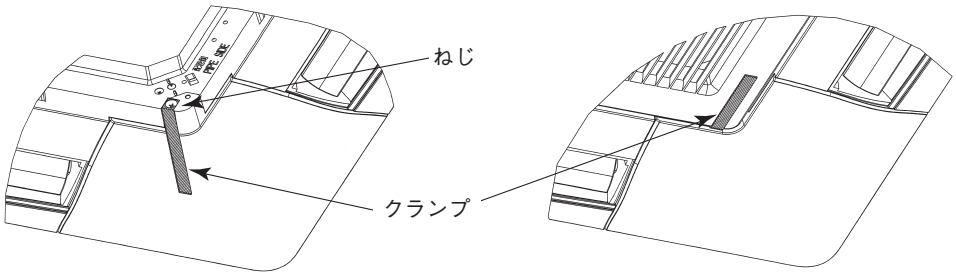


⑪ 電源投入前の吸込グリルの仮固定 ＜ラクリーナパネル＞

電源投入前は吸込グリルの自動昇降はできません。
1．電源投入前に吸込グリルを収納したい場合は、付属のクランプで吸込グリルを仮止めすることができます。
2．パネルの４コーナに付属のクランプを図のようにねじ止めしてください。（４コーナとも）
3．ワイヤを折曲げたり、かみ込んだりしないように注意しながら、持ち上げパネルに収納してください。
4．取付けたクランプを図のように吸込グリル側に折曲げ、吸込グリルを固定してください。

ご注意

クランプを装着したまま昇降動作を行った場合、吸込グリルの昇降装置が故障する恐れがあります。



5．仮固定が終わったら、クランプを取外した上で、コーナリッドをねじ止めしてください。

(b) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

（i） 室内ユニットの据付

①据付のまえに

●据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

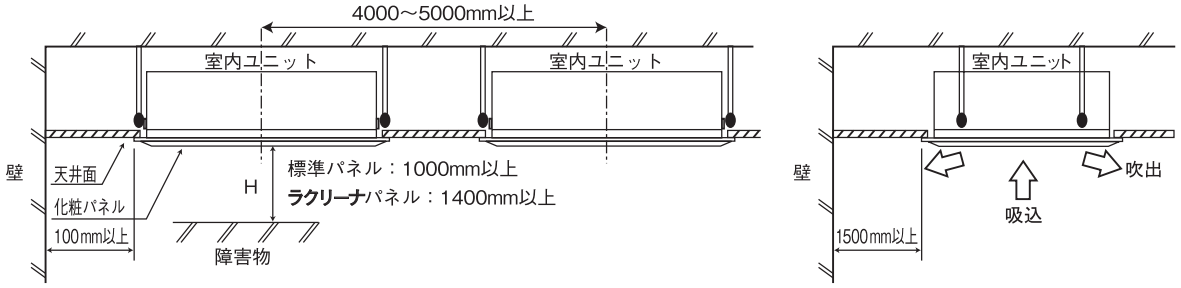
本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	レベルゲージ	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
８個	１個	１個	１個	４本	１個	１個	１個	１個
ユニット吊り下げ用	ユニット吊り込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに１０～２０ｍｍの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁などで補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するためユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは２．５ｍ以上としてください。



③据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

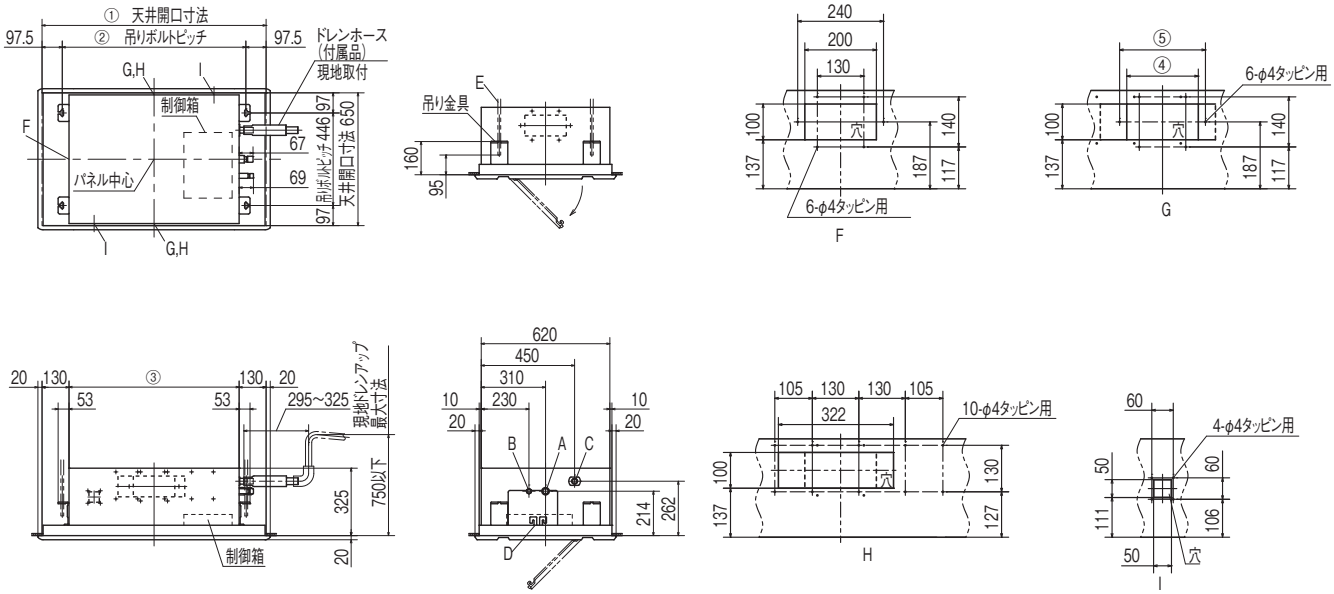
③据付前の準備の続き

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

（mm）

記号	内容	記号	内容
A	冷媒ガス側接続口	F	OA 取入口
B	冷媒液側接続口	G	吹出分岐ダクト接続口
C	ドレン配管側接続口	H	加湿器接続口
D	電源取入口	I	加湿器余剰水接続口
E	吊りボルト		

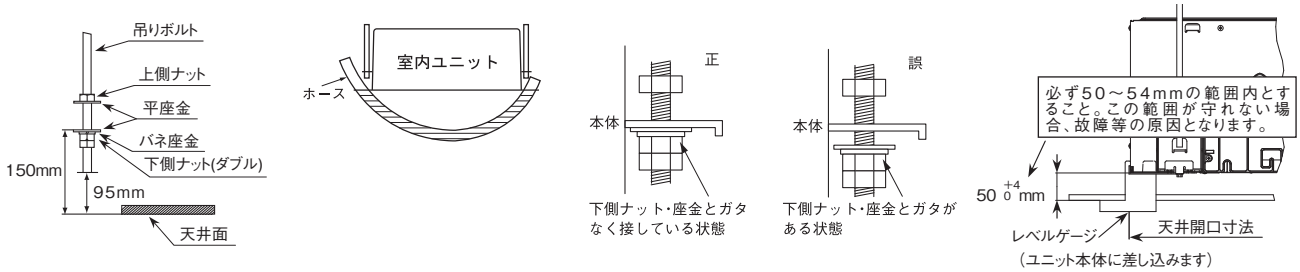
シリーズ	機種	①	②	③	④	⑤
店舗	P40, P56形	1080	885	820	200	240
	P71～P160形	1795	1600	1535	440	480



④室内ユニットの据付

作業手順

1．据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2．所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3．吊りボルトは４本使用し、１本当り５００Ｎの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4．吊りボルト長さは、天井面より９５ｍｍ程度上としてください。吊りボルトの下側ナット４か所は天井面から１５０ｍｍ程度に仮止めし、上側ナット４か所はユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、ユニット本体を吊り込んでください。
5．ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージを吹出口にセットし、ユニット吊り込み高さを調整してください。高さ調整は、上側ナット４か所を緩めた状態で、下側ナット４か所で調整してください。ユニット吊り金具４か所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。
6．ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
（ユニット両端での高さ許容差は３ｍｍ以内）
7．高さ調整・水平度調整後、上側ナット４か所を締付けてユニットを固定してください。



④室内ユニットの据付の続き

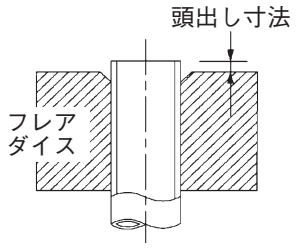
ユニット据付時のお願い

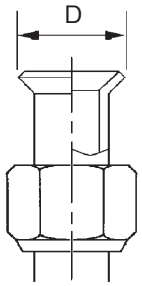
●上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●化粧パネルと天井面、および化粧パネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

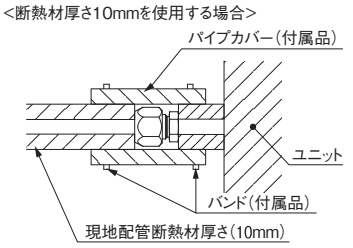
●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたはJIS B 8607 2種適合品をご使用ください。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認すること。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの**または**JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。





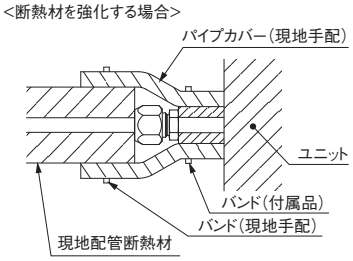
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●Ｒ３２またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用ツールを使用してください。



作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の室外ユニット付属説明書をご覧ください。



注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

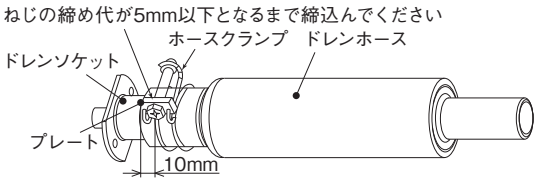
⑥ドレン配管

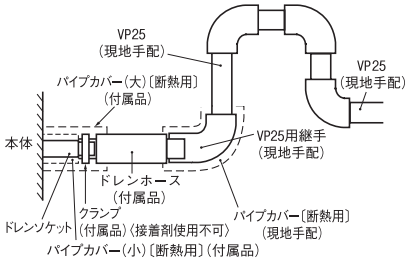
ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は、下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

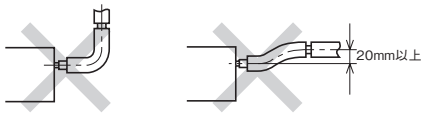
作業手順

1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 以下となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可

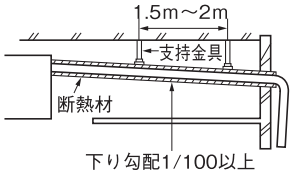


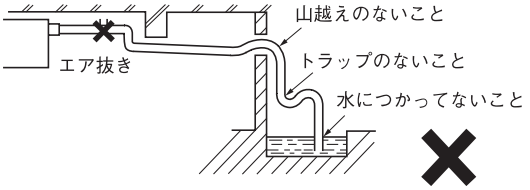


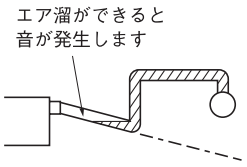
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



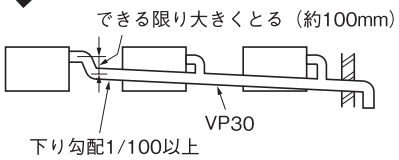
3．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加わらないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。







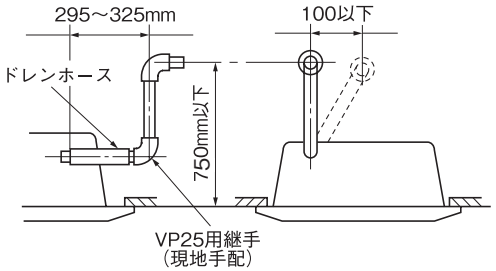
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。



4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より７５０ｍｍまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



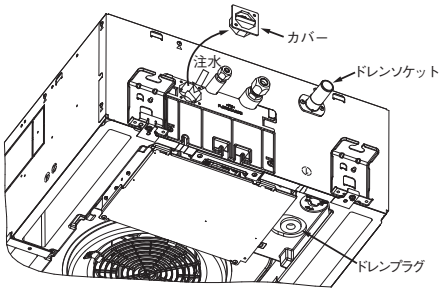
⑥ドレン配管のつづき

ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

作業手順

1．配管リッド部のカバー（ねじ２個）を取外し、下図の位置より給水ポンプなどを使用して、電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃ注水してください。
2．ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3．排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。



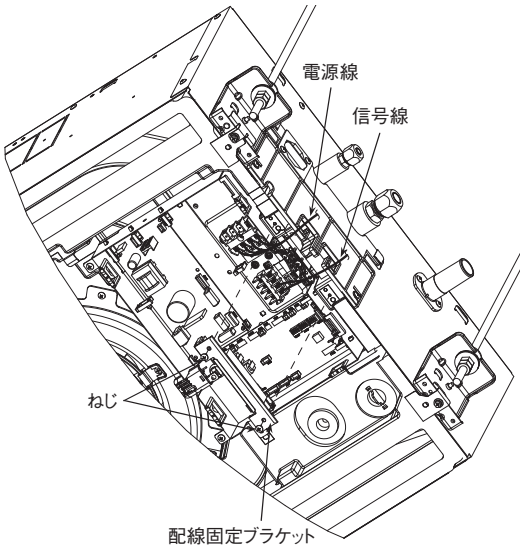
ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。
○電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のＳＷ７－１をＯＮにし、かつ、基板上のコネクタＣｎＢを抜いた後、電源ＯＮ（端子台①、②へＡＣ２００Ｖ）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
排水確認後は、必ずＳＷ７－１を元の状態（ＯＦＦ）に戻し、かつ、基板上のコネクタＣｎＢを差し込んでください。

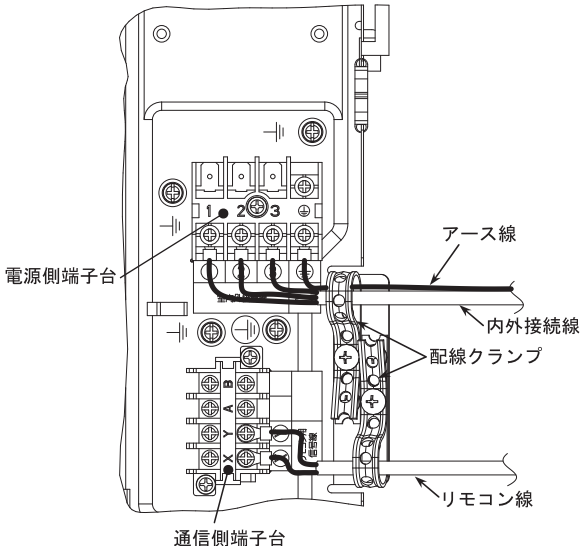
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は、同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種設置工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．制御箱の蓋（ねじ２個）と配線固定ブラケット（ねじ２個）を取外してください。
2．各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3．各配線を配線クランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。



配線接続



⑧パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、ユニット本体に取付けてください。
●パネルの取付方法は、161ページをご覧ください。

⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

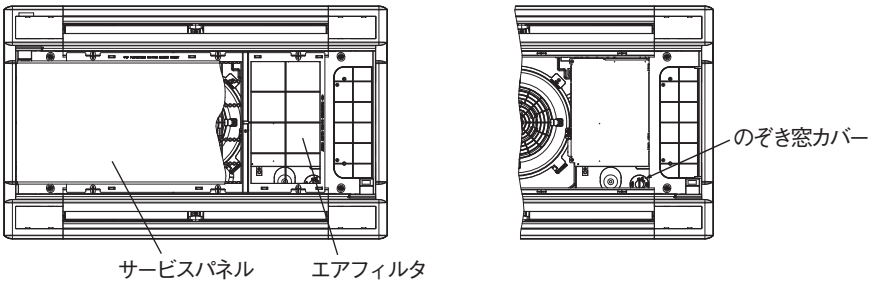
チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

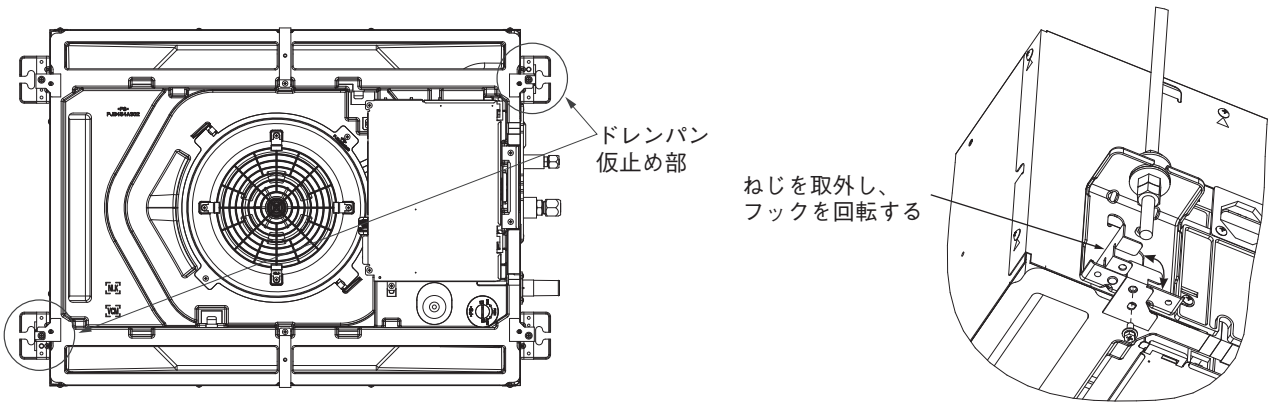
●パネル本体を取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパンの汚れが確認できます。
（高性能フィルタなどオプションスペーサ取付時は確認できません。）

1．サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
2．ドレンパンコーナーにあるのぞき窓カバーを取外してください。
3．のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。
　汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。
4．汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外時の注意事項

●ドレンパンには仮止め機構がついています。ドレンパン取外し時、および取付時には注意願います。
ドレンパン取付ねじ（４個）取外し後、仮止めフックを外してください。
ドレンパン取付時は、仮止めフックを取付後、確実にねじで固定してください。

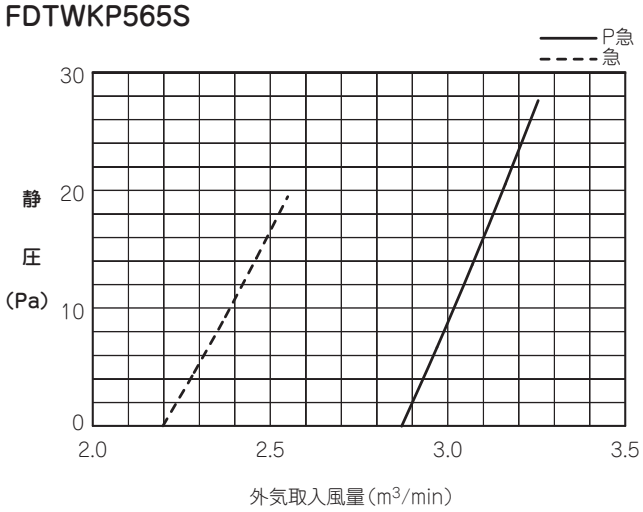


(ii) **新鮮空気(OA)の取入れ**

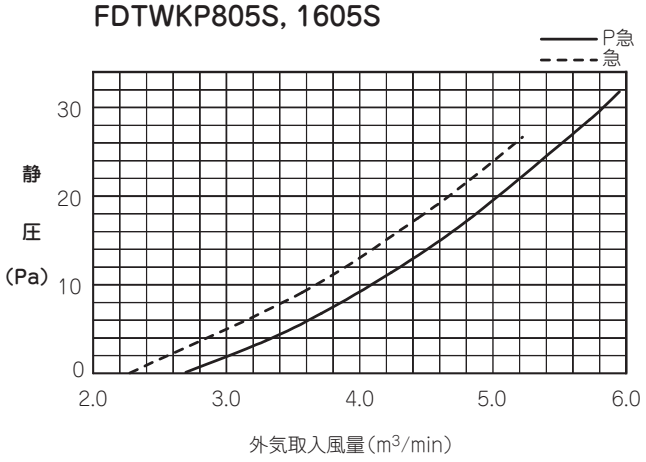
本ユニットは側板に新鮮空気取入ダクト接続口を持っています。(外形図をご覧ください。)

新鮮空気取入量は下図により求めてください。

FDTWKP565S

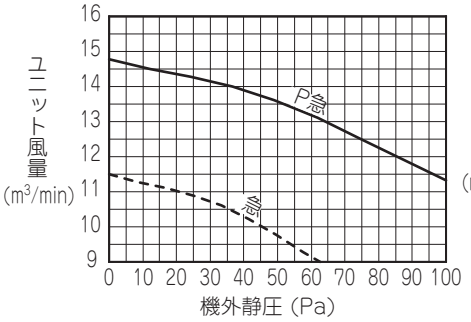


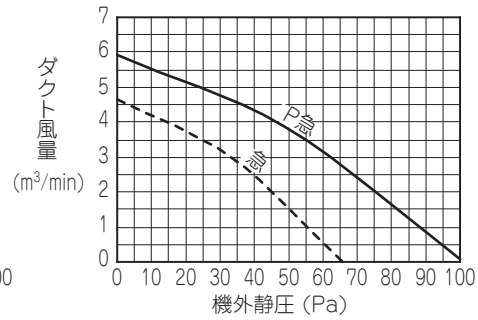
FDTWKP805S, 1605S

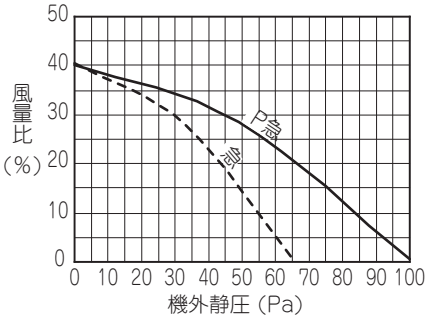


(iii) **分岐ダクト特性**

FDTWKP565S

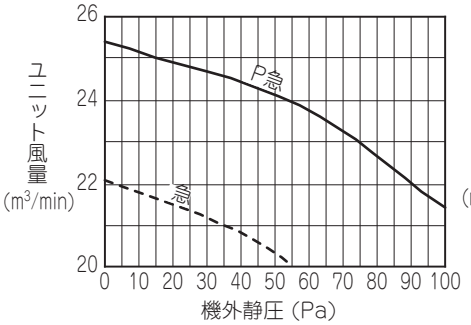


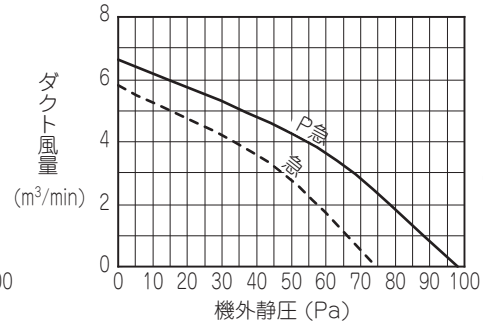


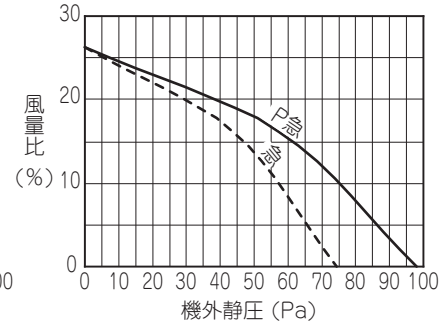


FDTWKP805S, 1605S

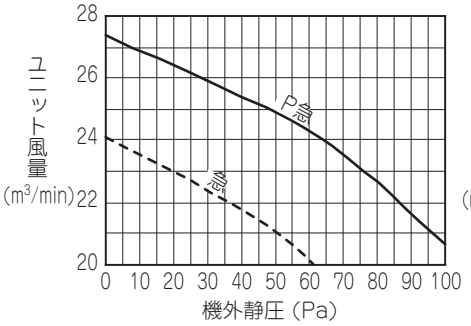
■ダクト1個使用

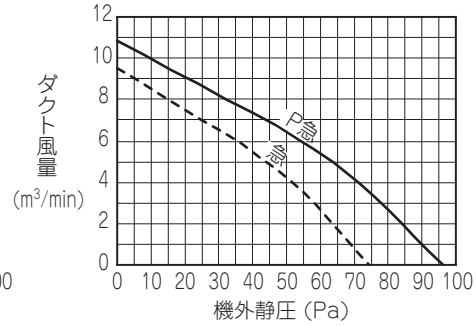


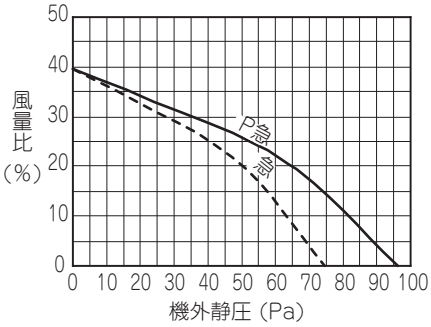




■ダクト2個使用







(iv) パネルの据付

PJB012D300 A

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない | ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

お願い <ラクリーナパネル>

・サービスパネルの動作範囲の周辺および下方には、障害物を置かないでください。
・電源投入前にパネルを取付けた場合は、サービスパネルの昇降動作はできません。
・電源投入前にサービスパネルを収納する場合は、付属のサポートで仮固定する事ができます。
・電源投入後は、付属のサポートが外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・サービスパネル取付後の初回は、リモコンで「上げる」の操作を行い、サービスパネルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤは、折曲げ、ねじり、噛込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

① 据付のまえに

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・右図の付属品を確認してください。

付属品

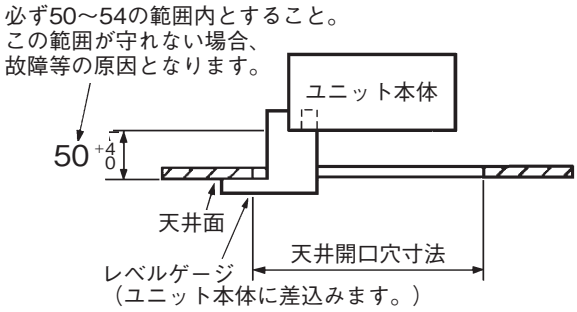
ボルト		6本	パネル取付用
サポート		4本	サービスパネル仮止め用 （ラクリーナパネルのみ）

② 本体の取付レベルの確認

・ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
・ユニット本体に同梱されているレベルゲージで本体高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。
・ユニット本体付属のレベルゲージを吹出口にセットし、
　本体の吊り込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

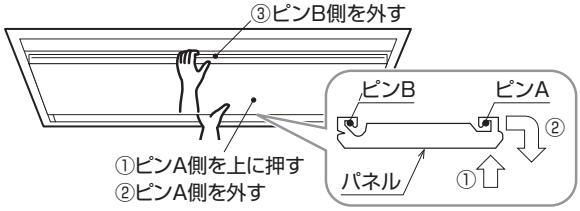
ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。



③ サービスパネルの取外し

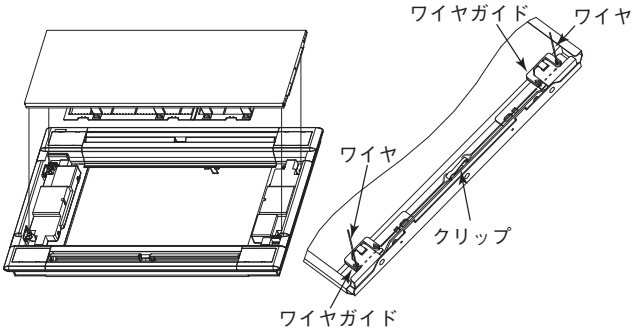
＜標準パネルの場合＞
1．サービスパネルの片側（ピンA側）を上に押し上げてください。
2．ピンAからパネルを外してください。
3．ピンB側を外し、パネルを取外してください。



<ラクリーナパネルの場合>
1．サービスパネルを少し持ち上げて、サービスパネルを開けます。
2．サービスパネルの４コーナに引掛けてあるワイヤをワイヤガイドから取外してください。

ご注意

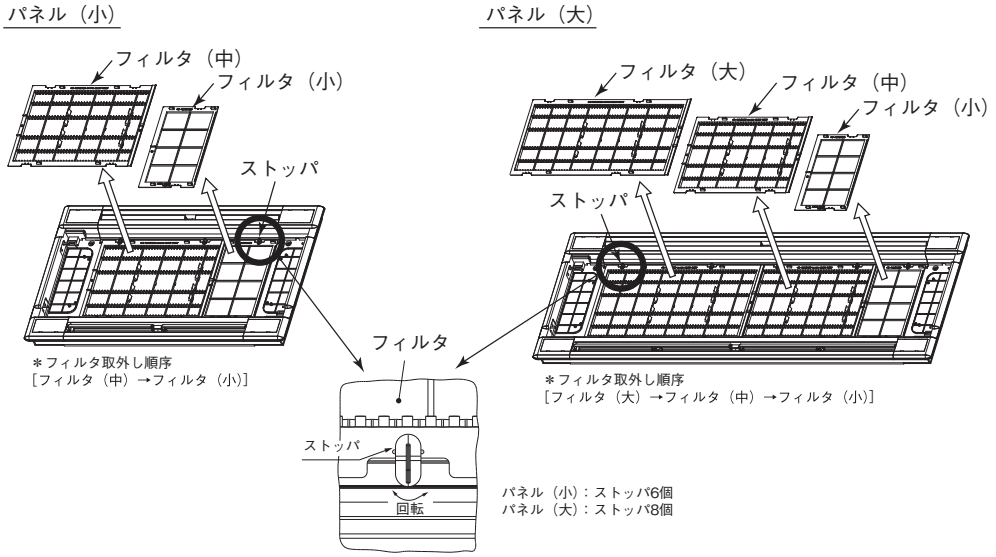
サービスパネルはゆっくり持ち上げてください。
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。



④ フィルタの取外し

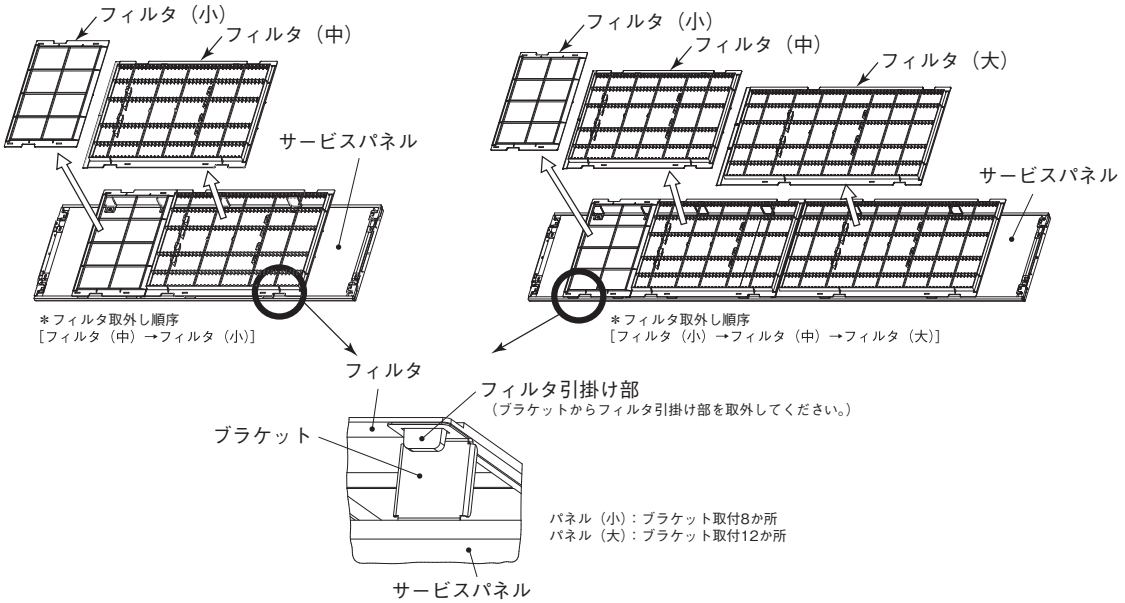
<標準パネルの場合>

・フィルタを押さえ、ストッパを回転させてフィルタを取外してください。



<ラクリーナパネルの場合>

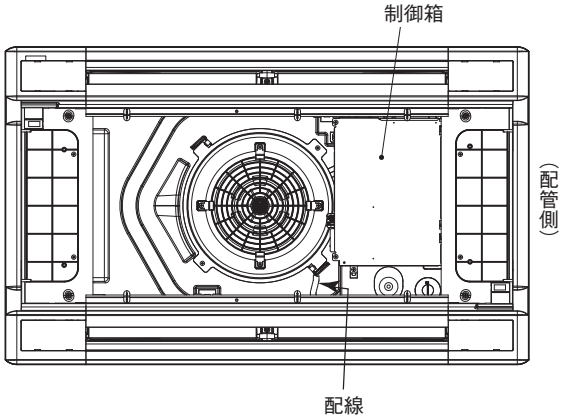
・フィルタをブラケットから取外してください。



⑤ パネルの取付方向

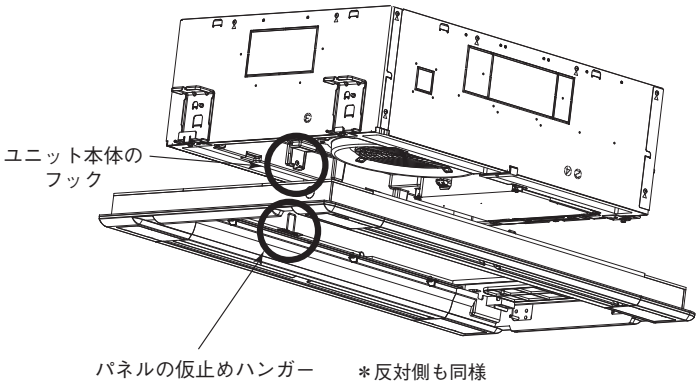
1．パネルの取付方向はユニット本体に対し方向性があります。
・パネルは、右図の様に電気配線が制御箱に近くなる方向で取付けてください。

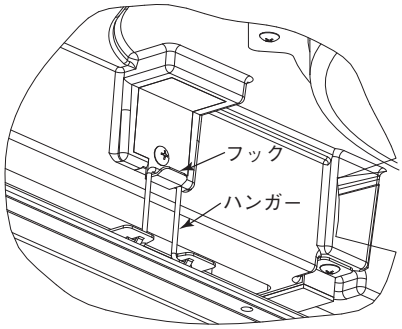
ご注意
・右図以外の方向で取付けると、エアフィルタと制御箱が干渉し風漏れの原因となります。
また電気配線の接続ができません。



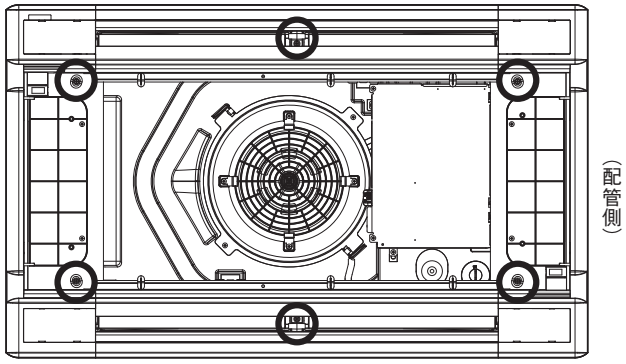
⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（2か所）
・パネルの仮止め用ハンガーをユニット本体のフックにかけて、パネルを本体に吊るします。



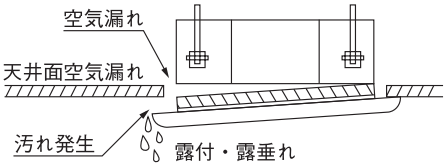


2．パネルのユニット本体への固定
・パネル付属のボルト6本を用いて、ユニット本体に締付けてください。

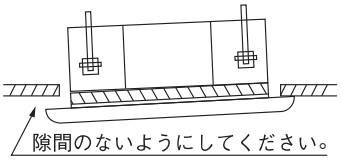


○：パネルのユニット本体への固定部

ご注意
・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



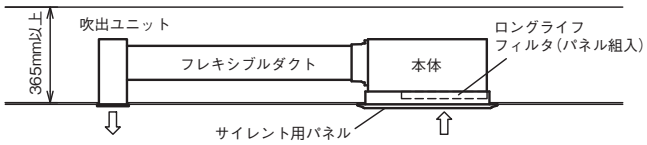
(c) 天埋カセテリア（FDR）

PJG012D031

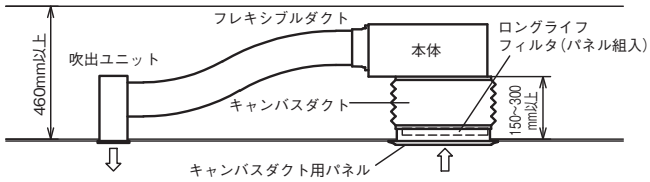
(i) 室内ユニットの据付

設置方法

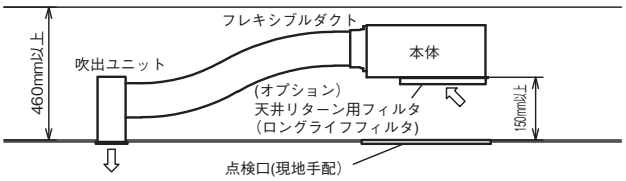
サイレント仕様



キャンパス仕様



天井リターン方式



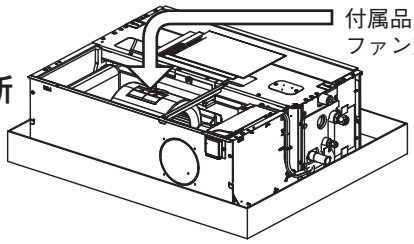
本体の大きさ・設置方法とオプションを確認してください。吹出ダクト他のオプションを含めカタログにて確認してください。

シリーズ展開　組合せオプション		中型	大型
		P40, 56	P71～160
シリーズ展開	店舗	●	●
吹出口数	丸ダクト	3口	4口
キャンバスダクト	パネル	R-PNC-3AW	R-PNC-4AW
	キャンバス	HAO1490	HAO1484
サイレント	パネル	R-PNS-3AW	R-PNS-4AW
天井リターン	フィルタ	R-FL-3A	R-FL-4A
	点検口	現地手配	

①据付のまえに

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様
　○配管・配線・小物部品
　○付属品

付属品収納場所
（梱包時）



付属品はユニット内のファン室に入っています。

付属品

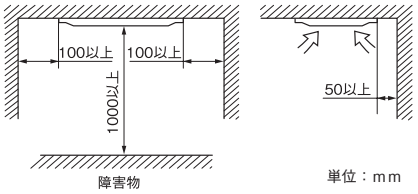
本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
8個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
ユニット吊り下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは２．５m以上としてください。



本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。（ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。）

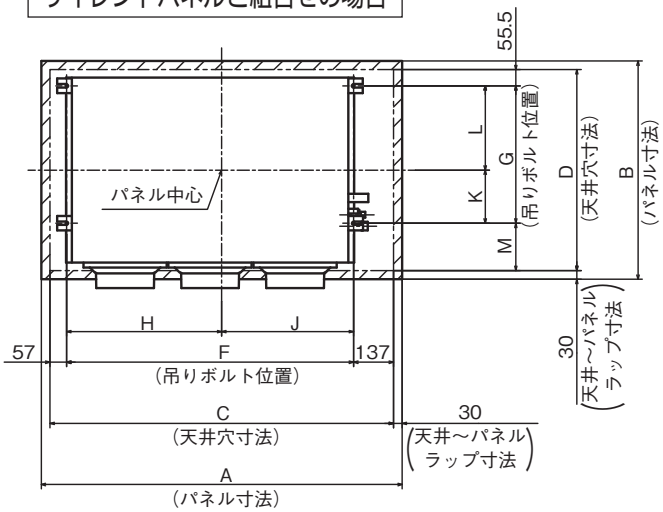
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

③据付前の準備

本内容を参照に最新設置基準に合わせ設置してください。

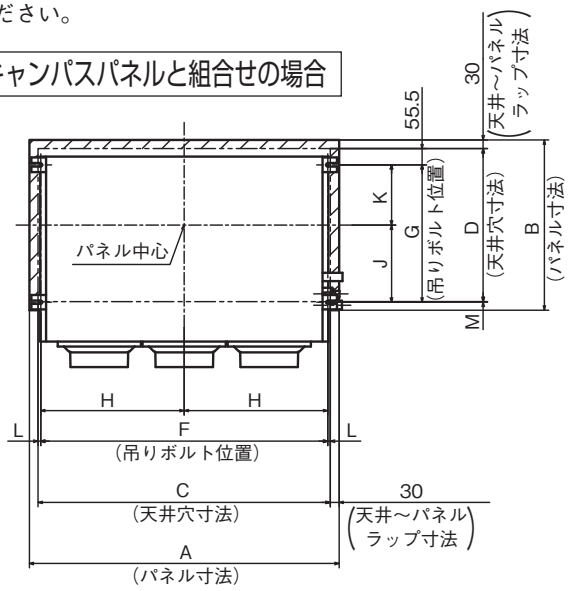
●吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

サイレントパネルと組合せの場合



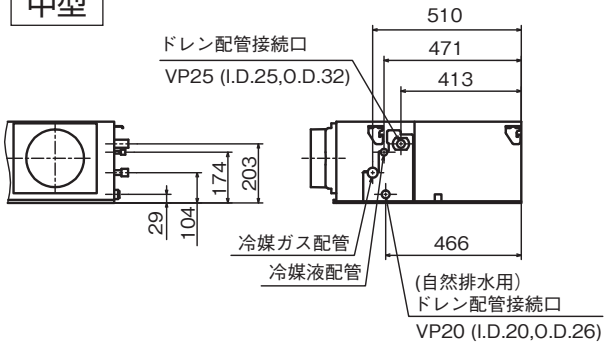
	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
中型	1240	750	1180	690	986	472	533	453	182.5	289.5	162.5
大型	1658	850	1598	790	1404	530	742	662	190.5	339.5	204.5

キャンパスパネルと組合せの場合

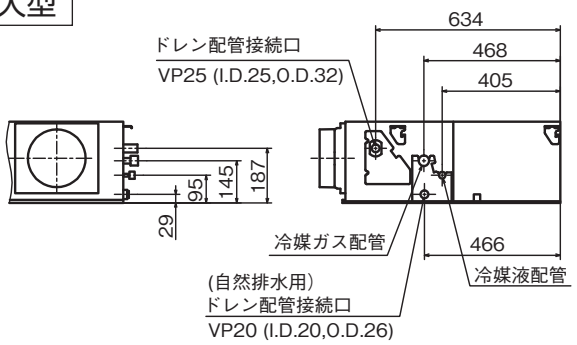


	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
中型	1064	585	1004	525	986	472	493	265	207	9	2.5
大型	1484	585	1424	525	1404	530	702	323	207	10	60.5

中型



大型

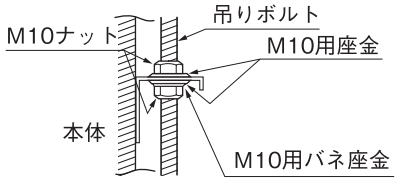


④室内ユニットの据付

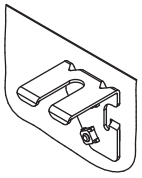
据　付

〈吊り込み〉

○ユニットを吊り込んでください。



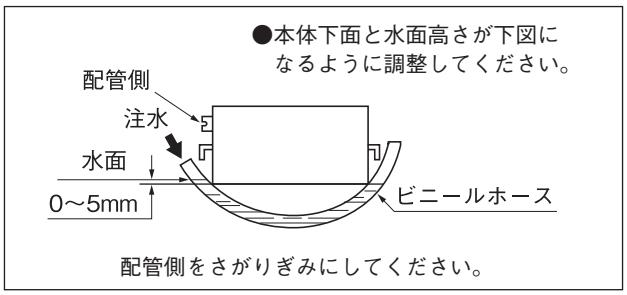
○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

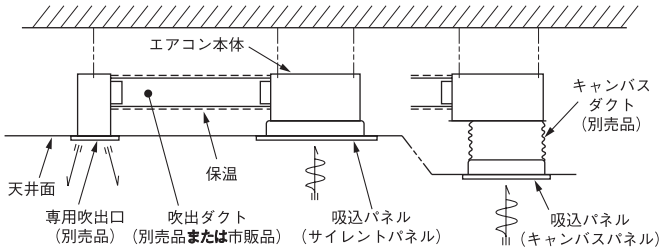
お願い

○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

⑤ダクト工事



お願い

○風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

①吹出ダクト

●ø200丸形ダクトを接続してください。
●各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
●ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
●4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれを塞いでください。
●2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。

お願い

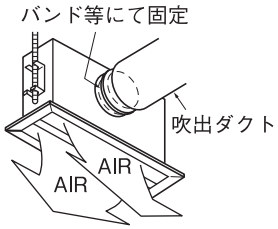
●曲りは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)

●本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。

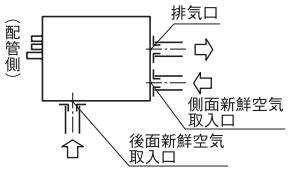
●露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクト使用を推奨いたします。（別売品1m、２m、４mがあります。）
●天井貼付前にダクト工事を実施してください。

②専用吹出口

●専用吹出口は、室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。
●ダクト接続は、φ２００丸形ダクト専用です。
●専用吹出口の取付およびダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
●ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。



③給・排気ダクトの接続



ⓐ新鮮空気取入

●後面または、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
●同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。（側面は使用不可）

ⓑ排気（必ず給気を併用してください。）

●側面排気口を使用してください。

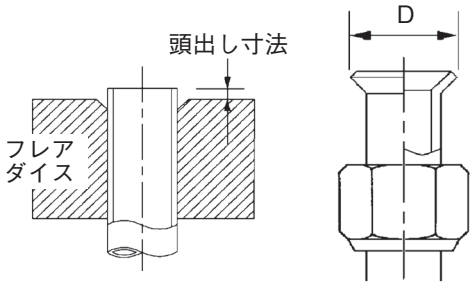
ⓒダクト接続

●別売品の給排気用ダクトフランジ（φ１２５丸形ダクト接続用）を利用し、φ１２５丸形ダクトを接続してください(バンド締め)。
●ダクトは結露防止のため、保温してください。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたは JIS B 8607 ２種適合品をご使用ください。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認すること。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のものまたはJIS B 8607 ２種適合品を使用すること。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R410A用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～0.5	0.7 ～1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

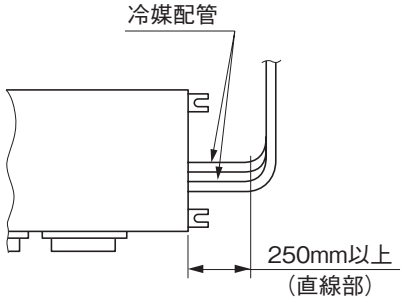
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管にR32用またはR410A用のフレア加工をしてください。

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（ C1220T，JIS H 3300 ）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●Ｒ３２またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用ツールを使用してください。

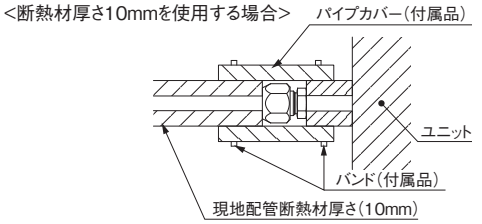


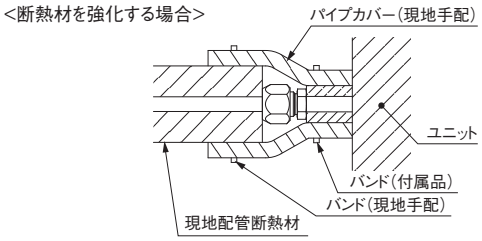
お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を２５０mm以上とって行ってください。
（ドレンポンプのサービスに必要です。）

⑥冷媒配管のつづき

作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
　※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
　（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
　※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
　また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
　※フレア接続は、以下のように行ってください。
　・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締め付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
　※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
　室内および接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の室外ユニット付属説明書をご覧ください。





注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

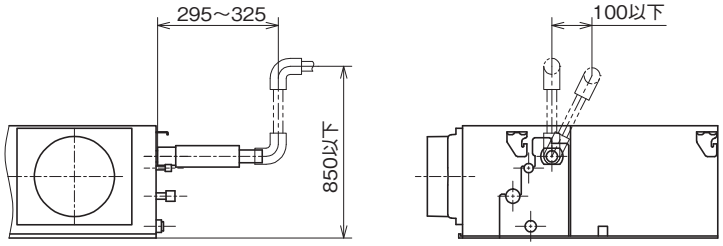
⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100　以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

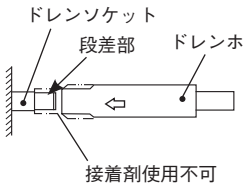
ドレンアップする場合

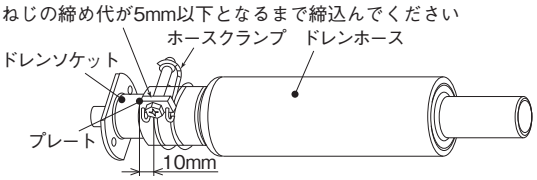
●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mm　まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

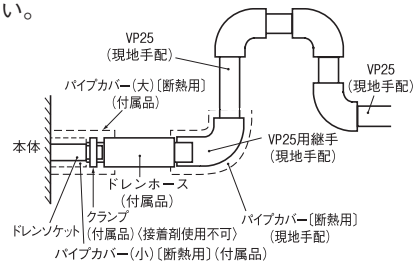


作業手順

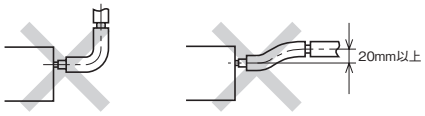
1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が5mm 以下となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可





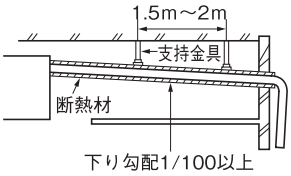


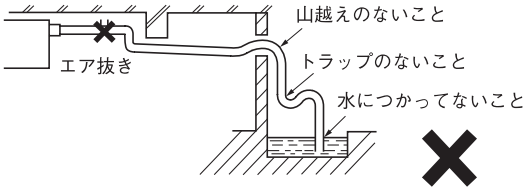
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
　※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
　乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。

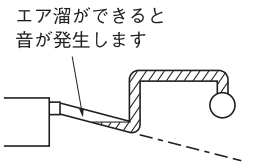


⑦ドレン配管のつづき

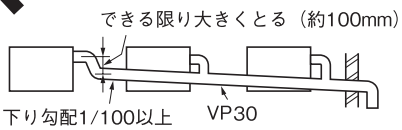
3．ドレン配管は下り勾配（1／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加わらないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。







● 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。

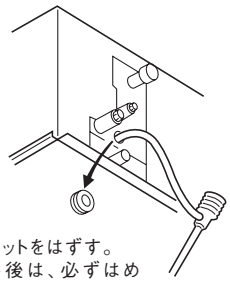


4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレン排水テスト

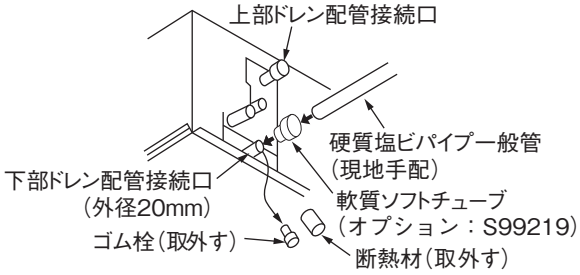
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1．右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃほどの水を注入してください。注水ホースを50ｍｍ位差し込んで注水してください。（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）
2．ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3．排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配（1／５０～1／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



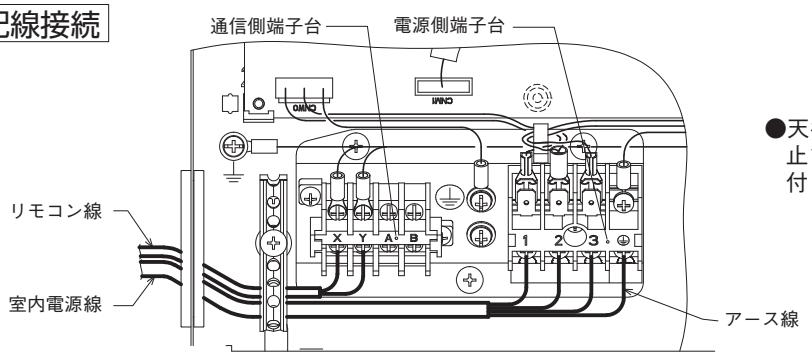
下部ドレン配管を使用する場合は必ず必要です
〈ドレンモータ用のコネクタの取外し〉
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCnRを取外してください。

注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

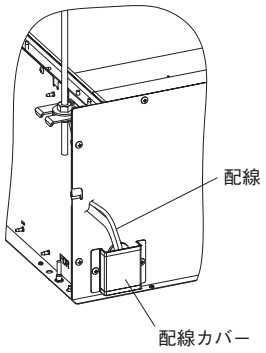
⑧電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。

配線接続



●天井裏空気の吸込防止で配線カバーを取付けください。



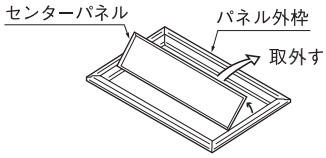
⑨パネルの取付のつづき

サイレントパネルの場合

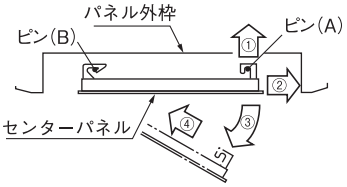
〈付属品〉

丸小ねじ（M5×35）		4個	パネル取付用

①パネル内枠を外してください。

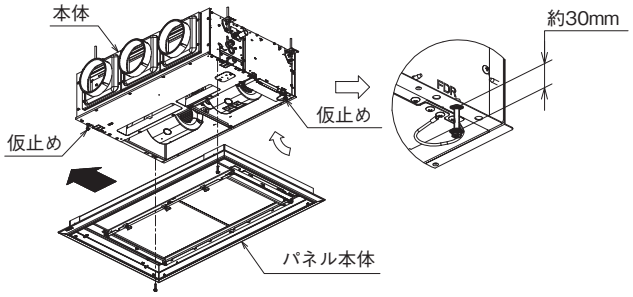


<センターパネルの外し方>



ⓐ矢印①→②順でピン（A）より外してください。
ⓑ矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン（B)より外してください。

②フィルタをパネルから外してください。
③パネル外枠を本体に取付けてください。



ⓐパネル取付ねじ（パネル付属品）４本のうち２本を図のように仮止めしてください。
ⓑパネル外枠を仮止めしたねじに引っかけ、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。
（注：パネル外枠の装着には方向性があります。）
ⓒ仮止めしたねじおよび残りのねじ（２本）を締付けてください。
ⓓセンターパネルを①項で外す逆の要領で取付けてください。

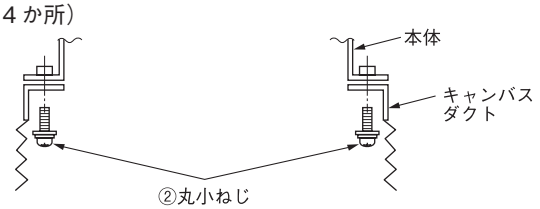
キャンバスパネルの場合

注）キャンバスパネルの取付には
キャンバスダクト（別売品）が必要です。

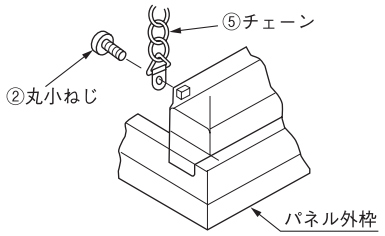
〈付属品〉

①	丸小ねじ（M4×16）		4個	パネル固定
②	丸小ねじ（M5×16）		8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③	丸小ねじ（M5×25）		4個	チェーン固定
④	ホルダー		4個	
⑤	チェーン		4個	

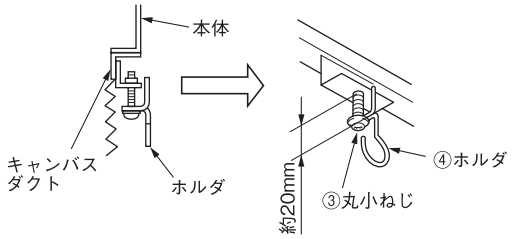
①キャンバスダクト（別売品）を本体に取付けてください。（４か所）



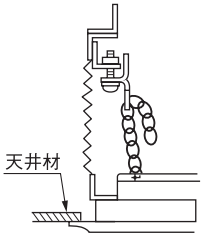
②センターパネルを上項に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。
③パネル外枠にチェーンを取付けてください。（４か所）



④パネル外枠を取付けてください。
ⓐホルダを下図に示すように仮止めしてください。

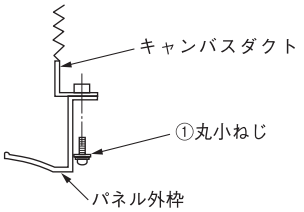


ⓑパネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。



注）チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

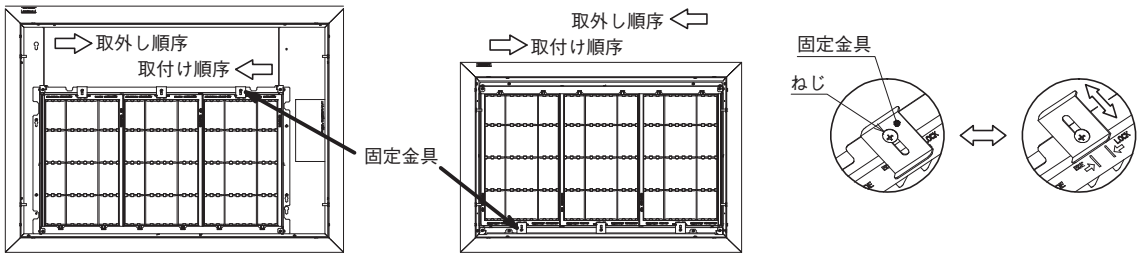
ⓒパネル外枠を天井材と密着するまでⓐ項の③丸小ねじにより吊り上げてください。
ⓓキャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。



⑤センターパネルを上項に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

フィルタの取付方法

○ パネルに貼付けのラベルを参照に取外し、取付の順番を確認してください。
○ フィルタを取外し・取付は、ねじを緩め固定金具をスライドして行ってください。



⑨機外静圧設定

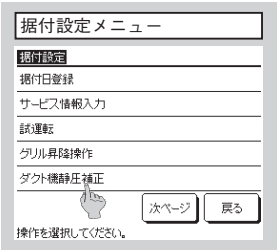
ECOタッチリモコン（RC-DX2以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ECOタッチリモコンからの設定方法

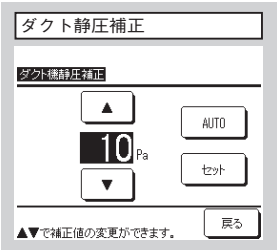
①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、100Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。

［メニュー］ボタンをタッチしてください。

［据付設定］ボタンをタッチしてください。



選択した画面に移ります。



機外静圧を選択し、［セット］をタッチしてください。

注意
・RC-DX2以降のECOタッチリモコン以外からは設定できません。

静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

リモコン設定時の有効機外静圧（Pa）　　／部の設定は使用範囲外になります。

リモコン設定		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
標準パネル		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
天井リターン	中型・大型	20	30	40	50	60	70	80	90	100	/
1スポット塞ぎ※	中型	/	/	10	20	30	40	50	60	70	80
	大型	/	10	20	30	40	50	60	70	80	90

※中型（3スポット）を2スポット、大型（4スポット）を3スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板（HA06916）を用意しています。両端のスポットはふさがないでください。

⑩ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

(ii) パネルの据付

PJG012D016

1) サイレントパネル

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電･火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠

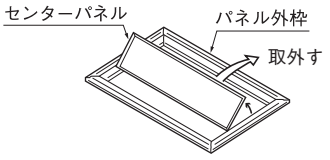
① 据付のまえに

・据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
・下記の付属品を確認してください。

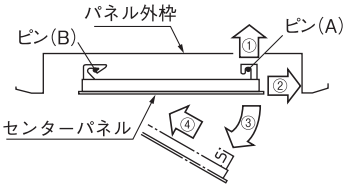
名称		個数	備考
丸小ねじ M5×35		4個	パネル固定用

② センターパネルの取外し

パネル外枠からセンターパネルを外してください。

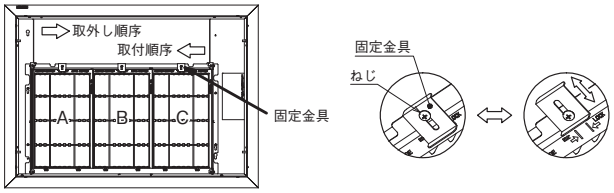


〈センターパネルの外し方〉
1.矢印①→②の順でピン（A）より外してください。
2.矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン（B）より外してください。



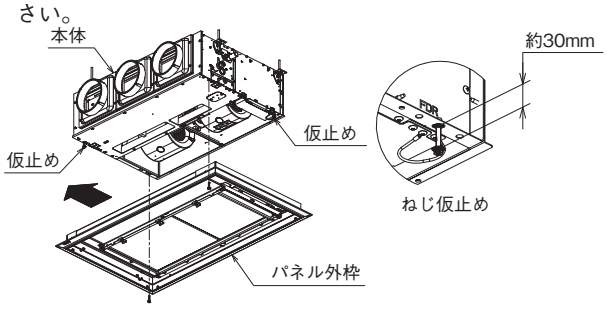
③ フィルタの取外し

1.固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2.図の取外し順序に従って取外してください。
（A⇒B⇒Cの順）



④ パネルの取付

1.パネル取付ねじ（パネル付属品）4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
2.パネル外枠を仮止めしたねじに引っかけ、図の矢印（⬅）の方向へスライドさせ仮止めしてください。
注）パネル外枠の装着には方向性があります。図の方向で取付けてください。
3.仮止めしたねじおよび残りのねじ（2本）を締付けてください。



⑤ フィルタの取付

1.③項に示す取付順序に従って取付けてください。
（C⇒B⇒Aの順）
2.固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

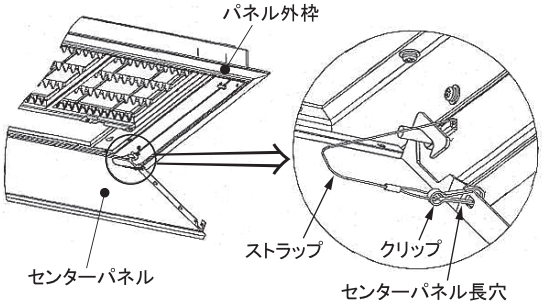
⑥ センターパネルの取付

②項に示す逆の順序で取付けてください。

⑦ ストラップのはめ込み

センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注）クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



2） キャンバスパネル

PJG012D015

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電･火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠

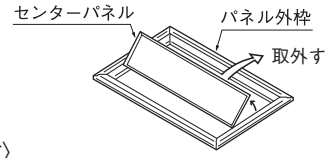
① 据付のまえに

・据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
・下記の付属品を確認してください。

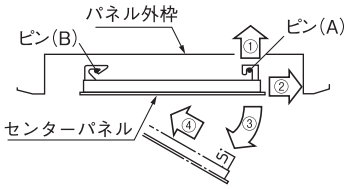
No.	名称		個数	備考
Ⅰ	丸小ねじ（M4×16）		4個	パネル固定用
Ⅱ	丸小ねじ（M5×16）		8個	キャンバスダクト固定用 チェーン固定用
Ⅲ	丸小ねじ（M4×25）		4個	ホルダー固定用
Ⅳ	ホルダー		4個	
Ⅴ	チェーン		4個	
Ⅵ	断熱材		2個	

② センターパネルの取外し

パネル外枠からセンターパネルを外してください。

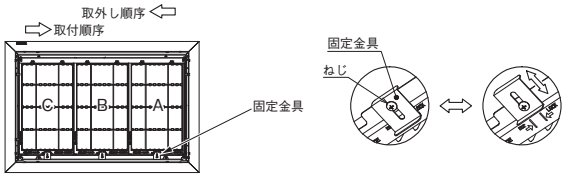


〈センターパネルの外し方〉
1.矢印①→②の順でピン（A）より外してください。
2.矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン（B）より外してください。



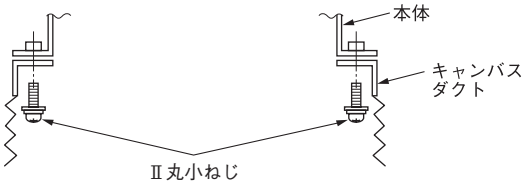
③ フィルタの取外し

1.固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2.図の取外し順序に従って取外してください。
（A⇒B⇒Cの順）

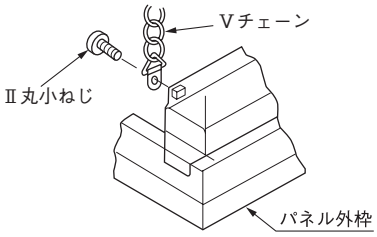


④ パネルの取付

1.キャンバスダクト（オプション品）を本体に取付けてください。（4か所）



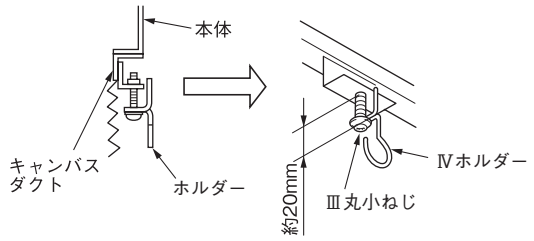
2.パネル外枠にチェーンを取付けてください。（4か所）



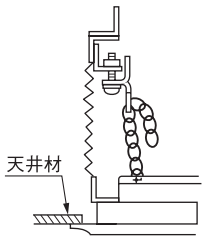
④ パネルの取付のつづき

3.パネル外枠を取付けてください。

ⅰ.ホルダーを下図に示すように仮止めしてください。（4か所）



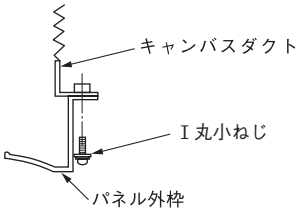
ⅱ.パネル外枠のチェーンをホルダーに引掛けてください。



注）チェーンを引掛ける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

ⅲ.パネル外枠を天井材と密着するまでⅰ項のⅢ丸小ねじにより吊り上げてください。

ⅳ.キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。（4か所）



⑤ フィルタの取付

1.③項に示す取付順序に従って取付けてください。（C⇒B⇒Aの順）

2.固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

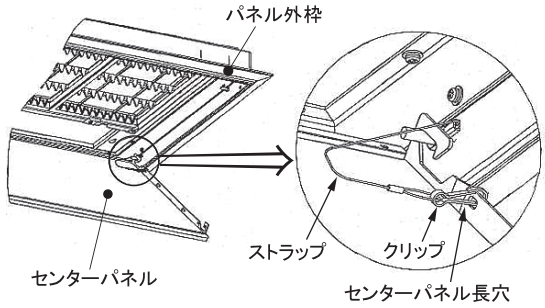
⑥ センターパネルの取付

②項に示す逆の順序で取付けてください。

⑦ ストラップのはめ込み

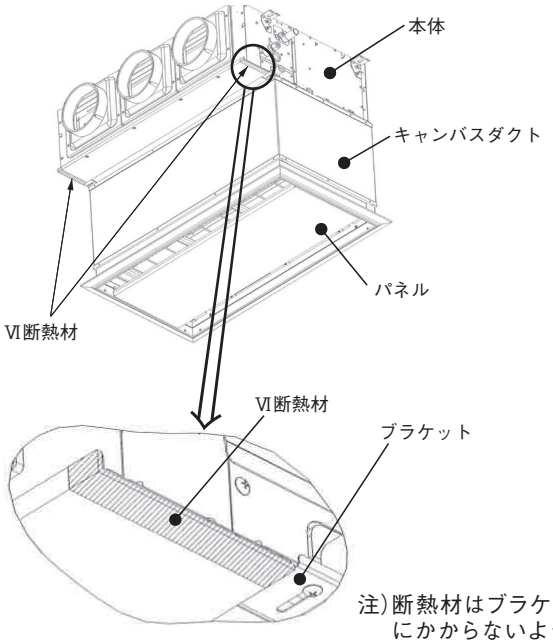
センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注）クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



⑧ 断熱材の貼付

本体の下記箇所に断熱材を貼付けてください。（2か所）

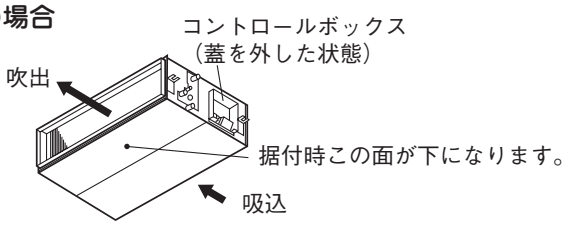


注）断熱材はブラケットにかからないように貼付けてください。

(d) 高静圧ダクト形（FDU）

(i) P565S，P715S-P1125S の場合

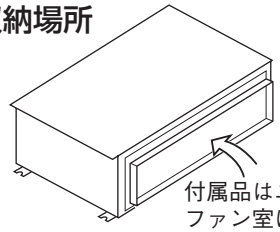
○本機は高静圧ダクト機です。
直吹きでは使用しないでください。



①据付のまえに

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様　○配管・配線・小物部品　○付属品

付属品収納場所
（梱包時）



付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
8個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
ユニット吊り下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

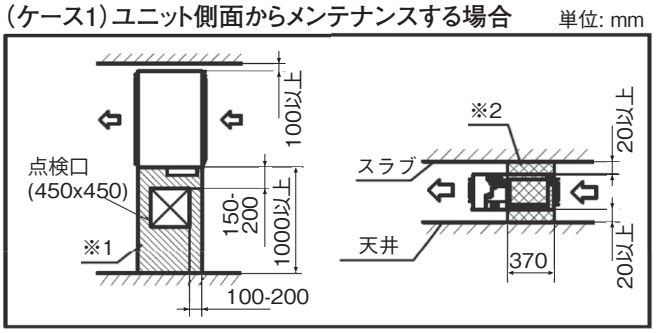
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80%以下の所。
（本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに 10 ～ 20mm の断熱材を取付けてください。）
・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。（ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。）
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

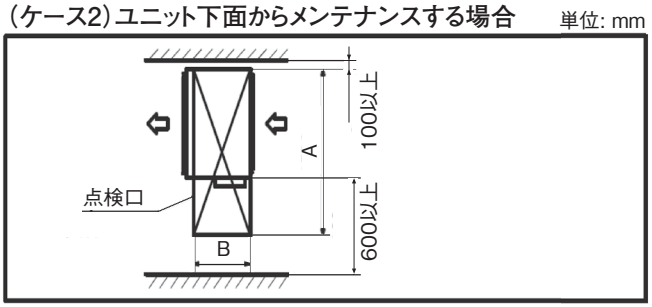
室内ユニット据付スペース

●据付高さは2．5m以上としてください。据付時、サービス時のために下記2ケースのどちらかを選んでください。

（ケース1）ユニット側面からメンテナンスする場合　単位: mm



（ケース2）ユニット下面からメンテナンスする場合　単位: mm



※1　ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。（▨ 印箇所）
※2　▩ 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

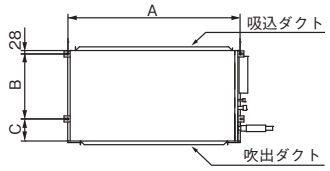
（点検口サイズ）　単位: mm

店舗シリーズ	P56	P71-P112
A	1300	1720
B	620	725

③据付前の準備

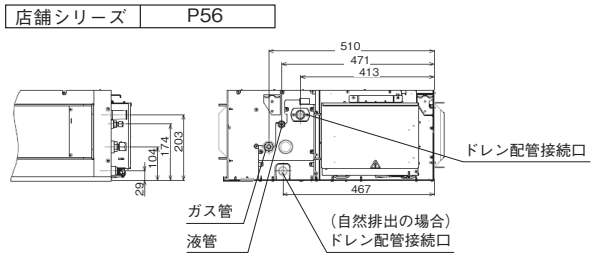
●吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

吊りボルト位置、配管位置、ダクト寸法

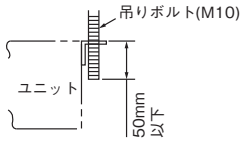


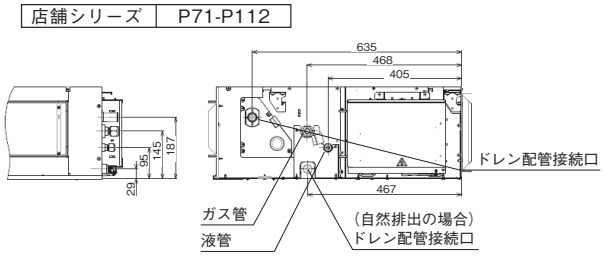
単位: mm

店舗シリーズ	P56	P71-P112
A	986	1404
B	472	530
C	135	180



吊りボルト締付時には下記長さになるように調整してください。



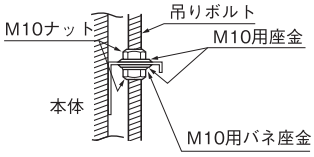


④室内ユニットの据付

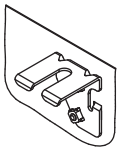
据　付

〈吊り込み〉

○ユニットを吊り込んでください。



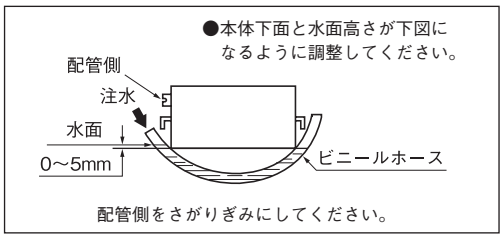
○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

お願い

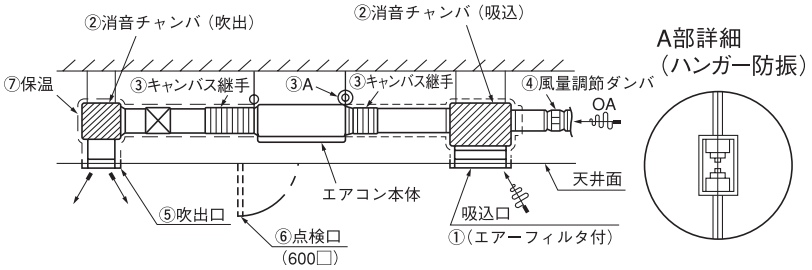
○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

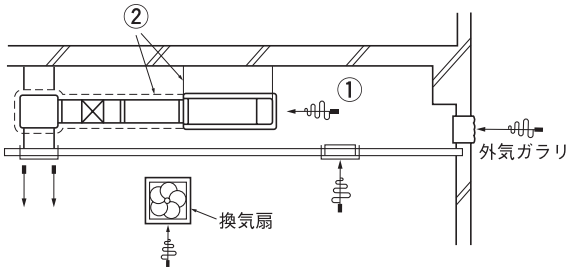
⑤ダクト工事

高静圧ダクト（FDU）



①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
②消音チャンバは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
　特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④ OA ダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは６５ｍｍ（JIS A 9501）です。
⑧送風機（ファンモータ）に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込みで使用する場合は吸込口にエアフィルタを取付けてください。

〈ダクト施工の悪い例〉



〈空気条件、風量限界〉

店舗シリーズ		P56	P71-P112
最大風量（m³/min）		27	53
室内側入口空気	乾球温度（℃）	32	
	湿球温度（℃）	29	

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
　㈠ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
　　ユニットは上表の空気条件および風量限界内で使用してください。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。この場合はユニット全体をグラスウール（２５mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
　㈡ユニットの運転限界（例：外温３５℃ DB のとき吸込空気温度２４℃ WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
　㈢換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンへ流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

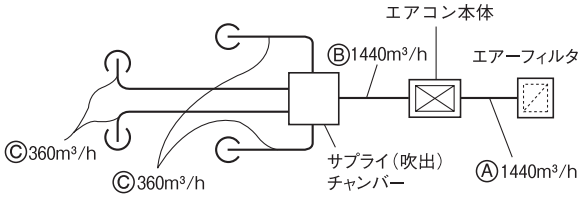
〈簡易ダクト寸法選定図〉

1Pa/m

風量 m³/h（m³/min）	角ダクト 寸法（mm×mm）		
100	200×70	170×80	
200	200×100	170×120	
300	200×140	170×150	Ⓒ部
360（6）	200×150	170×180	
450	200×180	170×210	
500	200×200	170×230	
600（10）	200×220	170×260	
800	200×280	170×340	
1000	200×330	170×400	
1200（20）	200×380	170×460	
1400	200×430	170×530	Ⓑ部
1440（24）	200×440	170×540	
1600	200×480	170×600	
1800（30）	200×530	170×660	
2000	200×580	170×720	
2400（40）	200×680	170×850	
3000（50）	200×830	170×1040	

Ⓐ部

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉
ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を１Pa/m として、ダクトは一辺が吸込側は１７０mm、吹出側は２００mm のものを使用する場合の方法を示します。Ｐ５６形、定格風量の場合を例とします。



	風　　量	ダクト(mm×mm)
Ⓐ部	1440m³/h（24m³/min）	200×440
Ⓑ部	1440m³/h（24m³/min）	170×540
Ⓒ部	360m³/h（6m³/min）	170×180

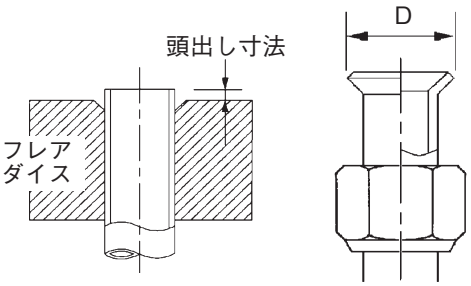
○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

直管部	長さ 1m 当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部 1個当り直管に直して3～4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバ	1 個で 50Paで計算する
吸込グリル(フィルタ付)	1 個で 40Paで計算する

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●**冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたは JIS B 8607 ２種適合品をご使用ください。**
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認すること。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの**また**は JIS B 8607 ２種適合品を使用すること。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

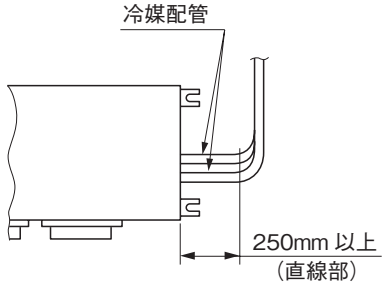
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。

●**冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。**
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●**Ｒ３２またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。**
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●**据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。**
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●**工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用ツールを使用してください。**



お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を２５０mm以上とって行ってください。
（ドレンポンプのサービスに必要です。）

作業手順

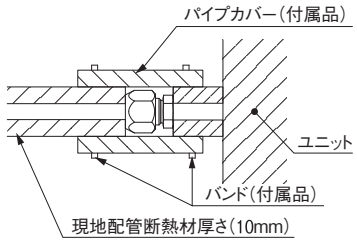
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●**フレアナット飛びに注意してください。**（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

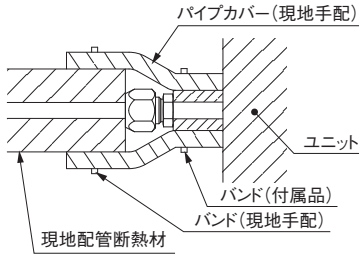
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●**ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。**
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●**ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。**
●**高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。**

4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の 室外ユニット付属説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

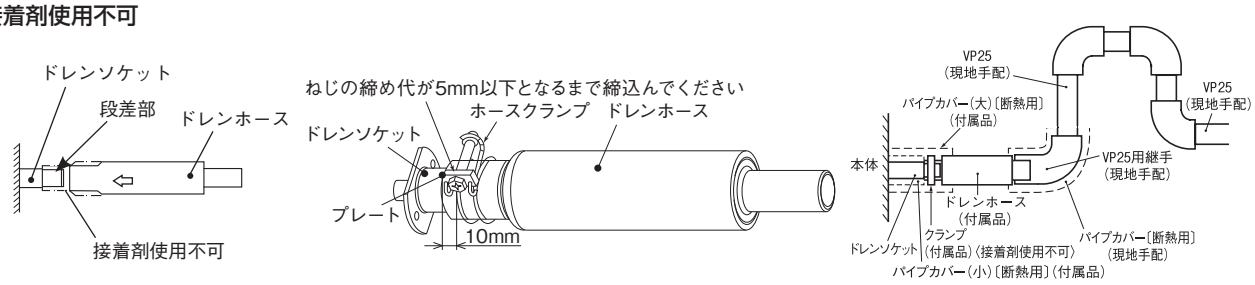
⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

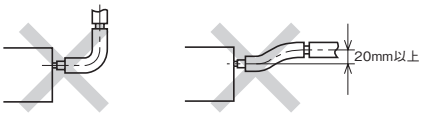
●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●**ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●**接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**
●**水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**
●**施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。**
●**ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。**
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

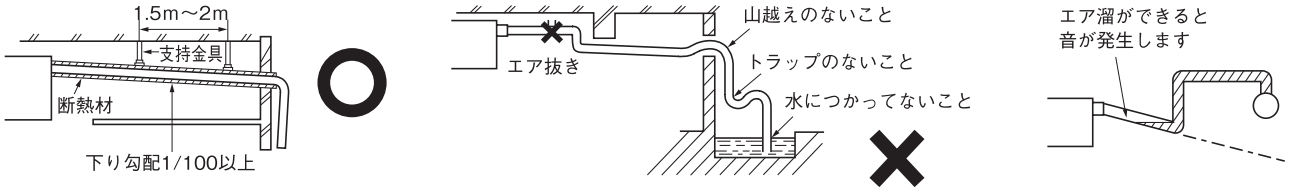
1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 以下となるまで締込んでください。
●**接着剤使用不可**



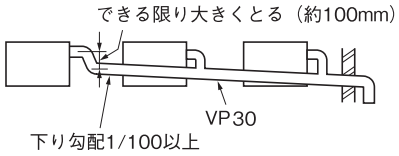
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●**接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。**
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



3．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加わらないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。



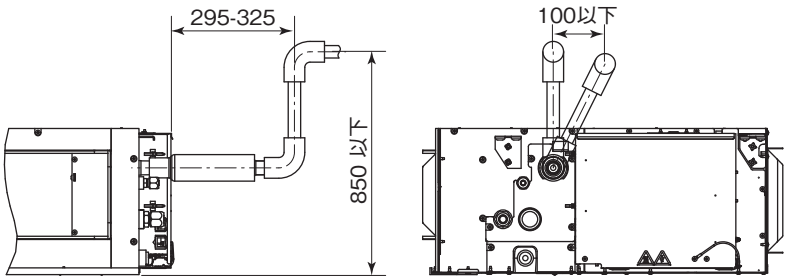
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。



4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より８５０mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

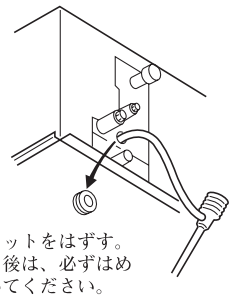


⑦ドレン配管のつづき

ドレン排水テスト

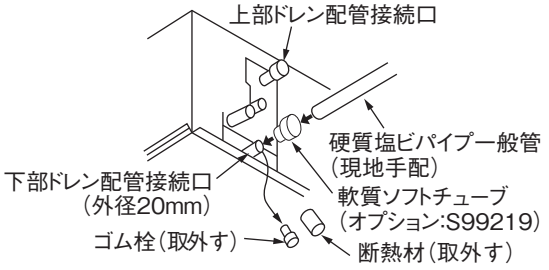
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1．右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃほどの水を注入してください。注水ホースを 50 ｍｍ位差し込んで注水してください。（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）
2．ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3．排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配（１／５０～１／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



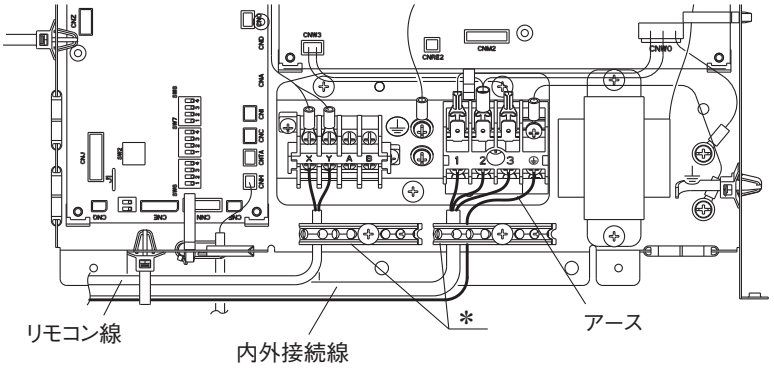
ドレンモータ用のコネクタ CnR の取外し
下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CnR を取外してください。

注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

⑧電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
　コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。



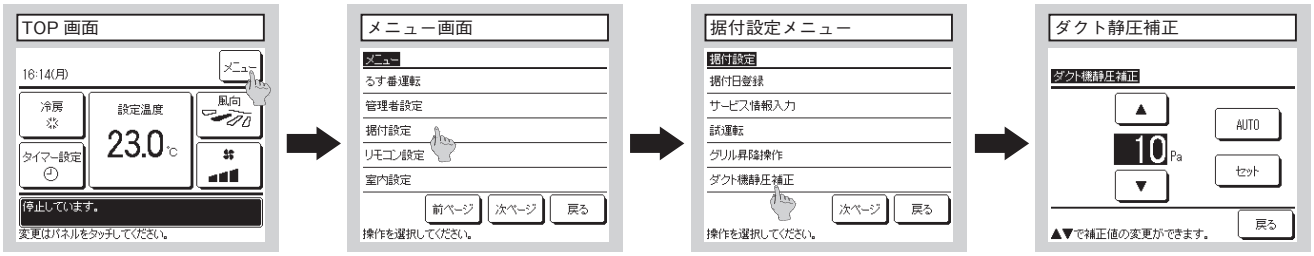
＊配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

⑨機外静圧設定

ECOタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ECOタッチリモコンからの設定方法

①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、150Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。



［メニュー］ボタンをタッチしてください。

［据付設定］ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、［セット］をタッチしてください。

注意

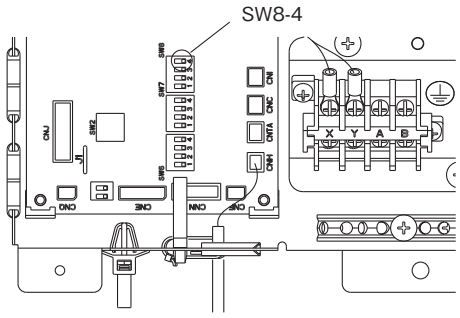
・RC-DX2 以降の ECOタッチリモコン以外からは設定できません。

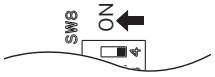
静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

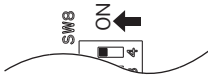
工場出荷状態では上記のリスクを減らすため、機外静圧設定範囲を 80-150Pa としております。
実際の機外静圧は 80-150Pa の範囲で使用してください。実際の機外静圧が 80Pa より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。
（機外静圧設定を10～70Paで設定した場合、機外静圧設定は 80Pa となります。
機外静圧設定を 160～200Paで設定した場合、機外静圧設定は 150Pa となります。）

また、コントローラの SW8-4 を ON にすることにより、機外静圧設定範囲を 10-200Pa に変更することが可能です。ただし、上記リスクが高くなるため、実際の機外静圧を把握してない場合には使用しないでください。





SW8-4:OFF（機外静圧設定範囲：80～150Pa）

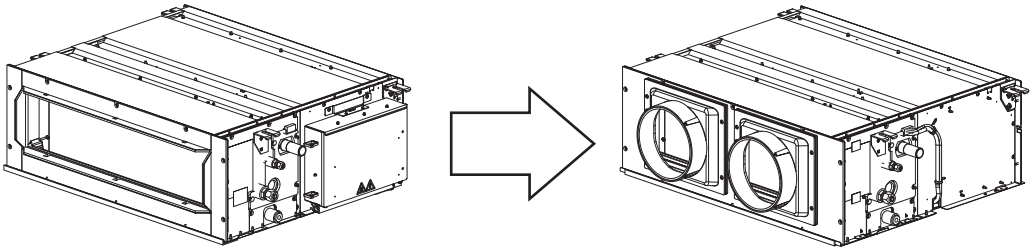


SW8-4:ON（機外静圧設定範囲：10～200Pa）

⑩丸ダクト変換キット使用時の静圧設定について

丸ダクト変換キット(オプション)を使用する場合、工場出荷時の機内圧力損失に対して増加します。そのため、機外静圧設定時には下表に従って設定してください。
例えば、P56形の場合、機外静圧を100Paにする場合には、下表に従ってリモコンの機外静圧設定を110Paにしてください。

注意
- 機外静圧範囲は10-100Paとなります。この範囲内になるよう、下表に従いリモコン機外静圧設定を行ってください。
- ⑨機外静圧設定に示すSW8-4をONにして使用ください。
- 実際の機外静圧と設定する機外静圧が一致することを確認してください。
  異なっていると水漏れや不冷・不暖の原因になります。



工事出荷時　　丸ダクト変換キット装着時

丸ダクト変換キット使用時のリモコン機外静圧設定　対応表

店舗シリーズ		P56	P71	P80-P112
オプション型式		U-UM-3A	U-UM-4A	
実際の機外静圧(Pa)	10	20	20	40
	20	30	30	50
	30	40	40	60
	40	50	50	70
	50	60	60	80
	60	70	70	90
	70	80	80	100
	80	90	90	110
	90	100	100	130
	100	110	110	140

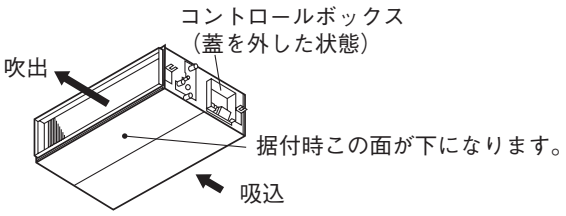
⑪ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

（ii） **P1405S-P1605S の場合**

○本機は高静圧ダクト機です。
直吹きでは使用しないでください。



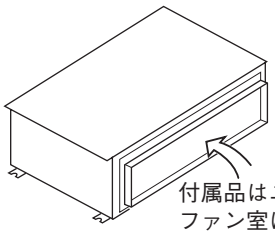
①据付のまえに

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様　○配管・配線・小物部品　○付属品

付属品

本体吊り込み用	ドレン配管用			
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
8個	1個	1個	1個	1個
ユニット吊り下げ用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

付属品収納場所（梱包時）



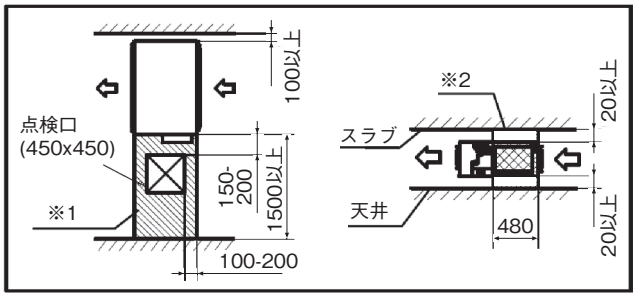
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80％以下の所。
本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに 10 ～ 20mm の断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。（ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。）
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

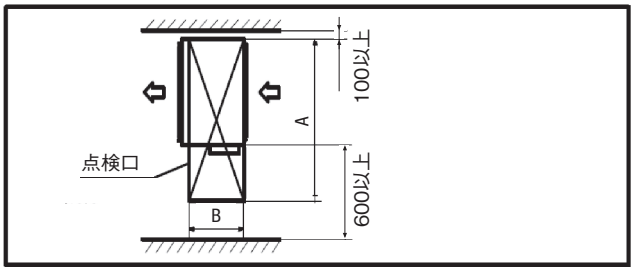
室内ユニット据付スペース

●据付高さは２．５m以上としてください。据付時、サービス時のために下記２ケースのどちらかを選んでください。

（ケース1）ユニット側面からメンテナンスする場合 単位: mm



（ケース2）ユニット下面からメンテナンスする場合 単位: mm



※１　ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。（　　印箇所）
※２　　印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

（点検口サイズ）　単位: mm

店舗シリーズ	P140-P160
A	1900
B	880

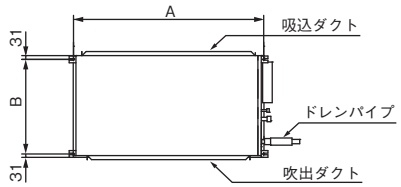
③据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

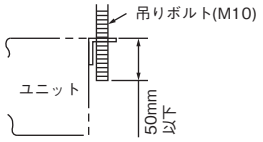
吊りボルト位置、配管位置、ダクト寸法

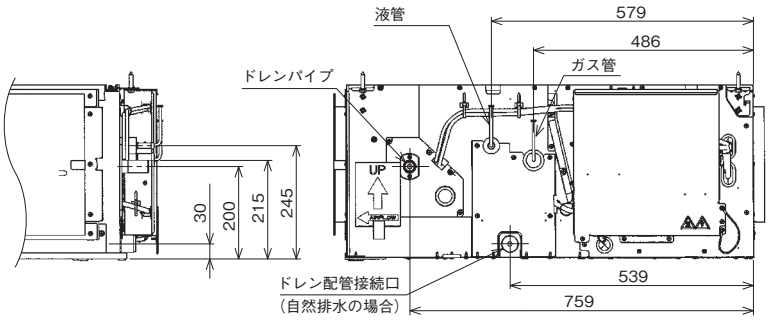
単位: mm

店舗シリーズ	P140-P160
A	1634
B	831



吊りボルト締付け時には下記長さになるように調整してください。

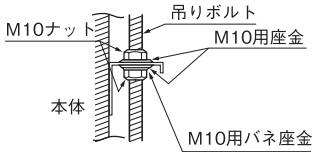




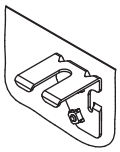
④室内ユニットの据付

据　付

〈吊り込み〉
○ユニットを吊り込んでください。

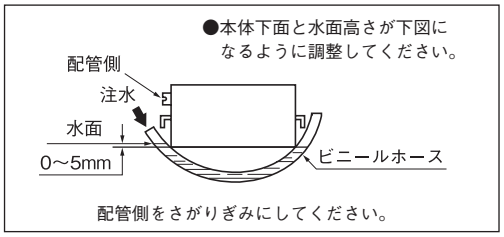


○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

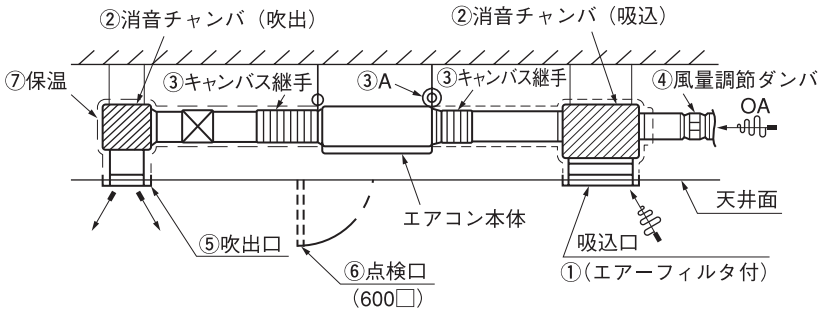
お願い
○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



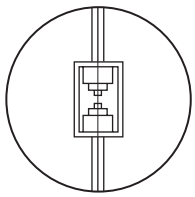
○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

⑤ダクト工事

高静圧ダクト（FDU）



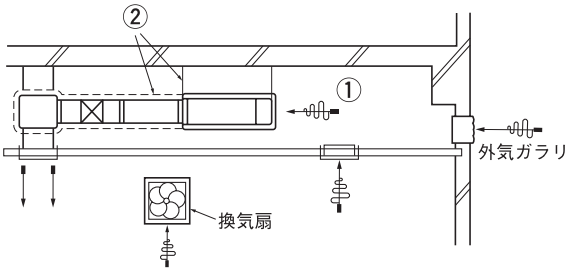
A部詳細
（ハンガー防振）



⑤ダクト工事のつづき

①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
②消音チャンバは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④ OA ダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは６５ｍｍ（JIS A 9501）です。
⑧送風機（ファンモータ）に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込みで使用する場合は吸込口にエアフィルタを取付けてください。

〈ダクト施工の悪い例〉



〈空気条件、風量限界〉

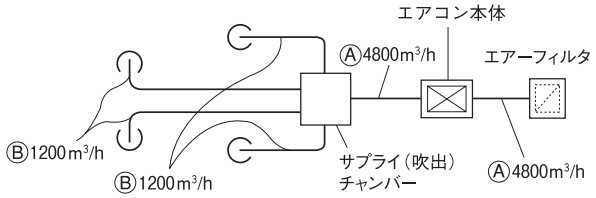
店舗シリーズ		P140-P160
最大風量（m³/min）		88
室内側空気温度	乾球温度（℃）	32
	湿球温度（℃）	29

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
㈠ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
ユニットは上表の空気条件および風量限界内で使用してください。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。この場合はユニット全体をグラスウール（２５mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
㈡ユニットの運転限界（例：外温３５℃ DB のとき吸込空気温度２４℃ WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
㈢換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンへ流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

〈簡易ダクト寸法選定図〉 1Pa/m

風量 m³/h（m³/min）	角ダクト 寸法（mm×mm）
100	250× 60
200	250× 90
300	250× 120
400	250× 140
450（7.5）	250× 160
500	250× 170
600（10）	250× 190
800	250× 230
1,000	250× 270
Ⓑ部 1,200（20）	250× 310
1,400	250× 350
1,600	250× 390
1,800（30）	250× 430
2,000	250× 470
2,400（40）	250× 560
3,000（50）	250× 650
3,500	250× 740
4,000	250× 830
4,500	250× 920
Ⓐ部 4,800（80）	250× 950
5,000	250×1000
5,500	250×1090
6,000（100）	250×1180

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉
ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を１Pa/m として、ダクトは一辺が２５０ｍｍのものを使用する場合の方法を示します。
Ｐ１６０形定格風量の場合を例とします。



	風量	ダクト（mm×mm）
Ⓐ部	4800m³/h（80m³/min）	250×950
Ⓑ部	1200m³/h（20m³/min）	250×310

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

直管部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部1個当り直管に直して3～4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバ	1個で50Paで計算する
吸込グリル（フィルタ付）	1個で40Paで計算する

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒Ｒ２２で使用していた既設配管を使用する場合は、下記の点を注意してください。
・薄肉配管の使用は避けてください。
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
●Ｒ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。
Ｒ４１０Ａ以外（Ｒ２２等）の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。

⑥冷媒配管のつづき

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はＲ４１０Ａ専用ツールを使用してください。
●室内ユニット配管はサービスパネルを取外し可能とするため配管方向がどのような方向でも必ずユニットから４００mm以上のストレート部分を設けてください。

作業手順

1．ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
*1: ガス側配管は室外ユニットに同梱している異径継手（φ25.4→φ15.88）を使用し接続してください。
（詳細は225ページの「付属配管の接続方法」を参照ください。）

機種		液配管/ガス配管	サイズ
店舗シリーズ	P140-P160	液配管	ø9.52
		ガス配管	ø15.88(*1)

2．室内ユニットのろう付部は、ガス漏れチェック後、断熱材（現地手配）をかぶせてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。現地にて断熱材を手配し断熱してください。
●ガス側配管の断熱は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化させてください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
3．冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の室外ユニット付属説明書をご覧ください。

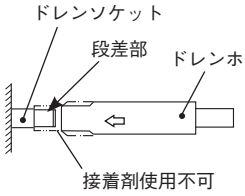
⑦ドレン配管

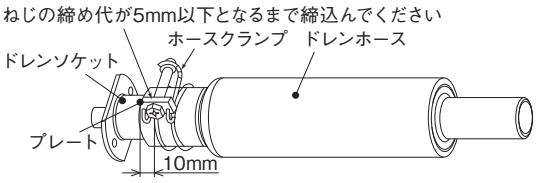
ドレン配管時の注意事項

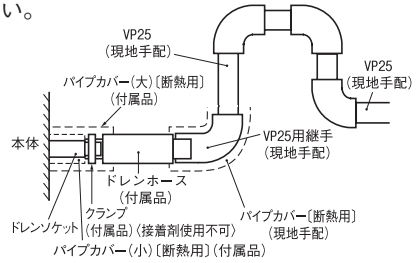
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

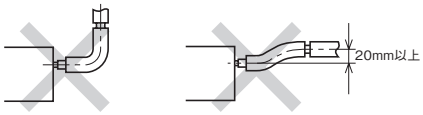
1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 以下となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可



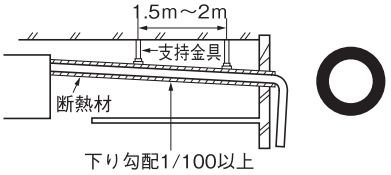


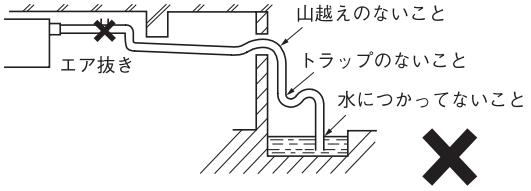


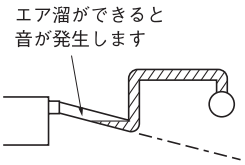
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



3．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加わらないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。

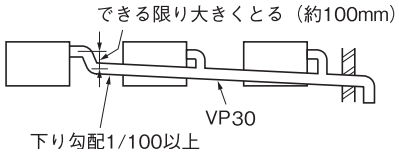






⑦ドレン配管のつづき

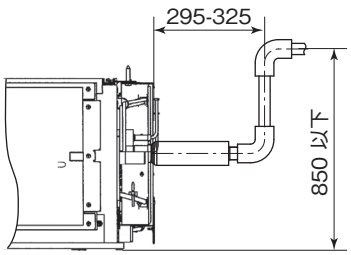
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。

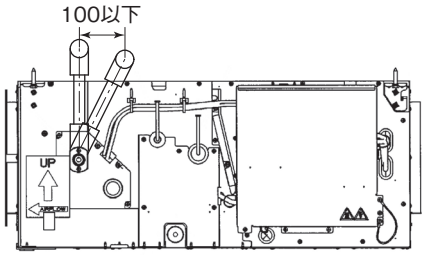


４．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より８５０mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

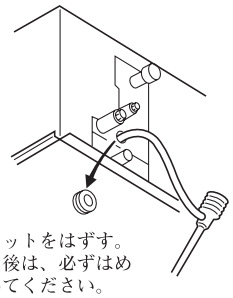




ドレン排水テスト

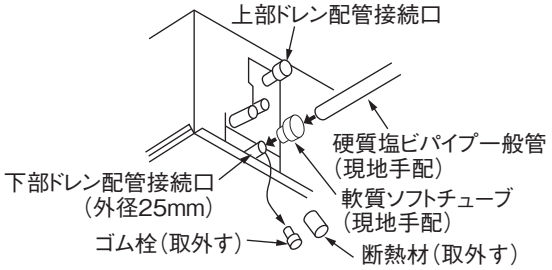
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

１．右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃほどの水を注入してください。
注水ホースを 50ｍｍ位差し込んで注水してください。
（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）
２．ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
３．排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配（１／５０～１／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



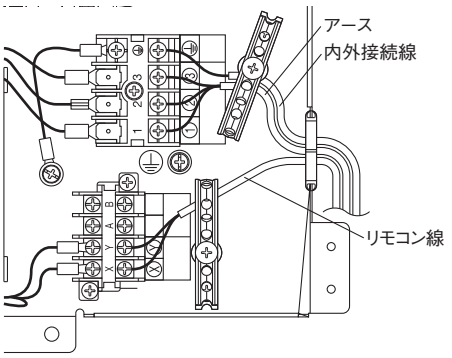
ドレンモータ用のコネクタ CnR の取り外し
下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CnR を取外してください。

注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

⑧電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

１．電装箱の蓋 (ねじ２本) を取外し、上部の引掛けを外してください。
２．各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
３．各配線をクランプで固定してください。
４．取外した部品を元通りに取付けてください。



⑨機外静圧設定

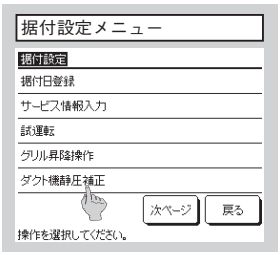
ECOタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ECOタッチリモコンからの設定方法

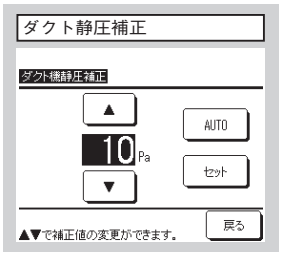
①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、150Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。

［メニュー］ボタンをタッチしてください。

［据付設定］ボタンをタッチしてください。



選択した画面に移ります。



機外静圧を選択し、［セット］をタッチしてください。

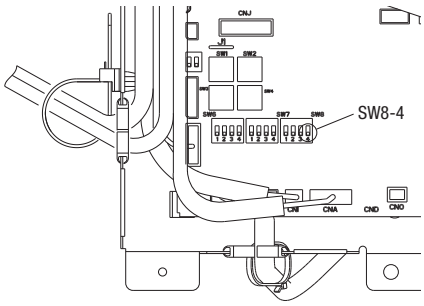
注意
・RC-DX2 以降の ECOタッチリモコン以外からは設定できません。

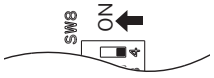
静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

工場出荷状態では上記のリスクを減らすため、機外静圧設定範囲を 80-150Pa としております。
実際の機外静圧は 80-150Pa の範囲で使用してください。実際の機外静圧が 80Pa より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。
（機外静圧設定を10～70Paで設定した場合、機外静圧設定は 80Pa となります。
機外静圧設定を 160～200Paで設定した場合、機外静圧設定は 150Pa となります。）

また、コントローラの SW8-4 を ON にすることにより、機外静圧設定範囲を 10-200Pa に変更することが可能です。ただし、上記リスクが高くなるため、実際の機外静圧を把握してない場合には使用しないでください。





SW8-4:OFF（機外静圧設定範囲：80～150Pa）

SW8-4:ON（機外静圧設定範囲：10～200Pa）

⑩ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

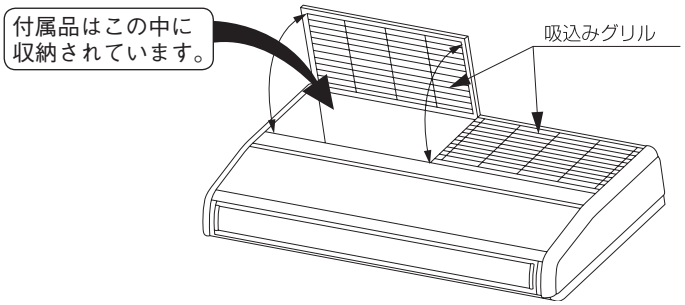
チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

①据付のまえに

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

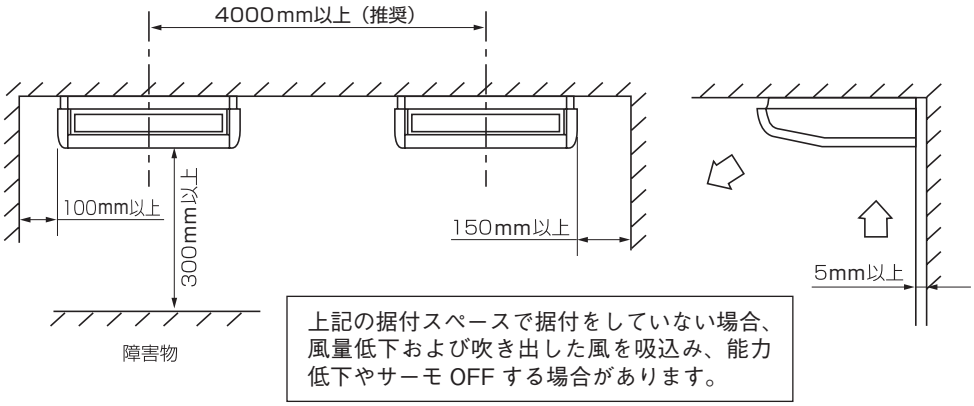
本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用					吸込みグリル用
平座金（M10）	型紙	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	ドレンホース（クランプつき）	ホースクランプ	固定金具	ねじ	断熱材	ねじ
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	2個	1個	4個
ユニット吊り下げ用	ユニット吊り込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	ドレンホース固定用	固定金具取付用	ドレンホース断熱用	グリル固定用



②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 23℃以下、相対湿度 80% 以下の所。
　本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。天井埋込で据付ける際は､ユニット天面に断熱材を貼り付ける等、結露に対する配慮をしてください。
・テレビ、ラジオより 1m 以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下により、ケガの原因になります。
③室内ユニットを隣接して設置する場合は、ユニット間距離は４ｍ以上を推奨します。

室内ユニット据付スペース



③据付前の準備

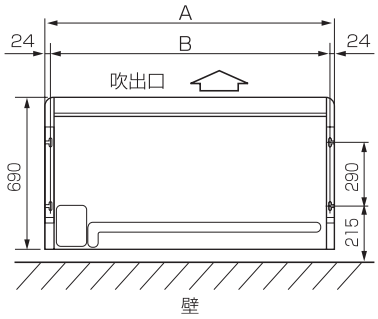
●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

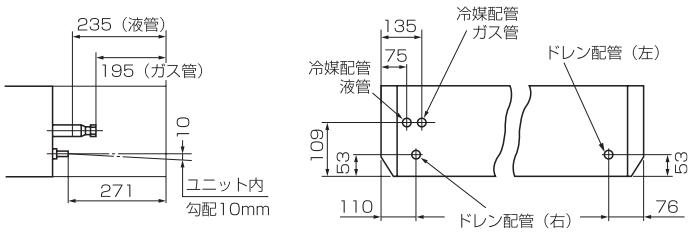
天井開口穴・吊りボルトピッチ

〔mm〕

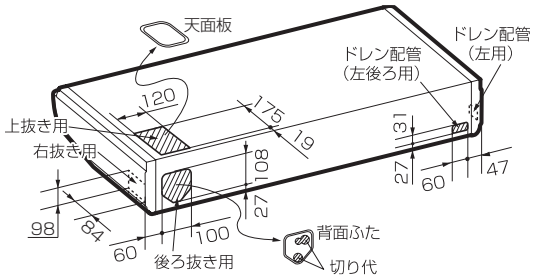
店舗	P40～P56	P71～P160
A	1320	1620
B	1272	1572



冷媒配管位置



配管取出し位置



※配管取出しは３方向（後ろ・右・上）より行えます。
・穴はニッパ等により切り落としてください。
・背面ふたは切り代にしたがって配管取り出し穴を切抜いてください。
・上取出しの場合は、天面板を取外してください。
・右取出しの場合は、サイドパネル内側の溝に沿って切抜いてください。
・配管・配線の据付後、埃などが侵入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。

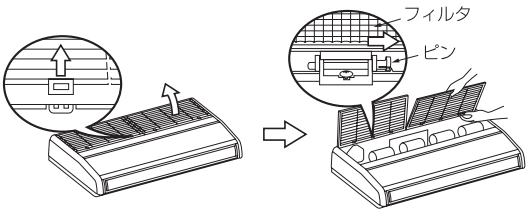
ユニット内への埃の侵入およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面ふたは、必ず取付けてください。
右取出しの場合、切抜部は、バリ等取除いてください。

ユニットの搬入、据付

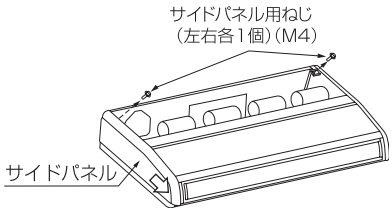
●搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
●開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、ユニットを傷つけないよう注意してください。
　※サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
●開梱後ユニットを置く場合は、必ず吸込みグリル側を上にして置いてください。

吊り込み前の準備

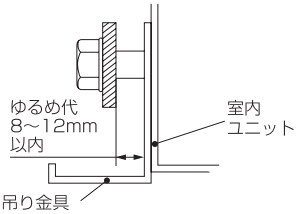
1．吸込グリルの取外し
ストッパーをスライドさせ、ピンを抜いてください。

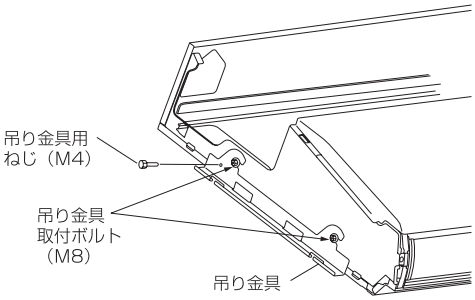


2．サイドパネルの取外し
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。



3．吊り金具の取外し
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。

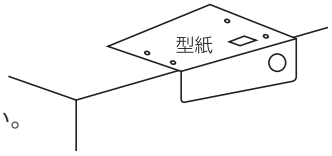




④室内ユニットの据付

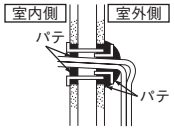
作業手順

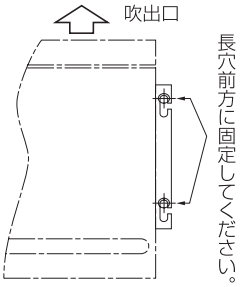
1．吊りボルト位置、配管位置を選定してください。
⑴ 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。
※注意：位置決定は、実測により行ってください。
⑵ 位置決定後、型紙は取外してください。
2．所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3．吊りボルトは４本使用し、１本当り５００Ｎの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4．吊りボルト長さは右図の寸法を厳守ください。
5．吊り金具を吊りボルトに固定してください。

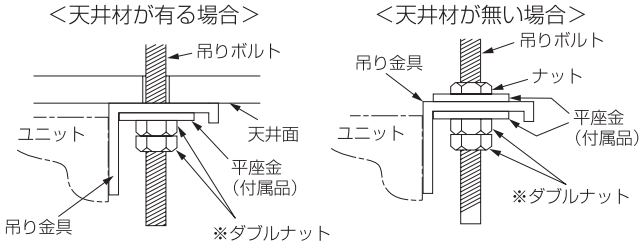


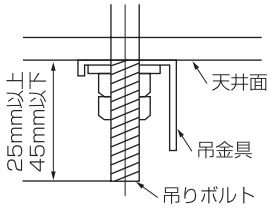
⚠警告
壁穴をパテで完全にシールしてください。
（ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内ユニット内に流入し、火災の原因になることがあります。）

⚠注意
壁穴をパテで完全にシールしてください。
（水漏れ・露たれし、家財等を濡らす原因になることがあります。）



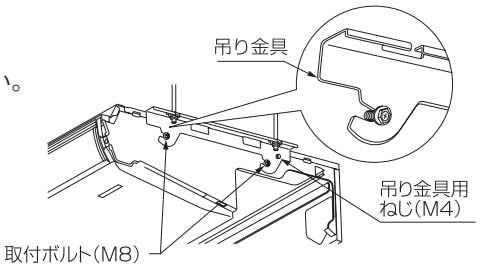




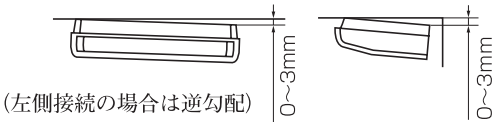


※ダブルナットで確実に固定してください。

6．ユニットを金具に据付けてください。（右図参照）
⑴ 吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
⑵ 取付ボルト（M8）を左右４箇所確実に締付けてください。
⑶ ねじ（M4）を左右２箇所締付けてください。
⚠警告：サイドパネルは前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。
ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。



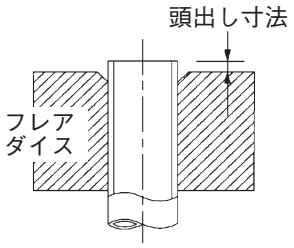
※ドレン水を流れやすくするためにユニットを排水側に下り勾配を設け、据付けてください。
⚠注意：逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

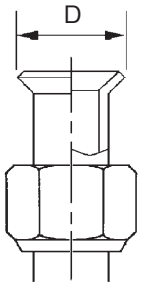


⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたは JIS B 8607 ２種適合品をご使用ください。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認すること。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のものまたは JIS B 8607 ２種適合品を使用すること。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。





配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

⑤冷媒配管の続き

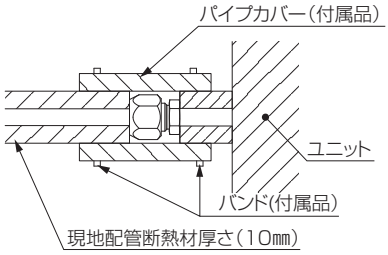
●**冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。**
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●**Ｒ３２またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。**
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●**据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。**
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●**工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用ツールを使用してください。**

〈断熱材厚さ10㎜を使用する場合〉



作業手順

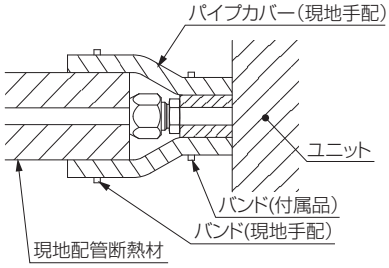
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●**フレアナット飛びに注意してください。**（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
・後ろ・上取出しの場合は、配管は⑦の電気配線と一緒にして、付属のふたを通して取付けてください。
・埃などが浸入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで左表の締付力で締めてください。

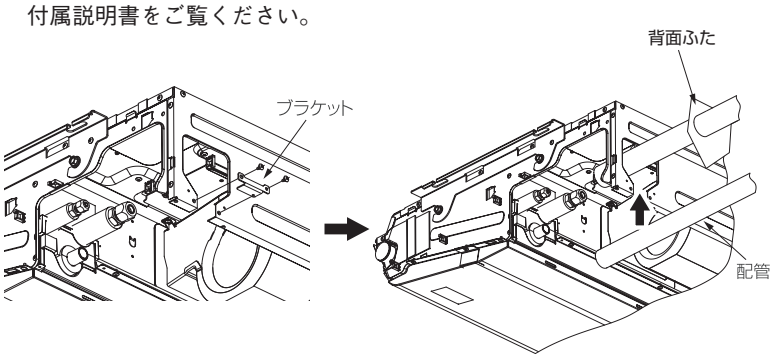
3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●**ガス側配管・液側配管ともに断熱は完全に行ってください。**
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●**ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。**
●**高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。**
強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の室外ユニット付属説明書をご覧ください。

〈断熱材を強化する場合〉

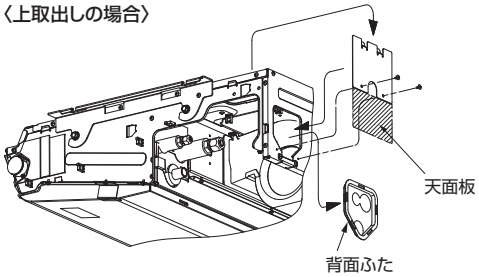


注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。



配管取出しは、後、右、上の３方向より行えます。
後ろ配管の場合、ブラケットを取外すと作業が容易になります。
※配管作業終了後、ブラケットを元通り取付けてください。

〈上取出しの場合〉



1．天面板を取外してください。
2．天面板の斜線部をカットしてください。
3．天面板を背面ふたとして取付けてください。

⑥ドレン配管

●ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

ドレン配管時の注意事項

●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●**ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●**接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**

●**水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**

●**施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。**

●**ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。**

⑥ドレン配管の続き

作業手順

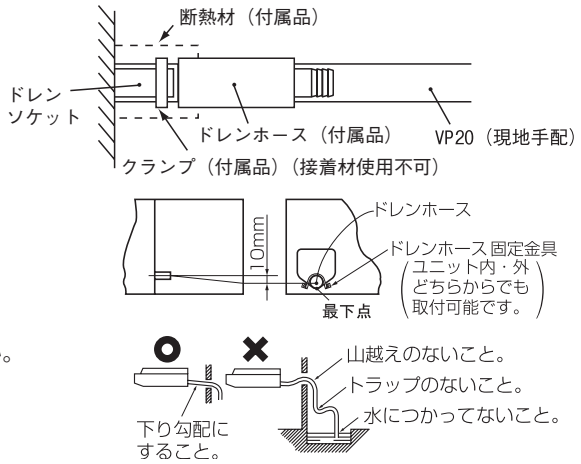
1．付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)
　※ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け替えてください。
⚠注意：ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

2．ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。
　※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように１０mmの勾配をつけてください。
●電気配線がドレンホースの下に入込まないようにしてください。
⚠注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。

3．ドレンホースにＶＰ２０（現地手配）を接続してください。
(接着剤使用不可)
　※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２０を使用してください。

4．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。

5．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●ドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。
●高湿度の環境で使用する等、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。



ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

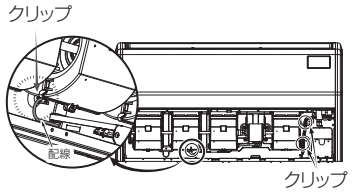
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●Ｄ種設置工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．配線をクリップから外してください。
2．制御箱 (ねじ① 2本) を取外してください。
3．制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ引き出してください。(Ⓐ→Ⓑの方向)
4．制御箱のふた (ねじ② 2本) を取外してください。
5．各配線をユニット内に入れ、端子台に接続してください。
6．各配線を電源線クランプで固定してください。
7．制御箱のふた (ねじ② 2本) を取付けてください。
8．制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ（Ⓑ→Ⓐの方向)、制御箱を元の位置へ戻してください。
9．取外した部品を元通りに取付けてください。

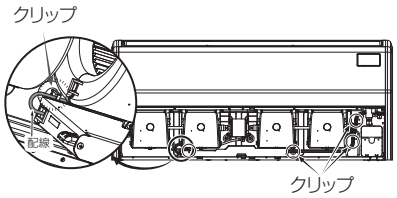
※1 工場出荷時、ワイヤレスキット（オプション）・人感センサキット（オプション）の受信部用配線が接続されています。
　ワイヤレスキット、人感センサキットの取付方法は、キット付属の据付説明書を確認してください。
　ワイヤードリモコン接続時は外す必要はありません。
　ワイヤード／ワイヤレスを併用する場合はリモコンの親子設定が必要となります。

1.

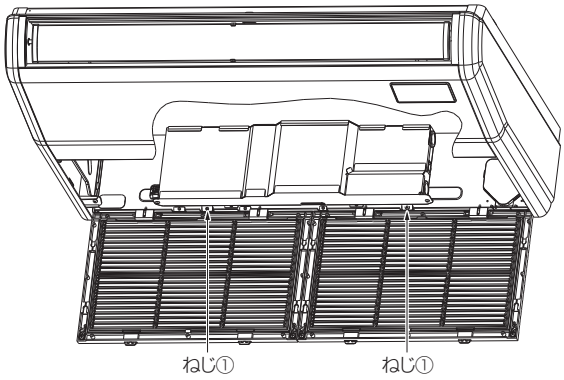
FDE(中)



FDE(大)

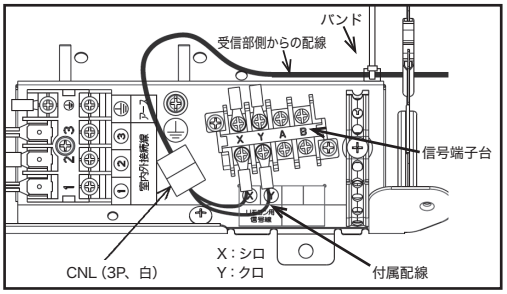


2.



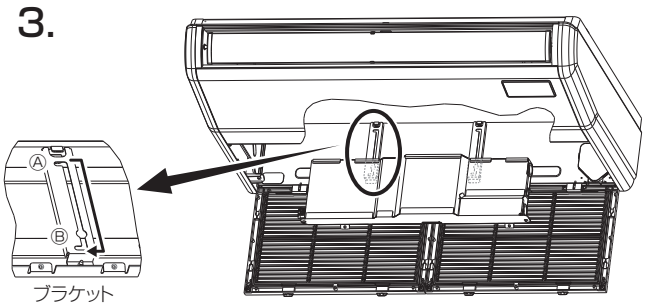
お願い

スーパリンクアダプタ取付の際は、受診部側からの配線を固定しているバンドを取外してください。

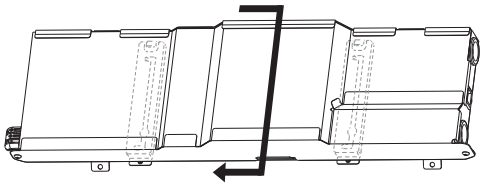


⑦電気配線取出位置および電気配線接続の続き

3.

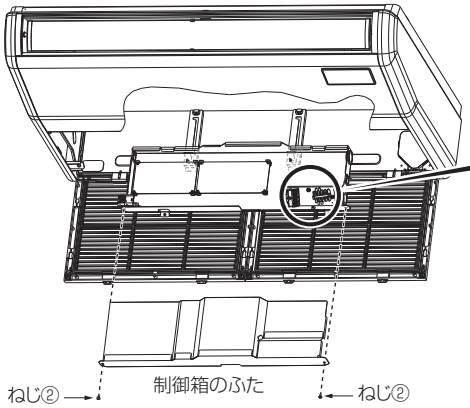


制御箱のスライド方法



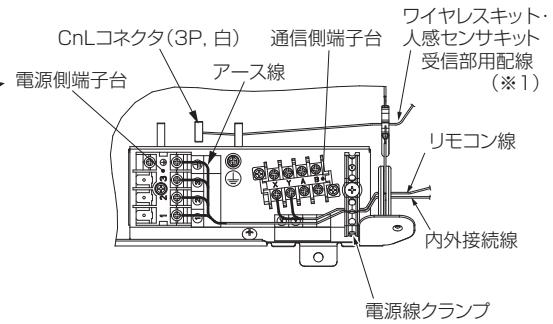
※制御箱を引き出す前に配線をクリップから外してください。

4.

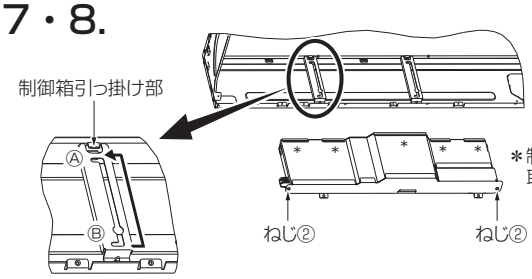


5・6.

配線接続



7・8.

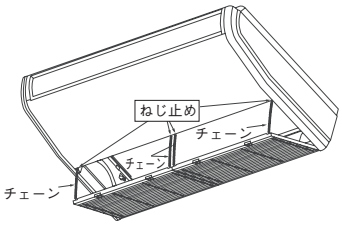


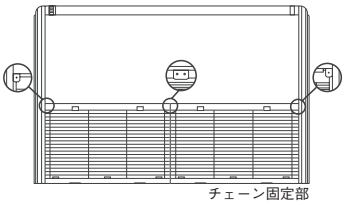
＊制御箱の形状に合わせて
取付けてください。

⑧吸込グリルの固定

●電気配線工事完了後、吸込グリルを固定してください。

1．吸込グリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取付け、吸込グリルを閉じてください。





⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

①据付のまえに

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

据付関係

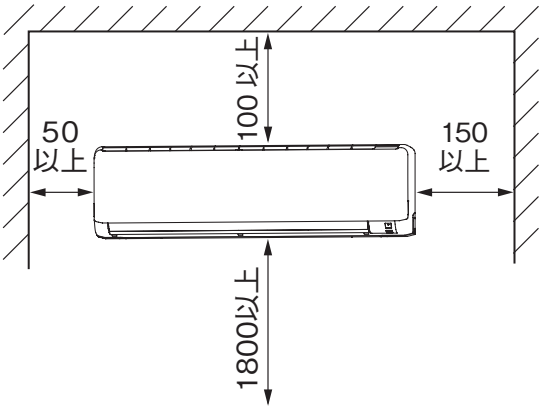
1	据付板		1 個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンねじ		10 個	据付板用　径 4mm ×長さ 25mm
3	インシュレーション		1 個	断熱用　50mm × 100mm
4	空気清浄フィルタ		2 個	付属品
5	フィルターホルダ		2 個	付属品

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２３℃以下、相対湿度８０％以下の所。
〔本ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。〕
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。

室内ユニット据付スペース

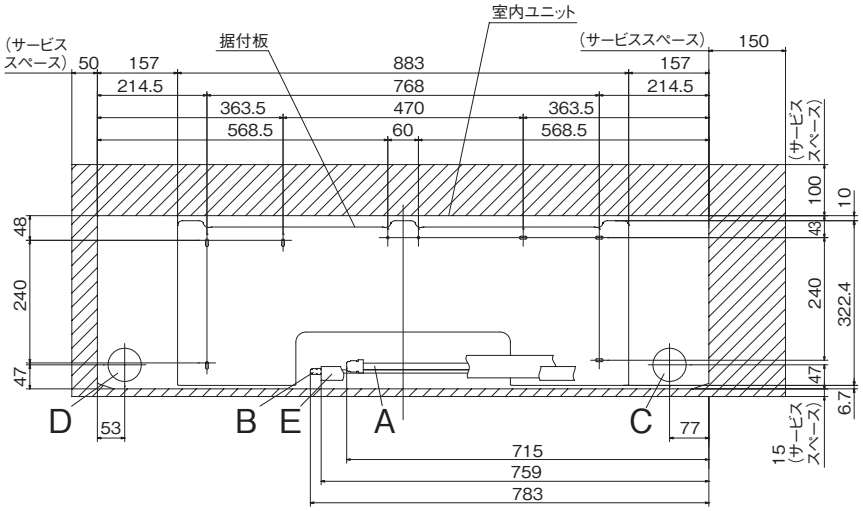
単位：〔mm〕



お願い

●点検、メンテナンス作業のためスペースを確保してください。

③据付前の準備



正面から見た据付位置図および据付スペース　　単位：〔mm〕

記号		記号		記号	
A	ガス側配管	C	右配管後方抜壁穴	E	ドレンホース
B	液側配管	D	左配管後方抜壁穴		

④室内ユニットの据付

搬　入

お願い

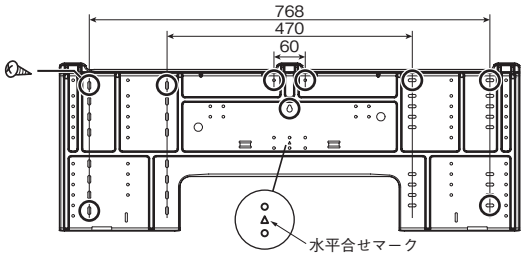
●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないように注意してください。
　注）吹出ルーバ部分を持たないでください。
●解梱後ユニットを置く場合は、必ずユニットの前面側を上にしておいてください。

据付板の取付

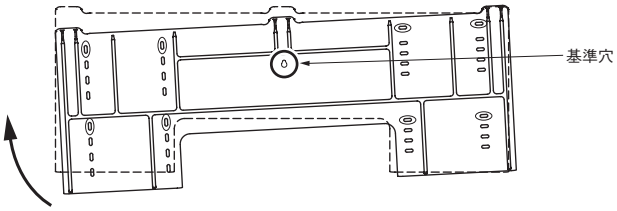
お願い

●このユニットを直接壁面等に据付けることはできません。
　いずれの場所に据付ける場合にも**必ず付属の据付板を使って据付けてください。**

○据付板の水平調節は９本のねじを仮締めした状態で行います。



○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。

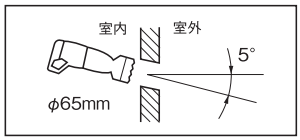


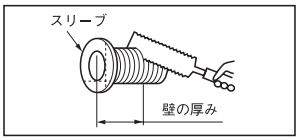
○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

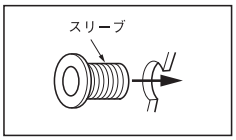
④室内ユニット据付のつづき

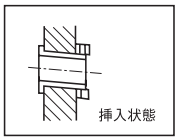
壁の穴孔け要領

●接続配線が壁の中のラスメタルなどに接触して危険が生じる場合がありますのでスリーブは必ず使用してください。
●左後抜き配管の場合、スリーブのツバが本体よりはみ出る場合がありますので、その場合はツバを切断してください。







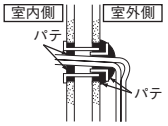


●φ65のホールコアドリルで穴あけをします。

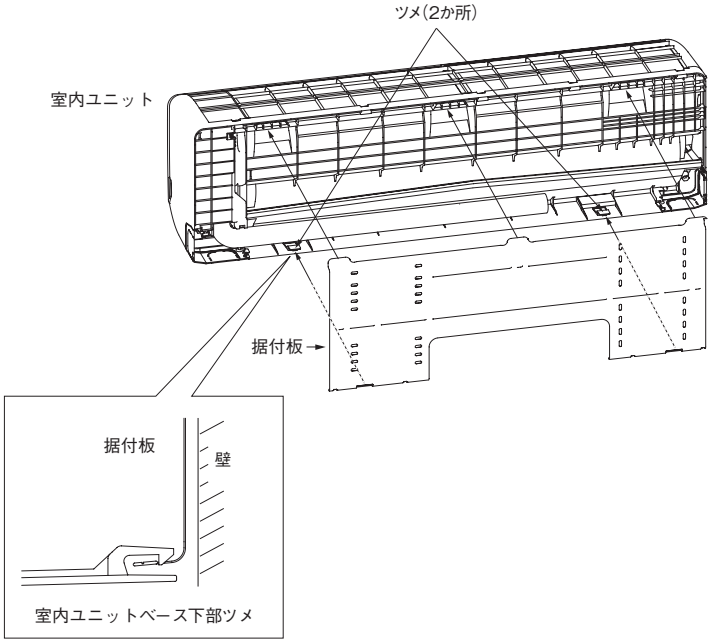
●右後抜き配管の場合はスリーブのツバの下部および右側薄肉部を切りとります。（破線指示箇所）

⚠警告
壁穴をパテで完全にシールしてください。（ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内ユニット内に流入し、火災の原因になることがあります。）

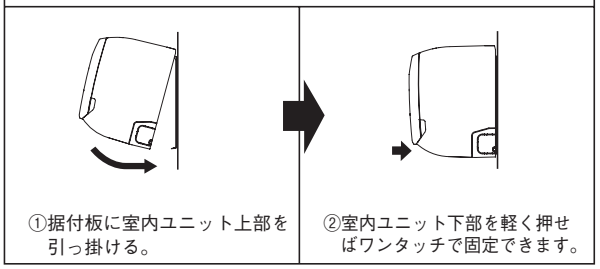
⚠注意
壁穴をパテで完全にシールしてください。（水漏れ・露たれし、家具等を濡らす原因になることがあります。）



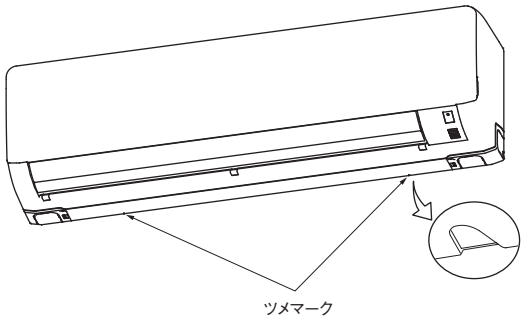
ユニットの据付



据付作業手順

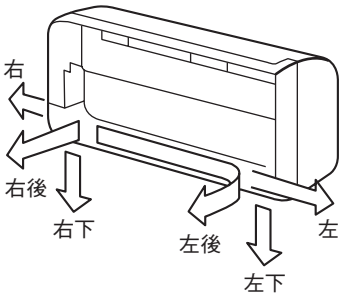


●室内ユニットを据付板から取外す場合
室内ユニットベース下部ツメ位置マーク部を指で上方向に押しながら、ユニット下部両端を引き上げてください。
室内ユニットベース下部ツメが据付板から外れます。

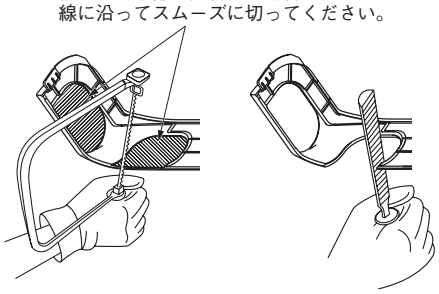


⑤配管・ドレンホースの整形

配管は、後、左、左後、右、下から取出せます。



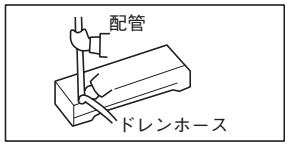
横または下部に配管する場合は、パネルを線に沿ってスムーズに切ってください。



⑤配管・ドレンホースの整形のつづき

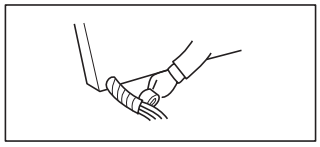
〈後取出しの場合〉

○配管の整形



●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する

○テープ巻き

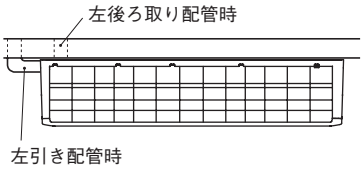
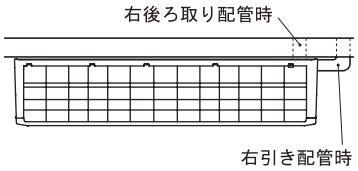


●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
●渡り配線は必ず配管とテーピングしてください。
●テープ巻きの際，ドレンホースが引っ張られないように注意してください。

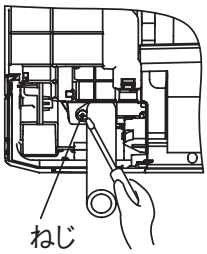
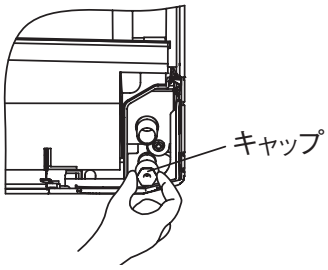
配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

〈左取出し・後取出し時の注意事項〉

〈上から見たところ〉

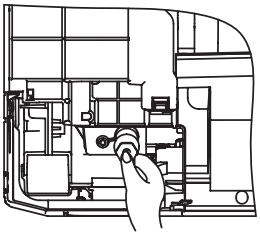
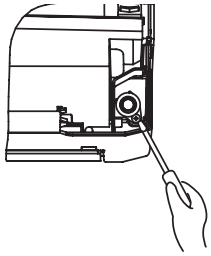
左引き配管時	右引き配管時
	

〈ドレンホース付替え作業手順〉

1．ドレンホースを外します。	2．ドレンキャップを外します。
	

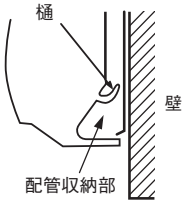
●ドレンホース固定用ねじを外しドレンホースを回転させながら外してください。

●手または、ペンチ等で外してください。

3．ドレンキャップを差し込みます。	4．ドレンホースを接続します。
	

●2. で外したドレンキャップを六角レンチ等をもちいて確実に差込んでください。
注：確実に差込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

●ドレンホースを回転させながら確実に差込んだあと、固定用ねじを取付けてください。
注：確実に差込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

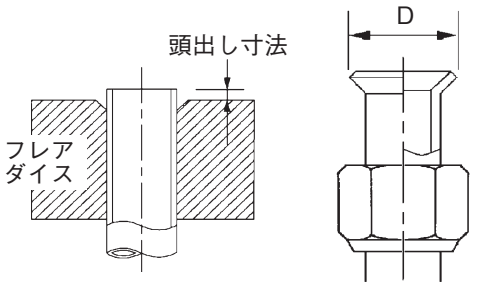


このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたは JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの**また**は JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



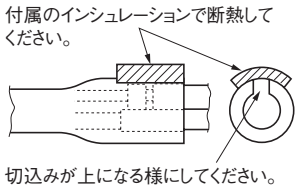
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32 用 R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

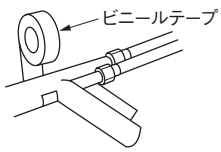
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

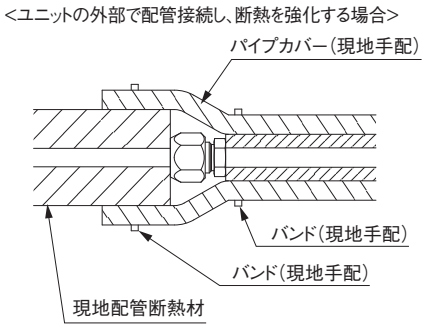
作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで上表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、下図に示すように室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の 室外ユニット付属説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。







⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。**
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●**ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。**
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●**接続部から水漏れのないように確実に施工してください。**
●**水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。**
●**施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。**
●**ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。**
試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

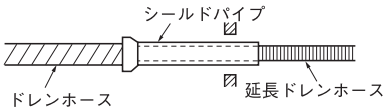
1．ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ１６が接続可能です。
2．ドレン配管は**ドレン水が流れやすいように下り勾配にし**、配管途中に**トラップをつくったり山越え配管をしないように**してください。
（左、右、後、下方向に取出し可能）
室内に施工の硬質塩ビパイプ（VP16）は確実に断熱してください。
3．熱交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。（前面パネルの取付・取外しについては本説明書 ⑨電気配線取出位置および電気配線接続 をご覧ください。）

ドレン排水について

●ドレンホースは必ず下り勾配を付けてください。
●次のようなドレン排水は行わないでください。

高くなっている　ドレンホースの先が水につかっている　波打っている　地面とのすきまが5cm以下　ドレンホースの先が排水溝の中にある

●延長ドレンホースが室内にある場合は必ず、シールドパイプ（現地手配）を使用して確実に断熱してください。

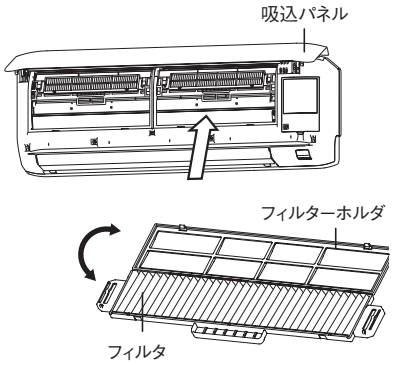


室内に露出している場合

●高気密住宅や高層マンション等に据付ける場合、または強風の影響で部屋が負圧になる場合は別売部品“エアーカットバルブ(EA455A)”をご使用ください。

⑧空気清浄フィルタの取付

下記の手順に従って室内ユニットに取付けてください。

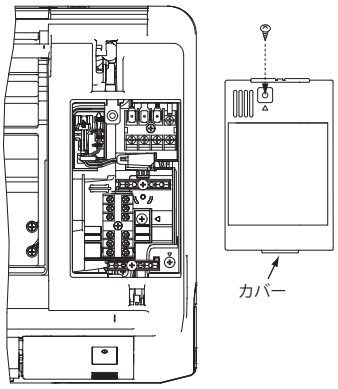


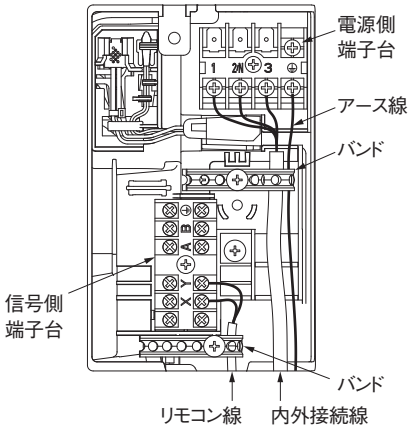
1　吸込パネルを開け、エアフィルタを取外します。
2　付属品に同梱されている水洗いサンフィルタ(オレンジ）と酵素強力除菌フィルタ（グリーン）をフィルターホルダに取付けます。
空気清浄フィルタ交換時はユニット本体からフィルタホルダを取外し、新しい空気清浄フィルタと取替えてください。
※酵素強力除菌フィルタはプリーツ（ひだ形状）が手前側になるように取付けてください。水洗いサンフィルタはどちらをおもてにしていただいても結構です。
3　空気清浄フィルタを取付けたフィルタホルダをエアコン本体に取付けてください。
※水洗いサンフィルタ、酵素強力除菌フィルタは左右どちらへ装着いただいても結構です。
4　エアフィルタを取付け、吸込パネルを閉じます。

⑨電気配線取出位置および電気配線接続

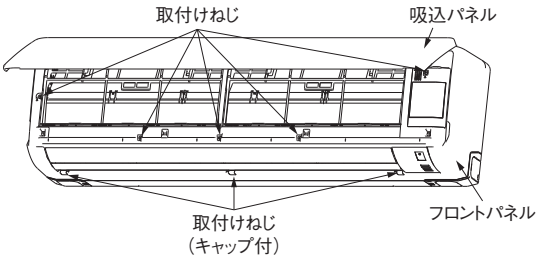
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

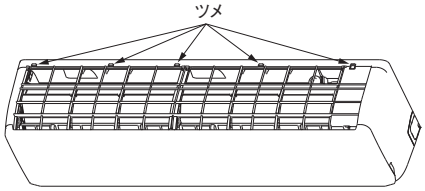
①吸込パネルを手前に引き上げてください。
　左右側面の凹部に手をかけ手前に引き上げますと約 60 ～ 70° 開いた状態で静止します。
②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
③各配線を端子台に確実に接続してください。
④各配線をバンドで確実に固定し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにしてください。
⑤カバーを取付け、ねじを締めます。
⑥吸込みパネルを締めます。
　（注意）　・配線を端子台に取付けるときは、端子番号を確認してから取付けてください。

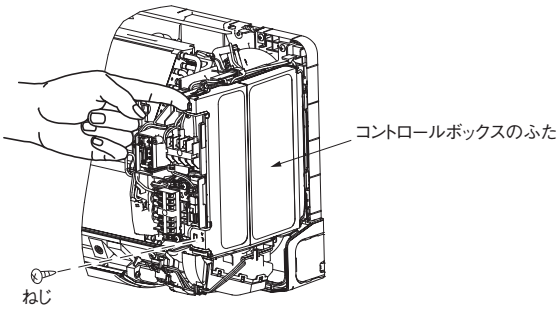


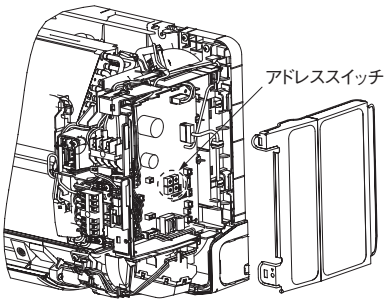


●アドレス設定
室内ユニット本体のフロントパネルと、コントロールボックスのふたを取外すことでアドレススイッチの設定が可能です。
1. フロントパネルの取外し順序
　①吸込パネルを取外してください。
　②取付ねじを取外してください。（5か所・キャップ付3か所）
　③上部のツメ（5か所）を外し、フロントパネルを取外してください。
2. フロントパネルの取付け順序
　①フロントパネルをユニットにかぶせ、上部のツメ（5か所）を引っ掛けてください。
　②取付ねじを締めます。（5か所・キャップ付3か所）
　③吸込パネルを取付けてください。









⑩ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

メモ

①据付前に

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。

○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

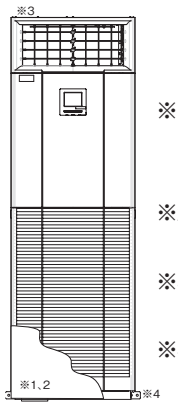
付属品

(1) フレアナット部断熱用 ※1

1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

(2) 据付関係

1	転倒防止用金具		1個	※3
2	木ねじ		2個	記号1用
3	座金		2個	記号2木ねじ用
4	ゴムブッシュ		1個	冷媒・ドレン配管用
5	L 金具		2個	※4



付属品収納場所（梱包時）

※1. 吸込グリルを開けると(1)フレアナット部断熱用の１～３の部品が袋詰めされ後面板の上に置かれています。

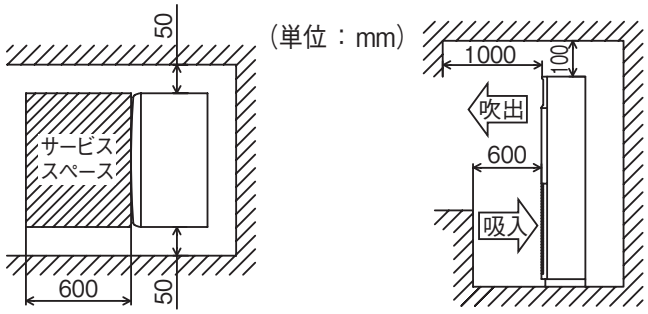
※2. 吸込グリルを開けると(2)据付関係の２～４の部品が袋詰めされ、後面板の上に置かれています。

※3. 転倒防止金具はユニット上部へ取付けられています。

※4. L 金具はユニット下部へ取付けられています。

②室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



お願い

●点検、メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

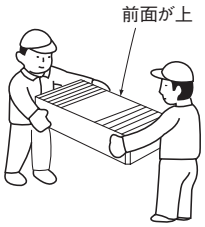
①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- 冷風または温風が十分に行きわたる所。
- 据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
- ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
- 侵入外気の影響のない所。
- 直射日光の当たらない所。
- 周囲の露点温度が 23℃以下、相対湿度 80%以下の所。
  〔本室内ユニットは JIS 露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。〕
- テレビ、ラジオより１m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
- 室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
- 調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
- 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
  ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- 室外への配管、配線のしやすい所。
- 据付部の床が強固である所。

②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。

③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６m以上離してください。

③室内ユニットの据付

搬　入



お願い

●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。

●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。
注）吸込グリル、吹出ルーバ等プラスチック部分を持たないでください。

●解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット前面側を上にして置いてください。

⚠警告

●冷媒R32はわずかながら燃焼性があります。そのため，下記事項を必ず守ってください。
床置形室内ユニットを設置・修理・移設する際の室内作業時は，冷媒センサを携行しながら作業を実施してください。冷媒漏えいが発生した場合，窒息や引火の原因となる恐れがあります。

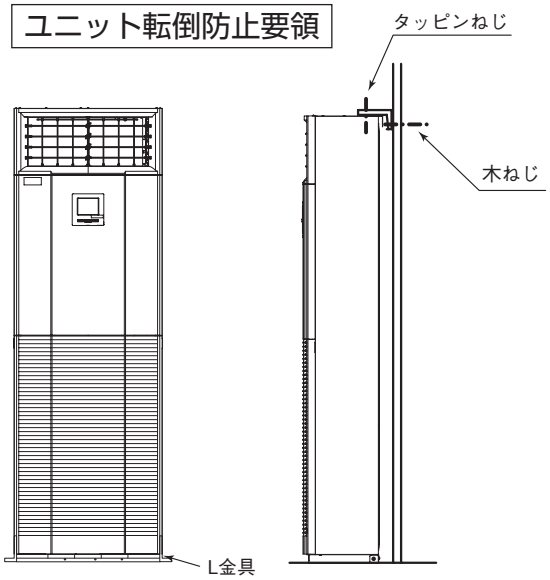
③室内ユニットの据付のつづき

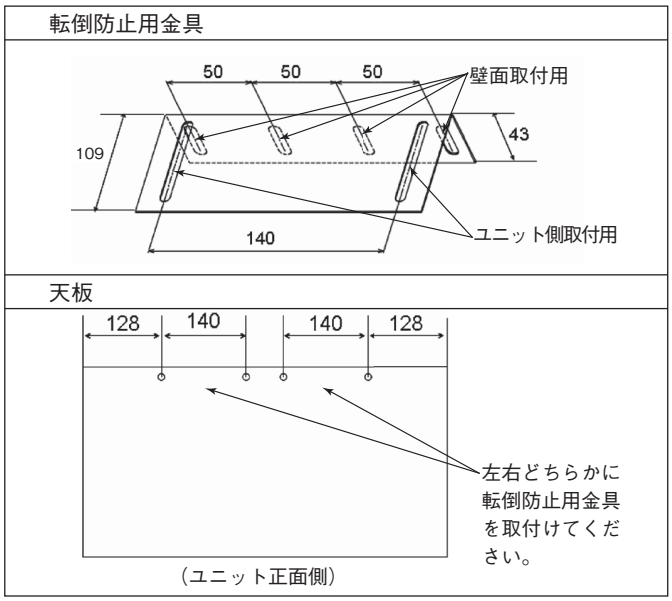
お願い

●必ず転倒防止金具、L 金具を取付けて固定してください。

・このユニットは縦長形状のため、ユニットを所定の位置にセットしたら直ちに転倒防止処置をしてください。

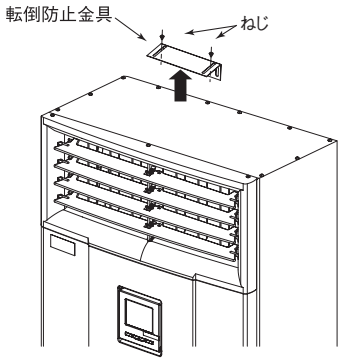
ユニット転倒防止要領





◆作業手順

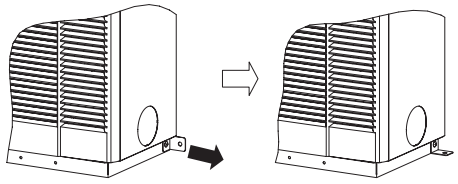
(1) 転倒防止金具の取付



① ねじ（2 本）を緩めて転倒防止金具を取外す。

② 右図のように転倒防止金具の固定位置を決定し、ユニット上部・壁面へ取付けてください。

(2) L 金具の取付



① ユニットにねじ止めされているL 金具を取外してください。

② L 金具の向きをかえ、ユニットと床面をねじで固定してください。

・L 金具の取付寸法は右図の通りです。

お願い

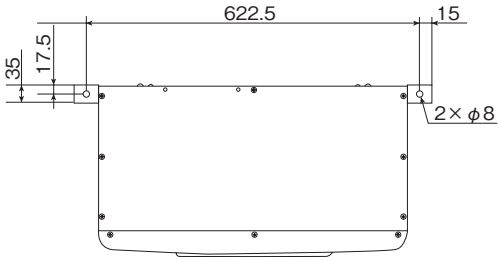
●ユニットは水平に据付けてください。
前後、左右共勾配は 1° 以内としてください。

据付寸法（転倒防止用金具）

金具下向きの場合	金具上向きの場合
5～90 / 1815～1840	5～90 / 1860～1885

●寸法値はユニットと壁面、床面の調節可能寸法を示します。
●金具の長辺側をユニットに取付けてください。
●金具下向きの場合は、先に金具を壁へ取付けてください。

据付寸法（L 金具）

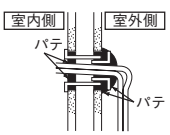


⚠警告

壁穴をパテで完全にシールしてください。
（ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内ユニット内に流入し、火災の原因になることがあります。）

⚠注意

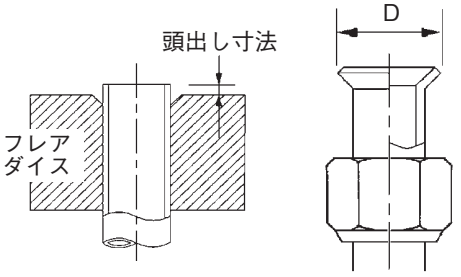
壁穴をパテで完全にシールしてください。
（水漏れ・露たれし、家財等を濡らす原因になることがあります。）



④冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたはJISB 8607 2種適合品をご使用ください。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、547ページ以降の室外ユニットの据付説明書で確認してください。
1）再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のものまたはJIS B 8607 2種適合品を使用してください。
2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32 用 R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアーナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

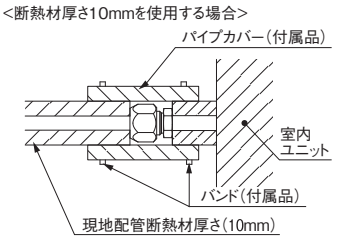
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T，JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

●冷媒センサに水滴が付着しないように冷媒配管を接続してください。



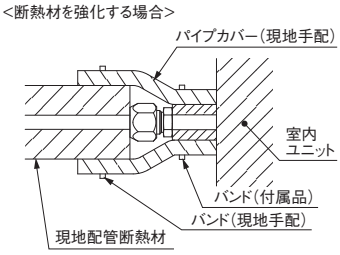
作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外す。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

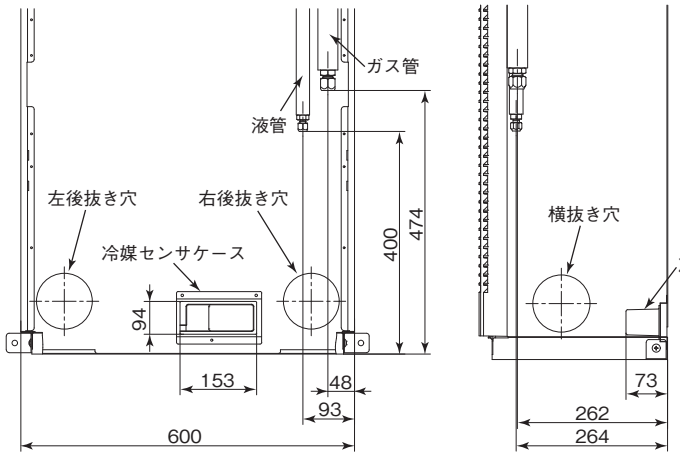
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については217ページ以降の室外ユニット据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

④冷媒配管のつづき

◆配管・配線取出位置

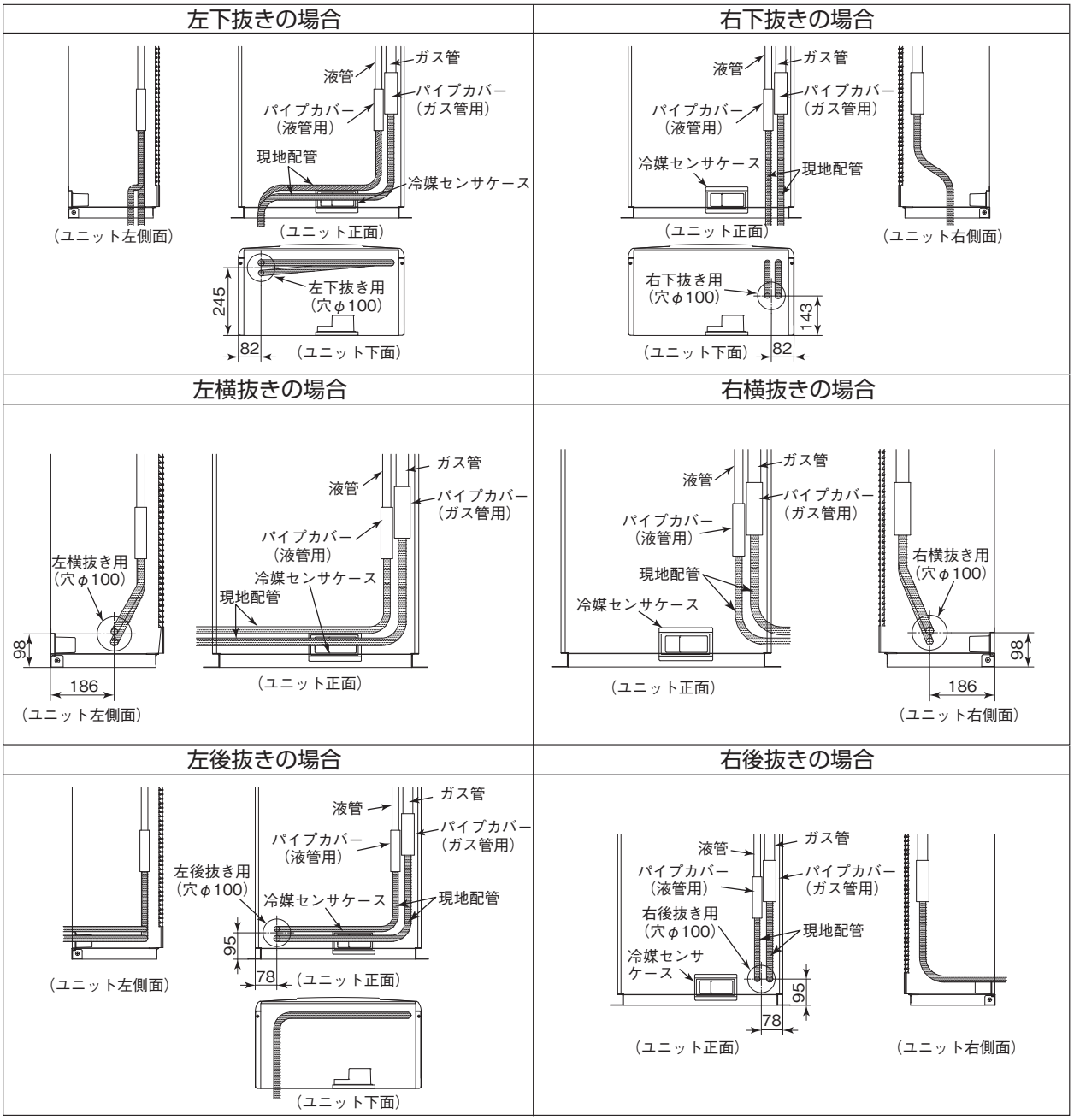


⚠お願い

●底板下抜き用穴の
フランジ部は切り欠かないでください。

⚠注意

●冷媒センサケースの上方に冷媒配管を通さない。
水が掛かると、故障の原因になります。



⑤ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

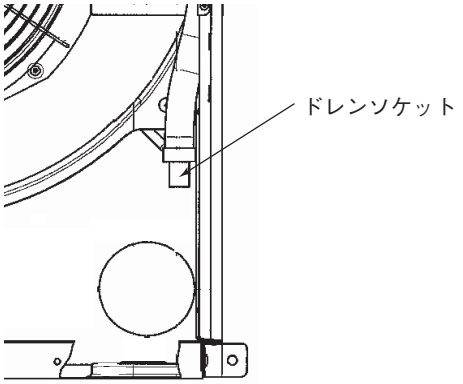
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。

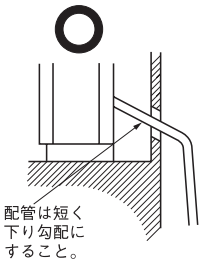
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。

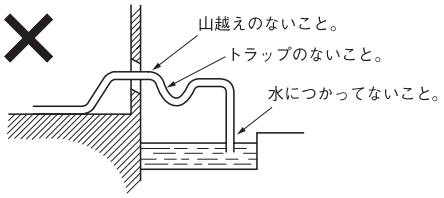
●ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

1. ドレンソケットに現地側ドレン配管（VP20）をつなぎ、粘着テープなどで固定してください。(接着剤使用不可)
2. 現地側ドレン配管が屋内を通る場合は必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン比重 0.03、肉厚 15mm 以上）を巻き、結露を防止してください。







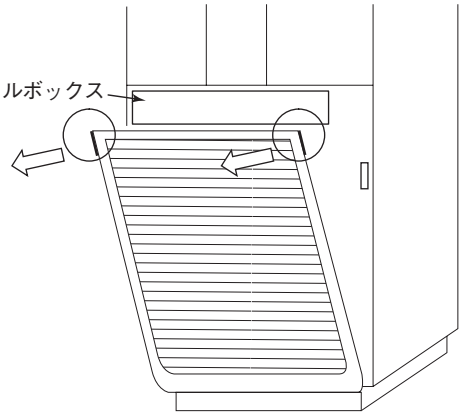
⚠注意

●冷媒センサケースの上方にドレン配管を通さない。水が掛かると故障の原因になります。

⑥電気配線取出位置および電気配線接続

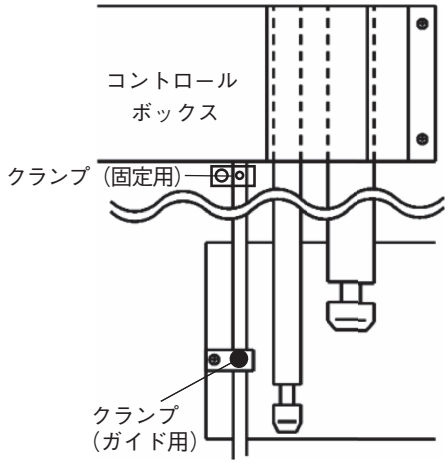
コントロールボックス位置および電源コード経路

●電気工事は電気工事士の資格のある方が､｢電気設備に関する技術基準｣｢内線規程｣および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



取手を両手で手前へ引き、グリルをあける

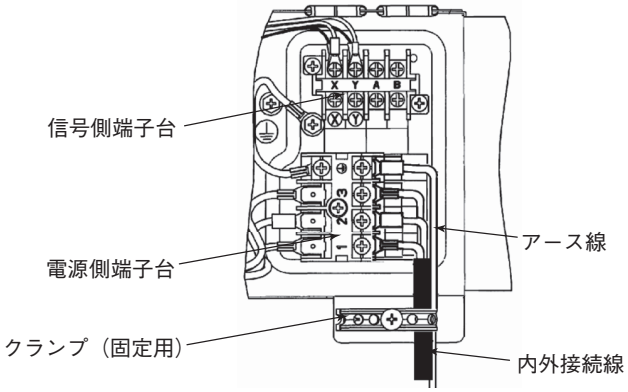
左図に示す場所にコントロールボックスがあります。カバーを外して施工してください。



●内外接続線は必ずクランプ（ガイド用）内を通してください。

◆作業手順

① コントロールボックスの蓋のねじ（1個）を取外してください。
② 各配線をコントロールボックス内に入れ、端子台に確実に接続してください。
③ 各配線をクランプ（固定用）で固定してください。
④ コントロールボックスの蓋を元通りに取付けてください。



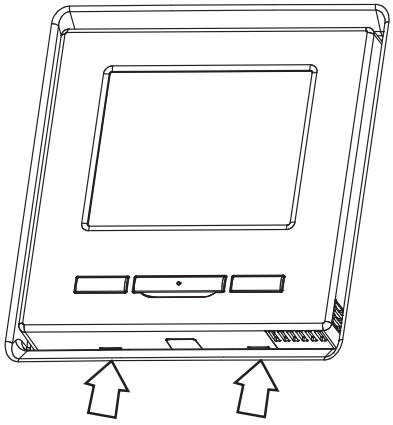
⑦室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

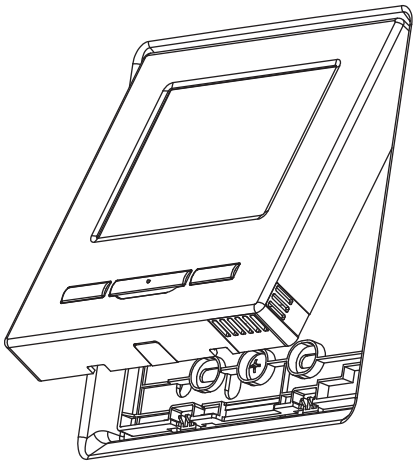
⑧リモコンの外しかた

■取外しかた

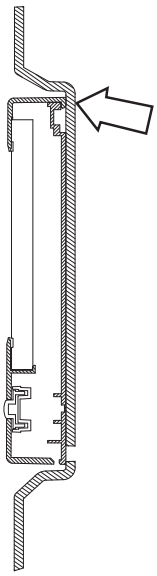


リモコン下面の凹（矢印部）にマイナスドライバーをいれて手前に引いてください。パネルを傷つけない様に注意してください。

■取付けかた



上側の爪を掛けながら、押し込みます。



(2) ワイヤードリモコン

(a) RC-DX3B

PJZ012D126

この据付説明書は、リモコン関連の据付方法・注意事項を記載しております。
室内ユニット・室外ユニット・他に付属の説明書と合わせてご覧ください。
正しく工事していただくために、工事前に、必ずこの説明書をよくお読みください。

※ FDF シリーズはユニット本体に標準付属のため、本工事は不要です。

1．安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠警告　誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。

⚠注意　誤った取扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。

状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠警告	
❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス(アンモニア・硫黄化合物・酸など)の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●リモコンケーブル引込口をパテでシールする。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。
また、水分が浸入すると画面表示不良の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●リモコンの上ケースおよび USB 端子カバーを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠注意

●リモコンを下記場所に設置しない。
(1) リモコンの変形・誤動作・故障の原因になる場合があります。
・直射日光のあたる場所。
・周囲温度が 0℃以下、40℃以上になる場所。
・取付面に凹凸のある場所。
・取付部が強度を有しない場所。
(2) リモコン内部部品へ水分が付着し、画面表示不良の原因になります。
・リモコンが結露する湿度の高い場所。
・水がかかる場所。
(3) リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合、正確な室温を検知できない場合があります。
・部屋の平均的な温度を検知できない場所。
・熱源の影響を受ける場所。
・ドアの開閉による室外空気の影響を受ける場所。
・直射日光やエアコンから吹出した風が直接当たる場所。
・壁面温度と室内温度の差が大きい場所。
(4) 室内ユニットにラクリーナパネルを使用する場合、昇降動作を確認できない場合があります。
・室内ユニットが見えない場所。

●パソコンに USB で接続する場合、専用のソフトウェアを使用する。
パソコンに他の USB 機器とリモコンを同時に接続しない。
リモコン・パソコンの誤動作・故障の原因になります。

2．部品確認

下記が付属されています。

付属品	リモコン本体、木ねじ（φ 3.5 × 16）2 本、取扱説明書・据付工事説明書

現地手配部品は、以下です。各々の据付方法に従い準備してください。

品　名	所要量	記　事
スイッチボックス 1 個用　または　2 個用（JIS C 8340）	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管（JIS C 8305）	必要量	
ロックナット・ブッシング（JIS C 8330）	必要量	
モール（JIS C 8425）	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル（0.3mm^2×2線）	必要量	100mを超える場合は右表

延長距離が100mを超える場合リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線する際は水分等が浸入しないような処置を行ってください。

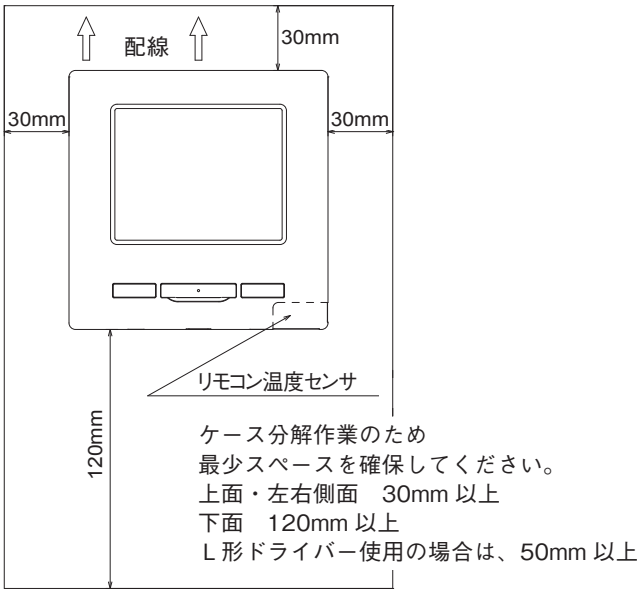
200m 以内	0.5mm^2 × 2 心
300m 以内	0.75mm^2 × 2 心
400m 以内	1.25mm^2 × 2 心
600m 以内	2.0mm^2 × 2 心

3．据付場所

図の設置スペースを確保してください。
また、据付方式は「スイッチボックスを使用」の場合、「壁面に直接据付」の場合の選択が可能です。
配線取出方向は「背面」、「上面中央」または「上面左」の場合の選択が可能です。
据付方式と配線取出場所を考慮のうえ、据付場所を決めてください。

室内ユニットにラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所としてください。

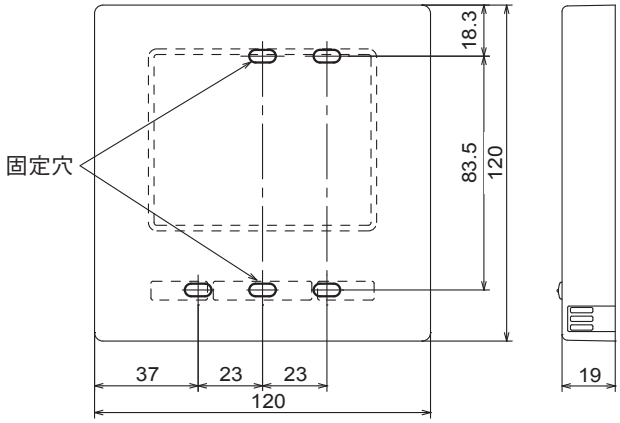
設置スペース



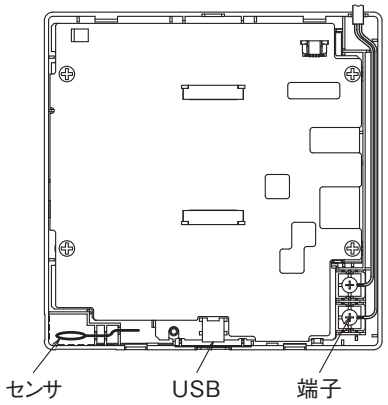
4．据付・配線工事

リモコンの据付・配線工事は下記に従って実施ください。

正面から見た取付寸法図

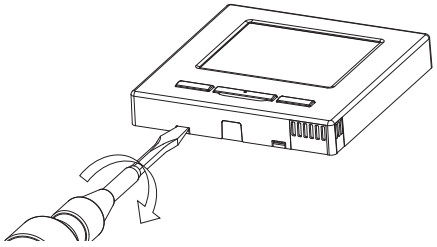


裏面から見た基板面



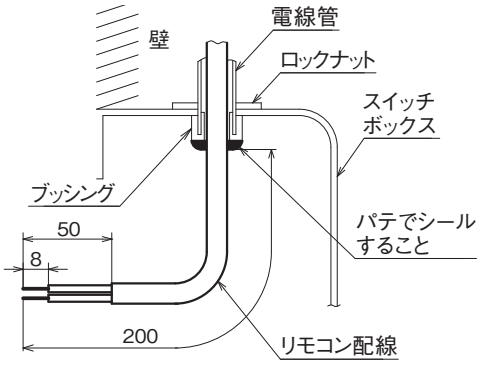
リモコンの上下ケースを組立て後、再度取外す場合

・リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を挿し込んで軽くねじって外してください。ケースを傷つけないよう、ドライバー先端にテープなどを貼ることをおすすめします。
取外した上ケースは、水分・ゴミが付かないようにしてください。



スイッチボックスを使用する場合　（配線方向「背面」の場合）

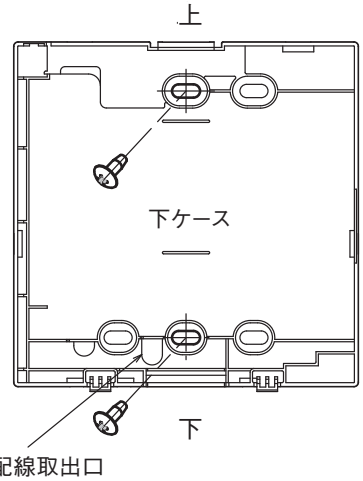
①スイッチボックスとリモコン配線をあらかじめ埋込んでおきます。
リモコン配線引込口はパテでシールしてください。



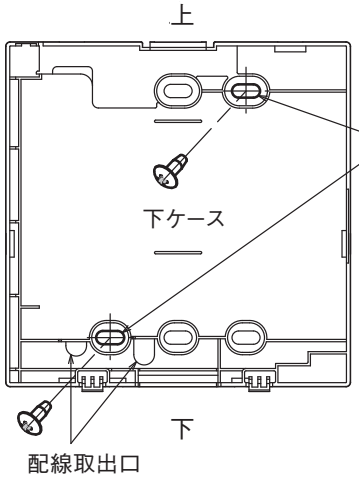
4．据付・配線工事（つづき）

②下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに２箇所固定してください。

1個用
スイッチボックス
の場合



２個用
スイッチボックス
の場合

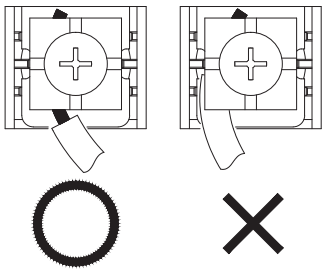


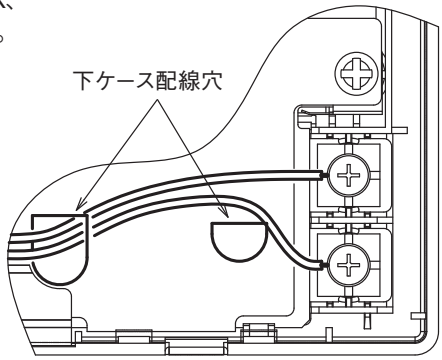
ねじ取付部の
薄肉部分を
ナイフ等で、
切りとって
からねじを
しめてくだ
さい。

③リモコン端子 X, Yと室内ユニットの端子 X, Yを接続してください。配線 X、Y の極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
④リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。

配線接続時のご注意

リモコンケース内を通る配線は 0.5 ㎟以下とし、シースをかみこまないように接続してください。
配線接続は、手締め（0.7N·m 以下）で行ってください。
電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。

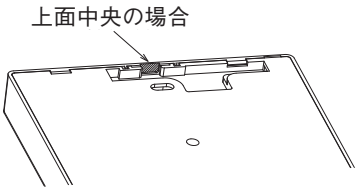


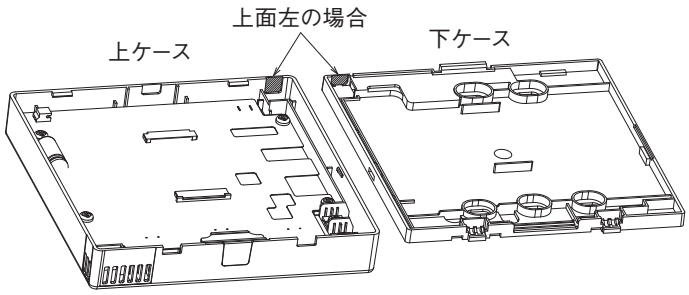


スイッチボックスを使用しない場合　（配線取出「上面中央」「上面左」の場合）

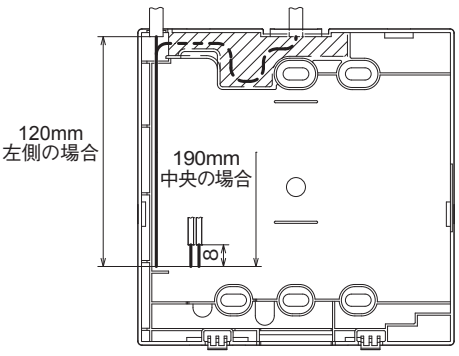
①ケース薄肉部を配線太さに合わせ切取ってください。

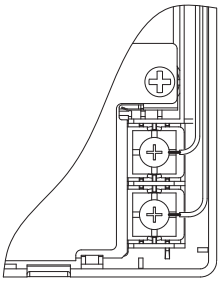
上面中央の場合は、上下ケース分解前に切取ってください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。
上面左の場合は、基板内部への影響を与えないように切取ってください。破片が内部に残らないように注意してください。





②リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で平らな面に固定してください。
③上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。（斜線部分）
④リモコン端子 X, Y と室内ユニットの端子 X, Y を接続してください。配線 X、Y の極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
⑤リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。
⑥①で切取った部分をパテでシールしてください。





(b) RC-D4G

PJA012D729 B

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠警告

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

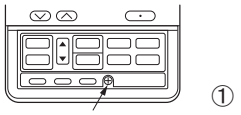
●リモコンを下記場所に設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
(1)直射日光の当たる場所　(4)取付面が発熱・結露する場所
(2)発熱器具の近く　(5)油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(3)湿気の多い所・水の掛る所　(6)取付面に凹凸がある所

● リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。
上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

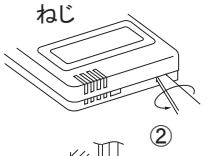
付属品	リモコン本体、　木ねじ（φ3.5×16）2本
客先手配品	リモコンコード（2心） ［埋込取付の場合］　JISボックス、M4ねじ（2本） ［露出取付の場合］　コードクランプ（適時）

取付要領

① リモコンの蓋を開け、スイッチ下部のねじを必ず外してください。

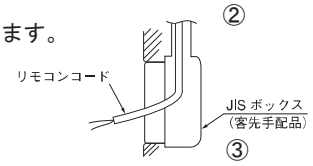


② リモコンの上ケースを外してください。
リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差込んで軽くねじると、容易にはずれます。

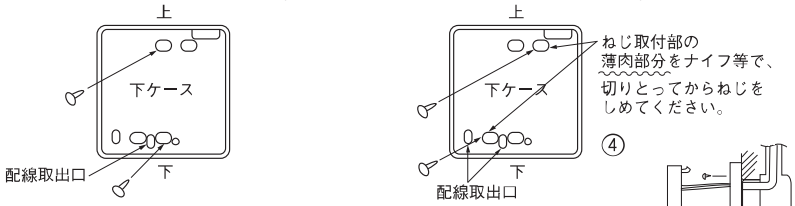


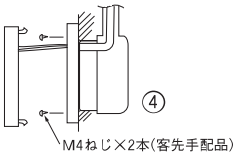
[埋込取付の場合]

③ JISボックスとリモコンコードをあらかじめ埋込んでおきます。
[使用可能なJISボックス]
JIS C 8340 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス



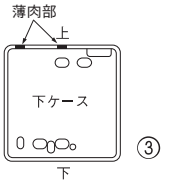
④ M4ねじ2本（推奨長さ12～16mm）を用意して、下ケースをJISボックスに取付けてください。
1個用スイッチボックスの場合　　2個用スイッチボックスの場合





⑤ リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X, Y）と室内ユニットの端子（X, Y）とを接続してください。（X, Yの極性はありません。）

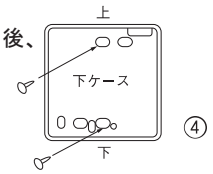
⑥ リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。



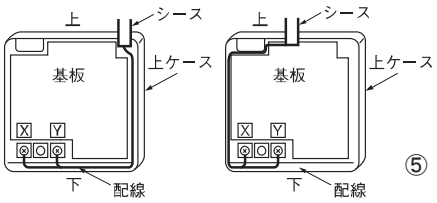
[露出取付の場合]

③ リモコンコードの取出方向は、上部左上または、中央から可能です。
リモコン下ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

④ リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本（付属）で平らな壁に取付けます。



⑤ リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X, Y）と室内ユニットの端子（X, Y）とを接続してください。
（X, Y の極性はありません。）
取出し方向によって、配線経路は右図の通りとなります。



左上取出しの場合　　中央取出しの場合

リモコン内部のリモコンコードは、0.3mm²（推奨）～最大 0.5mm² 以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

左上取出しの場合	中央取出しの場合
X 配線：215mm Y 配線：195mm	X 配線：170mm Y 配線：190mm

⑥ リモコンコードが噛みこまないように、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。
⑦ 露出取付の場合は、リモコンコードがたるまないようにコードクランプ等で壁面に固定します。

リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長600m

● リモコンコードは 0.3mm²×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。
ただし、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
100～200m 以内・・・・・・0.5mm²×2 心
300m 以内・・・・・・0.75mm²×2 心
400m 以内・・・・・・1.25mm²×2 心
600m 以内・・・・・・2.0mm²×2 心

⑶　室外ユニット

⒜　FDCKP805H，1125H

PSC012D128

KPシリーズ
KP80･KP112
冷媒R32対応機

◎ 本説明書は“室外ユニットと総合工事仕様”について示したものです。“室内ユニット”については室内ユニットに付属の“据付説明書”をご覧ください。
◎ 据付時には据付場所の選定、電源仕様、使用可能範囲(配管距離・室内外高低差・電源電圧等)・据付スペース等などが適正であることを確認してください。
◎ この室外ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

● 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
● ここに示した注意事項は、「⚠**警告**」「⚠**注意**」に区分していますが、誤った据付をしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に「⚠**警告**」の欄にまとめて記載しています。しかし、「⚠**注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。　いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
● ここで使われる"図記号"の意味は右のとおりです。⃠ 絶対に行わない　❗⏚ 必ず指示に従い行う
● 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそって「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方をご指導下さい。
● 据付説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管戴くように依頼してください。またお使いになる方が代わられる場合は、新しくお使いになる方に、取扱説明書をお渡しくださるよう依頼してください。

据付工事前に確認してください

●機種･電源仕様　●冷媒配管長
●配管･配線･小物部品　●室内ユニット据付説明書

⚠ 警　告

❗
- **●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。**
  ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニットの落下によるケガの原因になります。
- **●据付工事は、据付説明書に従って確実に行う。**
  据付に不備があると破裂、ケガの原因となり、また水漏れや感電、火災の原因になります。
- **●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。**
  当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電、冷媒漏れ、能力不足、制御不良、ケガなどの原因になります。
- **●小部屋に据付ける場合は日本冷凍工業会のガイドラインJRA GL-13に従い、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。**
  限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- **●作業中に冷媒が漏れた場合は換気する。**
  冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- **●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。**
  冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- **●ユニットを搬入する際、重量に適合したロープをユニットの所定位置に掛けて行う。また横ズレしないよう固定し、確実に4点支持で実施する。**
  3点支持など搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因になります。
- **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
  強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- **●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。**
  据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- **●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
  電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- **●元電源を切った後に電気工事を行う**
  感電、故障や動作不良の原因になることがあります。
- **●電源配線は、電流容量、規格に適合した配線により工事をする。**
  適合品以外の配線を使用した場合は、漏電、発熱、火災等の原因になります。
- **●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。**
  接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- **●電源コードの加工、途中接続、タコ足配線はしない。**
  接触不良･絶縁不良･許容電流オーバー等により、発熱･火災･感電の原因になります。
- **●電源コードを束ねたり、巻いたり、電源プラグを踏む等して変形させない。**
  発熱･火災･感電の原因になります。
- **●密閉された部屋で配管ロー付け作業をしない。**
  酸欠事故の原因になります。
- **●配管、フレアナット、工具はR32またはR410A専用のものを使用する。**
  既存 (R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷媒サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- **●フレアナットの締付けはダブルスパナで行い、トルクレンチで指定の方法で締付ける。締付け過ぎによるフレア部の破損に注意してください。**
  フレア部のゆるみ、締付け過ぎによる破損が発生した場合に、冷媒ガスが漏洩して酸欠事故の原因になることがあります。
- **●冷媒配管工事、気密試験および真空引きが完了するまでは、サービスバルブ (液、ガス共) を開けないでください。**
  冷媒配管が確実に取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。
  また空気などを吸引し、冷媒サイクル内が異常高圧となり、破裂、ケガなどの原因になります。
- **●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。**
  ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- **●保護装置の改造や設定変更をしない。**
  圧力開閉器や温度調節器などの保護装置を短絡して強制運転を行ったり、当社指定の部品を使用しないと、火災や爆発の原因になります。
- **●据付時や点検･サービス時など、ユニット内の作業を行う場合は、電源を切ってから行ってください。**
  据付･点検･修理にあたって、ユニット電源ブレーカがONのままだと、感電や故障およびユニットファン回転によるケガの原因になります。
- **●エアコンを移動、再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。**
  据付に不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
- **●ポンプダウン作業では、操作弁を閉じた後、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。**
  圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。
  また空気などを吸引し、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

⃠
- **●エアコンの設置や移設の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒 (R32)以外の空気等を入れない。**
  空気が混入すると冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- **●パネルやガードを外した状態で運転しない。**
  機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- **●サービスパネルは確実に取付ける。**
  サービスパネルの取付に不備があると、ホコリ、水などにより、火災、感電の原因になります。
- **●改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。**
  修理に不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
- **●メンテナンス後にすべての配線およびタイラップ等を元の位置に戻してください。**
  金属部品との距離を確保する必要があります。

⚠ 注　意

⏚
- **●アース (接地) を確実に行う。**
  アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース (接地) が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。またガス管にアースすると、ガス漏れの時に爆発、引火の可能性があります。

❗
- **●正しい容量の全極遮断するブレーカ (漏電遮断器･手元開閉器 (開閉器＋B種ヒューズ)･配線遮断器) を使用する。**
  不適切なブレーカを使用すると故障や火災の原因になります。
- **●製品の運搬は十分注意して行う。**
  20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外を持って製品を動かさないでください。
  また素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- **●梱包材の処理は確実に行う。**
  梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。また梱包用のポリブクロで子供が遊ぶと窒息事故の原因となりますので、必ず破いてから廃棄してください。
- **●室内ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの浸入を防止する。**
  溶接作業時などに発生するスパッタがユニット内に浸入した場合、ドレンパン等に損傷 (ピンホール) をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの浸入を防ぐため梱包状態のままにしておくとか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- **●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。**
  不完全な断熱施工を行うと配管等の表面が結露して、露たれ等を発生し、天井、床その他、大切なものを濡らす原因となることがあります。
- **●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。**
  万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。
- **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
  据付に不備があると、以上振動･騒音増大の原因になります。

⃠
- **●漏電遮断器は必ず取付ける。**
  漏電遮断器が取付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。
- **●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。**
  針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- **●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。**
  万一ガスがユニットの周囲に滞ると、発火の原因となることがあります。
- **●腐食性ガス (亜硫酸ガス等)、可燃性ガス (シンナー、ガソリン等)、の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。**
  熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは火災の原因になることがあります。
- **●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。**
  スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- **●室外ユニットを屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、通路には恒久ハシゴ、手すり等を、また室外ユニット周辺にはフェンス、手すり等を設けて**
  フェンス、手すり等がない場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- **●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。**
  インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え、人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。
- **●室外ユニットは、小動物のすみかとなるような場所に設置しない。**
  小動物が侵入して、内部の電気配線に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。またお客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- **●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。**
  傷んだまま放置するとユニットの落下につながり。ケガの原因になることがあります。
- **●次の場所への据付は避ける。**
  ･カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
  ･車両、船舶等移動するものへの設置
  ･油の飛沫や蒸気が多い所 (調理場、機械工場等)
  ･海浜地区等塩分の多い所
  ･煙突の煙がかかる所
  ･アンモニアの雰囲気にさらされる所
  ･通風の悪い所
  ･複数台設置の場合に、ショートサーキットがおきるような所
  ･ユニットの上方に置かれたものが落ちる可能性がある場所
  ･硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ等の機器に影響する物質の発生する所
  ･化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
  ･高周波を発生する機械を使用する所
  ･積雪の多い所 (設置する場合、所定の架台、防雪フードを取付けることが必要です。)
  ･標高1000m以上の所
  ･他の熱源から熱放射を受ける所
  ･吸込口、吹出口に風の障害物がある所
  ･強風の影響をうけやすい所 (室外ユニットに直接強風が吹込む所)
  ･塩化カルシウムを使用する所 (融雪剤)
  性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したり火災発生の原因になることがあります。
- **●次の場所への室外ユニットの据付は避ける。**
  ･騒音や熱風が隣家に迷惑をかけるような所
  ･吹出しの風が動植物に直接植木にあたる場所
  　吹出し風による植木などへの被害の原因になります
  ･ドレンの排水がとれない所
  ･強度が不十分で振動が増幅、伝達しやすい所
  ･機器から発生する騒音、振動の影響を受けやすい所 (寝室の壁やその近傍)
  ･高周波に影響される機器のある所 (TVおよびラジオ等の近傍)
  周辺の環境に影響をおよぼしクレームの原因になることがあります。
- **●食品、動植物、精密機器、美術品の保存など特殊用途には使用しない。**
  保存物の品質低下の原因になることがあります。
- **●濡れた手でスイッチを操作しない。**
  感電の原因になることがあります。
- **●運転中の冷媒配管を素手で触れない。**
  運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状況により低温と高温になります。　素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- **●電源投入後に室外ユニットの底面に触らないこと。**
  ドレン水の凍結防止のため室外ユニットの底面を電気ヒータで加熱しています。
  室外ユニットの底面、ヒータ本体に触れるとやけどや感電の原因となることがあります。
- **●室内ユニットを水洗いしない。**
  感電の原因になることがあります。
- **●室外ユニットの上に物を置いて運転を行わない。**
  落下物により物が破損したり、ケガの原因になります。
- **●室外ユニットの上に乗らない。**
  落下、転倒などによりケガの原因になります。
- **●素手で室外ユニットのフィンや吸入管に触らないこと。**
  ケガの原因になります。

冷媒R32対応機としての注意点

●R32以外の冷媒は使用しないでください。R32は従来の冷媒 (R22など) に比べ圧力が1.6倍高くなります。
●R32機は、他冷媒の誤封入防止のため室外ユニット操作弁のチャージポート径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。また、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法およびフレアナットの対辺寸法を変更しています。従って、施工･サービス時には、右表に示すR32またはR410A専用ツールを準備してください。
●チャージシリンダは使用しないでください。
●室内ユニットはR32またはR410A専用機となります。接続可能な室内ユニットはカタログ等で確認してください。(他の室内ユニットを接続すると正常運転できません。)
●異種油の混入をさけるために、冷媒の種類により工具を使い分けしてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R407C) と共用しないでください。
●冷媒R32にはわずかながら燃焼性があります。そのため、半地下や狭小部など換気の悪い場所で室外ユニットを設置･修理･移設する際の作業時は冷媒漏えいセンサを携行してください。
　冷媒が漏えいした場合、窒息や着火の原因となる恐れがあります。

	R32またはR410A専用ツール
a)	ゲージマニホールド
b)	チャージホース
c)	冷媒充填用電子はかり
d)	トルクレンチ
e)	フレアツール
f)	出し代調整用銅管ゲージ
g)	真空ポンプアダプター
h)	ガス漏れ検知器

フロンの見える化

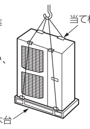
地球温暖化防止のため、この製品の移設･修理･廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。本機には地球温暖化係数(GWP)が675のフロン類を使用しています。(冷媒R32)

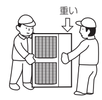
1．ユニットの搬入・据付（ユニットの搬入・移動には十分に注意し、必ず2人以上で行ってください。）

⚠注意　●ユニットにロープ掛けを行い搬入する場合は、必ずユニット重心のずれを考慮してください。ユニットが安定を失って落下する恐れがあります。

1）搬入

●据付場所付近までできるだけ梱包のままで搬入してください。
●ロープ掛けを行い搬入する場合は玉掛けの資格のある方が行い、ユニットに過度な衝撃等を与えないように作業してください。
●ロープ掛けを行い搬入する場合は、ユニットにロープ掛けを行ってください。
●ロープ掛けする場合は、ユニットを傷付けないようにナイロンスリングで吊り下げるか、または当て板をしてロープで吊り下げてください。





2）移動

●ユニット正面（吹出側）から見て右側が重くなっています。
右側を持つ作業者は十分に注意してください。

3）据付場所の選定

下記条件に注意し、据付場所を選んでください。
○ 室外ユニットの重量・振動に耐え、水平に据付けられる安全な所
○ 運転音や温風で隣家に迷惑のかからない所　○ 油煙が発生しない所
○ 可燃性ガスの漏れる恐れのない所　○ ドレン水が流れてもよい所
○ 他の熱源から熱輻射を受けない所　○ 積雪で埋まらない所
○ テレビやラジオの周囲から５m以上離れた所（電波障害を受ける場合はさらに離してください。）
○ 通風が充分に確保でき、保守点検を安全に行えるサービススペースを確保できる所
○ 電磁波、高調波を発生する機械がない所
○ 硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ(アンモニアを含む)など機器に影響する物質の発生･滞留しない所
○ 吹出口に強風が当たらない所

4）据付場所に関する注意

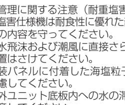
（1）積雪が予想される地域では、下記(i)～(iii)の対応を行ってください。
　i) 室外ユニットの吸込口・吹出口や底板下部が雪で閉塞する恐れがありますので、次のような対策を行ってください。
　①積雪面より底板が高くなるよう室外ユニットを架台の上に設置してください。

　②吹出口に防雪フード(別売品)を取り付ける。

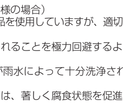
　③軒下に設置するか、雪除け屋根(現地手配)を取り付けてください。

　ii) ドレン集中キット（別売品）を使った集中排水工事は行わないでください。
　　氷点下では除霜運転時のドレン水がドレンプラグやドレン管内で凍結する恐れがあります。
　iii) 室外ユニットから排出したドレン水が凍結する恐れがある場合は室外ユニットの下に凍結防止用ヒータ(現地調達)を設置してください。
　　※ヒータを設置する場合は熱の影響により排水路にある材料を溶融しない様な、容量、配置、システムにて施工してください。

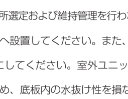
（2）強風の影響を受けやすい場所では、下記の内容に従って防風対策を行ってください。
　能力の低下、高圧上昇による異常停止、ファンの破損などの原因となります。
　①吹出側を建物の壁、塀および防風用つい立などにむける。



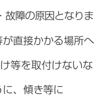
　②吹出方向を風向きに対して直角に設置する。



　③強風等の影響がある場合は安定した場所に据付け、耐風金具（別売品）やワイヤロープなどでユニットを直接固定する。



　④台風等の強風が吹出し口に吹付ける場合は防風キット（別売品）を取り付ける。



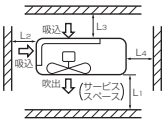
（3）維持管理に関する注意（耐重塩害仕様の場合）
　耐重塩害仕様機は耐食性に優れた部品を使用していますが、適切な据付場所選定および維持管理を行わないと破損・故障の原因となります。
　以下の内容を守ってください。
　●海水飛沫および潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。また、波しぶき等が直接かかる場所への設置はさけてください。
　●外装パネルに付着した海塩粒子が雨水によって十分洗浄されるようにしてください。室外ユニットには日除け等を取付けないなど配慮してください。
　●室外ユニット底板内への水の滞留は、著しく腐食状態を促進させるため、底板内の水抜け性を損なわないように、傾き等に注意してください。
　●海岸地帯への据付品については付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。
　●据付、メンテナンス等で付いた傷は、補修してください。
　●機器の状態を定期的に点検してください。必要に応じて再防錆処置や部品交換等を実施してください。
　●基礎部分の排水性を確保してください。

5）据付スペース

●四方障壁は不可です。
●ユニット上方のスペースは1m以上確保してください。
●ショートサーキットの恐れのある場所はフレックスフローアダプタを取り付けてください。
●複数台設置する場合は、特にショートサーキットが生じないように吸い込みスペースを十分に確保してください。
●吹出口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。
●横連続設置するときは、ユニット間に250mm以上のサービススペースを確保してください。

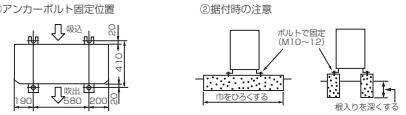
(mm)

寸法＼据付例	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
L1	開放	開放	500
L2	300	5	開放
L3	150	300	150
L4	250	250	250



6）据付

①アンカーボルト固定位置　②据付時の注意



●ユニットを据え付ける場合、上記ボルトでユニットの足を必ず固定してください。
●前面側アンカーボルト飛び出し長さは15mm以下としてください。
●地震や突風などで倒れないように強固に据付けてください。
●コンクリート基礎は上図を参照してください。
●ユニットは水平に設置してください。（ベース面で左右の差は5mm以下）
コンプの故障、ユニット内配管の破損、異常音の原因になります。

7）外気温－5℃以下で冷房運転を行う場合

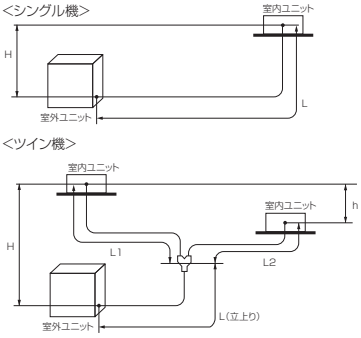
●フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売品）を取付けてください。

2. 冷媒配管工事

1） ユニット据付使用制限

●室内ユニットの仕様と据付場所にあわせて以下の内容を確認して下さい。
●以下の据付使用制限は必ず守ってください。据付に不備があると圧縮機の故障や能力低下の原因となります。

制限項目	第1分岐管～各室内ユニットまでの配管長差		右図での記号	
	室外ユニット容量	制限長さ	シングル機	ツイン機
配管総長	KP80, KP112	100m以下	L	L+L1+L2
主管長		100m以下	L	－
第1分岐～室内ユニット間の片道長さ		30m以下	－	L1, L2
第1分岐～室内ユニット間の片道長さの差		10m以下	－	|L1－L2|
室内・室外ユニット間の高さの差	室外ユニットが上の場合	30m以下	H	H
	室外ユニットが下の場合	15m以下		
室内ユニット間の高さの差		0.5m以下	－	h



⚠注意 ●上表の使用制限は下表に示す標準配管サイズの場合を示します。既設配管を使用する場合は配管サイズにより配管総長の制限が変わります。詳しくは「6．既設配管対応」をご確認ください。

2） 冷媒配管サイズ選定

●室内ユニットの仕様に合わせて以下の内容で冷媒配管サイズを選定してください。

		KP80		KP112	
		ガス管	液管	ガス管	液管
室外ユニット接続		φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
		フレア	フレア	フレア	フレア
冷媒配管(主管L)		φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
シングル機の場合	室内ユニット接続	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット容量	P80		P112	
ツイン機の場合	分岐管セット	DIS-WA1G		DIS-WA1G	
	冷媒配管(分岐管L1,L2)	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット接続	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット容量	P40×2		P56×2	

⚠注意 ●立ち上がり配管は主管としてください。また、分岐管セットはできるだけ室内ユニットに近いところに水平に分岐するように取付けてください。また、分岐部には付属の断熱材を取付けてください。
●分岐部の施工詳細は、分岐管セットに付属の説明書を参照してください。

3） 冷媒配管の肉厚および材質

●冷媒配管のサイズに対して以下の肉厚および材質のものを選定してください。
●本機はR32を使用します。外径19.05[mm]以上の配管についてはO材では耐圧が不足しますので、必ず1／2H材、肉厚1.0[mm] 以上の配管をご使用ください。

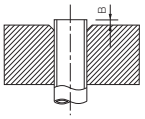
配管外径 [mm]	6.35	9.52	12.7	15.88	19.05
最小配管肉厚 [mm]	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0
配管材質※	O材	O材	O材	O材	1/2H材

※リン脱酸銅継目無管 C1220T、JIS H3300

お願い ●配管の選定･施工については、必ず「冷凍保安規則関係例示基準」を厳守してください。
●配管肉厚は、最小配管肉厚以上のものを選定してください。

フレア管端部：A（mm）

銅管外径	A 0 −0.4
φ6.35	9.1
φ9.52	13.2
φ12.7	16.6
φ15.88	19.7
φ19.05	24.0

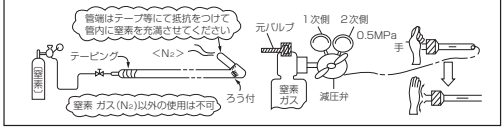


フレア加工の銅管出し代：B（mm）

銅管外径	リジッド（クラッチ式）の場合	
	R32またはR410A用ツール使用時	従来ツール使用時
φ6.35	0～0.5	0.7～1.3
φ9.52		
φ12.7		
φ15.88		
φ19.05		

ろう付について

ろう付は必ず窒素ガスを流しながら行ってください。
窒素ガスを流さないと多量の異物（酸化皮膜）が生成され、キャピラリーチューブや膨張弁詰りによる致命的故障の原因となります。



4） 現地配管施工

⚠重要 施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意してください。
内部部品に接触すると、異常音・振動が発生します。

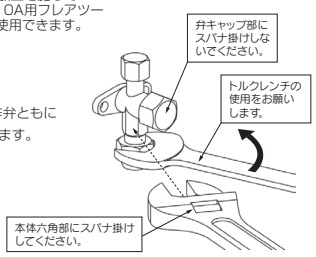
サービスパネルの外し方

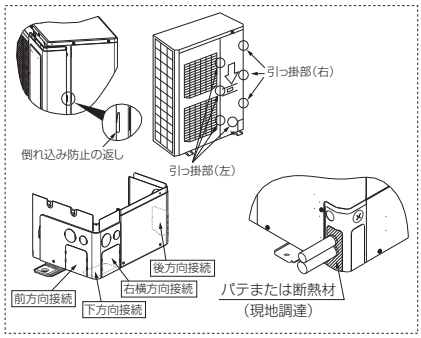
サービスパネルは固定しているねじ（×印[2本]）を外し、パネルを矢印方向へ引き下げてから手前に外してください。
※引っ掛部（右）には倒れ込み防止の返しがついています。引き下げ後、少し持ち上げ手前に外してください。

●配管の取出しは前・右・下・後が可能です。
●配管貫通部のノックアウトの板を必要最小限の寸法で取外し、配管を接続してください。
●配管接続後に配管接続部のすき間をパテや断熱材（現地調達）でふさいでください。
室外ユニット内に昆虫などの小動物が侵入した場合、ショートするおそれがあります。
●現地配管施工は、操作弁を全閉にして行ってください。
●配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生(潰してろう付または粘着テープによる)を十分に行ってください。
●配管の曲げはできるだけ大きな半径（R100～R150）で行ってください。曲げなおしを何回も行わないでください。
●ユニットと冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付後、フレア加工を施してください。R32のフレア加工寸法は、従来のR407Cとは異なります。R32またはR410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整用ゲージにて出し代B寸法を調節すれば、従来ツールを使用できます。
取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。
●フレア接続はダブルスパナで締付けてください。
●配管は1.5m毎に固定してください。

⚠注意 **フレアナットを適正トルクを超えて締めないでください。**液側、ガス側操作弁ともに右の絵のように操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締付をお願いします。

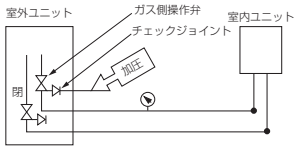
操作弁サイズ(mm)	締付トルク (N・m)
φ6.35 (1/4")	14～18
φ9.52 (3/8")	34～42
φ12.7 (1/2")	49～61
φ15.88(5/8")	68～82
φ19.05(3/4")	100～120





5） 気密試験

①室外ユニットおよび室内ユニット本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管の気密試験を室外ユニット側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。尚、操作弁は必ず閉のままにして実施してください。
(ア) 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置し、圧力の低下のないことを確認ください。
(イ) 次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認ください。
(ウ) その後、規定圧力（4.15MPa）まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
(エ) 約1日放置し、圧力が低下していなければ合格です。この際周囲温度が1℃低下すると圧力が約0.01MPa低下しますので補正を行ってください。
(オ) (ア)～(エ)の確認で圧力低下の認められたものには漏れがあります。溶接箇所、フレア部等に発砲試験液等を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。
②気密試験には窒素ガスを使用し、窒素ガスによる加圧はガス側から行ってください。また窒素以外のガスは絶対使用しないでください。



6） 真空引き

<作業フロー>

真空ゲージの針が上昇した場合は系統内に水分が残っているか、漏れ箇所があります。
漏れ箇所をチェックし、修正後再度真空引きをしてください。

本機はR32のため下記の点にご注意ください。

○ 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具等を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒（R22、R407C等）と共用しないでください。

○ 真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用ください。

7）冷媒追加封入

（1）下表に従い、冷媒封入量を計算してください。

<シングル機>

容量＼項目	冷媒配管（液管）1mあたりの追加チャージ量（kg）	工場出荷時チャージ量（kg）	追加チャージ不要の現地配管長さ（m）
KP80, 112	0.054	4.2	30

<ツイン機>

容量＼項目	冷媒配管（液管）1mあたりの追加チャージ量（kg）		工場出荷時チャージ量（kg）	追加チャージ不要の現地配管長さ（m）
	主管	分岐管		
KP80, 112	0.054		4.2	30

●室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現地での追加チャージが不要です。それを超えた分については、配管長と上表より追加封入量を計算し追加封入してください。現地での追加チャージが必要となった場合、長配管設定として**現地設定スイッチSW7-1をON**にしてください。詳しくは5. 試運転の項を参照してください。

●既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6. 既設配管対応」をご確認ください。

追加冷媒量計算式

KP80, 112	追加チャージ量（kg）＝｛主管長（m）−チャージレス分30（m）｝×0.054（kg/m）＋分岐管総長（m）×0.054（kg/m）

※追加冷媒量の計算結果が負の値になる場合は、追加チャージ不要です

（2）冷媒封入

●操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外ユニットのバルブを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側（吸入側）サービスポートから封入します。圧縮機保護のため、ボンベのバルブを絞り気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用して、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。

●冷媒の封入は必ずはかりを使用して計算封入してください。

●運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。

お願い 配管長から算出した冷媒量をサービスパネル裏面の注意ラベルに記入してください。

8）断熱・防露

（1）冷媒配管（ガス管、液管共）の防露断熱工事を行ってください。

（2）断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。

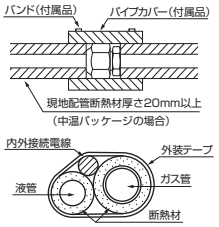
・防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。

・ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。

・室内ユニットのフレア接続部分は断熱材（パイプカバー）で断熱してください。（ガス管・液管共に断熱してください。）

・断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。

・本エアコンはＪＩＳ露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、**相対湿度70%(※)を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。**



3. ドレン工事

下記に注意し、ドレン工事を行ってください。

●室外ユニットの底面に電気ヒータを組み込んでいます。底面が加熱されるためドレンエルボ、ドレングロメットは使用できません。（弊社オプション品でも、ご使用いただけません。）

●ドレン集中キット（別売品）を使った集中排水工事は行わないでください。氷点下では除霜運転時のドレン水がドレンプラグやドレン管内で凍結する恐れがあります。

●室外ユニットの底面にはドレン水を排水する穴が3か所有ります。

●操作弁や接続配管付近からドレン水が流れ出る可能性があります。

4. 電気配線 電気工事の詳細は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

●漏電しゃ断器の取付を必ず行ってください。漏電しゃ断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●室内外配線は同一端子番号を接続してください。

●配線は端子接続部に外力が伝わらないように固定してください。

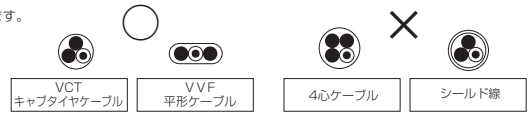
●制御箱にアース端子があります。D種接地工事を必ず行ってください。

●内外渡り線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。

●力率改善用のコンデンサを使用しない。発熱や火災の原因になります。

●配線は配管に触れないように固定してください。

●配線接続時にコネクタや端子が緩んでいないことを確認してからカバー、パネルを取付けてください。カバー、パネルの取付に不備があると制御箱に水が入り、感電の原因になります。



機 種	漏電しゃ断器定格電流	手元開閉器		配線用しゃ断器	電源配線		内外接続線	アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	太 さ	ねじ
KP80, 112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	30m	φ1.6×3（70mまで） 3.5mm²×3（120mまで）	φ1.6	M5
							φ1.6×3（70mまで） 3.5mm²×3（105mまで）		

室内ユニットが FDU、FDR の場合

機 種	漏電しゃ断器定格電流	手元開閉器		配線用しゃ断器	電源配線		内外接続線	アース線	
		開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	太 さ	ねじ
KP80, 112	40A,100mA,0.1sec以下	60A	40A	40A	5.5mm²×3	26m※	φ1.6×3（70mまで） 3.5mm²×3（120mまで）	φ2.0	M5
							φ1.6×3（70mまで） 3.5mm²×3（105mまで）		

※FDR組合せの場合 25m

●上表はヒータレス機の場合を示します。ヒータ付の場合は室内ユニットの据付説明書、工事説明書をご覧ください。

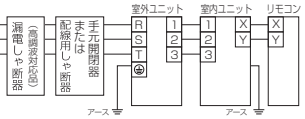
●上表はシングル機の場合を示します。ブルーラル接続の場合はカタログ・技術資料をご参照ください。

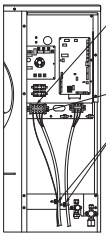
●配線仕様は金属管または合成樹脂管配線で、管内に3本以下で電圧降下2%とした場合を示します。これ以外の条件は内線規程により実施してください。

電源・内外接続線 ●アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。

⚠ 注意

漏電しゃ断器の誤動作を防ぐため、必ずインバータ回路用しゃ断器を使用してください。





電源端子台

○D種接地工事を必ず行ってください。
○他の機種のアース線に接続せず、配線盤のアース線まで単独の線で工事してください。

アース端子

配線ガイド

配線銘板

○サービスパネル裏面に貼り付けてあります。

配線取出し方向

○冷媒配管と同様に右横、前、後、下の4方向可能です。

5. 試運転

⚠ 警告

●試運転の前に操作弁が全開になっていることを必ず確認してください。
●試運転の6時間前に電源を入れ、クランクケースヒータに通電してください。
●停止から運転までは、必ず3分以上待ってください。
} 左記の項目に不備がありますと、圧縮機が故障することがあります。

●サービスパネルを外すと、高圧充電部・高温部が露出して危険です。感電や火傷に十分注意してください。また、サービスパネルを開けたまま放置しないでください。

⚠ 注意

●現地設定スイッチ（SW3、SW5、SW7）を操作する場合は、充電部に触れぬよう十分注意してください。

●液操作弁のチャージポートから吐出圧力の検圧はできません。

●四方弁（20S）は暖房運転時に通電されます。

●電源しゃ断によりリセットする場合は、電源しゃ断より3分経過後に電源を再投入してください。3分経過後でなければ「室内外通信異常」が発生する場合があります。

絶縁抵抗について

●据付直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。
絶縁抵抗が小さく、漏電ブレーカが作動する場合は、以下の事項を確認ください。

①電源を投入し、6時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。
電源を投入することにより、圧縮機に通電加熱を行い、圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。

②漏電ブレーカが高調波対応品であるか確認する。
本機はインバータを装備しており、漏電ブレーカの誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。

1）試運転方法

（1）現地接定スイッチSW3-3, 4により室外ユニット側から試運転が可能です。
（2）SW3-3をONすることで圧縮機が運転します。
（3）SW3-4がOFF状態で冷房試運転を行い、ON状態では暖房運転を行います。
（4）**試運転終了後は、必ずＳW3-3をOFFに戻してください。**

SW-3-3	SW-3-4	
ON	OFF	冷房試運転
	ON	暖房試運転
OFF	－	通常、および試運転終了

2）運転状態のチェック

吐出圧力、吸込圧力の検圧は、室外ユニット内部の四方弁前後に取付けられたチェックジョイントおよび、ガス操作弁のチャージポートから行ってください。冷房運転・暖房運転によって右表のように検出圧力は異なります。
電源投入1回目の起動時は 、圧縮機保護のため圧縮機回転数をゆるやかに上昇させます。
試運転時は1時間ほど連続運転させてから運転状態をチェックしてください。

	配管のチェックジョイント	ガス操作弁のチャージポート
冷房運転	吐出圧力（高圧）	吸込圧力（低圧）
暖房運転	吸込圧力（低圧）	吐出圧力（高圧）

3）現地設定スイッチＳW3-1、ＳW7-1の設定

（1）デフロスト制御切換（SW3-1）
・ONすることでデフロスト制御に入り易くなります。
（2）長配管設定（SW7-1）
・現地での冷媒追加チャージが必要な場合は、設定をONにしてください。

4）試運転時の故障診断

リモコン表示	室外基板LED表示(周期5秒) 赤LED	緑LED	故障内容	対策
E34	1回点滅	連続点滅	欠相	電源線のゆるみ、外れのないことを確認
E40	1回点滅	連続点滅	63H1作動、または操作弁閉運転(主に暖房時に発生)	1. 操作弁が開いているか確認 2. 圧縮機停止から3分経過後、異常が解消されていればリモコンからの点検リセットにより再起動可能
E49	1回点滅	連続点滅	低圧異常、または操作弁閉運転(主に冷房時に発生)	

●上記以外の異常が表示される場合は、室外ユニットと室内ユニットの配線銘板をご覧ください。

5）停止時の電子膨張弁の状態

電源投入時の通常停止時、および異常停止時の電子膨張弁の状態は右表の通りです。

	電源投入時	通常停止時 冷房時	通常停止時 暖房時	異常停止時 冷房時	異常停止時 暖房時
冷房用	全閉	全閉	開	全閉	全閉
暖房用	全閉	開	全閉	全閉	全閉

6）電源ブレーカ投入後1回目の運転について

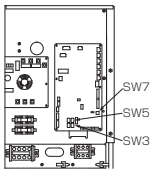
電源ブレーカ投入後1回目の起動において、圧縮機の油上がりを防止するため、リモコンに「運転準備中」が最大で30分間表示される場合があります。
故障ではありませんので、「運転準備中」の表示が消えるまでお待ちください。

試運転前の確認事項　●電源を入れた状態で室外ユニットから離れる場合は、パネルを必ず閉めてください。

据説の項目No.	項目	確認項目	チェック
2	冷媒配管工事	ろう付した場合は、配管に窒素ガスを流してろう付しましたか。	
		気密試験、真空引きは確実に行いましたか。	
		配管の断熱材は液管とガス管の両方に取付けられていますか。	
		操作弁は液管側・ガス管側の両方とも確実に開いていますか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
4	電気配線	配線の接続忘れ、欠相、逆相はないですか。	
		しゃ断器、配線など電気機器は適正容量の機器を使用していますか。	
		複数設置の場合は、ユニット間の配線が入れ替わっていませんか。	
		リモコン線に室内外通信線を接続していませんか。	
		室内外配線は同一端子番号間で接続していますか。	
		室内外配線はVCTキャブタイヤケーブルまたはVVF平形ケーブルですか。	
		アース工事はD種接地(第3種接地)工事が行われていますか。	
		他の機器のアース線と接続せず、単独でアースを取っていますか。	
		配線の取付部のネジが緩んでいませんか。	
		配線は配線クランプで固定し、端子接続部に外力が伝わらないようになっていますか。	
―	室内ユニット	室内ユニットの据付作業は完了していますか。	
		室内ユニットに化粧パネルを取付ける場合は、化粧パネルの取付が完了していますか。	

試運転手順　●必ず試運転を行い、下記の順に従ってチェックを行ってください。

順番	操作内容	チェック
①	ガス側操作弁を全開にしてください。	
②	液側操作弁を全開にしてください。	
③	パネルを閉めてください。	
④	リモコンによる現地設定を行う場合は、リモコンによる現地設定の説明に従って行ってください。	
⑤	SW3-3 ON ／ SW3-4 OFF:冷房試運転を開始します。	
	SW3-3 ON ／ SW3-4 ON:暖房試運転を開始します。	
⑥	運転が開始したら、リモコンの風向き調節ボタンを押して作動を確認してください。	
⑦	室内ユニットの吹出口に手を当て、冷房は冷風、暖房は暖風が出ていることを確認してください。	
⑧	赤LEDが点滅していないことを確認してください。	
⑨	試運転終了後、必ずSW3-3をOFFにしてください。	
⑩	オプション品を使用している場合は、各々の取扱説明書に従って機能の確認をしてください。	



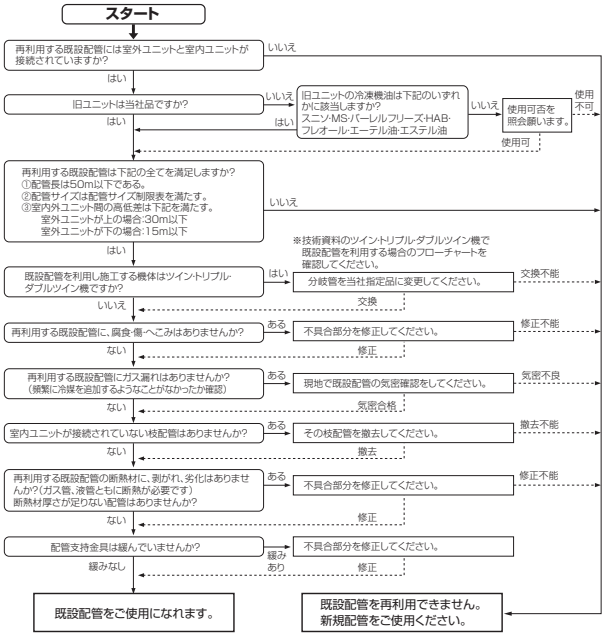
※1 SW1、SW3-1、SW3-3、SW3-4、SW5-1、SW5-2、SW7-1以外のディップSWは操作しないでください。
※2 SW1（ポンプダウンSW）については技術資料を参照してください。

現地設定スイッチ SW3, SW5
ON ⇦
出荷時全てOFF

現地設定スイッチ SW7
ON ⇦
出荷時全てOFF

6. 既設配管対応

既設配管が再利用出来るかどうかを下記フローチャートを利用して判断してください。



既設配管の洗浄運転が可能です。詳細は236ページの既設配管洗浄運転手順を確認ください。
配管洗浄機能をご使用になれない場合は以下の ⚠ 注意 をご参照ください。

〈配管サイズ制限表〉◎:標準配管サイズ　○:使用可能　△:配管長制限短縮　×:使用不可

配管1m当たりの追加チャージ量		0.02kg/m	0.054kg/m		0.11kg/m	
配管サイズ	液管	φ6.35	φ9.52	φ9.52	φ12.7	φ12.7
	ガス管	φ15.88	φ15.88	φ19.05	φ15.88	φ19.05
KP80, 112	適用可否	△	◎	○※1	△	△※1
	最大片道配管長	20	100	100	50	50
	チャージレス長	10	30	30	15	15

〈分岐管後配管〉◎:標準配管サイズ ○:使用可能 ×:使用不可 ―:対象外

			第一分岐※2		
配管1m当たりの追加チャージ量			0.054kg/m		
配管サイズ	液管		φ9.52		
	ガス管		φ12.7	φ15.88	φ19.05※1
形式	組合せ	組合せ能力			
KP80, 112	ツイン	40+40 56+56	×	◎	○

※1：φ19.05×t1.0は耐圧強度不足のため、室外ユニット基板上の**ディップSW5-1をON**にしてください。
ただし、1/2H材または肉厚1.2以上の配管を使用する場合はディップSW5-1をONにする必要はありません。
※2：分岐後の配管サイズは、主管と同じ径もしくは小さい径であること。
●表に記載のない配管サイズの組合せおよび表の×の配管サイズの組合せは使用できません。

追加チャージ量計算式

追加チャージ量(kg)=|主配管長(m)ー表のチャージレス長(m)|×表の配管1m当たりの追加チャージ量(kg/m)
＋分岐管総長(m)×表の配管1m当たりの追加チャージ量(kg/m)

※計算の結果が負の値になる場合は追加チャージ不要です。
例)既設配管20m(液管φ12.7、ガス管φ19.05)を使用して、KP112(シングル機)を設置する場合。
(20mー15m)×0.11kg/m=0.55kgを追加チャージする。

〈分岐管を流用可能な既存ユニット機種〉

●FDCJ＊＊＊H、HA、HD、HD1、HD2、HD3(A)　●FDCP＊＊＊HD3
●FDCVJ＊＊＊HD3　●FDCVP＊＊＊HD3以降の機種

●**上記以外の機種（FDCの後に“J”または“P”が付かない機種、当社製以外の機種）および 中温パッケージ既存ユニットの分岐管は耐圧強度不足のため使用できません。当社製R32用の分岐管を使用してください。**
●＊＊＊には能力を示す数字が入ります。

⚠ 注意

<既設ユニットが冷房運転可能な場合>

既設ユニットで下記作業を実施してください。（①→②→③→④の順番）
①30分間冷房運転
②ビニールシートなどで室内ユニット吸込口を完全に閉塞し3分間冷房運転（液バック運転）
③室外ユニットの液操作弁を締めポンプダウン（冷媒回収）
④窒素ガスによるプロー　※プローにより変色した冷凍機油や油以外の残留物が排出された場合は「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。
●フレアナットは流用せず室外ユニット付属のものを使用してください。
またフレアはR32用に再加工してください。
●現地設定スイッチSW5－1をONにしてください。（ガス配管サイズがφ19.05の場合）

<既設ユニットが冷房運転できない場合>

本機種は内蔵リニューアルキットによる洗浄運転により、既設配管をご使用になれます。
詳細は236ページの既設配管洗浄運転手順をご確認ください。
また、別売のリニューアルキットを使用しても既設配管をご使用になれます。
別売のリニューアルキットを使用する場合は**下記作業を実施してください。**
①冷媒回収機で冷媒を回収ください。
②既設配管内の冷凍機油の汚れを確認ください。
色標5.0以上の黒色、褐色（＊）、多量の残渣、異臭がある場合「配管洗浄」または「新規配管」をご使用おねがいします。
＊冷凍機油の色標はカタログの末頁を参考ください。
③リニューアルキットを取付しSW5－1をONによりご使用可能です。
●「配管洗浄」を行う場合は、最寄の代理店にお問合せください。

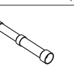
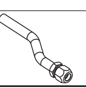
PSC012D130

KPシリーズ
KP140・KP160
冷媒R410A対応機

(b) FDCKP1405H，1605H

◎ 本説明書は“室外ユニットと総合工事仕様”について示したものです。“室内ユニット”については室内ユニットに付属の“据付説明書”をご覧ください。
◎ 据付時には据付場所の選定、電源仕様、使用可能範囲（配管距離・室内外高低差・電源電圧等）・据付スペース等などが適正であることを確認してください。
◎ この室外ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

据付工事前に確認してください

付属品	付属配管	
	 1個	 1個

●機種・電源仕様　●冷媒配管長
●配管・配線・小物部品　●室内ユニット据付説明書

安全上のご注意

● 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
● ここに示した注意事項は、「⚠**警告**」「⚠**注意**」に区分していますが、誤った据付をしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に「⚠**警告**」の欄にまとめて記載しています。しかし、「⚠**注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。　いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
● ここで使われる"図記号"の意味は右のとおりです。⃠ 絶対に行わない　❗⏚ 必ず指示に従い行う
● 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそって「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方をご指導下さい。
● 据付説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管戴くように依頼してください。またお使いになる方が代わられる場合は、新しくお使いになる方に、取扱説明書をお渡しくださるよう依頼してください。

⚠ 警告

（必ず指示に従い行う）

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニットの落下によるケガの原因になります。

●据付工事は、据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると破裂、ケガの原因となり、また水漏れや感電、火災の原因になります。

●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電、冷媒漏れ、能力不足、制御不良、ケガなどの原因になります。

●小部屋に据付ける場合は日本冷凍工業会のガイドラインJRA GL-13に従い、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合は換気する。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●ユニットを搬入する際、重量に適合したロープをユニットの所定位置に掛けて行う。また横ズレしないよう固定し、確実に４点支持で実施する。
３点支持など搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因になります。

●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。

●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事を行う
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

●電源配線は、電流容量、規格に適合した配線により工事をする。
適合品以外の配線を使用した場合は、漏電、発熱、火災等の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●電源コードの加工、途中接続、タコ足配線はしない。
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、発熱・火災・感電の原因になります。

●電源コードを束ねたり、巻いたり、電源プラグを踏む等して変形させない。
発熱・火災・感電の原因になります。

●電源接続部にはホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、確実に接続する。
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。

●密閉された部屋で配管ロー付け作業をしない。
酸欠事故の原因になります。

●配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
既存(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷媒サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。

●フレアナットの締付けはダブルスパナで行い、トルクレンチで指定の方法で締付ける。締付け過ぎによるフレア部の破損に注意してください。
フレア部のゆるみ、締付け過ぎによる破損が発生した場合に、冷媒ガスが漏洩して酸欠事故の原因になることがあります。

●冷媒配管工事、気密試験および真空引きが完了するまでは、サービスバルブ（液、ガス共）を開けないでください。
冷媒配管が確実に取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また空気などを吸引し、冷媒サイクル内が異常高圧となり、破裂、ケガなどの原因になります。

●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

●保護装置の改造や設定変更をしない。
圧力開閉器や温度調節器などの保護装置を短絡して強制運転を行ったり、当社指定の部品を使用しないと、火災や爆発の原因になります。

●据付時や点検・サービス時など、ユニット内の作業を行う場合は、電源を切ってから行ってください。
据付・点検・修理にあたって、ユニット電源ブレーカがONのままだと、感電や故障およびユニットファン回転によるケガの原因になります。

●エアコンを移動、再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。

●ポンプダウン作業では、操作弁を閉じた後、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。
また空気などを吸引し、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

（絶対に行わない）

●エアコンの設置や移設の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒（R410A)以外の空気等を入れない。
空気が混入すると冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。

●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

●サービスパネルは確実に取付ける。
サービスパネルの取付に不備があると、ホコリ、水などにより、火災、感電の原因になります。

●改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。

●メンテナンス後にすべての配線およびタイラップ等を元の位置に戻してください。
金属部品との距離を確保する必要があります。

⚠ 注意

（アース）

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないで下さい。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。またガス管にアースすると、ガス漏れの時に爆発、引火の可能性があります。

（必ず指示に従い行う）

●正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切なブレーカを使用すると故障や火災の原因になります。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。　PPバンドなど所定の位置以外を持って製品を動かさないで下さい。
また素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
また梱包用のポリプクロで子供が遊ぶと窒息事故の原因となりますので、必ず破いてから廃棄してください。

●室内ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの浸入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニット内に浸入した場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。
ユニット内へのスパッタの浸入を防ぐため梱包状態のままにしておくとか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管等の表面が結露して、露たれ等を発生し、天井、床その他、大切なものを濡らす原因となることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると、以上振動・騒音増大の原因になります。

（絶対に行わない）

●漏電遮断器は必ず取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に滞ると、発火の原因となることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガス等)、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等)、の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは火災の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●室外ユニットを屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、通路には恒久ハシゴ、手すり等を、また室外ユニット周辺にはフェ等を設ず々ください。
フェンス、手すり等がない場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から　医療機器あるいは通信機器へ影響を与え、人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかとなるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気配線に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。またお客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだまま放置するとユニットの落下につながり。ケガの原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
・車両、船舶等移動するものへの設置
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・アンモニアの雰囲気にさらされる所
・通風の悪い所
・複数台設置の場合に、ショートサーキットがおきるような所
・ユニットの上方に置かれたものが落ちる可能性がある場所
・硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ等の機器に影響する物質の発生する所
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・高周波を発生する機械を使用する所
・積雪の多い所（設置する場合、所定の架台、防雪フードを取付けることが必要です）
・標高1000m以上の所
・他の熱源から熱放射を受ける所
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強風の影響をうけやすい所（室外ユニットに直接強風が吹込む所）
・塩化カルシウムを使用する所（融雪剤）
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したり火災発生の原因になることがあります。

●次の場所への室外ユニットの据付は避ける。
・騒音や熱風が隣家に迷惑をかけるような所
・吹出しの風が動植物に直接植木にあたる場所
　吹出し風による植木などへの被害の原因になります
・ドレンの排水がとれない所
・強度が不十分で振動が増幅、伝達しやすい所
・機器から発生する騒音、振動の影響を受けやすい所（寝室の壁やその近傍）
・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオ等の近傍）
周辺の環境に影響をおよぼしクレームの原因になることがあります。

●食品、動植物、精密機器、美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状況により低温と高温になります。　素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。

●電源投入後に室外ユニットの底面に触らないこと。
ドレン水の凍結防止のため室外ユニット熱交下ドレンパンを電気ヒータで加熱しています。室外ユニットの底面、ヒータ本体に触れるとやけどや感電の原因となることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●室外ユニットの上に物を置いて運転を行わない。
落下物により物が破損したり、ケガの原因になります。

●室外ユニットの上に乗らない。
落下、転倒などによりケガの原因になります。

●素手で室外ユニットのフィンや吸入管に触らないこと。
ケガの原因となります。

冷媒R410A対応機としての注意点

●R410A以外の冷媒は使用しないでください。R410Aは従来の冷媒に比べ圧力が1.6倍高くなります。R410Aはボンベ上部に桃色表示があります。
●R410A機は、他冷媒の誤封入防止のため室外 ユニット操作弁のチャージポート径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。また、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法およびフレアナットの対辺寸法を変更しています。従って、施工・サービス時には、右表に示すR410A専用ツールを準備してください。
●チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。
●冷媒封入は必ずボンベから液相で取り出して行ってください。
●室内ユニットはR410A専用機となります。接続可能な室内ユニットはカタログ等で確認してください。(他の室内ユニットを接続すると正常運転できません。)

	R410A専用ツール
a)	ゲージマニホールド
b)	チャージホース
c)	冷媒充填用電子はかり
d)	トルクレンチ
e)	フレアツール
f)	出し代調整用銅管ゲージ
g)	真空ポンプアダプター
h)	ガス漏れ検知器

フロンの見える化

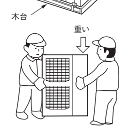
地球温暖化防止のため、この製品の移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。
本機には地球温暖化係数(GWP)が2090のフロン類を使用しています。(冷媒R410A)

1. ユニットの搬入・据付（ユニットの搬入・移動には十分に注意し、必ず2人以上で行ってください。）

⚠ 注意
●ユニットにロープ掛けを行い搬入する場合は、必ずユニット重心のずれを考慮してください。ユニットが安定を失って落下する恐れがあります。
●VP224、VP280は非常に重いため、作業者一人で搬入および移動はしないでください。ケガの原因になります。

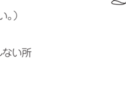
1）搬入

●据付場所付近までできるだけ梱包のままで搬入してください。
●ロープ掛けを行い搬入する場合は玉掛けの資格のある方が行い、ユニットに過度な衝撃等を与えないように作業してください。
●ロープ掛けを行い搬入する場合は、ユニットにロープ掛けを行ってください。
●ロープ掛けする場合は、ユニットを傷付けないようにナイロンスリングで吊り下げるか、または当て板をしてロープで吊り下げてください。



2）移動

●ユニット正面（吹出側）から見て右側が重くなっています。右側を持つ作業者は十分に注意してください。ユニットを持つ際は、ハンドルを使用してください。

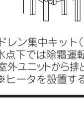


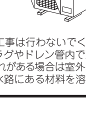
3）据付場所の選定

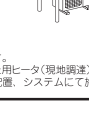
下記条件に注意し、据付場所を選んでください。
○ 室外ユニットの重量・振動に耐え、水平に据付けられる安全な所
○ 運転音や温風で隣家に迷惑のかからない所　○ 油煙が発生しない所
○ 可燃性ガスの漏れる恐れのない所　○ ドレン水が流れてもよい所
○ 他の熱源から熱輻射を受けない所　○ 積雪で埋まらない所
○ テレビやラジオの周囲から５m以上離れた所（電波障害を受ける場合はさらに離してください。）
○ 通風が充分に確保でき、保守点検を安全に行えるサービススペースを確保できる所
○ 電磁波、高調波を発生する機械がない所
○ 硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ(アンモニアを含む)など機器に影響する物質の発生・滞留しない所
○ 吹出口に強風が当たらない所

4）据付場所に関する注意

（1）積雪が予想される地域では、下記(i)～(iii)の対応を行ってください。
i) 室外ユニットの吸込口・吹出口や底板下部が雪で閉塞する恐れがありますので、次のような対策を行ってください。
①積雪面より底板が高くなるよう室外ユニットを架台の上に設置してください。
②吹出口に防雪フード(別売品)を取付ける。
③軒下に設置するか、雪除け屋根(現地手配)を取付けてください。

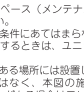


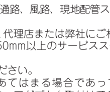


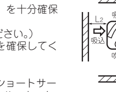


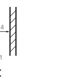
ii) ドレン集中キット(別売品)を使った集中排水工事は行わないでください。
氷点下では除霜運転時のドレン水がドレンプラグやドレン管内で凍結する恐れがあります。
iii) 室外ユニットから排出したドレン水が凍結する恐れがある場合は室外ユニットの下に凍結防止用ヒータ(現地調達)を設置してください。
※ヒータを設置する場合は熱の影響により排水路にある材料を溶融しない様な、容量、配置、システムにて施工してください。

（2）強風の影響を受けやすい場所では、下記の内容に従って防風対策を行ってください。
能力の低下、高圧上昇による異常停止、ファンの破損などの原因となります。
①吹出側を建物の壁、塀および防風用つい立などにむける。
②吹出方向を風向きに対して直角に設置する。
③強風等の影響がある場合は安定した場所に据付け、耐風金具（別売品）やワイヤロープなどでユニットを直接固定する。
④台風等の強風が吹出し口に吹付ける場合は防風キット（別売品）を取り付ける。









5）据付スペース(サービススペース)例

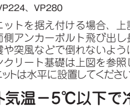
(ア)サービススペース（メンテナンス、人の通路、風路、現地配管スペース）を十分確保してください。
（本図の施工条件にあてはまらない場合は、代理店または弊社にご相談ください。）
(イ)横連続設置するときは、ユニット間に250mm以上のサービススペースを確保してください。
(ウ)四面障壁のある場所には設置しないでください。
四面障壁ではなく、本図の施工条件にあてはまる場合であっても、ショートサーキットの恐れがある場合はフレックスフローアダプタを取付けてショートサーキットを防止してください。
(エ)ユニット上方のスペースは1m以上確保してください。
※フレックスフローアダプタ、防雪フード、集中排水キット等の別売部品については販売店へお問合せください。
(オ)吹出口前面の障壁はユニット高さ以下としてください。

（単位：mm）

寸法＼据付例	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
L1	開放	開放	500
L2	300	5	開放
L3	150	300	150
L4	250	250	250

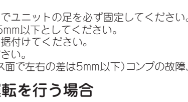
6）据付

①アンカーボルト固定位置



VP224、VP280

②据付時の注意



●ユニットを据え付ける場合、上記ボルトでユニットの足を必ず固定してください。
●前面側アンカーボルト飛び出し長さは15mm以下としてください。
●地震や突風などで倒れないように強固に据付けてください。
●コンクリート基礎は上図を参照してください。
●ユニットは水平に設置してください。(ベース面で左右の差は5mm以下)コンプの故障、ユニット内配管の破損、異常音の原因になります。

7）外気温－5℃以下で冷房運転を行う場合

●フレックスフローアダプタおよび防雪フード（別売品)を取付けてください。

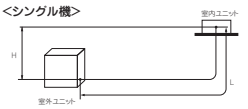
2. 冷媒配管工事

1） ユニット据付使用制限

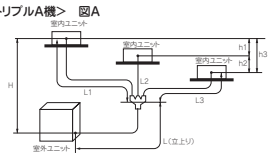
●室内ユニットの仕様と据付場所にあわせて以下の内容を確認してください。
●以下の据付使用制限は必ず守ってください。据付に不備があると圧縮機の故障や能力低下の原因となります。

制限項目				右図での記号			
	第1分岐管～各室内ユニットまでの配管長差					3m未満	3m以上10m以下
	室外ユニット容量	制限長さ		シングル機	ツイン機	トリプルA機　図A	トリプルB機　図B
片道配管長	KP140	100m以下		L	L+L1+L2	—	—
	KP160					L+L1+L2+L3	L+La+L1+L2+L3
主管長	KP140	100m以下		L	L	—	—
	KP160					L	L
第1分岐～第2分岐間の片道長さ	KP160	5m以下		—	—	—	La
第1分岐～室内ユニット間の片道長さ	KP140	30m以下		—	L1, L2	—	—
	KP160					L1, L2, L3	L1※1
第1分岐～第2分岐以降に接続する室内ユニット間の片道長さ	KP160	30m以下		—	—	—	La+L2, La+L3
第1分岐～室内ユニット間の片道長さの差	ツイン	KP140, KP160	10m以下	—	|L1-L2|	—	—
	トリプル	KP160	3m未満	—	—	|L1-L2|, |L2-L3|, |L3-L1|	—
			3m以上10m以下			<使用不可>	L1-(La+L2), L1-(La+L3)※1
第2分岐～室内ユニット間の片道長さの差	トリプル	KP160	10m以下	—	—	—	|L2-L3|
室内・室外ユニット間の高さの差	室外ユニットが上の場合		30m以下	H	H	H	H
	室外ユニットが下の場合		15m以下				
室内ユニット間の高さの差			0.5m以下	—	h	h1, h2, h3	h1, h2, h3

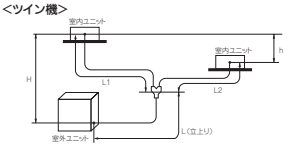
<シングル機>



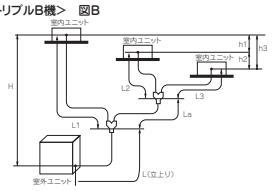
<トリプルA機>　図A



<ツイン機>



<トリプルB機>　図B



⚠注意
●左表の使用制限は下表に示す標準配管サイズの場合を示します。既設配管を使用する場合は配管サイズより片道配管長の制限が変わります。詳しくは「6．既設配管対応」をご確認ください。
●トリプル機は、第1分岐後の片道配管長差により使用方法が異なります。左表ならびに上図をご確認ください。
●トリプル接続時、室内ユニットが同機種同容量の場合のみご使用いただけます。異機種同容量の場合は使用できません
※1 L1には、片道長さが最大となる室内ユニットを接続してください。
(La＋L2)と(La＋L3)は、L1に対し片道長さの差が3m以上10m以下の制限長さ内にしてください。
※2 L1には、機種容量が最大となる室内ユニットを接続してください。

2） 冷媒配管サイズ選定

●室内ユニットの仕様に合わせて以下の内容で冷媒配管サイズを選定してください。

		KP140		KP160	
		ガス管	液管	ガス管	液管
室外ユニット接続		φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
		フレア	フレア	フレア	フレア
シングル機の場合	冷媒配管（主管L）	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット接続	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット容量	P140		P160	
ツイン機の場合	分岐管セット	DIS-WB1G		DIS-WB1G	
	冷媒配管（主管L）	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	冷媒配管（分岐管L1,L2）	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット接続	φ15.88	φ9.52	φ15.88	φ9.52
	室内ユニット容量	P71×2		P80×2	
トリプルA機　図A	分岐管セット			DSI-TB1G	
	冷媒配管（主管L）			φ15.88	φ9.52
	冷媒配管（分岐管L1,L2,L3）			φ15.88	φ9.52
	室内ユニット接続			φ15.88	φ9.52
	室内ユニット容量			P56×3	
トリプルB機　図B	分岐管セット			DIS-WB1G	
	冷媒配管（主管L）			φ15.88	φ9.52
	冷媒配管（La）			φ15.88	φ9.52
	冷媒配管（L1）			φ15.88	φ9.52
	分岐管セット			DIS-WA1G	
	冷媒配管（分岐管L2,L3）			φ15.88	φ9.52
	室内ユニット接続			φ15.88	φ9.52
	室内ユニット容量			P56×3	

⚠注意
●立ち上がり配管は主管としてください。また、分岐管セットはできるだけ室内ユニットに近いところに水平に分岐するように取付けてください。また、分岐部には付属の断熱材を取付けてください。
●分岐部の施工詳細は、室外ユニットに付属する説明書を参照してください。
●トリプル機の場合、本表に示す分岐管セットは第1分岐後の片道配管長差により異なります。左の表をご確認ください。
●室内ユニットは同機種同容量の場合のみご使用いただけます。異機種同容量の場合は使用できません。

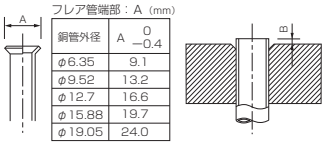
3） 冷媒配管の肉厚および材質

●冷媒配管のサイズに対して右記の肉厚および材質のものを選定してください。
●本機はR410Aを使用します。外径19.05［mm］以上の配管についてはO材では耐圧が不足しますので、必ず1／2H材、肉厚1.0［mm］以上の配管をご使用ください。

配管外径［mm］	6.35	9.52	12.7	15.88	19.05	25.4
最小配管肉厚［mm］	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0
配管材質※	O材	O材	O材	O材	1／2H材	1／2H材

※リン脱酸銅継目無管C1220T、JIS H3300

お願い
●配管の選定･施工については、必ず「冷凍保安規則関係例示基準」を厳守してください。
●配管肉厚は、最小配管肉厚以上のものを選定してください。



フレア管端部：A（mm）

銅管外径	A $^{0}_{-0.4}$
φ6.35	9.1
φ9.52	13.2
φ12.7	16.6
φ15.88	19.7
φ19.05	24.0

フレア加工の銅管出し代：B（mm）

銅管外径	リジッド（クラッチ式）の場合	
	R32またはR410A用ツール使用時	従来ツール使用時
φ6.35	0～0.5	0.7～1.3
φ9.52		
φ12.7		
φ15.88		
φ19.05		

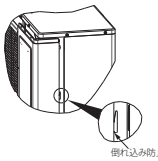
4） 現地配管施工 ※詳しくは別紙の冷媒配管工事説明書に従い施工してください。

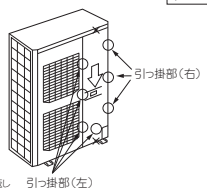
⚠重要 施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意してください。
内部部品に接触すると、異常音・振動が発生します。

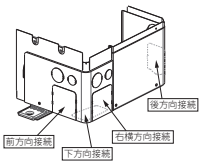
サービスパネルの外し方

サービスパネルは固定しているねじ2本（✕印）を外し、パネルを矢印方向へ引き下げてから手前に外してください。
※引っ掛部（右）には倒れ込み防止の返しがついています。引き下げ後、少し持ち上げ手前に外して下さい。

●配管の取出しは前･右･下･後が可能です。
●配管貫通部のノックアウトの板を必要最小限の寸法で取外し、配管を接続してください。
●配管接続後に配管接続部のすき間をパテや断熱材（現地調達）でふさいでください。
室外ユニット内に昆虫などの小動物が侵入した場合、ショートするおそれがあります。
●現地配管接続時､外板の貫通穴のハーフブランクをニッパにて切断し切落としご使用ください。
●現地配管は､エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。
●配管は1.5m毎に固定してください。

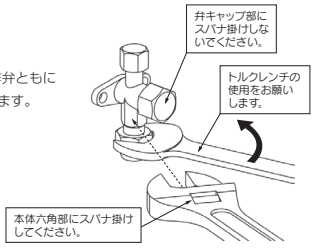


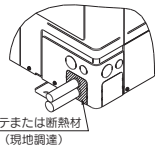




⚠注意 **フレアナットを適正トルクを超えて締めないでください。**液側、ガス側操作弁ともに右の絵のように操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締付をお願いします。

操作弁サイズ(mm)	締付トルク (N・m)
φ6.35 （1/4")	14～18
φ9.52 （3/8")	34～42
φ12.7 （1/2")	49～61
φ15.88(5/8")	68～82
φ19.05(3/4")	100～120





5）冷媒追加封入

（1）下表に従い、冷媒封入量を計算してください。

●室外ユニットは配管長30m相当分の冷媒量が工場出荷時に封入されており、30mまでは現地での追加チャージが不要です。
それを超えた分については、配管長と右表より追加チャージ量を計算し追加シャージしてください。
●既設配管を使用する場合は、液管サイズにより必要封入量が変わります。詳しくは「6．既設配管対応」をご確認ください。

容量		項目	冷媒配管(液管)1mあたりの追加チャージ量(kg)	工場出荷時チャージ量(kg)	追加チャージ不要の現地配管長さ(m)
KP140, KP160	液管	φ9.52	0.06	7.2	30

追加冷媒量計算式

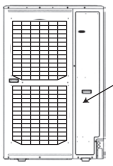
主管の液管サイズφ9.52	0.06×(主管長－30)＋分岐配管総長×0.06

※追加冷媒量の計算結果が負の値になる場合は、追加チャージ不要です

●再チャージを行う場合は冷媒回収後、上表の工場出荷時チャージ量を再チャージしてください。

（2）冷媒封入

●R410A冷媒は液相で充填する必要がありますので、ボンベを倒立させて充填するか、サイフォン管付の冷媒ボンベから充填してください。
●操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外ユニットのバルブを液側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側（吸入側）サービスポートから封入します。この際も、ボンベからの冷媒取出しは必ず液相で行ってください。ただし圧縮機保護のため、ボンベのバルブを絞り気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用して、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。
●冷媒の封入は必ずはかりを使用して計算封入してください。
●運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。
冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。



⚠注意 この製品はフロン排出抑制法の第1種特定製品です。
●フロン類をみだりに大気に放出することは禁じられています。
●この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。冷媒回収するときは、フロン排出抑制法の基準に従ってください。
●冷媒の追加・回収量および出荷時との合計量をサービスパネル裏面の冷媒量記入銘板に必ず記載してください。また、そのCO_2換算値も記入ください。
●機器の修理、運転、調整などにより、冷媒の回収や充填を行い表示内容が生じたときは、冷媒量を再記載してください。

6）断熱・防露

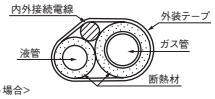
（1）冷媒配管（ガス管、液管共）の防露断熱工事を行ってください。

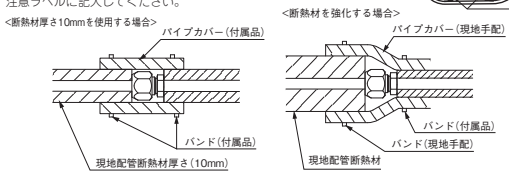
（2）断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。

・防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
・ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。
　また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。
・室内ユニットのフレア接続部分は断熱材（パイプカバー）で断熱してください。（ガス管・液管共に断熱してください。）
・断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
・本工アコンはＪＩＳ露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、**相対湿度70％を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。**

お願い

配管長から算出した冷媒量をサービスパネル裏面の注意ラベルに記入してください。





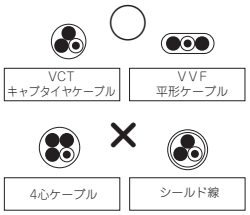
3. ドレン工事

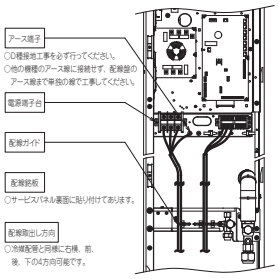
下記に注意し、ドレン工事を行ってください。

●室外ユニットの底面に電気ヒータを組み込んでいます。
　底面が加熱されるためドレンエルボ、ドレングロメットは使用できません。（弊社オプション品でも、ご使用いただけません。）
●ドレン集中キット（別売品）を使った集中排水工事は行わないでください。
　氷点下では除霜運転時のドレン水がドレンプラグやドレン管内で凍結する恐れがあります。
●室外ユニットの底面にはドレン水を排水する穴が3か所有ります。
●操作弁や接続配管付近からドレン水が流れ出る可能性があります。

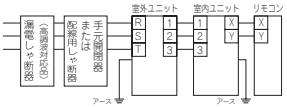
4. 電気配線　電気工事の詳細は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。

●漏電しゃ断器の取付を必ず行ってください。漏電しゃ断器が取付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。
●室内外配線は同一端子番号を接続してください。
●配線は端子接続部に外力が伝わらないように固定してください。
●制御箱にアース端子があります。D種接地工事を必ず行ってください。
●内外渡り線は必ず3心ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。
●力率改善用のコンデンサを使用しない。発熱や火災の原因になります。
●配線は配管に触れないように固定してください。
●配線接続時にコネクタや端子が緩んでいないことを確認してからカバー、パネルを取り付けてください。
　カバー、パネルの取付に不備があると制御箱に水が入り、感電の原因になります。





電源・内外接続線　●アース工事を行う際には、電源を切った状態で実施してください。



⚠注意

漏電しゃ断器の誤動作を防ぐため必ずインバータ回路用しゃ断器を使用してください。

機　種	漏電しゃ断器定格電流	手元開閉器		配線用しゃ断器	電源配線		内外接続線	アース線	
		開閉器容量	ヒューズ	定格電流	太さ	長さ	太さ×本数	太さ	ねじ
KP140, KP160	40A,100mA,0.1sec以下	60A	40A	40A	8mm²×3※1	39※1	φ1.6×3（70mまで） 3.5mm²×3（120mまで）	φ2.0	M5

※1 室外温度が45℃を超える場所にユニットを据付ける場合、電線配線は太さ：14mm　²長さ：67mになります。

＜室内ユニットがFDU、FDRの場合＞

機　種	漏電しゃ断器定格電流	手元開閉器		配線用しゃ断器	電源配線		内外接続線	アース線	
		開閉器容量	ヒューズ	定格電流	太さ	長さ	太さ×本数	太さ	ねじ
KP140, KP160	50A,100mA,0.1sec以下	60A	50A	50A	8mm²×3※2※3	31※2※3	φ1.6×3（70mまで） 3.5mm²×3（120mまで）	φ2.0	M5

※2 室外温度が43℃を超える場所にユニットを据付ける場合、電源配線は太さ14mm² 長さ：55mになります。
※3 室内ユニット：FDUをシングル接続する場合、電源配線は太さ：14mm² 長さ：45mになります。
●上表はヒータレス機の場合を示します。ヒータ付の場合は室内ユニットの据付説明書、工事説明書をご覧ください。
●配線仕様は金属管または合成樹脂管配線で、管内に3本以下で電圧降下2％とした場合を示します。これ以外の条件は内線規程により実施してください。

5. 試運転

⚠警告

●試運転の前に操作弁が全開になっていることを必ず確認してください。
●試運転の6時間前に電源を入れ、クランクケースヒータに通電してください。
　左記の項目に不備がありますと、圧縮機が故障することがあります。
●停止から運転までは、必ず3分以上待ってください。
●サービスパネルを外すと、高圧充電部・高温部が露出して危険です。感電や火傷に十分注意してください。
　また、サービスパネルを開けたまま放置しないでください。

⚠注意

●現地設定スイッチ（SW3、SW5）を操作する場合は、充電部に触れぬよう十分注意してください。
●液操作弁のチャージポートから吐出圧力の検圧はできません。
●四方弁（20S）は暖房運転時に通電されます。
●電源しゃ断によりリセットする場合は、電源しゃ断より3分経過後に電源を再投入してください。3分経過後でなければ「室内外通信異常」が発生する場合があります。

絶縁抵抗について

●据付直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合、圧縮機に冷媒が溜まることにより、絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく、漏電ブレーカが作動する場合は、以下の事項を確認ください。
①電源を投入し、6時間程度経過後、絶縁抵抗が復帰するか確認する。
　電源を投入することにより、圧縮機に通電加熱を行い、圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
②漏電ブレーカが高調波対応品であるか確認する。
　本機はインバータを装備しており、漏電ブレーカの誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。

1）試運転方法

1）現地設定スイッチSW3-3, 4により室外ユニット側から試運転が可能です。
2）SW3-3をONすることで圧縮機が運転します。
3）SW3-4がOFF状態で冷房試運転を行い、ON状態では暖房運転を行います。
4）**試運転終了後は、必ずSW3-3をOFFに戻してください。**

SW-3-3	SW-3-4	
ON	OFF	冷房試運転
	ON	暖房試運転
OFF	－	通常、および試運転終了

2）運転状態のチェック

吐出圧力、吸込圧力の検圧は、室外ユニット内部の四方弁前後に取付けられたチェックジョイントおよび、ガス操作弁のチャージポートから行ってください。冷房運転・暖房運転によって右表のように検出圧力は異なります。

	配管のチェックジョイント	ガス操作弁のチャージポート
冷房運転	吐出圧力（高圧）	吸込圧力（低圧）
暖房運転	吸込圧力（低圧）	吐出圧力（高圧）

3）現地設定スイッチSW3-1の設定

・デフロスト制御切換え（SW3-1）
　ONすることでデフロスト制御に入り易くなります。

4）試運転時の故障診断

リモコン表示	室外基板LED表示（周期5秒）		故障内容	対　策
	赤LED	緑LED		
E34	1回点滅	連続点滅	欠相	電源線のゆるみ、外れのないことを確認
E40	1回点滅	連続点滅	63H1作動、または操作弁閉運転（主に暖房時に発生）	1. 操作弁が開いているか確認 2. 圧縮機停止から3分経過後、異常が解消されていればリモコンからの点検リセットにより再起動可能
E49	1回点滅	連続点滅	低圧異常、または操作弁閉運転（主に冷房時に発生）	

●上記以外の異常が表示される場合は、室外ユニットと室内ユニットの配線銘板をご覧ください。

5）停止時の電子膨張弁の状態

電源投入時の通常停止時、および異常停止時の電子膨張弁の状態は右表の通りです。

	電源投入時	通常停止時		異常停止時	
		冷房時	暖房時	冷房時	暖房時
冷房用	全閉	全開	全開	全開	全開
暖房用	全閉	全開	全開	全開	全開

6）電源ブレーカ投入後1回目の運転について

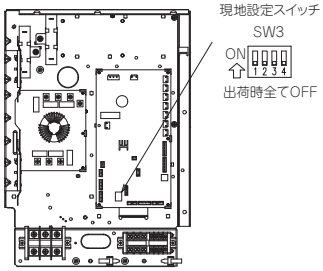
電源ブレーカ投入後1回目の起動において、圧縮機の油上がりを防止するため、リモコンに「運転準備中」が最大で30分間表示される場合があります。故障ではありませんので、「運転準備中」の表示が消えるまでお待ちください。

試運転前の確認事項　●電源を入れた状態で室外ユニットから離れる場合は、パネルを必ず閉めてください。

据説の項目No.	項　目	確　認　項　目	チェック
2	冷媒配管工事	ろう付した場合は、配管に窒素ガスを流してろう付しましたか。	
		気密試験、真空引きは確実に行いましたか。	
		配管の断熱材は液管とガス管の両方に取付けられていますか。	
		操作弁は液管側・ガス管側の両方とも確実に開いていますか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
4	電気配線	配線の接続忘れ、欠相、逆相はないですか。	
		しゃ断器、線など電気機器は適正容量の機器を使用していますか。	
		複数設置の場合は、ユニット間の配線が入れ替わっていませんか。	
		リモコン線に室内外通信線を接続していませんか。	
		室内外配線は同一端子番号間で接続していますか。	
		室内外配線はVCTキャブタイヤケーブルまたはVVF平形ケーブルですか。	
		アース工事は D種接地（第3種接地）工事が行われていますか。	
		他の機器のアース線と接続せず、単独でアースを取っていますか。	
		配線の取付部のネジが緩んでいませんか。	
		配線は配線クランプで固定し、端子接続部に外力が伝わらないようになっていますか。	
－	室内ユニット	室内ユニットの据付作業は完了していますか。	
		室内ユニットに化粧パネルを取付ける場合は、化粧パネルの取付が完了していますか。	

試運転手順　●必ず試運転を行い、下記の順に従ってチェックを行ってください。

順番	操　作　内　容	チェック
①	ガス側操作弁を全開にしてください。	
②	液側操作弁を全開にしてください。	
③	パネルを閉めてください。	
④	リモコンによる現地設定を行う場合は、リモコンによる現地設定の説明に従って行ってください。	
⑤	SW3-3 ON ／ SW3-4 OFF:冷房試運転を開始します。	
	SW3-3 ON ／ SW3-4 ON:暖房試運転を開始します。	
⑥	運転が開始したら、リモコンの風向き調節ボタンを押して作動を確認してください。	
⑦	室内ユニットの吹出口に手を当て、冷房は冷風、暖房は暖風が出ていることを確認してください。	
⑧	赤LEDが点滅していないことを確認してください。	
⑨	試運転終了後、必ずSW3-3をOFFにしてください。	
⑩	オプション品を使用している場合は、各々の取扱説明書に従って機能の確認をしてください。	



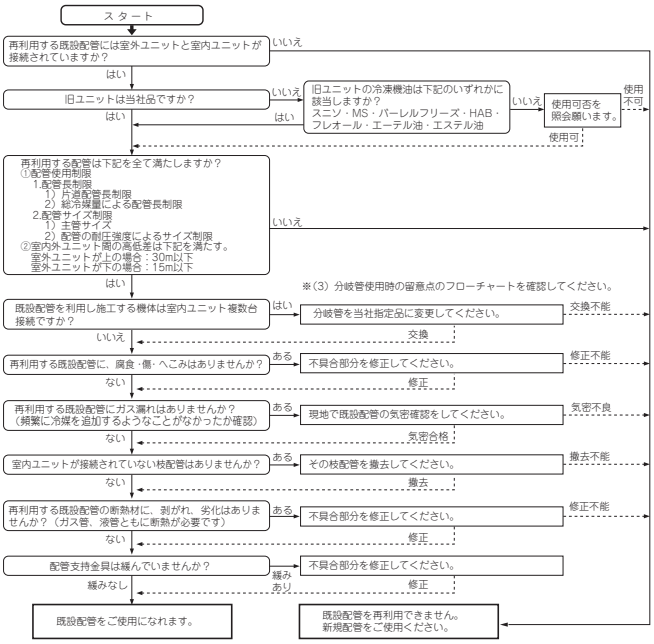
6. 既設配管対応

1. ご使用の前に確認いただきたい事項

(1) 既設配管流用時の条件

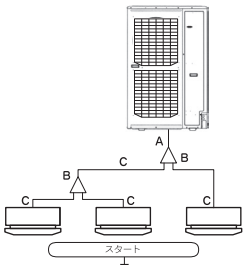
注意　ポイント	配管	この手順書での記載項
クリーン（CLEAN） ・配管内にゴミがないこと	(a) 既設配管は既設機ユニットに接続された状態であること。 外れた状態では、既設配管内に雨水、空気が浸入し配管内が錆びている可能性があります。） (b) フロン排出抑制法に従い。確実に冷媒回収を行うこと 冷媒をみだりに大気中に放出すると、罰則が適用される場合があります。 (c) 既設配管内の劣化油・異物を除去すること。 内蔵の洗浄回路により、指定の時間洗浄運転ください。 変色した冷凍機油(*)や油以外の残留物が排出された場合は 「配管洗浄」または「新規配管」をお願いします。 *冷凍機油の色詳はカタログの末項を参考ください。	⇒1．(2)既設配管流用可否判断フローチャート ⇒2．既設配管流用時の現地施工手順 ⇒3．洗浄運転
ドライ（DRY） ・配管内に水分がないこと	(d) 確実な真空引きの実施 -101kPa(-755mmHg) 以下になってから１時間以上真空ポンプの運転を実施。	⇒2．既設配管流用時の現地施工手順
タイト（TIGHT　） ・冷媒もれがないこと	(e) 既設配管に腐食・傷・へこみがないこと。更に断熱材の剥れ・劣化がないこと。 (f) R410A 用のフレアナットの使用かつフレア加工の実施。 (g) 設計圧力を確認し、気密試験を確実に行うこと。 （設計圧力4.15MPa以上（SW5-1 "OFF"）の場合） 規定圧力4.15MPaにて気密試験を行ってください。 （設計圧力3.6MPa以上（SW5-1 "ON"）の場合） 規定圧力3.6MPaにて気密試験を行ってください。	⇒ 「冷媒配管工事説明書」(別紙) をご確認ください。 ⇒2．既設配管流用時の現地施工

(2) 既設配管流用可否判断フローチャート



(3) 分岐管流用可否判断フローチャート

ツイン・トリプル機にて既設配管を使用する場合は，下記の該当項目を確認してください。



既設配管部	A部 主管	〈配管使用制限〉による
	B部 分岐管	当社製ユニット分岐管の場合,一部使用可。
	C部 分岐後配管	配管サイズにより,一部使用可。

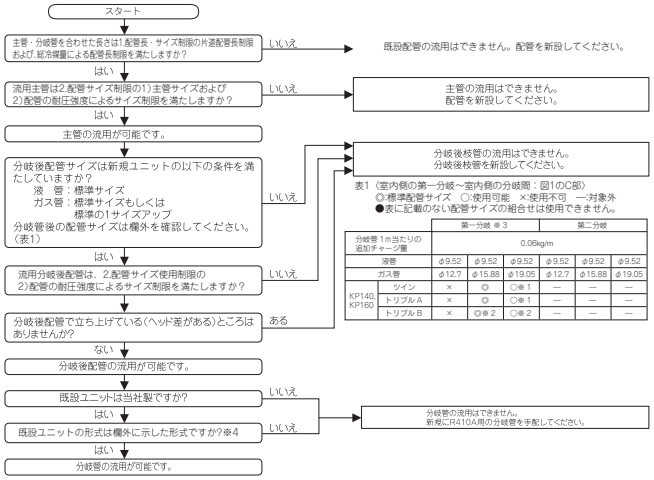


表1（室内側の第一分岐～室内側の分岐間：図1のC部）
○:標準配管サイズ　△:使用可能　×:使用不可　—:対象外
●:表に記載のない配管サイズの組合せは使用できません。

分岐管1m当たりの追加チャージ量		第一分岐 ※3			第二分岐		
		0.06kg/m					
液管		φ9.52	φ9.52	φ9.52	φ9.52	φ9.52	φ9.52
ガス管		φ12.7	φ15.88	φ19.05	φ12.7	φ15.88	φ19.05
KP140 KP160	ツイン	×	○	○※1	—	—	—
	トリプルA	×	○	○※1	—	—	—
	トリプルB	×	○※2	○※2	—	—	—

※1:配管仕様を確認し，配管の耐圧強度によるサイズ制限よりSW5-1の設定要否を必ず確認してください。
配管の耐圧強度によるサイズ制限にSW5-1 "ON" とある配管をご使用の場合、耐圧強度が不足するため必ずSW5-1をONにしてください。
※2:第1分岐から室内ユニットまでの配管サイズはφ9.52（液管）/φ15.88（ガス管）にしてください。
※3:分岐管の配管サイズは，主管と同じ径もしくは小さい径にしてください。

トリプルA=第1分岐から室内ユニットまでの配管長さが3m未満の場合 トリプルB=第1分岐から室内ユニットまでの配管長さが3m以上10m以下の場合

※4:<分岐管流用可能な既存ユニット機種>
FDCJ～HD2(FDCJ～HD2以前の機種の分岐管は耐圧不足となります。)
※～には能力を示す数字が入ります。 ※既存ユニットがFDC～ではじまる形式の場合（FDCの後に" J"または" P"がつかない形式。例:FDC125H8A）、分岐管は流用できません。
R410A用の分岐管を使用してください。(分岐管にオリフィスが無いため室内ユニット間の分配不良となります。また耐圧不足となります。)

<配管使用制限>

1．配管長・サイズ制限　○使用可能　△配管長制限短縮　冷↓: 冷房能力低下
・既設配管流用には片道最大配管長と総冷媒量による配管長制限があります。
下記の制限を満たすことを確認してください。

KP140, KP160 主管1mあたりの追加チャージ量		0.06kg/m		0.08kg/m	
主管サイズ	液管	φ9.52		φ12.7	
	ガス管	φ15.88	φ19.05	φ15.88	φ19.05
可否		○		○	
最大片道配管長		100m ※1		100m ※1	
チャージレス配管長		30m ※4		15m ※4	

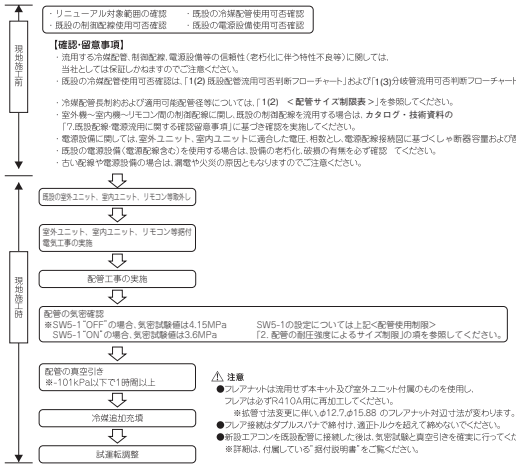
※1　配管仕様制限を満たさない場合は、既設配管をご使用になれません。
※2　主配管長が40mを超える場合、既設配管をご使用になれません。
※3　既設配管の曲げRが70mm未満の場合は、既設配管をご使用になれません。
（最寄の代理店にお問い合わせください）
※4　ユニット内蔵リニューアルキットを使用した場合、最大片道配管長は下表の通りとなります。
配管長制限を超える場合は、内蔵リニューアルキット以外での配管洗浄が必要です。
（最寄の代理店にお問い合わせください）

主管ガス管径	φ15.88	φ19.05	φ22.22
最大片道配管長	50m		

※5　追加できる最大冷媒量は9.3kgまでです。追加冷媒量が9.3kgを超える場合は液管サイズを下げて新設してください。
※6　分岐管サイズおよび1mあたりの追加チャージ量はフローチャート内の表1を参照してください。

2．配管の耐圧強度によるサイズ制限
・一部の配管仕様ではSW5-1を"ON"（既設配管に応じた圧力制御）とすることでご使用になれます。
・配管使用制限を満たさない場合は、既設配管をご使用になれません。
・φ22.22以上のO材・OL材の場合、SW5-1をONにしてもご使用になれません。
・φ19.05×1.0の場合：O材・OL材の場合、SW5-1を"ON"にした場合にのみご使用になれます。

2. 既設配管流用時の現地施工手順



3. 洗浄運転

①洗浄運転前の確認事項

○同封の据付説明書を参考に、以下の内容を確認ください。

据説の項目	項目	確　認　項　目	チェック
2	冷媒配管工事	ろう付した場合は、配管に窒素ガスを流してろう付けしましたか。	
		気密試験、真空引きは確実に行いましたか。	
		配管の断熱材は液管とガス管の両方に取付けていますか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
4	電気配線	配線の接続忘れ、欠相、逆相はないですか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
		しゃ断器、配線などの電気機器は適正容量の機器を使用していますか。	
		複数設置の場合は、ユニット間の配線がいれかわっていませんか。	
		リモコン線に室内外通信線を接続していませんか。	
		室内外配線は同一端子番号で接続していますか。	
		室内外配線はVCTキャブタイヤケーブルまたはVVF平形ケーブルですか。	
		アース工事はD種接地（第３種接地）工事が行われていますか。	
		配線の取付け部のネジが緩んでいませんか。	
		配線は配線クランプで固定し、端子接続部に外力が加わらないようになっていますか。	
–	室内ユニット	室内ユニットの据付作業は完了していますか。	
		室内ユニットに化粧パネルを取付ける場合には、化粧パネルの取付が完了していますか。	

②洗浄運転手順

○下記の順番に従ってチェックしながら行ってください。

順番	操　作　内　容	チェック
①	冷媒配管工事、電気配線、室内工事が正しく完了しているか　①の表にそって確認してください。	
②	ガス側操作弁を全開にしてください。	
③	液側操作弁を全開にしてください。	
④	既設配管にφ19.05×t1.0　をご使用の場合、SW5-1 を ON してください。	
⑤	SW5-2　を OFF⇒ON で既設配管洗浄を開始します。	
⑥	⑤のディップ SW　ON で　緑 LED が高速点滅します。(0.5 秒 ON/0.5 秒 OFF) リモコン（RC-E4 等）のディスプレイ上には「冷房試運転」が表示されます。 （洗浄運転は冷房運転で行います。リモコンディスプレイ上は「冷房試運転」と表示します。）	
⑦	赤 LED が点滅していないことを確認してください。	
⑧	室内ユニットから冷風が吹いていることを確認ください。（洗浄運転は冷房運転で行います。）	
⑨	洗浄運転は２時間必要です。⑤ディップ SW　ON 後、圧縮機の積算運転時間２時間で自動終了（緑 LED が通常点滅（1 秒 ON/1 秒 OFF））になります。手動にて終了する場合、ディップ SW を ON⇒OFF にしてください。再始動は OFF⇒ON で可能です。）	

○洗浄運転自動終了後、ディップ SW5-2 は ON 位置のままでも通常のエアコン制御になります。
停電後の復電時、ON 位置のままでも、エアコン制御を行います。
（洗浄運転開始は SW 位置の OFF　⇒　ON 一連の動作から開始します。）
○複数台数の室外ユニットを同一リモコンに接続する場合については、洗浄運転は冷房運転で行います。）
室内吸込み温度が 15℃以下の場合、洗浄運転が断続運転になる場合がありますが、故障ではありません。
この圧縮機が停止している時間は洗浄運転の累積時間に含まれません。

●付属配管の接続方法

<付属配管①>

●室外ユニットのガス側操作弁と冷媒配管の接続には図1のように必ず付属配管①を使用してください。

●冷媒配管は表1の肉厚および材質のものを選定してください。
本機はR32を使用します。外径19.05［mm］以上の配管についてはO材では耐圧が不足しますので、必ず1／2H材、肉厚1.0［mm］以上の配管をご使用ください。

●室外ユニット、付属配管①および冷媒配管との接続はフレア接続です。付属配管①と冷媒配管にフレアナットを取付後、フレア加工を施してください。（図2参照）
R32のフレア加工寸法は、従来のR407Cとは異なります。R32またはR410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整用ゲージにて出し代B寸法を調節すれば、従来ツールを使用できます。（図3参照）

●フレア接続はダブルスパナで締付けてください。

図1 付属配管使用方法

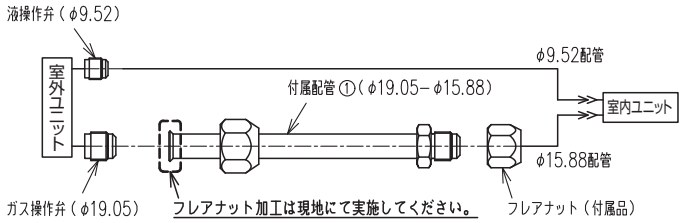


表1 冷媒配管仕様

配管外径［mm］	6.35	9.52	12.7	15.88	19.05
最小配管肉厚［mm］	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0
配管材質	O材	O材	O材	O材	1／2H材

お願い ●配管の選定・施工については、必ず「冷凍保安規則関係例示基準」を厳守してください。
●配管肉厚は、最小配管肉厚以上のものを選定してください。

図2

フレア管端部：A（mm）

銅管外径	A $^{0}_{-0.4}$
φ6.35	9.1
φ9.52	13.2
φ12.7	16.6
φ15.88	19.7
φ19.05	24.0

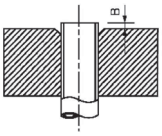


図3

フレア加工の銅管出し代：B（mm）

銅管外径	リジッド（クラッチ式）の場合	
	R32またはR410A用ツール使用時	従来ツール使用時
φ6.35	0~0.5	0.7~1.3
φ9.52		
φ12.7		
φ15.88		
φ19.05		

⚠注意 **フレアナットを適正トルクを超えてしめないでください。液側、ガス側操作弁ともに操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締付をお願いします。**

操作弁サイズ（mm）	締付トルク（N・m）
φ6.35（1/4"）	14~18
φ9.52（3/8"）	34~42
φ12.7（1/2"）	49~61
φ15.88（5/8"）	68~82
φ19.05（3/4"）	100~120

ろう付について

●ろう付は必ず窒素ガスを流しながら行ってください。
窒素ガスを流さないと多量の異物（酸化皮膜）が生成され、キャピラリーチューブや膨張弁詰まりによる致命的故障の原因となります。

付属配管①

付属配管②

付属配管に断熱材をバンド止めしておりますので、施工の際はバンドを切り、断熱材を取外してから、ご使用ください。

<付属配管②>

付属配管②は（1），（2）の接続を行う際に下記の如く使用してください。

（1）室内ユニット：FDUKP1605Sを接続する場合

●図4のように室内ユニットのガス側配管に付属配管②をろう付して使用してください。

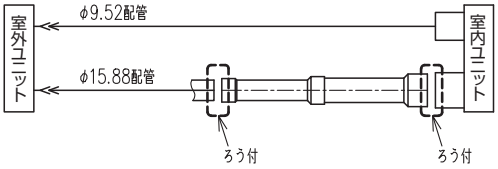


図4

（2）ブルーラル（ツイン・トリプル）にて室内ユニットを接続する場合

●図5のように分岐管セット（DIS−WB1G,DIS−TB1G）のガス側配管に付属配管②をろう付し、主管と接続してください。

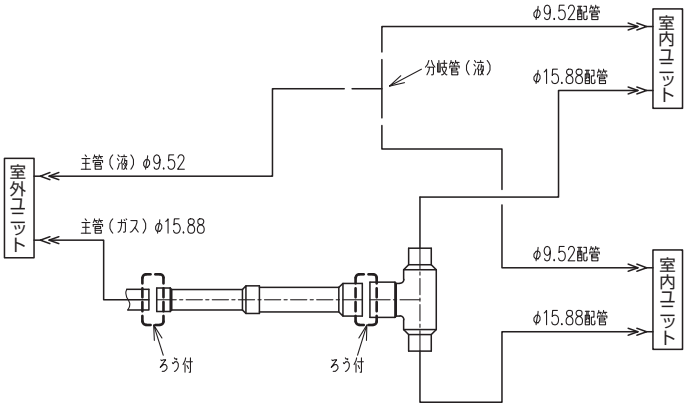


図5

(4) フロン排出抑制法に基づく管理のお願い（圧縮機の電動機定格出力が 7.5kW 未満のユニットの場合） PSA012B794 A

●本製品を管理（所有）されているお客様へ

本製品は「フロン排出抑制法」に定める「第一種特定製品」です。
本製品を使用するにあたり、フロン類の漏えいを防止するため、フロン排出抑制法に基づき本製品の管理者（所有者、または使用等を管理する者）は、次のことを守る必要があります。

①機器を設置する時
適切な設置、適正な使用環境を確保すること。

②機器を使用している時
適切な設置、適正な使用環境を維持し、確保すること。
機器の簡易（日常）点検を実施すること。なお、当該機種の圧縮機定格出力が7.5kW以上の場合は定期点検も実施すること。
◇簡易点検：定期的な温度および目視による外観の点検です。（3ヶ月に1回以上）
異音・異常振動、外観の損傷、腐食、錆び、油のにじみ、霜つき等の漏えいの徴候を確認します。
◇定期点検：機器の専門点検の方法について十分な知見を有する有資格者が行う点検です。（3年に1回以上）
定期点検の委託先および圧縮機の電動機出力については、お買い上げの販売店または弊社窓口へお問合せください。

③フロンの漏えいを発見した時
速やかに漏えい箇所を特定し、修理すること。
機器の修理をせずに充填することは原則禁止。

④点検や修理をした後
点検・整備記録簿に点検・修理・充填・回収に関する履歴を記録し、その記録簿を保存すること。

もし、機器の異常を発見した場合、専門的な点検・整備が必要なため、お買い上げの販売店または弊社窓口にご相談ください。
点検・整備記録簿（様式例を裏面に添付）には、機器を設置したときから廃棄するまでの機器の点検や修理、冷媒の充填・回収等のすべての履歴を記録・保存する必要があります。
冷媒の充填・回収には都道府県に登録された「第一種フロン類充填回収業者」への依頼が必要なため、お買い上げの販売店または弊社窓口へお問合せください。

●本製品を設置する工事業者様へ

本製品の据付後、「（冷媒漏えい）点検・整備記録簿：裏面に添付」を作成していただき、フロン排出抑制法に基づいて「（冷媒漏えい）点検・整備記録簿」を保管いただくようお客様にご説明ください。

詳細はお買い上げの販売店または弊社窓口へお問合せ、または下記サイトをご覧ください。
フロン排出抑制法の手引き： http://www.jraia.or.jp/index.html
冷媒漏えい 点検・整備記録簿（含む 簡易点検チェックシート）のエクセルシート： http://www.jarac.or.jp/

冷媒漏えい点検・整備記録簿	年 月 日 ～ 年 月 日	管理番号		補足事項

機器の管理者	氏名・名称				設備製造者				
	住 所		系統名		設置年月日	西暦 年 月 日			
機器の所在	施設名称		TEL		使用機器	分類		型式	
	住 所		TEL			製番		用途	
運転管理責任者			TEL			圧縮機の電動機定格出力（kW）			
点検者等の住所名称			TEL		冷媒量(kg)	合計充てん量	合計回収量	合計排出量	CO2ﾄﾝ
			TEL						
			TEL		使用冷媒		初期総充填量（kg）		

主要冷媒のGWP値	R11	R12	R32	R134a	R22	R123	R245fa	R502	R404A	R407A	R407C	R410A	R410B	R152a	R142b		
	4750	10900	675	1430	1810	77	1030	4660	3920	2110	1770	2090	2230	124	2310		

作業年月日	点検・整備区分	充填量(kg)	回収戻し充填量(kg)	回収量（kg）	点検内容	点検結果	漏えい・故障の原因	漏えい・故障箇所	修理の内容	点検・修理・回収・充填業者名	技術者氏名	技術者No.	修理困難理由	修理予定日
	出荷時初期充填量													
	設置時追加充填量													
計														

(5) 冷媒配管工事

PSC012D007B F
PSC012D007A F

本説明書は冷媒配管工事に関する一般事項について示したものです。
室外ユニット据付説明書・室内ユニット据付説明書・他の説明書を合わせてご覧ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない | ❗⏚ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警 告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニットの落下によるケガの原因になります。

●小部屋に据付ける場合は日本冷凍工業会のガイドライン JRA GL-13 に従い、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度超えると酸欠事故の原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合は換気する。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●据付工事完了後冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●配管、フレアナット、工具は R32 または R410A 専用のものを使用する。
既存（R22）部材を使用すると、機器の故障と同時に冷媒サイクルの破損などの重大な事故の原因になります。

●フレアナットの締付はダブルスパナで行い、トルクレンチで指定の方法で締付ける。締付過ぎによるフレア部の破損に注意してください。
フレア部のゆるみ、締付過ぎによる破損が発生した場合に、冷媒ガスが漏洩して酸欠事故の原因になることがあります。

●冷媒配管工事、機密試験および真空引きが完了するまでは、サービスバルブ（液、ガス共）を開けないでください。
冷媒配管が確実に取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また空気などを吸引し、冷媒サイクル内が異常高圧となり、破損、ケガ等の原因になります。

●エアコンの設置や移設の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒（R32 または R410A）以外の空気等を入れない。
空気が混入すると冷媒サイクル内が異常高圧になり、破損、ケガ等の原因になります。

●室内ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニット内に侵入した場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。
ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態にしておくとか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管等の表面が結露して、露たれ等を発生し、天井、床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる機密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。

冷媒R32またはR410A対応機としての注意点

●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。R32およびR410Aは従来の冷媒（R22など）に比べ圧力が1.6倍高くなります。
●R32またはR410A機は、他冷媒誤封入防止のため室外ユニット操作弁のチャージポート径とユニット内のチェックジョイント径を変更しています。また、耐圧強度を上げるため冷媒配管のフレア加工寸法およびフレアナットの対辺寸法を変更しています。従って、施工、サービス時には、右表に示すR32またはR410A専用ツールを準備してください。
●異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒（R22、R407C等）と共用しないでください。
●チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。
●冷媒封入は必ずボンベから液相で取出して行ってください。
●室内ユニットはR32またはR410A専用機となります。接続可能な室外ユニットはカタログ等で確認してください。（他の室内ユニットを接続すると正常に運転できません。）

	R32またはR410A専用ツール
a)	ゲージマニホールド
b)	チャージホース
c)	冷媒充填用電子はかり
d)	トルクレンチ
e)	フレアツール
f)	出し代調整用配管ゲージ
g)	真空ポンプアダプタ
h)	ガス漏れ検知器

（表1）

①現地配管と配管継ぎ手の準備

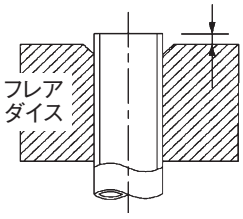
配管径　mm	最少肉厚　mm	質　　別	フレアーナット 締付トルク　N·m
φ6.35	0.8	O材　OL材	14 ～ 18
φ9.52	0.8		34 ～ 42
φ12.7	0.8		49 ～ 61
φ15.88	1.0		68 ～ 82
φ19.05	1.2		100 ～ 120
	1.0	1/2H材 H材	
φ22.22	1.0		
φ25.4	1.0		
φ28.58	1.0		
φ31.75	1.1		
φ38.1	1.35		

JIS H 3300 C1220T　リン脱酸銅継目無管　　（表2）

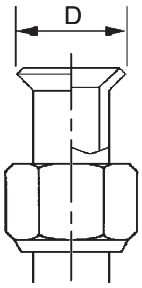
⑴配管および配管継手は、その配管に傷がないこと、および経時硬化していないものを用い、フレアおよびろう付管継手にあっては、JIS B 8607に規定したものを使用すること。
⑵フレア加工する銅管はO材、OL材を使用する。また、R32またはR410A冷媒で外径19.05mmはO材では肉厚1.2mmを使用しなければならない。
⑶ろう付接続する銅管は、外径19.05 mm 以上は1/2H、またはH 材の使用を推奨する。
⑷フレアナットは製品付属のもの、またはJIS B 8607適合品を使用すること。

②既設配管再利用時の確認・点検事項

既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの説明書またはカタログ・技術資料で確認すること。



（図A）



（図B）

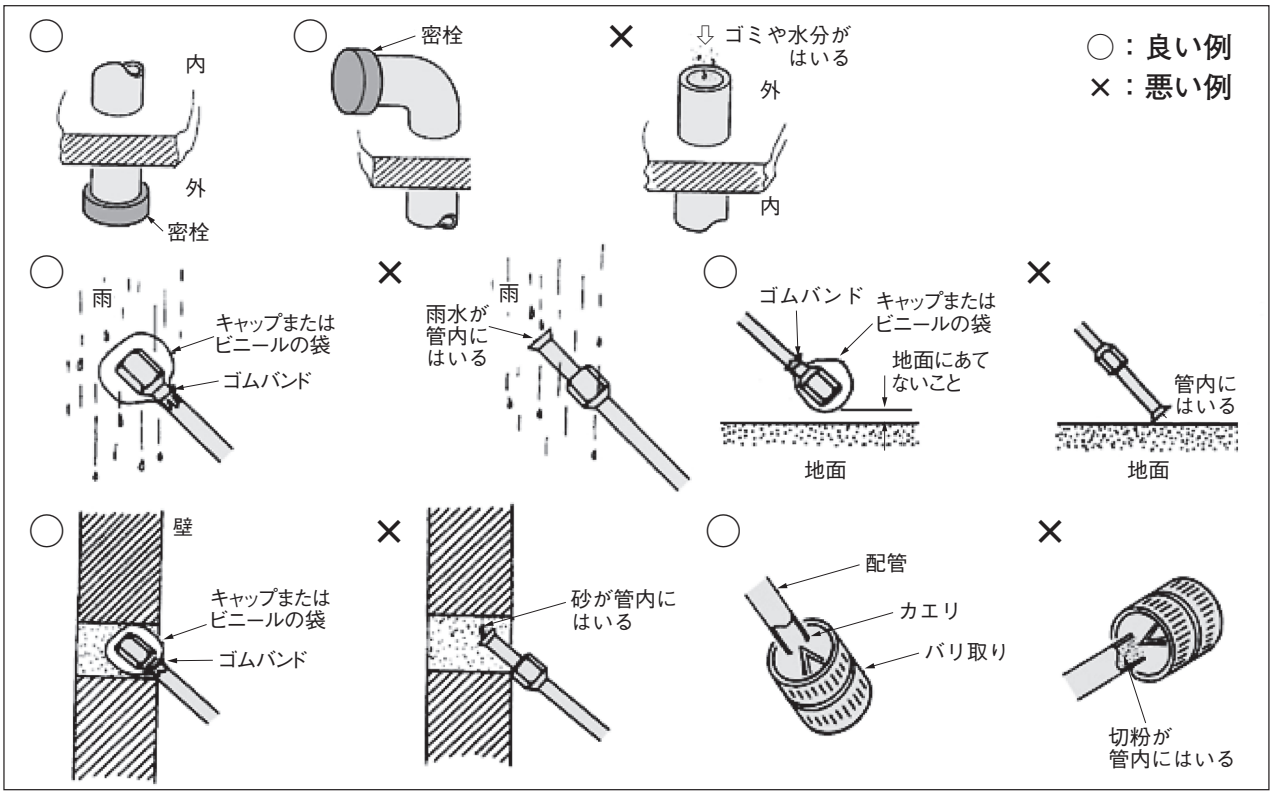
配管径 d mm	フレア加工 頭出し寸法　mm		フレア外径 D mm
	リジッド（クラッチ式）		
	R32	従来ツール	
6.35	0～0.5	0.7～1.3	8.9～9.1
9.52			12.8～13.2
12.7			16.2～16.6
15.88			19.3～19.7

（表3）

⑴フレアナットは流用せずユニットに付属のものを使用し、部分的に交換した新しい配管に、R32またはR410A用のフレア加工（図A、図B、表3）をしてください。
⑵配管肉厚、設置年数、過去に配管腐食による漏えいの有無確認を行ってください。
⇒再利用する既設配管に、ガス漏れはありませんか？
⑶既設配管の気密確認をしてください。
気密不良の場合。既設配管を再利用できません。新規配管をご使用ください。
⑷配管に腐食、亀裂、傷、変形、劣化などが無いかを可能な限り点検してください。
⇒再利用する既設配管に、腐食・傷・へこみはありませんか？
⑸不具合部分を修正してください。
⇒修正不能の場合。既設配管を再利用できません。新規配管をご使用ください。
⑹再利用する既設配管の断熱材に、剥がれ、劣化はありませんか？
配管支持金具は緩んでいませんか？
⑺不具合部分を修正してください。
修正不能の場合。既設配管を再利用できません。新規配管をご使用ください。

③冷媒配管施工上の注意点

⑴配管は、接続の直前まで密栓・キャップ等でカバーして水分、ゴミ、ほこり、切粉、壁材などが入らないようにすること。



（図C）

⑵冷媒配管はできるだけ短く、直線になるように配管する。やむを得ず曲がりを取る場合は、曲げ半径を配管外径の4倍以上にすること。

⑶冷媒配管を曲げる場合はベンダを使用し、パイプが2/3D以下につぶれないようにすること。

⑷作業手順

①パ イ プ 切 断：パイプの長さに余裕（30～50mm）をもって、パイプカッタを使用し、切断面を直角にする。

②バ リ 取 り：切り粉が配管内に入らないように、配管を下向きにして、リーマを使用する。

③バリの銅くず除去：配管内部の銅くずを、ドライバーの柄などで軽くたたくか、ガーゼ棒を使用して除去する。

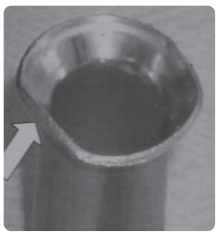
④フ レ ア 加 工：フレアナットを挿入し、フレアダイス面から配管先端までは適正な寸法でセットし（図A,表３）、フレア内面はキズがないように真円で均一に加工する。

⑤フレア部の確認：（図B、表３）にて寸法を確認し、図Dのような形状となっていないか確認する

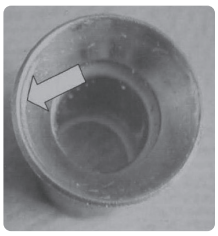
コーン・位置不良
によるキズ

リーマ・やすりが
けの切粉の付着

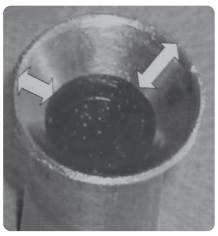
コーンに付着した
ゴミによるキズ



加工後の衝撃によ
る変形



バリ取り不足によ
る段差

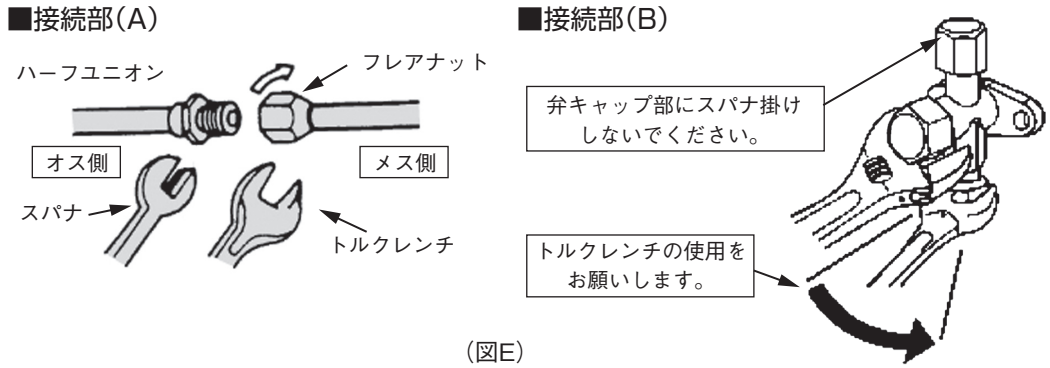


曲ったパイプ使用
による扁平

フレア加工の不具合例　（図D)

③冷媒配管施工上の注意点のつづき

⑸フレアナットは、トルクレンチを使用して、表２のトルクで締付けること。
図の様にユニオン側または操作弁側を固定して適性なトルクで締付ける。

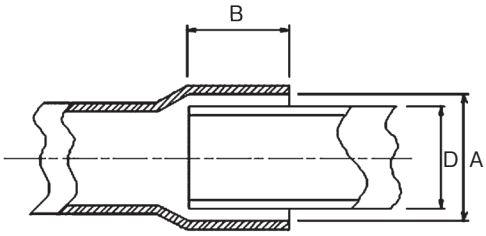


（図E）

注記	同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。 冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

④ろう付接続に関する注意点

⑴ろう付作業は高度な技術と経験を要するため、労働安全衛生法で定めた溶接技能士または、ガス溶接技術講習を終了した者が作業すること
⑵ろう付接合面を重ね、そのすき間にろう材を溶着させるため、接合面積を十分に取り、適切なすき間を取る。
⑶銅管継手の最少はまり込み深さと、管外径と継手内径のすき間は、表４のとおり。
⑷銀ろうの場合のすき間は0.05mm～0.1mm 程度が、接続強度を最も高くすることができる。



配管径 D	最小はまり込み深さ B	すき間 A－D
φ5 以上 φ8 未満	6	0.05～0.35
φ8 以上φ12 未満	7	
φ12 以上φ16 未満	8	0.05～0.45
φ16 以上φ25 未満	10	
φ25 以上φ35 未満	12	0.05～0.55
φ35 以上φ45 未満	14	

（表4）

⑸ろう材については、次の注意事項を遵守する。
⒜亜硫酸ガス濃度が高いなど、腐食性雰囲気では、りん銅ろうBCuP　はイオウと反応しやすく、水溶性のもろい化合物を作り、冷媒漏えいの原因となるので、他のろう材（例えば銀ろう）にする。また、ろう付部を塗装するなどの対策が必要。
⒝低温ろう（溶融温度が450℃未満のもの、いわゆる“はんだ”）は、強度が弱く冷媒漏えいを起こすおそれがあるため、使用しない。
⒞修理などで再ろう付する場合は、同一ろう材を使用する。ろう材の名称が同じでも号数が異なれば、再ろう付できない場合がある。

④ろう付接続に関する注意点のつづき

⑹フラックスを使用する場合は、母材の種類、形状およびろう材の種類およびろう付の方法などによって、適切なフラックスの選定が必要となる。表5にフラックスの分類を示す。注意事項を次に示す。

(a)ろう付後、フラックスを除去する。

(b)フラックスに含まれる塩素が配管内に残量すると冷凍機油が劣化する原因になるので、塩素含有率の低いフラックスを選定する。

(c)フラックスに水を追加する場合は、塩素を含まない蒸留水を使用する。その他、JIS Z 3621参照。

AW5 No.	使用形状	ろうのタイプ	活性温度範囲 単位 ℃	フラックスの組成	母材の種類
FB3-A	ペースト	BAg, BCuP	565～870	ほう酸塩 フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB3-C	ペースト	BAg, BCuP	565～925	ほう酸塩, ボロン, フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB3-D	ペースト	BAg, BCuP, BNi	760～1205	ほう酸塩, フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB3-K	液　状	BAu, BCuZn, BAg, BCuP	760～1205	ほう酸塩, フッ化物	すべてのろう付できる 鉄, 非鉄金属合金
FB4-A	ペースト	BCuZn, BAg, BCuP	595～870	塩化物, ほう酸塩, フッ化物	Al 青銅, Al 黄銅, Ti および他の金属が少量添加されたもの

表5　フラックスの分類

⑺ろう付作業は、配管材の内部に酸化皮膜が発生しないように窒素ガスを流しながら（窒素ガスブロー）施工する。

⑻酸化皮膜が発生すると、はがれてキャピラリチューブ・膨張弁の詰まりおよび圧縮機の故障の原因になる。

⑼作業手順は、次による。

①窒素容器に減圧弁と流量計を付ける。

②配管材に導く配管は細い銅管を使用し、容器側に流量計を取付ける。

③配管材と挿入する窒素用導管のすき間は、図Fのように外から空気が混入するのを防ぐためにシールする。

④窒素ガスを流すときは、配管側の端部は行き止まりにせず、抵抗を付けて開放する。

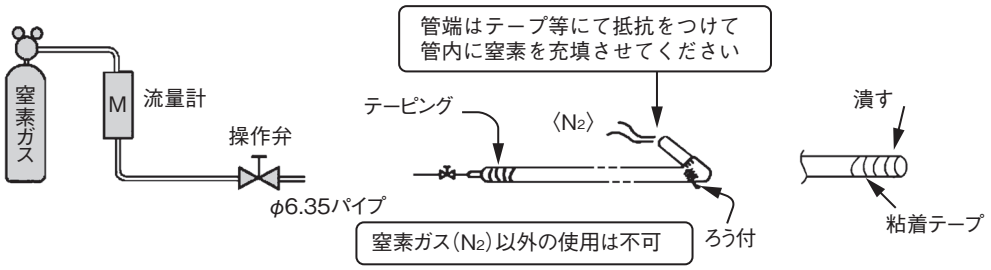
⑤窒素ガスの流量は0.05㎥/h、または減圧弁で0.02MPa（0.2 kgf/㎠）以下が適当。

⑥ろう材に適した温度でろう付する。

⑦操作弁と配管とのろう付は、弁本体を濡れタオル等で冷やしながら実施してください。

⑧作業後、配管がある程度冷えるまで（手でさわれる程度、やけど注意）窒素ガスを流したままにする。

⑨ろう付作業後フラックスは完全に除去する。



（図F）

⑽ろう付時の注意事項は、次による。

(a)過熱防止　ろう付加熱により母材の内外面は酸化するが、特に配管内部の加熱酸化によるスケールの生成は冷媒系統のゴミとなり、致命的な悪影響を及ぼすので、ろう付適正温度でしかも必要最小限の加熱面積でろう付する。

(b)過熱保護　バーナーの火炎によるろう付部に近い部品の火災による過熱損傷および変質を防ぐため、金属板によるしゃ蔽保護並びにウエスを水に浸して保護する、または熱吸収材を使い過熱保護する。

(c)ろう付後の冷却　加熱後すぐに水をかけると、配管が劣化する場合もあるため、水をかけないことを推奨する。

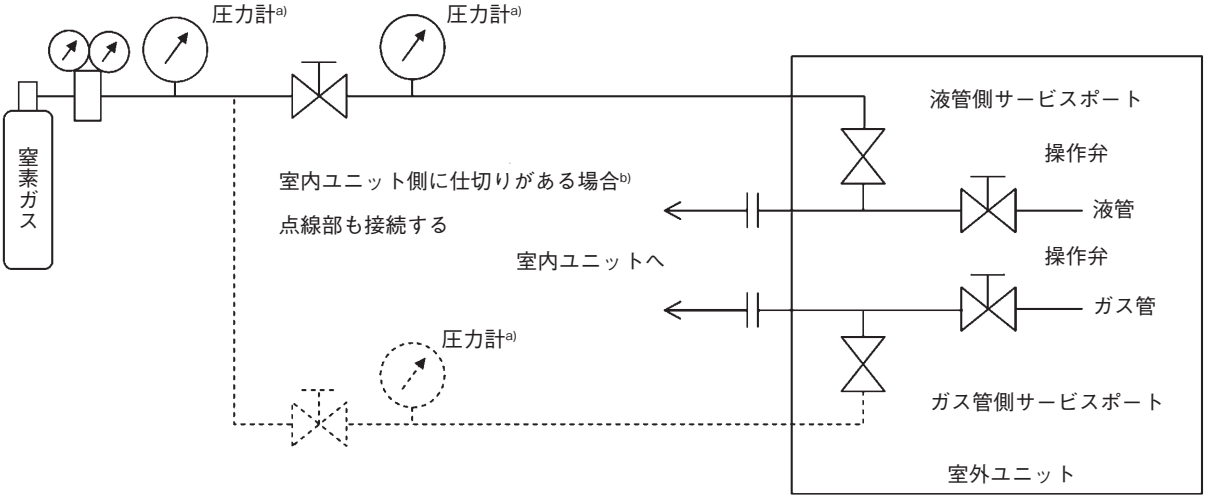
(d)ろう付時の固定　溶融したろう材が凝固する時、動いたり振動が伝わったりすると、ろう付部に割れが入り漏えいの原因となる。

(e)酸化防止剤について　ろう付作業の効率化のため、各種酸化防止剤が出回っている。しかし、その成分は多種多様であり、中には配管を腐食し、HFC冷媒および冷凍機油などに悪影響を及ぼすことが予想されるものもあるので、注意を要する。

⑤気密試験

配管施工が終了した後、漏えいの有無を検査するため、配管に窒素ガスを加圧封入し圧力計の針の動きによって漏えいがないことを確認する。

図Gに示す装置を用いて窒素ガスにより加圧し、漏えいが予想される箇所に発泡液を塗布して泡の発生がないことを確認する。



（図G）

注a）文字板の大きさは、75mm以上のものを使用する。最高目盛は、試験圧力の1.25倍以上2倍以下のものを使用する。
精度1.6級以上のものを使用する。

注b）店舗用：室内ユニット側に仕切りがない場合は、ガス管/液管どちらか片方からの加圧のみでも可。
マルチ：室内ユニット側に膨張弁等による仕切りがある場合は、ガス管/液管両方に加圧すること。
（新品出荷時点は膨張弁は開で出荷。通電後に停止した場合は膨張弁は閉となっています。）

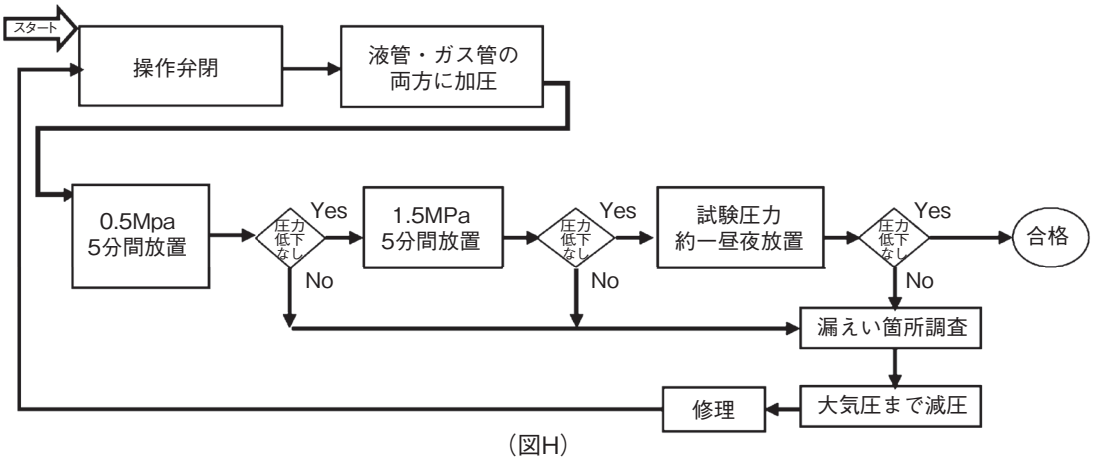
⑴気密試験方法

①気密試験は、窒素ガスで機器の気密試験圧力まで、冷媒配管内を加圧して行うため、図Gを参考に器具類を接続する。
注記1 気密試験時に機器を運転してはならない。
注記2 加圧ガスにはフロン類、酸素および可燃性ガスなどは絶対に使用しない。
注記3 機器側の操作弁は閉じたままとし、配管施工部以外に加圧しないように注意する。
注記4 室内ユニット側に膨張弁等による仕切りがある場合は、必ず液管、ガス管の両方に加圧し気密試験を実施する。
注記5 ろう付後、配管温度が下がらないうちに加圧すると、冷却後に減圧するので注意する。

②加圧は一度に試験圧力値まで昇圧せず、徐々に加圧する。
注記1 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置し、圧力の低下のないことを確認する。
注記2 1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認する。
注記3 その後に試験圧力値まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモする。

③規定値で約一昼夜放置し、圧力が低下していなければ合格とする。
容器内の気体の圧力は絶対温度に比例するため、外気温度による圧力変動に注意する。
例 （測定時絶対圧力）＝（加圧時絶対圧力）×｛（273＋測定時温度（℃））/（273＋加圧時温度（℃））｝

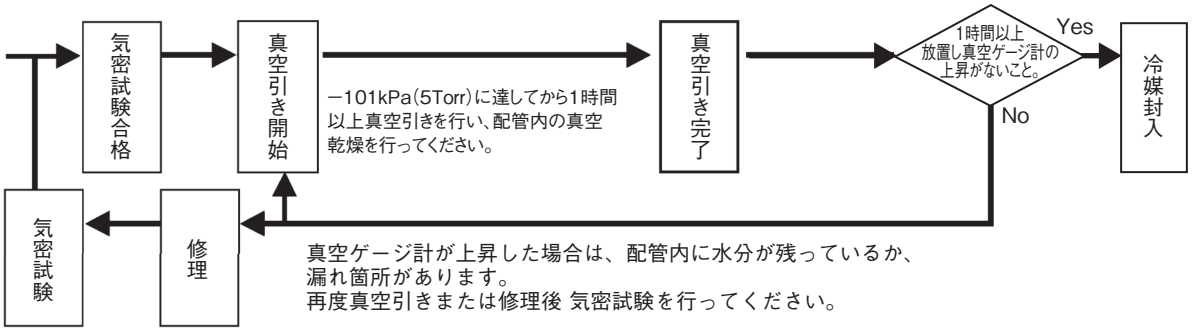
④上記②,③の確認で、圧力低下が認められた場合は漏えいがあるので、必ず補修し再度漏えいのないことを確認する。



（図H）

⑥真空引き

⑴気密試験合格後に冷媒配管内部の空気、または窒素ガスを排除するため、真空ポンプで真空引きを行ってください。
⑵冷媒によるエアパージは、冷媒の放出を伴うため、禁止されています。
⑶真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用ください。



（図J）

⑦冷媒の封入と記録　操作弁を開く

⑴冷媒の封入は必ずはかりを使用して計量しながら行ってください。チャージシリンダは絶対使用しないでください。
⑵操作弁を閉じたまま、必ず液側のサービスポートから液冷媒で封入してください。規定量が封入できない場合は、室外ユニットのバルブを液側、ガス側ともに全開にした後、冷房運転を行いガス側（吸入側）サービスポートから封入します。ただし圧縮機保護のため、ボンベのバルブを絞り気味にするか、液冷媒を霧状に変換する専用ツールを使用して、ユニットに吸引された時にはガス化しているように調整してください。
⑶運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。冷媒不足の状態で長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。
⑷室外ユニット説明書に従って配管長から算出した冷媒量を決定し、その追加した冷媒量を室外ユニットサービスパネル裏面の冷媒量記入欄に記入してください。
⑸冷媒封入作業完了後、冷媒液側およびガス側の操作弁を全開にしてください。
⑹バルブはキャップを被せ、所定のトルクで締付けてください。
チャージポート・チェックジョイントのキャップの締付トルク：11〜13N·m
操作弁のキャップの締付トルク：30〜33N·m

⑧配管の断熱工事

⑴断熱工事は、気密試験の時に漏えいを検出可能なように、気密試験実施後に行う。
⑵埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能なように点検口などを設けてください。
⑶配管接続部が天井内にある場合にも必ず点検口を設けてください。
⑷断熱材は120℃以上の耐熱性のあるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。
⑸防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
⑹ガス管は冷房運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることがあります。また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温となるため、人に接触すると火傷などの危険があります。
⑺室内ユニットのフレア接続部分は断熱材（パイプカバー）で断熱してください。（ガス管・液管共に断熱してください。）
⑻断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その際断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
⑼本エアコンはＪＩＳ露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、相対湿度70％※を超える天井内等では、ガス側、液側配管共厚さ20mm以上の断熱が必要となります。
※中温パッケージの場合は相対湿度60％

(6) 分岐管セットの据付

PSB012D865 G

⚠ 警　告・注　意

- ●分岐管セットは、接続される室内ユニットの合計容量に応じて正しく選定し、本書に従って配管を接続してください。
  誤まって接続した場合は、能力の低下やユニットの異常停止の原因になります。
- ●配管部の断熱は、本書に従って確実に実施してください。
  不確実な場合は、能力の低下や配管への結露水により、水漏れの原因になります。
- ●冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故につながる恐れがありますので、設置工事部品は、必ず付属部品および指定の部品をご使用ください。

本書は、ツイン・トリプルの配管接続に必要な分岐管セットの使い方について説明するものです。配管工事の詳細、ユニットの据付および電気配線工事については、室外・室内ユニットの据付説明書、工事説明書をご覧ください。

1. 分岐管セット仕様

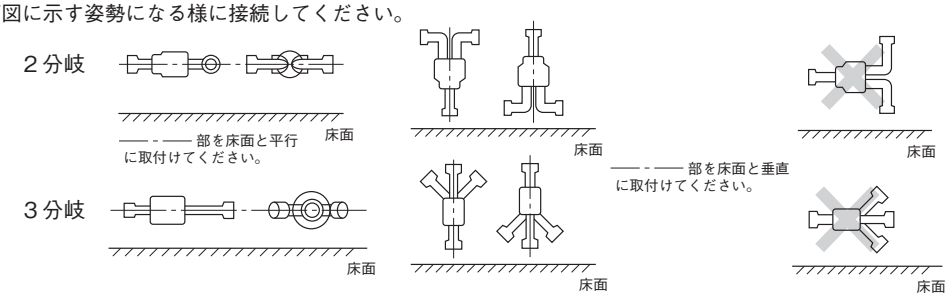
(1) 下表にて、分岐管セットが正しく選定されていることと、セット内の部品仕様を確認してください。
(2) 配管の接続は下表に従って行い、室外ユニットからの配管は必ず①の接続部に、室内ユニットからの配管は必ず②、③、④の接続部にろう付してください。

分岐管セット形式	対応可能室外・室内組合せ		部品一覧			
	室外容量	室内容量	液配管用分岐管	ガス配管用分岐管	異径継手	断熱材
DIS-WA1G (2分岐用セット)	80	40+40	ID9.52 ①②③ ID9.52 ID9.52 1個	ID15.88 ①②③ ID15.88 ID15.88 1個	継手A ID9.52 2個 フレア接続 (室内接続部用) 継手B OD15.88 ID12.7 2個	液・ガス用 各1個
	112	56+56				
DIS-WB1G (2分岐用セット)	140	71+71	ID9.52 ①②③ ID12.7 ID9.52 1個	ID15.88 ①②③ ID25.4 ID15.88 1個	継手C OD12.7 ID9.52 1個	液・ガス用 各1個
	160	80+80				
DIS-TB1G (3分岐用セット)	160	56+56+56	ID9.52 ①②③④ ID9.52 1個	ID15.88 ①②③④ ID25.4 1個	継手A ID9.52 2個 フレア接続(室内接続部用) 継手B OD15.88 ID12.7 1個 継手D ID12.7 OD9.52 1個	液・ガス用 各1個

IDは内径寸法、ODは外径寸法を示します。

(3) 分岐管は、必ず下図に示す姿勢になる様に接続してください。

＜取付姿勢＞



2. 配管接続要領

接続する室外・室内ユニットの容量に応じ、以下の内容に従って各分岐管セット内の異径継手をろう付してください。

2-1　DIS-WA1G

対応可能組み合せ 室外容量	室内容量	液側分岐管	ガス側分岐管
80	40＋40	ID9.52 ① ② ③ ID9.52 ID9.52	ID15.88 ① ② ③ ID15.88 ID15.88
112	56＋56	ID9.52 ① ② ③ ID9.52 ID9.52	ID15.88 ① ② ③ ID15.88 ID15.88

2-2　DIS-WB1G

対応可能組み合せ 室外容量	室内容量	液側分岐管	ガス側分岐管
140	71＋71	ID9.52 ① ② ③ ID9.52 ID9.52 継手C	ID15.88 ① ② ③ ID25.4 ※1 ID15.88
160	80＋80	ID9.52 ① ② ③ ID9.52 ID9.52 継手C	ID15.88 ① ② ③ ID25.4 ※1 ID15.88

※1：ID25.4との接続は225ページ参照。

2-3　DIS-TB1G　分岐以降の配管長差が3m未満に適用

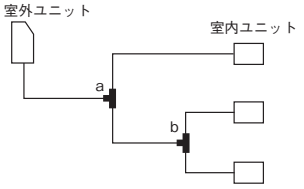
※配管長差が3m以上の接続は不可

対応可能組み合せ 室外容量	室内容量	液側分岐管	ガス側分岐管
160	56＋56＋56	ID9.52 ① ② ③ ④ ID9.52	ID15.88 ① ② ③ ④ ID25.4 ※1

※1：ID25.4との接続は225ページ参照。

2-4　同機種同容量、異機種同容量のトリプルの接続

分岐以降の配管長差が3m以上10m以下の場合

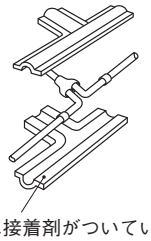


室外容量	室内容量	分岐管	分岐管セット形式	液側分岐管	ガス側分岐管
160	56＋56＋56	a	DIS-WB1G	ID9.52 ① ② ③ ID9.52 ID9.52 継手C	ID15.88 ① ② ③ ID25.4 ※1 ID15.88
		b	DIS-WA1G	ID9.52 ① ② ③ ID9.52 ID9.52	ID15.88 ① ② ③ ID15.88 ID15.88

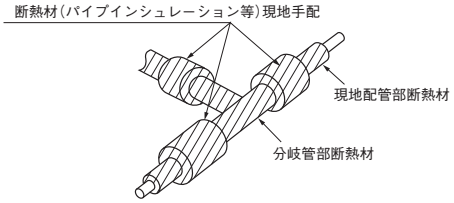
※1：ID25.4との接続は225ページ参照。

3. 断 熱 工 事

（1）本ユニットは、液配管にも結露水が発生します。液側配管・ガス側配管共、確実に断熱してください。
（2）分岐管部は、各分岐管セット内の断熱材を必ず使用し、以下の要領に従って断熱してください。



1. 内側には全面に接着剤がついています。
　セパレータを剥がして、分岐管に貼付けてください。



2. 分岐管部の断熱材と現地配管側の断熱材との継ぎ目を上記の様に断熱材（現地手配）を用い、///部の隙間はテーピングにて仕上げてください。

(7) 既設配管洗浄手順

PSC012D129C D

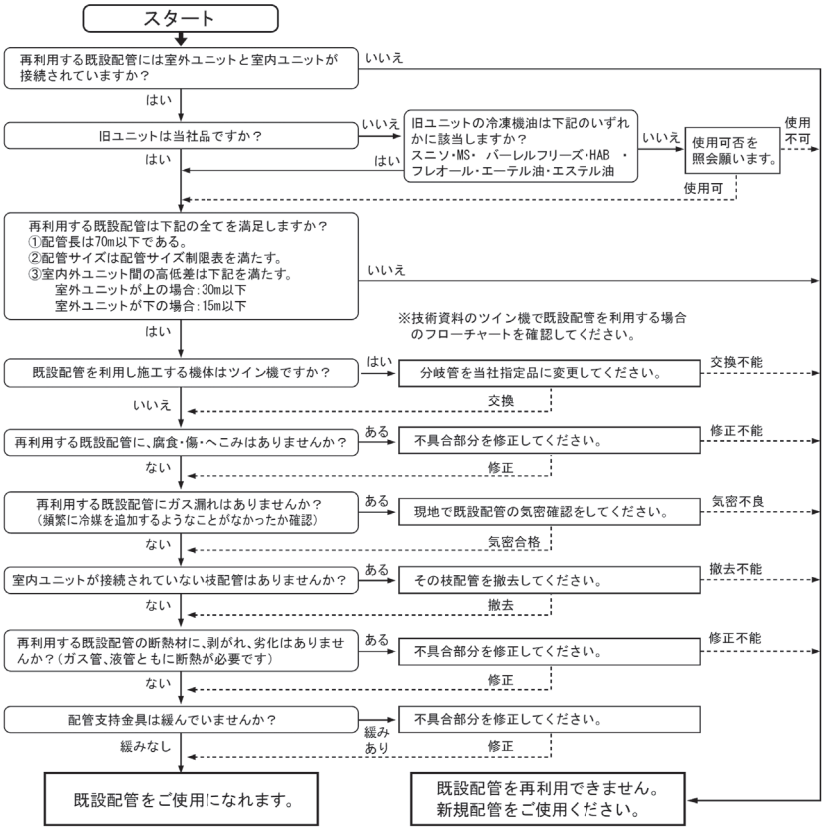
適用機種：KP80，112 形
（KP140，KP160 形は 224 ページをご覧ください。）

1．ご使用の前に確認いただきたい事項

(1) 既設配管流用時の条件

注意ポイント	配管	この手順書での記載項
クリーン（CLEAN） ・配管内にゴミがないこと	(a) 既設配管は既設機ユニットに接続された状態であること。 外れた状態では、既設配管内に雨水、空気が浸入し配管内が錆びている可能性があります。） (b) フロン排出抑制法に従い。確実に冷媒回収を行うこと 冷媒をみだり大気中に放出すると、罰則が適用される場合があります。 (c) 内蔵の洗浄回路により、指定の時間洗浄運転ください。	⇒1 (2) 既設配管流用可否判断フローチャート ⇒2 既設配管流用時の現地施工手順 ⇒3 洗浄運転
ドライ（DRY） ・配管内に水分がないこと	(d) 確実な真空引きの実施 −101kPa(−755mmHg) 以下になってから 1 時間以上真空ポンプの運転を実施。	⇒2 既設配管流用時の現地施工手順
タイト（TIGHT） ・冷媒もれがないこと	(e) 既設配管に腐食・傷・へこみがないこと。更に断熱材の剥れ・劣化がないこと。 (f) R32 用のフレアナットの使用かつフレア加工の実施。 (g) 気密試験（規定圧力：4.15MPa）を確実に行うこと。	⇒同封の据付説明書の 2 冷媒配管工事 を参考ください ⇒2 既設配管流用時の現地施工手順

(2) 既設配管流用可否判断フローチャート



〈配管サイズ制限表〉

◎：標準配管サイズ　○：使用可能　△：配管長制限短縮　冷↓：冷房能力低下　×：使用不可

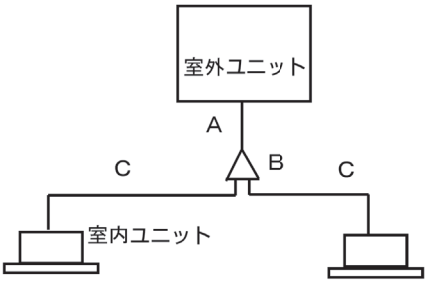
●表に記載のない配管サイズの組合せは使用できません。

配管1m当たりの追加チャージ量		0.02 kg/m	0.054 kg/m		0.11 kg/m	
配管サイズ	液管	φ6.35	φ9.52	φ9.52	φ12.7	φ12.7
	ガス管	φ15.88	φ15.88	φ19.05	φ15.88	φ19.05
KP80,112	適用範囲	△	◎	○※1	△	△※1
	最大片道配管長	20	100	100	50	50
	チャージレス長	10	30	30	15	15

※1：Φ19.05 × t1.0は耐圧強度が不足のため、室外ユニット基板上のディップスイッチ SW5-1をONにしてください。（ツイン機の場合、第1分岐以降の配管にΦ19.05 × t1.0が存在する場合を含む）ただし、1/2H材または肉厚1.2以上の配管を使用の場合は必要ありません。

(3) 分岐間使用時の留意点

ツイン機にて既設配管を使用する場合は、下記の該当項目を確認してください。



室外ユニット容量（馬力）		KP80, 112
	A部 主管	(2) 項既存配管使用可能範囲を参照
	B部 分岐管	当社製ユニット分岐管の場合一部使用可。(3) 項参照
	C部 分岐後配管	配管サイズにより、一部使用可。

■ツイン機で既設配管を使用する場合,下記フローチャートで主管･分岐管･分岐後配管の流用可否を確認してください。

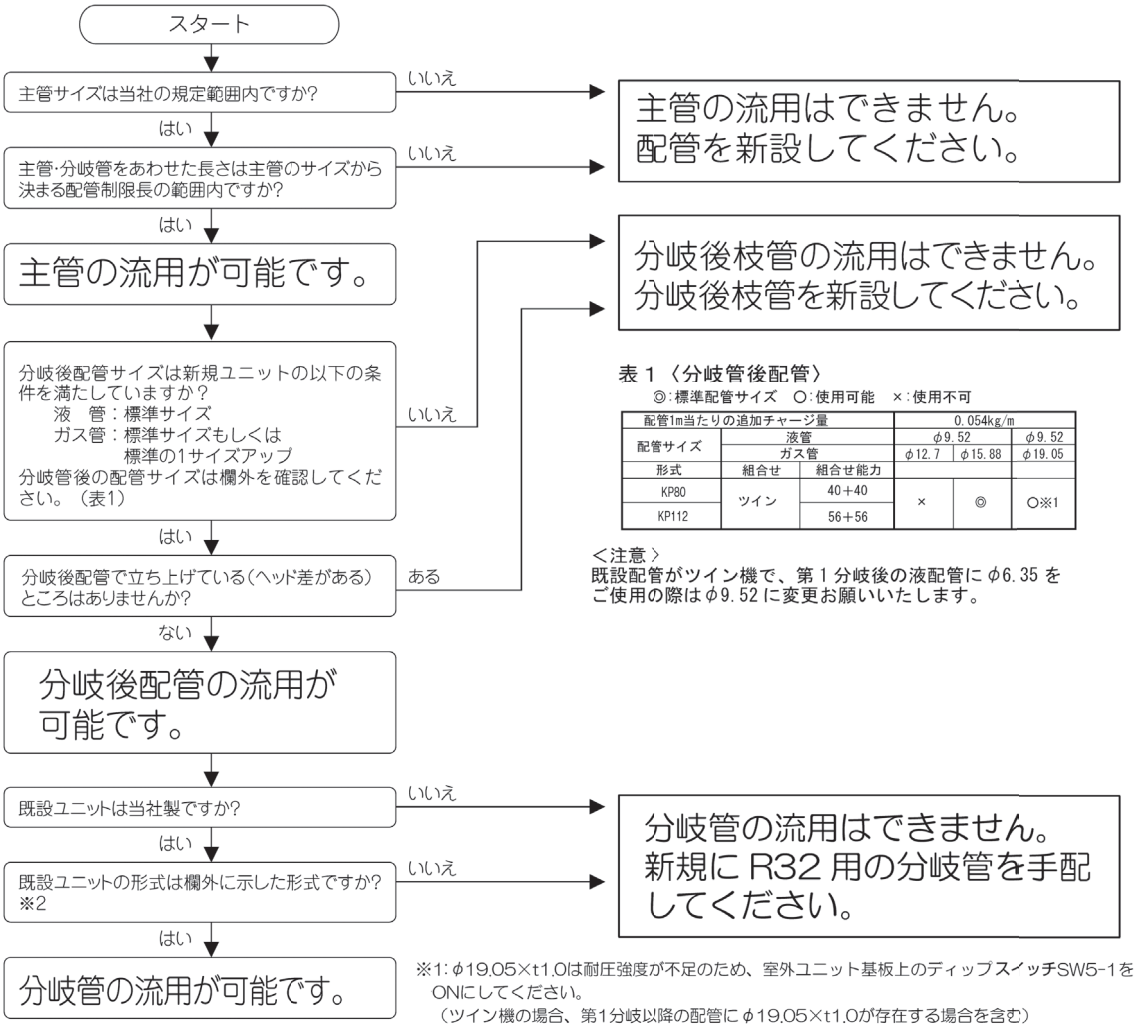


表 1 〈分岐管後配管〉

◎:標準配管サイズ　○:使用可能　×:使用不可

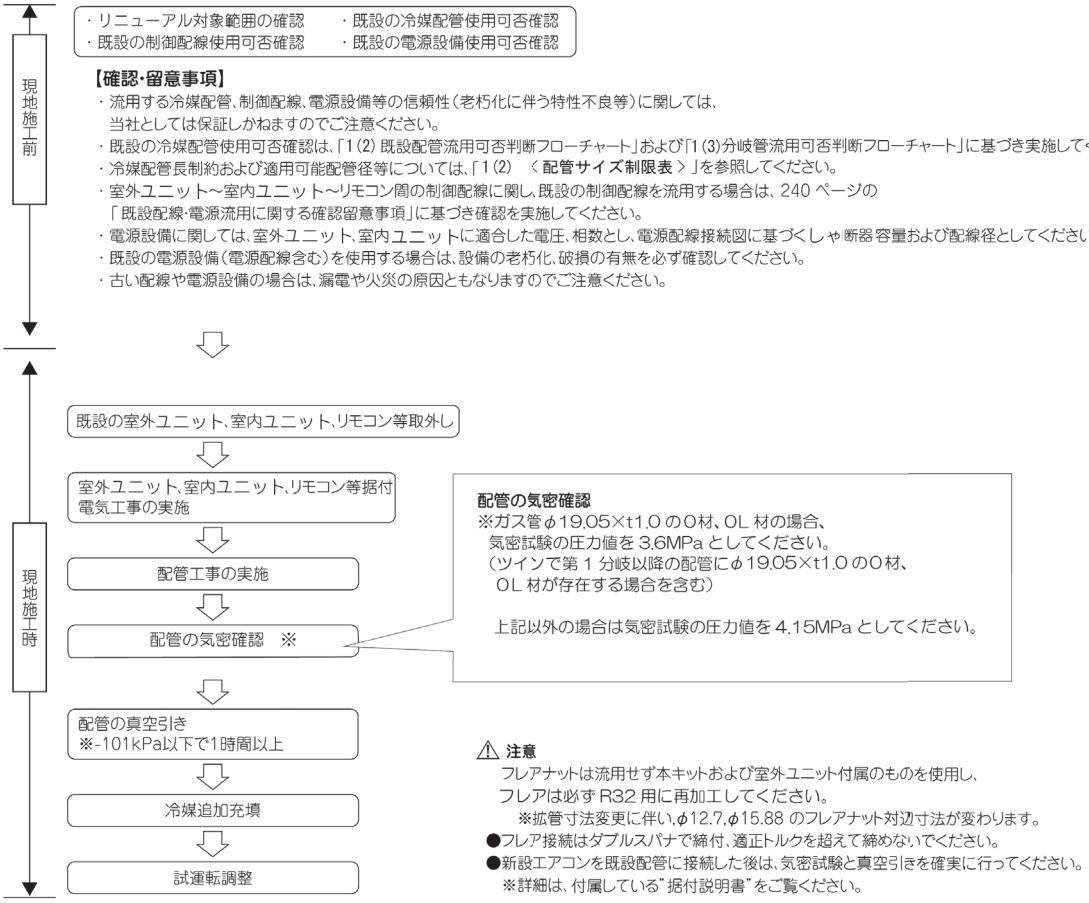
配管1m当たりの追加チャージ量			0.054kg/m		
配管サイズ	液管		φ9.52		φ9.52
	ガス管		φ12.7	φ15.88	φ19.05
形式	組合せ	組合せ能力			
KP80	ツイン	40＋40	×	◎	○※1
KP112		56＋56			

＜注意＞
既設配管がツイン機で、第 1 分岐後の液配管に φ6.35 をご使用の際は φ9.52 に変更お願いいたします。

※1: φ19.05×t1.0は耐圧強度が不足のため、室外ユニット基板上のディップスイッチSW5-1をONにしてください。
（ツイン機の場合、第1分岐以降の配管に φ19.05×t1.0が存在する場合を含む）
ただし、1/2H材または肉厚1.2以上の配管を使用の場合は必要ありません。

※2:＜分岐管流用可能な既存ユニット機種＞
112～160:FDCJ～H,FDCJ～HA,FDCJ～HD,FDCJ～HD1,FDCJ～HD2,FDCJ～HD3(A),FDCP～HD3以降のFDCの後に″ P″がつく形式
※～には能力を示す数字が入ります。※既存ユニットがFDC～ではじまる形式の場合（FDCの後に″ J″ または″ P″ がつかない形式。例：FDC125H8A），分岐管は流用できません。R32用の分岐管を使用してください。（分岐管にオリフィスが無いため室内ユニット間の分配不良となります。また耐圧不足となります。）

2．既設配管流用時の現地施工手順



3．洗浄運転

①洗浄運転前の確認事項

〇同封の据付説明書を参考に、以下の内容を確認ください。

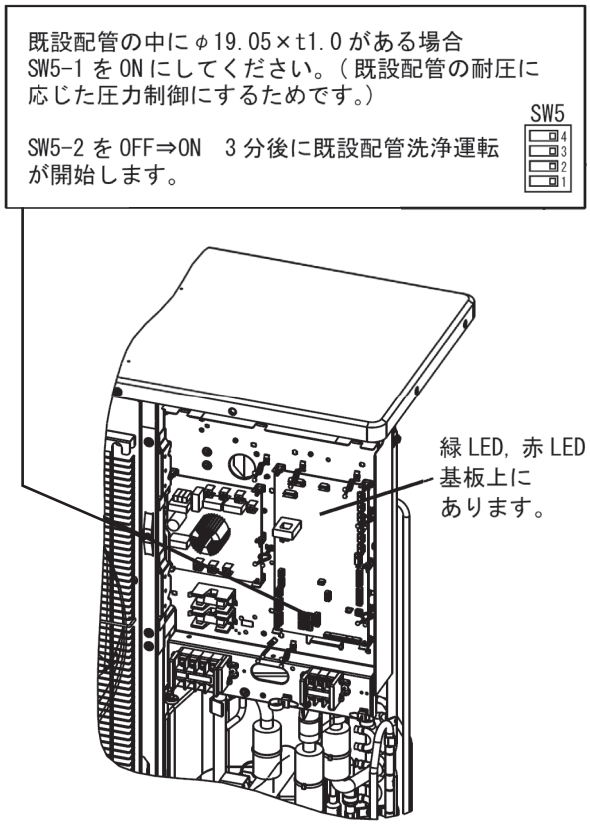
据説の項目	項目	確　認　項　目	チェック
2	冷媒配管工事	ろう付した場合は、配管に窒素ガスを流してろう付しましたか。	
		気密試験、真空引きは確実に行いましたか。	
		配管の断熱材は液管とガス管の両方に取付られていますか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
4	電気配線	配線の接続忘れ、欠相、逆相はないですか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
		しゃ断器、配線などの電気機器は適正容量の機器を使用していますか。	
		複数設置の場合は、ユニット間の配線がいれかわっていませんか。	
		リモコン線に室内外通信線を接続していませんか。	
		内外接続線は同一端子番号で接続していますか。	
		内外接続線は VCT キャブタイヤケーブルまたは VVF 平形ケーブルですか。	
		アース工事は D 種接地工事が行われていますか。	
		配線の取付部のねじが緩んでいませんか。	
		配線は配線クランプで固定し、端子接続部に外力が加わらないようになっていますか。	
ー	室内ユニット	室内ユニットの据付作業は完了していますか。	
		室内ユニットに化粧パネルを取付ける場合には、化粧パネルの取付が完了していますか。	

②洗浄運転手順

○下記の順番に従ってチェックしながら行ってください。

順番	操 作 内 容	チェック
①	冷媒配管工事、電気配線、室内工事が正しく完了しているか ①の表にそって確認してください。	
②	ガス側操作弁を全開にしてください。	
③	液側操作弁を全開にしてください。	
④	既設配管にφ19.05×t1.0 をご使用の場合、SW5-1 を ON してください。	
⑤	SW5-2 を OFF⇒ON で既設配管洗浄を開始します。	
⑥	⑤のディップスイッチ ON で 緑 LED が高速点滅します。(0.5 秒 ON/0.5 秒 OFF) リモコン(RC-E4 等)のディスプレイ上には「冷房試運転」が表示されます。 (洗浄運転は冷房運転で行います。リモコンディスプレイ上は「冷房試運転」と表示します。)	
⑦	赤 LED が点滅していないことを確認してください。	
⑧	室内ユニットから冷風が吹いていることを確認ください。(洗浄運転は冷房運転で行います。)	
⑨	洗浄運転は 2 時間必要です。⑤ディップスイッチ ON 後、圧縮機の積算運転時間 2 時間で自動終了(緑 LED が通常点滅(1 秒 ON/1 秒 OFF))になります。手動にて終了する場合、ディップスイッチを ON⇒OFF にしてください。再始動は OFF⇒ON で可能です。)	

○洗浄運転自動終了後、ディップスイッチ SW5-2は ON 位置のままでも通常のエアコン制御になります。停電後の復電時、ON 位置のままでも、エアコン制御を行います。
(洗浄運転開始はスイッチ位置の OFF ⇒ON 一連の動作から開始します。)
○複数台数の室外ユニットを同一リモコンに接続する場合については、洗浄運転の実施後に、各室外ユニット毎のリモコン配線を接続してください。
○室内吸込温度が 15℃以下の場合、洗浄運転が断続運転になる場合がありますが、故障ではありません。
この圧縮機が停止している時間は洗浄運転の累積時間に含まれません。



KP80, 112の
ディップスイッチと LED の位置

(8) 既設配線・電源流用

(i) 既設配線・電源流用に関する確認留意事項

既設配線・電源の流用におきましては、下記内容にご留意ください。
配線接続は電気設備技術基準および内線規程に従い適切に工事を実施してください。

①既設配線（内外渡り線）の確認
既設配線は線の種類や心数の他、設備図面などによって配線長や分岐数も確認してください。
・電源配線について
◆漏電しゃ断器の容量，電線の太さ，こう長，およびアース線については、室外ユニットに付属している“据付説明書”をご覧ください。
◆単相機の場合は２心，三相機の場合は３心のＶＣＴキャプタイヤケーブル、または ＶＶＦ平方ケーブルをご使用ください。
◆４心ケーブルを使用したアース線と同心ケーブルとしないでください。シールド線は使用しないでください。

・内外渡り配線について
（3 心通信仕様の場合）
◆必ず３心のＶＣＴキャプタイヤケーブル、または ＶＶＦ平方ケーブルを使用してください。シールド線は使用しないでください。
（スーパーリンク仕様の場合）
◆配線の接続は、既設配線毎に「次ページの (iii) 接続方法、(iv) 室外ユニット改修内容」に従ってください。
◆室内電源取りは室外ユニット容量 P80 以下の単相機に限ります。

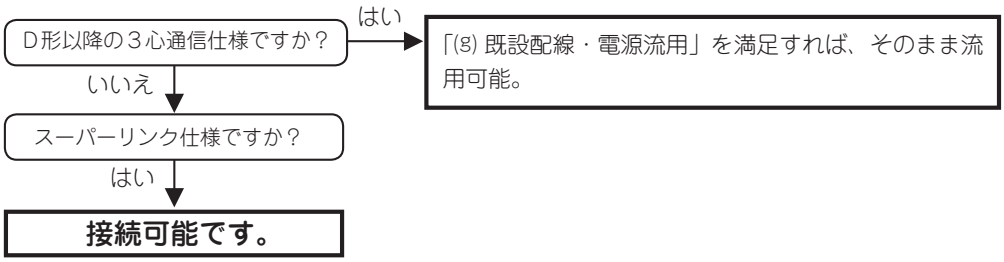
・リモコン線について
◆配線の仕様については、室内ユニットに付属している“据付説明書”をご覧ください。
◆多心ケーブルの使用は避けてください。
◆配線はアース（建物の鉄骨部分または金属等）からできるだけ離してください。

②既設電源の確認
既設電源の電圧や相数、漏電しゃ断器の容量などを確認してください。
◆既設の漏電しゃ断器がインバータ回路用しゃ断器の場合はそのまま使用できます。
インバータ回路用しゃ断器でない場合はインバータ回路用しゃ断器に交換してください。
既設の電源設備を使用する際は、設備の老朽化、破損の有無を必ず確認してください。古い配線や電源設備の場合は、漏電や火災の原因ともなりますのでご注意ください。

③既設配線の導通確認
既設配線の導通確認、電圧確認、漏電しゃ断器の動作確認を行なってください。
異常があれば電線、部品の交換を行ない、配線を適切な状態にしてください。
◆配線と大地間を 500 Ｖメガーで計測して 100 Ω以上あることを確認してください。
配線の劣化等により、100 Ω以上ない場合は新規配線工事を行ってください。

④故障履歴の確認
伝送異常や通電不良など、配線・電源の異常が原因と考えられる故障が過去になかったかを確認してください。
該当する故障があった場合、その異常が改修されているかも確認し、改修されていない場合はその処置を行なってください。
また、少しでも劣化、異常が感じられる部品、配線は、交換もしくは新設を行なってください。

【既設配線流用の例】



(ii) 対象機種

母形毎の代表形式を表２に示します。
各容量毎に右表から母形番号を確認してください。

表２ セゾンエアコン室外ユニット 代表形式

機種母形	暖ガンハイパーインバータ
①	FDCKP805H
②	FDCKP1405H

機種 容量	暖ガンハイパーインバータ	
	単相	三相
80		①
112		
140		②
160		

(iii) 接続方法

1）室外電源取り

・図１に従い配線の接続を行ってください。
・現行ユニットに対して電源線と信号線が分離されている為、
　内外各端子台の端子台 [2] にて電源線と信号線を共締めしてください。
　（ユニット改修は必要ありません。）
・配線長、線種は表３に従ってください。

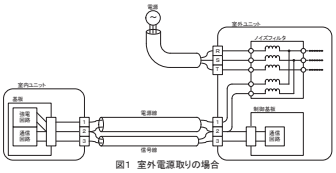


図1　室外電源取りの場合

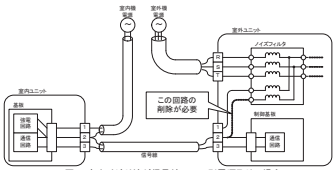


図2　室内外渡り線が信号線のみで別電源取りの場合
（7,8形店舗用PACの配線で室内外別電源取り）

表３ 配線長、線種（室外電源取り）

電源線	配線長	最大 50m（ただしこう長の範囲内）
	線　種	VCT キャブタイヤケーブルもしくは VVF 平形ケーブル 同等品
	線　径	2mm²（φ 1.6）以上
信号線	配線長	最大 50m
	線　種	VCTF
	線　径	0.75mm² 以上

2）室内室外別電源取り

・図２に従い配線の接続を行ってください。
・誤配線時の短絡防止の為、図中に示す室外ユニット内の部品を外します。
　[(iv) 室外ユニット改修内容] に従い改修してください。
・室内ユニット端子台の端子台 [2] では、電源線と信号線を共締めしてください。
・配線長、線種は表４に従ってください。

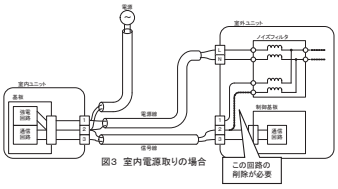


図3　室内電源取りの場合

表４ 配線長、線種（室内室外別電源取り）

信号線	配線長	最大 50m
	線　種	VCTF
	線　径	0.75mm² 以上

表５ 配線長、線種（室内電源取り）

電源線	配線長	最大 50m（ただしこう長の範囲内）
	線　種	VCT キャブタイヤケーブルもしくは VVF 平形ケーブル 同等品
	線　径	φ 2.0 以上
信号線	配線長	最大 50m
	線　種	VCTF
	線　径	0.75mm² 以上

3）室内電源取り（単相機のみ）

・図３に従い配線の接続を行ってください。
・誤配線時の短絡防止のため、図中に示す室外ユニット内の部品を外します。
　[(iv) 室外ユニット改修内容] に従い改修してください。
・内線規定に従い、室内ユニットの端子台 [2] に電源線、室外電源線および信号線を接続します。
・配線長、線種は表５に従ってください。

(iv) 室外ユニット改修内容

接続方法が [室内室外別電源取り]、[室内ユニット電源取り] の場合には、以下の記載内容に従い室外ユニットの改修を行ってください。

母形①，②の場合

端子台 [2] に接続されている端子を外します。
端子台 [2] には配線が２本接続されていますが、外すのは１本のみです。

（１）母形（①,②）ではノイズフィルタに接続されているほうを外してください。
　　（各母形における改修対象は図５を参照）
（２）外した端子は、閉塞端子などを使用し確実な絶縁処理をしてください。（図６）

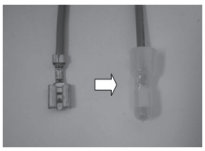


図６ 端末処理

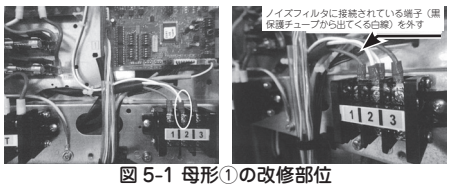


図 5-1 母形①の改修部位

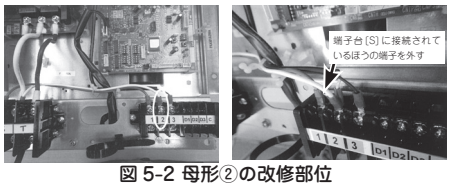


図 5-2 母形②の改修部位

(9) 電気配線工事

PSC012D111

電気配線工事は電気設備技術基準および内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
安全のため必ずお守りください。
●誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「⚠警告」と「⚠注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。
●「⚠警告」「⚠注意」の意味

⚠警告	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
⚠注意	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗⏚ 必ず指示に従い行う
●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電または過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

⚠警告

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
●電源には必ず漏電しゃ断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切換・機種容量の設定

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。（ ▭ は工場出荷時の設定）

スイッチ No.	制御内容
SW2	室内アドレス（0 － Fh）
SW5 － 1	親 / 子切換（プルーラル / 子機設定）
SW5 － 2	

スイッチ No.	制御内容	
SW6 － 1 ～ 4	機種容量	
SW7 － 1	ON	運転チェック・ドレンポンプ試運転
	OFF	通常運転

機種容量の設定

●本室内ユニットは、マルチV接続の場合のみ、それぞれの室内ユニット毎に機種容量設定が必要です。
機種容量設定は室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチ SW6 で設定してください。

注： FDR, FDU, FDK,FDFはトリプル接続設定はありません。

シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合 ※同機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

① ZP シリーズは自動で機種容量を認識しますので、スイッチ設定は不要です。
②室外ユニットから電源投入すると自動で機種容量を認識します。エコタッチリモコンから、機種容量を確認できます。
詳細は ③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法 を参照してください。

マルチ V 接続の場合 ※異機種 / 異容量、同機種 / 異容量、異機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

①電源投入前に室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチ SW6 で機種容量を設定してください。形式により設定できる機種容量は下表の通りです。これ以外に設定しないでください。正常に運転できません。また破損の原因となります。

FDT の場合		ZP63			ZP71	ZP80	ZP160	
FDR の場合		ZP56		ZP63	ZP80		ZP112	ZP160
容量	自動認識	P50	P56	P63	P71	P80	P112	P140
SW6-1	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF
SW6-2	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF
SW6-3	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON
SW6-4	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON

SW6
ON
1 2 3 4
［工場出荷時設定］

注1: 工場出荷時の設定は自動認識（全てOFF）になっています。
注2: シングル・ツイン・トリプル接続の場合でもスイッチを自動認識以外の状態にすると、設定した機種容量として認識してしまいます。

②エコタッチリモコンから設定された機種容量を確認できます。詳細は ③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法 を参照してください。

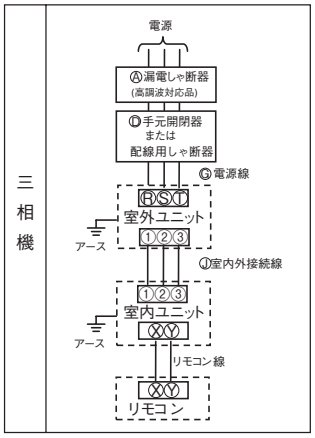
①電源・室内外配線の接続

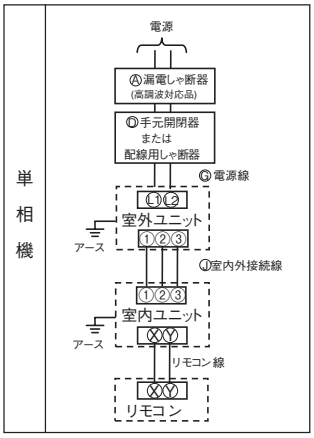
●電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
②電源は、室外ユニットへ接続してください。
③電気ヒータ（別売品）はなしにて記載してあります。注:電気ヒータの組込みは不可です。別置ヒータを連動させる場合は、ヒータ専用電源を設けること。
●アース線は室内外接続線および室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
●電源は工事が完了するまで入れないでください。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。

●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害が生じる恐れがあります。
●室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外ユニットに付属の据付説明書を参照ください。
●室内外接続線は途中接続しないでください。途中接続した場所に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
●天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
●室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
●リモコン用端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
●室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
①室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、リモコン側端子台に接続してください。室内外接続線の①②③は極性がありますので、必ず番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。
②電源には必ず漏電しゃ断器を取付けてください。漏電しゃ断器は、インバータ回路用しゃ断器（三菱電機製NV−Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
③漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合には、漏電しゃ断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用しゃ断器が必要となります。
④手元開閉器は室外ユニットの近傍に設置してください。
●配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
●補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。

シングル接続の結線

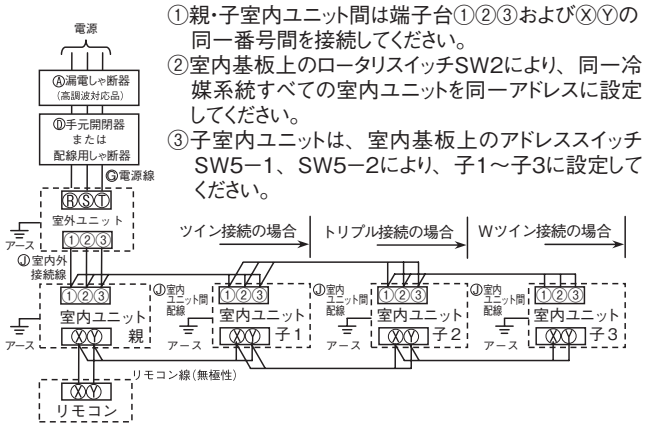
①室内電源取りおよび室内外別電源取りは原則できません。
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照の上、所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。





ツイン・トリプル・Wツイン接続の結線

①親・子室内ユニット間は端子台①②③およびⓍⓎの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内ユニットを同一アドレスに設定してください。
③子室内ユニットは、室内基板上のアドレススイッチSW5−1、SW5−2により、子1〜子3に設定してください。



室内ユニットの親・子設定方法 （工場出荷時「親」設定）

室内ユニット		親	子1	子2	子3
室内基板 SW	SW5−1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5−2	OFF	ON	OFF	ON

②リモコンの取付（別売部品）

●取付の詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。　　注：FDFは標準付属につき工事不要

●次の位置へ取付けないでください。

○直射日光の当たる所　○湿気の多い所、水が飛散する所　○油の飛沫や蒸気が直接触れる所
○発熱器具に近い所　○取付面が発熱・結露する所　○取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

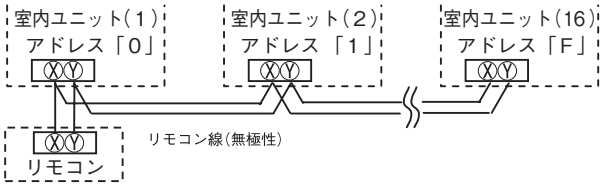
①リモコンの取付は、リモコン付属の説明書に従ってください。
②リモコン線は、0.3mm^2×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は 1mm 以上のものを使用してください。（現地手配）
③リモコン線の総延長は600mです。
延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。ただし、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

100～200m以内・・・・・0.5mm^2× 2心
300m以内・・・・・0.75mm^2×2心
400m以内・・・・・1.25mm^2×2心
600m以内・・・・・2.0mm^2×2心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。
⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。
⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

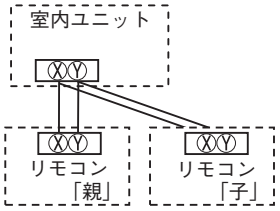
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台の室内ユニット（最大16台）をグループ制御できます。同一モード、同一室温設定で運転します。
②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。
③室内ユニットの基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



複数リモコン使用時の親子設定

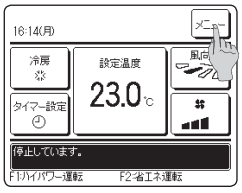
室内ユニット1台（または1グループ）に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。
ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン + ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。
1 個を「親」に、残りを「子」に設定してください。
○ 注意　リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



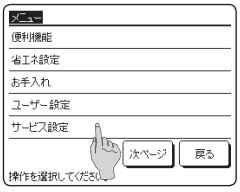
③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法

●電源投入後、接続されている室内ユニットの機種容量とアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。（アドレス確認はシングル接続を除く）

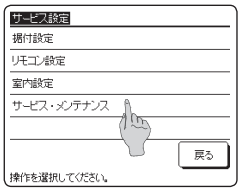
eco タッチリモコン (RC-DX3B) の場合



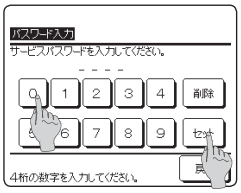
1. メニューをタッチする。
メニュー画面に切り換わります。



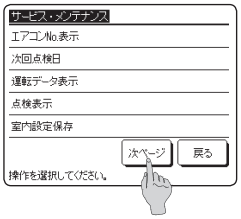
2.サービス設定をタッチする。
サービス設定画面に切り換わります。



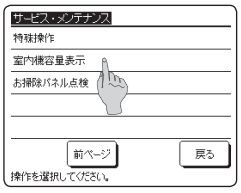
3.サービス・メンテナンスをタッチする。
パスワード入力画面に切り換わります。



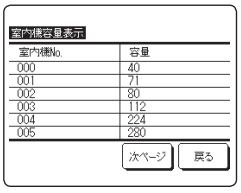
4.サービスパスワードを入力する。
5.セットをタッチする。
サービス・メンテナンスの画面に切り換わります。



6.次ページをタッチする。



7.室内機容量表示をタッチする。

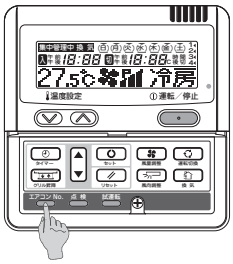


8.接続されている室内ユニットのアドレスNo.（室内機No.）と機種容量（容量）が表示されます。

③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法（つづき）

標準リモコン (RC-D4G) の場合　機種容量は確認できません。

注： FDFはRC-D4Gは使用しません。



1.エアコンNo.ボタンを押す。
室内ユニットアドレスが表示されます。

2. ▲▼ボタンを押す。
接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。

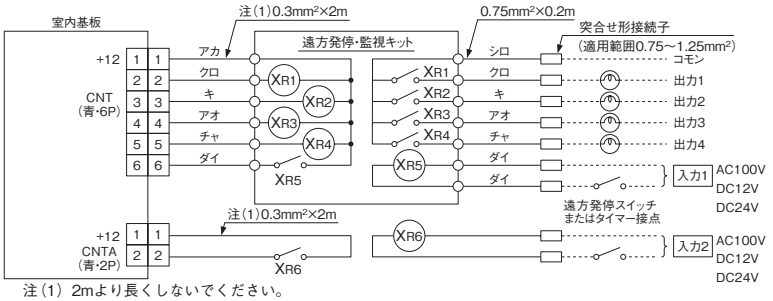
カバーを開けた状態です。また、液晶表示部は全表示してあります。

④リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	ecoタッチリモコンから操作 (RC-DX3B)	標準リモコンから操作（RC-D4G)
1	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③ [運転切換] を押してください。送風運転します。
2	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ（SW1）を「子」に設定してください。
3	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [セット] ⇒データ確認中⇒室内機選択⇒▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを１台選択⇒ [セット] ⇒データ確認中⇒▲▼データ選択
4	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [▼] ⇒エラーデータ表示▲⇒ [セット] ⇒データ確認中⇒データ表示
5	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。 ② [運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③ [試運転] を３秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
6	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ② [▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③ [セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示：「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

⑤室内基板ＣｎＴコネクタの機能



注(1) 2mより長くしないでください。

●$X_{R1\sim4}$はＤＣ１２Ｖリレー（オムロン製ＬＹ２Ｆ相当品）
●X_{R5}は、ＤＣ１２，２４Ｖまたは１００Ｖリレー（オムロン製ＭＹ２Ｆ相当品）
●ＣｎＴコネクタ（現地側）メーカ、形式
　コネクタ：モレックス製　５２６４－０６
　端　　子：モレックス製　５２６３Ｔ
　別売品（PCZ006A043）を準備しておりますのでご利用ください。
●遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。
●ＣｎＴＡコネクタは、ＦＤＴ他に搭載<仕様書で確認願います>（現地側）メーカ、形式
　コネクタ：日本圧着端子JST製　ＸＡＰ０２Ｖ－１－Ｅ
　端　　子：日本圧着端子JST製　ＳＸＡ－０１Ｔ－Ｐ０.６
　別売品（PCZ006A053）を準備しておりますのでご利用ください。

●出力1～4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。
工場出荷時は下記のように設定されています。

出力

①	運転出力	⑧	ファン運転出力3
②	暖房出力	⑨	デフロスト , 油戻し出力
③	圧縮機ON出力	⑩	換気出力
④	点検 (異常) 出力	⑪	ヒータ出力
⑤	冷房出力	⑫	フリークーリング出力
⑥	ファン運転出力1	⑬	室内過負荷異常出力
⑦	ファン運転出力2		

入力

①	運転 / 停止	⑤	設定温度シフト
②	運転許可禁止	⑥	強制サーモ OFF
③	緊急停止	⑦	一時停止
④	冷房 / 暖房	⑧	静音モード

工場出荷時の設定

CnT-2	出力 1	運転出力	CnT-5	出力 4	点検 (異常) 出力
CnT-3	出力 2	暖房出力	CnT-6	入力 1	運転 / 停止
CnT-4	出力 3	圧縮機ON出力	CnTA	入力 2	運転 / 停止

●設定の方法は294ページをご覧ください。

⑽ リモコンからの操作・設定

リモコンからの操作・設定

A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。
B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。
C：インターネットよりユーティリティーソフトを配信中です。

○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。
△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
1. リモコンネットワーク					
1	複数室内機制御		リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。		○
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン (含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・SW 操作					
1	メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2	運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3	設定温度		室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4	風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効 / 無効を設定します(FDK の場合)。※ 2	A	△
5	風量		風量を設定します。	A	○
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。	A	○
7	運転／停止 SW		運転を開始します。／停止します。	A	○
8	F1 スイッチ		F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9	F2スイッチ		F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10	言語切換		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
3. 便利機能					
1	フリーフロー設定 ※		各ルーバの可動範囲（上限位置—下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置 - 右限位置も設定します。	A	△
2	エアフレックス（風よけ）設定 ※ エアフレックスパネル組合せの場合		・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。 ・ON/OFF 切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF（作動中 / 停止中）を切換えます。	A	
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。	A	△
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
4	おこのみ設定 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定が可能です。	A	
5	ウィークリータイマー		1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温 / 低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
7	換気 換気機器組合せの場合		換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転 / 停止ができます。	A	○

リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
9	室外静音設定 ※		室内ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	
10	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
11	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定			管理者パスワード		
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ～ 240 分 (10 分単位）まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	△
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0,40 ～ 80% (20%単位）から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ～ 120 分（10 分単位）まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4	人感センサー制御 人感センサー付パネル組合せの場合		人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。	A	
5. お手入れ					
1	フィルターサインリセット	フィルターサインの解除	フィルターサインの解除を行います。	A	
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	
2	グリル昇降 ※	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。	A	○
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・0.1 ～ 4.0 mの範囲で設定できます。 ・設定長さは 0.1 m単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード ※	お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
		清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
6. ユーザ設定					
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12 H／ 24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1 時間の補正を行います。	A	
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。	A	
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。	A	
		運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定][言語切換設定][ドラフト防止設定]	A	△
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
		温度設定刻み切換	設定温度の刻み (0.5℃ /1.0℃）を設定します。	A	
		設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切換えます。	A	
		リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン･室温･外温表示のあり / なしを設定します。	A	△
		管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A	
			管理者パスワードのリセットを行います。	B	
		スイッチ機能変更	F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転 2][フィルターサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示] [エアフレックス ON/OFF]（RC-DX3B のみ）	A	
7. サービス設定					
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録	据付日を登録した場合、点検表示を行います。	B	
		サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
		試運転	試運転の開始／停止を制御できます。	B	△
		冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。		
		ドレンポンプ試運転 ※	ドレンポンプのみを運転します。		
		お掃除試運転 ※	フィルター清掃　ブラシ清掃運転します。　お掃除パネル組合せの場合	B	
		ダクト機静圧補正 ※	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
		自動アドレス変更 ※	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
		親室内機アドレス設定 ※	個別発停マルチシリーズ　設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
		バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。	B	
		人感センサー設定 人感センサー付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内ユニットの人感センサー検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサー制御を行うことができません。	B	
		グリル昇降操作 ※	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
		吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
		リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△
		リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房　別々に補正可能です。	B	△
		運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
		設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／℉の選択が可能です。	B	
		ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○

リモコンからの操作・設定（つづき）

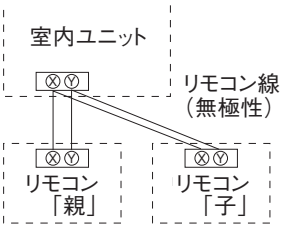
設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
2	リモコン設定 サービスパスワード	外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○
		上下ルーバ制御　※	上下ルーバの [4 位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	○
		左右ルーバ制御　※	左右ルーバの [固定位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	
		換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
		停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
		設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
		風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
		フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
		外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
		外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
		外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
		外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
		暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～ +3℃の範囲で補正できます。	B	△
		吸込温度補正	吸込センサー検知温度を± 2℃の範囲で補正できます。	B	△
		冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
		フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
		ドレンポンプ運転　※	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
		冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン間欠	暖房停止･暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
		送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
		外調機設定　※	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
		運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
		サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
		風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
		室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CnT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
		外部出力設定	外部出力 1 ～ 4 に割当てる機能を換えられます。	B	
4	サービス・ メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○
		次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
		運転データ表示	室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
		点検表示			
		異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。	B	△
		異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。		
		異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
		定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
		室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
		特殊操作	[室内アドレス消去][CPU リセット][初期化設定][タッチパネル調整] の操作ができます。	B	△
		室内機容量表示	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。	B	
		お掃除パネル点検 ※	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	○
8. 困ったときは・・・					
1	連絡先表示		登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2	サービスを依頼される前に Q & A		Q &Aが表示されます。	A	
9. 点検表示					
	点検表示確認		異常発生時の表示	A	△
10. パソコン接続					
	USB 接続		ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆※印の項目は FDF では機能しません。その他の機種においても組合せ室内･室外ユニットの仕様により､本内容が機能しない場合があります。

(a) RC-DX3B の場合

1. 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台または1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。
片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。
右表のように子リモコンは操作できる機能に制限があります。



6 項の操作で「親」「子」の設定をしてください。

リモコン操作			親	子
運転 / 停止、設定温度切換、風向切換・オートスイング、風量切換　操作			○	○
エアフレックス ON/OFF			○	×
ハイパワー運転、省エネ運転			○	○
室外静音制御			○	×
便利機能	フリーフロー設定		○	×
	エアフレックス（風よけ）設定		○	×
	タイマー設定		○	○
	おこのみ設定		○	○
	ウィークリータイマー		○	×
	るす番運転		○	×
	換気		○	○
	言語切換設定		○	○
	室外静音制御		○	×
	見てみて		○	×
	消費電力量表示		○	×
省エネ設定			○	×
お手入れ	フィルターサインリセット		○	○
	グリル昇降		○	○※
	お掃除パネル操作		○	×
ユーザー設定	初期設定		○	○
	管理者設定	操作制限設定	○	×
		室外静音タイマー	○	×
		設定温度範囲	○	×
		温度設定刻み切換	○	×
		設定温度表示切換	○	○
		リモコン表示設定	○	○
		管理者パスワード変更	○	○
		スイッチ機能変更	○	○

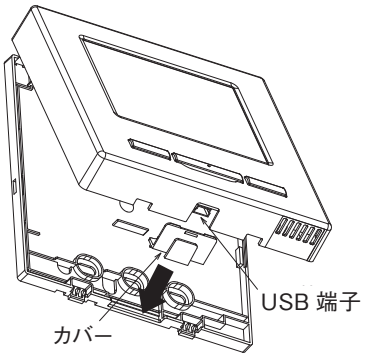
※リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、子リモコンから室内ユニットの選択はできません。全台同時に昇降します。

○：操作可能、×：操作不可

リモコン操作				親	子
サービス設定	据付設定	据付日登録		○	×
		サービス情報入力		○	○
		試運転		○	×
		ダクト機静圧補正		○	×
		自動アドレス変更		○	×
		親室内機アドレス設定		○	×
		バックアップ制御		○	×
		人感センサー設定		○	×
		グリル昇降操作		○	○
	リモコン設定	リモコン親子設定		○	○
		吸込センサー制御		○	×
		リモコンセンサー		○	×
		リモコンセンサー補正		○	×
		運転モード選択		○	×
		温度設定単位		○	×
		ファン速度		○	×
		外部入力設定		○	×
		上下ルーバ制御		○	×
		左右ルーバ制御		○	×
		換気設定		○	×
		停電補償		○	×
		設定温度自動設定		○	×
		風量自動設定		○	×
	室内設定			○	×
	サービス・メンテナンス	エアコン No. 表示		○	○
		次回点検日		○	×
		運転データ表示		○	×
		点検表示	異常履歴表示	○	○
			異常時運転データ表示・消去	○	×
			定期点検リセット	○	○
		室内設定保存		○	×
		特殊操作	室内機アドレス消去	○	×
			CPU リセット	○	○
			初期化設定	○	×
			タッチパネル調整	○	○
		室内機容量表示		○	×
		お掃除パネル点検		○	×

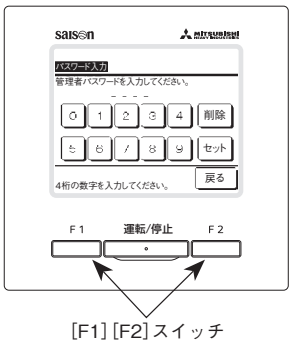
お知らせ　パソコン接続について

USB コネクター（mini-B）を介してパソコンからの設定が可能です。
上ケース下面カバーを外して接続してください。
使用後はカバーを元の位置にはめてください。
接続には、専用のソフトが必要です。
詳細は、ホームページを参照してください。



お知らせ　パスワード初期化

管理者パスワード（日常使用する項目設定用）と
サービスパスワード（据付・試運転・メンテナンス用）があります。
○管理者パスワード初期値は、0000 です。設定変更ができます（取扱説明書参照）。
　管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で［F1］［F2］スイッチを同時に５秒長押しするとパスワードは初期化されます。
○サービスパスワードは、9999 です。設定変更ができません。
　管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



おねがい

1 つのリモコンに複数台の FDT、FDTC を接続する場合、パネルの種類をエアフレックス機能のあるパネルか、標準パネルのどちらかに統一してください。

2. 電源投入初期設定

電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。

・親子が設定されていない場合⇒(1)

・親子が設定されている場合　⇒(2)

ご注意

以下の画面表示に付した※印の設定はFDFでは機能しません。

(1) **親子が設定されていない場合**

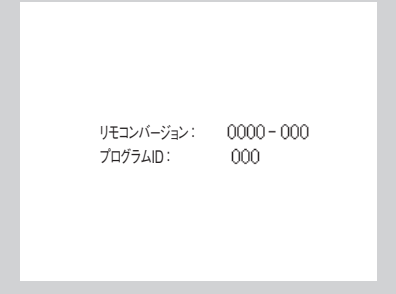
①⇒②親子入力画面を表示します。

枠で囲まれた 親 子 どちらかをタッチしてください。初期設定作業を開始します。

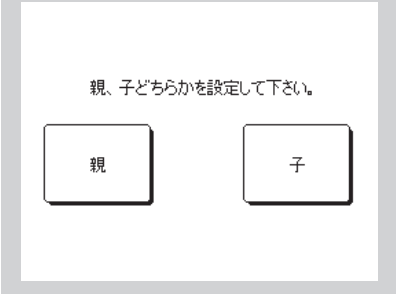
誤ってタッチした場合は、初期設定作業が終了後に設定変更することができます。(8. リモコン機能設定④)

室内ユニット1台または、1グループに、2個のecoタッチリモコンが接続されている場合、1個目を 親 で設定開始すると 2個目は自動で 子 になります。

①スタート画面



②親子設定入力画面



ご注意

リモコン1台の場合は、親 をタッチしてください。

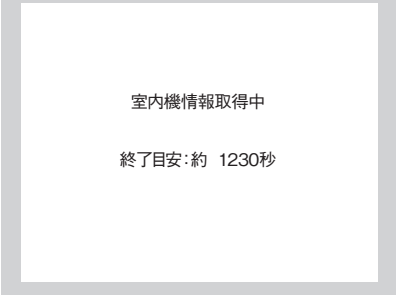
初期状態では、どちらか選択されるまで、待ち続けます。

親 を選択した場合　③⇒④⇒⑤の順で画面が遷移します。

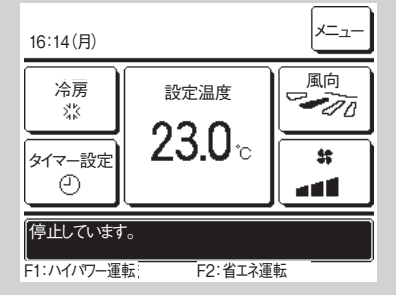
子 を選択した場合　①⇒⑧⇒⑤の順で画面が遷移します。

③室内機検索中

④室内機情報取得中



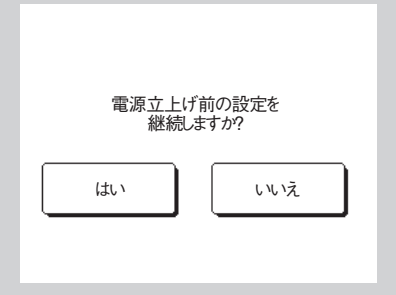
⑤ TOP 画面



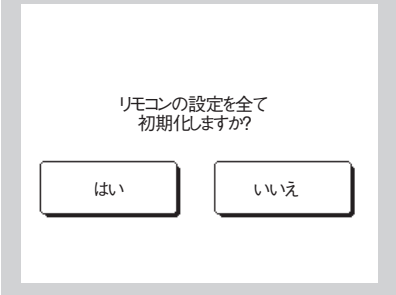
通信が10分間確定しない場合、赤LEDが点滅します。

(2) **リモコンの親子設定がされている場合**

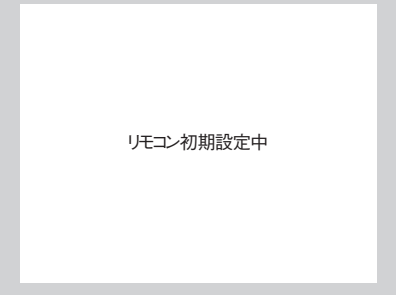
⑥設定継続確認画面



⑦初期化確認画面



⑧初期設定中画面



はい ⑧⇒⑤の順で画面が遷移します。

いいえ ⑦に画面が遷移します。

表示が15秒間タッチされない場合は はい 継続を認識して⑤画面に変わります。

はい ①⇒②の順で画面が遷移します。

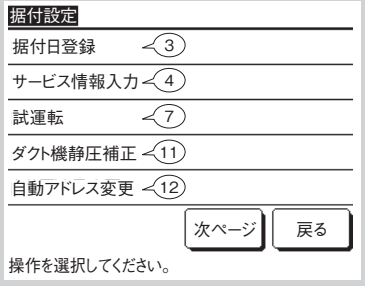
いいえ ⑥に画面が遷移します。

初期化すると出荷状態に戻ります。

3. 据付設定　試運転

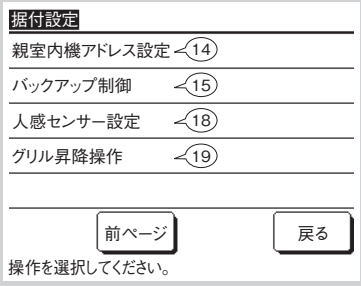
ＴＯＰ画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ 据付設定 ⇒ サービスパスワード

①据付設定メニュー＃１



選択した画面に移ります。

②据付設定メニュー＃２

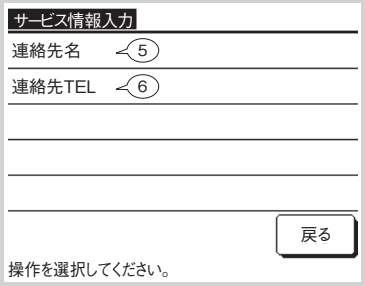


選択した画面に移ります。

③据付日登録

▲ ▼ で設定してください。
セット で登録されます。

④サービス情報入力



お客様がサービスを依頼される際の連絡先を入力してください。

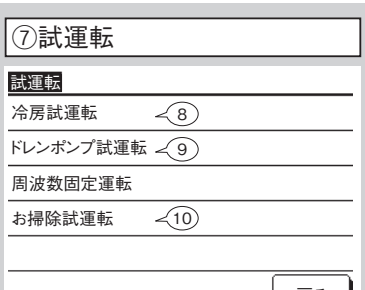
⑤連絡先名登録

連絡先名を半角 26 文字相当以内で入力し、セット ボタンをタッチしてください。数字、英字、カナ、漢字、キリル文字、中国文字での入力ができます。

⑥連絡先 TEL 登録

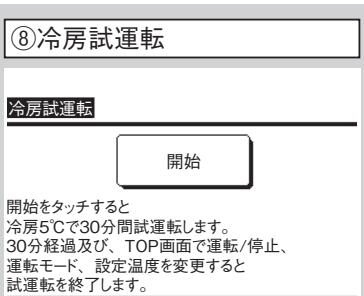
連絡先電話番号を 13 文字以内で入力し、セット ボタンをタッチしてください。

⑦試運転



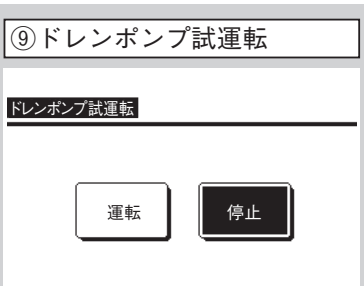
選択した画面に移ります。

⑧冷房試運転



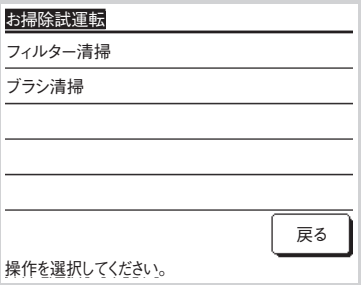
冷房の停止中に操作可能です。室温が低く冷房試運転ができない場合、室温設定を 30 分間 5℃に下げて運転します。

※ ⑨ドレンポンプ試運転



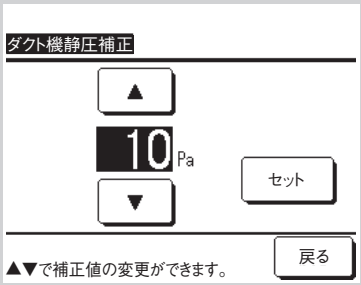
ドレンポンプのみで運転が可能です。

※ ⑩お掃除試運転



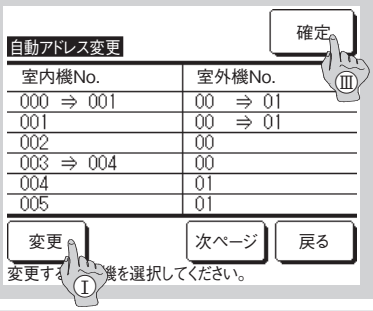
FDT お掃除パネルを組合せる場合に操作できます。
詳細は、お掃除パネルの説明書をご覧ください。

※ ⑪ダクト機静圧補正

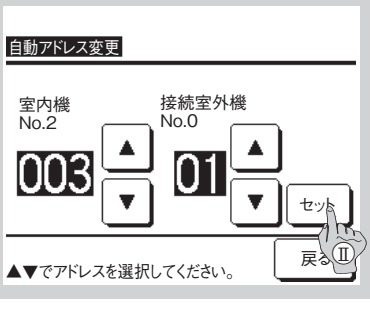


機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニットを組合せる場合に操作できます。機外静圧を選択し、セットボタンをタッチしてください。

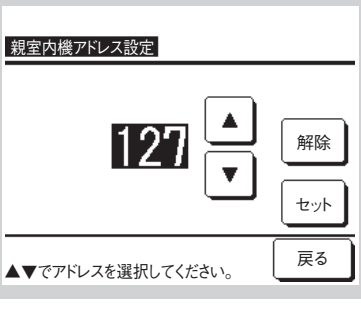
※ ⑫自動アドレス変更



※ ⑬自動アドレス変更



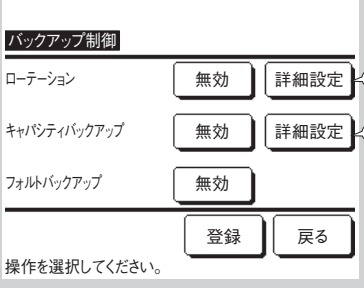
※ ⑭親室内機アドレス設定



個別発停マルチシリーズで使用の際に自動アドレス設定で登録されている場合に操作できます。
室内ユニット毎の室内外アドレスを変更するための機能です。室内ユニットを選択して
Ⅰ 変更 をタッチすると⑬に画面が遷移します。
Ⅱ セット をタッチすると⑫に画面が遷移し、新アドレスが表示されます。
Ⅲ 確定 をタッチすると登録されます。

個別発停マルチシリーズで親室内ユニットのみ、冷房 - 暖房運転モードの選択を許可します。子とする室内ユニットに対し、親室内機アドレスを設定します。親室内機アドレスが設定された子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

⑮バックアップ制御

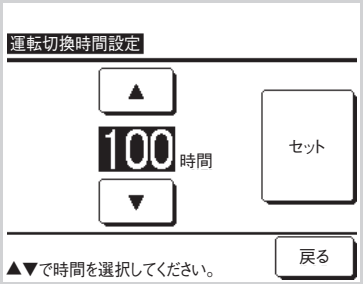


1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）が接続されている時に、以下の制御が可能です。

1. ローテーション：2 台の室内ユニットが設定した時間毎に、交互に運転します。
2. キャパシティバックアップ：設定温度と室温の温度差により、室内ユニットの運転台数を 1 台⇔2 台へ切り換えます。
3. フォルトバックアップ：室内ユニット 2 台中 1 台が運転している場合、運転している室内ユニットが異常停止すると、もう 1 台の室内ユニットが運転を開始します。

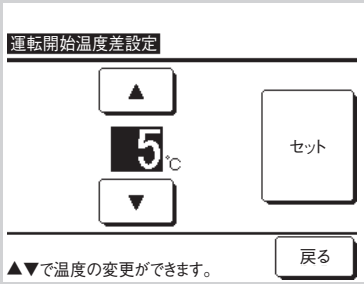
有効 / 無効 を選択し（無効 をタッチすると 有効 に変わります。）、登録 ボタンをタッチすると、設定内容が確定します。

⑯ローテーション詳細設定



ローテーションの運転を切換える時間を設定します。
1 ～ 999 時間の間で 1 時間刻みで設定可能です。
時間切換後、セットで仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って登録をタッチしてください。

⑰キャパシティバックアップ詳細設定

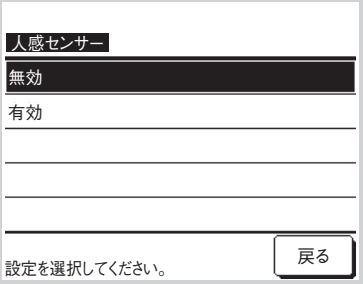


キャパシティバックアップの 1 台⇔ 2 台を切換える設定温度と室温の温度差を設定します。
2～5℃の間で1℃刻みで設定可能です。温度切換後、セットで仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って登録をタッチしてください。

バックアップ制御の制約条件

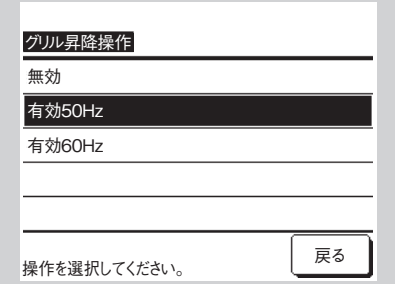
1. 運転モードが「自動」の場合、バックアップ制御はできません。運転モードが「自動」に設定された空調機にバックアップ制御を設定すると、運転モードは自動的に「冷房」モードに切換わります。
2. ローテーション制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。ローテーション運転を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
3. キャパシティバックアップ制御を設定した場合は、自動的にフォルトバック制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。キャパシティバックアップ制御を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
4. フォルトバック制御を単独で有効に設定することも可能です。
5. るす番運転、ウォームアップ設定、外部入力設定は、バックアップ制御と同時に設定することはできません。
6. ローテーション運転制御または、フォルトバックアップ制御設定時には、設定対象となっている室内ユニット２台（２グループ）の内、どちらか一方のみが運転します。両方同時に運転することはありません。
7. いずれの制御も、室内アドレスの若い室内ユニットが先に運転開始します。

⑱人感センサー設定



リモコンに接続されている室内ユニットの赤外線センサーの有効／無効かを選択します。

※ ⑲グリル昇降操作設定



ラクリーナパネルを組合せる場合は、据付場所電源周波数をタッチしてください。

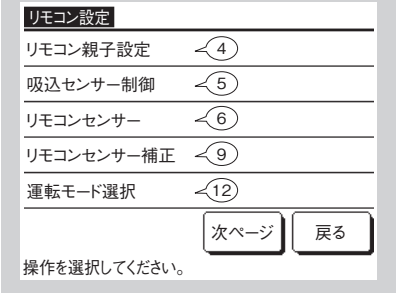
・ 人感センサーを採用のお客様は上記の設定を行ってください。
　人の活動量を検知させたい室内ユニットを有効にしてください。
　人感センサー設定が無効の場合には、人の活動量を検知しないため人感センサー制御（パワーセーブ、オートオフ）を行いません。
・ 4形以前の室内ユニットは人感センサー設定を有効にできません。
　人感センサー設定をタッチとすると、「操作無効です」と表示されます。

ラクリーナパネルを採用のお客様は、上記の設定を行ってください。

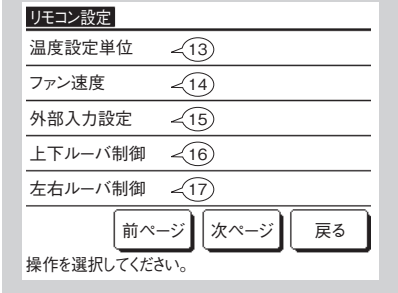
4. リモコン機能設定　お知らせ：停止中のみ操作可能

ＴＯＰ画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ リモコン設定 ⇒ サービスパスワード

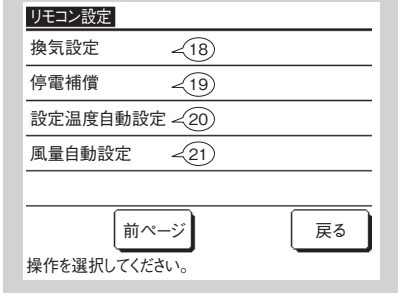
①リモコン設定メニュー＃１



②リモコン設定メニュー＃２

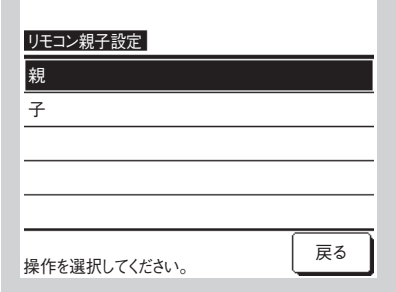


③リモコン設定メニュー＃３



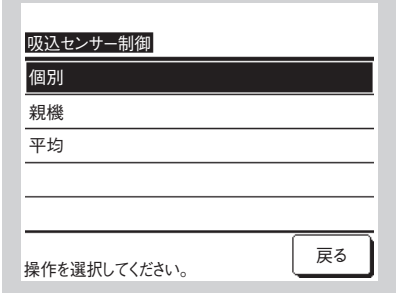
選択した画面に移ります。

④リモコン親子設定



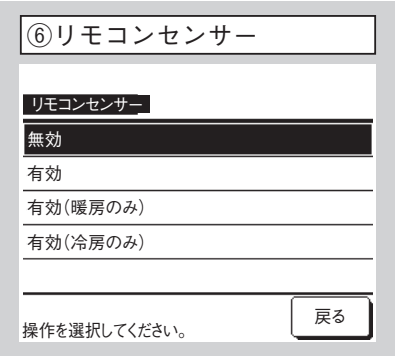
リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。

⑤吸込センサー制御



室内ユニットの吸込センサーの検知温度によりサーモ判定を行います。
1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサーを選択できます。

1. 個別：各々の室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。プルーラル接続されている場合はプルーラル親機の吸込温度を基準とします。
2. 親機：接続されている室内ユニットの中で、アドレスの若い室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。
   1台のリモコンに、プルーラル接続が複数接続されている場合は、プルーラル親機間でアドレスが若い室内ユニットの吸込温度を基準とします。
3. 平均：接続されている室内ユニットの吸込温度を平均し、サーモ判定します。



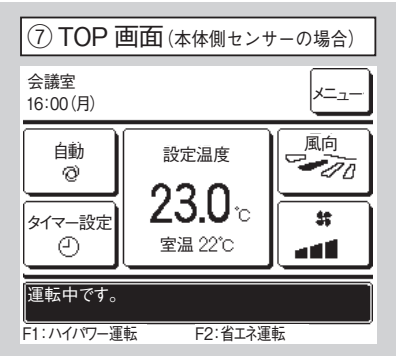
室内ユニット本体吸込センサーをリモコン側に変更できます。

無効　室温表示は、本体側センサーになります。⇒ ⑦

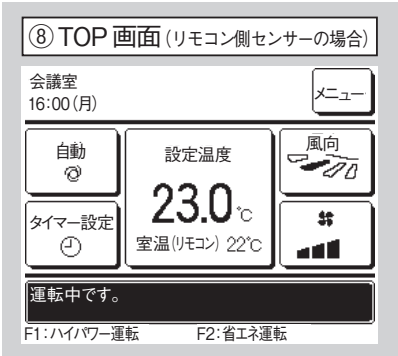
有効　室温表示は、リモコン側センサーになります。⇒ ⑧

有効(暖房のみ)　室温表示は、暖房中のみリモコン側センサーになります。

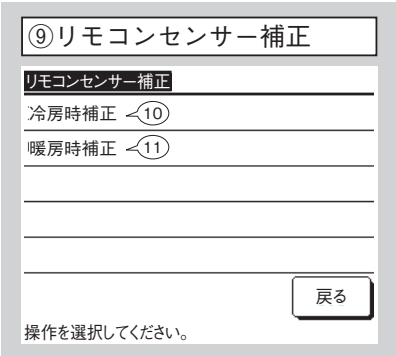
有効(冷房のみ)　室温表示は、暖房以外で運転中にリモコン側センサーになります。



リモコンセンサー無効時は、TOP画面で“室温○℃”と表示されます。



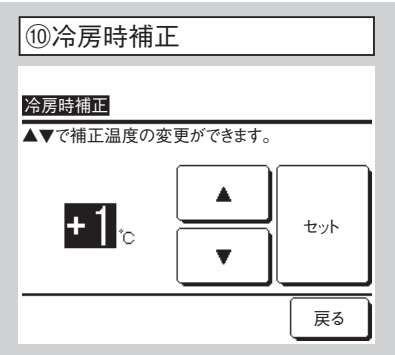
リモコンセンサー有効時は、TOP画面で“室温(リモコン）○℃”と表示されます。



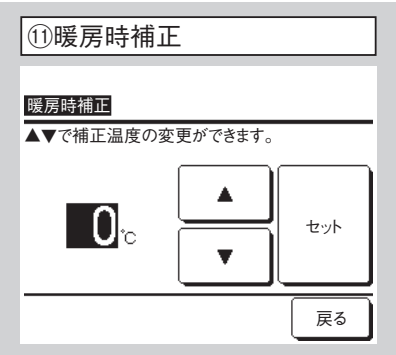
リモコンセンサー検知温度の補正ができます。

冷房時補正　⇒ ⑩

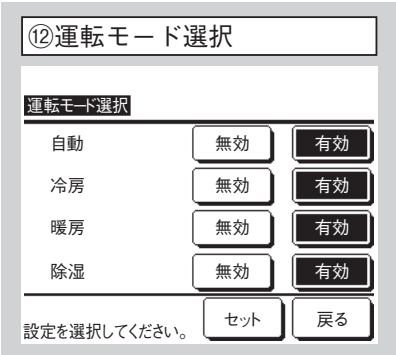
暖房時補正　⇒ ⑪



冷房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。
－３～＋３の範囲で設定します。



暖房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。
－３～＋３の範囲で設定します。



各運転モード毎に有効・無効を設定可能です。
冷房または暖房を無効にした場合、自動も無効になります。

⑬温度設定単位

温度設定単位
℃
℉
操作を選択してください。 戻る

設定温度の単位を設定します。

⑭ファン速度

ファン速度
4速
3速
2速（急-弱）
2速（急-強）
1速
操作を選択してください。 戻る

ファン速度選択の変更が可能です。室内ユニットにより対応できない場合があります。

⑮外部入力方式

外部入力設定
個別
全台
操作を選択してください。 戻る

1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、運転／停止に対して CnT の入力の適用範囲を設定できます。

個別　CnT 入力された室内ユニットのみに適用されます。

全台　リモコンが接続されている室内ユニット全てに適用されます。

※ ⑯上下ルーバ制御

上下ルーバ制御
4位置停止
フリー停止
操作を選択してください。 戻る

4位置停止　上下吹出ルーバを 4 段階で設定可能。

フリー停止　リモコンスイッチ操作直後の位置に停止します。

※ ⑰左右ルーバ制御

左右ルーバ制御
固定位置停止
フリー停止
操作を選択してください。 戻る

固定位置停止　左右吹出ルーバを 8 パターンで設定可能。

フリー停止　リモコンスイッチ操作直後の位置に停止します。

⑱換気設定

換気設定
無効
連動
単独操作
操作を選択してください。 戻る

換気機器組合せの設定ができます。

無効　接続無し。

連動　エアコン運転／停止に連動し、換気出力（CnT）に出力します。

単独操作　メニューから換気を選択により換気単独で運転 / 停止出力を行います。

⑲停電補償

停電補償
有効
無効
操作を選択してください。 戻る

運転中に停電した場合、

有効　停電復旧（電源投入後の制御終了）しだい、停電前の状態に戻ります。

無効　停電復旧後、停止します。

⑳設定温度自動設定

設定温度自動設定
有効
無効
操作を選択してください。 戻る

有効　室温設定画面から自動の選択が可能になります。

無効　室温設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

㉑風量自動設定

風量自動設定
有効
無効
操作を選択してください。 戻る

有効　風量設定画面から自動の選択が可能になります。

無効　風量設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

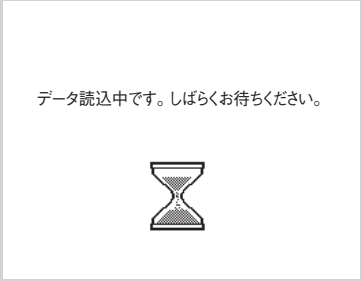
5. 室内機能設定　お知らせ：停止中のみ操作可能

ＴＯＰ画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ 室内設定 ⇒ サービスパスワード

①室内機選択

②室内機選択 2

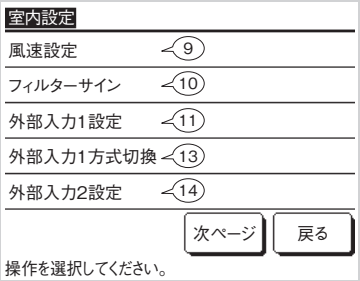
③データ読込中



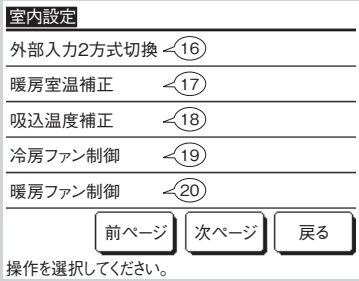
複数室内ユニットを接続の場合、接続された室内ユニットが表示されます。
000 ～ 015 各室内ユニット毎に個別設定されます。
全台 全台同一設定されます。

室内ユニットからデータ受信後に④に画面が切換わります

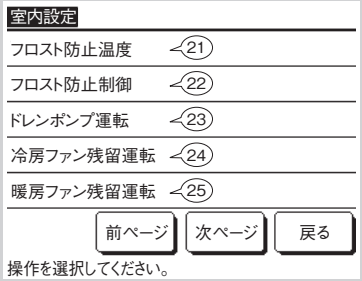
④室内設定メニュー＃１



⑤室内設定メニュー＃２

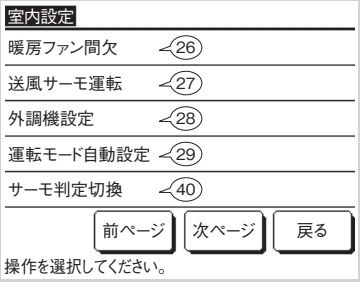


⑥室内設定メニュー＃３

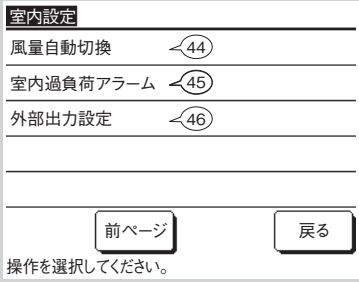


選択した画面に移ります。

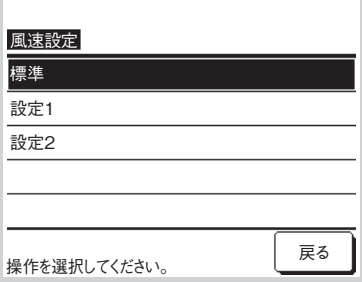
⑦室内設定メニュー＃４



⑧室内設定メニュー＃５

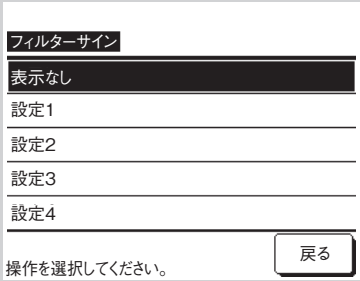


⑨風速設定



室内ユニットの風速設定を設定します。詳細は、293ページを参照ください。

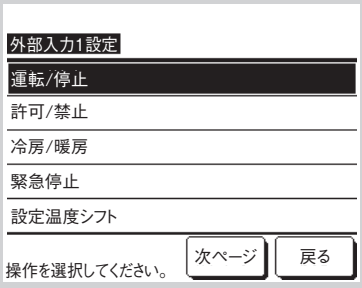
⑩フィルターサイン



フィルターサイン点灯時間を設定します。

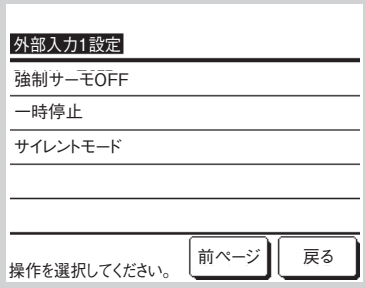
	標準	FDTお掃除
表示なし	無し	無し
設定１	180Hr	1,000Hr
設定２	600Hr	2,000Hr
設定３	1,000Hr	2,500Hr
設定４	1,000Hr後運転停止	2,500Hr後運転停止

⑪外部入力１設定 #1

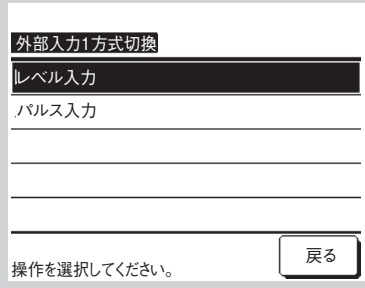


室内ユニット CnT 入力時の制御を設定します。
詳細は、294ページを参照ください。

⑫外部入力１設定 #2



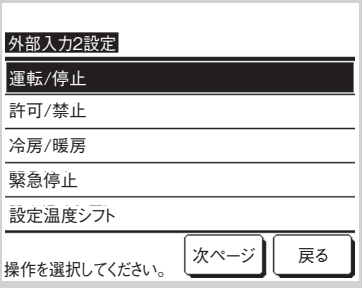
⑬外部入力１方式



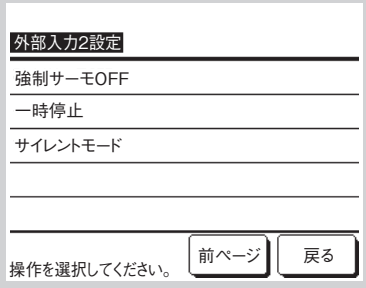
室内ユニットCnTへの入力信号方式を設定します。
詳細は、294ページを参照ください。

外部入力２を装備している室内ユニットと組合わせた場合に操作できます。詳細は、サービス編を参照ください。

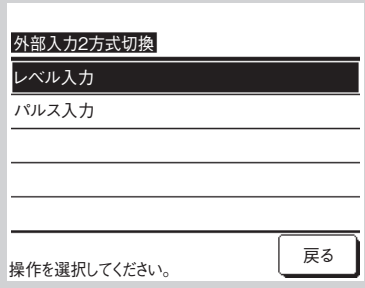
⑭外部入力２設定 #1



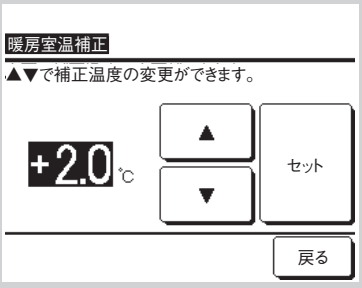
⑮外部入力２設定 #2



⑯外部入力２方式

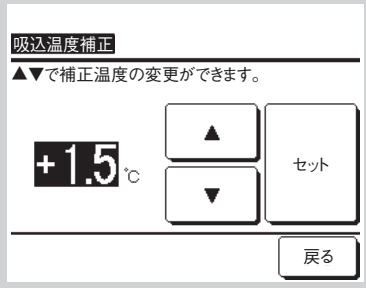


⑰暖房室温補正



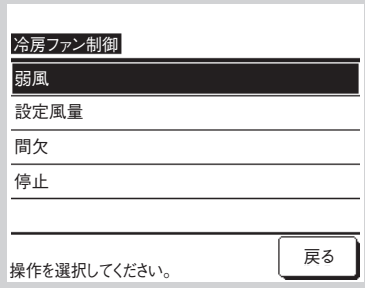
暖房サーモ判定温度を補正します。
0℃／ +1℃／ +2℃／ +3℃

⑱吸込温度補正



本体吸込センサー検知温度を補正します。
-2℃／-1.5℃／-1℃／ 0℃／ +1℃／ +1.5℃／ +2℃

⑲冷房ファン制御



冷房サーモ OFF 中のファン速度設定

弱風　弱風運転

設定風量　サーモ ON 中と同風量

間欠　2 分Lo (ULo)運転／5 分停止

停止　停止

⑳暖房ファン制御

暖房ファン制御
弱風
設定風量
間欠
停止
操作を選択してください。 戻る

暖房サーモ OFF 中のファン速度を設定します。
弱風　弱風運転
設定風量　サーモ ON 中と同風量
間欠　2 分 Lo(ULo)運転／ 5 分停止
停止　停止

㉑フロスト防止温度

フロスト防止温度
温度 低
温度 高
操作を選択してください。 戻る

フロスト防止制御温度の切換ができます。

㉒フロスト防止制御

フロスト防止制御
有効
無効
操作を選択してください。 戻る

フロスト防止制御後、ファン速度が
有効　アップします。
無効　変化しません。

※ ㉓ドレンポンプ運転

ドレンポンプ運転
通常
暖房時連動運転
暖房/送風時連動運転
送風時連動運転
操作を選択してください。 戻る

通常　冷房・除湿時に運転
暖房時連動　通常＋暖房
暖房 / 送風時連動　全運転中
送風時連動　通常＋送風

㉔冷房ファン残留運転

冷房ファン残留運転
なし
設定1
設定2
設定3
操作を選択してください。 戻る

冷房運転、停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。
なし　ファン残留運転なし
設定 1　0.5 時間
設定 2　2 時間
設定 3　6 時間
※残留時間が異なる場合があります。

㉕暖房ファン残留運転

暖房ファン残留運転
なし
設定1
設定2
設定3
操作を選択してください。 戻る

暖房運転、停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。
なし　ファン残留運転なし
設定 1　0.5 時間
設定 2　2 時間
設定 3　6 時間

㉖暖房ファン間欠

暖房ファン間欠
非連動
20分停止5分送風
5分停止5分送風
操作を選択してください。 戻る

暖房運転、停止またはサーモOFF後のファン制御を設定します。
非連動　停止
20分停止 5分送風　25分毎に条件チェックして 5 分送風
5分停止 5分送風　10分毎に条件チェックして 5 分送風

㉗送風サーモ運転

送風サーモ運転
無効
有効
操作を選択してください。 戻る

サーキュレータ運転として使用する場合
無効　送風時連続運転
有効　送風時リモコンと本体の温度差を見て送風運転／停止します。

※ ㉘外調機設定

外調機設定
圧力制御標準
圧力制御切換
操作を選択してください。 戻る

マルチシステムにて、外調機の場合に設定します。
圧力制御標準　通常
圧力制御切換　運転中の室内ユニットが全て、この設定の場合、圧力制御値が変わります。

㉙運転モード自動設定

運転モード自動設定
自動1･2･3切換 ㉚
自動1関連設定 ㉛
自動2関連設定 ㉜
自動3関連設定 ㉝
戻る
操作を選択してください。

㉚自動 1･2･3 切換

自動1･2･3切換
自動1
自動2
自動3
戻る
操作を選択してください。

自動 1　設定温度と室温の温度差で、冷房／暖房が切換わります。

自動 2　設定温度と室温の温度差および外気温度で冷房／暖房が切換わります。

自動 3　室温および外気温度で、冷房／暖房が切換わります。

運転モード自動での冷房／暖房切換方式を３方式から選択できます。
各方式の条件を設定をします。

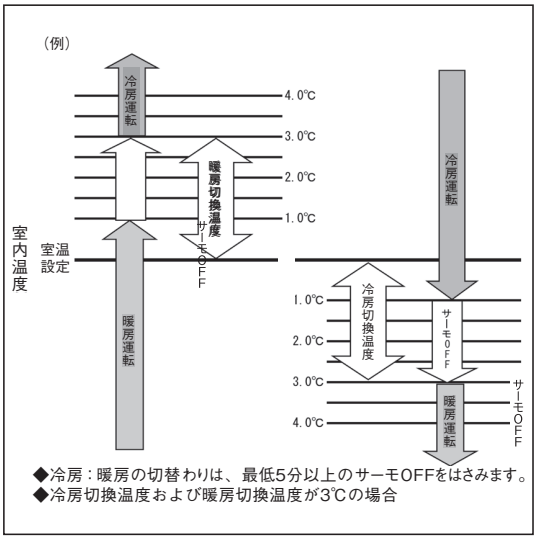
㉛自動 1 関連設定

自動1関連設定
冷房切換温度 ㉞
暖房切換温度 ㉟
戻る
操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度を設定します。
切換温度は１～４℃の範囲で設定できます。

設定温度－冷房切換温度
＜室内吸込温度の場合
⇒運転モード：冷房

設定温度＋暖房切換温度
＞室内吸込温度の場合
⇒運転モード：暖房



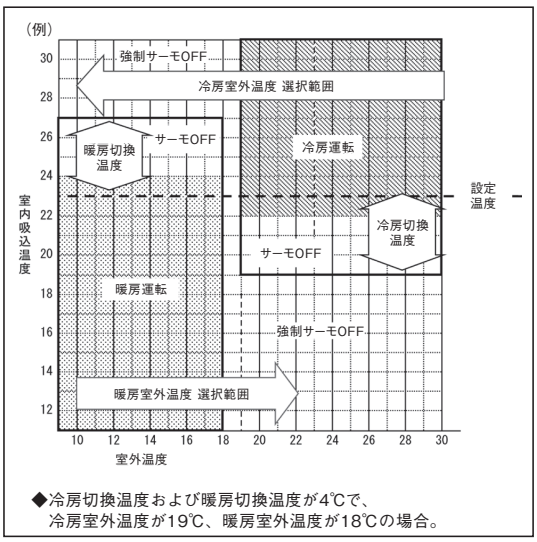
㉜自動 2 関連設定

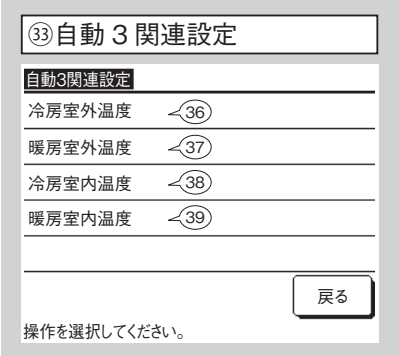
自動2関連設定
冷房切換温度 ㉞
暖房切換温度 ㉟
冷房室外温度 ㊱
暖房室外温度 ㊲
戻る
操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度、冷房／暖房室外温度を設定します。

「設定温度－冷房切換温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

「設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房

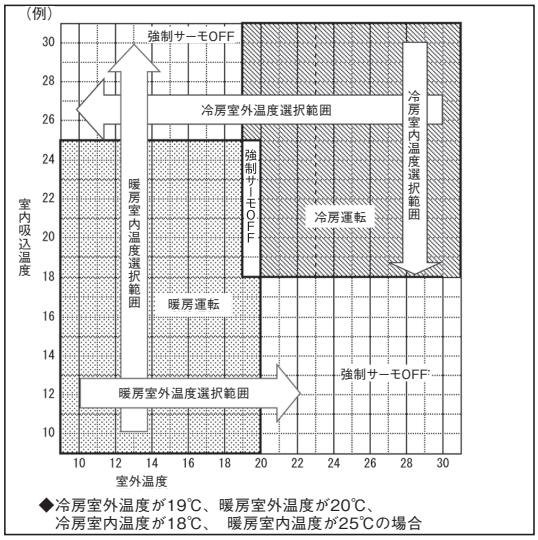




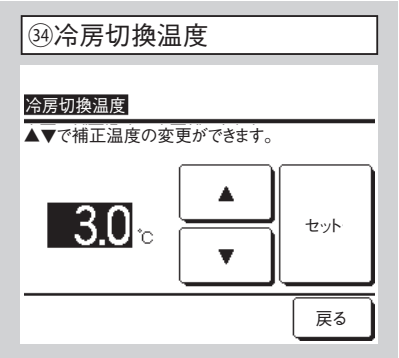
冷房／暖房室外温度、冷房／暖房室内温度を設定します。

「設定した冷房室内温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

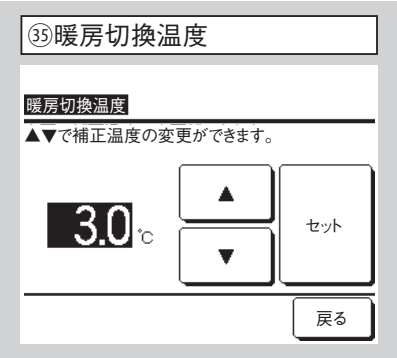
「設定した暖房室内温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が20℃、
冷房室内温度が18℃、 暖房室内温度が25℃の場合

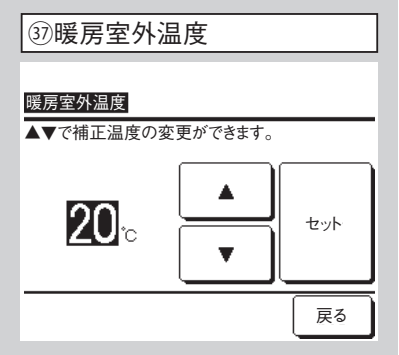


自動１、自動２で冷房切換温度を設定します。
１～４℃の範囲で設定できます。

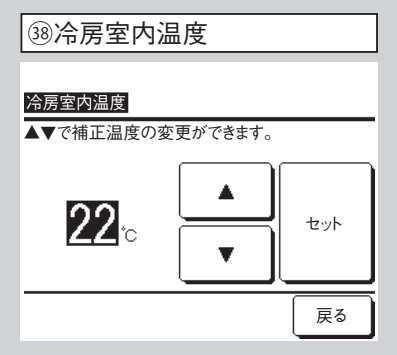


自動１、自動２で暖房切換温度を設定します。
１～４℃の範囲で設定できます。

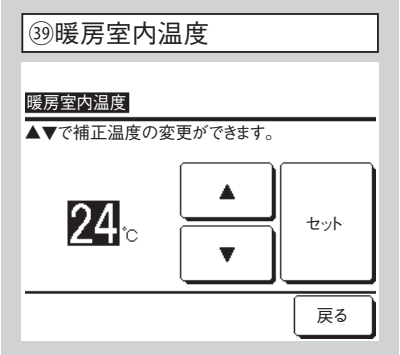
自動２、自動３で冷房室外温度を設定します。
10～30℃の範囲で設定できます。



自動２、自動３で暖房室外温度を設定します。
10～22℃の範囲で設定できます。

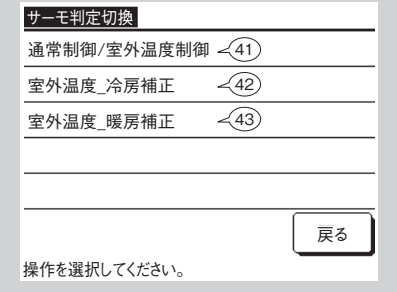


自動３で冷房室内温度を設定します。
18～30℃の範囲で設定できます。

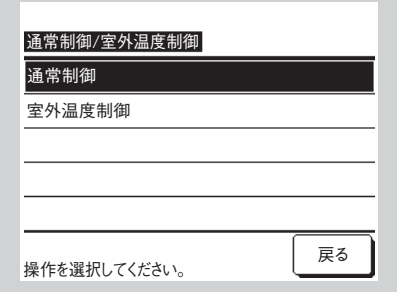


自動３で暖房室内温度を設定します。
10～30℃の範囲で設定できます。

㊵サーモ判定切換

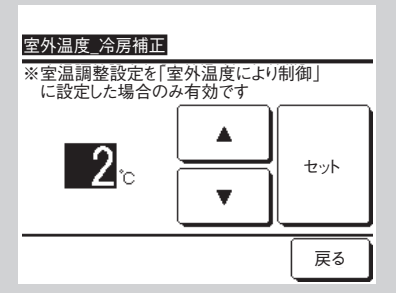


㊶通常制御／外気温度制御

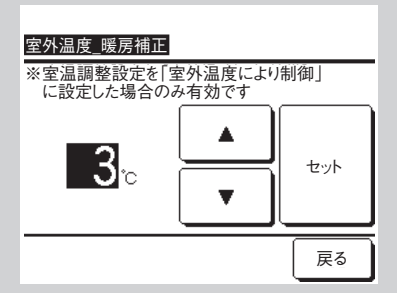


室温制御、サーモ ON ／ OFF 切換方式・条件を設定します。
通常制御 室内温度と設定温度の差でサーモ判定をします。
室外温度制御 室外温度±補正値と室内温度でサーモ判定します。
室温設定は無効となります。

㊷室外温度 _ 冷房補正

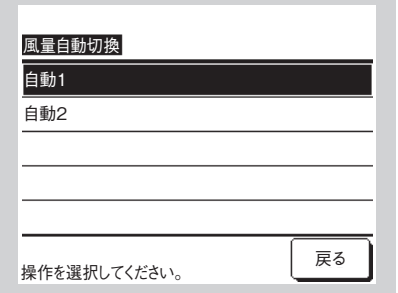


㊸室外温度 _ 暖房補正



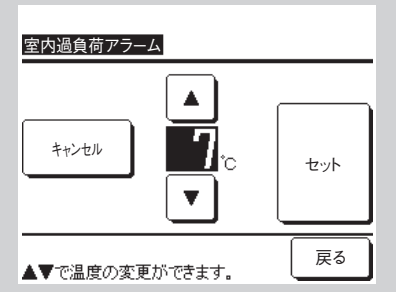
室外温度と冷房／暖房補正値によりサーモ判定します。
(a) 室外温度 _ 冷房補正：冷房中にサーモ判定します。
室内温度＞（室外温度－冷房補正値）でサーモ ON します。
冷房補正値は 0 ～ 10℃で設定できます。
(b) 室外温度 _ 暖房補正：暖房中にサーモ判定します。
室内温度＜（室外温度＋暖房補正値）でサーモ ON します。
暖房補正値は 0 ～ 5℃で設定できます。

㊹風量自動切換



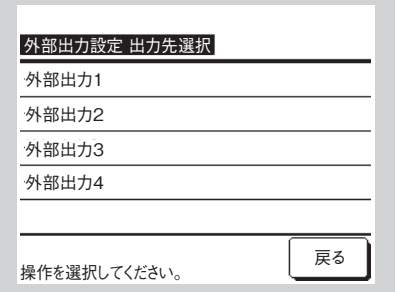
風量自動の切換範囲を設定
自動 1 急⇔強⇔弱
自動 2 P 急⇔急⇔強⇔弱

㊺室内過負荷アラーム設定

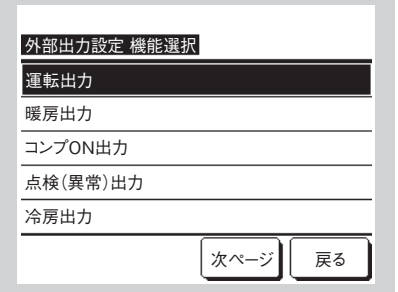


運転開始 30分後、設定温度と吸込温度差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CnT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。

㊻外部出力設定　出力先選択



㊼外部出力設定　機能選択 #1



変更する出力先を選択後、選択した出力に割り当てる機能を選択します。
各出力のコネクターと初期設定は下記です。
外部出力 1　CnT -2　運転出力
外部出力 2　CnT -3　暖房出力
外部出力 3　CnT -4　コンプON出力
外部出力 4　CnT -5　点検（異常）出力
詳細は294ページを参照願います。

㊽外部出力設定　機能選択 #2

外部出力設定 機能選択

ファン運転出力1

ファン運転出力2

ファン運転出力3

デフロスト、油戻し出力

換気出力

前ページ　次ページ　戻る

㊾外部出力設定　機能選択 #3

外部出力設定 機能選択

ヒータ出力

フリークーリング出力

室内過負荷アラーム出力

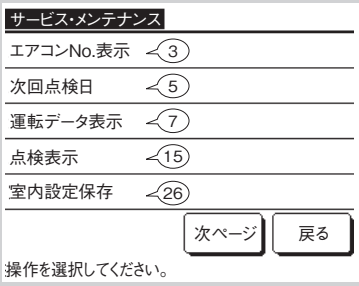
冷媒漏洩出力

前ページ　戻る

6. サービス・メンテナンス方法

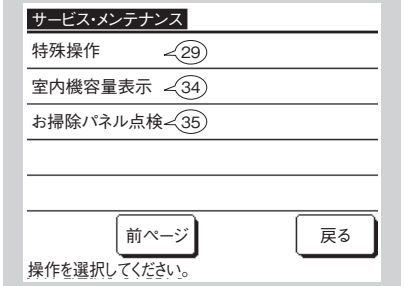
ＴＯＰ画面 メニュー ⇒ サービス設定 ⇒ サービス・メンテナンス ⇒ サービスパスワード

①サービス・メンテナンス　メニュー



選択した画面に移ります。

②サービス・メンテナンス　メニュー

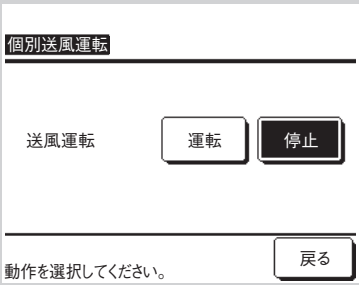


選択した画面に移ります。

③エアコン No. 表示

８台以上接続の場合は、次ページ以降に表示がでます。室内ユニット選択後 個別送風 ボタンをタッチすると、選択した室内ユニットが送風運転します。⇒④

④個別送風運転



運転 送風運転開始。
停止 送風運転停止。

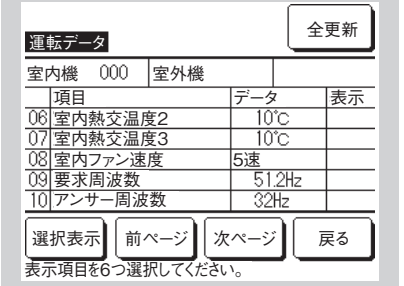
⑤次回点検日

⑥点検メッセージ

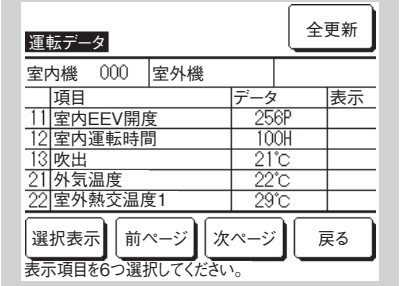
次回点検日を入力すると、点検月の運転開始／停止時にメッセージが表示されます。
表示は、次回点検日を更新するとリセットされます。
設定なし をタッチするとメッセージは表示されません。

⑦運転データ画面 #1

⑧運転データ画面 #2



⑨運転データ画面 #3



運転データが表示されます。全更新 タッチで全データが更新されます。
データを自動更新させて表示したい場合、６項目まで選択できます。６項目選択後、選択表示 ボタンをタッチすると⑭の画面に変わります。

⑩運転データ画面 #4

運転データ　全更新

室内機　000　室外機

	項目	データ	表示
23	室外熱交温度2	29℃	
24	コンプ回転数	51.2Hz	
25	高圧圧力	1.2MPa	
26	低圧圧力	0.20MPa	
27	吐出管温度	76℃	

選択表示　前ページ　次ページ　戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑪運転データ画面 #5

運転データ　全更新

室内機　000　室外機

	項目	データ	表示
28	ドーム下温度	27℃	
29	電流	8A	
30	SH制御	48℃	
31	SH	48℃	
32	TDSH	48℃	

選択表示　前ページ　次ページ　戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑫運転データ画面 #6

運転データ　全更新

室内機　000　室外機

	項目	データ	表示
33	保護制御	No.1	
34	室外ファン速度	5速	
35	63H1	ON	
36	デフロスト	ON	
37	コンプ運転時間	100H	

選択表示　前ページ　次ページ　戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑬運転データ画面 #7

運転データ　全更新

室内機　000　室外機

	項目	データ	表示
38	室外EEV1開度	512P	
39	室外EEV2開度	512P	

選択表示　前ページ　戻る

表示項目を6つ選択してください。

⑭運転データ個別表示画面

運転データ

運転モード	冷房
設定温度	28℃
吸込温度	29℃
リモコン温度	28℃
室内熱交温度1	10℃
室内熱交温度2	15℃

戻る

選択した６つの項目を自動更新して表示します。

⑮点検表示

点検表示

異常履歴表示 ⑯

異常時運転データ表示 ⑰

異常時運転データ消去 ㉔

定期点検リセット ㉕

戻る

操作を選択してください。

⑯異常履歴表示（例）

異常履歴表示　消去

時刻	室内機	異常コード
2011/01/19　PM 6:57	014	E16
2011/01/19　PM 6:57	015	E15
2011/01/19　PM 6:57	012	E14

戻る

異常発生日時・室内アドレス・異常コードを表示します。

消去ボタンをタッチすると、異常履歴を消去します。

⑰異常時運転データ表示 #1

異常時運転データ表示

室内機　000　異常コード E09　室外機

	項目	データ
01	運転モード	冷房
02	設定温度	28℃
03	吸込温度	26℃
05	室内熱交温度1	10℃
06	室内熱交温度2	10℃

次ページ　戻る

⑱異常時運転データ表示 #2

異常時運転データ表示

室内機　000　異常コード E09　室外機

	項目	データ
07	室内熱交温度3	10℃
08	室内ファン速度	5速
09	要求周波数	51.2Hz
10	アンサー周波数	32Hz
11	室内EEV開度	256P

前ページ　次ページ　戻る

異常発生直前の運転データが表示されます。

⑲異常時運転データ表示 #3

異常時運転データ表示

室内機 000 | 異常コード E09 | 室外機

	項目	データ
12	室内運転時間	100H
13	吹出	21℃
21	外気温度	22℃
22	室外熱交温度1	29℃
23	室外熱交温度2	29℃

前ページ　次ページ　戻る

⑳異常時運転データ表示 #4

異常時運転データ表示

室内機 000 | 異常コード E09 | 室外機

	項目	データ
24	コンプ回転数	51.2Hz
25	高圧圧力	1.2MPa
26	低圧圧力	0.20MPa
27	吐出管温度	76℃
28	ドーム下温度	27℃

前ページ　次ページ　戻る

㉑異常時運転データ表示 #5

異常時運転データ表示

室内機 000 | 異常コード E09 | 室外機

	項目	データ
29	電流	8A
30	SH制御	48℃
31	SH	3℃
32	TDSH	48℃
33	保護制御	No.1

前ページ　次ページ　戻る

異常発生直前の運転データが表示されます。

㉒異常時運転データ表示 #6

異常時運転データ表示

室内機 000 | 異常コード E09 | 室外機

	項目	データ
34	室外ファン速度	5速
35	63H1	ON
36	デフロスト	ON
37	コンプ運転時間	100H
38	室外EEV1開度	512P

前ページ　次ページ　戻る

㉓異常時運転データ表示 #7

異常時運転データ表示

室内機 000 | 異常コード E09 | 室外機

	項目	データ
39	室外EEV2開度	512P

前ページ　戻る

㉔異常時運転データ消去

異常時運転データ消去

はい

操作を選択してください。　戻る

異常時運転データが消去されます。

㉕定期点検リセット

定期点検リセット

定期点検をリセットしますか?

はい

設定を選択してください。　戻る

定期点検リセット操作により、時間カウントがリセットされます。

㉖室内設定保存

室内設定保存

室内設定を保存

室内設定自動保存 ㉗

保存データの転送 ㉘

戻る

操作を選択してください。

室内設定を保存　リモコンに接続されている室内ユニットすべての設定をリモコンに保存します。

室内設定自動保存　毎日の自動保存時刻を設定します。

保存データの転送　リモコンに保存した室内設定データを室内ユニットに転送します。

㉗室内設定自動保存

室内設定自動保存

設定時刻に室内設定を自動保存します。

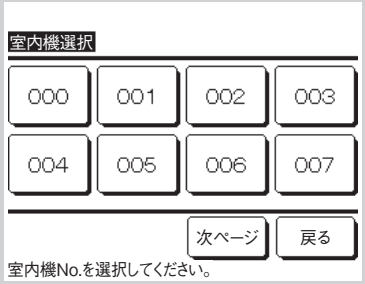
AM 0:00　セット

設定なし　戻る

▲▼で時間を選択し、セットを押してください。

毎日の自動保存時刻を設定します。設定なし を選択すると、自動保存は行いません。

㉘保存データの転送

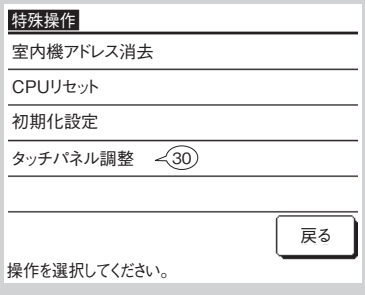


転送する室内ユニットを選択すると、確認画面が表示されますので、データ転送を行ってください。

お知らせ

室内ユニット基板を交換したが、設定内容が判らなくなったことはありませんか？
リモコンに室内ユニット設定を保存しておくと、［保存データの転送］により、保存されたデータが室内ユニットに書込まれます。

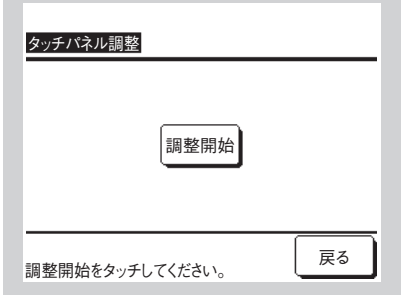
㉙特殊操作



選択した画面に移ります。

室内機アドレス消去　マルチ室内ユニットの記憶が消去されます。
CPU リセット　接続されている、室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット（停電復帰状態）されます。
初期化設定　接続されている、リモコン・室内ユニットの設定が初期値（出荷状態）になります。
タッチパネル調整　表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。

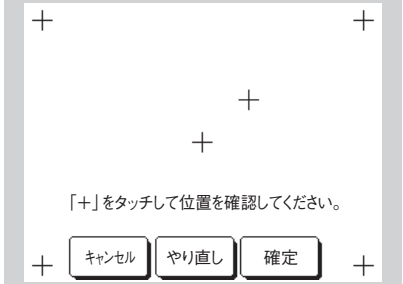
㉚タッチパネル調整



㉛タッチパネル調整画面＃1

㉜タッチパネル調整画面＃2

㉝タッチパネル調整画面＃3



表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。
画面の指示にそって、［＋］マーク中心をタッチしてください。
確定 で終了します。

㉞室内機容量表示

室内機容量表示

室内機No.	容量
000	40
001	71
002	80
003	112
004	224
005	280

次ページ　戻る

リモコンに接続されている室内ユニットの容量を表示します。
7台以上接続の場合は、次ページ以降に表示がでます。
室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

※

㉟お掃除パネル点検

お掃除パネル点検

駆動部個別点検

位置認識指令

位置合わせ制御

点検お掃除運転

戻る

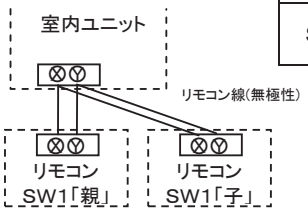
操作を選択してください。

FDTお掃除パネルを組合せる場合に操作できます。詳細は、498ページを参照ください。

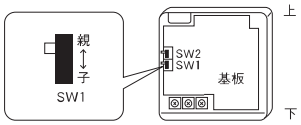
(b) RC-D4G の場合

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（または1ｸﾞﾙｰﾌﾟ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン



子リモコンの切換スイッチ SW1を「子」に設定してください。工場出荷時は「親」設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
　親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。
　リモコンの親子設定をした場合、後操作優先で運転されます。

電源投入時の表示

電源投入時、リモコンとエアコンの通信が確定する間、リモコンには、下記表示がでます。
　親リモコンの場合：「内機確認中　親」
　子リモコンの場合：「内機確認中　子」

室内ユニット1台（または1グループ）に、1個のリモコンを接続する場合は、必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。子リモコンにすると、通信ができません。
上記表示と同時に、最初の2秒間、記号又は数字が点灯いたします。
これらはリモコンのソフトウェアの管理番号を表示させているものであり、異常コードの表示ではありません。

※左記記号は一例です。
　別の記号が出る場合もあります。

リモコンと室内ユニットの通信ができない状態が30分程度続くと、下記表示がでます。
室内ユニットおよび室外ユニットの配線および、リモコンの親子設定等をご確認願います。

温度範囲設定

工場出荷時、設定温度範囲は、運転モードによって異なり、下記の様になっています。

暖房時　：　18～28℃（中温パッケージエアコンの場合10～30℃）

暖房以外（冷房、送風、除湿、自動）　：　20～30℃（中温パッケージエアコンの場合10～30℃）

●リモコンから、設定温度の上限および下限を設定することができます。

上限値設定…暖房運転時に有効。20～30℃の範囲で設定可能です。

下限値設定…暖房以外（自動、冷房、送風、除湿）時に有効。18～26℃（中温パッケージエアコンの場合10～18℃）の範囲で設定可能です。

本機能により、上限および下限を設定した場合、下記制御となります。

1. 機能設定モードのリモコン機能の⑫温度範囲設定が「表示変更有り」の時（出荷時設定）、

【上限値を設定すると】

① 暖房時、リモコンから上限値より高い温度が設定された場合：
30分間設定温度で運転し、その後自動的に上限値温度を送信します。
リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房時、上限値以下の温度が設定された場合：
設定温度を送信します。

【下限値を設定すると】

① 暖房以外の運転モードの時、リモコンから下限値より低い温度が設定された場合：
30分間設定温度で運転し、その後自動的に下限値温度を送信します。
リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房以外の運転モードの時、下限値以上の温度が設定された場合：
設定温度を送信します。

2. 機能設定モードの「リモコン機能」⑫温度範囲設定が「表示変更無し」の時

【上限値を設定すると】

① 暖房時、リモコンから上限値より高い温度が設定された場合：
上限値を送信します。ただし、リモコン表示はそれに付随せず、設定した温度のままです。

② 暖房時、上限値以下の温度が設定された場合：
設定温度を送信します。

【下限値を設定すると】

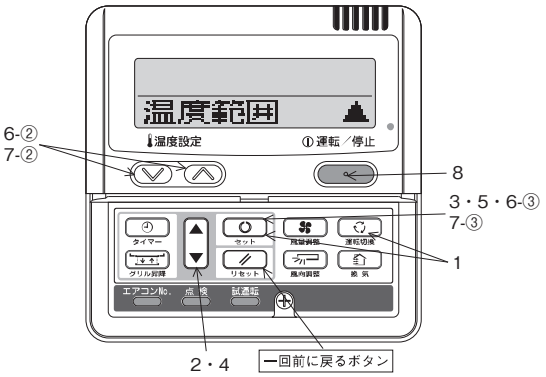
① 暖房以外の運転モードの時、リモコンから下限値より低い温度が設定された場合：
下限値を送信します。ただし、リモコン表示はそれに付随せず、設定した温度のままです。

② 暖房以外の運転モードの時、下限値以上の温度が設定された場合：
設定温度を送信します

●上限値，下限値の設定方法

1. エアコンを停止させて、セットと運転切換ボタンを同時に3秒以上押します。
表示が「機能設定▼」となります。
2. ▼ボタンを一度押し、「温度範囲▲」表示に切換えます。
3. セットボタンを押して、温度範囲設定モードに入ります。
4. ▲ ▼ ボタンにより、「上限設定▼」または「下限設定▲」を選びます。
5. セットボタンを押して確定します。
6. 「上限設定▼」を選んだ場合（暖房時に有効となります。）
①表示：「∨∧で設定」→「上限 28℃∨∧」
②温度設定∨ ∧ボタンにより、上限値を選びます。表示例：「上限 26℃∨∧」（点滅）
③セットボタンを押して確定します。表示例：「上限 26℃」（2秒間点灯）
確定した上限値を2秒間点灯後、表示は「上限設定▼」に戻ります。
7. 「下限設定▲」を選んだ場合（冷房、除湿、送風時に有効となります。）
①表示：「∨∧で設定」→「下限 20℃∨∧」
②温度設定∨ ∧ボタンにより、下限値を選びます。表示例：「下限 24℃∨∧」（点滅）
③セットボタンを押して確定します。表示例：「下限 24℃」（２秒間点灯）
確定した下限値を２秒間点灯後、表示は「下限設定▼」に戻ります。
8. 運転／停止ボタンを押して、終了します。

・設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定の途中で、リセットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。



機能設定

●リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。
ただし、グリル昇降設定や、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。

ラクリーナパネル使用時のご注意

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっています。ラクリーナパネルをご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定をしてください。
据付地域の電源周波数に合わせ、50Hz 地区または 60Hz 地区のどちらかを選んで設定してください。
【グリル昇降有効設定のしかた（簡易設定）】
1．エアコン停止状態で、セット ボタンと グリル昇降 ボタンを同時に長押ししてください。
表示が「昇降無効」となります。
2．▲ または ▼ ボタンにより設定を選択してください。
表示：「昇降無効」 ⇔ 「有効 50Hz」 ⇔ 「有効 60Hz」
3．セット ボタンを押す
表示が「設定完了」となります。 その後リモコンは停止状態に戻ります。

注1：「※」印の初期設定は、接続される室内ユニットおよび室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

機能番号	項目	初期設定	機種
リモコン機能02	自動運転設定	自動運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		自動運転無効	「自動」モードの無い機種
リモコン機能06	風量切換	風量切換有効	室内ファン風量切換えが2速又は3速の機種
		風量切換無効	室内ファン風量切換えが1速のみの機種
リモコン機能07	風向切換	風向切換有効	オートスイングルーバ搭載機種
		風向切換無効	その他
リモコン機能13	室内ファン	3速HI-ME-LO	室内ユニットファン風量3速の機種
		2速HI-LO	室内ユニットファン風量2速の機種
		2速HI-ME	
		1速	室内ファン風量切換えが1速のみの機種
リモコン機能14	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	床置FDF以外のｵｰﾄｽｲﾝｸﾞﾙｰﾊﾞ搭載機種
室内機能04		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	床置FDF
リモコン機能15	冷専／ヒーポン	ヒーポン	ヒーポン機
		冷専	冷専機
室内機能17	外機制御	圧力制御標準	給気処理室内機以外
		圧力制御切換	給気処理室内機

注3：ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・子室内ユニット各々設定してください。
ただし、「05 外部入力切替」「06 運転許可／禁止」は親室内ユニットのみで設定可能です。

［機能設定のながれ］

開始：エアコン停止状態で セット+運転切換 ボタン同時3秒押し
確定：セット ボタンを押す
戻る：リセット ボタンを押す
選択：▲ ▼ ボタンを押す
終了：運転／停止 ボタンを押す
（設定の途中でも終了しますが、設定が完了していないものは無効になります。）
「○」：初期設定
「※」：自動判別

設定内容を記録して保管してください。

エアコン停止状態で セット+運転切換 ボタン同時３秒押し
（開始）

機能設定

各制御の詳細は、技術資料等でご確認ください。

リモコン機能

機能	設定		
01 グリル昇降設定	昇降無効	○	
	有効50Hz		50Hz地区で使用の場合
	有効60Hz		60Hz地区で使用の場合
02 自動運転設定	自動運転有効	※	
	自動運転無効	※	自動運転不可
03 温度設定	温度設定有効	○	
	温度設定禁止		温度設定ボタンの操作禁止
04 運転切換	運転切換有効	○	
	運転切換禁止		運転切換ボタンの操作禁止
05 運転／停止	運転／停止有効	○	
	運転／停止禁止		運転／停止ボタンの操作禁止
06 風量切換	風量切換有効	※	
	風量切換禁止	※	風量調整ボタンの操作禁止
07 風向切換	風向切換有効	※	
	風向切換禁止	※	風向調整ボタンの操作禁止
08 タイマー	タイマー有効	○	
	タイマー禁止		タイマーボタンの操作禁止
09 リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○	
	リモコンセンサ有効		
	リモコンセンサ＋3.0℃		リモコンセンサ有効、かつ＋3.0℃温度補正する。
	リモコンセンサ＋2.0℃		リモコンセンサ有効、かつ＋2.0℃温度補正する。
	リモコンセンサ＋1.0℃		リモコンセンサ有効、かつ＋1.0℃温度補正する。
	リモコンセンサ－1.0℃		リモコンセンサ有効、かつ－1.0℃温度補正する。
	リモコンセンサ－2.0℃		リモコンセンサ有効、かつ－2.0℃温度補正する。
	リモコンセンサ－3.0℃		リモコンセンサ有効、かつ－3.0℃温度補正する。
10 停電補償設定	停電補償無効	○	
	停電補償有効		
11 換気設定	換気なし	○	
	換気連動		シングル機は室内基板CnT、マルチ機は室内基板CnDに換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転／停止を行います。
	換気連動なし		シングル機は室内基板CnT、マルチ機は室内基板CnDに換気機器を接続すると、換気ボタンの操作により、換気機器が単独で運転／停止を行います。
12 温度範囲設定	表示変更有り	○	温度設定範囲を変更した場合、設定温度表示は、制御に追従し変化します。
	表示変更無し		温度設定範囲を変更した場合、設定温度表示は、制御に追従せず、設定した温度のままとなります。
13 室内ファン	3速HI-ME-LO	※	ﾌｧﾝ風量が、急-強-弱の3速またはP急-急-強-弱の4速となります。
	2速HI-LO	※	ﾌｧﾝ風量が、急-弱の2速となります。
	2速HI-ME		ﾌｧﾝ風量が、急-強の2速となります。
	1速	※	ﾌｧﾝ風量が1速のみで固定されます。
14 ﾙｰﾊﾞ制御設定			ﾘﾓｺﾝ機能「14ﾙｰﾊﾞ制御設定」を変更する場合は、室内機能「04ﾙｰﾊﾞ制御設定」も合わせて変更してください。
	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	※	ﾙｰﾊﾞの停止位置は、4位置より選択します。
	ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	※	ﾙｰﾊﾞの停止位置は、任意の位置に停止します。
15 冷専／ﾋｰﾎﾟﾝ	ヒーポン	※	
	冷専	※	
16 外部入力設定	一台運転	○	室内基板のCnTに外部入力すると、その室内ユニットが単独で外部入力に従い運転します。
	全台同一運転		室内基板のCnTに外部入力すると、同一ﾘﾓｺﾝネットワークの全台が外部入力に従い運転します。
17 室温表示設定	室温表示無し	○	
	室温表示有り		通常の運転表示において、風量表示の代わりに室温を表示します。（親リモコンのみ切換可能）
18 暖房準備表示	表示有り	○	暖房準備表示を出さない様にします。
	表示無し		

室内機能

（注3）
室内ユニット複数台接続時のみ
室内ユニットNo.選択

内000
内001
内002
内003
内004

室内ユニットを変更して設定する場合は、エアコンNo.ボタンを押すと、室内ユニット選択表示（例：内 000）に戻ります。

機能	設定		
02 高天井設定	標準	※	
	高天井1	※	
	高天井2		
03 ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	表示なし		
	設定1		180時間でﾌｨﾙﾀｻｲﾝを表示します。
	設定2		600時間でﾌｨﾙﾀｻｲﾝを表示します。
	設定3		1000時間でﾌｨﾙﾀｻｲﾝを表示します。
	設定4		1000時間でﾌｨﾙﾀｻｲﾝを表示し、その後、24時間経過したら強制停止します。
04 ﾙｰﾊﾞ制御設定			室内機能「04ﾙｰﾊﾞ制御設定」を変更する場合は、リモコン機能「14ﾙｰﾊﾞ制御設定」も変更してください。
	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	※	ﾙｰﾊﾞの停止位置は、4位置より選択します。
	ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	※	ﾙｰﾊﾞの停止位置は、任意の位置に停止します。
05 外部入力切替	ﾚﾍﾞﾙ入力	○	
	ﾊﾟﾙｽ入力		
06 運転許可／禁止	無効	○	
	有効		運転許可／禁止制御を有効にします。
07 緊急停止	無効	○	（マルチ室内ユニットのみ）マルチ室内ユニットの場合、同一室外ユニットに接続された全室内ユニットを緊急停止させる時に使用します。
	有効		遠方発停端子「CnT－6」から停止信号が入った場合、全室内ユニットが緊急停止します。
08 暖房室温補正	室温補正＋3.0℃		暖房時の設定温度を＋3.0℃補正します。
	室温補正＋2.0℃		暖房時の設定温度を＋2.0℃補正します。
	室温補正＋1.0℃		暖房時の設定温度を＋1.0℃補正します。
	補正なし	○	
09 吸込温度補正	吸込補正＋2.0℃		室内ユニットの吸込温度を＋2.0℃補正します。
	吸込補正＋1.5℃		室内ユニットの吸込温度を＋1.5℃補正します。
	吸込補正＋1.0℃		室内ユニットの吸込温度を＋1.0℃補正します。
	補正なし	○	
	吸込補正－1.0℃		室内ユニットの吸込温度を－1.0℃補正します。
	吸込補正－1.5℃		室内ユニットの吸込温度を－1.5℃補正します。
	吸込補正－2.0℃		室内ユニットの吸込温度を－2.0℃補正します。
10 暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○	暖房サーモOFF時、弱風で運転します。
	設定風量		暖房サーモOFF時、設定風量で運転します。電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。
	間欠		暖房サーモOFF時、間欠運転します。
	停止		暖房サーモOFF時、ファンは停止します。リモコンセンサ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は、設定しないでください。
11 ﾌﾛｽﾄ防止温度	温度　高		フロスト防止制御を作動させる室内熱交温度の切換。
	温度　低	○	
12 ﾌﾛｽﾄ防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○	シングル機のみ有効 フロスト防止制御時に、室内ファンタップを上げます。
	ﾌｧﾝ制御無効		
13 ドレンポンプ	標準	○	冷房・除湿時ドレンポンプON
	暖房		冷房・除湿＋暖房時ドレンポンプON
	暖房　送風		冷房・除湿＋暖房＋送風時ドレンポンプON
	送風		冷房・除湿＋送風時ドレンポンプON
14 冷房ﾌｧﾝ運転	連動なし	○	冷房停止、または冷房サーモOFF後、ﾌｧﾝ残留運転なし。
	0.5時間		冷房停止、または冷房サーモOFF後、0.5時間ﾌｧﾝ残留運転する。
	1時間		冷房停止、または冷房サーモOFF後、1時間ﾌｧﾝ残留運転する。
	6時間		冷房停止、または冷房サーモOFF後、6時間ﾌｧﾝ残留運転する。
15 暖房ﾌｧﾝ運転	連動なし	○	暖房停止、または暖房サーモOFF後、ﾌｧﾝ残留運転なし。
	0.5時間		暖房停止、または暖房サーモOFF後、0.5時間ﾌｧﾝ残留運転する。
	2時間		暖房停止、または暖房サーモOFF後、2時間ﾌｧﾝ残留運転する。
	6時間		暖房停止、または暖房サーモOFF後、6時間ﾌｧﾝ残留運転する。
16 暖房ﾌｧﾝ間欠	連動なし	○	
	20休5送風		暖房停止、または暖房サーモOFF時、ﾌｧﾝは20分OFF5分弱風の間欠運転。
	5休5送風		暖房停止、または暖房サーモOFF時、ﾌｧﾝは5分OFF5分弱風の間欠運転。
17 外機制御	圧力制御標準	※	
	圧力制御切換	※	給気処理室内機を接続すると、圧力制御切換に自動的に設定されます。

注2：高天井設定時のファンタップ

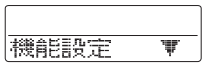
ファンタップ		室内風量設定			
		P急-急-強-弱	急-強-弱	急-弱	急-強
高天井設定	標準	UH-Hi-Me-Lo	Hi-Me-Lo	Hi-Lo	Hi-Me
	高天井1,2	UH-UH-Hi-Me	UH-Hi-Me	UH-Me	UH-Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

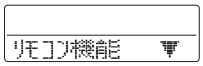
運転／停止ボタン
（終了）

機能設定の仕方

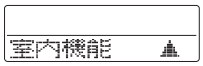
1. エアコンを停止させて、セットと運転切換ボタンを同時に長押しする。
   表示が「機能設定　▼」となります。

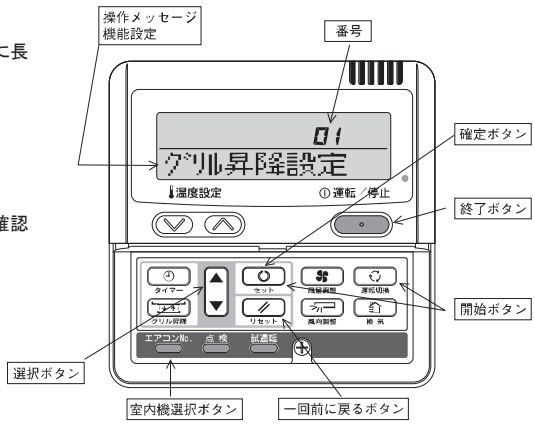


2. セットボタンを押す。
3. 設定したい内容が「リモコン機能」か「室内機能」かを確認する。
4. ▲または▼ボタンを押す。
   「リモコン機能▼」または「室内機能▲」を選びます。



5. セットボタンを押す。

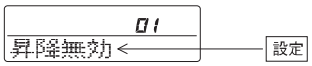




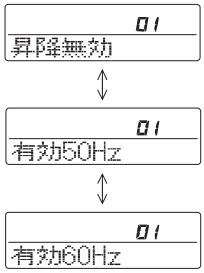
6. **【リモコン機能を選んだ場合】**
   ①「データ確認中」(約 2 秒間点滅表示)
   ↓
   「01　グリル昇降設定」と、表示が切換わります。

   ②▲または▼ボタンを押す。
   リモコン機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので、機能を選びます。

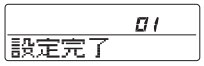
   ③セットボタンを押す。
   選択した機能の、現在の設定が表示されます。
   (例)「昇降無効」←「01　グリル昇降設定」を選択した場合。



   ④▲または▼ボタンを押す。
   設定を選びます。

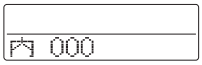


   ①セットボタンを押す。
   「設定完了」が表示され、設定が完了します。
   その後、「番号と機能」 の表示に戻りますので、
   続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。
   終了する場合は、**7**へお進みください。



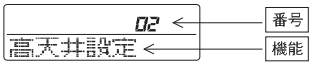
7. 運転／停止ボタンを押す。
   設定を終了します。

【室内機能を選んだ場合】
①「データ確認中」(データを読み込む間約 2～23 秒点滅)↓
「02　高天井設」と、表示が切換わります。
②へお進みください。
【注意】
(1)室内ユニットをリモコンに複数台接続している場合は、下記表示となります。
「内　000」(点滅)　←　接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。

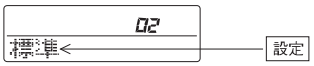


(2) ▲または▼ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「全台▼」を選択すると、全台同一の設定ができます。
(3)セットボタンを押す。

②▲または▼ボタンを押す。
室内機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので、機能を選びます。
(例)

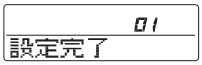


③セットボタンを押す。
選択した機能の、現在の設定が表示されます。
(例)「標準」←「02　高天井設定」を選択した場合。



④▲または▼ボタンを押す。
設定を選びます。

⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され、設定が完了します。
その後、「番号と機能」の表示に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。
終了する場合は、**7**へお進みください。



※ 室内ユニット複数台接続時、エアコンNo.ボタンを押すと室内ユニット選択表示(例「内　000」)に戻りますので、室内ユニットを換えて設定する場合は、同じ要領で設定してください。

・設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定の途中で、リセットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。
・セット内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されております。

【現在設定の確認方法】
上記操作により、「番号と機能」を選び、セットを押した時に、最初に表示される「設定」が、現在設定されている内容です。(ただし、「全台▼」を選んだ場合は、室内番号の最も若い機種の設定が表示されます。)

⑾ 主な設定操作

(a) ドレンポンプ強制運転

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。

(i) RC－DX3B リモコンの場合

1) ドレンポンプ試運転の開始

① TOP画面の「メニュー」→「サービス設定」→「据付設定」を選択し，「サービスパスワード」を入力します。

② 「据付設定メニュー#1」より「試運転」を選択し，「ドレンポンプ試運転」と順に選択すると 運転／停止 画面が表示されます。

③ 運転 を選択するとドレンポンプ試運転を開始します。

2) ドレンポンプ運転の解除

画面の 停止 を選択または，リモコンの 運転／停止 ボタンを押すとドレンポンプ試運転を解除し，エアコンは停止状態となります。

注（1）リモコンの設定画面については，478ページの3項据付設定試運転をご覧ください。

(ii) RC－D4G リモコンの場合

1）ドレンポンプ強制運転の開始

① 試運転 ボタンを 3 秒以上押します。「冷房試運転 ▼」となります。

② ▼ ボタンを一度押し，「ドレンポンプ運転 ⬍」を表示させます。

③ セット ボタンを押すと，ドレンポンプ運転を開始します。
表示：「セットで停止」

2）ドレンポンプ運転の解除

① セット ボタン又は，運転／停止 ボタンを押すと，ドレンポンプ強制運転を解除します。
エアコンは停止状態となります。

注（1）リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作は出来ません。）

(b) ポンプダウン運転

運転停止中に，ポンプダウンスイッチ（SW1）によりポンプダウン運転が可能です。
ポンプダウン運転を行う場合，下記の手順で行ってください。

1）運転が停止していることを確認し，液側操作弁を閉めてください。この時，ガス側操作弁が開いていることを確認してください。

2）ポンプダウンスイッチを ON に設定することでポンプダウン運転をはじめます。室外基板上の赤・緑 LED が連続点滅します。

3）約 5 分後運転が停止しますので，その後ガス側操作弁を閉めてください。ポンプダウン運転が終了すると，赤 LED は消灯，緑 LED は点滅に変わります。
再度ポンプダウン運転を行う場合は，上記（a）～（c）の手順で行ってください。

ご注意：ポンプダウンスイッチを押すと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが，異常ではありません。

(c) ラクリーナパネルの設定〔ラクリーナパネルのみ〕

(i) グリル自動昇降の設定

1）ワイヤードリモコンの場合

a) RC－DX3Bリモコンの場合

ご注意

ワイヤードリモコンでラクリーナパネル使用時は，取付時に必ず「グリル昇降操作」で有効を行ってください。工場出荷時はグリル昇降の設定が未設定となっていますので，グリル昇降ができません。据付地域の電源周波数に合わせ，50Hz地区または60Hz地区のどちらかを選ことにより有効設定となります。

TOP画面の「メニュー」より→「サービス設定」より →「据付設定」を選択し，「サービスパスワード」入力 →「据付設定メニュー#2」より「グリル昇降操作」を選択し，「有効50Hz」または「有効60Hz」を選択してください。これでグリル昇降の有効設定は完了です。

b) RC－D4G リモコンの場合

ご注意

ワイヤードリモコンでラクリーナパネル使用時は，取付時必ずグリル昇降有効設定を行ってください。工場出荷時はグリル昇降「無効」になっていますので，グリル昇降ができません。据付地域の電源周波数に合わせ，50Hz 地区または 60Hz 地区のどちらかを選んで設定してください。

① エアコン停止状態で，セット ボタンと グリル昇降 ボタンを同時に長押ししてください。

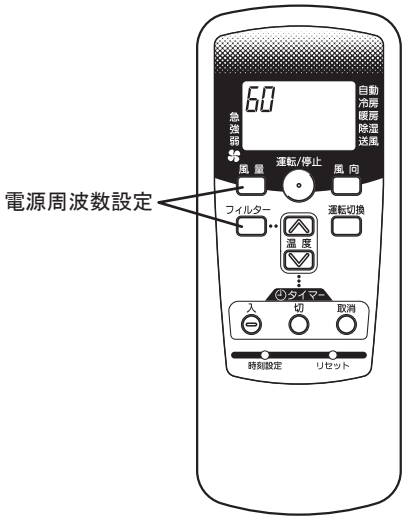
② ▼ または ▲ ボタンにより設定を選択してください。
表示：「昇降無効」⇔「有効 50Hz」⇔「有効 60Hz」

③ セット ボタンを押す。
表示が「設定完了」となります。その後リモコンは停止状態になります。

2）ワイヤレスキットの場合

ご注意

ワイヤレスキットでラクリーナパネル使用時は，電源周波数の設定をワイヤレスリモコンを用いて必ず行ってください。（初期設定は 60Hz）



① フィルター ボタンと 風量 ボタンを同時に 3 秒以上押すと周波数設定モードになります。

② 設定温度表示部に現在の周波数設定が点滅表示されます。

③ ∧ ボタンを押すと”60” 表示となり，∨ ボタンを押すと”50” 表示となります。

④ 周波数設定後，フィルター ボタンを押すと，周波数が確定され，室内ユニットにデータが送信されます。約 2 秒間設定された周波数が点灯した後，元の表示に戻ります。

(ii) グリル降下長さの設定

1）RC-DX3Bリモコンの場合

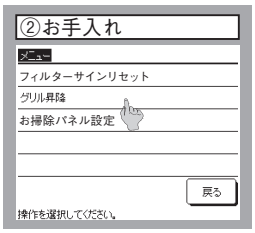
ワイヤードリモコンを用いて0.1m刻みに4mまで昇降長を設定することができまさす。ラクリーナパネル取付時昇降長さを下記方法で設定してください。

〔操作方法〕

① TOP画面の「メニュー」より →「お手入れ」→「グリル昇降」を選択します。

運転中のエアコンは自動的に停止します。

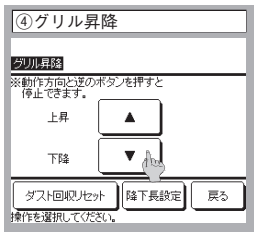
リモコンに接続している室内ユニットが 1 台の場合は，③項へお進みください。



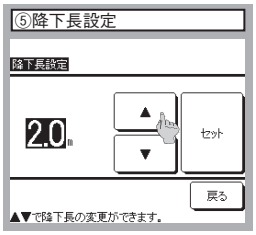
② リモコンに接続している室内ユニットが複数台の場合，「室内機選択」画面が表示されますので，グリル昇降させる室内ユニットNo.をタッチしてください。
接続している室内ユニット全台を同じ設定にする場合は，全台 ボタンをタッチしてください。

注(1) 室内ユニット選択画面には，8台まで表示します。9台以上接続している場合は，次ページ ボタンをタッチしてください。9台目以降の室内ユニットが表示されます。

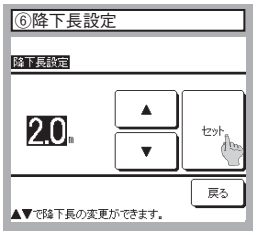
③ ▼ ボタンをタッチしてください。
▼ ボタンをタッチすると，吸込グリルが降下します。降下を途中で止めるときは，▲ ボタンをタッチしてください。
吸込グリルの降下長を設定するときは，降下長設定 ボタンをタッチしてください。
吸込グリル収納時は，▲ ボタンをタッチしてください。収納後，自動的に停止します。上昇を途中で止めるときは，▼ ボタンをタッチしてください。



④ 吸込グリルの降下長を設定します。
▲ ▼ ボタンにより，降下長を0.1m単位で設定できます。
降下長設定範囲：0.1m～4.0m
注(1) 管理者パスワード入力画面が表示された場合は，管理者パスワードを入力してください。



⑤ 降下長設定後，セット ボタンをタッチしてください。設定が完了します。



2）RC-D4G リモコンの場合
ワイヤードリモコンを用いて 10cm 刻みに 4m まで昇降長さを設定することができます。
ラクリーナパネル取付時，昇降長さを下記方法で設定してください。（工場出荷時 2.0m 設定）
［操作方法］
① グリル昇降 ボタンを押す。
リモコンに接続されている室内ユニットが一台の場合，表示が「⬍で昇降する」となります。⑤項へお進みください。
② リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合，接続されている室内ユニットの中で，最も小さい室内アドレスが表示されます。［例］「室内機選択⬍」→「内 000 ▲」（点滅）
③ ▲ ▼ ボタンで，表示したい室内アドレスを選びます。
④ セット ボタンにより確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）
「全台▼」を選択すると，接続されている室内ユニット全台が，同一の設定となります。
「内 001」（選択した室内アドレスを 2 秒間点灯）
↓
「⬍で昇降する」
⑤ 「⬍で昇降する」表示の時に，セット ボタンを押すと，「データ確認中」と表示されます。
「データ確認中」（データを読み込む間，点滅表示）
↓
「降下 2.0m ⬍」（現在の設定値を表示）
⑥ ▲ ▼ ボタンにより降下長を選びます。
⑦ セット ボタンにより確定します。
選択した降下長を室内ユニットへ送信する間点灯し，「⬍で昇降する」表示に戻ります。
［例］「降下 1.5m」（室内ユニットへ送信する間点灯）
↓
「⬍で昇降する」
⑧ 運転／停止 ボタンを押すと，降下長設定モードを終了します。（設定の途中で，運転／停止 ボタンを押しても終了します。但し，設定が完了していない内容は無効となりますので，ご注意ください。）
・設定の途中で，リセット ボタンを押すと，一回前の設定画面に戻ります。但し、設定が完了していない内容は無効となりますので，ご注意ください。
・設定内容は，コントローラに記憶されていますので，停電しても保存されます。
◎リモコン 1 台で 2 台以上の室内ユニットを運転する場合は，室内ユニット毎に設定が必要です。
◎リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合は，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

(d) 風向設定のしかた

・ワイヤードリモコンを使用することで,吹出口のルーバの動作範囲を,変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると,ルーバは,設定された上限位置と下限位置の間で動作します。

・FDTシリーズを使用の場合,各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

（i）RC-DX3Bリモコンの場合

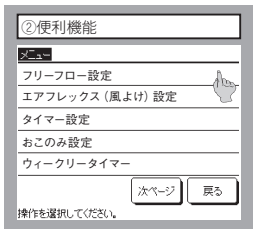
各吹出口のルーバの動作範囲（上限位置・下限位置）を，ご希望の範囲に設定します。

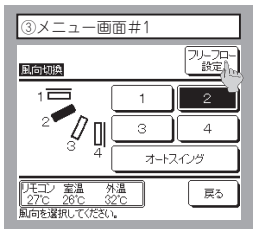
- リモコンが子リモコンに設定されている場合，フリーフロー設定はできません。
- フリーフロー設定の内容を変更する場合は，エアコンを停止させてください。

〔操作方法〕

1) TOP画面の「メニュー」→「便利機能」または「風向」より「フリーフロー設定」を選択し「風向切換」画面を表示させます。「風向切換」画面で「フリーフロー設定」ボタンをタッチしてください。
リモコンに接続している室内ユニットが１台の場合は，3) 項へお進みください。

注(1) 管理者パスワード入力画面が表示された場合は，管理者パスワードを入力してください。





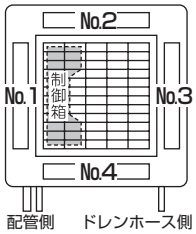
2) リモコンに接続している室内ユニットが複数台の場合，「室内機選択」画面が表示されますので，グリル昇降させる室内ユニットNo.をタッチしてください。
接続している室内ユニット全台を同じ設定にする場合は，全台ボタンをタッチしてください。

注(1) 室内機選択画面には，8台まで表示します。9台以上接続している場合は，次ページボタンをタッチしてください。9台目以降の室内ユニットが表示されます。

3) ルーバの動作範囲を変更する吹出口No.を選択してください。

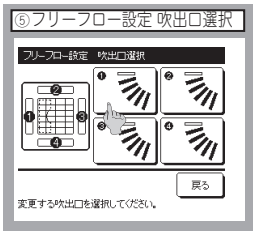
i) FDTシリーズのように吹出口のルーバが複数あり，設定したい吹出口No.がわからない場合は，仮に，任意の吹出口のルーバの上下限位置を設定してください。設定完了後，設定した吹出口のルーバが停止位置から下限位置まで1度動きますので，吹出口位置が確認できます。吹出口位置確認後，再度，設定したい吹出口No.を選択してください。

ii) FDE，FDKシリーズのように吹出口のルーバが１つ場合，設定可能なルーバのみ表示されます。

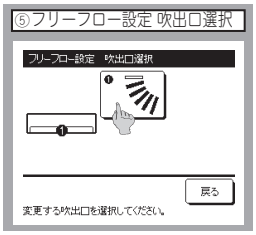


吹出口No.
〔FDTシリーズの場合〕

FDTシリーズ



FDE, FDKシリーズ

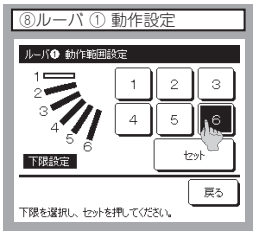


4) エアコンが運転中の場合，運転停止の確認画面が表示されます。
はい をタッチしてユニットを停止させてください。

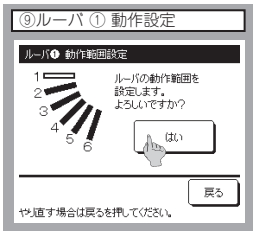
注(1) エアコン運転中に「フリーフロー設定」を変更することができません。エアコンを停止できない場合は，運転/停止スイッチを押すか，戻る ボタンでフリーフロー設定を解除してください。

5）ルーバ動作範囲の上限位置 1 ～ 6 を選択してください。
画面上には，選択した上限位置を表示します。選択後，セット ボタンをタッチしてください。

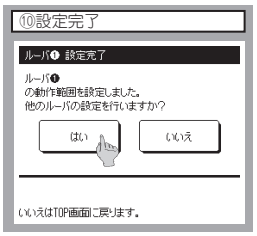
6）ルーバ動作範囲の下限位置 1 ～ 6 を選択してください。
画面上には，選択した上限位置と下限位置から動作範囲を表示します。選択後，セット ボタンをタッチしてください。



7）ルーバ動作範囲の確認画面が表示されます。
設定内容に変更がない場合は，はい ボタンをタッチしてください。変更がある場合は，戻る ボタンをタッチしてください。



8） 設定完了の確認画面を表示します。
i）他の吹出口ルーバの動作範囲を変更する場合は，はい ボタンをタッチして（c)項より再度，他の吹出口ルーバの動作範囲を変更してください。
ii）設定を終了する場合は，いいえ ボタンをタッチしてください。
TOP画面へ戻ります。



お知らせ

・上限位置と下限位置を同じ位置に設定すると，ルーバはその位置で固定され，オートスイングをしても動きません。
・設定の途中で，戻る ボタンをタッチすると，1回前の表示に戻ります。また，設定の途中で，運転／停止 スイッチを押すと，本モードを終了し元の表示に戻ります。但し，設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。

注(1) 親・子リモコンを接続時，風向の設定は親リモコン側から設定してください。子リモコン側からの風向設定はできません。
(2) ワイヤレスリモコンを使用する場合は，風向設定の変更ができませんので，ワイヤードリモコンを接続して行こなってください。

(ii) RC-D4G リモコンの場合

1) エアコンを停止させて，セット ボタンと 風向調整 ボタンを同時に 3 秒以上押す

リモコンに接続されている室内ユニットが 1 台の場合，下記の表示がでます。その後，4)項へお進みください。

「データ確認中」

↓

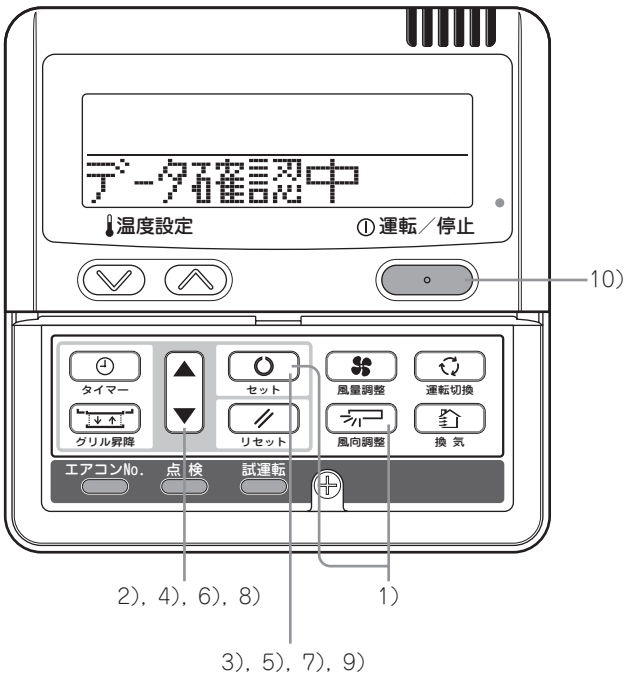
「ルーバ No.1 ▲」

リモコンに接続されている室内ユニットが複数の場合，下記の表示がでます。風向設定をする室内ユニットを選択します。2)項へお進みください。

「室内機選択⬍」

↓

「内　000 ▲」



2) ▲ または ▼ ボタンを押す（室内機選択）

風向設定する室内ユニットを選択してください。

［例］

「内　000 ▲」⇔「内　001⬍」⇔「内　002⬍」⇔「内　003⬍」

3) セット ボタンを押す（室内機決定）

選択した室内ユニットが確定します。

［例］

「内　001」（2 秒間点灯）

↓

「データ確認中」

↓

「ルーバ No.1 ▲」

4) ▲ または ▼ ボタンを押す（ルーバ No. 選択）

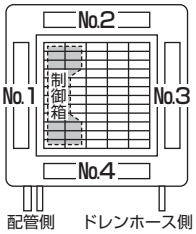
右図を参照して，設定するルーバ No. を選択してください。

［例］

「ルーバ No.1 ▲」⇔「ルーバ No.2⬍」⇔「ルーバ No.3⬍」⇔「ルーバ No.4 ▼」

注(1) FDE シリーズの場合は「ルーバ No.1 ▲」を選んでください。その他のルーバ No. を設定しても無効となります。

- FDT シリーズにおいて，設定したいルーバ No. がわからない場合は，仮に，任意のルーバの上下限位置を設定してください。設定完了後，設定したルーバが停止位置から下限位置まで 1 度動きますので，ルーバ位置が確認できます。ルーバ位置確認後，再度，設定したいルーバ No.を選択してください。
- FDE シリーズの場合は，ルーバ No.1 を設定してください。その他のルーバ No. を設定しても無効となります。



ルーバ No.
［FDT の場合］

5) セット ボタンを押す（ルーバ No. 決定）

ルーバ作動範囲の上限位置を選択します。

［例］No.1 のルーバを選択した場合

「No.1 上位置 2⬍」←現在の上限位置を表示します。

6) ▲ または ▼ ボタンを押す（上限位置選択）

ルーバの上限位置を選択します。

「位置 1」が最も水平で，「位置 6」が最も下向きとなります。

「位置 --」は，出荷時の位置に戻すための番号です。出荷時状態に戻す場合は，「位置 --」を選択してください。

「No.1 上位置 1 ▼」（最も水平）

⇔「No.1 上位置 2 ⬍」

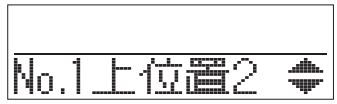
⇔「No.1 上位置 3 ⬍」

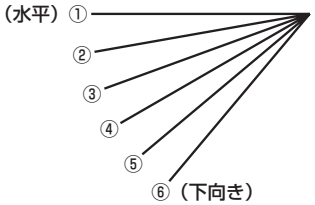
⇔「No.1 上位置 4 ⬍」

⇔「No.1 上位置 5 ⬍」

⇔「No.1 上位置 6 ⬍」（最も下向き）

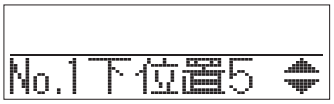
⇔「No.1 上位置 -- ▲」（出荷時の位置へ戻る）



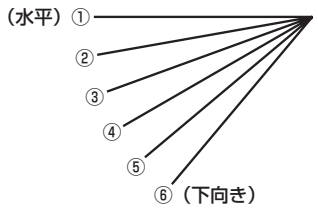


ルーバ位置

7） セット ボタンを押す（上限位置決定）
上限位置が確定し，設定位置を 2 秒間表示します。その後，下限位置選択表示となります。
［例］
「No.1 上 2」←確定内容を 2 秒間表示
↓
「No.1 下位置 5 ⬍」←現在の下限位置を表示します。

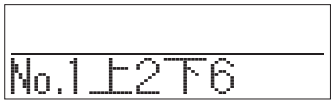


8） ▲ または ▼ ボタンを押す（下限位置選択）
ルーバの下限位置を選択します。
「位置 1」が最も水平で，「位置 6」が最も下向きとなります。
「位置 --」は，出荷時の位置に戻すための番号です。出荷時状態に戻す場合は，「位置 --」を選択してください。
「No.1 下位置 1 ▼」（最も水平）
⇔「No.1 下位置 2 ⬍」
⇔「No.1 下位置 3 ⬍」
⇔「No.1 下位置 4 ⬍」
⇔「No.1 下位置 5 ⬍」
⇔「No.1 下位置 6 ⬍」（最も下向き）
⇔「No.1 下位置 -- ▲」（出荷時の位置へ戻る）

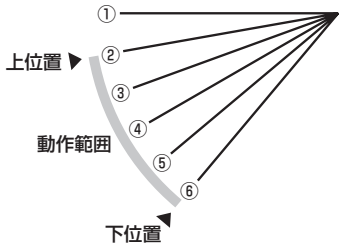


ルーバ位置

9） セット ボタンを押す（下限位置決定）
上限位置，下限位置が確定し，設定位置を 2 秒間点灯し，設定完了となります。
・設定完了後，設定したルーバ No. のルーバが，停止位置から下限位置まで移動し，その後停止位置に戻ります。（但し，リモコンが停止モードであっても，ファン残留運転等で，室内ユニットが運転している場合は，本動作はしません。）
［例］
「No.1 上 2 下 6」←確定内容を 2 秒間表示
↓
「設定完了」
↓
「ルーバ No.1 ▲」←選択したルーバ No. 表示へ戻る。



［例］上位置 2　下位置 6 の場合



（注）上限値と下限値を同じ位置に設定すると，ルーバはその位置で固定され，オートスイングをしても動きません。

10） 運転／停止 ボタンを押す
風向設定モードを終了し，元の表示に戻ります。

お知らせ

- 上限値と下限値を同じ位置に設定すると，ルーバはその位置で固定され，オートスイングをしても動きません。
- 設定の途中で， リセット ボタンを押すと，1 回前の表示に戻ります。また，設定の途中で， 運転／停止 ボタンを押すと，本モードを終了し元の表示に戻ります。但し，設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。

- リモコンが親子接続されている場合，子リモコンでは，風向設定操作はできません。
- ワイヤレスキット，ワイヤレスリモコンで操作する場合は，風向設定の変更ができませんので，ワイヤードリモコンを接続して行こなってください。（ワイヤレスリモコンでの風向設定の変更はできません）

(e) 試運転

(i) 室外ユニットからの試運転

1）現地設定スイッチ SW5-3, 4（SW3-3, 4）により試運転が可能です。

① SW5-3（SW3-3）を ON することで圧縮機が運転します。

② SW5-4（SW3-4）が OFF：冷房運転，SW5-4（SW3-4）が ON：暖房運転

注（1）必ず試運転終了後は，SW5-3（SW3-3）を OFF にしてください。

（2）（　）内は FDCZP1125 ～ 1605 形および FDCVP1125 ～ 2804 形を示します。

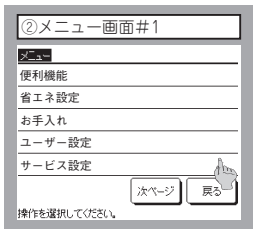
(ii) リモコンからの試運転

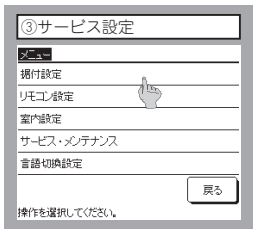
1）冷房試運転操作

a）RC-DX3B リモコンの場合

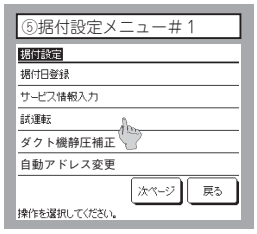
i）冷房試運転の開始

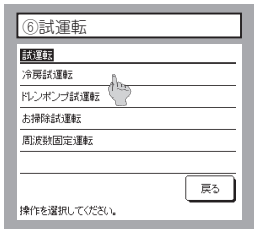
① TOP画面の「メニュー」より→「サービス設定」より「据付設定」を選択します。

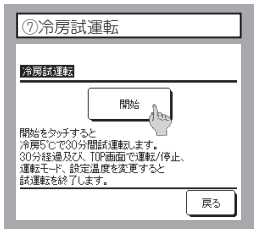




② サービスパスワードを入力し，「据付設定メニュー#1」画面から「試運転」を選択します。
「試運転」画面から「冷房試運転」を選択します。
「冷房試運転」画面から 開始 ボタンをタッチしてください。冷房試運転を開始します。







ii）冷房試運転の解除

下記のいづれかの操作が行われたとき，冷房試運転は解除され「冷房試運転中」の表示は消灯します。

① 運転／停止 スイッチが押されたとき。

② 温度設定が変更されたとき。

③ 冷房以外のモードに変えたとき。

④ 冷房試運転開始より，30分経過したとき。

b）RC-D4G リモコンの場合

リモコンを次の手順で操作してください。

i）冷房試運転の開始

① 運転／停止 ボタンを押して，運転します。

② 運転切換 ボタンにより，「冷房」を選択します。

③ 試運転 ボタンを 3 秒以上押します。表示が，「冷房試運転▼」となります。

④「冷房試運転 ▼」の表示で，セット ボタンを押すと，冷房試運転を開始します。表示は，「冷房試運転」となります。

ii）冷房試運転の解除

下記のいづれかの操作が行われたとき，冷房試運転は解除され，「冷房試運転」表示は消灯します。

① 運転／停止 ボタンが押されたとき。

② 温度設定 ∧ ボタンが押されたとき。

③ 運転切換 ボタンにより冷房以外のモードに変えたとき。

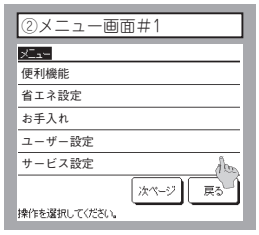
④ 冷房試運転開始より，30 分経過したとき。

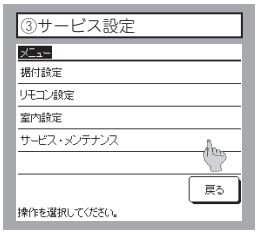
2）運転データの確認方法

リモコン操作により，運転データの確認ができます。

a）RC-DX3B リモコンの場合

① TOP画面の「メニュー」より→「サービス設定」より「サービス・メンテナンス」を選択し，サービスパスワードを入力します。



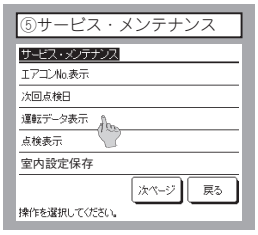


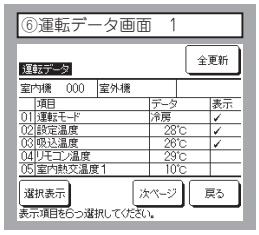
② 「サービス・メンテナンス」画面より「運転データ表示」を選択すると，運転データが表示されます。

・運転データ画面の切換は，「次ページ」または「前ページ」のボタンをタッチしてください。
運転データの内容については，下表の運転データ一覧表をご覧ください。

・運転データを更新したい場合は，「全更新」 のボタンをタッチしてください。

・運転データを6項目選択して表示可能です。「選択表示」のボタンをタッチ後，運転データを6項目を選択してから「全更新」→「選択表示」の順にボタンをタッチしてください。「運転データ個別表示画面」が表示されます。





b）RC-D4G リモコンの場合

［操作手順］

① 点検 ボタンを押します。表示が「運転データ表示 ▼」となります。

②「運転データ表示 ▼」の表示で，セット ボタンを押します。

③ リモコンに接続されている室内ユニットが 1 台の場合，
「データ確認中」表示となり，（データを読み込む間点滅表示）
その後，運転データの 01 番が表示されます。⑦番へお進みください。

④ リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合，
接続されている室内ユニット中で，最も小さい室内アドレスが表示されます。
［例］「室内機選択」（1 秒間点灯）「内 000 ▲」（点滅）

⑤ ▲ ▼ ボタンで，表示したい室内アドレス選びます。

⑥ セット により確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）
「内 001」（選択した室内アドレスを 2 秒間点灯）
↓
「データ確認中」（データを読込む間点滅表示）
その後，運転データの 01 番が表示されます。

⑦ ▲ ▼ ボタンにより，現在の運転データを確認できます。
表示される項目は右記の通りです。
注（1）機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。

⑧ 室内ユニットを変更する場合は，エアコン No. ボタンを押すことにより，室内ユニット選択表示に戻ります。

⑨ 運転／停止 ボタンを押すと，終了します。

◎ 設定の途中で，リセット ボタンを押すと，一回前の設定画面に戻ります。

注（1）運転データの確認は，リモコン 2 台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です（子リモコンからの操作はできません。）

運転データ一覧表

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	リモコンセンサ温度
05	室内熱交温度（Thi-R1）
06	室内熱交温度（Thi-R2）
07	室内熱交温度（Thi-R3）
08	室内ファン速度
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
13	吹出温度
21	外気温度
22	室外熱交温度（Tho-R1）
23	室外熱交温度（Tho-R2）
24	圧縮機周波数
25	高圧圧力
26	低圧圧力
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT 電流
30	SH 制御値
31	実 SH
32	実 TDSH
33	圧縮機保護ステータス No.
34	室外ファン速度
35	63H1　ON/OFF
36	デフロスト　ON/OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室内膨張弁開度（EEVC）
39	室内膨張弁開度（EEVH）

(f) 機外静圧の設定(FDR, FDU シリーズのみ)

● ECOタッチリモコン（RC-DX2以降）を使用して，機外静圧を設定することができます。

● 定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。

(i) FDRシリーズの場合

1) 設定方法

① TOP画面より「メニュー」→「サービス設定」より「据付設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

② 「据付設定メニュー#1」より，「ダクト機静圧補正」を選択します。

③ ▲，▼で機外静圧を設定し，セットをタッチします。

（“AUTO”スイッチは，使用できません。）

④ 風量特性については，設計・施工編をご覧ください。

● リモコンからの設定手順

2) 静圧設定上の注意

① 実際の機外静圧を計算し，設定してください。

② 実際の機外静圧よりも機外静圧の設定が高い場合には風量が過大となり，水漏れが発生する恐れがあります。また，実際の機外静圧よりも機外静圧の設定が低い場合には風量が過小となり，不冷・不暖の原因になります。

3) リモコン設定時の有効機外静圧

● ／部の設定は使用範囲外になります。

単位：Pa

リモコン設定		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
サイレントパネル，キャンバスパネル仕様		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
天井リターン仕様	セゾン：40～56 ビル空調：22～56	15	25	35	45	55	65	75	85	95	／
	セゾン：63～160 ビル空調：71～140	20	30	40	50	60	70	80	90	100	／

(ii) FDUシリーズの場合

1) 設定方法

① TOP画面より「メニュー」→「サービス設定」より「据付設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

② 「据付設定メニュー#1」より，「ダクト機静圧補正」を選択します。

③ ▲，▼で機外静圧を設定し，セットをタッチします。

（“AUTO”スイッチは，使用できません。）

④ 風量特性については，設計・施工編をご覧ください。

⑤ リモコンからの設定手順については，(i)項をご覧ください。

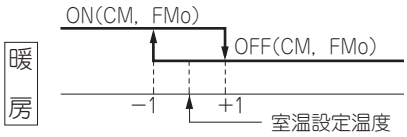
14. マイコン運転制御機能

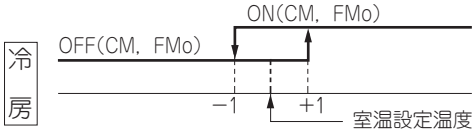
ESP-FP-1986Z
ESP-FP-2002BT
ESP-FP-2298AT

14.1 室内コントローラによる運転制御機能

(1) 室温制御

吸込温度センサ（Thi-A）にて検知をします。



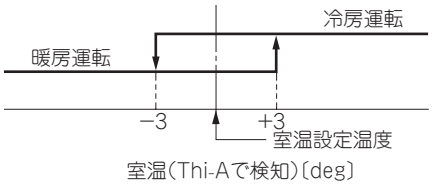


注(1) リモコンセンサ有効時はリモコンセンサ（Thc）にて検知。

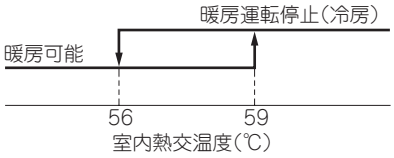
(2) 自動運転

リモコンで「自動」モードを選択すると，外気温度と設定温度または設定温度と吸込温度の差温に応じ自動的に冷房・暖房に切換えます。（冷房⇔暖房切換えが3分以内に行われる場合は3分タイマにより3分間圧縮機は運転しません。）中間期等に於ける冷/暖切換え操作を簡便にできると共に，店舗等（銀行のATMコーナー）の無人運転に対応できます。
RC-DX3Bリモコンを使用する場合，設定により(a)〜(c)の自動運転が選択できます。（初期設定は(a)）。
RC-D4Gリモコンの場合，(a)のみとなります。

(a) 自動運転1：設定温度と吸込温度の差により，冷暖運転モードを判定します。
運転モード切換温度差はリモコン設定により変更可能です。（RC-D4Gを除く）。

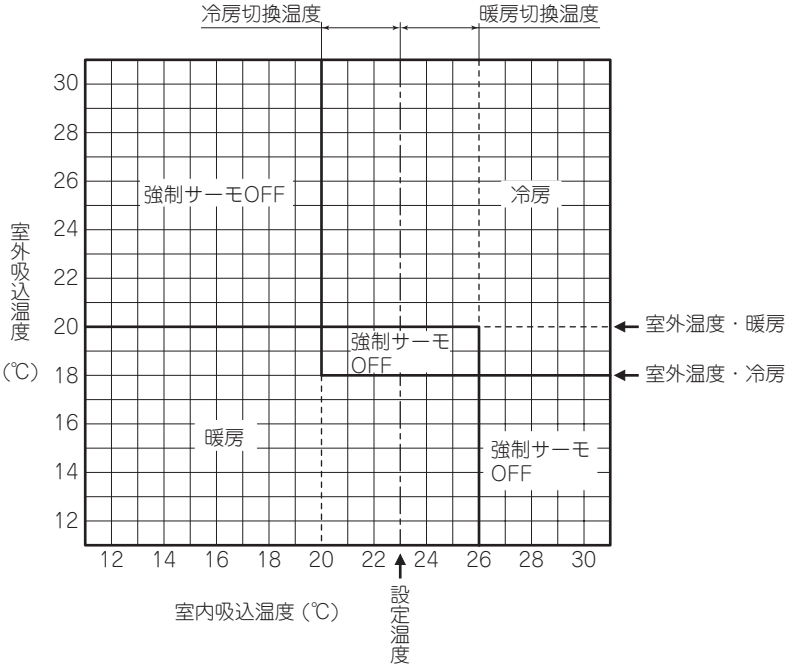


注(1) 自動冷房／暖房時の室温制御は，室温設定温度により行います（DIFF：±1deg）
(2) 暖房時室内熱交温度が59℃以上になると自動的に冷房に切換えます。またこの切換え後１時間以内は右記の温度にかかわらず暖房運転を行いません。



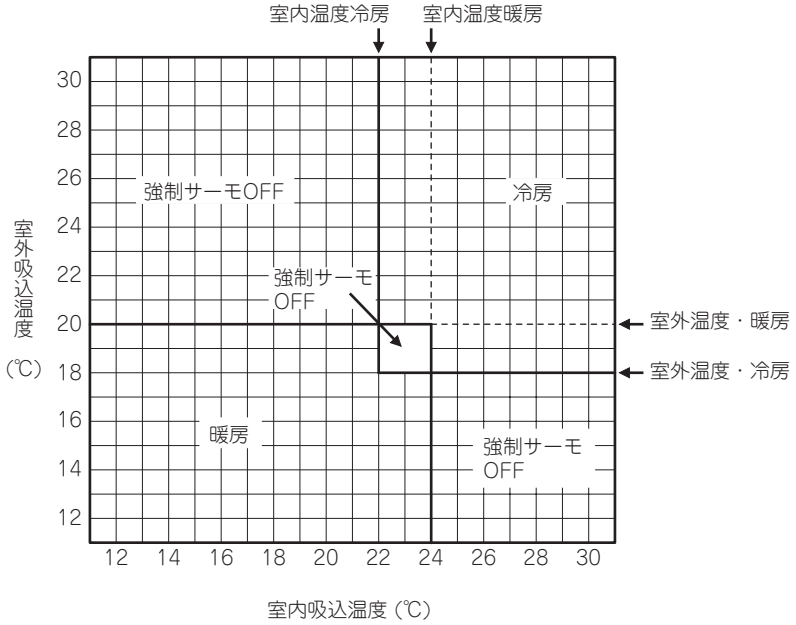
(b) 自動運転2：「設定温度＋冷房切換温度と室内吸込温度による判定」と「室外温度による判定」との条件により，冷暖運転モードを判定します。冷房切換温度，暖房切換温度，室外温度・冷房，室外温度・暖房はリモコン設定により変更可能です。

1) 「設定温度−冷房切換温度＜室内吸込温度」かつ「室外温度・冷房＜室外吸込温度」⇒ 運転モード：冷房
2) 「設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度」かつ「室外温度・暖房＞室外吸込温度」⇒ 運転モード：暖房
3) 上記判定条件の室外吸込温度は，10分毎にサンプリングをします。
4) 上記の冷房・暖房領域が重なる範囲の場合 ⇒ 強制サーモOFF



(c) 自動運転3：設定温度によらず,「室内温度･冷房または暖房と室外温度･冷房または暖房による判定により，冷暖運転モードを判定します。室内温度冷房，室内温度暖房，室外温度冷房，室外温度暖房はリモコン設定により変更可能です。

1）「室内温度・冷房＜室内吸込温度」かつ「室外温度・冷房＜室外吸込温度」の場合 ⇒ 運転モード：冷房
2）「室内温度・暖房＞室内吸込温度」かつ「室外温度・暖房＞室外吸込温度」の場合 ⇒ 運転モード：暖房
3）上記判定条件の室外吸込温度は，10分毎にサンプリングをします。
4）上記の冷房・暖房領域が重なる範囲の場合 ⇒ 強制サーモOFF



(3) 冷房・暖房運転時の機能品動作

動作 ＼ 機能品	冷房 サーモON	冷房 サーモOFF	送風	暖房 サーモON	暖房 サーモOFF	暖房 ホットスタート（デフロスト）	除湿
圧縮機	○	×	×	○	×	○	○／×
四方切換弁	×	×	×	○	○	○（×）	×
室外送風機	○	×	×	○	×	○（×）	○／×
室内送風機	○	○	○	○／×	○／×	○／×	○／×
ルーバモータ	○／×			○／×	○／×	○／×	○／×
ドレンポンプ(3)	○	×(2)	×(2)	○／×(2)			サーモON：○ サーモOFF：×(2)
加湿機	×			○／×(4)			×

注(1) ○：運転　×：停止　○／×：室温制御以外の制御により運転／停止します。
(2) ドレンポンプモータ遅延制御中はON。
(3) ワイヤードリモコンの室内機能設定によりドレンポンプON設定の選択が可能です。
(4) 加湿器ドレン連動制御中はON。

(4) 除湿運転

(a) FDT，FDK シリーズ

吸込口に設置された相対湿度センサ［HS］および吸込空気温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコンセンサによる）〕により，室内の温湿度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込空気温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(ii) 上記成立後，吸込温度と設定温度の差が３℃以下，かつ，相対湿度が目標相対湿度より高い場合は，室内ファンタップを１タップダウンします。吸込温度と設定温度との差が３℃より大きい場合，室内ファンタップを１タップアップします。室内ファンタップ切換え後３分間はタップを保持します。

(iii) 相対湿度センサの検知湿度が目標相対湿度以下になった場合，室内ファンタップを保持します。

(iv) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモON時の室内ファンタップを保持します。

(b) **その他のシリーズ**

吸込温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコンによる）〕により，室内の温度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(ii) 除湿運転中に吸込温度が設定温度より3℃より大きくなった場合，室内ファンタップを1タップアップします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(iii) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモOFF中はサーモON時の室内ファンタップを保持します。

(5) タイマー運転

(a) RC-DX3Bリモコンの場合

(i) 切忘れタイマー

運転開始してから停止するまでの時間を設定します。設定時間は30～240分の範囲（10分単位）まで選択可能です。

注(1) リモコンより「切忘れタイマー」設定を有効にしてください。有効の場合，毎回タイマーが作動します。

(ii) 時間切タイマー

運転後，停止させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。

(iii) 時間入タイマー

停止後，運転させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

(iv) 時刻入タイマー

運転開始時刻を設定します。設定時刻は5分単位での設定が可能で，1回のみ／毎日の切換えが可能です。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

注(1) 時刻入タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(v) 時刻切タイマー

運転停止時刻を設定します。設定時刻は5分単位での設定が可能で，1回のみ／毎日の切換えが可能です。

注(1) 時刻切タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vi) ウィークリータイマー

1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。１日最大８パターンまでの設定が可能で，祭日および臨時休業など休日設定が可能です。

注(1) ウィークリータイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vii) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	切忘れタイマー	時間切タイマー	時間入タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
切忘れタイマー		×	×	○		
時間切タイマー	×		×	×	×	×
時間入タイマー	×	×		×	×	×
時刻切タイマー	○	×	×		○	×
時刻入タイマー	○	×	×	○		×
ウィークリータイマー	○	×	×	×	×	

注(1) ○：可，×：不可

(b) RC-D4Gリモコンの場合

(i) 時間タイマー

現在よりエアコンOFFの時間を設定します。

「１時間後切」から「10時間後切」の10段階での選択が可能です。時間タイマー設定後は，現在時刻の経過とともに１時間単位で残り時間の表示を行います。

(ii) 時刻切タイマー

エアコンOFF時刻を10分単位での設定が可能です。

(iii) 時刻入タイマー

エアコンON時刻を10分単位での設定が可能です。また，同時に室内温度も1℃単位で設定が可能です。

(iv) ウィークリータイマー

各曜日毎に，一日最大４回タイマー運転（入タイマー，切タイマー）の設定が可能です。

(v) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	時間タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
時間タイマー		×	○	×
時刻切タイマー	×		○	×
時刻入タイマー	○	○		×
ウィークリータイマー	×	×	×	

注(1) ○：可，×：不可

(2) 時刻入タイマーと時間タイマーおよび時刻切タイマーが併用設定されており，タイマー入時刻とタイマー切時刻（または切時間）が同時刻に設定された場合は，タイマー切設定が優先されます。

(6) ホットスタート（暖房時コールドドラフト防止）

(a) 開始条件

下記のいずれかの条件が成立時，ホットスタート制御を行います。

(i) 停止から暖房運転へ
(ii) 冷房運転から暖房運転へ
(iii) 暖房サーモOFFからサーモONへ
(iv) デフロスト制御終了後（サーモONユニットのみ）

(b) 制御内容

(i) ホットスタート時の室内ファン制御

1) 暖房運転開始後7分以内にサーモ状態（暖房サーモOFF時のファン制御）によりファンモードを決定します。

a) サーモOFFの場合

ⅰ) 暖房サーモOFF時の室内ファン制御設定により運転します。
ⅱ) サーモOFFからサーモONに変化しても室内ファンは室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になるまでサーモOFF時のファン制御で運転を続けます。
ⅲ) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時は，設定風量で運転します。

b) サーモONの場合

ⅰ) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以下の時は，室内ファンはOFFで運転しません。
ⅱ) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以上になった時は，暖房サーモOFF時のファン制御で運転します。
ⅲ) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時は，設定風量で運転します。

c) ワイヤードリモコン室内機能設定から「暖房ファン制御」を「設定風量」に設定している場合は，サーモON/OFFに関わらず室内ファンは設定風量で運転します。

2) サーモON中に1度室内ファンがOFFからONとなると，室内熱交温度センサが25℃以下となっても室内ファンをOFFしません。

注(1) デフロスト制御受信時はデフロスト時のファン制御に従います。

3) 一旦ホットスタートを終了すると室内熱交温度センサの温度が低下してもホットスタートを再開しません。

(ii) ホットスタート作動時は，ルーバは水平位置となります。
(iii) デフロスト終了後，連続7分間室内ファンがOFFの場合は，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の検知温度に係わらずONします。

(c) 終了条件

(i) ホットスタート制御中に下記の何れかの条件が成立した時，本制御を終了し室内ファンは設定風量で運転します。

1) 室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上の時。
2) ホットスタート制御開始7分経過した時。

(7) ホットキープ

デフロスト制御開始時にホットキープ制御を行います。

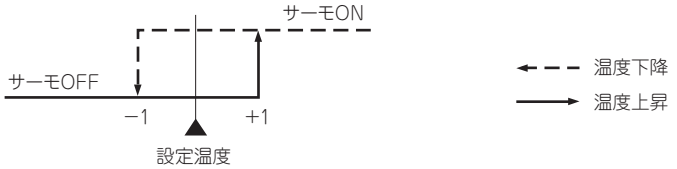
(a) 制御内容

(i) 室内熱交温度(Thi-R1またはR2で検知)が35℃未満となった場合，室内ファンはサーモOFF時のファン設定に従います。
(ii) ホットキープ時は，ルーバは水平位置となります。

(8) サーモ動作

(a) 冷房

(i) 室温制御によりサーモを動作させます。
(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。

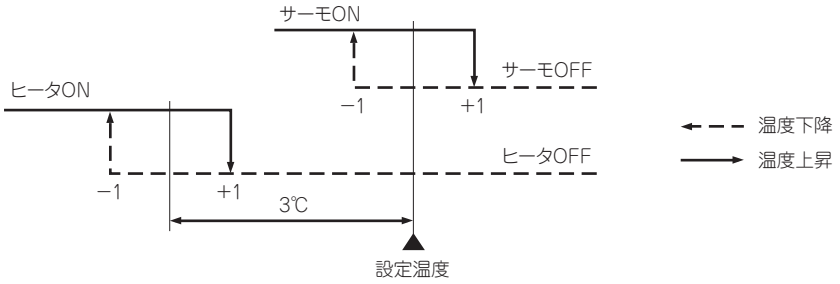


(iii) 冷房運転開始時（暖房から冷房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(b) **暖房**

(i) 室温制御によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。



(iii) 暖房運転開始時（冷房から暖房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(c) **暖房サーモOFF中のファン制御**

(i) 暖房サーモOFF中のファン制御は下記に示す内容が，ワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。
①弱風（工場出荷時） ②設定風量 ③間欠 ④停止

(ii) 「弱風（工場出荷時）」を選択した場合の室内ファンタップはULo（Lo）で運転します。

(iii) 「設定風量」を選択した場合は，サーモOFF時も設定風量で運転します。

(iv) 「間欠」を選択した場合は，下記の制御を行います。

1） 暖房運転中にサーモOFFした室内ユニットは，室内ファンをOFFします。

2） 室内ファンOFFを5分間固定とし，5分後に室内ファンをULo（Lo）で運転を2分間行います。この間ルーバは水平制御となります。

3） 室内ファンをULo（Lo）で運転2分後に1）項に移行します。

4） サーモONであれば，ホットスタート制御へ移行します。

5） 暖房サーモOFFとなった場合，リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし，以降室内ファンがULo（Lo）から停止のタイミングで更新します。
リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い，室内ファンがOFF中も値を更新します。

6） 暖房サーモOFF中にデフロストに入った場合，またはデフロスト中にサーモOFFした場合の室内ファンはOFFとします。（ホットキープ，ホットスタート制御を優先）ただし，吸込温度の更新は7分毎に行います。

7） 暖房サーモONとなった場合，または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は，その時点で本制御を中止し，その後通常運転に復帰します。

(v) 「停止」を選択した場合は，暖房運転中にサーモOFFすると室内ファンをOFFします。

注(1) （ ）内の室内ファンタップはFDESZシリーズの場合を示します。

(d) **冷房サーモOFF中のファン制御**

(i) 冷房サーモOFF中のファン制御は下記に示す内容が，ワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。
①弱風 ②設定風量（工場出荷時） ③間欠 ④停止

(ii) 「弱風」を選択した場合の室内ファンタップはULo（Lo）で運転します。

(iii) 「設定風量（工場出荷時）」を選択した場合は，サーモOFF時も設定風量で運転します。

(iv) 「間欠」を選択した場合は，下記の制御を行います。

1） 冷房運転中にサーモOFFした室内ユニットは，室内ファンをOFFします。

2） 室内ファンOFFを5分間固定とし，5分後に室内ファンをULo（Lo）で運転を2分間行います。

3） 室内ファンをULo（Lo）で運転2分後に1）項に移行します。

4） サーモONであれば，室内ファンは設定風量で，冷房運転を行います。

5） 冷房サーモOFFとなった場合，リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし，以降室内ファンがULo（Lo）から停止のタイミングで更新します。
リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い，室内ファンがOFF中も値を更新します。

6） 冷房サーモONとなった場合，または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は，その時点で本制御を中止し，その後通常運転に復帰します。

(v) 「停止」を選択した場合は，冷房運転中にサーモOFFした室内ファンをOFFします。

注(1) （ ）内の室内ファンタップはFDESZシリーズの場合を示します。

(9) フィルターサイン（お掃除パネル対応機は300ページ参照）

運転時間（運転／停止スイッチが ON となっている時間）が 180 時間[1]になるとリモコン上の「フィルター清掃」を表示します。（運転／停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。）

注(1) フィルターサインの時間設定はワイヤードリモコンの室内機能「フィルターサイン設定」により下表の様に設定が可能です。
（工場出荷時は，設定1に設定されています。）

フィルターサイン設定	機　　能
設定１	設定時間：180 時間（工場出荷時）
設定２	設定時間：600 時間
設定３	設定時間：1,000 時間
設定４	設定時間：1,000 時間（ユニット停止）[2]

(2) 設定 4 では，設定時間経過後フィルター清掃を表示させ更に 24 時間（停止中もカウント）経過後ユニットを停止します。

(10) オートスイング制御（オートスイング機能付機種のみ）

注意 **FDT シリーズは RC-DX3B リモコンの機能設定で「ドラフト防止設定」が有効の時，オートスイングを選択してもドラフト防止設定が有効なルーバはスイングせず水平位置となります。オートスイングさせる場合は「ドラフト防止設定」を解除してください。**

(a) RC-DX3Bリモコンの場合

(i) ルーバ制御

1) エアコンが運転している時に，ルーバを動かすときは，リモコンの TOP 画面で「風向」ボタンをタッチすると風向切換画面が表示されます。

2) ルーバをスイングさせる場合は「オートスイング」ボタンをタッチしてください。ルーバが上下に連動して動きます。
ルーバ位置を固定する場合は 1 ～ 4 ボタンをタッチしてください。ルーバが指定の位置でとまります。

3) ルーバ４位置制御機の電源投入時のルーバ動作
電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット
ホットスタートおよび暖房サーモOFF時は，（コールドドラフトを防ぐため）オートスイング操作(オートスイングまたはルーバ停止)に関わらずルーバは水平位置となります。またルーバ位置の表示は本制御に入る前の表示を継続します。

(iii) ルーバフリー停止制御
リモコンのTOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「リモコン設定」→「サービスパスワード」→「ルーバ制御」の順に選択してください。
この画面にてフリー停止を選択するとリモコンより停止信号があった場合ルーバを停止します。
さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止位置よりルーバが動き始めます。

(b) RC-D4Gリモコンの場合

(i) ルーバ制御

1) エアコンが運転している時に，ルーバを動かすときは，風向調整ボタンを押します。
「スイング」を表示し，ルーバが上下に連続して動きます。

2) ルーバの位置を固定するときは，ルーバが動いているときに，風向調整ボタンを一度押すと，4位の停止位置が1秒ごとに順番に表示されます。
停止させたい位置に表示がきたときに，再度風向調整ボタンを押します。表示が停止し，「ルーバ停止」表示を5秒間表し，ルーバが停止します。

3) ルーバ4位置制御機の電源投入時のルーバ動作
電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット
ホットスタートおよび暖房サーモOFF時はオートスイングスイッチの操作（オートスイングまたはルーバ停止）に関わらずルーバは水平位置となります。（コールドドラフトを防ぐため）またルーバ位置の表示は本制御に入る前の表示を継続します。

(iii) ルーバフリー停止制御
ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」でルーバフリー停止を選択した場合，リモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止前の位置よりオートスイングを始めます。

注(1) ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」を切換えた場合は，リモコン機能「ルーバ制御設定」も同様に切換えてください。

⑾ 圧縮機インチング防止制御

(a) 3分タイマー

圧縮機がサーモスタット，リモコンの運転スイッチ，異常により停止した場合は3分間圧縮機を再始動させません。ただし電源投入時，3分タイマーは無効となります。

(b) 3分強制運転タイマー

(i) 圧縮機ON後3分間圧縮機は停止しません。ただし運転／停止による停止，運転モード変更によりサーモOFFとなった時は即停止します。

(ii) 強制運転制御中に，保護制御に入った場合は，保護制御を優先して圧縮機をOFFします。

⑿ ドレンポンプ制御

(a) 冷房運転，自動の冷房および除湿運転にて圧縮機運転中に作動します。

(b) ドレンポンプがONしてからOFFの領域となっても，5分間（FDUKP1405, 1605：20分間）ドレンポンプONを継続し，その後停止します。
また異常停止の場合も5分間（FDUKP1405, 1605：20分間）遅延を継続します。

(c) 圧縮機ONからOFF時にドレンポンプを5分間（FDUKP1405, 1605：20分間）遅延運転させます。

(d) 上記以外の状態（暖房，送風，停止，冷房サーモOFF）でもドレン検知によりドレンポンプ制御を行います。

(e) ワイヤードリモコン室内機能設定の「ドレンポンプ運転」により下記設定が可能です。

(i) 標準：冷房・除湿時ドレンポンプ ON（出荷時）

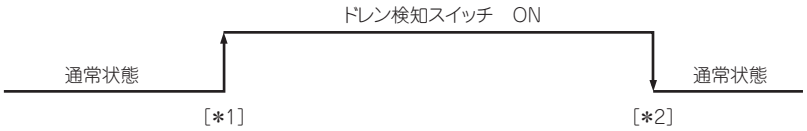
(ii) 暖房：(i)＋暖房時ドレンポンプ ON

(iii) 暖房　送風：(i)＋暖房時，送風時ドレンポンプ ON

(iv) 送風：(i)＋送風時ドレンポンプ ON

⒀ ドレン異常検知

(a) フロートスイッチ（FS）とタイマーによりドレン検知スイッチをON-OFFします。



［＊1］ドレン検知可能区間においてフロートスイッチ「開」を3秒間連続検知した時，ドレン検知スイッチを「ON」にします。

［＊2］フロートスイッチ「閉」を10秒間連続検知した時，ドレン検知スイッチを「OFF」にします。

(i) 電源 ON 後 30 秒以降は常時検知します。

(ii) ドレンポンプ OFF 後 10 秒間はドレン異常検知を行ないません。

(iii) ドレン検知スイッチ「ON」により，ドレンポンプを強制 ON にします。

(iv) ドレン検知スイッチ「OFF」により，ドレンポンプ強制 ON を解除します。

(b) 室内ユニットは，各運転状態によりA制御またはB制御を行ないます。

	室内ユニットの運転モード				
	停止(1)	冷房	除湿	送風(2)	暖房
圧縮機ON中		A　制　御			
圧縮機OFF中	B　制　御				

注(1) 冷房，除湿，送風，暖房からの停止，異常停止を含む
(2) 運転モード不一致による「送風」運転を含む

(i) A制御

1) フロートスイッチがドレン異常を検知すると異常停止（E9 表示）します。異常検知後，ドレンポンプは ON を継続します。

2) フロートスイッチがドレン異常を検知している間は運転します。

(ii) B制御

フロートスイッチがドレン異常を検知するとドレンポンプを5分間（FDUKP1405, 1605：20分間）ONし，ドレンポンプOFF後10秒の時点でフロートスイッチをチェックし正常ならば通常の停止，異常ならばE9を表示しドレンポンプをONします。（ドレン検知中はONのまま。）

⑭ 運転チェック／ドレンポンプ試運転モード

(a) 室内基板上のディップスイッチ（SW7－1）をONの状態で電源を投入することにより運転チェック／ドレンポンプ試運転モードに入ります。なお，電源投入後の切換えは無効（禁止）です。

(b) ディップスイッチ（SW7－1）がONで電源投入後60秒以内にリモコン通信が確定した場合は，運転チェックモードに入ります。また，リモコン通信が確定しない場合は，ドレンポンプ試運転モードに入ります。

注(1) ドレンポンプ試運転モードを選択する場合は，室内基板上のリモコン用コネクタ（CnB）を抜きリモコン通信を断ってください。

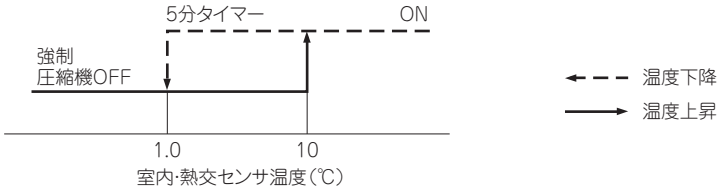
(c) 運転チェックモード
室外ユニットとの通信は行われず，リモコン操作により各運転モードを行います。

(d) ドレンポンプ試運転モード
ドレンポンプ試運転確定後ドレンポンプのみ運転を行い，運転中は，室内ユニットのマイコンによる保護機能は無効となります。

⑮ 室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）

(a) 強制圧縮機OFF制御

(i)「冷房」「除湿」運転中，熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の検知により圧縮機をOFFします。



(ii) 圧縮機ON後4分間は，凍結防止制御の強制圧縮機OFF制御を作動させません。圧縮機ONから4分経過時点で，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の検知温度が強制圧縮機OFF温度（1.0℃）以上の場合は，圧縮機ON可の状態から検知を開始します。

(iii) 圧縮機ONから4分経過後，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか）が5分連続して強制圧縮機OFF温度（1.0℃）以下となると圧縮機をOFFさせます。また，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の温度が10℃以上になると圧縮機をONさせます。

(iv) 室外ユニットへ「アンチフロスト」信号を送ります。

(v) ワイヤードリモコン室内機能設定の「フロスト防止温度」により強制圧縮機OFF温度の切換えができます。
- 温度　低：1.0℃（工場出荷時）
- 温度　高：2.5℃

ここで、湿度センサ有り（FDT, FDKシリーズ）の場合は下記となります。
相対湿度が50％ RH以下を連続３分間検知した場合、強制圧縮機OFF温度は下記となります。
- 温度　低：－0.5℃（工場出荷時）
- 温度　高：　1.0℃

(b) 凍結防止制御時の室内ファン制御

冷房・除湿運転中に凍結防止制御に入った場合は，室内ファンを切換えます。

(i) DCモータの場合

1) 室内ユニットの吸込空気温度（Thi-Aで検知）が23℃以上かつ，室内熱交温度（Thi-R1，2で検知）が周波数低下開始温度A℃＋1.0℃を検知した場合は，室内ファン回転数を20min^{-1}増加させます。
- 周波数低下開始温度（A）　低：1.0℃（工場出荷時）
- 周波数低下開始温度（A）　高：2.5℃

2) 室内ユニットの吸込空気温度（Thi-Aで検知）が23℃以上かつ，凍結防止制御による強制圧縮機OFF制御実施時，室内ファンを1タップ上げます。

3) 凍結防止制御による室内ファンアップ後，吸込空気温度が23℃以上かつ室内熱交温度が周波数低下開始温度A℃＋1.0℃を検知した場合は，室内ファン回転数を20min^{-1}増加させます。

4) 凍結防止制御による室内ファンアップ後，2）項を再度検知した場合は，室内ファンを1タップ上げます。

5) ワイヤードリモコン室内機能「フロスト防止制御」によりファン制御の有効／無効が切換えられます。

(ii) ACモータの場合

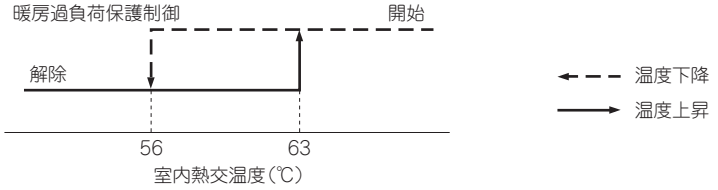
1) 室内ユニット吸込空気温度（Thi-Aで検知）が23℃以下の場合は，本制御を無効とし，凍結防止制御作動から2時間経過で終了します。

2) 凍結防止による強制圧縮機停止から15分以内に再度検知した場合は，室内ファン速度を1タップ上げます。室内ファンアップ後，15分以内に再度検知した場合は，さらに室内ファンを1タップ上げます。（室内ファン速度アップは，2ステップまでとします。）

3) ワイヤードリモコン室内機能フロスト防止制御によりファン制御の有効／無効が切換えられます。

⑯ 暖房過負荷保護制御

(a) 室内熱交温度（Thi-R1，2で検知）が63℃以上を2秒間検知した場合は，暖房過負荷保護制御を開始し，検知温度が56℃以下を検知すると解除します。



(b) **1回目の暖房過負荷検出**

（i） 圧縮機OFF信号を送信し停止制御を行います。

（ii） サーモONにより圧縮機をONし，吸込温度（Thi-Aで検知）が31℃以上を2秒間検知すると圧縮機を強制OFFします。

(c) **暖房過負荷検出後，60分以内に2回目，3回目，4回目の検出**

（i） 圧縮機OFF信号を送信し停止制御を行います。

（ii） サーモONにより圧縮機をONし，室内ファン速度が強以下であれば1速アップさせます。

(d) **1回目の検知から60分以内に5回および連続6分間検出すると異常停止（E8）します。**

⑰ 室内ファンモータ異常

(a) ファンモータ運転後，30秒間連続して回転数が200min^{-1}未満を60分以内に4回検知した時は異常停止（E16）します。

(b) ファンモータが回転指令出力後，2分間連続して要求回転数－50min^{-1}（FDU：－500min^{-1}）に達しないときは，ファンモータ異常として異常停止（E20）します。

⑱ 複数台制御ー 1 リモコンによる 16 台グループ制御

(a) **機　　能**

1個のリモコンで複数台のユニット（室内ユニット・最大16台）をグループ制御できます。リモコンでセットした「運転モード」でグループの全ユニットは号機No.(1)順に順次運転・停止させることができます。

各ユニットのサーモ，保護機能は独立して機能します。

注(1) 号機No.は室内制御基板上のSW2で設定します。SW2の号機設定は室内のみ必要です。

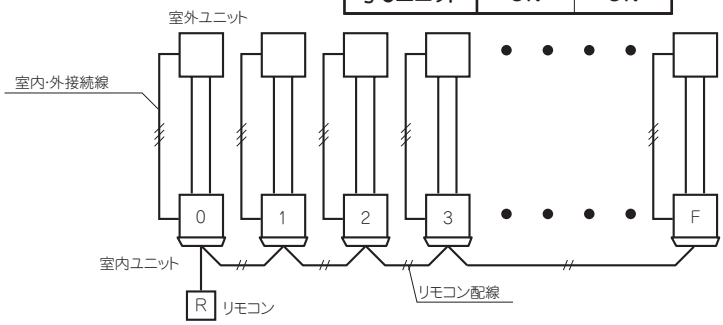
SW2：0～9,A～Fを設定します。

SW5：親・子ユニットを設定します。

（右表を参照）

SW5の設定

ユニット＼スイッチ	SW5-1	SW5-2
親ユニット	OFF	OFF
子aユニット	OFF	ON
子bユニット	ON	OFF
子cユニット	ON	ON



(2) 号機は重複しなければランダムでも構いませんが，0，1，2…，Fと順番に設定していった方が間違いなく設定できます。

(b) **リモコンへの表示**

（i） **センターまたはリモート別，暖房準備：**運転中のユニットでリモートモードの（リモートモードが無い時は，センターモード）最若号機ユニットの表示

（ii） **点検表示，フィルターサイン：**いずれか初発のユニット対応で表示

(c) **接続ユニットの確認**

（i） RC-DX3B リモコンの場合

リモコンのTOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「サービス･メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→「エアコンNo.表示」の順に選択すると接続室内ユニットが表示されます。

（ii） RC-D4Gリモコンの場合

リモコンの エアコンNo. ボタンを押すと，リモコン通信アドレスが表示されます。その後▲▼ボタンを押すと最若号機から順に表示されます。

(d) **異常時**

(i) グループの一部ユニットに異常が発生した場合（保護装置作動）当該ユニットは異常停止しますが，他の正常なユニットはそのまま運転を継続します。

(ii) 配線要領

各ユニットの室内・外接続線は各ユニット毎に通常と同じ配線をしてください。グループ制御用にリモコンの端子台（X，Y）を使用し各室間に渡り配線をしてください。

リモコン線と電源線または他の電気機械器具電線（AC100V以上）とは分離して配線してください。

(19) グリル昇降制御

- 子リモコンでは操作できません。親リモコンで操作してください。
- 上昇・下降制御に入っていない限り、エアコンは運転可能です。

(a) **オートリフトモード**

リモコンの「グリル昇降」を押すことにより、室内ユニットは停止し、オートリフトモードになります。

(b) **グリル下降制御**

リモコンの下降信号により、設定された長さに相当する時間分、グリルが下降します。

設定された長さに相当する時間以上になるとそれ以上グリルは下降しません。

(c) **グリル上昇制御**

リモコンの上昇信号により、グリルが上昇します。パネルスイッチが ON になるまでか，または設定された長さに相当する時間分、グリルが上昇し、グリル収納制御を行います。

(d) **グリル収納制御**

グリル上昇制御でパネルスイッチが ON になるか、設定された長さに相当する時間になるとグリル収納制御を行います。収納位置を補正するため、下降・上昇制御を 2 回繰り返します。

(e) **ワイヤゆるみ検知機構**

(i) グリル停止中に、ワイヤゆるみ検知スイッチが OFF の場合は、グリル上昇制御・下降制御を行いません。

(ii) グリル上昇制御・下降制御・グリル収納制御中に、ワイヤゆるみ検知スイッチが OFF した場合は、1 秒後にグリル昇降モータを OFF します。

(iii) (ii)項でモータ停止後、ワイヤゆるみ検知スイッチが ON になると、再度リモコンにより上昇制御･下降制御を行います。

(f) **グリル開時のエラー表示（FDT シリーズのみ）**

エアコン運転中に 1 秒以上パネルスイッチ（PS）が開を検知した場合はエアコンを停止し，リモコンに E21 を表示します。

注(1) リモコンによる自動下降制御で，自動昇降モードに入っている場合は除きます。

(20) 風速制御

高天井に設置された室内ユニットで風量が不足する場合にファンタップを変更することにより風量のアップが可能です。

ワイヤードリモコン室内機能の「風速設定」によりファンタップが変更できます。

		室内風量設定				適用機種
		P急 - 急 - 強 - 弱	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強	
風速設定	標準	P-Hi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	その他
		P-Hi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEシリーズ
		P-Hi2 - Hi - Me - ULo	Hi - Me - ULo	Hi - ULo	Hi - Me	FDTシリーズ
	設定 1	P-Hi1 - PHi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Me	P-Hi1 - Hi	その他
		P-Hi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEシリーズ
		P-Hi2 - PHi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Me	P-Hi1 - Hi	FDT, FDTW,FDKシリーズ
	設定 2	P-Hi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDT, FDTW,FDE, FDKシリーズ

注(1) 出荷時標準に設定されています。

(2) ホットスタートおよび暖房サーモOFF時等は室内ファンを各設定の低速タップで運転します。

(21) 温度センサ（吸込・室内熱交）断線・短絡検知

(a) **断線検知**

吸込温度センサの検知温度が－50℃以下，室内熱交温度センサの検知温度が－50℃以下を連続5秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させ1回目の検知から60分以内に再検知および連続6分間検知した場合は，停止（吸込温度センサ：E7，室内熱交温度センサ：E6）します。

(b) **短絡検知**

室内熱交温度センサの検知温度が，冷房運転で圧縮機ON2分後から20秒間に短絡を連続5秒間検知した場合は停止（E6）します。

㉒ 外部入力（遠方表示）／遠方操作

外部入出力端子CnTおよび入力端子CnTAにより，運転状態の出力およびエアコンの発停入力をすることができます。

ⒶⒶ 外部制御（遠方表示）用出力（オプションの遠方発停監視キットが利用できます。）

（i） 出荷状態の出力

1） 室内制御基板上に下記の出力用コネクタ（CnT）を持っています。遠方発停監視キットを接続して各々の無電圧接点を取出してください。

2） 出荷状態では，以下の４つの出力が割り当てられています。

・運転出力（CnT1-2）：運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・暖房出力（CnT1-3）：暖房運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・圧縮機 ON 出力（CnT1-4）：圧縮機が運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・異常出力（CnT1-5）：異常発生時，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。

（ii） 出力コネクタの変更

1） ワイヤードリモコンの室内機能設定により，出力コネクタの変更および(ⅲ)項の出荷状態以外の出力に変更することができます。ワイヤードリモコンRC-DX3Bでの設定は可能ですが，ワイヤードリモコンRC-D4Gでは設定ができません。

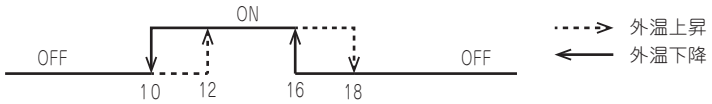
2） 設定は，ワイヤードリモコンの室内機能「外部出力設定 」で出力先の選択してください。ワイヤードリモコンでの設定名とコネクタは以下のようになります。

①外部出力１：CnT1-2 ②外部出力2：CnT1-3 ③外部出力3：CnT1-4 ④外部出力4：CnT1-5

(ⅲ) 出荷状態以外の出力

1） 冷房出力：冷房モード中（自動の冷房運転，デフロスト，暖房油戻しを含む）に出力します。
2） ファン運転出力1：室内ファンの速度によらず，ファン運転中に出力します。
3） ファン運転出力2：室内ファンが，Hiタップ以上で運転中に出力します。
4） ファン運転出力3：室内ファンが，Hiタップ未満で運転中に出力します。
5） デフロスト，油戻し出力：室外ユニットからのデフロスト信号または暖房油戻し信号を受信中に出力します。
6） 換気出力：ワイヤードリモコンからの換気指令により出力します。
7） ヒータ出力：（8），(b)項の条件により出力します。
8） フリークーリング出力

運転モードが冷房または送風の場合，外気温度により出力します。（外気導入による温度調整用）



外気温度（Tho-A）

9） 室内過負荷アラーム出力

運転開始30分以降で，設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上となった場合，出力します。

ⒷⒷ 遠方操作用入力（CnT1-6 または CnTA1-2）

（i） リモコンによる設定方法

1） ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転/停止モードおよび入力方式を設定します。出荷状態で，外部入出力1，2の設定は運転/停止，外部入力1，2の方式はレベル入力となっています。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3B（ワイヤードリモコン）	RC-D4G（ワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：運転/停止	運転許可/禁止:無効
	CnTA	外部入力２設定：運転/停止	設定項目はありませんが、出荷状態のままで使用可能です。
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“	外部入力切換え：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“	設定項目はありませんが、出荷状態のままでレベル入力です。

（ii） 外部入力による動作

1） 運転・停止の切換え

a） レベル入力の場合

外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2は閉）の場合は運転となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2は開）の場合は停止となります。

b） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで運転と運転停止を反転します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動　　作	
運転/停止	①レベル	外部端子入力（CnT または CnTA）	OFF ON OFF ON 運転指令エッジ↑ ↑停止指令エッジ
		運転/停止	停止 運転 停止 運転
		運転/停止（競合）	停止 運転 停止 運転 ↑リモコン停止 ↑リモコン運転
	②パルス	外部端子入力（CnT または CnTA）	OFF ON OFF ON 運転/停止反転 ONエッジ 運転/停止反転 ONエッジ
		運転/停止	停止 運転 停止
		運転/停止（競合）	停止 運転 停止 運転 停止 ↑リモコン停止 ↑リモコン運転

(iii) 注意事項

1） ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

2） エアコンの操作が「センターモード」となっている時は，CnT または CnTA による遠方操作は無効となります。

3） コネクタの部品番号（別売品，配線長さ 500mm）

コネクタ	部品番号
CnT	PCZ006A043
CnTA	PCZ006A053
CnZ（HA用）	PCZ006A054

注(1) CnZは、FDT, FDKにはありません。

(23) 運転許可・禁止（コインタイマー用制御）

リモコンで設定を変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTAの機能切換えを行い，外部信号の入力によりエアコンの操作可能・操作不可を制御することができます。

市販のコインタイマーの信号等によりエアコン使用可能・使用不可を制御することが出来ます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転許可・禁止モードおよび入力方式を設定します。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3B（ワイヤードリモコン）	RC-D4G（ワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：許可/禁止	運転許可/禁止:有効
	CnTA	外部入力２設定：許可/禁止	設定できません。
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“	外部入力切換え：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“	設定できません。

(b) 外部入力による動作

(i) 運転許可・禁止の切換え

1） レベル入力の場合

外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は，運転許可となります。

外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は，運転禁止となります。

外部端子入力（CnT または CnTA）	OFF ON OFF ON 運転指令エッジ↑ ↑停止指令エッジ
運転許可/禁止	禁止 許可 禁止 許可

2） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで運転許可と運転禁止を反転します。

外部端子入力（CnT または CnTA）	OFF ON OFF ON 運転/停止反転 ONエッジ 運転/停止反転 ONエッジ
運転許可/禁止	禁止 許可 禁止

(ii) 運転許可の場合の動作
1) エアコンは，リモコンからの操作が可能です。
2) 「センター」モード設定時は，センターからのみ操作可能がとなります。
(iii) 運転禁止時の場合の動作
1) エアコンは，リモコンからの操作ができません。
2) エアコン運転中に運転禁止となった場合は，エアコンは停止します。

(c) 注意事項

(i) ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。
(ii) プルーラル制御中は，親機のみ本制御を受け付けます。子機は本制御を受け付けません。子機は，親機の入力に連動します。

(24) 冷房・暖房外部入力機能切換え

リモコンで設定変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを冷房/暖房に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，冷房/暖房モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：冷房/暖房
	CnTA	外部入力２設定：冷房/暖房
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

(i) 冷房/暖房の切換え
1) レベル入力の場合
外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は暖房となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は冷房となります。
2) パルス入力の場合
外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで冷房と暖房を反転します。

(c) 外部入力により冷房 / 暖房の切換えを受けた場合は，リモコンに運転モードを送信します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動　　作	
冷房/暖房切換	⑤レベル	外部端子入力（CnT または CnTA）	OFF 冷房専用区間 / ON 暖房専用区間 / OFF 冷房専用区間 / ON 暖房専用区間
		冷房/暖房	冷房 / 暖房 / 冷房 / 暖房
		冷房/暖房（競合）	冷房 / 暖房 / 冷房 / 暖房 ↑リモコン冷房，除湿，自動指令 ↑リモコン暖房，自動指令
	⑥パルス	外部端子入力（CnT または CnTA）	OFF / ON / 暖房専用区間 / OFF / ON / 冷房専用区間 ↑「冷/暖切換」設定後，現在の運転モードによって冷/暖切換を行う。暖房時：暖房専用設定（冷房禁止区間）にする。冷房，除湿，自動，送風時：冷房専用設定（暖房禁止区間）にする。
		冷房/暖房	自動 / 冷房 / 暖房 / 冷房
		冷房/暖房（競合）	自動 / 停止 / 運転 / 停止 ↑「冷/暖」＋「パルス」に設定 ↑リモコン冷房，除湿，自動指令 ↑リモコン暖房，自動指令

(d) 注意事項

ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと本制御は行えません。

(25) 緊急停止信号処理

室内機能設定を変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切替えを行い，外部信号の入力により，室外ユニットを緊急停止させます。

(a) リモコンによる設定方法

室内機能設定により，緊急停止モードを設定します。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3B	RC-D4G
モード設定	CnT	外部入力１設定：緊急停止	緊急停止：有効
	CnTA	外部入力２設定：緊急停止	設定できません

(b) 緊急停止信号による動作

外部入力OFF（CnT1-6またはCnTA1-2：開）の場合、緊急停止します。

(26) 設定温度シフト入力

リモコンで設定変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを設定温度シフト入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，設定温度シフト入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

(i) 設定温度シフト入力の切換え

1) レベル入力の場合
外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は設定温度シフトが有効となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は設定温度シフトが無効となります。

2) パルス入力の場合
外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

(ii) 注意事項
ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

(27) 強制サーモ OFF 入力

リモコンで設定変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを強制サーモOFF入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，強制サーモOFF入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

(i) 強制サーモOFF入力の切換え

1) レベル入力の場合
外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は強制サーモOFFが有効となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は強制サーモOFFが無効となります。

2) パルス入力の場合
外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

(ii) 注意事項
ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

(28) 一時停止入力

リモコンで設定変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，一時停止入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

(i) 一時停止入力の切換え

1) レベル入力の場合

外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は一時停止が有効となります。

外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は一時停止が無効となります。

2) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

(ii) 注意事項

ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

(29) サイレントモード入力

リモコンで設定変更することで，(22)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードをサイレントモード入力に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，静音モードおよび入力方式を設定します。

RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

(i) サイレントモード入力の切換え

1) レベル入力の場合

外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合はサイレントモードが有効となります。

外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合はサイレントモードが無効となります。

2) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

(ii) 注意事項

ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

(30) 外部入力機能と優先順位

(a) CnTとCnTAの組合せ優先順位

■CnTとCnTAの組合せ優先順位

		CnTA					
		①運転停止レベル	②運転停止パルス	③運転許可/禁止レベル	④運転許可/禁止パルス	⑤冷暖切換レベル	⑥冷暖切換パルス
CnT	①運転停止レベル	CnT①	CnT①	CnT①+CnTA③	CnT①	CnT①／CnTA⑤	CnT①／CnTA⑥
	②運転停止パルス	CnT②	CnT②	CnT②+CnTA③	CnT②	CnT②／CnTA⑤	CnT②／CnTA⑥
	③運転許可/禁止レベル	CnT③>CnTA①	CnT③>CnTA②	CnT③+CnTA③	CnT③	CnT③／CnTA⑤	CnT③／CnTA⑥
	④運転許可/禁止パルス	CnT④	CnT④	CnT④+CnTA③※	CnT④	CnT④／CnTA⑤	CnT④／CnTA⑥
	⑤冷暖切換レベル	CnT⑤／CnTA①	CnT⑤／CnTA②	CnT⑤／CnTA③	CnT⑤／CnTA④	CnT⑤	CnT⑤
	⑥冷暖切換パルス	CnT⑥／CnTA①	CnT⑥／CnTA②	CnT⑥／CnTA③	CnT⑥／CnTA④	CnT⑥	CnT⑥

注(1) ※部のCnTAによる運転禁止設定中は，以下の運転指令を受付けます。

・リモコンからの個別運転指令,室外からの試運転指令およびオプションからの運転指令

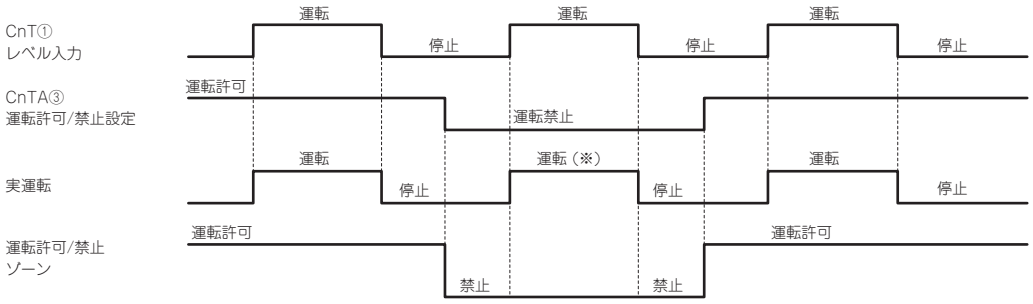
参考:上記記号および組合せ記号の説明

1. CnT"番号"の場合，CnT"番号"採用しCnTAを無効とする。
2. CnTA"番号"の場合，CnTA"番号"採用しCnTを無効とする。
3. CnT"番号"／CnTA"番号"の場合，CnT"番号"とCnTA"番号"は共に独立した機能とする。
4. CnT"番号"+CnTA"番号"の場合，CnT"番号"とCnTA"番号"は競合機能
5. CnT"番号">CnTA"番号"の場合，CnT"番号"はCnTA"番号"より機能の優先順位が高い。
6. CnT"番号"<CnTA"番号"の場合，CnTA"番号"はCnT"番号"より機能の優先順位が高い。

（上記"番号"の部分には,①～⑥の番号が入ります）

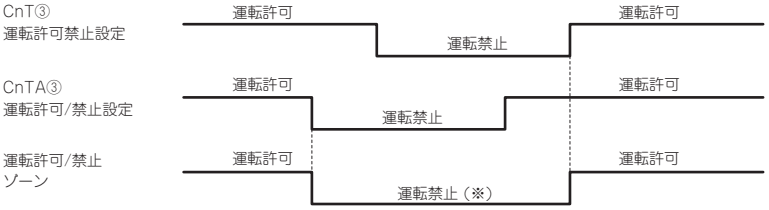
(b) **CnTとCnTAでの優先順位例**

(i) CnT①運転レベル>CnTA③運転許可／禁止レベルの場合



（※）CnTレベル入力をCnTA運転禁止よりも優先する。

(ii) CnT③運転許可／禁止レベル ＋ CnTA③運転許可／禁止レベルの場合



（※）運転禁止ゾーンはCnT運転禁止ゾーンとCnTA運転禁止ゾーンのOR判定とする。

(31) 暖房立上がり時のファン制御（DC モータの場合のみ）

(a) **開始条件**

暖房運転開始時とホットスタート制御終了後に，設定温度と吸込温度との温度差が5℃以上の時，本制御を行います。

(b) **制御内容**

(i) サンプルリング時間は1分毎とし，室内熱交温度(Thi-R1, 2で検知)が37℃以上の場合，現在の室内ファン回転数を10min^{-1}上げます。

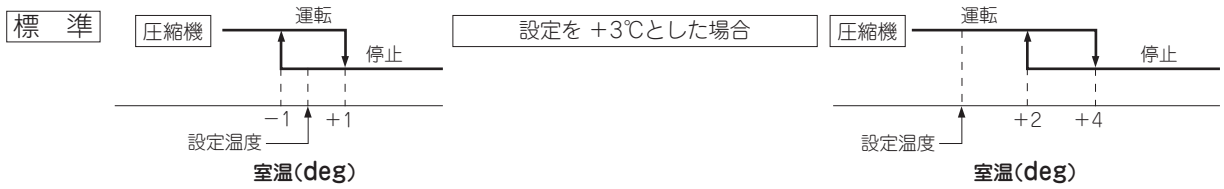
(ii) 次のサンプルリング時に室内熱交温度が37℃未満となった場合，現在の室内ファン回転数を10min^{-1}下げます。

(c) **終了条件**

圧縮機OFFが成立した場合および暖房運転開始時から30分経過後，－10min^{-1}/分で設定風量まで室内ファン回転数を下げます。

(32) 暖房時室温検知温度補正

サーモの設定温度で圧縮機を ON/OFF していますが，天井に暖気がこもり易い据付状況で早目にサーモ OFF してしまう場合，ワイヤードリモコン室内機能「暖房室温補正」により設定温度の変更が可能です。設定温度＋3，＋2，＋1℃のいずれかの温度で圧縮機を ON/OFF させ，暖房フィーリング向上させることができます。ただし設定温度の上限を 30℃とします。



(33) 吸込温度補正

吸込温度センサの検知温度とユニット据付後の計測温度との誤差が生じて，補正が必要となった場合に補正する機能です。

(a) ワイヤードリモコン室内機能「吸込温度補正」により0.5℃単位で変更が可能です。

●＋1.0℃，＋1.5℃，＋2.0℃，　●－1.0℃，－1.5℃，－2.0℃，

(b) 補正後の温度をリモコンや室外ユニットに送信し，補正後の温度で制御を行います。

注(1) 検知温度補正は室内ユニットセンサのみ有効です。

⑶④ お掃除パネル対応機能制御（FDTシリーズのみ）

ⒶⒶ フィルターサイン

（ⅰ） 運転時間（「運転／停止」スイッチがONとなっている時間）が下記設定時間になると，リモコンの液晶に「フィルター清掃」を表示します。（運転・停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。）

注⑴ フィルターサインの時間設定は，ワイヤードリモコン室内機能「フィルターサイン設定」により下表のように設定可能です。

フィルターサイン設定	機　　能
設定１	設定時間： 1,000時間
設定２	設定時間： 2,000時間
設定３	設定時間： 2,500時間
設定４	設定時間： 2,500時間（ユニット停止）

注⑴ 設定4では，設定時間経過後フィルター清掃を表示させ，更に24時間（停止中も含む）経過後ユニットを停止します。
⑵ RC-D4Gリモコンは工場出荷時，設定3（2,500時間）に設定されていますが，RC-DX3Bリモコンについては工場出荷時の設定はされていません。

（ⅱ） フィルターサインが点灯すると，お掃除パネルは，表示部に黄色を点灯します。RC-DX3B リモコンは，「ホコリを回収してください」を表示します。

⑶⑤ ハイパワー運転（RC-DX3Bリモコンのみ）

最大能力で，最長15分間運転します。

⑶⑥ 省エネ運転（RC-DX3Bリモコンのみ）

設定温度を冷房28℃，暖房22℃，自動25℃で固定して運転します。（最大能力を80％に制限します。）

⑶⑦ ピークカットタイマー（RC-DX3Bリモコンのみ）

最大能力を制限することで消費電力を削減します。

⑶⑧ ウォームアップ制御（RC-DX3Bリモコンのみ）

運転開始設定時間にお部屋が設定温度近くになるように，マイコンが運転開始時間を予測して，5～60分前から運転を開始します。

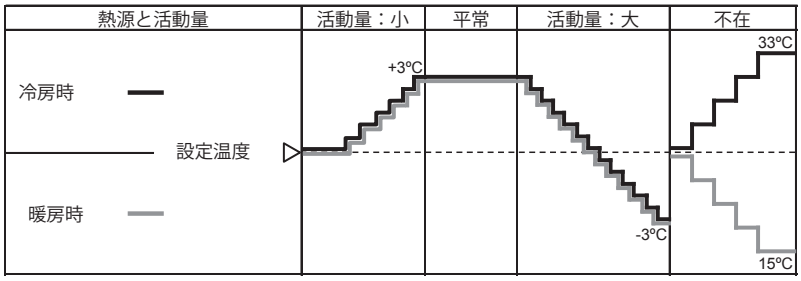
⑶⑨ 人感センサ制御（オプション）

人感センサにより人の有無および活動量をセンサで判定し，下記制御を行います。

① **パワーコントロール制御（省エネ制御/快適制御）**

赤外線センサにより人の活動量および人の有無を検知し，設定温度を補正します。

運転モード（自動／冷房／暖房）と制御

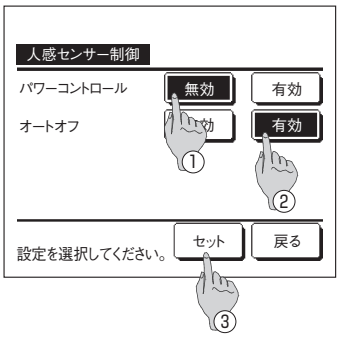


② **オートオフ制御**

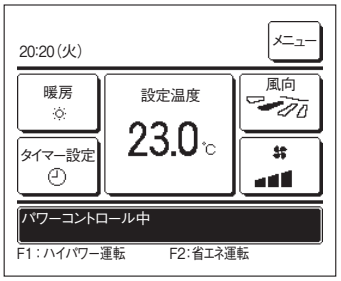
1時間不在の場合は，運転を停止して運転待機状態となります。待機状態が12時間継続した場合は，運転を停止します。

(a) RC-DX3Bから設定する場合

設定は、TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「据付設定」→「サービスパスワード」→「据付設定メニュー」→「人感センサー設定」の順に選択し、有効・無効の設定をしてください。
次に「メニュー画面」→「省エネ設定」→「人感センサー制御」を選択します。

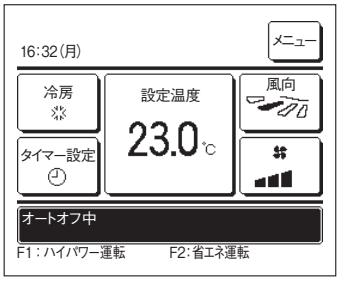


①パワーコントロールの有効/無効を設定します。
②オートオフの有効/無効を設定します。
③各項目設定後、セットボタンをタッチしてください。
省エネ設定メニュー画面に戻ります。



・パワーコントロール有効の場合

設定温度を補正中はメッセージ表示部に「パワーコントロール中」を表示します。



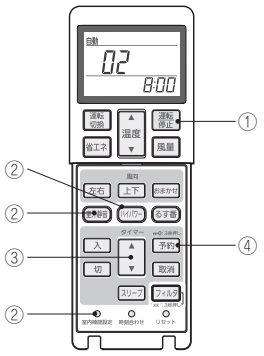
・オートオフ有効の場合

『運転待機』・・・エアコンは停止しますが、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』・・・エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

(b) ワイヤレスリモコンから設定する場合

(i) 室内機能設定のしかた

① 運転/停止を押し、停止状態にします。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、(ii)項に示すボタンを押します。
③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更します。
④ 予約ボタンを押します。
リモコン信号受信部より、ピッピッと２回ブザーが鳴り、
LEDは２秒毎に４回点滅します。



(ii) 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ

⑷⓪ 疑似異常発報制御

試運転などの異常時の信号確認を簡単に行います。

ⓐ 開始条件

（ⅰ） 冷房試運転を行います。

（ⅱ） 冷房試運転開始30分以内に「フィルターサインリセット」を操作します。

ⓑ 制御内容

異常停止“E-80”を発信して運転停止します。

ⓒ 終了条件

異常表示は、運転/停止スイッチで復帰します。

注⑴ エコタッチリモコンに異常履歴が記憶されます。確認終了後は異常履歴表示画面から消去してください。

⑷⓫ 冷媒漏洩検知制御 （FDF シリーズの R32 機のみ）

室内ユニット下部の冷媒センサで，通電中常に冷媒漏洩を検知します。

ⓐ 開始条件

（ⅰ） 冷媒センサが冷媒漏洩を検知した場合。（冷媒センサコネクタ CN1-2 より「警報」出力が発信されます。）

ⓑ 制御内容

（ⅰ） リモコンに「E23 冷媒が漏れています。換気してください。」というメッセージと登録されている連絡先が表示されます。

（ⅱ） 接続されているリモコンのブザーが5秒間鳴ります。

（ⅲ） 室内ユニットは異常停止した後，漏洩した冷媒が滞留することを防ぐために送風運転を行います。

（ⅳ） 室内機能設定によりCnTの出力として「冷媒漏洩」が選択されている場合は，CnTからも出力されます。

⑷⓬ 冷媒センサ制御 （FDF シリーズの R32 機のみ）

冷媒センサ不良を監視します。本制御中，エアコンの運転は可能です。

ⓐ 冷媒センサ故障

（ⅰ） 開始条件

① 冷媒センサが故障した場合。（冷媒センサコネクタCN1-3より「故障」信号が出力されます。）

（ⅱ） 制御内容

① リモコンに「冷媒センサーが故障しています。」というメッセージと，登録されている連絡先が表示されます。

ⓑ 冷媒センサ交換（9 年経過）

（ⅰ） 開始条件

① 冷媒センサの連続通電時間が9年を超える。（冷媒センサコネクタCN1-3より「交換」信号が出力されます。）

（ⅱ） 制御内容

① エアコンの運転開始・停止後1分間，リモコンに「冷媒センサーの交換時期が過ぎています。」というメッセージと，登録されている連絡先が表示されます。

② メッセージ表示部をタッチすると画面が切替わり，「はい」を選択すると，そのリモコンに接続されている全てのリモコンに，そのメッセージと連絡先が720時間表示されなくなります。

ⓒ 冷媒センサ外れ

（ⅰ） 開始条件

① 5秒間連続して冷媒センサからのいずれかの入力を制御基板が検知できない。

（ⅱ） 制御内容

① リモコンに「冷媒センサーが外れています。」というメッセージと，登録されている連絡先が表示されます。

14.2 リモートコントローラ

(1) RC-DX3Bリモコンの場合

(a) リモコンの運転モード選択

(i) TOP画面上より「運転モード」ボタンをタッチしてください。

(ii) 「運転モード」選択画面が表示されますので，ご希望の運転モードをタッチしてください。

(iii) 運転モード選択後，TOP画面に戻ります。

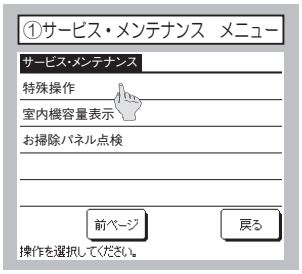
注(1) 室内ユニット-室外ユニットの組合せにより，選択できない運転モードは表示されません。
(2) 自動を選択すると，室温と外温に応じて，冷房・暖房自動切換運転を行います。

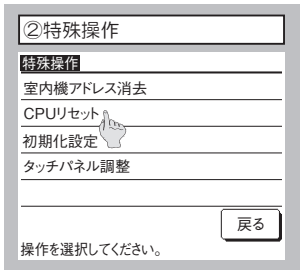
(b) CPUリセット

下記手順にてリモコンよりCPUをリセットしてください。

(i) TOP画面の「メニュー」より「サービス設定」→「サービス･メンテナンス」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「サービス･メンテナンス メニュー」より「特殊操作」→「CPUリセット」の順に選択すると接続している室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット(停電復帰状態)されます。



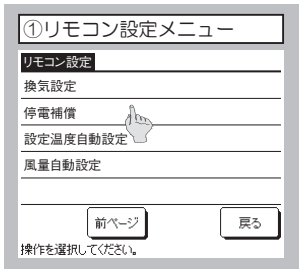


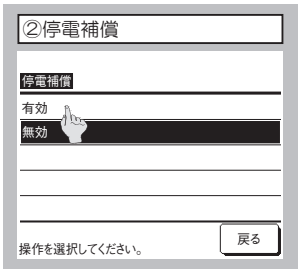
(c) 停電補償機能

下記手順にてリモコンより停電補償機能を有効設定してください。

(i) TOP画面上の「メニュー」より「サービス設定」→「リモコン設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「リモコン設定 メニュー」より「停電補償」を選択し「有効」に設定してください。運転中に停電した場合は，停電復旧(電源投入後の制御終了)後に，停電前の状態に戻ります。





●常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしタイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーについては下記内容となります。

・時計機能が有効の場合：設定された内容により機能します。

・時計機能が無効の場合：時計機能を再設定し，リモコンの機能設定によりウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーの設定を「有効」にすると記憶された内容で機能します。

●停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥，⑦項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶されます。

① 停電時　運転中／停止中
時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。

② 運転モード

③ 風量モード

④ 室温設定

⑤ ルーバのオートスイング／停止
ただし停止位置(4位置)はキャンセルされます。

⑥ 「お掃除パネル設定」「管理者設定」「据付設定」「室内設定」により設定された内容は，室内ユニットが記憶します。

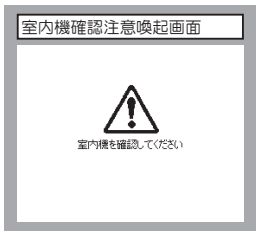
⑦ ウィークリータイマー，ピークカットタイマー，室外静音タイマー

⑧ リモコン設定

(d) 注意喚起表示

下記(i)～(iii)が表示される場合，以下のとおり確認，処置してください。

(i) 室内機確認注意



●リモコンと室内ユニット間の通信が確立できない場合に表示します。
システム（室内ユニット，室外ユニット，リモコン）として正しく接続されているか，室外ユニットの電源が接続されているかを確認してください。

(ii) タイマー時刻設定警告

●時刻未設定でタイマー設定をしたときに表示します。
時刻設定を行ってください。時刻設定を行わないとタイマー設定が出来ません。

(iii) 誤接続

●リモコンに空調機以外のものが接続されたとき本表示を行います。
リモコンの接続先を確認してください。

(e) 設定および表示項目

246 ～ 249ページをご覧ください。

(2) RC-D4G リモコンの場合

(a) リモコンの運転モードスイッチ切換え順

→ 除湿 → 冷房 → 送風 → 暖房 → 自動 →

(b) CPU リセット

リモコンの 点検 グリル昇降 ボタンを同時に押した場合に機能します。電源リセットと動作は同じです。

(c) 停電補償機能

- リモコンの機能設定により「停電補償有効」の設定をすると有効となります。
- 常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしオートスイング停止位置，タイマーモードはキャンセルされますがウィークリータイマー設定は全曜日とも休日設定で復帰します。
  復電後，時刻合わせを行い，各曜日の休日設定を解除することにより，ウィークリータイマーの設定が有効となります。
- 停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥，⑦，⑧項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶され，静音モード設定は停電補償有効・無効にかかわらずキャンセルされます。

① 停電時　運転中／停止中
時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。（復電時タイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー設定は全曜日が休日設定となります。）

② 運転モード

③ 風量モード

④ 室温設定

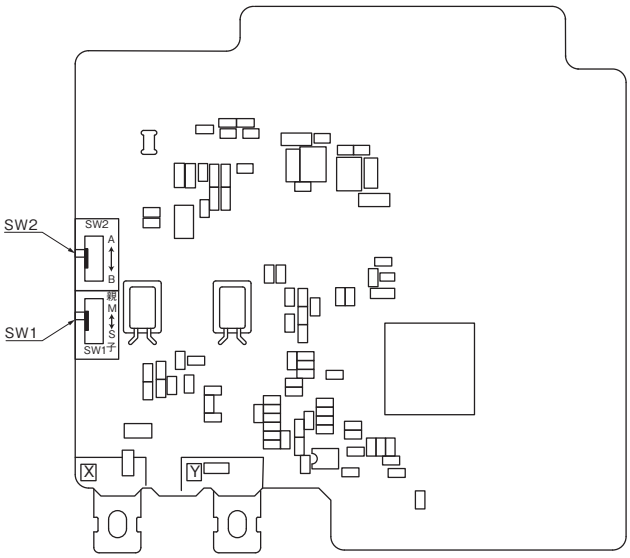
⑤ ルーバのオートスイング／停止
ただし停止位置（4 位置）はキャンセルされます。

⑥ リモコンの機能設定により設定された「リモコン機能項目」（「室内機能項目」は室内ユニットが記憶します。）

⑦ 温度設定制御で設定した上限値，下限値。

⑧ 時間タイマー，ウィークリータイマー設定（その他のタイマー設定は記憶しません。）

リモコン基板の部品配置



■制御切換スイッチ（SW1）

スイッチ	設定	機能内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン

注(1) SW2 は通常使用しませんので，切換えないでください。

14.3 室外コントローラによる運転制御機能

ESP-FP-2289

(I) FDCKP805，1125形

(1) 圧縮機回転数の決定

ユニットの要求回転数

(a) **冷房・除湿運転**　　単位：rps

		KP80形	KP112形
最高要求回転数	室内風量「P 急」	110	110
	室内風量「急」	90	90
	室内風量「強」	60	60
	室内風量「弱」	50	50
最低要求回転数		11	11

(b) **暖房運転**　　単位：rps

		KP80形	KP112形
最高要求回転数	室内風量「P 急」	130	130
	室内風量「急」	110	110
	室内風量「強」	65	65
	室内風量「弱」	55	55
最低要求回転数		15	15

(c) **リモコンより「サイレントモード開始」信号を受信した場合，最高要求回転数を切換えます。**

単位：rps

		KP80形	KP112形
最高要求回転数	冷房・除湿	65	65
	暖房	80	80

(d) **冷房高外気条件下での最高要求回転数。**

外気温度（Tho-A）により，最高要求回転数を切換えます。単位：rps

		KP80形	KP112形
最高要求回転数	外気温度が37℃以上	108	108
	外気温度が40℃以上	91	91
	外気温度が46℃以上	84	84

(e) **暖房高外気条件下での最高要求回転数**

外気温度（Tho-A）により，最高要求回転数を切換えます。単位：rps

		KP80形	KP112形
最高要求回転数	外気温度が18℃以上	87	92
	外気温度が10℃以上	100	100

(f) **熱交温度による最高要求回転数の切換え**

(i) 冷房･除湿時は，室外熱交温度（Tho-R），暖房時は室内熱交温度（Thi-R）により，最高要求回転数を切換えます。

(ii) 室内熱交温度（Thi-R）が2つある場合は，大きい方の値を使用します。単位：rps

			KP80形	KP112形
最高要求回転数	冷房・除湿	室外熱交温度が 55℃以上	100	100
	暖房	室外熱交温度が 47℃以上	—	—
		室外熱交温度が 54℃以上		
		室外熱交温度が 55℃以上	100	100
		室外熱交温度が 60℃以上	—	—

(g) **前述の(a)から(f)項の制御が重複する場合は，重複した制御の中で，最も小さい値を最高要求回転数として運転します。**

(h) **暖房運転時，室内熱交温度が40℃以上になるまで１分ごとに回転数を+5rpsします。**

(2) 圧縮機始動制御

(a) 圧縮機始動は室内ユニットからのサーモＯＮ信号を受信した時点で圧縮機を始動します。

(b) ただし，電源ブレーカを投入後１回目の起動時においては，圧縮機の油上がりを防止するため，最大30分間の待機状態（リモコンに「運転待機中」の表示）に入る場合があります。
室外ユニットが待機状態時に，リモコンで冷房/除湿/暖房の運転を選択した場合は，リモコンに３秒間「運転待機中」の表示を行います。

(3) 圧縮機ソフト始動制御

(a) **圧縮機保護始動Ⅰ**

［制御条件］　通常は，本始動パターンにて圧縮機の運転回転数を上昇させます。

［制御内容］　(i) 圧縮機の目標回転数を**A**rpsとして始動させます。
ただし，冷房・除湿時に外気温度（Tho-A）が35℃以上，暖房時に吸込温度（Thi-A）が25℃以上では，**C**rpsで始動します。

(ii) 圧縮機始動から30秒後に，圧縮機の目標回転数を**B**rpsとし，２～４分間圧縮機の運転回転数を固定し運転します。

	運転モード	A rps	B rps	C rps
KP80，KP112形	冷房・除湿	45	45	25
	暖房	45	45	25

(b) **圧縮機保護始動Ⅲ**

［制御条件］　電源ブレーカ投入後の圧縮機始動回数が積算１回目の始動時。

［制御内容］　運転モード，外気温度(Tho-A)に応じて以下の始動パターン を選択し運転を行います。

(i) 冷房・除湿時の低回転数運転制御

［制御条件］　圧縮機保護始動Ⅲの条件が成立した時点で，冷房・除湿時の低回転数運転制御を行います。

［制御内容］　1) 圧縮機の目標回転数を**A**rpsとして始動させます。ただし，外気温度（Tho-A）が35℃以上では**C**rpsで始動します。
2) 圧縮機始動から30秒後に，圧縮機の目標回転数を**B**rpsとし，10分間圧縮機の運転回転数を固定し運転します。
3) その後，30分間は圧縮機回転数の上昇レートを6rps/2分に制限します。

	運転モード	A rps	B rps	C rps
KP80，KP112形	冷房・除湿	45	45	25

(ii) 暖房時の低回転数運転制御

［制御条件］　圧縮機保護始動Ⅲの条件が成立し，下記条件を満たす場合に，暖房時の低回転数運転制御を行います。
・電源ブレーカ投入後から30分以上が経過している場合。

［制御内容］　1) 圧縮機の目標回転数を**A**rpsとして始動させます。ただし，吸込温度（Thi-A）が25℃以上では**C**rpsで始動します。
2) 圧縮機始動から30秒後に，圧縮機の目標回転数を**B**rpsとし，10分間圧縮機の運転回転数を固定し運転します。
3) その後，30分間は圧縮機回転数の上昇レートを6rps/2分に制限します。

	運転モード	A rps	B rps	C rps
KP80，KP112形	暖房	45	45	25

(4) 室外ファン制御

(a) **ファンタップとファン回転数**

単位：min^{-1}

		ファン回転数						
	ファンタップ	1 速	2 速	3 速	4 速	5 速	6 速	7 速
KP80，KP112形	冷房・除湿	200	390	540	600	630	750	800
	暖房	200	390	540	600	630	750	800

(b) 冷房・除湿運転時のファンタップ制御

室外熱交温度（Tho-R1, R2）と外気温度（Tho-A）によりファンタップを切換えます。

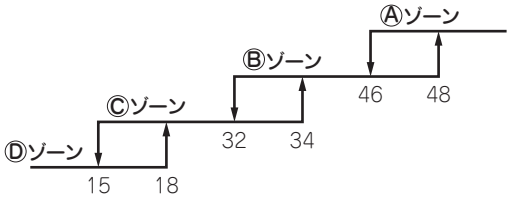
注(1) Tho-R1, R2はどちらか高い方で検知

• 通常モード時

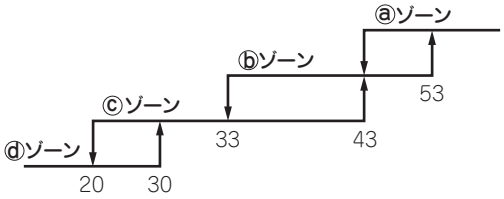
	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン	Ⓓゾーン
ⓐゾーン	6 速	6 速	6 速	5 速
ⓑゾーン	6 速	4 速	4 速	3 速
ⓒゾーン	5 速	4 速	3 速	2 速
ⓓゾーン	4 速	2 速	2 速	1 速

• サイレントモード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン	Ⓓゾーン
ⓐゾーン	6 速	5 速	5 速	5 速
ⓑゾーン	6 速	3 速	3 速	3 速
ⓒゾーン	5 速	3 速	3 速	2 速
ⓓゾーン	4 速	2 速	2 速	1 速



外気温度(℃)



室外熱交温度(℃)

(c) 暖房運転時のファンタップ制御

室外熱交温度（Tho-R1, R2）と外気温度（Tho-A）によりファンタップを切換えます。

注(1) Tho-R1, R2はどちらか低い方で検知

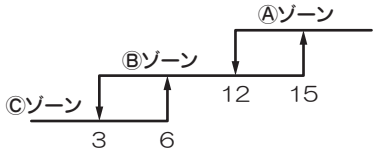
• 通常モード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン
ⓐゾーン	1 速	1 速	2 速
ⓑゾーン	2 速	2/3※1 速	5 速
ⓒゾーン	4 速	5速	7 速
ⓓゾーン	5 速	7 速	7 速

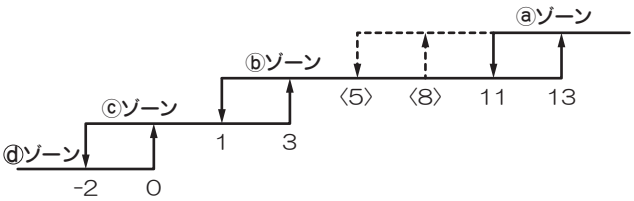
(1)※1圧縮機回転数によりファンタップ変更します。
目標回転数＜46rpsの場合：3速
目標回転数≧46rpsの場合：2速

• サイレントモード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン
ⓐゾーン	1 速	1 速	2 速
ⓑゾーン	2 速	2 速	5 速
ⓒゾーン	3 速	3 速	5 速
ⓓゾーン	5速	5 速	7 速



外気温度（℃）



室外熱交温度（℃）

注(1)〈 〉内数値は圧縮機回転数が目標回転数100rps以上の場合を示します。

(d) 冷房低外気時の室外ファン制御

(i) 開始条件

圧縮機始動より下記条件が全て成立した場合に開始します。

1）冷房･除湿モード運転時。

2）外気温度（Tho-A）が20℃未満のとき。

3）室外ファン起動から20秒経過後。

4）室外ファンタップが1速のとき。

(ii) 制御内容

1）室外熱交温度（Tho-R1, R2）を30秒ごとにサンプリングし，室外ファンの回転数を制御します。

2）本制御中の室外ファン回転数は，上限を390min^{-1}，下限を130min^{-1}とします。

注(1) Tho-R1, R2はどちらか低い方で検知

(iii) 終了条件

下記条件の何れかが成立した場合は，本制御を終了します。

1）外気温度（Tho-A）が20℃以上かつ室外熱交温度（Tho-R1, R2）が30℃以上を連続40秒以上を検知。

2）室外熱交温度（Tho-R1, R2）が40℃以上を連続40秒以上を検知。

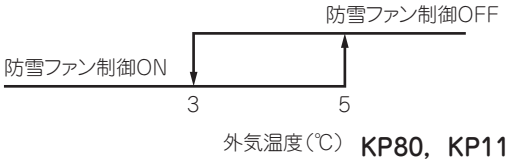
3）室外熱交温度（Tho-R1, R2）が50℃以上を検知。

(e) 室外ファン起動制御における注意点

圧縮機運転前に，室外ファンが400min^{-1}以上で回転している場合は，室外ファンを起動させずに圧縮機のみで運転する場合がありますが、故障ではありません。

(f) 防雪ファン制御

室外制御基板上のディップスイッチ（SW3-2）をONすると停止モード，異常停止モード中において，外気温度（Tho-Aで検知）により室外ファンを10分毎に1回30秒間4速で運転します。



(5) 除霜

(a) 除霜開始条件

次の除霜条件Aまたは条件Bを全て満たせば除霜運転を開始します。

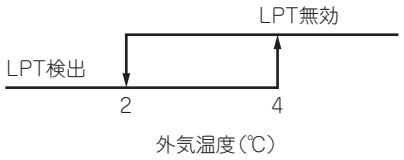
(i) 除霜条件A

1）除霜終了後の圧縮機運転累計時間が37分経過および暖房運転開始（リモコンON）後の圧縮機運転累計時間が30分経過。

2）圧縮機がON後5分経過。

3）室外ファン運転後5分経過。

4）上記の全ての条件を満たした後，室外熱交温度センサ（Tho-R1, R2）と外気温度センサ（Tho-A）の温度が15秒継続して右図の除霜開始温度以下になったときまたは，低圧圧力センサ（PSL）の検出値より求められる吸入ガス飽和温度（SST）と外気温度（Tho-A）が右図に示す除霜運転開始温度以下の領域に3分間存在。ただし，圧縮機始動後10分間および外気温度が下図のときは除きます。



5）吐出管温度と室内熱交温度の差が30℃以上。

(ii) 除霜条件B

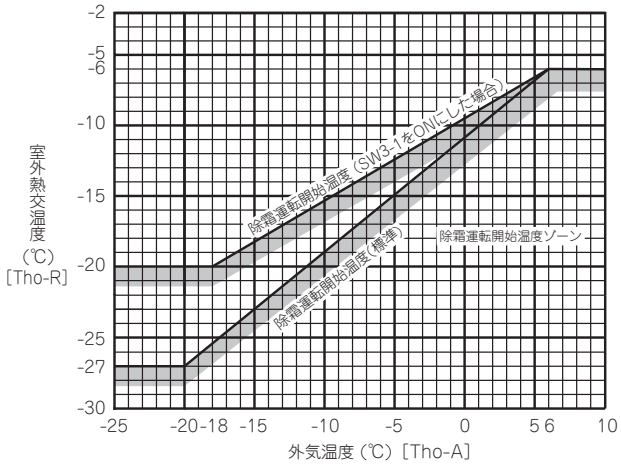
1）前回の除霜終了条件が，除霜運転時間タイムアップかつ除霜終了後の圧縮機運転累計時間が30分経過後の暖房運転。

2）圧縮機始動より5分経過。

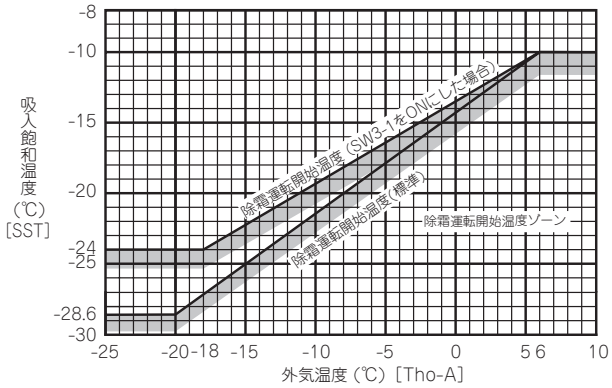
3）室外ファン運転後5分経過。

4）吐出管温度と室内熱交温度の差が30℃以上。

KP80，KP112形



KP80，KP112形



(b) 除霜終了条件

次の何れかの条件を満たせば除霜運転を終了します。

(i) 除霜開始から13分20秒経過したとき。

(ii) 室外熱交温度（Tho-R1, R2）のどちらか低い方が10秒連続して12℃以上となったとき。

(c) SW3-1 による除霜制御の切換え

(i) 室外制御基板上のディップスイッチ（SW3-1）をONにすることで，除霜運転に入りやすくなります。降雪地域にユニットを設置する場合に使用します。

(ii) 制御内容

1) 除霜条件Aにて，暖房運転時間の累積30分で除霜運転に入ることを許可します。出荷時は37分。

2) 除霜条件Bにて，暖房運転時間の累積25分で除霜運転に入ることを許可します。出荷時は30分。

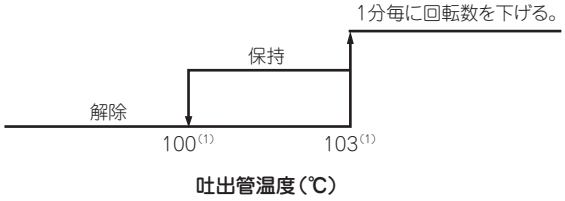
3) 室外熱交温度(Tho-R)と吸入圧力飽和温度(SST)が，通常よりも高い温度で除霜運転を許可します。

(6) 圧縮機回転数による保護制御／異常停止制御

(a) 圧縮機吐出管温度保護

(i) 保護制御

吐出管温度（Tho-Dで検知）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し吐出管温度の上昇を抑えます。

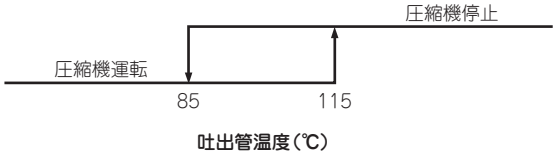


注(1)圧縮機が起動してから10分間は制御値，解除値を－5℃下げます。また外気温度に応じて－5～－10℃下げます。

(ii) 異常停止制御

1) 吐出管温度(Tho-Dで検知)が設定値を超えると，圧縮機を停止させます。

2) 60分以内に2回または圧縮機停止中を含め連続60分間で，リモコンにE36を表示し異常停止モードとなります。



(iii) 異常停止モードの解除

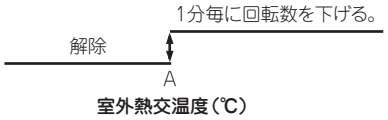
45分間継続して，解除値85℃以下となった時点で，リモコンにより再運転が可能になります。

(b) 冷房高圧保護

(i) 保護制御

1) 外気温度（Tho-A）が40℃以上で，室外熱交温度（Tho-R）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し高圧の上昇を抑えます。

2) 制御値Aは，使用条件により自動的に最適値に更新されます。

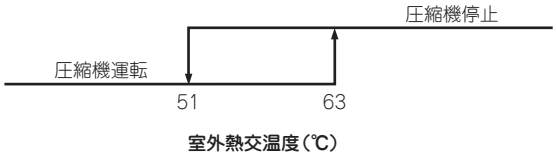


機種	制御値 A
KP80，KP112 形	53～59

(ii) 異常停止制御

1) 室外熱交温度（Tho-R）が設定値を超えると，圧縮機を停止させます。

2) 60分以内に5回，または63℃以上が圧縮機停止中を含め連続30分間で，リモコンにE35を表示し異常停止モードとなります。



(iii) 異常停止モードの解除

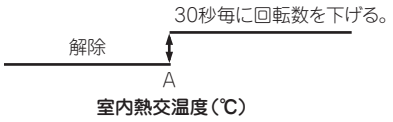
解除値51℃以下となった時点で，リモコンにより再運転が可能になります。

(c) 暖房高圧保護

(i) 保護制御

1) 室内熱交温度（Thi-R）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し高圧の上昇を抑えます。

2) 制御値Ａは，使用条件により自動的に最適値に更新されます。



機種	既設配管対応スイッチ SW5-1	
	OFF（出荷）	ON
	制御値 A℃	
KP80，KP112形	48～54	45～51

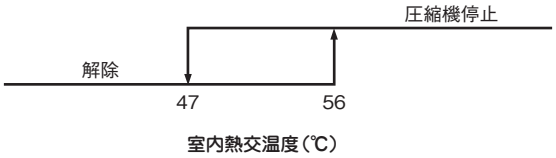
注(1) ON時が既設配管対応です。

(ii) 異常停止制御

室内コントローラによる運転制御機能292ページの暖房過負荷保護をご覧ください。

(iii) 既設配管対応，停止制御

既設配管対応スイッチSW5-1をONすることで，室内熱交温度（Thi-R）が設定値を超えると，圧縮機を停止し既設配管を保護します。



(d) 高圧圧力開閉器（63H1）による異常検知制御

(i) 圧力が上昇し高圧圧力開閉器（4.15MPa開／ 3.15MPa閉）が作動した時点で圧縮機を停止します。

(ii) 以下のいずれかの条件でE40を表示し，異常停止モードとなります。

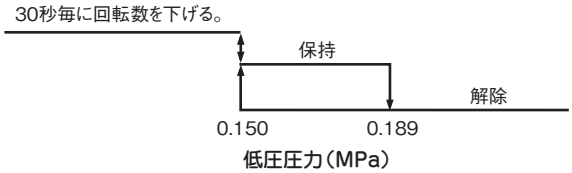
1) 60分以内に5回，圧力が上昇し63H1により圧縮機が停止した時点。

2) 圧縮機停止中も含め63H1が連続30分開状態となった時点。

(e) 低圧制御

(i) 保護制御

低圧圧力センサ（PSL）の検出値が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し圧力の低下を抑えます。



(ii) 異常停止制御

1) 低圧圧力（PSL）が，以下のいずれかの条件を満たすと，圧縮機を停止させます。

a) 低圧圧力が0.079MPa以下を連続15秒間

b) 圧縮機始動10分後で，吸入過熱度が30℃，かつ低圧圧力が0.15MPa以下を連続60秒。

2) 以下のいずれかの条件でE49を表示し，異常停止モードとなります。

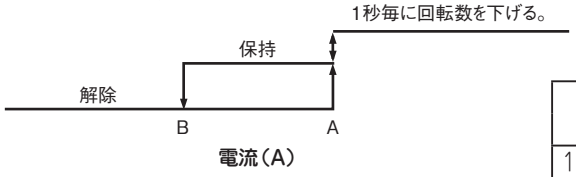
a) 60分以内に5回，低圧圧力が低下し上記のいずれかの条件で圧縮機が停止した時点。

b) 圧縮機停止中も含め低圧圧力センサの検出値が連続で5分間0.079MPa以下となった時点。

c) 圧縮機保護始動Ⅲ中に1）の制御条件が成立した場合。

(f) 過電流保護カレントセーフ制御

室外インバータ入力（1次）電流と出力（2次）電流を検出し，電流値が設定を超えると，圧縮機回転数を制御しインバータを保護します。



	機種	冷房		暖房	
		制御値A	解除値B	制御値A	解除値B
1次電流側	KP80, KP112形	20.0	19.0	23.0	22.0
2次電流側	KP80, KP112形	17.0	16.0	17.0	16.0

(g) **パワトラ電流異常**

(i) インバータ部の過電流を防止するため，パワトラ内の電流値が設定値を超えると圧縮機を停止させます。

(ii) 30分以内に4回，パワトラ内の電流値が規定値を超え圧縮機が停止した時点で，リモコンにE42を表示し異常停止モードとなります。

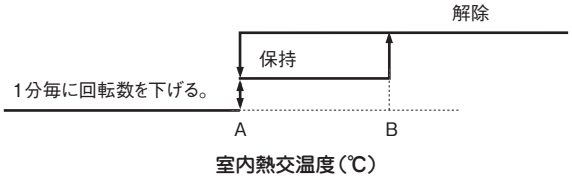
(h) **インバータ通信異常**

圧縮機停止中も含め15分間に4回インバータ通信異常を検知すると，リモコンにE45を表示し異常停止モードとなります。

(i) **圧縮機回転数制御による凍結防止制御**

(i) 圧縮機始動より4分後に，室内熱交温度（Thi-Rにより検出）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し室内熱交の凍結防止制御を行います。

(ii) 室内熱交温度（Thi-R1，2）が2つある場合は，温度の低い方を検出します。



		A	B
室内湿度センサあり	相対湿度 50％以下	−0.5	1.0
	相対湿度 50％以上	1.0	2.5
室内湿度センサなし			

(iii) 運転停止による凍結防止制御については，室内コントローラによる運転制御機能291ページの室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）をご覧ください。

(j) **温度センサおよび低圧圧力センサ断線検知**

(i) 室外熱交温度センサ，外気温度センサ，低圧圧力センサ

圧縮機ON後，2分から2分20秒間に5秒間連続して下記を検知したとき圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させますが40分間に3回再検知した場合は異常停止します。

注(1) 除霜および除霜終了後3分間は検知しません。

- 室外熱交温度センサ　　：− 50℃以下
- 外気温度センサ　　：− 45℃以下
- 低圧圧力センサ　　：0V以下または4V以上

(ii) 吐出管温度センサ，吸入管温度センサ

圧縮機ON後，10分から10分20秒間に5秒間連続して下記を検知したとき圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させますが40分間に3回再検知した場合は異常停止します。

注(1) 除霜および除霜終了後3分間は検知しません。

- 吐出管温度センサ　：− 10℃以下
- 吸入管温度センサ　：− 50℃以下

(k) **欠相保護**

電源ON後5秒間連続してR, S, T相の何れかの電圧が0Vのとき，電源欠相状態と判断し1秒後に異常停止（E34）します。

(l) **室外ファンモータ異常**

(i) 室外ファン制御時（ファンタップが1速以上の運転指令中）に，室外ファン回転数が100min^{-1}以下を30秒連続で検出した場合は，圧縮機を停止します。

(ii) 60分以内に5回，室外ファン回転数が100min^{-1}以下となり圧縮機が停止した時点で，リモコンにE48を表示し異常停止します。

(m) **圧縮機起動停止による異常停止**

(i) 圧縮機始動中にインバータより起動不良異常を検知した場合は，一旦停止状態とし，3分後に再度，圧縮機を始動させます。

(ii) 5回異常検知をカウントした場合は，圧縮機起動異常とし異常停止（E59）します。

(7) サイレントモード

(a) リモコンより「サイレントモード開始」信号を受信した場合に，ファンタップと，圧縮機回転数を下げて運転します。

(b) 詳しくは，前述の(1)項の圧縮機回転数の決定および(4)項の室外ファン制御をご覧ください。

(8) 試運転

(a) 室外制御基板上のディップスイッチにより室外ユニットより運転が可能です。

SW3-3	ON	SW3-4	OFF	冷房試運転
			ON	暖房試運転
	OFF	通常および試運転終了		

必ず運転終了時は SW3-3 を OFF にしてください。

(b) 試運転制御

(i) 吸込温度（Thi-A）とリモコンの設定温度をファジー演算して決まる回転数にて運転をします。
(ii) 各保護制御，異常検知制御は有効です。
(iii) 試運転中に SW3-4 を切換えた場合は停止制御を行い一旦圧縮機を停止させ，冷・暖房運転を切換えます。
(iv) 試運転中リモコンの設定および表示

モード	リモコンの設定・表示内容
冷房試運転	冷房，設定温度は5℃
暖房試運転	暖房（準備），設定温度は30℃

(9) ポンプダウン制御

運転停止，異常停止中（サーモOFFは含まず）にポンプダウンスイッチSW1を2秒間ONするとポンプダウン運転をします。（室内ユニット運転中は無効。室内ユニットが異常停止中または電源OFFでも有効）

(a) 制御内容

(i) 液側の操作弁を閉めてください。（ガス側は全開のまま）
(ii) 冷房モードで目標回転数をArpsとして圧縮機を始動します。
(iii) 室外ユニット制御基板上の赤，緑（LED）を連続点滅させます。
(iv) 低圧制御，アンチフロスト制御および露付き保護制御を除き各保護，異常検知制御は有効です。
(v) 室外ファンは通常通り制御します。
(vi) 電子膨張弁（冷・暖）は全開にします。

目標回転数＼形式	KP80,KP112形
A	45

(b) 制御終了条件

下記の何れかの条件により停止制御を行います。

(i) 低圧圧力が0.087MPa以下を連続5秒検知
1） 赤LED：点灯，緑LED：点滅，リモコン：停止を表示します。
2） 低圧圧力が0.087MPaを超えると再起動可能です。
3） 電子膨張弁（冷・暖）は全開のまま。

(ii) 異常検知制御により停止
1） 赤LED：連続点滅，緑LED：点滅します。
2） 再起動は不可です。通常運転への復帰は電源リセット。
3） 電子膨張弁（冷・暖）は全開のまま。

(iii) ポンプダウン制御による圧縮機の運転積算時間が5分になった時。
1） 赤LED：消灯，緑LED：点滅，リモコン：停止を表示します。
2） 再ポンプダウンは可能です。
3） 電子膨張弁（冷・暖）は全開のまま。

注(1) 圧縮機停止後は，ガス側の操作弁を閉めてください。

注意：ポンプダウンスイッチを押すと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが，異常ではありません。

⑽　既設配管洗浄運転制御

⒜　開始条件

運転停止中に室外制御基板のディップスイッチ SW5-2 を OFF から ON に切換えたとき。

⒝　制御内容

（ⅰ）　電磁弁（SV2）をONし暖房用電子膨張弁（EEVH）を全閉します。
（ⅱ）　吸込温度（Thi－A）とリモコンの設定温度をファジー演算して決まる回転数にて冷房運転を行います。
（ⅲ）　各保護制御，異常検知制御は有効です。
（ⅳ）　制御中は，室外制御基板の LED1（緑）を高速点滅させます。

⒞　終了条件

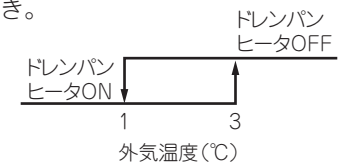
下記の何れかが成立した場合。

（ⅰ）　圧縮機運転時間が120分を経過したとき。
（ⅱ）　室外制御基板のディップスイッチSW5-2をOFFしたとき。
（ⅲ）　冷房運転以外を選択または異常停止のとき。

⑾　ドレンパンヒータ ON/OFF 出力制御

⒜　ドレンパンヒータON条件

暖房モード時で外気温度が1℃以下で圧縮機が運転中のとき。



⒝　ドレンパンヒータOFF条件

下記の何れかが成立した場合。

（ⅰ）　外気温度が3℃以上。
（ⅱ）　圧縮機停止を30分連続検知したとき。
（ⅲ）　冷房・除湿モードを選択したとき。

(Ⅱ) FDCKP1405, 1605形

ESP-FP-2245△J

(1) 圧縮機回転数の決定

ユニットの要求回転数

(a) **冷房・除湿運転**　　単位：rps

		KP140形	KP160形
最高要求回転数	室内風量「P 急」「急」	100	100
	室内風量「強」「弱」	70	70
最低要求回転数		20	20

(b) **暖房運転**　　単位：rps

		KP140形	KP160形
最高要求回転数	室内風量「P 急」「急」	120	120
	室内風量「強」「弱」	70	70
最低要求回転数		20	20

(c) **リモコンより「サイレントモード開始」信号を受信した場合，最高要求回転数は室内風量設定が「弱」の時と同じになります。**

(d) **冷房高外気温度条件下での最高要求回転数。**

外気温度（Tho-A）により，最高要求回転数を切換えます。　　単位：rps

		KP140形	KP160形
最高要求回転数	外気温度が40℃以上	85	85
	外気温度が46℃以上	68	68

(e) **暖房高外気温度条件下での最高要求回転数**

外気温度（Tho-A）により，最高要求回転数を切換えます。　　単位：rps

		KP140形	KP160形
最高要求回転数	外気温度が18℃以上	70	70
	外気温度が10℃以上	100	100

(f) **熱交温度による最高要求回転数の切換え**

i　冷房･除湿時は，室外熱交温度（Tho-R），暖房時は室内熱交温度（Thi-R）により，最高要求回転数を切換えます。

ii　室内熱交温度（Thi-R）が2つある場合は，大きい方の値を使用します。　　単位：rps

			KP140形	KP160形
最高要求回転数	冷房 除湿	室外熱交温度が 56℃以上	100	100
	暖房	室内熱交温度が 56℃以上	100	100

(g) **前述の(a)から(f)項の制御が重複する場合は，重複した制御の中で，最も小さい値を最高要求回転数として運転します。**

(h) **暖房運転時，室内熱交温度が40℃以上になるまで最高要求回転数で運転します。**

(2) 圧縮機始動制御

(a) **圧縮機始動は室内ユニットからのサーモＯＮ信号を受信した時点で圧縮機を始動します。**

(b) **ただし，電源ブレーカを投入後１回目の起動時においては，圧縮機の油上がりを防止するため，最大３０分間の待機状態（リモコンに「運転待機中」の表示）に入る場合があります。**

室外ユニットが待機状態時に，リモコンで冷房/除湿/暖房の運転を選択した場合は，リモコンに３秒間「運転待機中」の表示を行います。

(3) 圧縮機ソフト始動制御

(a) 圧縮機保護始動Ⅰ

［制御条件］　通常は，本始動パターンにて圧縮機の運転周波数を上昇させます。

［制御内容］　i　圧縮機の目標回転数を**A**rpsとして始動させます。
ただし，冷房・除湿時に外気温度（Tho-A）が35℃以上，暖房時に室内吸込温度（Thi-A）が25℃以上では，**C**rpsで始動します。

ii　圧縮機始動から30秒後に，圧縮機の目標回転数を**B**rpsとし，2～4分間圧縮機の運転周波数を固定し運転します。

機種	運転モード	A rps	B rps	C rps
KP140, KP160形	冷房・除湿	55	55	30
	暖房	55	55	30

(b) 圧縮機保護始動Ⅲ

［制御条件］　電源ブレーカ投入後の圧縮機始動回数が積算1回目の始動時。

［制御内容］　運転モード，外気温度(Tho-A)に応じて以下の始動パターン を選択し運転を行います。

i　冷房・除湿時の低回転数運転制御

［制御条件］　圧縮機保護始動Ⅲの条件が成立した時点で，冷房・除湿時の低回転数運転制御を行います。

［制御内容］　1）圧縮機の目標回転数を**A**rpsとして始動させます。ただし，外気温度（Tho-A）が35℃以上では**C**rpsで始動します。
2）圧縮機始動から30秒後に，圧縮機の目標回転数を**B**rpsとし，10分間圧縮機の運転周波数を固定し運転します。

機種	運転モード	A rps	B rps	C rps
KP140, KP160形	冷房・除湿	55	30	30

ii　暖房時の低回転数運転制御

［制御条件］　圧縮機保護始動Ⅲの条件が成立し，以下の1)，2）いずれかの条件を満たす場合に，暖房時の低回転数運転制御を行います。
1）　電源ブレーカ投入後から30分以上が経過している場合。
2）　圧縮機ドーム下温度（Tho-C）が4℃以上かつ外気温度（Tho-A）との温度差が4℃以上となった場合。

［制御内容］　1）　圧縮機の目標回転数を**A**rpsとして始動させます。ただし，室内吸込温度（Thi-A）が25℃以上では**C**rpsで始動します。
2）　圧縮機始動から30秒後に，圧縮機の目標回転数を**B**rpsとし，10分間圧縮機の運転周波数を固定し運転します。

機種	運転モード	A rps	B rps	C rps
KP140, KP160形	暖房	55	30	30

(4) 室外ファン制御

(a) 室外ファンタップとファンモータ回転数

単位：min^{-1}

機種	運転モード	ファンモータ回転数						
KP140, KP160形	ファンタップ	1速	2速	3速	4速	5速	6速	7速
	冷房・除湿	200	370	560	650	750	850	900
	暖房	200	370	560	830	850	910	950

注(1)　KP140, KP160 形のファン回転数は上，下共に同じ値です。

(b) 冷房・除湿運転時のファンタップ制御

室外熱交温度（Tho-R1, R2）と外気温度（Tho-A）によりファンタップを切換えます。

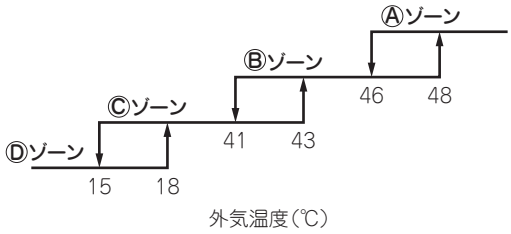
注(1) Tho-R1, R2はどちらか高い方で検知

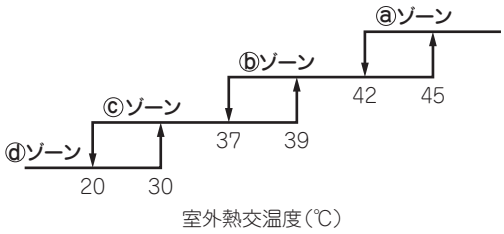
●通常時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン	Ⓓゾーン
ⓐゾーン	4 速	4 速	7 速	5 速
ⓑゾーン	4 速	4 速	5 速	3 速
ⓒゾーン	4 速	4 速	4 速	2 速
ⓓゾーン	3 速	3 速	3 速	1 速

●サイレントモード時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン	Ⓓゾーン
ⓐゾーン	4 速	3 速	3 速	3 速
ⓑゾーン	3 速	3 速	3 速	3 速
ⓒゾーン	3 速	3 速	3 速	2 速
ⓓゾーン	3 速	3 速	3 速	1 速





(c) 暖房運転時のファンタップ制御

（i） 圧縮機回転数と室外熱交温度（Tho-R1, R2）および外気温度（Tho-A）によりファンタップを切換えます。

注(1) Tho-R1, R2はどちらか低い方で検知

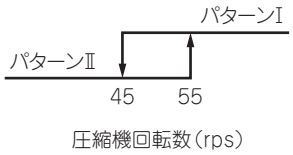
●通常時

	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン
ⓐゾーン	3 速	3 速	4 速
ⓑゾーン	3 速	4 速	5 速
ⓒゾーン	4 速	6 速	7 速

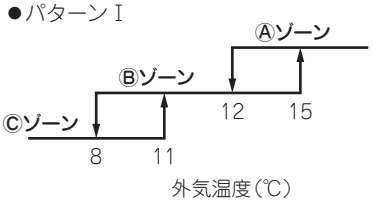
●サイレントモード時

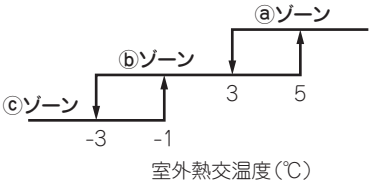
	Ⓐゾーン	Ⓑゾーン	Ⓒゾーン
ⓐゾーン	3 速	3 速	3 速
ⓑゾーン	3 速	3 速	3 速
ⓒゾーン	3 速	3 速	3 速

（ii） 圧縮機回転数によるファンタップ切換えパターン

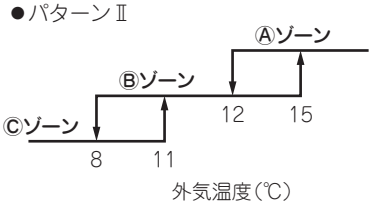


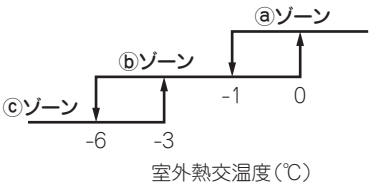
●パターンⅠ





●パターンⅡ

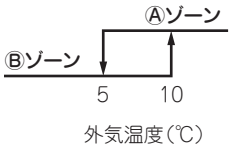




(d) 冷房低外気時の室外ファン制御

（i） 圧縮機始動より下記の条件が全て成立した場合は下記制御を実施します。
冷房･除湿モードで外気温度（Tho-A）が下図に示す**Ⓑゾーン**かつ室外ファン起動から20秒経過後かつ室外ファンタップが1速のとき。室外熱交温度（Tho-R1, R2）により室外ファン回転数を制御します。

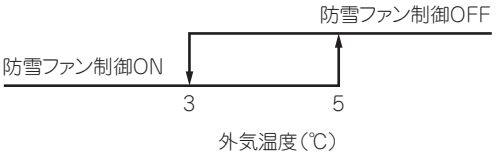
注(1) Tho-R1, R2はどちらか高い方で検知



(ii) 室外熱交温度の検知は常時行ない，室外ファン回転数を増減させた場合は，30秒間回転数を増減させません。
(iii) 本制御中の室外ファン回転数の範囲は下記とします。
① 下限：130min^{-1}
② 上限：500min^{-1}
(iv) 下記の何れかの条件が成立した場合は本制御を終了します。
1） 外気温度が**Ⓐゾーン**にかつ室外熱交温度が30℃以上を連続40秒以上成立した場合。
2） 室外ファン回転数が500min^{-1}かつ室外熱交温度が30℃以上を連続40秒以上成立した場合。
3） 室外熱交温度が45℃以上を40秒以上成立した場合。

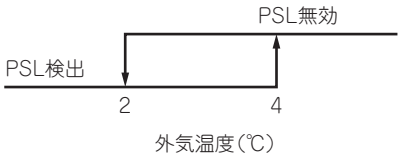
(e) 室外ファン起動制御における注意点
圧縮機運転前に，室外ファンが400min^{-1}以上で回転している場合は，室外ファンを起動させずに圧縮機のみで運転する場合があります。故障ではありません。

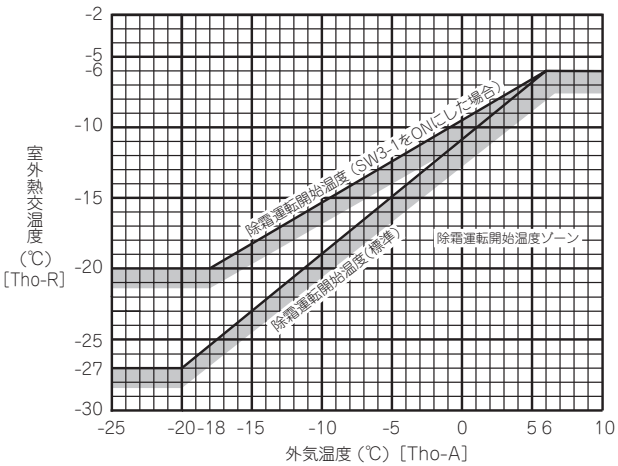
(f) 防雪ファン制御
室外ユニット制御基板上のディップスイッチ（SW3-2）をONすると停止モード，異常停止モード中において，外気温度（Tho-Aで検知）により室外ファンを10分毎に1回30秒間4速で運転します。

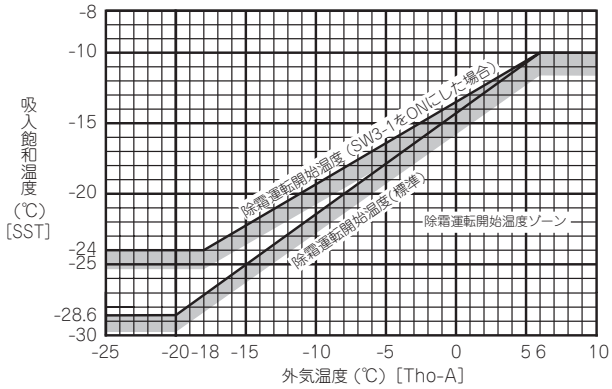


(5) 除霜

(a) 除霜開始条件
次の除霜条件Aまたは条件Bを全て満たせば除霜運転を開始します。
(i) 除霜条件A
1） 除霜終了後の圧縮機運転累計時間が30分経過および暖房運転開始（リモコンON）後の圧縮機運転累計時間が30分経過。
2） 圧縮機がON後5分経過。
3） 室外ファン運転後5分経過。
4） 上記の全ての条件を満たした後，室外熱交温度センサ（Tho-R1，R2）と外気温度センサ（Tho-A）の温度が15秒継続して右図の除霜開始温度以下になったときまたは，低圧圧力センサ（PSL）の検出値より求められる吸入ガス飽和温度（SST）と外気温度（Tho-A）が右図に示す除霜運転開始温度以下の領域に3分間存在。ただし，圧縮機始動後10分間および外気温度が下図のPSL無効領域のときは除きます。







(ii) 除霜条件B
1） 前回の除霜終了条件が，除霜運転時間タイムアップかつ除霜終了後の圧縮機運転累計時間が30分経過後の暖房運転。
2） 圧縮機始動より5分経過。
3） 室外ファン運転後5分経過。

(b) **除霜終了条件**

次の何れかの条件を満たせば除霜運転を終了します。

(i) 除霜開始から10分20秒経過したとき。

(ii) 室外熱交温度（Tho-R1, R2）のどちらか低い方が10秒連続して12℃以上となったとき。

(c) **SW3-1 による除霜制御の切換**

(i) 室外ユニット制御基板上のSW3-1をONにすることで，除霜運転に入りやすくなります。降雪地域にユニットを設置する場合に使用します。

(ii) 制御内容

1) 除霜条件Aは出荷時と同じで，暖房運転時間の累積30分で除霜運転に入ることを許可します。

2) 除霜条件Bは，暖房運転時間の累積25分で除霜運転に入ることを許可します。SW3-1OFF時（出荷時）は30分。

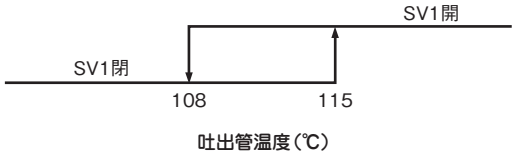
3) 室外熱交温度(Tho-R)と吸入圧力飽和温度(SST)が，通常よりも高い温度で除霜運転を許可します。

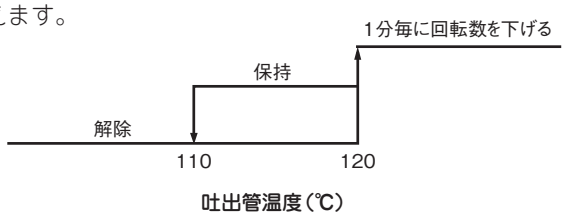
(6) 圧縮機回転数による保護制御／異常停止制御

(a) **圧縮機吐出管温度保護**

(i) 保護制御

吐出管温度（Tho-Dで検知）が設定値を超えると，液バイパス電磁弁（SV1）を開きます。さらに温度が上昇すると圧縮機回転数を制御し吐出管温度の上昇を抑えます。

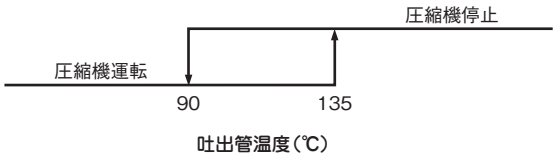




(ii) 異常停止制御

1) 吐出管温度(Tho-Dで検知)が設定値を超えると，圧縮機を停止させます。

2) 60分以内に2回または圧縮機停止中を含め連続60分間で，リモコンにE36を表示し異常停止モードとなります。



(iii) 異常停止モードの解除

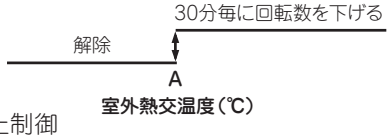
45分間継続して，解除値90℃以下となった時点で，リモコンにより再運転が可能になります。

(b) **冷房高圧保護**

(i) 保護制御

1) 室外熱交温度（Tho-R）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し高圧の上昇を抑えます。

2) 制御値**A**は，使用条件により自動的に最適値に更新されます。

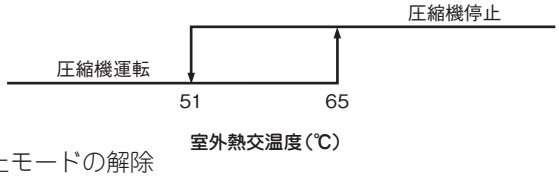


機種	制御値 A(℃)
KP140,KP160形	54 ～ 60

(ii) 異常停止制御

1) 室外熱交温度（Tho-R）が設定値を超えると，圧縮機を停止させます。

2) 60分以内に5回，または65℃以上が圧縮機停止中を含め連続60分間で，リモコンにE35を表示し異常停止モードとなります。



(iii) 異常停止モードの解除

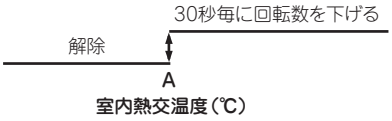
解除値51℃以下となった時点で，リモコンにより再運転が可能になります。

(c) 暖房高圧保護

(i) 保護制御

1) 室内熱交温度（Thi-R）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し高圧の上昇を抑えます。

2) 制御値**A**は，使用条件により自動的に最適値に更新されます。



機種	既設配管対応スイッチ SW5-1	
	OFF(出荷)	ON
	制御値 A(℃)	
KP140,KP160形	52～58	46～52

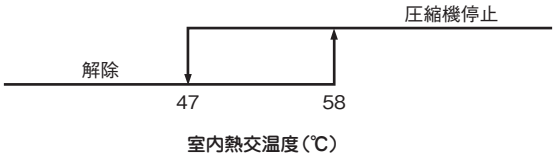
注(1) ON時が既設配管対応です。

(ii) 異常停止制御

室内コントローラによる運転制御機能292ページの暖房過負荷保護をご覧ください。

(iii) 既設配管対応，停止制御

既設配管対応スイッチSW5-1をONすることで，室内熱交温度（Thi-R）が設定値を超えると，圧縮機を停止し既設配管を保護します。



(d) 高圧圧力開閉器(63H1)による異常検知制御

(i) 圧力が上昇し高圧圧力開閉器（4.15MPa開／ 3.15MPa閉）が作動した時点で圧縮機を停止します。

(ii) 以下のいずれかの条件でE40を表示し，異常停止モードとなります。

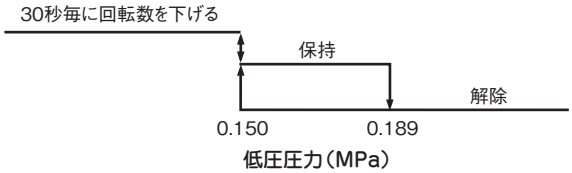
1) 60分以内に5回，圧力が上昇し63H1により圧縮機が停止した時点。

2) 圧縮機停止中も含め63H1が連続60分開状態となった時点。

(e) 低圧制御

(i) 保護制御

低圧圧力センサ（PSL）の検出値が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し圧力の低下を抑えます。



(ii) 異常停止制御

1) 低圧圧力（PSL）が，以下のいずれかの条件を満たすと，圧縮機回転数を停止し圧縮機を保護します。

a) 低圧圧力が0.079MPa以下を連続15秒間。

b) 圧縮機始動10分後で，吸入過熱度が30℃，かつ低圧圧力が0.15MPa以下を連続60秒。

2) 以下のいずれかの条件でE49を表示し，異常停止モードとなります。

a) 60分以内に5回，低圧圧力が低下し上記のいずれかの条件で圧縮機が停止した時点。

b) 圧縮機停止中も含め低圧圧力センサの検出値が連続で5分間0.079MPa以下となった時点。

3) ただし，圧縮機保護始動Ⅲ中に1）の制御条件が成立した場合は，1回目の停止にて，即E49を表示し，異常停止モードになります。

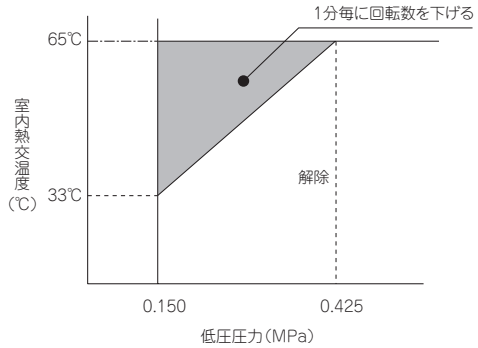
(f) 圧縮機高圧力比保護制御

(i) 暖房運転時，圧縮機始動より10分後に，室内熱交温度（Thi-R）と低圧圧力センサ（PSL）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し圧縮機を保護します。

(ii) 室外ファンOFF中および，室外ファン起動より10分間は本制御は行いません。

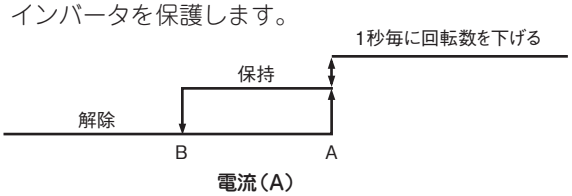
(iii) 除霜運転中および，除霜運転復帰後10分間は，本制御は行いません。

(iv) 室内熱交温度（Thi-R1，2）が2つある場合は，温度の高い方を検出します。



(g) 過電流保護カレントセーフ制御Ⅰ,Ⅱ

室外インバータ入力（1次）電流と出力（2次）電流を検出し，電流値が設定を超えると，圧縮機回転数を制御しインバータを保護します。



	機種	冷房		暖房	
		制御値A	解除値B	制御値A	解除値B
1次電流側	KP140形	27	26	27	26
	KP160形	27	26	27	26
2次電流側	KP140形	35	34	35	34
	KP160形	35	34	35	34

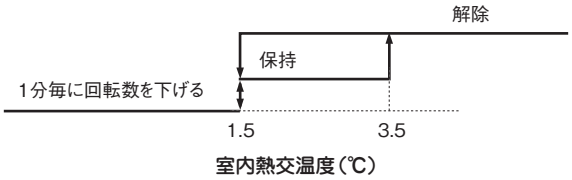
(h) インバータ通信異常

圧縮機停止中も含め15分間に4回パワトラが異常を検知すると，リモコンにE45を表示し異常停止します。

(i) 圧縮機回転数制御による凍結防止制御

(i) 圧縮機始動より4分後に，室内熱交温度（Thi-Rにより検出）が設定値を超えると，圧縮機回転数を制御し室内熱交の凍結防止制御を行います。

(ii) 室内熱交温度（Thi-R1，2）が2つある場合は，温度の低い方を検出します。



(iii) 運転停止による凍結防止制御については，室内コントローラによる運転制御機能291ページの室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）をご覧ください。

(j) 露付き防止制御

［制御条件］　冷房除湿運転時，下記条件が全て成立した時点で，圧縮機回転数を下げ，露付きや水飛びを防止します。
(i) 冷房用電子膨張弁開度(EEVC)が500パルス
(ii) 吸入過熱度が10℃以上
(iii) 圧縮機回転数が**A**rps以上

［制御内容］　(i) 吸入過熱度が10℃以上の時に，1分毎に圧縮機回転数を低下させます。
(ii) 冷房用膨張弁が460パルスになるまで，圧縮機回転数は上昇しません。
(iii) また本制御では**A**rpsを下限とし**A**rps以下への回転数には制御しません。

機種	Arps
KP140・KP160形	60

(k) 冷媒量不足保護

冷房，除湿運転での圧縮機保護始動Ⅲ制御中，室内熱交温度（Thi-R）と室内吸込温度（Thi-A）を検知し，以下の制御を行います。

［制御条件］　室内熱交温度（Thi-R）が室内吸込温度（Thi-A）よりも4℃以上低くならない状態を，1分間継続を２回検出した時点。

［制御内容］　室内ユニットへの冷媒流入が不足と判断して，圧縮機を停止しリモコンにE57を表示します。

(l) 温度センサおよび低圧圧力センサ断線検知

(i) 室外熱交温度センサ，外気温度センサ，低圧圧力センサ

圧縮機ON後，2分～2分20秒間に5秒間連続して下記を検知したとき圧縮機を停止し，3分遅延後に圧縮機を再起動させますが40分間に3回再検知した場合は異常停止します。

注(1) 除霜および除霜終了後3分間は検知しません。

- 室外熱交温度センサ：－50℃以下
- 外気温度センサ　　：－45℃以下
- 低圧圧力センサ　　：0V以下または4V以上

(ii) 吐出管温度センサ，吸入管温度センサ，ドーム下温度センサ

圧縮機ON後，10分～10分20秒間に5秒間連続して下記を検知したとき圧縮機を停止し，3分遅延後に圧縮機を再起動させますが40分間に3回再検知した場合は異常停止します。

注(1) 除霜および除霜終了後3分間は検知しません。

- 吐出管温度センサ　：－10℃以下
- 吸入管温度センサ　：－50℃以下
- ドーム下温度センサ：－50℃以下

(m) **欠相保護**

電源ON後5秒間連続してR，S，T相の何れかの電圧が0Vのとき，電源欠相状態と判断し1秒後に異常停止（E34）します。

(n) **ファンモータ異常**

(i) 室外ファン制御時（ファンタップが1速以上の運転指令中）に，ファン回転数が100min^{-1}以下を30秒連続で検出した場合は，圧縮機を停止します。

(ii) 60分以内に5回，ファンモータ回転数が100min^{-1}以下となり圧縮機が停止した時点で，リモコンにE48を表示し異常停止モードとなります。

(o) **圧縮機起動停止による異常停止**

(i) 圧縮機始動条件成立後，インバータより起動不良異常を受信した場合は，一旦停止状態とし，3分後に再度，圧縮機を始動させます。

(ii) インバータからの起動不良異常を所定の回数受信すると，圧縮機起動異常とし異常停止（E59）します。

(7) サイレントモード

(a) リモコンより「サイレントモード開始」信号を受信した場合に，室外ファンタップと，圧縮機回転数を下げて運転します。

(b) 詳しくは，前述の(1)項の圧縮機回転数の決定および(4)項の室外ファン制御をご覧ください。

(8) 試運転

(a) **室外ユニット制御基板上のディップスイッチにより室外ユニットより運転が可能です。**

SW3-3	ON	SW3-4	OFF	冷房試運転
			ON	暖房試運転
	OFF	通常および試運転終了		

必ず運転終了時は SW3-3 を OFF にしてください。

(b) **試運転制御**

(i) 室内吸込温度（Thi-A）とリモコンの設定温度をファジー演算して決まる回転数にて運転をします。

(ii) 各保護制御，異常検知制御は有効です。

(iii) 試運転中に SW3-4 を切換えた場合は停止制御を行い一旦圧縮機を停止させ，冷・暖房運転を切換えます。

(iv) 試運転中リモコンの設定および表示

モード ＼ 容量	リモコンの設定・表示内容
冷房試運転	冷房，設定温度は5℃
暖房試運転	暖房（準備），設定温度は30℃

(9) ポンプダウン制御

(a) **開始条件**

(i) 運転停止，異常停止中（サーモOFFは含まず）にポンプダウンスイッチSW1を2秒間ONするとポンプダウン運転をします。（室内ユニット運転中は無効。室内ユニットが異常停止中または電源OFFでも有効）

(ii) 液側の操作弁を閉めてください。（ガス側は全開のまま）

(b) **制御内容**

(i) 冷房モードで目標回転数を55rpsとして圧縮機を始動します。

(ii) 室外制御基板上の赤，緑（LED）が連続点滅します。

(iii) 低圧制御，アンチフロスト制御および露付き保護制御を除き各保護，異常検知制御は有効です。

(iv) 室外ファンは通常通り制御します。

(v) 電子膨張弁（冷・暖）は全開にします。

(c) **制御終了条件**

下記の何れかの条件により停止制御を行います。

(i) 低圧圧力が0.087MPa以下を連続5秒検知

1) 赤LED：点灯，緑LED：点滅，リモコン：停止を表示します。

2) 低圧圧力が0.087MPaを超えると再起動可能です。

3) 電子膨張弁（冷・暖）は全開のまま。

(ii) 異常検知制御により停止

1) 赤LED：連続点滅，緑LED：点滅します。

2) 再起動は不可です。通常運転への復帰は電源リセット。

3) 電子膨張弁（冷・暖）は全開のまま。

(iii) ポンプダウン制御による圧縮機の運転積算時間が5分になった時。

1) 赤LED：消灯，緑LED：点滅，リモコン：停止。

2) 再ポンプダウンは可能です。

3) 電子膨張弁（冷・暖）は全開のまま。

注(1) 圧縮機停止後は，ガス側の操作弁を閉めてください。

ご注意：ポンプダウンスイッチが押されますと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが，異常ではありません。

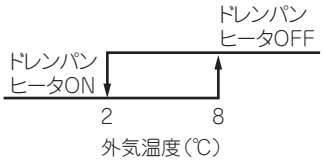
(10) ドレンパンヒータ ON/OFF 制御

(a) **ドレンパンヒータON条件**

外気温度が2℃以下のとき。

(b) **ドレンパンヒータOFF条件**

外気温度が8℃以上のとき。



15. 電装品故障診断要領

暖ガンハイパーシリーズ

15.1 点検表示一覧

(1) リモコンの故障記号一覧（室内・外制御基板の正常［緑］，点検［赤］表示灯との組合せによる故障表示）

(a) 室内ユニット側故障時に於けるリモコン，制御基板の点検表示一覧

点検表示						故障箇所	故障内容(2)	修理方法	記載ページ
リモコン		室内制御基板		室外制御基板					
故障記号	点検表示灯（赤）	点検表示灯（赤）	正常表(1)示灯（緑）	点検表示灯（赤）	正常表(1)示灯（緑）				
無表示	消灯	消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	―――	**●正常運転**	―――	―
		消灯	消灯	2回点滅	連続点滅	室内電源	●電源OFF，断線・ヒューズ切れ	修　理	362・363
		消灯	連続点滅	2回点滅	連続点滅	リモコン配線	●リモコン線の接続不良・断線（クロ,シロ）	修　理	364
						リモコン	●リモコン基板不良	リモコン交換	
内機確認中または消灯		消灯	連続点滅	2回点滅	連続点滅	室内外接続線	●室内外接続線の接続不良または断線	修　理	366～371
						リモコン	●リモコン親子設定不良		
E1	連続点滅	消灯	☆連続点滅	消灯	連続点滅	リモコン配線（ノイズ）	**●リモコン信号線（シロ）**の接続不良 ☆電源ON時断線時消灯 **●リモコン線にノイズ**侵入	修　理	373
						リモコン室内制御基板	※●リモコンまたは室内制御基板不良（通信回路不良）?	リモコンまたは基板交換	
E5		2回点滅	連続点滅	2回点滅	連続点滅	室内外接続線	**●運転中に室内外接続線接続不良発生（外れ・緩み）** **●ノイズ**等による室内外通信異常	修　理	374・375
		2回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	（ノイズ）	**●通電中に室外制御基板CPUが暴走**	修　理	
						室外制御基板	※●通電中に室外制御基板不良発生（通信回路不良）?	基板交換	
		2回点滅	連続点滅	消灯	消灯	室外制御基板	**●通電中に室外制御基板不良**	交　換	
						ヒューズ	**●通電中にヒューズ切れ**		
E6		1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内熱交温度センサ	**●室内熱交温度センサ不良**（素子不良,断線,短絡）　●温度センサ用コネクタ接触不良	温度センサ交換・修理	376
						室内基板	※●**室内制御基板不良**（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E7		1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	吸込温度センサ	**●吸込温度センサ不良**（素子不良,断線,短絡）　●温度センサ用コネクタ接触不良	温度センサ交換・修理	377
						室内制御基板	※●**室内制御基板不良**（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E8		1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	据付・運転状況	**●暖房過負荷**（室内熱交温度が異常に高い）	修　理	378
						室内熱交温度センサ	**●室内熱交温度センサ不良（短絡）**	温度センサ交換	
						室内制御基板	※●**室内制御基板不良**（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E9		1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	排水不良	**●ドレンポンプ（DM）不良，**ドレンポンプ用配線断線・コネクタ外れ	DM交換・修理	379
						フロートスイッチ	**●フロートスイッチの作動不良**（誤作動）	修　理	
						室内制御基板	※●**室内制御基板不良**（フロートスイッチ入力回路不良） ※●**室内制御基板不良**（DM駆動用出力回路不良）	基板交換	
						オプション	**●オプション部品不良**（オプション異常入力設定時）	修　理	
E10		消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	室内接続台数	●1リモコン複数台制御時⇒**室内ユニット接続台数オーバー**	修　理	380
E11		消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	アドレス設定	**●リモコン通信アドレス設定不良**	修　理	381
E14		3回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内号機設定	●子機に対応する親機がない	修　理	382
						リモコン配線	●親機子機間のリモコン配線接続不良,断線		
E16		1(2)回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内ファンモータ	**●室内ファンモータ不良**	交換・修理	383・384
						室内制御基板	**●室内制御基板不良**	交　換	
E19		1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内制御基板	**●運転モード設定不良**	修　理	385
E20		1(2)回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	室内ファンモータ	**●室内ファンモータ回転不良**	交換・修理	386・387
						室内制御基板	**●室内制御基板不良**	交　換	
E21		消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	ラクリーナパネル	●ラクリーナパネル収納不良 ―――― （FDTシリーズのみ）	修　理	388
							●パネルスイッチの動作不良	交　換	
E23		1回点滅	連続点滅	消灯	連続点滅	冷媒漏洩	●室内ユニット冷媒漏洩 ―――― （FDFシリーズのみ）	修　理	389
							●冷媒センサ不良	交　換	
E28		消灯	連続点滅	消灯	連続点滅	リモコン温度センサ	●リモコン温度センサ不良	修　理	390

注(1)　**正常表示灯（室内・外：緑）はCPU異常時のみ消灯（または連続点灯）します。CPU異常以外の故障の場合は点滅を続けます。**
(2)　故障内容の※印は通常の診断では，明確にそれと原因を特定できない場合で，部品交換して故障が直れば，結果的に交換した部品が悪かったことを判断できるケースを示します。

(b) 室外ユニット側故障時に於けるリモコン，制御基板の点検表示一覧

(i) FDCKP805H，1125H

点検表示						故障箇所	故障内容	修理方法	記載ページ
リモコン		室内制御基板		室外制御基板					
故障記号	点検表示灯（赤）	点検表示灯（赤）	正常表示灯（緑）	点検表示灯（赤）	正常表示灯（緑）				
E34	連続点滅	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	電源配線	**●室外電源R, S, T相欠相，ノイズフィルタ不良**	修理	391·392
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（電源入力回路不良）?	基板交換	
E35		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●室外熱交温度が高い**	修理	393
						室外熱交温度センサ	**●室外熱交温度センサ不良**	温度センサ交換修理	
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E36		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●吐出温度が高い**	修理	394
						吐出管温度センサ	**●吐出管温度センサ不良**	温度センサ交換修理	
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E37		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外熱交温度センサ	**●室外熱交温度センサ不良または断線**またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	395
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E38		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	外気温度センサ	**●外気温度センサ不良または断線**またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	396
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E39		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吐出管温度センサ	**●吐出管温度センサ不良または断線**またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	397
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E40		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●高圧が上昇**（63H1作動）　**●操作弁閉運転**	修理	398
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（63H1入力回路不良）?	基板交換	
E41		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板・放熱フィン	**●パワトラ電源電圧低下**	修理 基板交換	399
E42		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外制御基板 圧縮機	**●カレントカット**（圧縮機過電流異常）	修理	401·402
						据付・運転状況	**●操作弁閉運転**	操作弁開確認	
E45		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外制御基板	**●室外制御基板通信異常**	基板交換	403
						インバータ基板	**●インバータ基板通信異常**		
E47		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板	**●AF異常**	基板交換	405
E48		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外ファンモータ	**●室外ファンモータ不良**	交換修理	406
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（ファンモータ入力回路不良）?	基板交換	
E49		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●低圧が低い　●操作弁閉運転**	修理	407·408
						低圧圧力センサ	●低圧異常または低圧圧力センサ断線またはコネクタ接触不良	センサ交換修理	
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E51		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板	**●インバータ・室外ファンモータ異常**	基板交換	409
E53		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吸入管温度センサ	●吸入管温度センサ不良または断線またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	410
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E54		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	低圧圧力センサ	●低圧圧力センサ不良	センサ交換	411
						室外制御基板	●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E57		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	運転状況	**●冷媒量不足**	修理	413
						据付状況	●操作弁閉運転	操作弁開確認	
E58		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	圧縮機 インバータ基板	**●圧縮機脱調異常**	交換	414
E59		消灯	連続点滅	5回点滅	連続点滅	圧縮機 インバータ基板	**●圧縮機起動異常**	交換	415·416

注(1) 故障内容の※印は通常の診断では，明確にそれと原因を特定できない場合で，部品交換して故障が直れば，結果的に交換した部品が悪かったことを判断できるケースを示します。

(ii) FDCKP1405H，1605H

点検表示						故障箇所	故障内容	修理方法	記載ページ
リモコン		室内制御基板		室外制御基板					
故障記号	点検表示灯（赤）	点検表示灯（赤）	正常表示灯（緑）	点検表示灯（赤）	正常表示灯（緑）				
E34	連続点滅	消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	電源配線	**●室外電源R,S,T相欠相，ノイズフィルタ不良**	修理	391・392
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（電源入力回路不良）?	基板交換	
E35		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●室外熱交温度が高い**	修理	393
						室外熱交温度センサ	**●室外熱交温度センサ不良**	温度センサ交換修理	
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E36		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●吐出温度が高い**	修理	394
						吐出管温度センサ	**●吐出管温度センサ不良**	温度センサ交換修理	
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E37		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外熱交温度センサ	**●室外熱交温度センサ不良または断線**またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	395
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E38		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	外気温度センサ	**●外気温度センサ不良または断線**またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	396
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E39		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吐出管温度センサ	**●吐出管温度センサ不良または断線**またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	397
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（温度センサ入力回路不良）?	基板交換	
E40		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●高圧が上昇**（63H1作動）　**●操作弁閉運転**	修理	398
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（63H1入力回路不良）?	基板交換	
E41		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板・放熱フィン	**●パワトラ電流低下**	修理 基板交換	400
E42		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外制御基板 圧縮機	**●カレントカット**（圧縮機過電流異常）	修理	401・402
						据付・運転状況	**●操作弁閉運転**	操作弁開確認	
E45		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外制御基板	**●室外制御基板通信異常**	基板交換	404
						インバータ基板	**●インバータ基板通信異常**		
E48		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	室外ファンモータ	**●室外ファンモータ異常**	交換修理	406
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（DCモータ入力回路不良）?	基板交換	
E49		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	据付・運転状況	**●低圧が低い　●操作弁閉運転**	修理	407・408
						低圧圧力センサ	●低圧異常または低圧圧力センサ断線またはコネクタ接触不良	センサ交換修理	
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E51		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	インバータ基板	**●インバータ基板異常**	基板交換	409
E53		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	吸入管温度センサ	●吸入管温度センサ不良または断線またはコネクタ接触不良	温度センサ交換修理	410
						室外制御基板	※●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E54		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	低圧圧力センサ	●低圧圧力センサ不良	センサ交換	411
						室外制御基板	●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E55		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	圧縮機ドーム下温度センサ	●圧縮機ドーム下温度センサ不良	温度センサ交換	412
						室外制御基板	●室外制御基板不良（センサ入力回路不良）?	制御基板交換	
E57		消灯	連続点滅	1回点滅	連続点滅	運転状況	**●冷媒量不足**	修理	413
						据付状況	●操作弁閉運転	操作弁開確認	
E59		消灯	連続点滅	5回点滅	連続点滅	圧縮機 インバータ基板	**●圧縮機起動異常**	交換	415・416

注(1) 故障内容の※印は通常の診断では，明確にそれと原因を特定できない場合で，部品交換して故障が直れば，結果的に交換した部品が悪かったことを判断できるケースを示します。

(c) オプションコントローラ使用時の点検表示一覧

点検表示						故障箇所	故障内容	修理方法
SL1N SL2NA SL4		室内制御基板		室外制御基板				
故障記号	点検表示灯（赤）	点検表示灯（赤）	正常表示灯（緑）	点検表示灯（赤）	正常表示灯（緑）			
E75	連続点滅	消灯	点滅	消灯	点滅	SL1N SL2NA SL4	●通信異常（SL1N，SL2NA，SL4 本体の通信回路不良）	交換

(d) 故障記号・点検表示灯の表示順序

■1種類の故障が発生

故障に応じた表示をそれぞれ行います。

■複数の故障が発生

区　　分	表　示　区　分
リモコンの故障記号 室内制御基板の点検LED（赤） 室外制御基板の点検LED（赤）	●優先度の高い故障を表示（複数の故障が現に継続している場合） E23>E 1>E5>……>E 10>E32 >……E60 ●現在発生している故障を表示（先発の故障が自動復帰後，新たに故障が発生した場合）

■故障検知時期

区分	故障内容	故障記号	故障検知時期
室内	ドレン異常（フロートスイッチ作動）	E9	電源ON30秒後常時
	室内一室外誤接続	内機確認中	室外ユニットと一度も通信していない状態
	リモコン・室内伝送不良	E1	電源投入後リモコンと室内が1度以上通信した後，伝送不良が2分間継続した時
	室内・外伝送不良	E5	室外と1度以上通信した後2分間連続して通信異常
	室内ユニット接続台数オーバー（1リモコン複数台制御時）	E10	電源投入後（通電中）常時
	室内吸込温度センサ断線	E7	1回目の検知から60分以内に吸込温度センサ入力温度が-50℃以下を5秒間以上計測した時
	室内熱交温度センサ断線，短絡	E6	1回目の検知から60分以内に熱交温度センサ温度が-50℃以下を5秒間以上計測した時および70℃以上を連続5秒間検知した時
	冷媒漏洩（FDFシリーズのみ）	E23	電源ON後3分経過後以降常時
室外	外気温度センサ断線	E38	1回目の検知から40分以内に3回温度センサ入力温度が-45℃以下を5秒間以上計測した時および電源投入時，20秒間に-45℃以下を連続5秒間検知した時
	室外熱交温度センサ断線	E37	1回目の検知から40分以内に3回温度センサ入力温度が-50℃以下を5秒間以上計測した時および電源投入時，20秒間に-50℃以下を連続5秒間検知した時
	吐出管温度センサ断線	E39	1回目の検知から40分以内に3回温度センサ入力温度が-10℃以下を5秒間以上計測した時
	吸入管温度センサ断線	E53	1回目の検知から40分以内に3回吸入管温度センサ入力温度が-50℃を5秒間以上計測した時
	低圧圧力センサ断線	E54	1回目の検知から40分以内に3回低圧圧力センサの検出値がDC0V以下もしくは，DC4.0V以上
	ドーム下温度センサ断線（FDCKP1405H，1605Hのみ）	E55	1回目の検知から40分以内に3回ドーム下温度センサ入力温度が-50℃を5秒間以上計測した時

■故障の記憶とリセット

故障表示	記　憶	リセット
リモコンの故障記号	●優先度の高いモードを記憶	●リモコンの運転／停止スイッチを押してユニットを停止する ●異常が復旧していれば再運転可能
室内・点検表示灯（赤）	●記憶は不可	
室外・点検表示灯（赤）	●優先度の高いモードを記憶	

■故障モード記憶の解除（故障が復帰している場合）

① RC-DX3Bリモコンの場合

- リモコン故障モード記憶の解除
  TOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード」入力→「セット」→「点検表示」→「異常履歴表示」の順でタッチする。
  画面上の「消去」→消去確認画面で「はい」の順でタッチすると，リモコンが記憶している異常履歴・異常発生時のデータの記憶をすべて消去します。
- 室内ユニット故障モード記憶の解除
  TOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード」入力→「セット」→「点検表示」→「異常時運転データ消去」の順でタッチする。
  異常時運転データ消去画面で「はい」をタッチすると，リモコンは室内ユニットに異常履歴クリアを送信します。送信された室内ユニットは，リモコンに対し異常なしを送信します。

② RC-D4Gリモコンの場合

- リモコン故障モード記憶の解除
  点検 ボタンを押しながら タイマー ボタンを押すことにより，リモコンが記憶している故障モードの記憶を解除します。
- 室内ユニット故障モード記憶の解除
  点検 ボタンを押しながら 換気 ボタンを押すことにより，リモコンは室内ユニットに異常履歴クリアを送信します。送信された室内ユニットは，リモコンに対し異常なしを送信します。

15.2 故障診断の手順

故障が発生したら，次の手順で点検を進めてください。それぞれの点検方法の詳細は後述してあります。

故障 → 電源の確認（室内・外） → 点検表示の確認（室内・外基板 リモコン） → リモコンにて異常運転データチェック → ユニット・コントローラの点検 → 故障部品の交換修理 試運転調整

15.3 室内ユニット基板の交換手順

故障診断は，点検表示またはユニットの運転状況（圧縮機が回らない，ファンが回らない，四方切換弁が切り換わらない等）に応じて室内ユニットの基板周辺の各コネクタ部で電圧（AC，DC）抵抗等を測定する等して不良部品を見つけ，下記の部品単位で交換修理します。

(1) 室内基板関係の交換部品単位

制御基板，電源基板，温度センサ（吸込，室内熱交），リモコンスイッチ，リミットスイッチ，変圧器，ヒューズ

注(1) 強電回路・冷凍サイクルの部品は，通常の点検方法により判定してください。

(2) 制御基板交換要領

お願い **ワイヤードリモコン使用機種は制御基板交換後，電源を投入した後に「リモコンによる機能設定」を参照し室内ユニットの機能や用途に合せて設定を行ってください。**

安全上のご注意

- 交換工事は，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は，安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。
  ⚠ 警告　誤った作業を行った時に，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
  ⚠ 注意　誤った作業を行った時に，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
- 基板交換完了後，試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警　告

- 交換作業は，販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると，感電や火災の原因になります。
- 作業は，この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると，感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後，交換工事をする。
  通電状態での基板交換は，感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し，端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は，発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後，電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると，感電や火災の原因になります。

⚠ 注　意

- 基板にコネクタを接続する際は，基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは，確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は，かみ込んだり，つっぱらないように結束する。断線・変形して故障・感電の原因になることがあります。

(a) FDT シリーズ

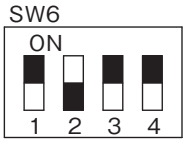
(i) アドレス設定・仕様切換スイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容			
アドレス	SW2	1リモコン複数室内ユニット制御			
親/子設定		親	子1	子2	子3
	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

項目	スイッチ	制御内容	
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

(ii) 容量切換スイッチ(SW6)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

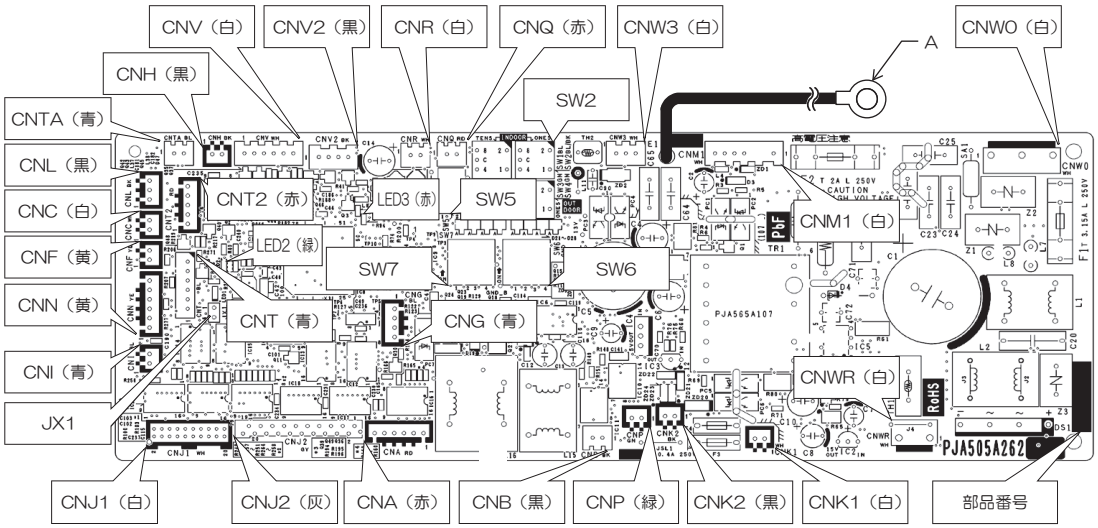
機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	ON
P112	OFF	OFF	OFF	OFF
P160	ON	OFF	ON	ON



(P160の場合)

(iii) 基板を交換してください。
1) 基板に接続されているE1配線(黄／緑)のねじ止め部のねじ(矢視Ａ)を外してください。
2) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
3) 基板は，配線類をかみ込まないように固定してください。
4) スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
5) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
6) 1)項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください(矢視Ａ)。

(iv) 制御基板部品配置図



(b) FDTW・FDR・FDU・FDE シリーズ

(i) 制御基板

1) アドレス設定・仕様切換スイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容			
アドレス	SW2	1リモコン複数室内機制御			
親/子設定		親	子1	子2	子3
	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

項目	スイッチ	制御内容	
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

2) 容量切換スイッチ(SW6)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

FDTW

機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	OFF
P80	OFF	OFF	ON	ON
P160	ON	OFF	ON	ON

FDR

機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	OFF
P71	OFF	OFF	OFF	OFF
P112	OFF	OFF	OFF	OFF
P160	ON	OFF	ON	ON

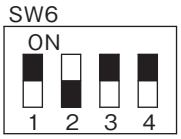
FDU

機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	OFF
P71	OFF	OFF	OFF	OFF
P112	OFF	OFF	OFF	OFF
P160	OFF	ON	ON	ON

FDE

機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	OFF
P112	OFF	OFF	OFF	OFF
P160	ON	OFF	ON	ON

SW6



(FDTWP160の場合)

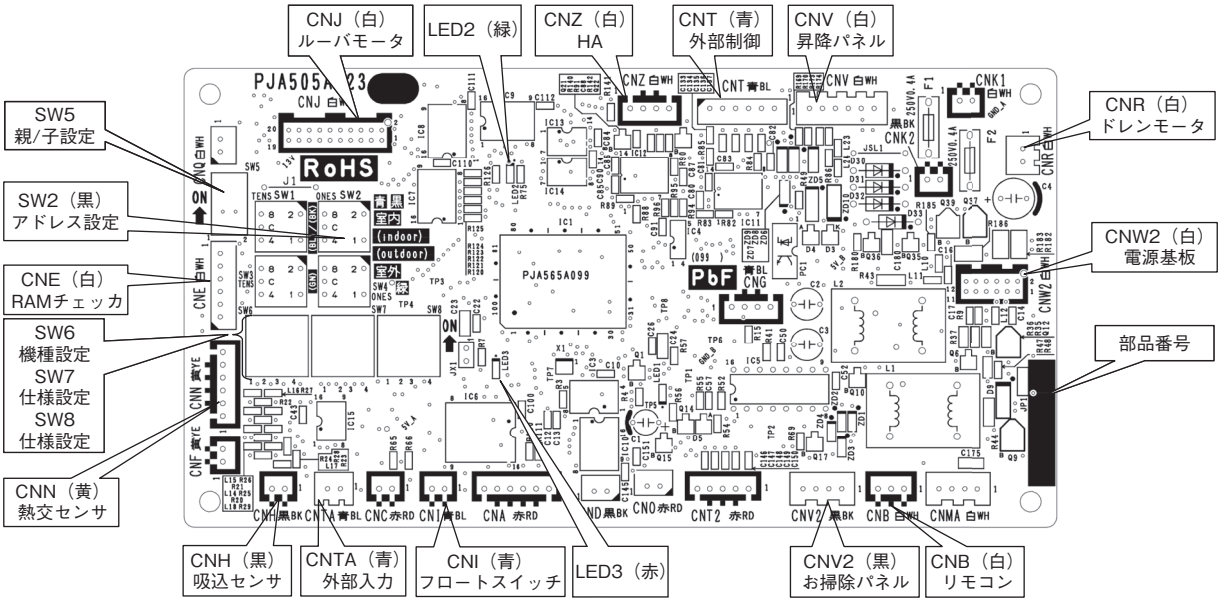
3) 基板を交換してください。

a) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後，基板を交換してください。

b) 基板は，配線類をかみ込まないように固定してください。

c) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

4) 制御基板部品配置図
基板の種類により部品の実装が異なります。



PSB012D990A

(ii) 電源基板

1) FDTWKP565S・FDE

a) 基板を交換してください。

i) 端子台（CNW0）に接続されている配線(黄／緑)のボックスねじ止め部のねじを外してください。

ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後，基板を交換してください。

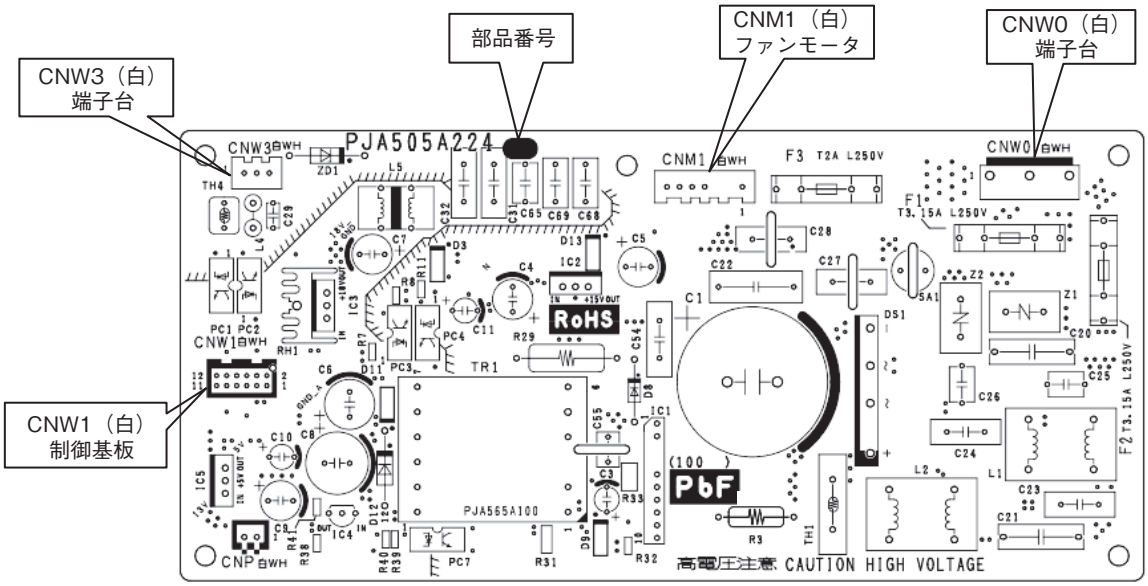
iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

v) i)で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。

b) 電源基板部品配置図

基板の種類により部品の実装が異なります。



2) FDTWKP805S,1605S

PSB012D992 C

a) 基板を交換してください。

i) 端子台（CNWO）に接続されている配線（黄／緑）のボックスねじ止め部のねじを外してください。

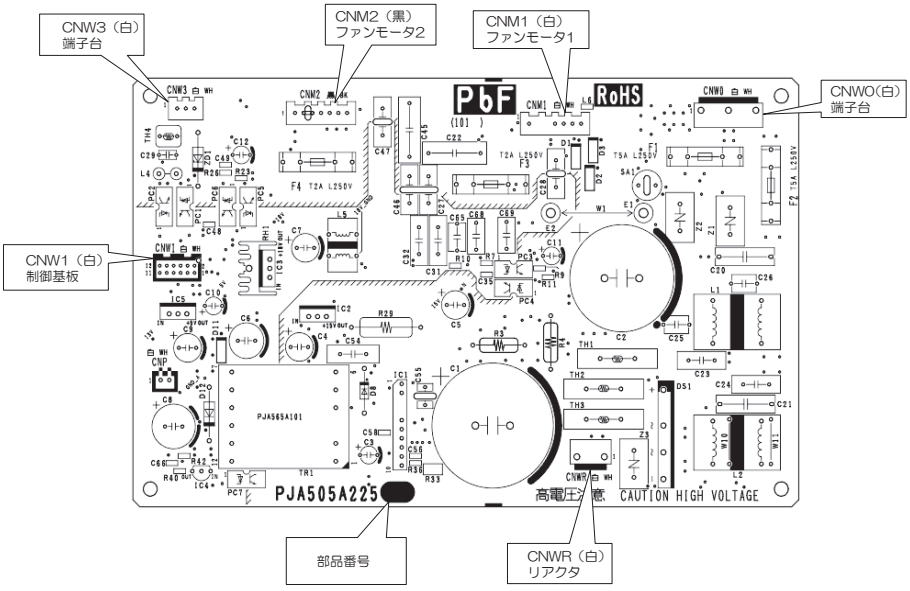
ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。

iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

v) i)項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。

b) 電源基板部品配置図



PSB012D993

3）FDRKP715S,1125S,1605S,FDU（1605S形除く）

a） 基板を交換してください。

ⅰ） 基板に接続されているE2配線（黄／緑）のねじ止め部のねじ（矢視Ａ）を外してください。

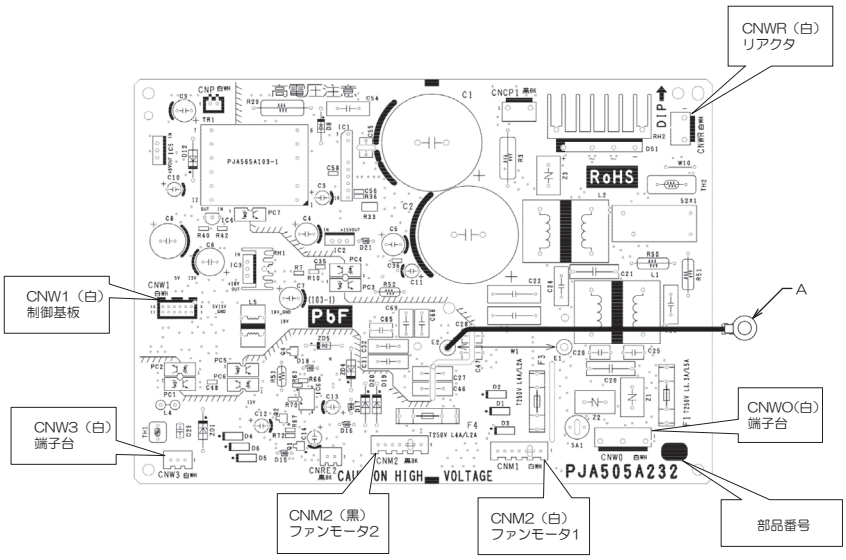
ⅱ） 基板にコネクタ接続されている配線を全て取り外した後、基板を交換してください。

ⅲ） 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

ⅳ） 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

ⅴ） ⅰ）項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください（矢視Ａ）。

b） 電源基板部品配置図



PSC012D021 B

4）FDUKP1605S

a） 基板を交換してください。

ｉ） 基板に接続されているE1, E2配線（黄／緑）のねじ止め部のねじ（矢視Ａ）を外してください。

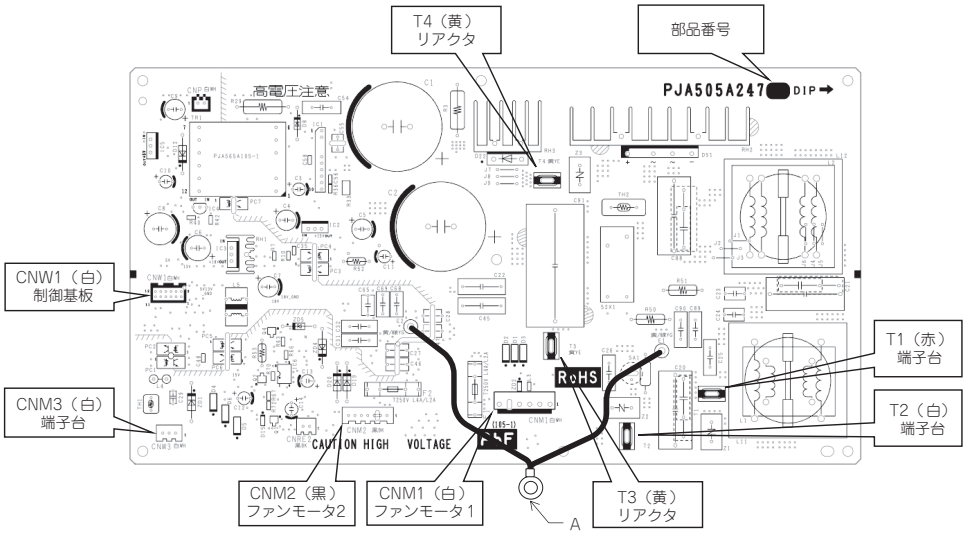
ii） 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。

iii） 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

iv） 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

v） i)で外した配線を元の場所にねじ止めしてください（矢視Ａ）。

b） 電源基板部品配置図



PSC012D035

◆モータ基板

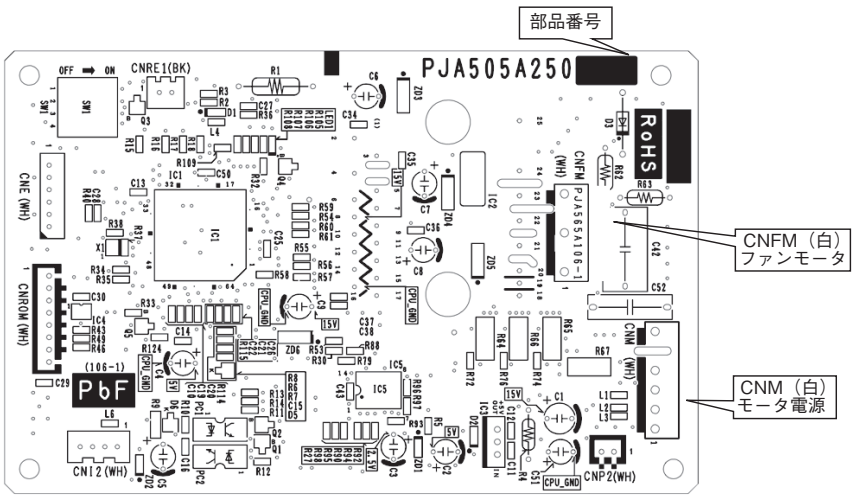
a） 基板を交換してください。

ｉ） 基板のコネクタおよびパワトラ取付用のねじを外し、基板を取外してください。外した時、既に塗布されているシリコングリスはコントローラの放熱フィンよりきれいに拭き取ってください。

ii） 新しい基板のパワトラ表面に、同梱の**シリコングリスを均一に塗布**し、配線類をかみ込まないように基板を取付けてください。塗布しないと**パワトラが破損することがあります。**その時、シリコングリスは使い切ってください。

iii） 基板のパワトラ取付用のねじを締め、コネクタを接続してください。
接続後に締め忘れ、半挿しがない様確認してください。**特にパワトラは緩みない様に取付ねじで締付けてください。**
締付けないと**パワトラが破損することがあります。**（推奨パワトラ締付トルク：０．５９～０．７８Ｎ・ｍ）

b） モータ基板部品配置図



PSC012D036

(c) FDKシリーズ

(i) アドレス設定・仕様切換スイッチ

交換する基板と設定を同一にしてください。

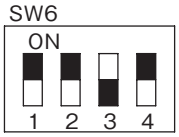
項目	スイッチ	制御内容
アドレス	SW2	1リモコン　複数室内ユニット制御 0～F

(ii) 容量切換スイッチ

・ＳＷ６により容量を設定してください。

・交換する基板と設定を同一にしてください。

機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	OFF
P80	ON	ON	OFF	ON



(P80の場合)

(iii) 基板の取外し

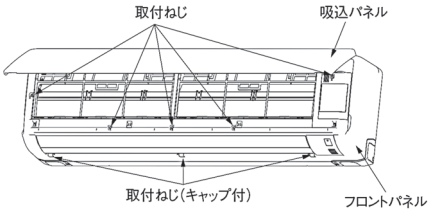
KP565S, 805S

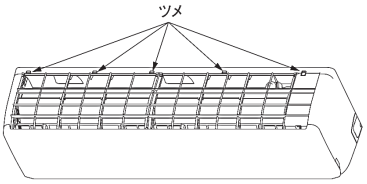
a) 吸込パネルを取外してください。

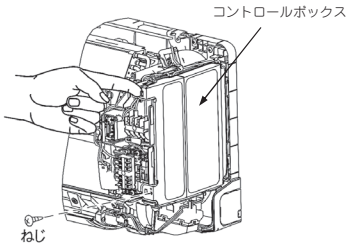
b) 取付ねじを外してください。（５か所）

c) 上部のツメ（５か所）を外し、フロントパネルを取外してください。

d) ねじを外し、コントロールボックスのふたを取外してください。

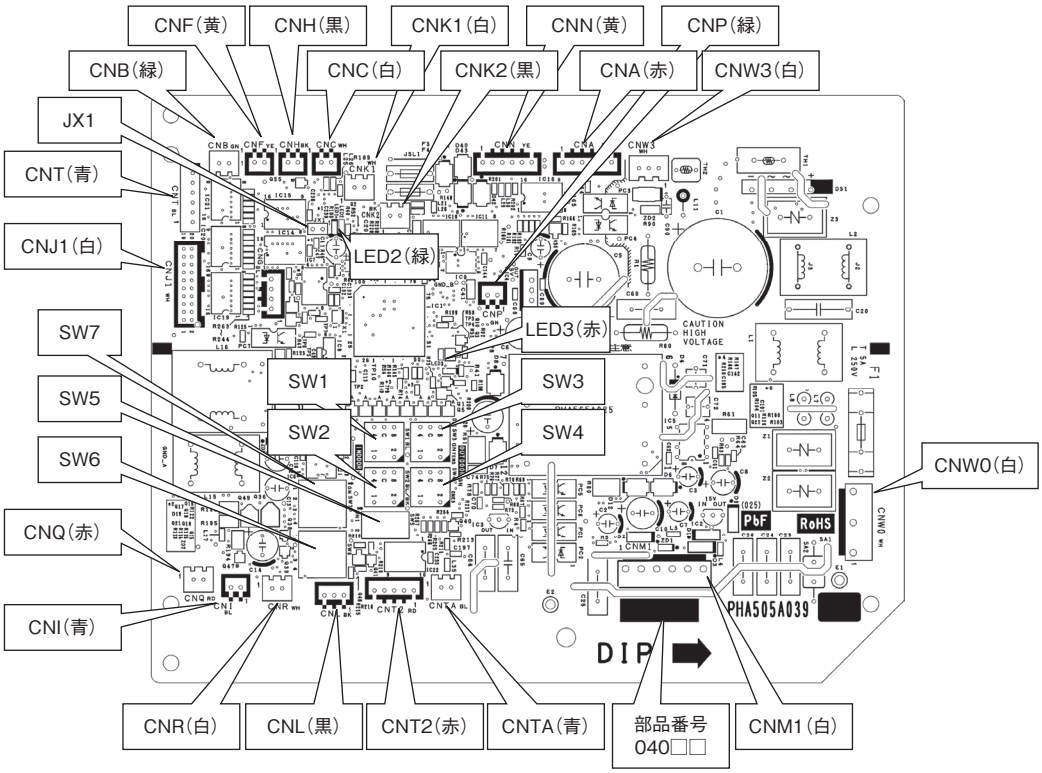






(iv) 制御基板部品配置図

KP565S, 805S



PHA012D051A

(d) FDF シリーズ

(i) 制御基板

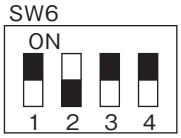
1) アドレス設定・仕様切換スイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容			
アドレス	SW2	1リモコン複数室内ユニット制御			
親/子設定		親	子1	子2	子3
	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

項目	スイッチ	制御内容	
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

2) 容量切換スイッチ(SW6)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

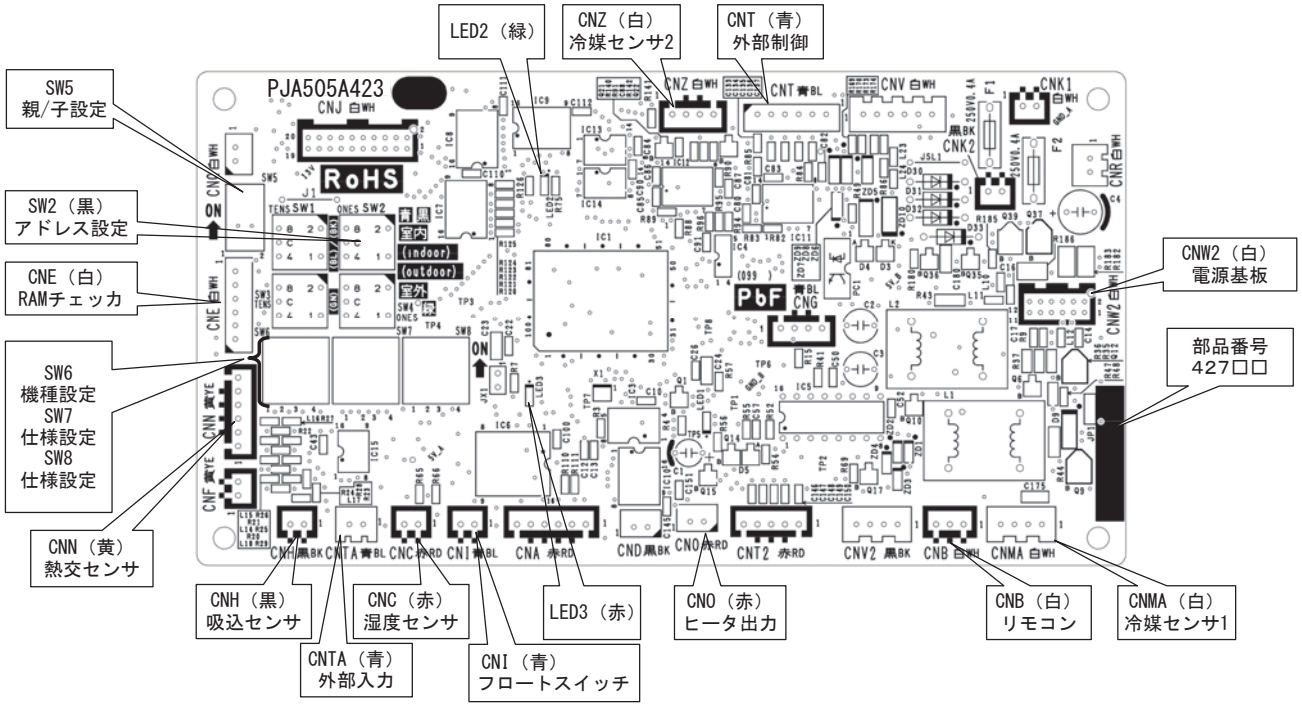
機種	SW6			
設定	-1	-2	-3	-4
P56	OFF	OFF	OFF	OFF
P112	OFF	OFF	OFF	OFF
P160	ON	OFF	ON	ON



(P160の場合)

3) 基板を交換してください。
a) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後，基板を交換してください。
b) 基板は，配線類をかみ込まないように固定してください。
c) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

4) 制御基板部品配置図
基板の種類により部品の実装が異なります。



PSB012D991H

(ii) 電源基板

1) 基板を交換してください。

a) 基板に半田付けされている配線(黄／緑)のボックスねじ止め部のねじを外してください。

b) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後，基板を交換してください。

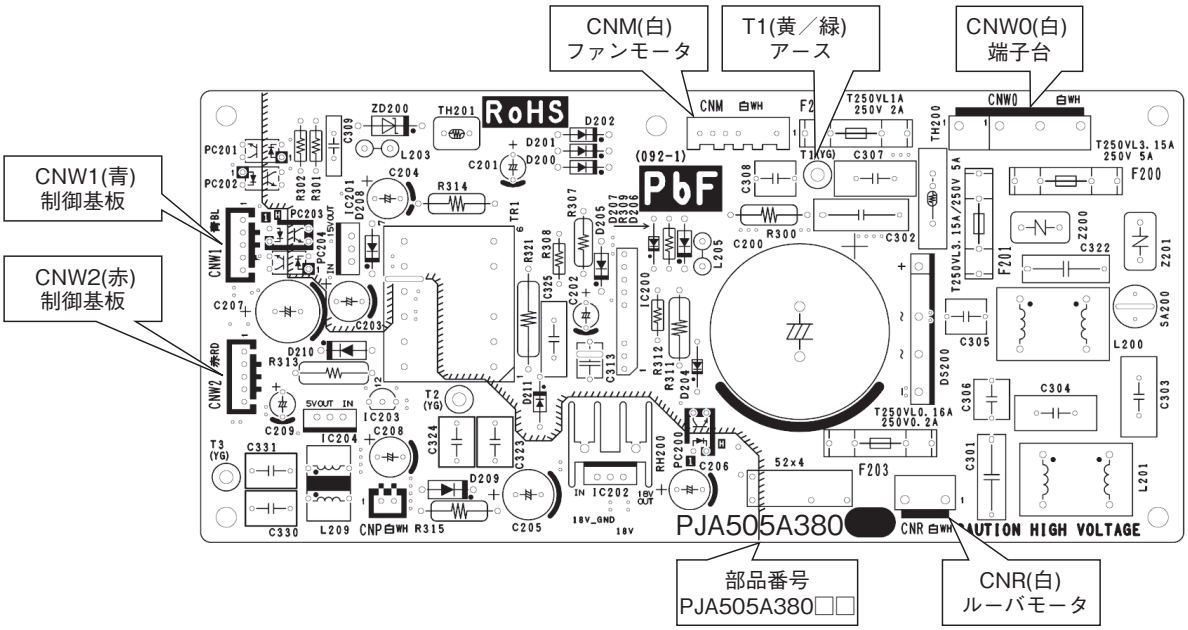
c) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

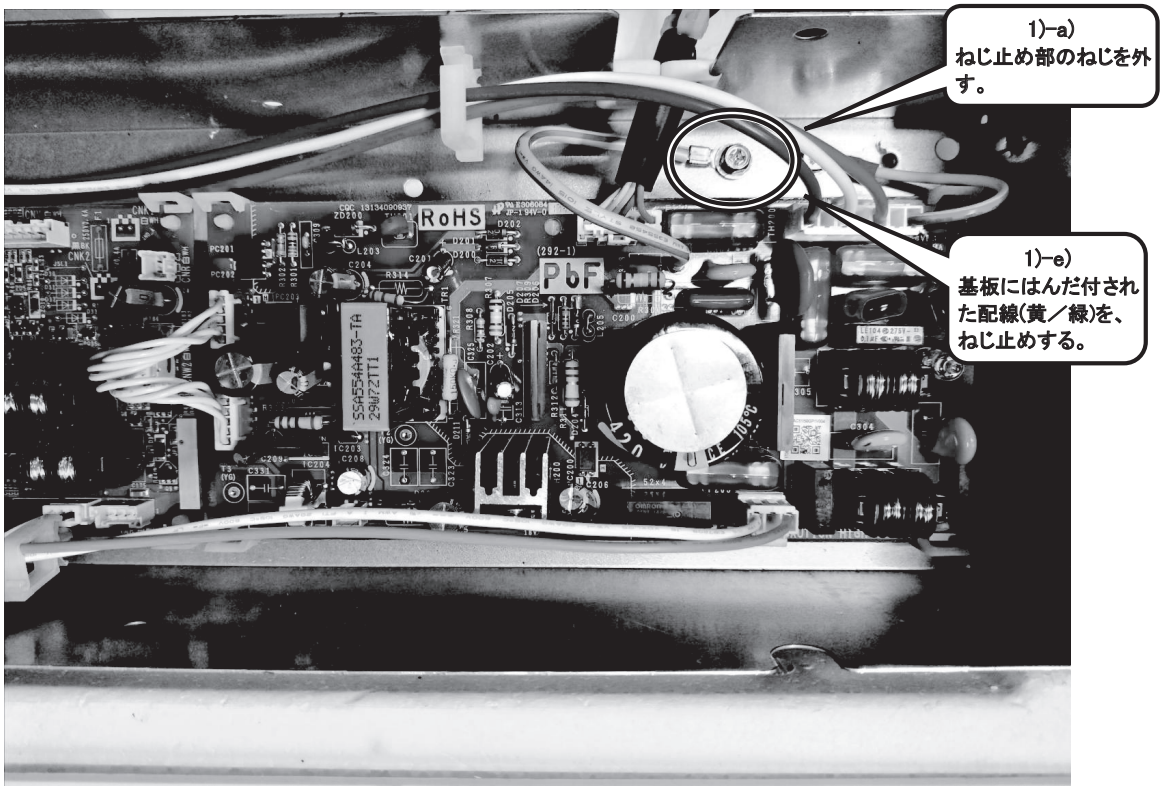
d) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

e) a)で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。（下図参照）

2) 電源基板部品配置図

基板の種類により部品の実装が異なります。

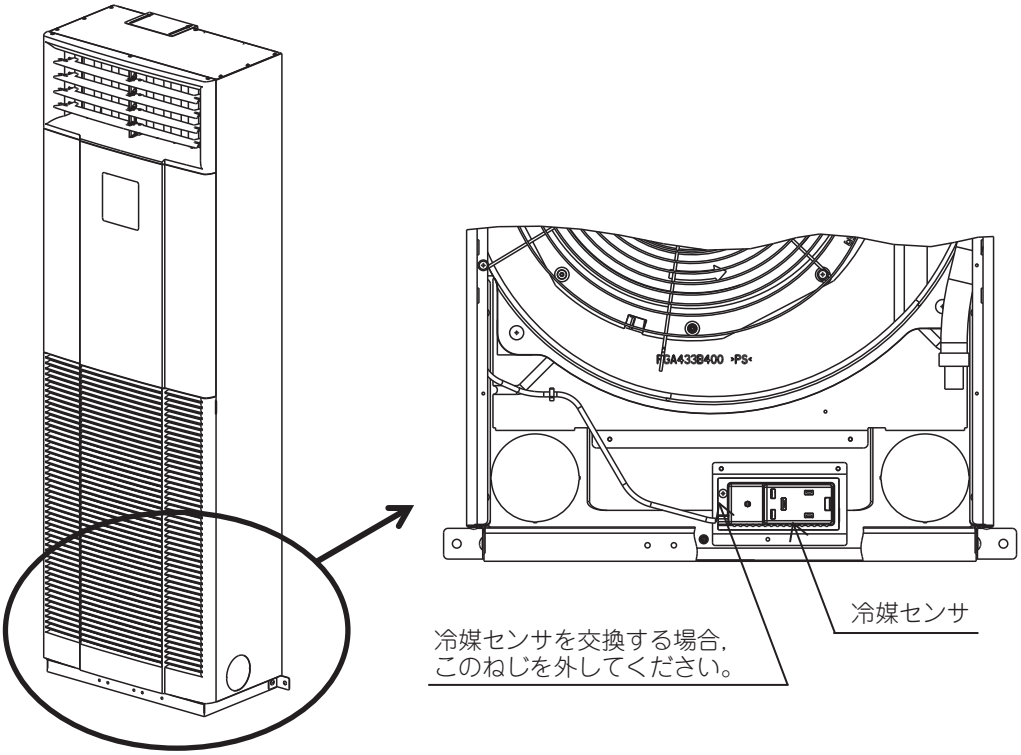




PSB012D953H

(iii) 冷媒センサの交換手順

冷媒センサは室内ユニット下部にありますので，グリルを外してから下図中に示される一か所のねじを外し，ケースに固定されている冷媒センサを交換してください。



(3) 室内ユニットディップスイッチ設定表

スイッチ	項　　目		通常の設定		備　考
SW2	リモコン通信アドレス設定		0		0-F
SW5-1	プルーラル機	親／子設定	OFF		下表 1 参照
SW5-2			OFF		
SW6-1	室内ユニット機種容量切換		機種容量により切換		各室内ユニットによる
SW6-2					
SW6-3					
SW6-4					
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転	通常／運転チェック・ドレン試運転	OFF	通常	
SW7-2	ー		OFF		
SW7-3	パワフルモード	有効／無効(FDU224, 280のみ)	ON	有効	
SW7-4	ー		OFF		
JSL1	スーパーリンク端子予備	有／無	有		

表1：室内ユニット親/子切換 (SW5-1,SW5-2)

0 : OFF　1 : ON

	SW5-1	SW5-2
親	0	0
子1	0	1
子2	1	0
子3	1	1

15.4 室外ユニット基板の交換手順

室外ユニットの故障診断は，リモコンの故障記号，室外制御基板上の点検表示灯（赤・LED）の点滅パターンを確認して故障の概要とその原因，部位を推定した上で点検・修理を進めてください。
室内・外マイコンによる自己診断はマイコン異常の他，電源系統の異常，据付スペース，冷媒量不適等に起因するオーバーロード等を診断できるので，故障発見が円滑に行えます。
また，室外の点検表示灯は電源しゃ断する以外，故障が自動復帰した後も記憶され点滅を続けます。
故障復帰後，記憶されている故障より優先度の高いモードが発生すると，そのモードに切り替えて記憶します。

［電源のリセットについて］

室外制御基板交換をする場合および点検をする場合，室外ユニットへの供給電源をしゃ断してもコントローラ内部の電解コンデンサに電圧が残っていますので，作業をされる場合は感電にご注意ください。
電源しゃ断後，3分以上経過し，コントローラ内部緑LEDが10秒以上，消灯していることを確認してから作業を実施ください。
電解コンデンサ（C58）の両端の電圧（DC）を測定して十分に放電した事を確認してください。
（防湿コーティングしてあるため測定できないことがありますので，感電に注意して防湿剤を剥がして測定してください。）

(1) 室外コントローラ関係の交換部品単位

室外制御基板，インバータ基板，温度センサ（室外熱交，吐出管，外気，パワトラ，吸入管，ドーム下），ヒューズ（電源，制御基板），ノイズフィルタ，コンデンサ，リアクタ

(2) 基板交換要領

安全上のご注意
・ここに示した注意事項は，安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。 表示と意味は次のようになっています。 ⚠ 警告　誤った作業を行った時に，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。 ⚠ 注意　誤った作業を行った時に，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
⚠ 警告
・基板交換はこの交換要領書に従って確実に行ってください。 交換作業に不備があると，感電や火災の原因になります。 ・基板交換時は，必ず室外ユニットの電源が切れていることを確認してから行ってください。 通電状態での基板交換は，感電の原因になります。 ・基板交換の作業終了後，電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認してください。 交換作業に不備があると，感電や火災の原因になります。
⚠ 注意
・配線はつっぱらないように結束してください。感電の原因になることがあります。

(a) FDCKP805H, 1125H

(i) 制御基板

下記の要領で制御基板の交換を行ってください。

1）交換作業は，**電源を切って３分後**に実施してください。

2）コネクタ（ＣＮＡ１）の両極を測定し，**電解コンデンサに充電されたＤＣ電圧が十分に放電した**事を確認してください。（図２参照）

3）制御基板のコネクタを外してください。（図１．部品配置図を参照してください。）

4）基板上のＣＴ１に通している白色または青色の配線を外して，制御基板を交換してください。

5）新しい基板の設定スイッチ（ＳＷ３－５，７、ＪＳＷ１）の設定を交換前の基板に合わせてください。

6）白色または青色の配線を，交換した基板上のＣＴ１に通してねじを締めてください。

7）コネクタを交換前と同じ場所に接続してください。（接続後，**半挿しが無い様**確認してください。）

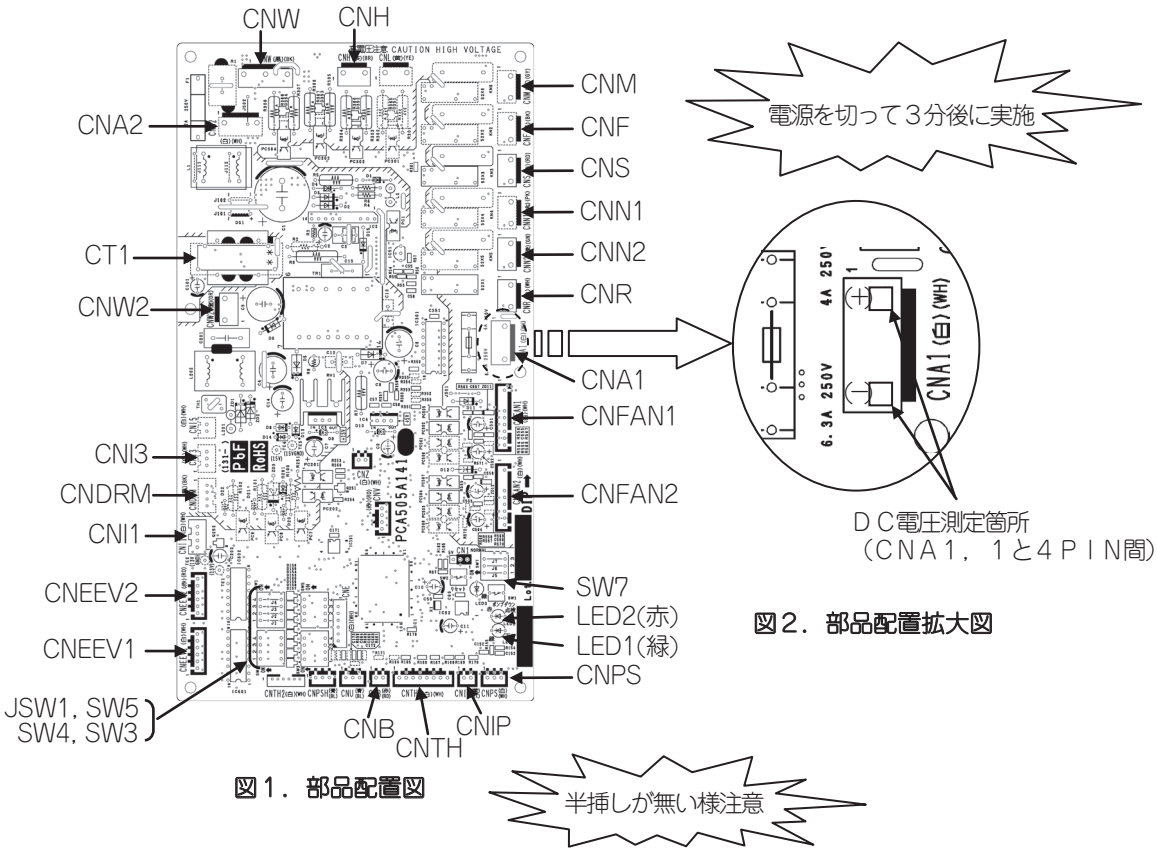


図１．部品配置図

図２．部品配置拡大図

PCA012D050

(ii)　インバータ基板

下記の要領でインバータ基板（図１）の交換を行ってください。インバータ基板の搭載箇所は図３を参照してください。

1）交換作業は，**電源を切って３分後**に実施してください。（ 電源OFF直後はコンデンサが放電されておらず，高電圧状態で危険なため，コントローラを触らないでください。また，リアクタが高温になっていますので，リアクタには触らないでください。）

2）ハーネスが接続されている状態で，図２に示す制御基板のコネクタＣＮＡ１（１－４ピン間）の**ＤＣ電源電圧を測定し，２０Ｖ以下（コンデンサ放電後の電圧）である事**を確認してください。

3）図２に示す様にバンドに束ねられているハーネスをクリップと制御基板上のコネクタから外し，ねじ（４か所）を外してください。

4）図３の様に制御面を開き，図１で示すインバータ基板のＣＮＡ３（１－４ピン間）の**ＤＣ電源電圧を測定し，２０Ｖ以下 （コンデンサ放電後の電圧）である事**を確認してください。（※）

・インバータ基板に接続されたコネクタ，端子およびダイオード（Ｄ８０１），トランジスタ（Ｑ８０２），パワトラ（ＩＣ２）の取付け用ねじを外してインバータ基板を取外してください。

・取外した後，放熱フィンに付着しているシリコングリスをきれいに拭き取ってください。

・ダイオード（Ｄ８０１）およびトランジスタ（Ｑ８０２）用の**絶縁シートを放熱フィンより剥がし， 新しい絶縁シートを放熱フィンに貼付けてください。**（図４参照）

・制御面を開けている際は，上から力を加えないでください。製品の変形やけがの原因になります。

5）新しい基板のダイオード（Ｄ８０１），トランジスタ（Ｑ８０２）に装着されているスペーサ（図５参照）を取外してください。

6）新しい基板のスイッチ（ＪＳＷ１０，１１）のＯＮ／ＯＦＦ設定を交換前の基板に合わせてください。

7）新しい基板のパワトラ（ＩＣ２）表面に，同梱の**シリコングリスを均一に塗布**して基板を取付けてください。
塗布しないと**部品が破損することがあります**。（シリコングリスは使い切ってください）

8）新しい基板のパワトラ（ＩＣ２），ダイオード（Ｄ８０１），トランジスタ（Ｑ８０２）の取付用ねじを締付け（各推奨締付トルクは図６参照），端子およびコネクタを元の状態に接続してください。
コネクタ接続後，**半挿しが無い事を**確認してください。
制御面を閉じる際に配線の噛み込みがない様に注意してください。配線が損傷し，ショートや火災の原因になります。

（※）インバータ基板（ＣＮＡ３）のコネクタが**未接続の状態**で電源を投入した場合や，
故障の内容によって電荷が数時間放電されない可能性があります。
感電，基板破損の恐れがありますので確実にＣＮＡ３の電圧測定を行ってください。

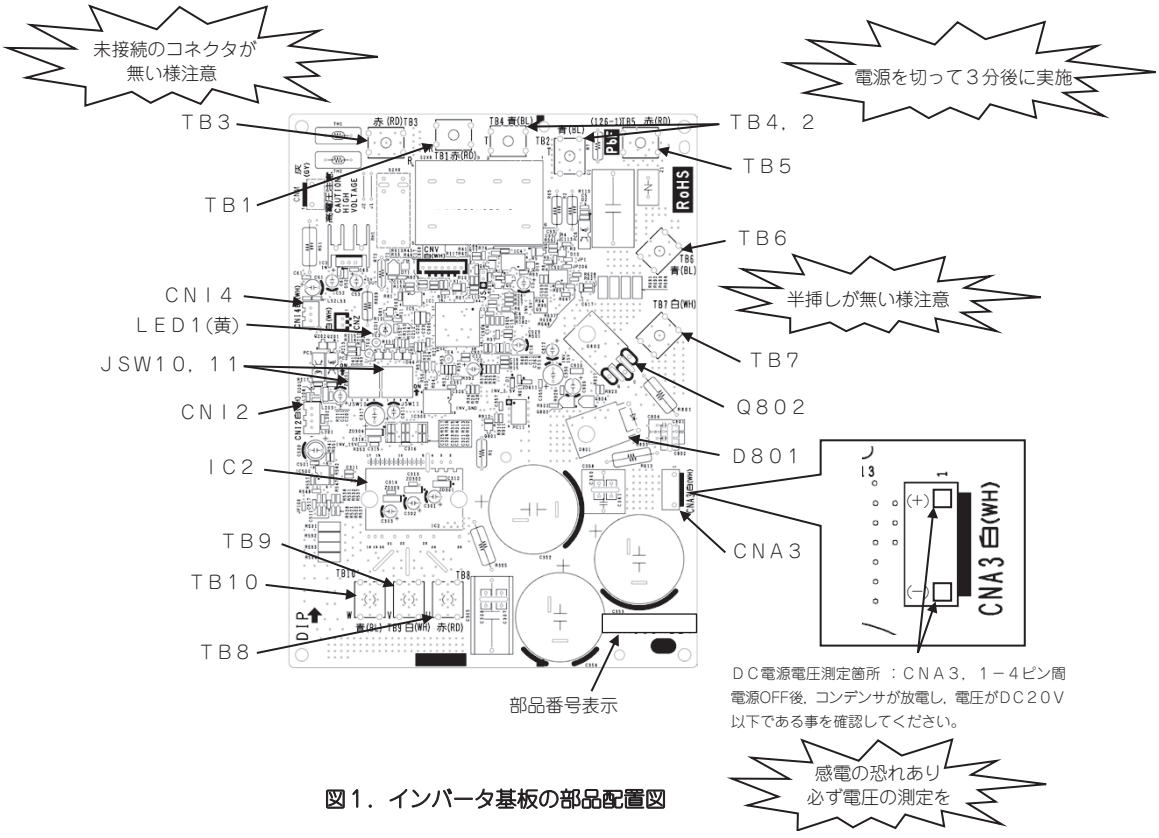


図１．インバータ基板の部品配置図

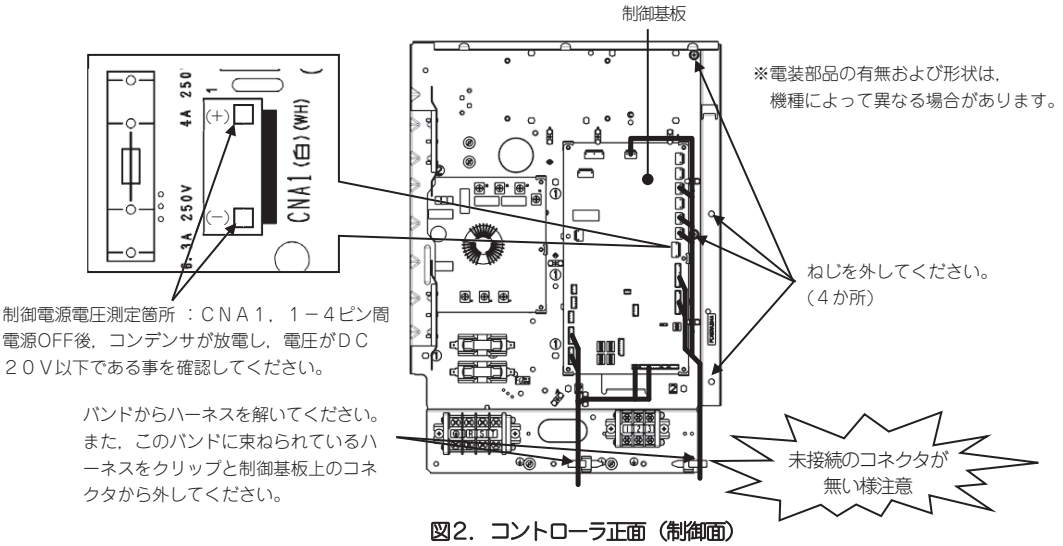


図2．コントローラ正面（制御面）

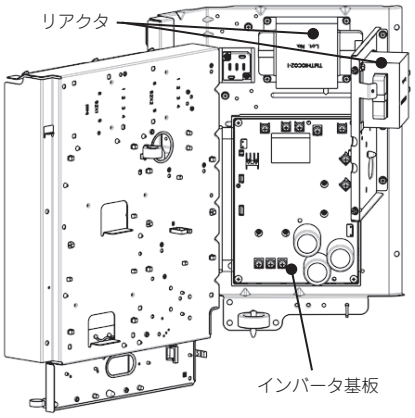


図3．制御面を開き，インバータ基板が見える状態

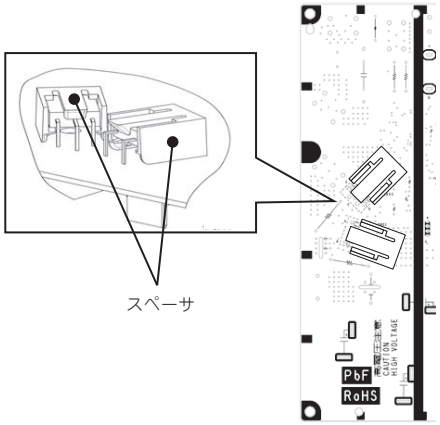


図5．インバータ基板裏側（半田面側）

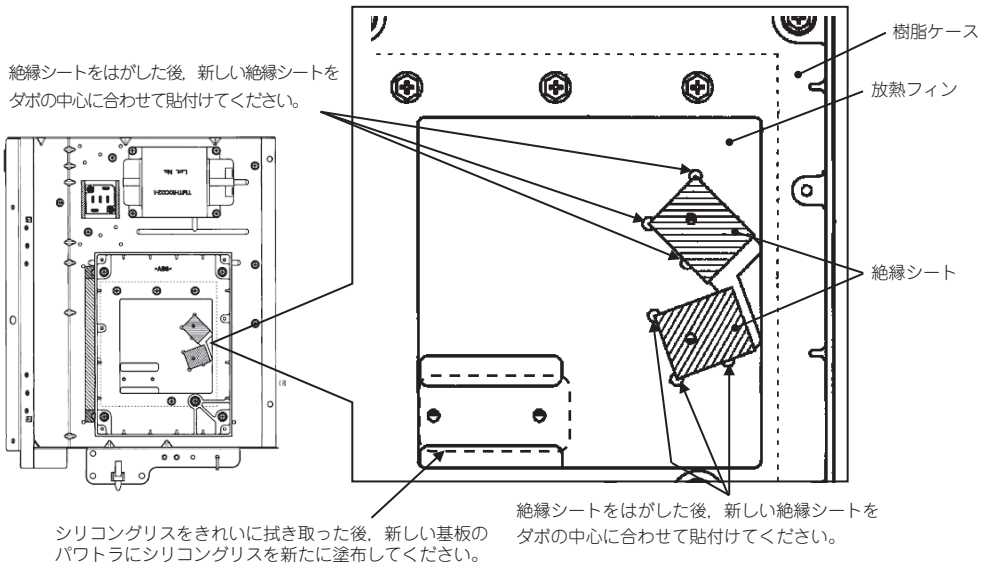


図4．インバータ基板を取外した状態

名称	記号	締付順序	締付位置	締付トルク	備考
パワトラ	IC2	1	Ⓐ	0.16~0.23 N・m	仮締め
		2	Ⓑ		
		3	Ⓐ	0.59~0.78 N・m	本締め
		4	Ⓑ		
トランジスタ	Q802	-	-	0.6~0.8 N・m	-
ダイオード	D801	-	-	0.39~0.59 N・m	-

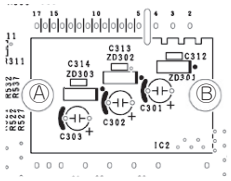


図6．推奨締付トルクおよびパワトラ（ＩＣ２）締付位置

PCA012D065

(b) **FDCKP1405H, 1605H**

(i) 制御基板

下記の要領で制御基板の交換を行ってください。

1) 交換作業は，**電源を切って３分後**に実施してください。
2) コネクタ（CNA1）の両極を測定し，**電解コンデンサに充電されたＤＣ電圧が十分に放電した**事を確認してください。（図2参照）
3) 制御基板のコネクタを外してください。（図1.部品配置図を参照してください。）
4) 基板上のCT1に通している白色または青色の配線を外して,制御基板を交換してください。
5) 新しい基板の設定スイッチ（SW3,5,7,JSW1）の設定を交換前の基板に合わせてください。
6) 白色または青色の配線を,交換した基板上のCT1に通してねじを締めてください。
7) コネクタを交換前と同じ場所に接続してください。（接続後，**半挿しが無い様**確認してください。）

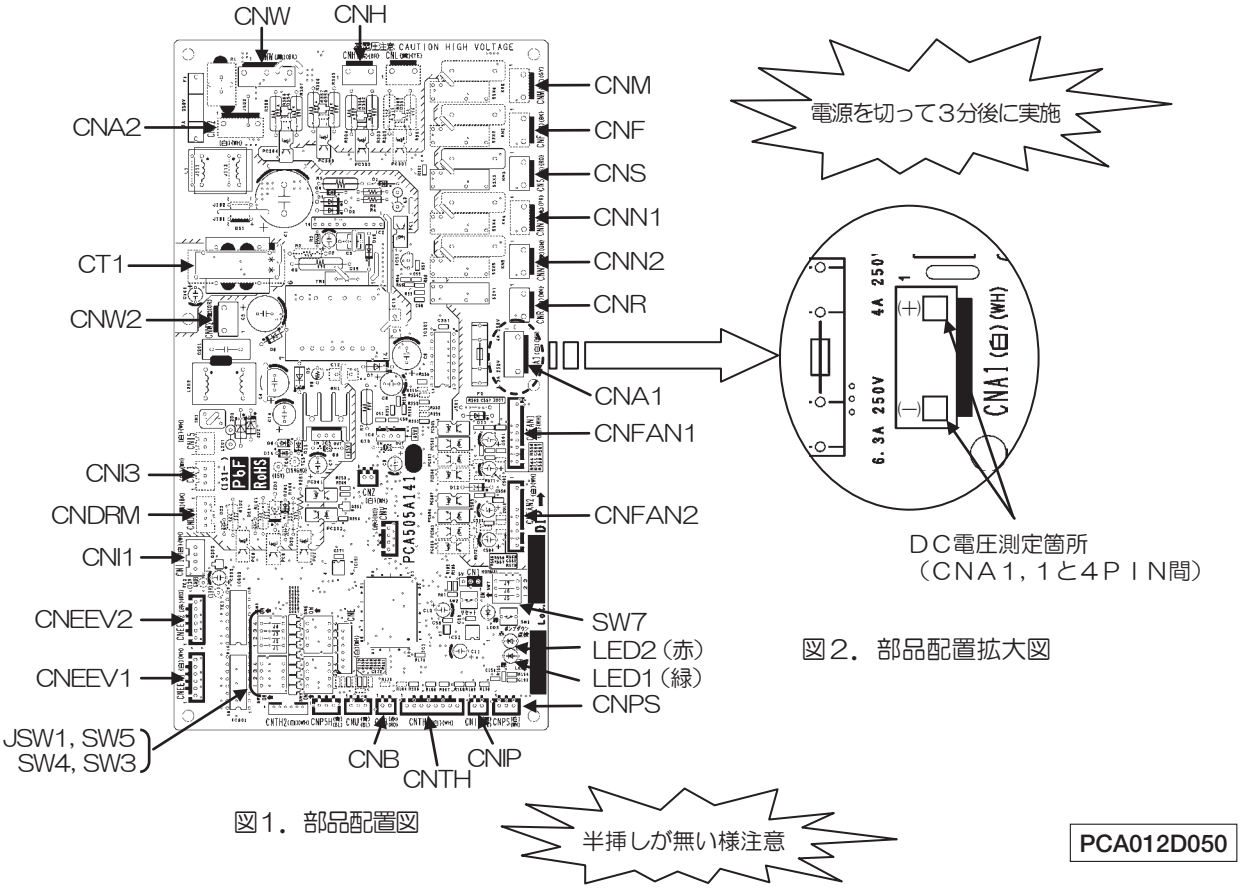


図１．部品配置図

図２．部品配置拡大図

(ii) インバータ基板

下記の要領でインバータ基板（図１）の交換を行ってください。インバータ基板搭載箇所は図４を参照してください。

1) 交換作業は，**電源を切って３分後**に実施してください。
（ 電源OFF直後はコンデンサが放電されておらず，高電圧状態で危険なため，コントローラを触らないでください。）
2) ハーネスが接続されている状態で，図２に示す箇所**（２種類：（A）制御電源，（B）インバータ電源）のＤＣ電源電圧を測定し，２０Ｖ以下（コンデンサ放電後の電圧）である**ことを確認してください。
3) 図3に示すようにハーネスを制御基板上のコネクタから外し，指定のねじ（４箇所）を外してください。
4) 図4のように制御面を開き，対象基板（インバータ基板）に接続されたコネクタ（図１参照），スナバコンデンサ（図4参照），ハーネス（P，N，U，V，W線）を外し，対象基板（インバータ基板）を交換してください。
制御面を開けている際は，上から力を加えないでください。製品の変形やけがの原因になります。
5) 新しいインバータ基板のスイッチ（ＪＳＷ１０，１１）のＯＮ／ＯＦＦ設定を交換前の基板に合わせてください。
6) 基板交換後，図5のようにパワートランジスタへスナバコンデンサを取付け, コネクタやハーネス等を全て元の状態に戻してください。（コネクタ接続後，**半挿しが無い様**確認してください。）
制御面を閉じる際に配線の噛込みがないように注意してください。配線が損傷し，ショートや火災の原因となります。

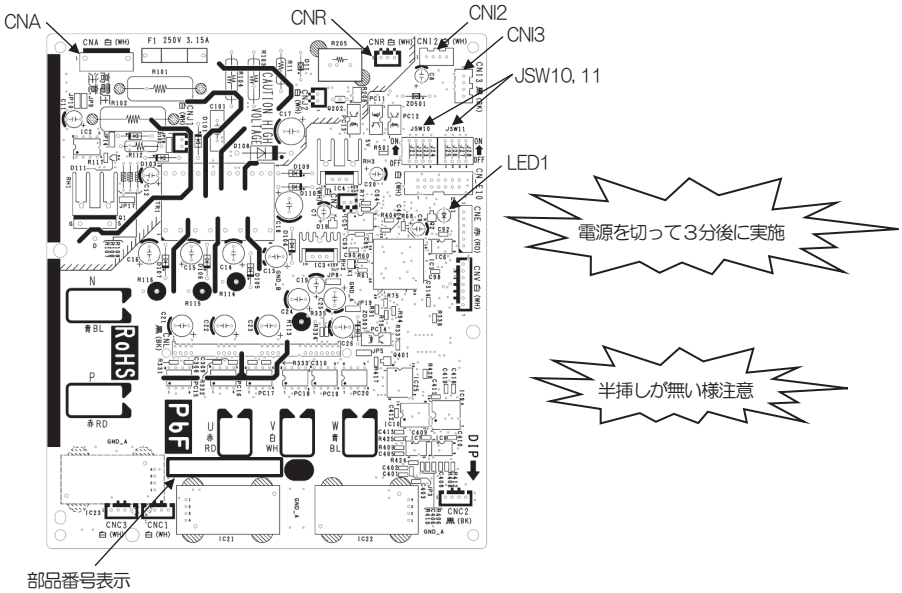
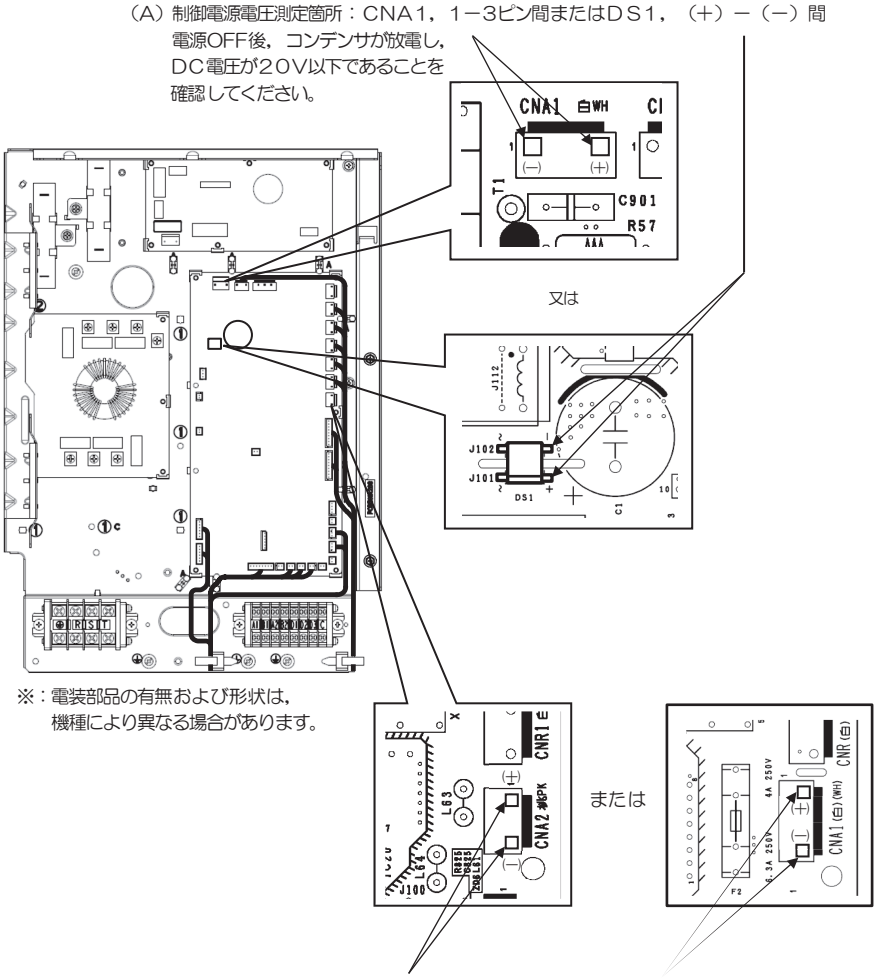


図1．対象基板（インバータ基板）の部品配置図



（B）インバータ電源電圧測定箇所：CNA2，1－3ピン間またはCNA1，1－4ピン間
電源OFF後，DC電圧が20V以下であることを確認してください。

図2．電圧測定箇所

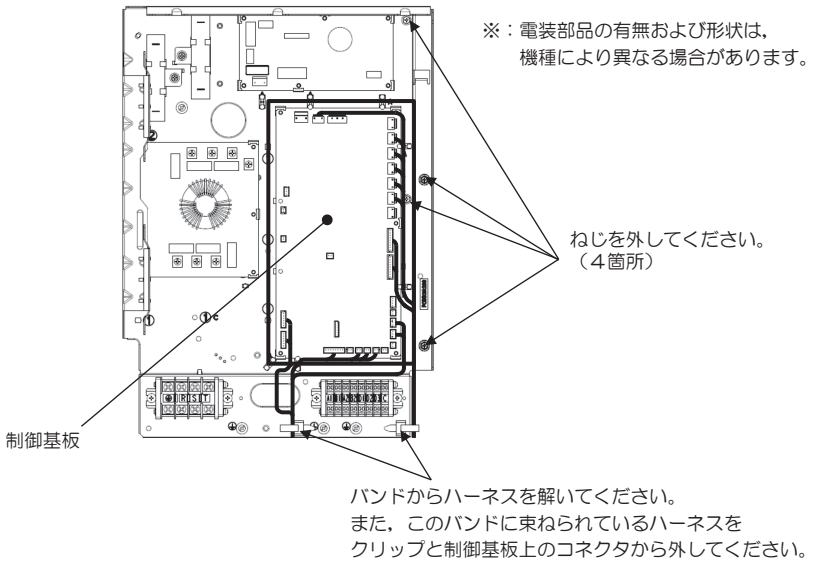


図３．取外し箇所

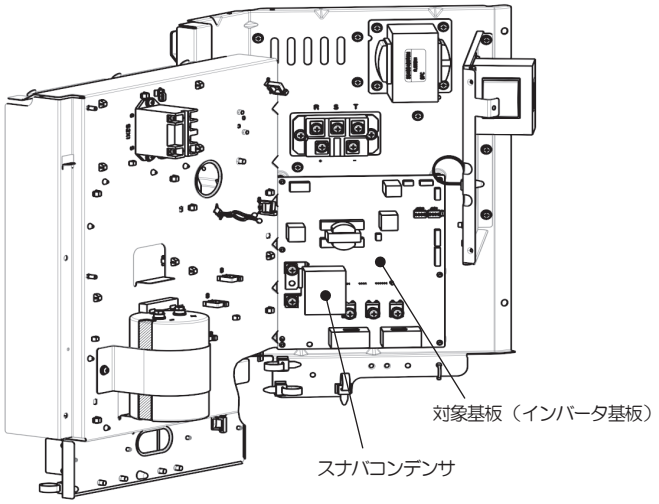
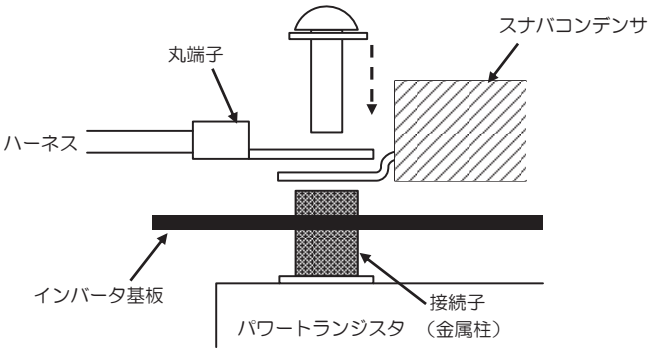


図４．制御面を開き，対象基板が見える状態



ハーネスとスナバコンデンサをパワートランジスタにねじ止めする場合は，図の様に予め，接続子（金属柱）をインバータ基板の「P」，「N」，「U」，「V」，「W」の各穴にセットし，ハーネスとスナバコンデンサを，接続子を介して共締めすること。
（「U」，「W」へねじ止めするハーネスはＩＣ２１，２２に通した後各穴にセットすること。）
（スナバコンデンサは「P」，「N」に接続すること。）

図5．パワートランジスタへのハーネスとスナバコンデンサ取付方法

PCB012D057 C

(3) 室外ユニットディップスイッチ設定表

(a) FDCKP805H, 1125H

(i) 制御基板

スイッチ	項目		出荷時	内容	
				OFF	ON
SW1	ポンプダウン制御	通常/ポンプダウン	OFF	通常	ポンプダウン
JSW1-1(J1)	機種切換	機種容量	表1参照		
JSW1-2(J2)	機種切換				
JSW1-3(J3)	機種切換				
JSW1-4(J4)	機種切換	ヒーポン/冷専		ヒーポン	冷専
SW3-1	デフロスト制御切換	通常/寒冷地	OFF	通常	寒冷地
SW3-2	防雪ファン制御	無効/有効	ON	無効	有効
SW3-3	試運転	無効/有効	OFF	無効	試運転
SW3-4	冷房/暖房試運転切換	冷房/暖房	OFF	冷房試運転	暖房試運転
SW4-1	機種切換	国内/輸出	表1参照	国内	輸出
SW4-2	機種切換	三相/単相		三相	単相
SW4-3	—	—	OFF	—	—
SW4-4	機種切換	ハイパー/エクシード	表1参照	ハイパー	エクシード
SW5-1	既設配管流用	通常/既設配管	OFF	通常	既設配管
SW5-2	既設配管洗浄運転	通常/洗浄運転	OFF	通常	洗浄運転
SW5-3	—	—	OFF	—	—
SW5-4	—	—	OFF	—	—
SW7-1(J5)	長配管対応	通常/長配管	OFF	通常	長配管
SW7-2(J6)	—	—	OFF	—	—
SW7-3(J7)	サイレントモード切換	通常/騒音規制対応	OFF	通常	騒音規制対応

(ii) インバータ基板

スイッチ	KP805H	KP1125H
JSW10-1	OFF	OFF
JSW10-2	ON	ON
JSW10-3	OFF	OFF
JSW10-4	OFF	OFF
JSW11-1	ON	ON
JSW11-2	OFF	OFF
JSW11-3	OFF	OFF
JSW11-4	OFF	OFF

表1：室外ユニット機種切換

スイッチ	KP805H	KP1125H
JSW1-1	OFF	OFF
JSW1-2	ON	ON
JSW1-3	OFF	OFF
JSW1-4	OFF	OFF
SW4-1	OFF	OFF
SW4-2	OFF	OFF
SW4-4	OFF	OFF

(b) FDCKP1405H, 1605H

(i) 制御基板

スイッチ	項目		出荷時	内容	
				OFF	ON
SW1	ポンプダウン制御	通常/ポンプダウン	OFF	通常	ポンプダウン
JSW1-1(J1)	機種切換	機種容量	表1参照		
JSW1-2(J2)	機種切換				
JSW1-3(J3)	機種切換				
JSW1-4(J4)	機種切換	ヒーポン/冷専		ヒーポン	冷専
SW3-1	デフロスト制御切換	通常/寒冷地	OFF	通常	寒冷地
SW3-2	防雪ファン制御	無効/有効	ON	無効	有効
SW3-3	試運転	無効/有効	OFF	通常	試運転
SW3-4	冷房/暖房試運転切換	冷房/暖房	OFF	冷房試運転	暖房試運転
SW4-1	機種切換	国内/輸出	表1参照	国内	輸出
SW4-2	機種切換	三相/単相		三相	単相
SW4-3	—	—	OFF	—	—
SW4-4	機種切換	標準/ハイパー	表1参照	標準	ハイパー
SW5-1	既設配管流用	通常/既設配管	OFF	通常	既設配管
SW5-2	既設配管洗浄運転	通常/洗浄運転	OFF	通常	洗浄運転
SW5-3	—	—	OFF	—	—
SW5-4	—	—	OFF	—	—
SW7-1(J5)	アンチフロスト制御	無効/有効	ON	無効	有効
SW7-2(J6)	—	—	ON	—	—
SW7-3(J7)	サイレントモード切換	通常/騒音規制対応	ON	通常	騒音規制対応

(ii) インバータ基板

スイッチ	KP1405H	KP1605H
JSW10-1	OFF	OFF
JSW10-2	ON	ON
JSW10-3	OFF	OFF
JSW10-4	OFF	OFF
JSW11-1	ON	ON
JSW11-2	OFF	OFF
JSW11-3	ON	ON
JSW11-4	OFF	OFF

表1：室外ユニット機種切換

スイッチ	KP1405H	KP1605H
JSW1-1	ON	ON
JSW1-2	ON	ON
JSW1-3	OFF	OFF
JSW1-4	OFF	OFF
SW4-1	OFF	OFF
SW4-2	OFF	OFF
SW4-4	ON	ON

15.5 リモコンによる異常運転データの確認

異常発生時の運転データを記憶し，リモコンから異常運転データの確認ができます。

(1) RC-DX3Bリモコンの場合

［操作手順］

①TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「サービス･メンテナンス」→「サービスパスワード入力」→ 「点検表示」→「異常時運転データ表示」の順に選択します。

②リモコンに接続されている室内ユニットが１台の場合は，以下の表示となります。

1). 異常がある場合：「データ読込み中」の後，異常時の運転データが表示されます。

表示内容

・異常コード

・番号およびデータ項目

2). 異常がない場合：「異常なし」を表示し，本モードを終了します。

③リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は，以下の表示となります。

1). 異常がある場合：「室内機選択」画面で対象室内ユニットを選択→「データ読込み中」の後，異常時の運転データが表示されます。

表示内容

・室内機 No.

・異常コード

・番号およびデータ項目

2). 異常がない場合：「異常なし」を表示し，本モードを終了します。

注(1)「室内機選択」画面で接続台数が１ページを超える場合は，「次ページ」を選択してください。

④ 運転／停止 ボタンを押すと，TOP画面に戻ります。

◎設定の途中で，「戻る」をタッチすると，一回前の設定画面に戻ります。

注(1) 異常運転データの確認は，リモコン2台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

■異常運転データ(機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。)

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
05	室内熱交温度(Thl-R1)
06	室内熱交温度(Thl-R2)
07	室内熱交温度(Thl-R3)
08	室内ファン速調
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
13	吹出温度
21	外気温度
22	室外熱交温度(Tho-R1)
23	室外熱交温度(Tho-R2)
24	圧縮機周波数
25	高圧
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT電流
30	SH制御値
31	実SH
32	実TDSH
33	圧縮機保護ステータスNo.
34	室外ファン速調
35	63H1ON／OFF
36	デフロスト ON／OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室外膨張弁開度(EEVC)
39	室外膨張弁開度(EEVH)

33 圧縮機保護ステータスNo.（左記異常運転データ）詳細

圧縮機回転数保護制御内容
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】
・解除時まで表示
・重複時は，表示データの一番若い番号を表示する。

【共通事項】
暖房時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“4”を表示する。
冷房･除湿時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“8”を表示する。

表 示 内 容	No.
正常	“0”
ＴＤ保護	“1”
ＴＤ異常	“2”
ＣＴセーフ	“3”
高圧保護	“4”
高圧異常	“5”
低圧保護	“6”
低圧異常	“7”
アンチフロストまたは露付き保護	“8”
カレントカット	“9”
パワトラ保護	“10”
パワトラ異常（過熱）	“11”
圧力比制御	“12”
出力カットオフ（ノイズ停止）	“13”
露付き保護	“14”
２次ＣＴセーフ	“15”
圧縮機ロック停止または脱調停止	“16”
起動不良停止	“17”
AF異常	“18”

■メンテナンスコード

コード	内容
M1	お掃除パネル異常
M9	ドレンポンプ過電流検知

(2) RC-D4Gリモコンの場合

［操作手順］

①点検ボタンを押します。表示が「運転データ表示▼」となります。

②▼ボタンを一度押して，「エラーデータ表示▲」に切換えます。

③セットボタンを押すと，異常運転データ表示モードに入ります。

④リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合は，以下の表示となります。

1). 異常履歴がある場合：エラーコードと「データ確認中」を表示します。

「例」「E8」（エラーコード）

「データ確認中」（データを読み込む間点滅表示）

続いて，データが表示されます。⑧へお進みください。

2). 異常履歴がない場合：「異常なし」を3秒間表示し，本モードを終了します。

⑤リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合は，以下の表示となります。

1). 異常履歴がある場合：接続されている室内ユニットの中で，最も小さい室内アドレス番号とその室内ユニットのエラーコードを表示します。

「例」「E8」「内000▲」（点滅）

2). 異常履歴がない場合：アドレス番号表示のみとなります。

⑥▲ ▼ボタンで，表示したい室内アドレスを選びます。

⑦セットにより確定します。（室内アドレスが点滅から点灯に変わります。）

「例」「E8」

「内000」（選択した室内アドレスを2秒間点灯）→「E8」

「データ確認中」（データを読み込む間点滅表示）続いて，データが表示されます。

異常履歴がない室内ユニットを撰択した場合は，「異常なし」を3秒間表示し，室内アドレス表示に戻ります。

⑧▲ ▼ボタンにより，異常運転データを確認できます。データ項目は下表をご覧ください。

注(1) 機種により該当するデータがないものは，その項目は表示されません。

⑨室内ユニットを変更する場合は，エアコンNo.ボタンを押すことにより，室内ユニット選択表示に戻ります。

⑩運転／停止ボタンを押すと，終了します。

◎設定の途中で，リセットボタンを押すと，一回前の設定画面に戻ります。

注(1) 異常運転データの確認は，リモコン2台で室内ユニットを運転する場合，親リモコンのみ操作可能です。（子リモコンからの操作はできません。）

■異常運転データ

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
05	室内熱交温度（Thi-R1）
06	室内熱交温度（Thi-R2）
07	室内熱交温度（Thi-R3）
08	室内ファン速調
09	要求周波数
10	アンサー周波数
11	室内膨張弁開度
12	室内運転積算時間
21	外気温度
22	室外熱交温度（Tho-R1）
23	室外熱交温度（Tho-R2）
24	圧縮機周波数
25	高圧
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドーム下温度
29	CT電流
30	SH制御値
31	実SH
32	実TDSH
33	圧縮機保護ステータスNo.
34	室外ファン速調
35	63H1 ON／OFF
36	デフロスト　ON／OFF
37	圧縮機運転積算時間
38	室外膨張弁開度（EEVC）
39	室外膨張弁開度（EEVH）

33 圧縮機保護ステータスNo.（左記異常運転データ）詳細

圧縮機回転数保護制御内容
異常検知制御内容

【リモコン運転データ表示】
・解除時まで表示
・重複時は，表示データの一番若い番号を表示する。

【共通事項】
暖房時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“4”を表示する。
冷房･除湿時：室内回転数ダウン信号による保護制御中の場合は“8”を表示する。

表示内容	No.
正常	“0”
ＴＤ保護	“1”
ＴＤ異常	“2”
ＣＴセーフ	“3”
高圧保護	“4”
高圧異常	“5”
低圧保護	“6”
低圧異常	“7”
アンチフロストまたは露付き保護	“8”
カレントカット	“9”
パワトラ保護	“10”
パワトラ異常（過熱）	“11”
圧力比制御	“12”
出力カットオフ（ノイズ停止）	“13”
露付き保護	“14”
２次ＣＴセーフ	“15”
圧縮機ロック停止または脱調停止	“16”
起動不良停止	“17”
AF異常	“18”

15.6 ワイヤレス仕様機の点検表示

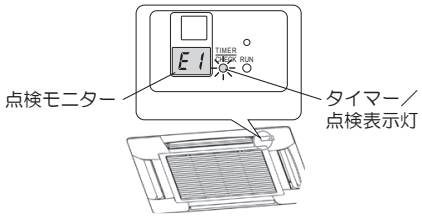
(1) 点検表示，フィルターサインについて

(a) タイマー/点検表示灯（黄色）が短点滅（0.5秒点灯，0.5秒消灯）したとき。
エアコンに異常が起きています。
タイマー／点検表示灯の点滅（0.5秒点灯，0.5秒消灯）と同時にエアコンは停止します。

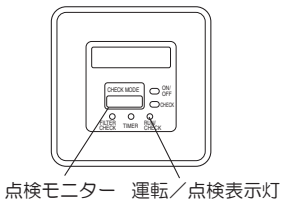
(i) FDT，FDR，FDU，FDE，FDFシリーズの場合

1) 本体の点検モニター部にアドレスNo.および点検コードが表示されます。
2) モニター表示は，表示時間が経過すると消灯します。
3) モニター部に表示がでていない場合は，リモコン操作またはバックアップスイッチを押してください。

• FDTシリーズ

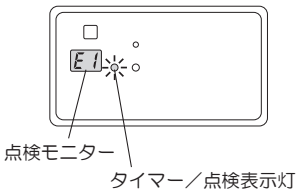


• FDR，FDU，FDFシリーズ（壁取付タイプ）



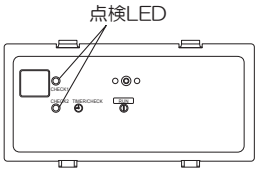
FDR，FDU，FDF の場合は運転 / 点検表示灯が赤色に点滅（0.5 秒点灯，0.5 秒消灯）します。

• FDEシリーズ



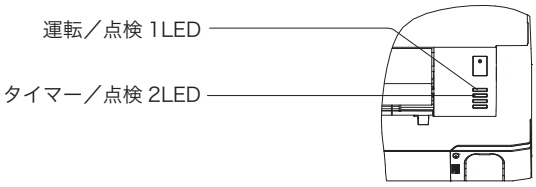
(ii) FDTWシリーズの場合

点検LED表示“CHECK1”／“CHECK２”LEDがエラーコードの“10の位”／“1の位”の数だけ点滅（10秒あたり）します。



(iii) FDKシリーズの場合

運転／点検1LED，タイマー／点検2LEDがエラーコードの“10の位”／“1の位”の数だけ点滅（10秒あたり）します。



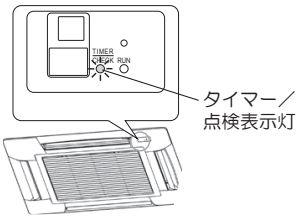
KP56, KP80

(b) **タイマー/点検表示灯（黄色）が長点滅（2秒点灯，1秒消灯）したとき。**
フィルタの掃除をしてください。

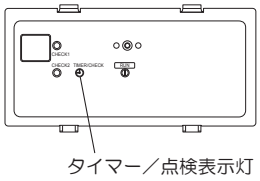
(i) 延べ運転時間が180時間になるとタイマー／点検表示灯が長点滅（2秒点灯，1秒消灯）します。

(ii) フィルタの掃除完了後，リモコンのフィルタボタンを押してリセットしてください。
（フィルタボタンは1秒以上押し続けてください）

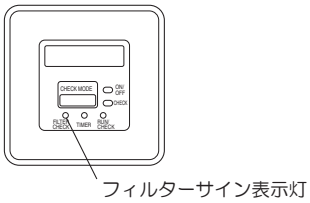
・FDTシリーズ



・FDTWシリーズ

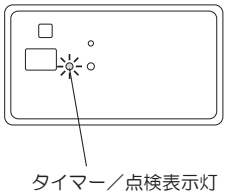


・FDR，FDU，FDFシリーズ（壁取付タイプ）

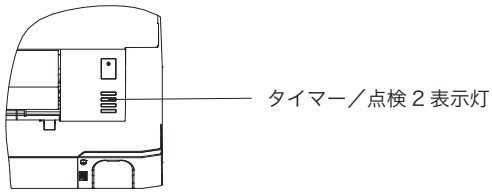


FDR，FDU，FDF の場合はフィルターサイン表示灯（赤色）が長点滅（2 秒点灯，1 秒消灯）します。

・FDEシリーズ



・FDKシリーズ



KP56, KP80

(2) バックアップスイッチの使い方

リモコンの電池切れ，紛失および故障時に本体表示部のバックアップスイッチで応急的にエアコンの運転／停止ができます。

■設定内容
運転モード……自動　　風量切換……急
タイマー……連続　　設定温度……23℃
オートスイング…停止（水平）

運転／停止

■バックアップスイッチを押してから2秒以内にスイッチから手を離してください。
運転を開始します。

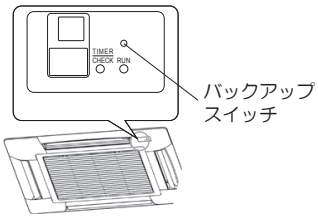
■もう一度押すと停止します。

吸込グリルの収納

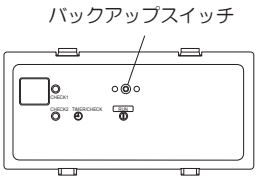
（グリル自動昇降付を使用の場合）

■バックアップスイッチを押してから2秒以降にスイッチから手を離してください。
吸込グリルが上昇し，エアコン本体に収納されます。

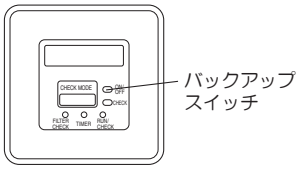
・FDTシリーズ



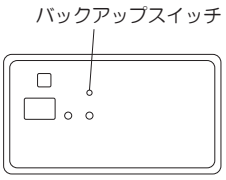
・FDTWシリーズ



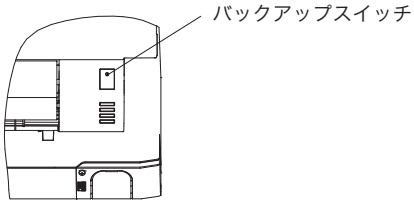
・FDR，FDU，FDFシリーズ（壁取付タイプ）



・FDEシリーズ

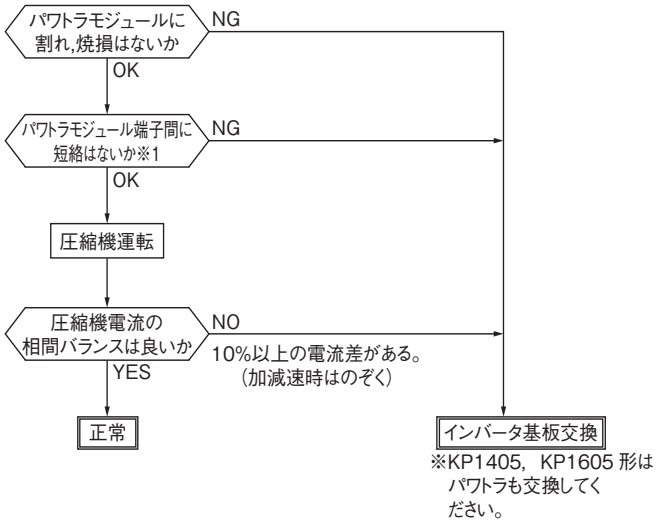


・FDKシリーズ



KP56, KP80

15.7 パワトラモジュール（含むドライブ回路）点検方法



※1　パワトラモジュール端子短絡点検要領

圧縮機の配線を外し，テスタで短絡チェックをしてください。
P-U, P-V, P-W
N-U, N-V, N-W
P-N 端子間を点検
各端子は下記の場所がテスタを当てやすいです。
P　：パワトラ P 端子
N　：パワトラ N 端子
U　：圧縮機への赤ハーネス先端
V　：圧縮機への白ハーネス先端
W　：圧縮機への黒または青ハーネス先端

パワトラ短絡確認

インバータ不良判定用診断チェッカを持っていないとき，パワトラ部品の端子間を測定しパワトラ不良かどううか診断する。

テスタ		正常な値（Ω）	
端子(＋)	端子(－)	FDCKP805H, 1125H	FDCKP1405H, 1605H
P	N	約1M 約300～400	数＋M
N	P		数M
P	U	0	数＋M
P	V		数＋M
P	W		数＋M
N	U	約1.2M	数百k
N	V		数百k
N	W		数百k
U	P	約1.3M	数百k
V	P		数百k
W	P		数百k
U	N	0	数＋M
V	M		数＋M
W	M		数＋M

測定値が0～数kΩの場合は，素子が破損している可能性があるのでパワトラ部品を交換してください。

※2 **インバータ不良判定用診断チェッカ**

◆チェック要領

(1) チェッカのセット手順

(a) 電源をOFFにします。(ブレーカOFF)

(b) 圧縮機のターミナルカバーを外して接続線(U, V, W)を外します。

(c) チェッカの配線(U：赤, V：白, W：黒)を外した接続配線端子部に接続します。

(2) 判定運転方法

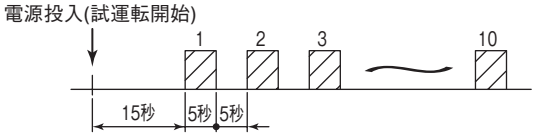
(a) 室外インバータ基板のスイッチJSW10-4をONし電源を投入します。

(b) 電源投入15秒後, LEDが5秒間点滅/消灯を10回繰り返します。

(c) 6個のLEDの点滅状態を確認します。

(d) LEDの点滅状態により判定

LEDの点滅状態	6個のLEDが同じ点滅をした場合	6個のLEDが消灯または数個のLED点滅の場合
インバータ	正常	不良

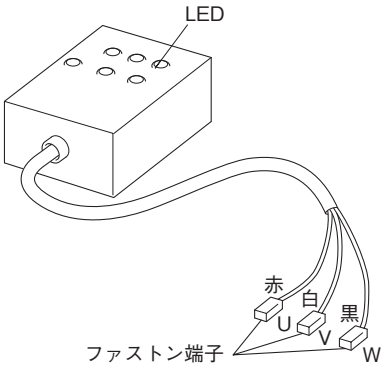


注(1) ▨ 部の動作区間は下図のLED点滅パターンを繰り返します。

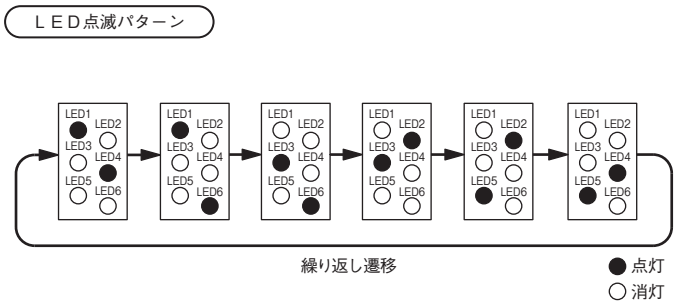
(e) **作業終了後は,インバータ基板のスイッチJSW10-4をかならず0FFしてください。**

■インバータ不良判定用診断チェッカ

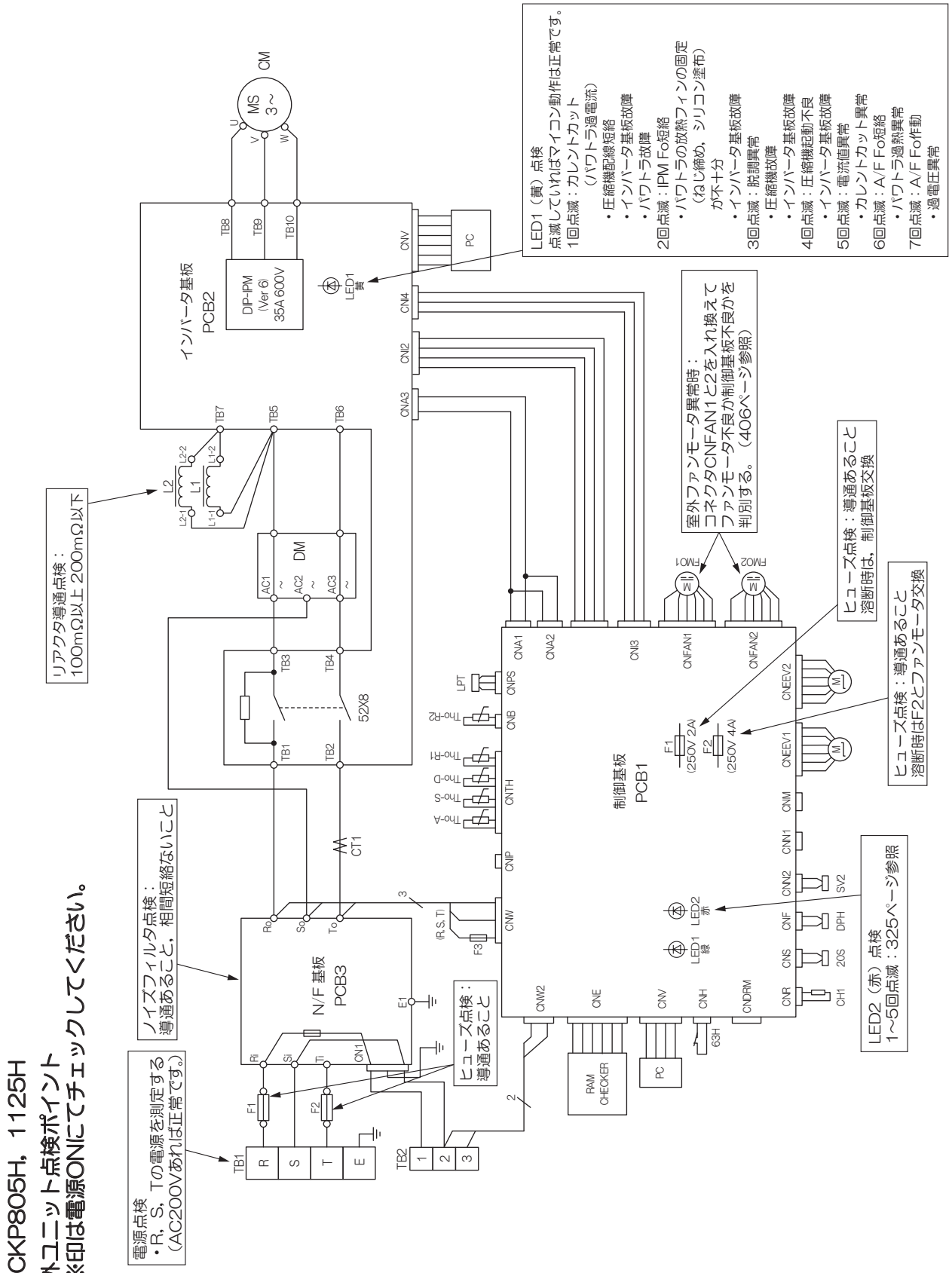
品番	SA01927	重工冷熱扱



圧縮機接続配線端子と接続する。

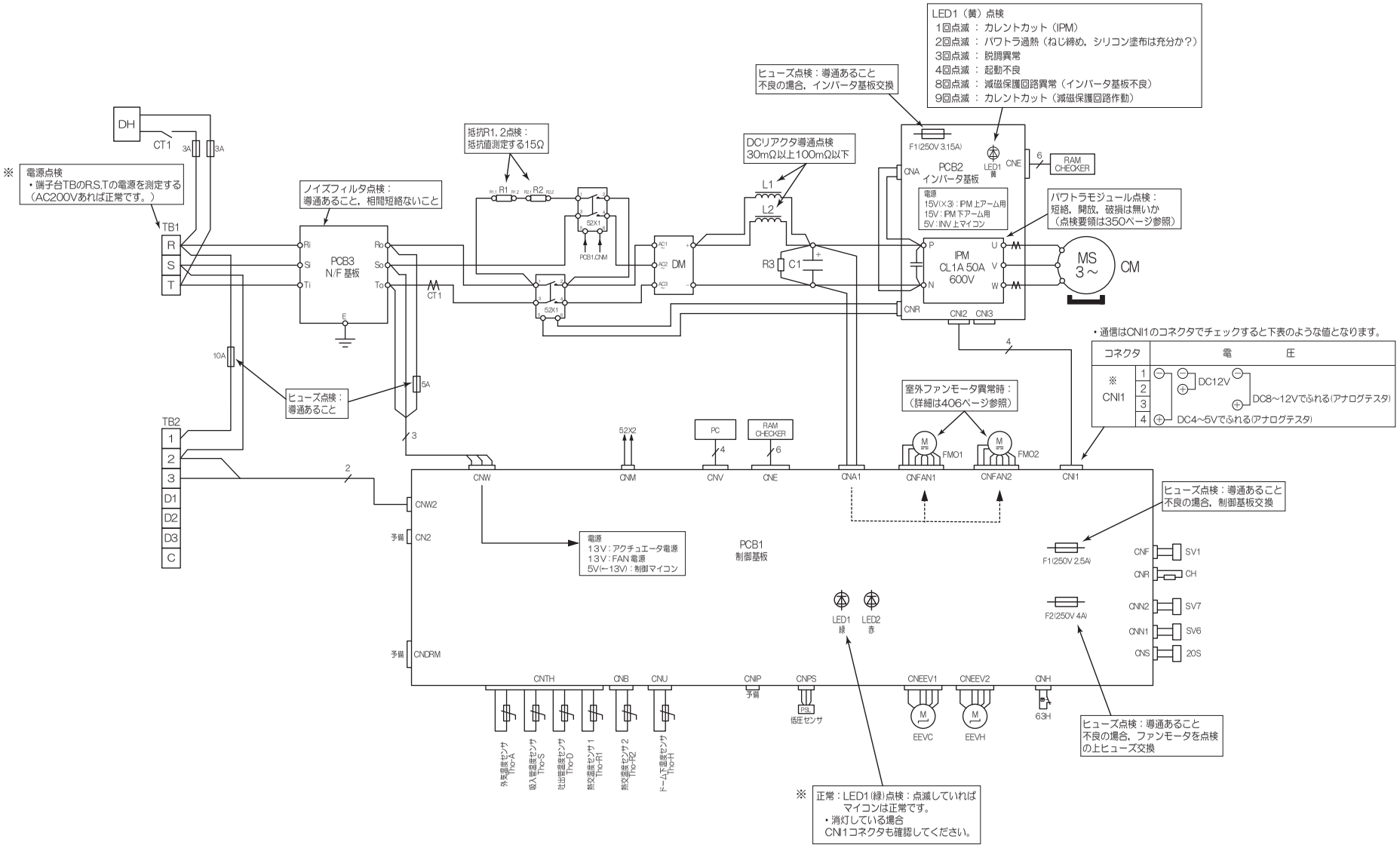


15.8 室内コントロー故障診断回路図



◆FDCKP1405H，1605H

★室外ユニット点検ポイント
▷※印は電源ONにてチェックしてください。



15.9 故障診断フロー

(1) 故障内容一覧

リモコン表示	故障内容	記載ページ
なし	運転するが, 冷えない	355
なし	運転するが, 暖まらない	356
なし	漏電ブレーカ作動	357
なし	音･振動が非常に大きい(その 1)	358
なし	音･振動が非常に大きい(その 2)	359
なし	音･振動が非常に大きい(その 3)	360
なし	ルーバーモータが回らない	361
なし	電源系統異常(室内･外基板への電源供給)	362・363
なし	電源系統異常(リモコンへの電源供給)	364
なし	ラクリーナパネルが動かない	365
内機確認中	室内機点検表示(リモコン1台接続または2台接続時)	366
内機確認中	室内機点検表示(リモコン3台以上接続)	367
内機確認中	内機確認中(FDCKP805, 1125形)	368
内機確認中	内機確認中(FDCKP1405, 1605形)	369・371
無表示	無表示	372
E1	リモコン通信回路不良	373
E5	運転中に室内外通信異常	374・375
E6	室内熱交温度センサ不良	376
E7	吸込温度センサ不良	377
E8	暖房過負荷運転	378
E9	ドレン不良	379
E10	1リモコン複数台制御時接続台数オーバー(17台以上)	380
E11	リモコン通信アドレス設定不良	381
E14	親子室内ユニット間通信異常	382
E16	室内ファンモータ不良	383・384
E19	運転モード設定不良	385
E20	室内ファンモータ回転不良	386・387
E21	ラクリーナパネル収納不良・パネルスイッチ動作不良（FDT シリーズ）	388
E23	冷媒漏洩検知(FDFシリーズ)	389
E28	リモコン温度センサ不良	390
E34	電源欠相	391・392
E35	冷房過負荷運転	393
E36	吐出管温度異常	394
E37	室外熱交温度センサ不良	395
E38	外気温度センサ不良	396
E39	吐出管温度センサ不良	397
E40	63H1作動	398
E41	パワートランジスタ電源電圧低下(FDCKP805, 1125形)	399
E41	パワートランジスタ過熱(FDCKP1405, 1605形)	400
E42	カレントカット(その 1，2)	401・402
E45	インバータ通信異常	403・404
E47	AF 異常(FDCKP805, 1125形)	405
E48	室外ファンモータ不良	406
E49	低圧圧力異常または低圧圧力センサ不良	407・408
E51	インバータ･室外ファンモータ異常	409
E53	吸入管温度センサ不良	410
E54	低圧圧力センサ不良	411
E55	ドーム下温度センサ不良(FDCKP1405, 1605形)	412
E57	冷媒量不足または操作弁閉検出	413
E58	圧縮機脱調異常(FDCKP805, 1125形)	414
E59	圧縮機起動異常	415・416
冷媒センサーが故障しています	冷媒センサ故障(FDFシリーズ)	417
冷媒センサーが外れています	冷媒センサ外れ(FDFシリーズ)	418

(2) 故障診断

表示
リモコン：なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容
運転するが，冷えない

1. 対象機種

全機種

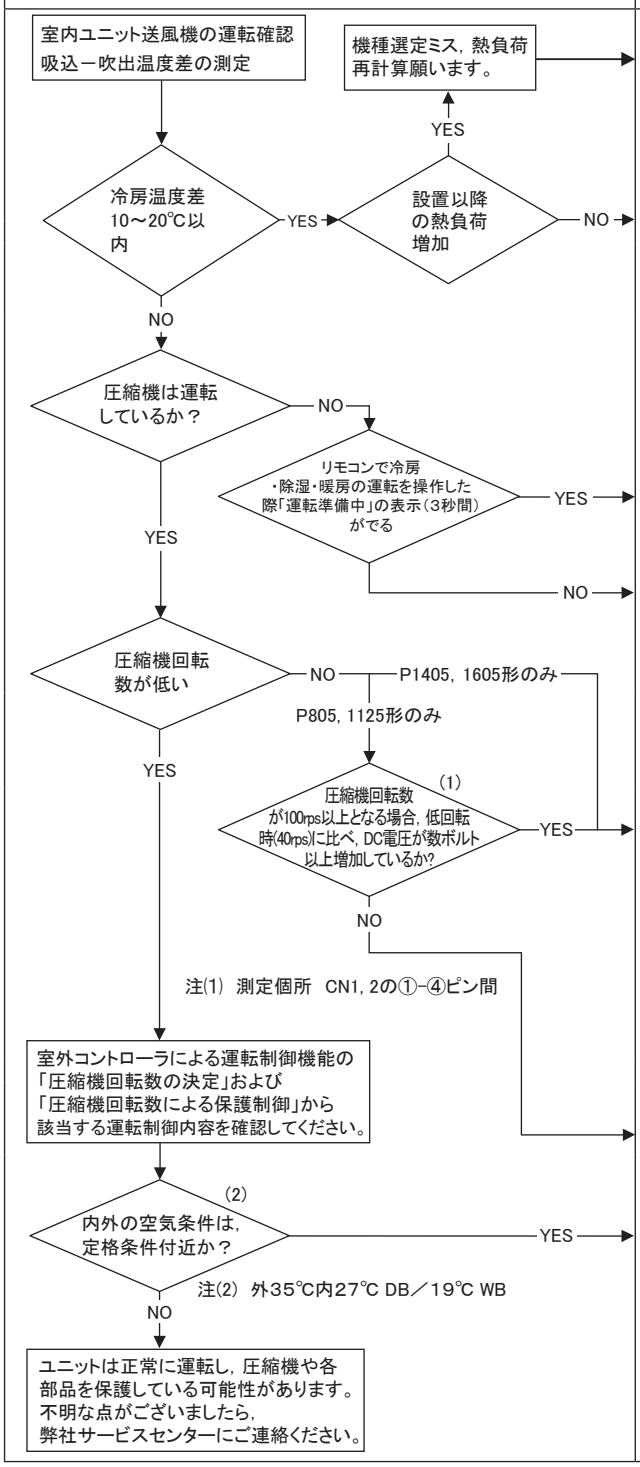
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良
・インバータ不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン：なし	LED	緑	赤	内容 運転するが，暖まらない
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

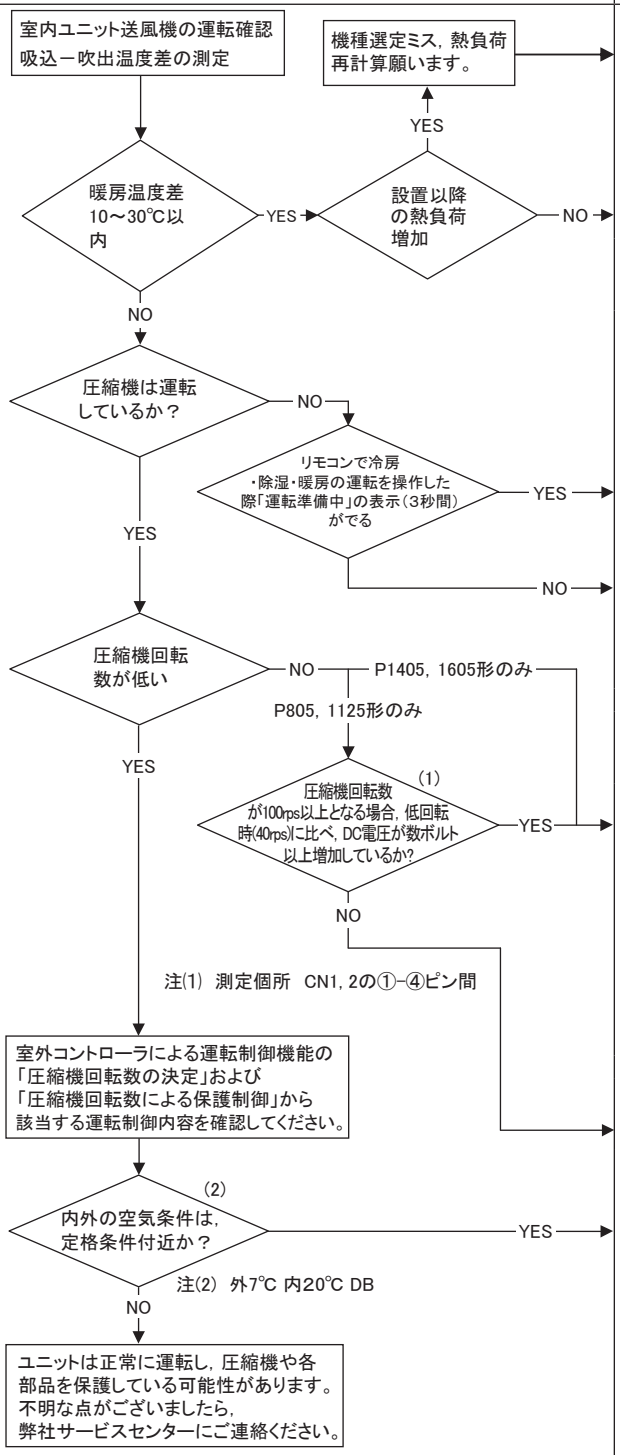
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・四方切換弁動作不良
・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良
・インバータ不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容
	室内	消灯	消灯	漏電ブレーカ作動
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・圧縮機不良
・ノイズ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
圧縮機の絶縁抵抗,端子間抵抗(1)OK?	
NO →	圧縮機交換※
注(1) P805,1125形:0.448Ω(20℃) P1405,1605形:0.0960Ω(20℃)	
YES ↓	
各ハーネス類は絶縁が確保されているか?板金などの噛み込みはないか?	
NO →	絶縁抵抗確保
YES ↓	
室外アース線／漏電しゃ断器チェック	

室外アース線／漏電しゃ断器チェック

①アース線は,室外ユニットのアースねじ部から配電盤のアース端子まで, 単独の線で工事してください。(他のアース線との接続はしないでください)
②漏電しゃ断器自体の誤作動を防止するため,高調波対応品であるか確認してください。

※圧縮機の絶縁抵抗について
●据付直後, もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合, 圧縮機に冷媒が溜まることにより,絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく,漏電ブレーカが作動する場合は,以下の事項を確認ください。
①電源を投入し,6時間程度経過後,絶縁抵抗が復帰するか確認する。
電源を投入することにより,圧縮機に通電加熱を行い,圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
②漏電ブレーカが高調波対応品であるか確認する。
本機はインバータを装備しており,漏電ブレーカの誤動作を防止するため,高調波対応品を使用してください。

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その1）
	室内	―	―	
	室外	―	―	

1．対象機種

全機種

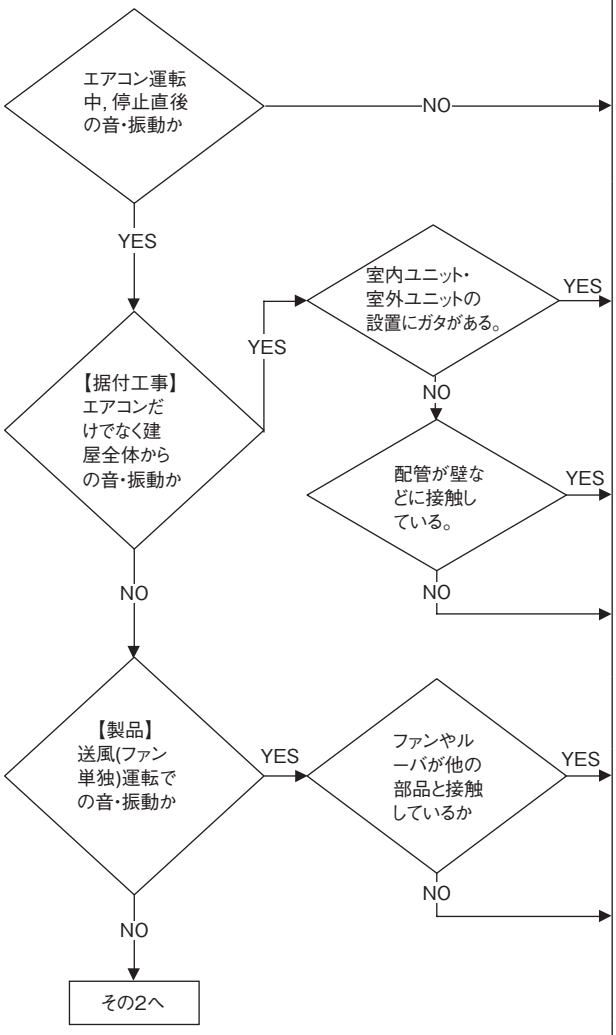
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

①据付工事不良
・設置時の防振対策不良
・取付面の強度不足
②製品不良
・工場出荷前／後不良
③運転調整不良
・冷媒の過多／不足など

5．故障診断と処置



診　断	処　置
エアコン運転中，停止直後の音・振動か → NO	停止後充分時間経過して音・振動が大きい場合エアコンが原因ではないと考えられます。
【据付工事】エアコンだけでなく建屋全体からの音・振動か → YES → 室内ユニット・室外ユニットの設置にガタがある。 → YES	設置状態をよく見て設置状態を修正したりゴムなどのクッション材を入れるなどしてガタをなくしてください。
室内ユニット・室外ユニットの設置にガタがある。 → NO → 配管が壁などに接触している。 → YES	配管を壁などの面に固定したり，壁穴に通す場合ゴムなどのクッション材を配管の周囲に巻いて配管の振動が伝達されないようにしてください。
配管が壁などに接触している。 → NO	天井面，壁面，床面など強度不足の可能性が考えられます。設置場所の見直し，または強度アップのための補強を立ててください。
【製品】送風(ファン単独)運転での音・振動か → YES → ファンやルーバが他の部品と接触しているか → YES	ユニットの傾き設置，ファンやルーバ，モータの取付け異常を確認して接触原因を特定したあと修正してください。
ファンやルーバが他の部品と接触しているか → NO	熱交やフィルタに目詰りがある場合は清掃してください。 また，ファンやモータの回転に伴ってブーン，リーン，ウオンウオンといった音色の音・振動を発生する場合がありますが異常ではありません。 （耐え難い大きさの場合弊社にご相談ください。）
【製品】送風(ファン単独)運転での音・振動か → NO → その2へ	

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その2）
	室内	ー	ー	
	室外	ー	ー	

1. 対象機種

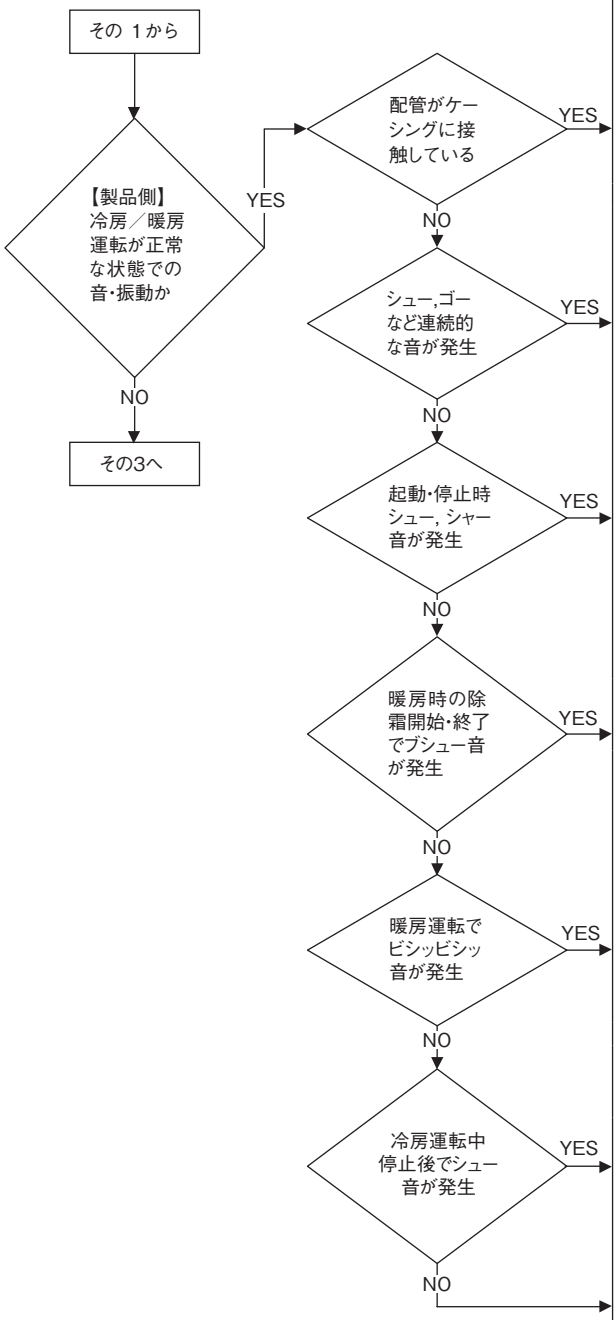
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その3）
	室内	―	―	
	室外	―	―	

1．対象機種

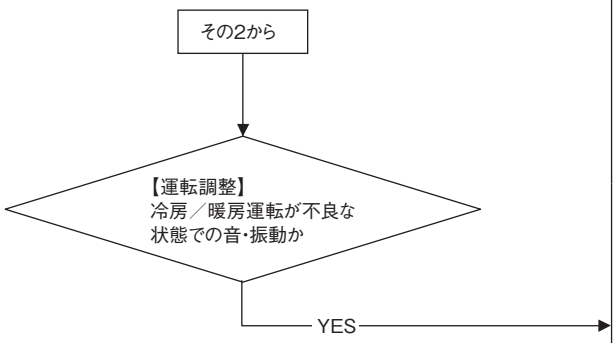
全機種

2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	冷房／暖房運転で温度が適正でない不良な状態の場合，以下の懸念があります。 ・冷媒の過多充填 ・冷媒の不足充填 ・空気，窒素などの混入 このため，冷媒回収、真空乾燥，冷媒再充填を実施してください。 ※音・振動はさまざまなことが原因となって発生するため，上記の内容に当てはまらない場合があると思われます。 その場合，以下の点を確認・メモした後弊社にご相談願います。 ・室内／室外ユニット ・冷房／暖房／送風 ・起動／停止／運転中 ・運転状態 （室内外温度，圧力） ・発生時間 ・圧縮機回転数，熱交センサ温度，電子膨張弁開度等のリモコンによる運転データ ・音色 ・その他気付き事項

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 ルーバモータが回らない
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

オートスイング機能付機種のみ

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ルーバモータ
・ルーバモータ配線断線
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
▲室内ユニット側で点検してください。 1分以上経過してから操作してください。 電源投入時ルーバが動作するか NO → ルーバモータ配線は断線しているか YES → 配線修理 NO → ルーバモータはロックしているか NO → 室内制御基板不良→交換 YES → ルーバモータ交換 YES → リモコンでルーバモータは動作するか YES → 正常 NO → ルーバモータ交換（ルーバモータを交換しても異常が出る場合には，室内制御基板を交換してください。）	

注記：

表示 リモコン： なし	LED	緑	赤	内容	電源系統異常 （室内・外基板への電源供給）
	室内	消灯	消灯		
	室外	－	2回点滅		

1．対象機種

FDT，FDKシリーズのみ

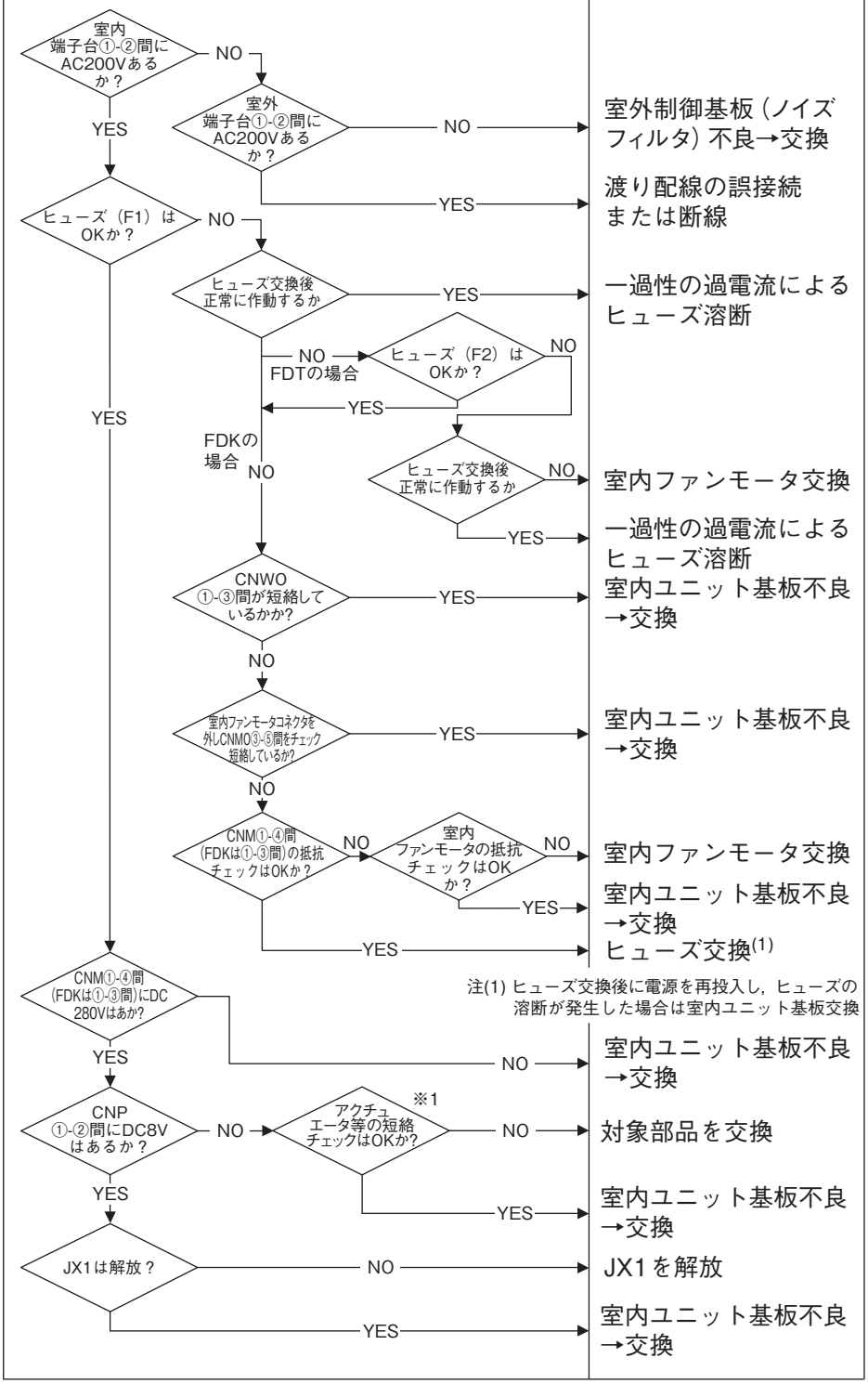
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

- 渡り配線の誤接続または断線
- ヒューズの断線
- 室内ファンモータ不良
- 室外制御基板不良
- 室内ユニット基板不良
- アクチュエータ等不良

5．故障診断と処置



注記：※1 CNWO, CNW3を除くコネクタを，一個ずつ外していき電源投入後にCNP①-②間にDC8Vがあるか確認。
・YES：コネクタを外しても，CNP①-④間にDC8Vがない。
・NO ：コネクタを外しても，CNP①-④間にDC8Vがある。

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容	電源系統異常 （室内・外基板への電源供給）
	室内	消灯	消灯		
	室外	ー	2回点滅		

1．対象機種

FDT，FDK シリーズ以外の機種

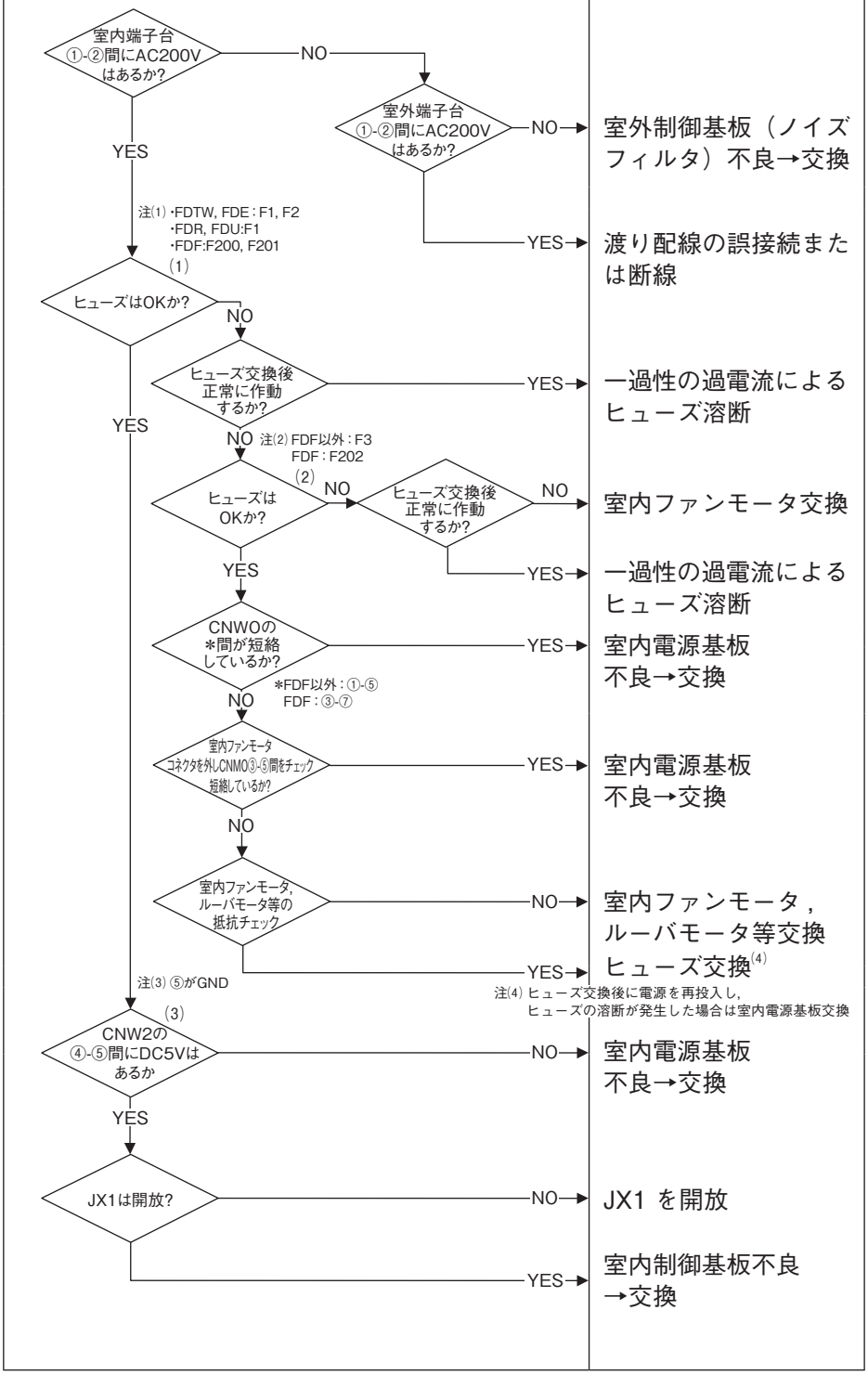
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

- 渡り配線の誤接続または断線
- ヒューズの断線
- 室内ファンモータ，ルーバモータ不良
- 室内電源基板不良
- ハーネス断線
- 室内制御基板不良
- 室外制御基板（ノイズフィルタ）不良
- トランスの不良

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容	電源系統異常 （リモコンへの電源供給）
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	2回点滅		

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・ノイズ誤動作
・ハーネス断線
・室内制御基板不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
リモコン配線 接続チェックOK? X（シロ），Y（クロ） NO →	修正
YES → 室内端子台 X-Y間に電圧DC15V 以上はあるか? NO → リモコン線を はずす	
YES → 電源リセット → 電源リセットで 正常に戻るか? NO →	リモコン線断線？ リモコン不良→交換
YES → 室内端子台 X-Y間の電圧を再計測しDC15V 以上はあるか? NO →	ノイズによる誤作動 （周辺環境確認） 室内制御基板不良→ 交換
YES →	リモコン線断線？ リモコン不良→交換

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 ラクリーナパネルが動かない
	室内	消灯	消灯	
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種

ラクリーナパネル搭載機種のみ（FDT，FDTW，FDE シリーズ）

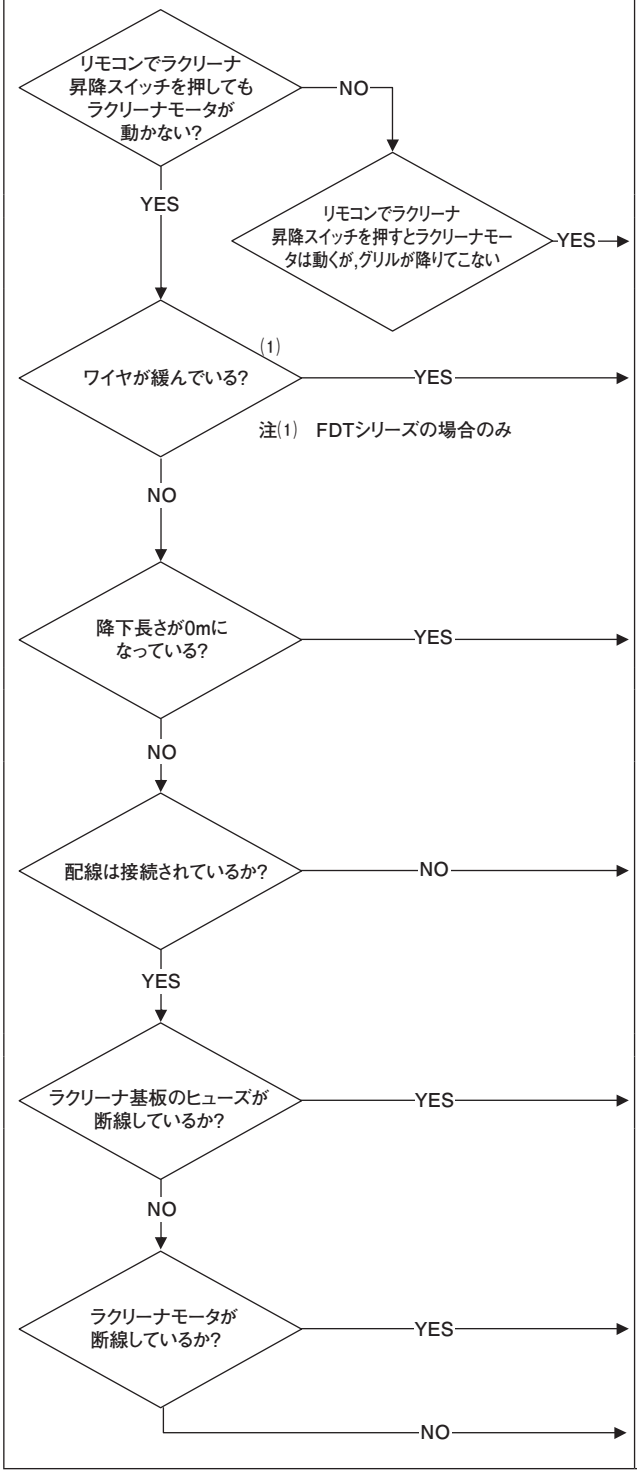
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

- ワイヤゆるみ検知機構が働いている（FDT シリーズのみ）
- 誤配線
- 誤接続
- ラクリーナモータ不良
- ワイヤの絡まり
- ヒューズ切れ（FDTW，FDE のみ）

5. 故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:内機確認中	室内	連続点滅	消灯	室内機点検表示
	室外	連続点滅	2 回点滅	（リモコン 1 台接続または 2 台接続時）

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

電源投入後 ,30 分以上室内ユニットと通信できない。（リモコン側）

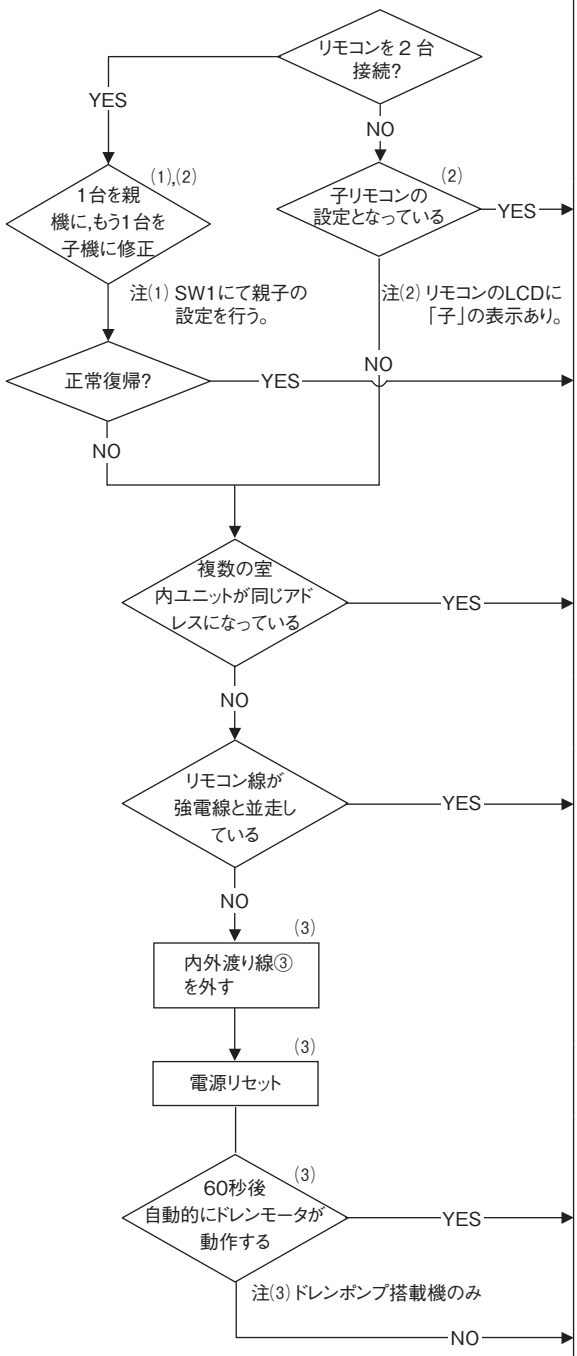
3．異常発生条件

同上

4．予想原因

・設定不良
・周囲環境
・リモコン通信回路不良
・室内制御基板不良

5．故障診断と処置



注記：リモコン表示は「内機確認中」から 30 分後，異常検出すると「室内機点検」に表示が変わります。

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:内機確認中	室内	連続点滅	消灯	室内機点検表示（リモコン３台以上接続）
	室外	連続点滅	２回点滅	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

電源投入後，30 分以上室内ユニット通信できない（リモコン側）

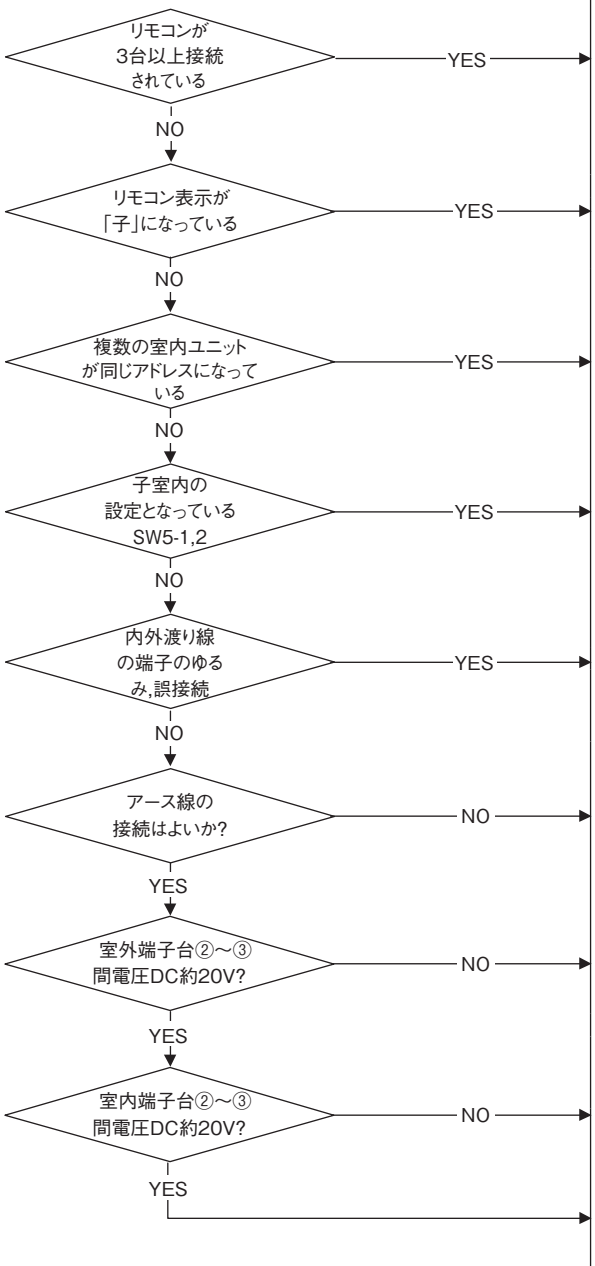
3．異常発生条件

同上

4．予想原因

・設定不良
・周囲環境
・リモコン通信回路不良
・室外制御基板不良
・室内制御基板不良

5．故障診断と処置



注記：リモコン表示は「内機確認中」から 30 分後，異常検出すると「室内機点検」に表示が変わります。

表示	LED	緑	赤	内容	内機確認中
リモコン:内機確認中	室内	連続点滅	消灯		（FDCKP805，1125形のみ）
	室外	連続点滅	2回点滅		

1．対象機種

FDCKP805，1125形

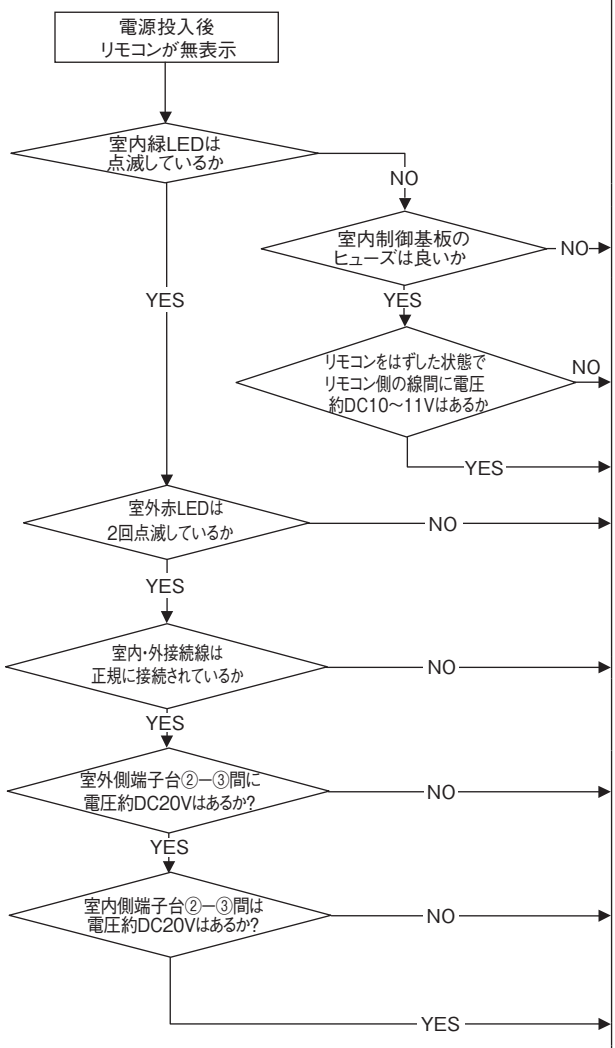
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの不良
・基板間の接続
・ヒューズ溶断
・室内制御基板不良
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外制御基板不良

5．故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容	内機確認中
リモコン:内機確認中	室内	連続点滅	消灯		（FDCKP1405，1605形のみ）
	室外	連続点滅	2回点滅		

1．対象機種

FDCKP1405，1605形

（電源投入後２分待ってもリモコンLCD「内機確認中」表示のままの場合）

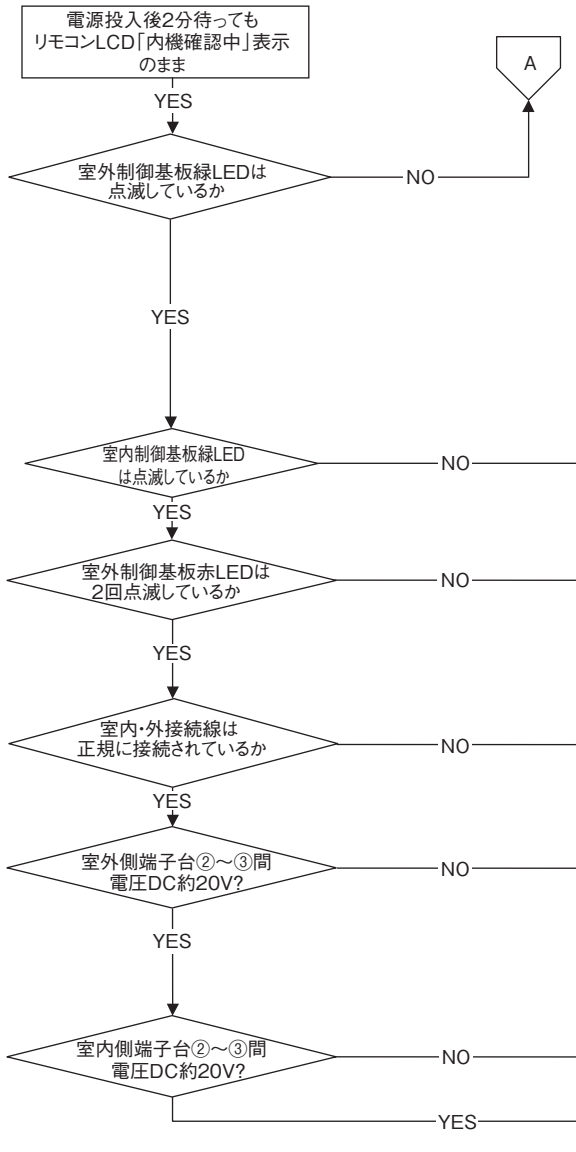
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・単相機ヒューズ溶断
・室内制御基板不良
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外制御基板不良

5．故障診断と処置



診　断	処　置
A	次ページ参照
室内制御基板緑LEDは点滅しているか NO	室内制御基板不良→交換
室外制御基板赤LEDは2回点滅しているか NO	室内制御基板不良→交換 リモコン不良→交換 リモコン線Ｙ断線
室内・外接続線は正規に接続されているか NO	接続線修正
室外側端子台②～③間電圧DC約20V? NO	室外制御基板不良→交換
室内側端子台②～③間電圧DC約20V? NO	接続線不良（断線） ノイズ
室内側端子台②～③間電圧DC約20V? YES	室内制御基板不良→交換

注記：

表示	LED	緑	赤	内容	内機確認中
リモコン:内機確認中	室内	連続点滅	消灯		（FDCKP1405，1605形のみ）
	室外	消灯	消灯		

1．対象機種

FDCKP1405，1605形

（室外制御基板 LED が消灯している場合の診断）

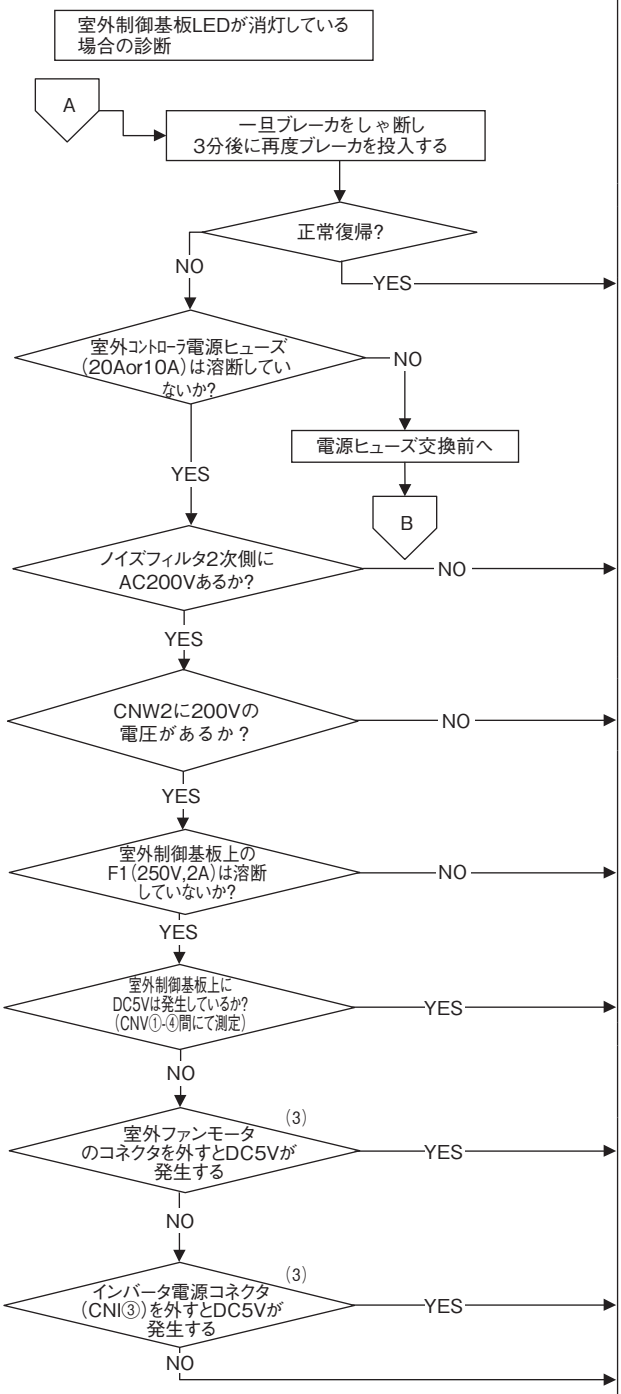
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・ヒューズ溶断
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外制御基板不良
・インバータ基板不良

5．故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容	内機確認中
リモコン:内機確認中	室内	消灯	消灯		（FDCKP1405，1605形のみ）
	室外	消灯	消灯		

1．対象機種

FDCKP1405，1605形

（ヒューズ溶断の場合，電源ヒューズ交換前のインバータ点検方法）

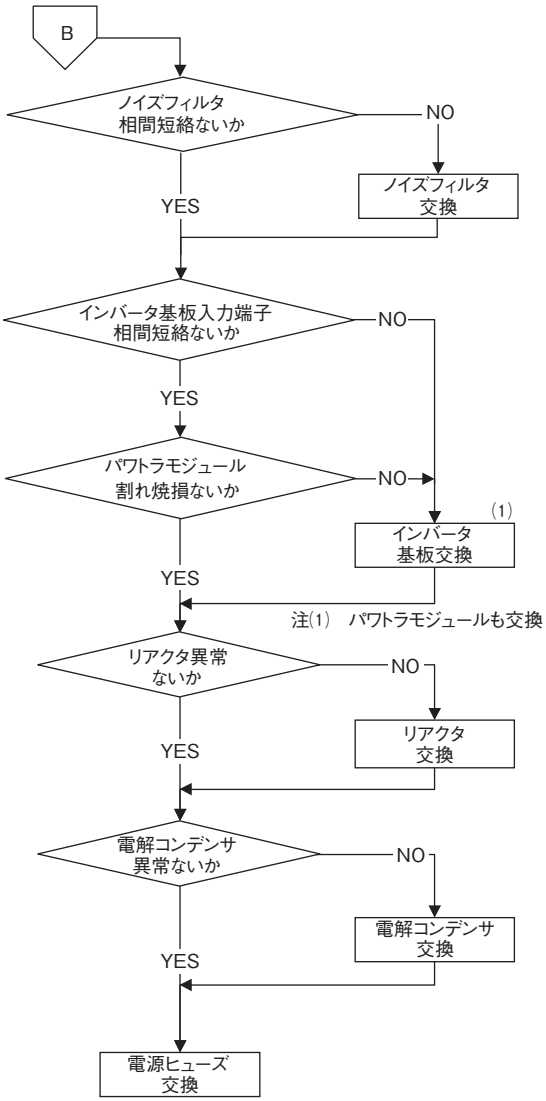
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・ヒューズ溶断
・リアクタ不良
・電解コンデンサ不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示 リモコン:無表示	LED	緑	赤	内容	無表示
	室内	消灯	消灯		
	室外	消灯	消灯		

1. 対象機種

全機種

(電源投入後リモコン無表示の場合)

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・基板間の接続
・室内制御基板不良
・リモコン不良
・リモコン線断線

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
電源投入後リモコン無表示 → YES → リモコン側の接続端子にDC10V以上あるか?	
YES →	リモコン不良
NO → リモコンを外すとリモコン線のコネクタにDC10V以上が発生する。	
YES →	リモコン不良
NO → 室内・外接続線は正規に接続されている	
NO →	接続線不良 リモコン線不良 (ショートなど)
YES →	室内制御基板不良→交換

注記：

表示 リモコン：E1	LED	緑	赤	内容 リモコン通信回路不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコン－室内ユニット間の通信が運転中に2分以上正常にできない場合（リモコンでのみ検出）

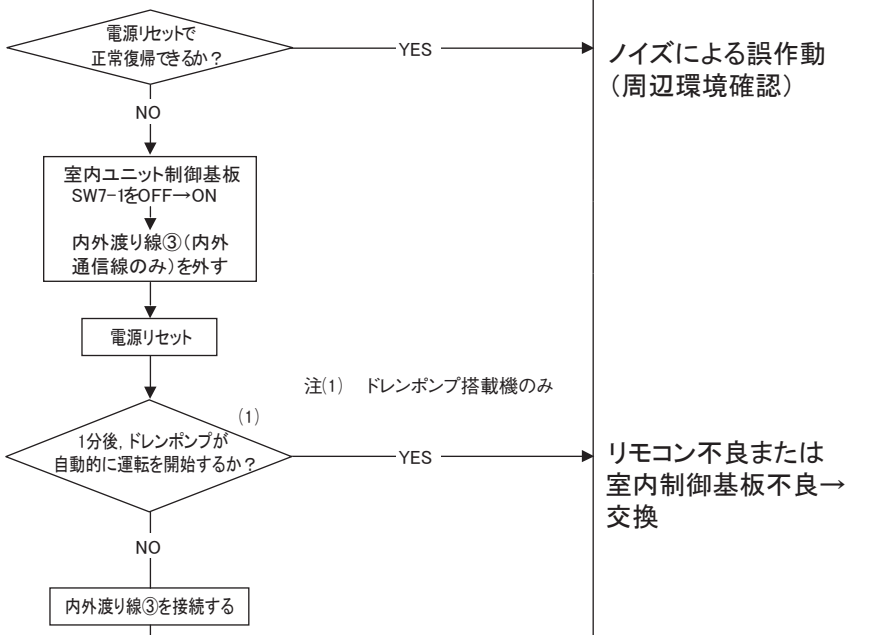
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・リモコン－室内ユニット間通信回路不良
・ノイズ
・室内制御基板不良
・リモコン不良

5. 故障診断と処置



注記：室内側ではリモコンと180秒間正常に通信できない場合，室内ユニットの基板は自動的にリセットスタートします。

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E5	室内	連続点滅	2回点滅	運転中に室内外通信異常
	室外	連続点滅	下記参照	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内ー室外ユニット間が2分以上正常に通信できない場合

3. 異常発生条件

運転中，同上を検知

4. 予想原因

・号機設定ミス
・リモコン配線断線
・リモコン配線接続不良
・室外制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
・室外赤LEDが2回点滅の場合	
注(1)　室外端子台での接続不良(外れ,緩み)を点検 室外ユニット側で信号線の接続OK? NO →	信号線修理
YES ↓	
注(2)　室内～室外ユニット間信号線の接続不良または断線を点検。 室内～外ユニット間信号線の接続OK? NO →	信号線修理
YES ↓	
電源リセット ↓	
リモコンLCDは正常に戻ったか NO →	「内機確認中」表示の診断へ
YES →	ユニットは正常です。(一過性ノイズ等による誤作動)
・室外赤LEDが消灯の場合	
電源リセット ↓	
NO ↓	
リモコンLCD正常に戻ったか NO →	室外制御基板不良→交換 (ネットワーク通信回路不良)
YES →	ユニットは正常です。(一過性ノイズ等による誤作動)
・室外LED赤および緑とも消灯の場合 P805,1125形:次ページをご覧ください。 P1405,1605形:「内機確認中」表示の診断をご覧ください。	

注記：ポンプダウンスイッチを押すと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，室内ユニットおよびリモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが異常ではありません。

表示 リモコン:E5	LED	緑	赤	内容 運転中に室内外通信異常
	室内	連続点滅	2回点滅	
	室外	連続点滅	下記参照	

1. 対象機種

FDCKP805, 1125形のみ

2. 異常検出方法

室内ー室外ユニット間が2分以上正常に通信できない場合

3. 異常発生条件

運転中, 同上を検知

4. 予想原因

- 室外制御基板不良
- インバータ基板不良
- ノイズフィルタ基板不良
- ヒューズ不良
- 室外ファンモータ不良

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
・室外LED赤および緑とも消灯の場合	
室外制御基板のCNA1,2①–④間にDC240V以上あるか？ YES	
NO	
ノイズフィルタ基板の端子Ro–So間, So–To間にAC180V以上あるか？ YES	インバータ基板不良→交換（それでも直らなければダイオードモジュール, リアクタとその接続を点検。）
NO	
室外電源ヒューズ(F1,2)が切れている？ YES	ヒューズ交換
NO	ノイズフィルタ基板不良→交換
室外ファンモータ用コネクタCNFAN1,2の⑤–④間にDC15Vの電圧はあるか？ YES	室外制御基板不良→交換
NO	
電源OFF後 室外ファンモータ側のコネクタを室外制御基板から外し室外制御基板のコネクタCNFAN1,2の⑤–④間にDC15Vの電圧はあるか？ YES	室外ファンモータ不良→交換
NO	
インバータ基板と接続のコネクタCNI3を室外制御基板から外し室外制御基板のコネクタCNI3の②–③間にDC15Vの電圧はあるか？ YES	インバータ基板不良→交換
NO	室外制御基板不良→交換（それでも直らなければ「内機確認中」表示の診断をご覧ください。）

注記:

表示 リモコン:E6	LED	緑	赤	内容 室内熱交温度センサ不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2，R3,）の異常低温および異常高温（抵抗）を検知

3. 異常発生条件

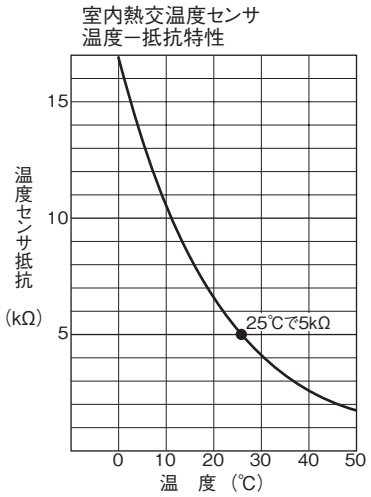
・温度センサが−50℃以下を連続5秒間検知（断線）した場合は圧縮機を停止します。3分遅延後に圧縮機を再起動させ，1回目の検知から60分以内に再検知した場合。
・70℃以上を連続5秒間検知（短絡）

4. 予想原因

・室内熱交温度センサコネクタ不良
・室内熱交温度センサ不良
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内熱交温度センサコネクタの接続はOKか? → NO	修正→コネクタ接続
YES → 室内熱交温度センサの特性はOKか? (室内熱交温度センサ特性は下図参照) → NO	室内熱交温度センサ不良→交換
YES	室内制御基板不良→交換 （室内熱交温度センサ入力回路不良）



注記：

表示 リモコン:E7	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	1 回点滅	吸込温度センサ不良
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内吸込温度センサ（Thi-A）の異常低温および異常高温（抵抗）を検知

3. 異常発生条件

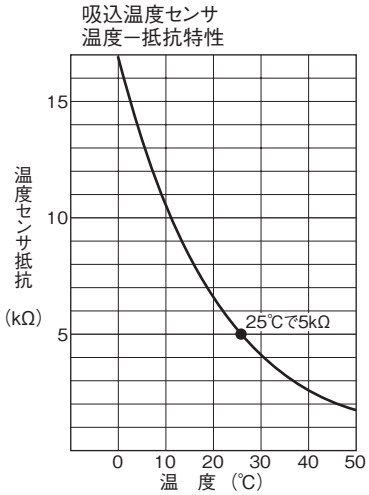
・温度センサが−50℃以下を連続 5 秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3 分遅延後に圧縮機を再起動させ，1 回目の検知から 60 分以内に再検知した場合。

4. 予想原因

・吸込温度センサコネクタ不良
・吸込温度センサ不良
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吸込温度センサコネクタの接続はOKか? → NO	修正→コネクタ接続
YES → 吸込温度センサの特性はOKか?（吸込温度センサ特性は下図参照） → NO	吸込温度センサ不良→交換
YES	室内制御基板不良→交換（吸込温度センサ入力回路不良）



注記：

表示 リモコン:E8	LED	緑	赤	内容 暖房過負荷運転
	室内	連続点滅	1 回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2，R3）

3. 異常発生条件

1 回目の検知から 60 分以内に 5 回検知した時，または過負荷状態を連続 6 分間感知した場合。

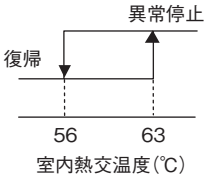
4. 予想原因

- エアフィルタ目詰まり
- 室内熱交温度センサコネクタ不良
- 室内熱交温度センサ不良
- 冷媒系統異常

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
エアフィルタが目詰まりしているか → YES	洗浄
室内熱交温度センサの接続はOKか → NO	室内熱交温度センサコネクタ不良→修正
室内熱交温度センサの特性はOKか（室内熱交温度センサ特性は376ページ参照） → NO	室内熱交温度センサ不良→交換
リモコンで異常データ点検 → 暖房過負荷状態か → NO	冷媒系統点検
暖房過負荷状態か → YES	調整

注(1)　過負荷状態か否かの点検は次によってください。
▲ショートサーキットは無いか
▲室内熱交換器の汚れ,つまりは無いか
▲室外ファンコントロールは正常か
▲室内･外気温が高すぎないか
注(2)　室内熱交温度センサの特性は,故障表示E6をご覧ください。



注記：暖房；圧縮機始動後，室内熱交温度（Thi-R）により圧縮機の回転数を下げ高圧制御します。

表示 リモコン:E9	LED	緑	赤	内容	ドレン不良
	室内	連続点滅	1回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1. 対象機種

ドレンポンプ搭載機種のみ

2. 異常検出方法

フロートスイッチ作動

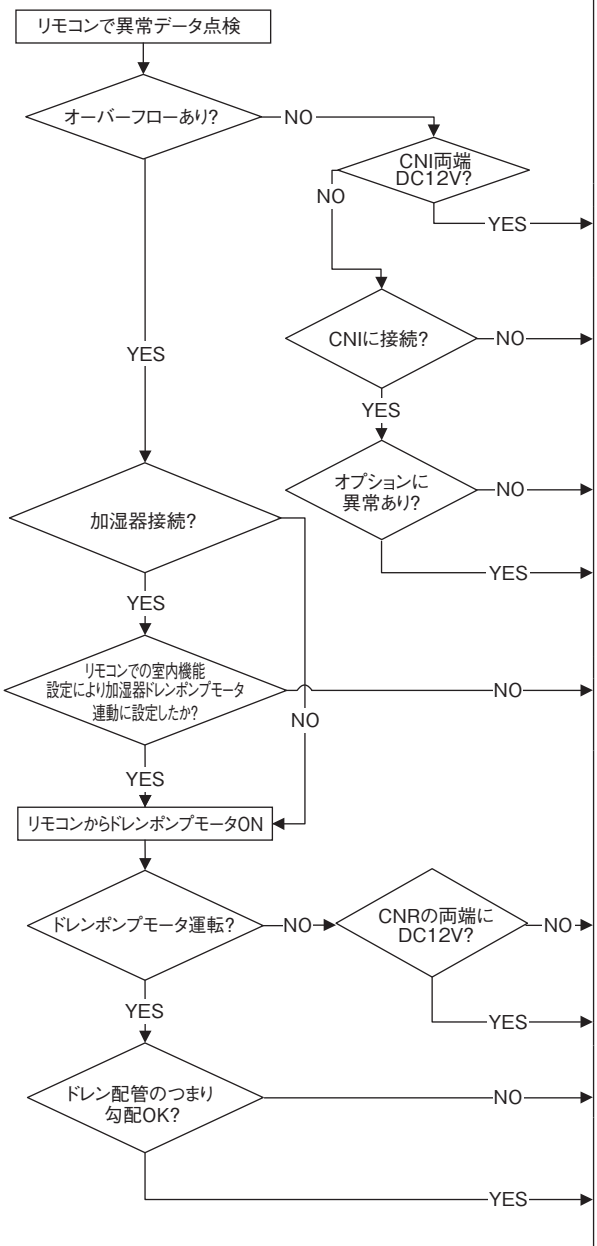
3. 異常発生条件

フロートスイッチ開を3秒間連続検知したとき，またはフロートスイッチの未接続時・断線時。

4. 予想原因

- 室内制御(電源)基板不良
- フロートスイッチ設定ミス
- 加湿器ドレンポンプモータ連動設定ミス
- オプション設定ミス
- ドレン配管ミス
- ドレンポンプモータ不良
- ドレンポンプモータ配線不良
- フロートスイッチ不良

5. 故障診断と処置



注記：電源投入時に発生した場合は，フロートスイッチの断線・接点不良が考えられます。点検修正（交換）してください。

表示 リモコン:E10	LED	緑	赤	内容 1 リモコン複数台制御時 接続台数オーバー（17 台以上）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

1 リモコンで室内ユニット
17 台以上を検知した時

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・接続台数オーバー
・リモコン不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
1個のリモコンに17台以上接続していないか → NO	リモコン不良→交換
1個のリモコンに17台以上接続していないか → YES	16 台以下に変更

注記：

表示 リモコン:E11	LED	緑	赤	内容 リモコン通信アドレス設定不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

複数室内ユニットを1リモコンで結線し，リモコンでアドレス設定した場合

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

アドレス設定方法のまちがい
1リモコン複数室内の場合，リモコンアドレス設定はできない。

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
室内ユニットアドレス設定をリモコンでアドレス設定した → YES	アドレス設定方法変更 室内ユニット制御基板上のディップスイッチSW2およびSW5-1, 2（親・子設定）でアドレス設定を行う。
下図リモコンの結線で、リモコンによりアドレス設定をすると E11 発生。 内① 内② 内③ …… リモコン	

注記:

表示 リモコン:E14	LED	緑	赤	内容 親子室内ユニット間通信異常
	室内	連続点滅	3回点滅	
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

親子室内ユニット通信異常発生時

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・号機設定ミス
・リモコン配線断線
・リモコン配線接続不良
・室内制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内ユニットの親・子の号機設定はよいか → NO	号機設定修正
室内ユニットの親・子の号機設定はよいか → YES → 室内ユニット間のリモコン配線不良? → YES	配線修正
室内ユニット間のリモコン配線不良? → NO → 電源リセットで復規するか? → NO	室内制御基板不良→交換
電源リセットで復規するか? → YES	・ノイズ誤動作 ・周辺環境を確認

注(2)　室内制御基板上のディップスイッチSW5-1, SW5-2を下表のように設定してください。
(工場出荷時[親]設定)

		室内ユニット			
		親	子a	子b	子c
ディップスイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

注記：

表示 リモコン： E16	LED	緑	赤	内容	室内ファンモータ不良
	室内	連続点滅	1回点滅		
	室外	－	消灯		

1．対象機種

FDT，FDKシリーズのみ

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

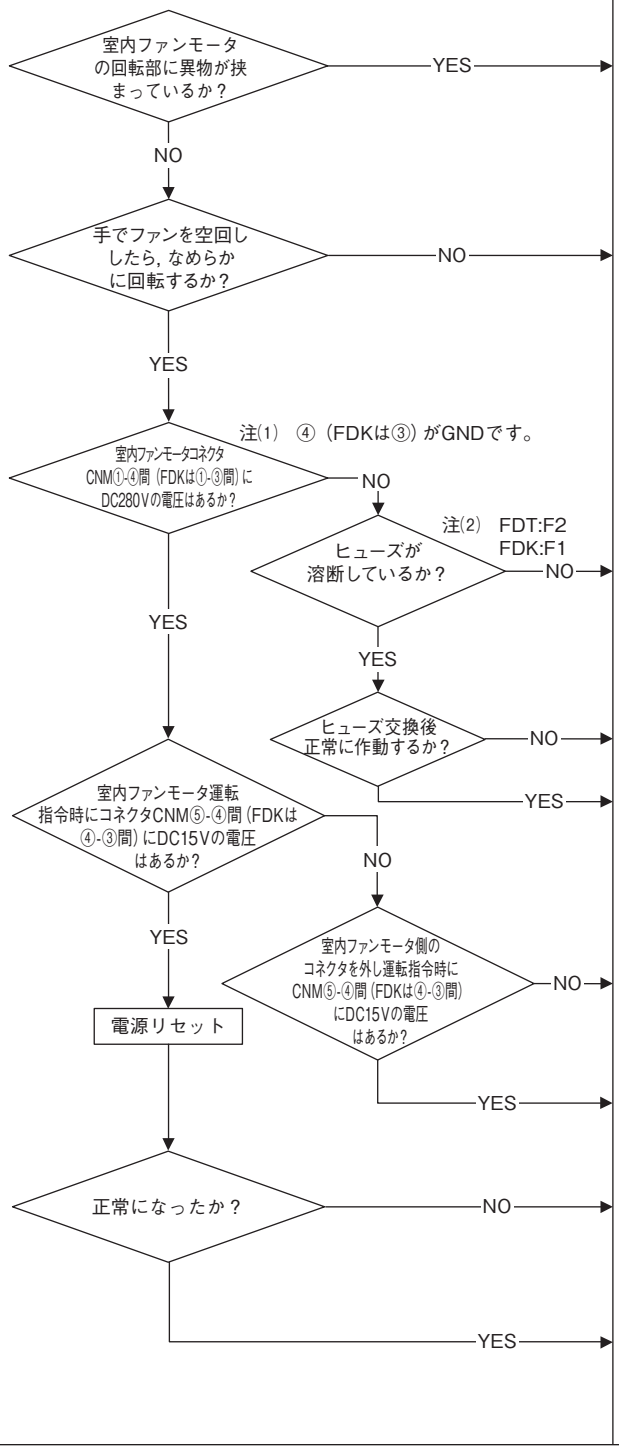
3．異常発生条件

室内ファンモータの実回転が30秒連続して200min^{-1}以下になると圧縮機，室内ファンモータを停止します。2秒遅延後自動復帰しますが60分以内に4回作動した場合。

4．予想原因

- 室内ユニット基板不良
- 室内ファンモータの回転部の異物
- 室内ファンモータ不良
- 室内ユニット基板の塵埃
- ヒューズ溶断
- 外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン： E16	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	1回点滅	室内ファンモータ不良
	室外	－	消灯	

1．対象機種

FDT，FDKシリーズ以外の機種

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

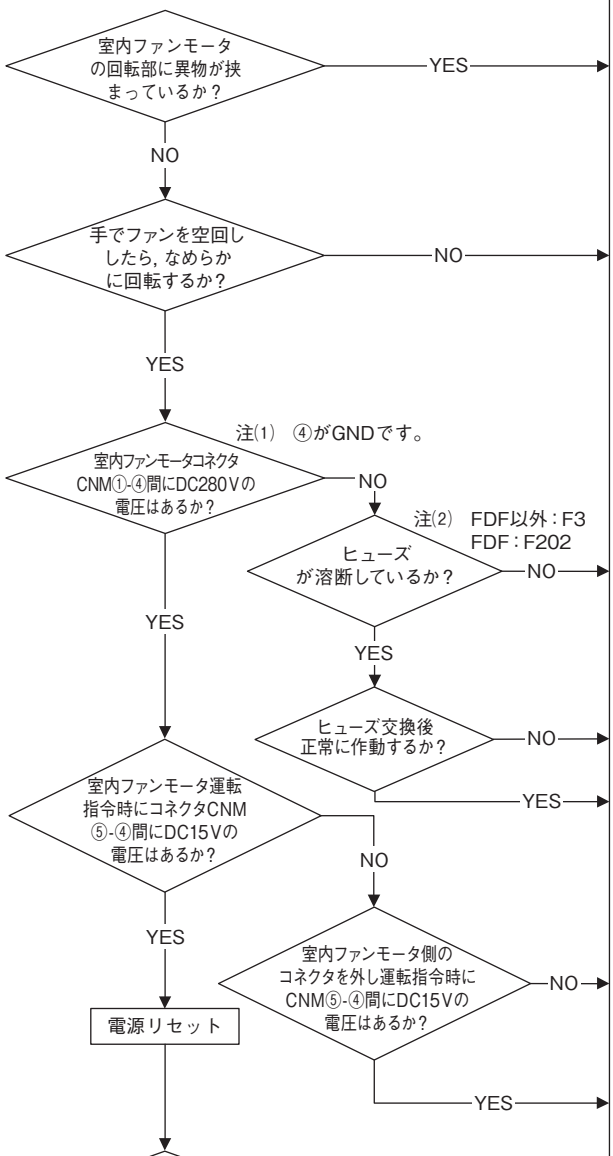
3．異常発生条件

室内ファンモータの実回転が30秒連続して200min^{-1}以下になると圧縮機，室内室内ファンモータを停止し。ます2秒遅延後自動復帰しますが60分以内に4回作動した場合。

4．予想原因

- 室内制御（電源）基板不良
- 室内ファンモータの回転部の異物
- 室内ファンモータ不良
- 室内ユニット基板の塵埃
- ヒューズ溶断
- 外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E19	LED	緑	赤	内容	運転モード設定不良
	室内	連続点滅	1 回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

E19 発生

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・スイッチ設定ミス
（スイッチの戻し忘れ）
・室内制御基板不良
（スイッチ不良）

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
電源ONと同時にE19発生 → SW7-1がON?	
SW7-1がON? → NO	室内制御基板不良→交換（スイッチ不良）
SW7-1がON? → YES	SW7-1 を OFF し電源をリセット

注記：

表示 リモコン： E20	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	1回点滅	室内ファンモータ回転不良
	室外	－	消灯	

1．対象機種

FDT，FDKシリーズのみ

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

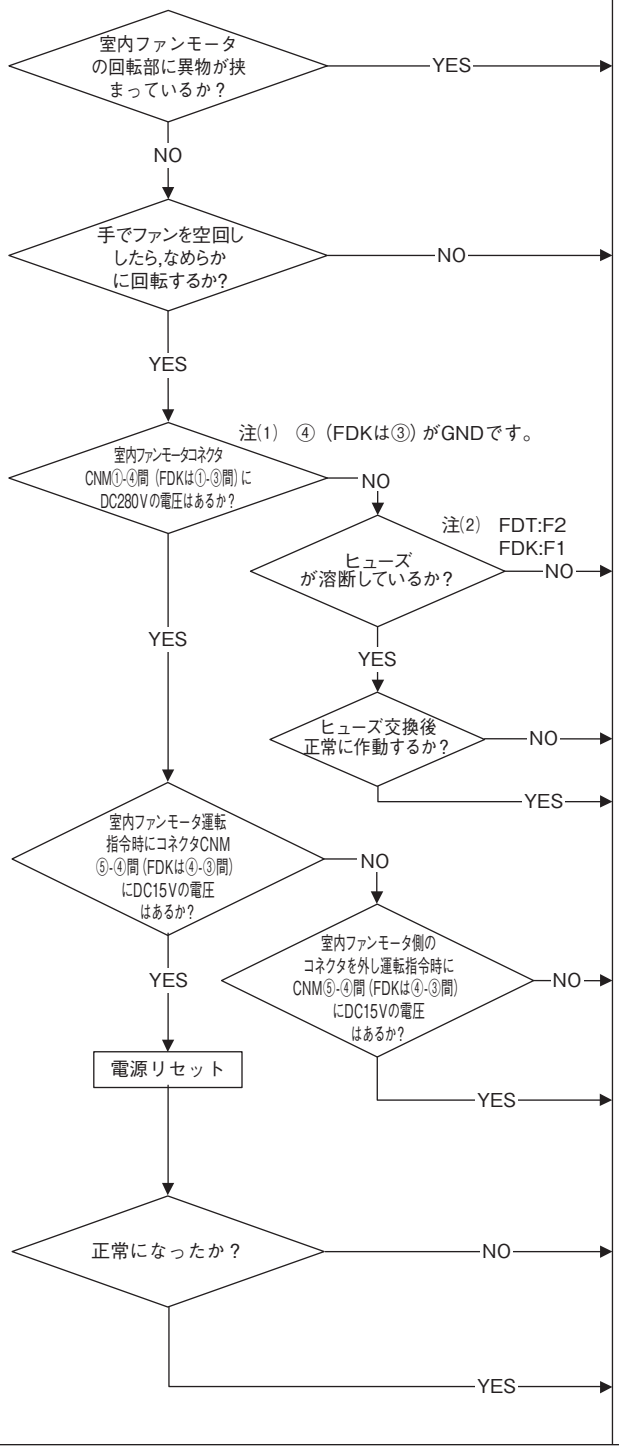
3．異常発生条件

室内ファンモータ回転指令が出力された後2分経過しても実回転数が要求回転数－50min^{-1}に達しないときは，室内ファンモータ回転異常を検出し停止します。

4．予想原因

・室内ユニット基板不良
・室内ファンモータの回転部の異物
・室内ファンモータ不良
・室内ユニット基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン： E20	LED	緑	赤	内容 室内ファンモータ回転不良
	室内	連続点滅	1回点滅	
	室外	－	消灯	

1．対象機種

FDT，FDKシリーズ以外の機種

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

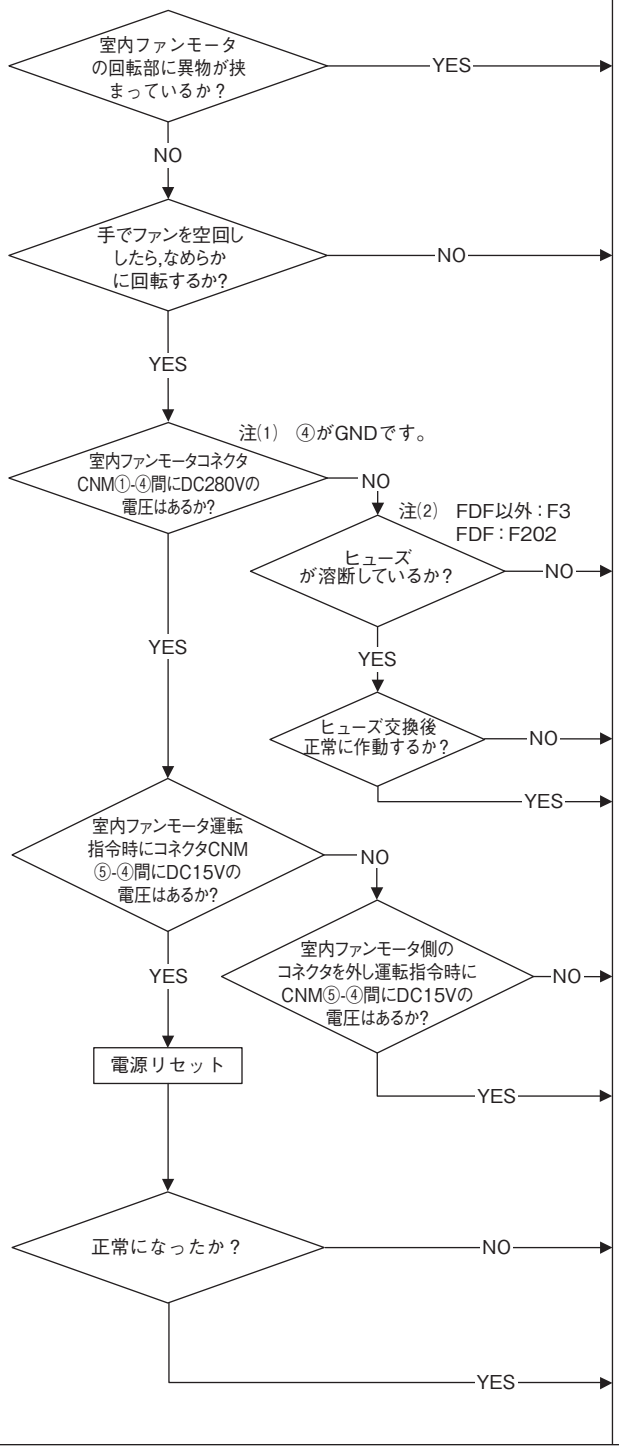
3．異常発生条件

室内ファンモータ回転指令が出力された後2分経過しても実回転数が要求回転数－50min^{-1}に達しないときは，室内ファンモータ回転異常を検出し停止しますます。

4．予想原因

- 室内制御（電源）基板不良
- 室内ファンモータの回転部の異物
- 室内ファンモータ不良
- 室内制御（電源）基板の塵埃
- ヒューズ溶断
- 外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E21	LED	緑	赤	内容	ラクリーナパネル収納不良 ・パネルスイッチ動作不良 (FDTシリーズ)
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	消灯		

1. 対象機種

FDTシリーズのみ

2. 異常検出

1秒以上パネルスイッチ(PS)が開を検知

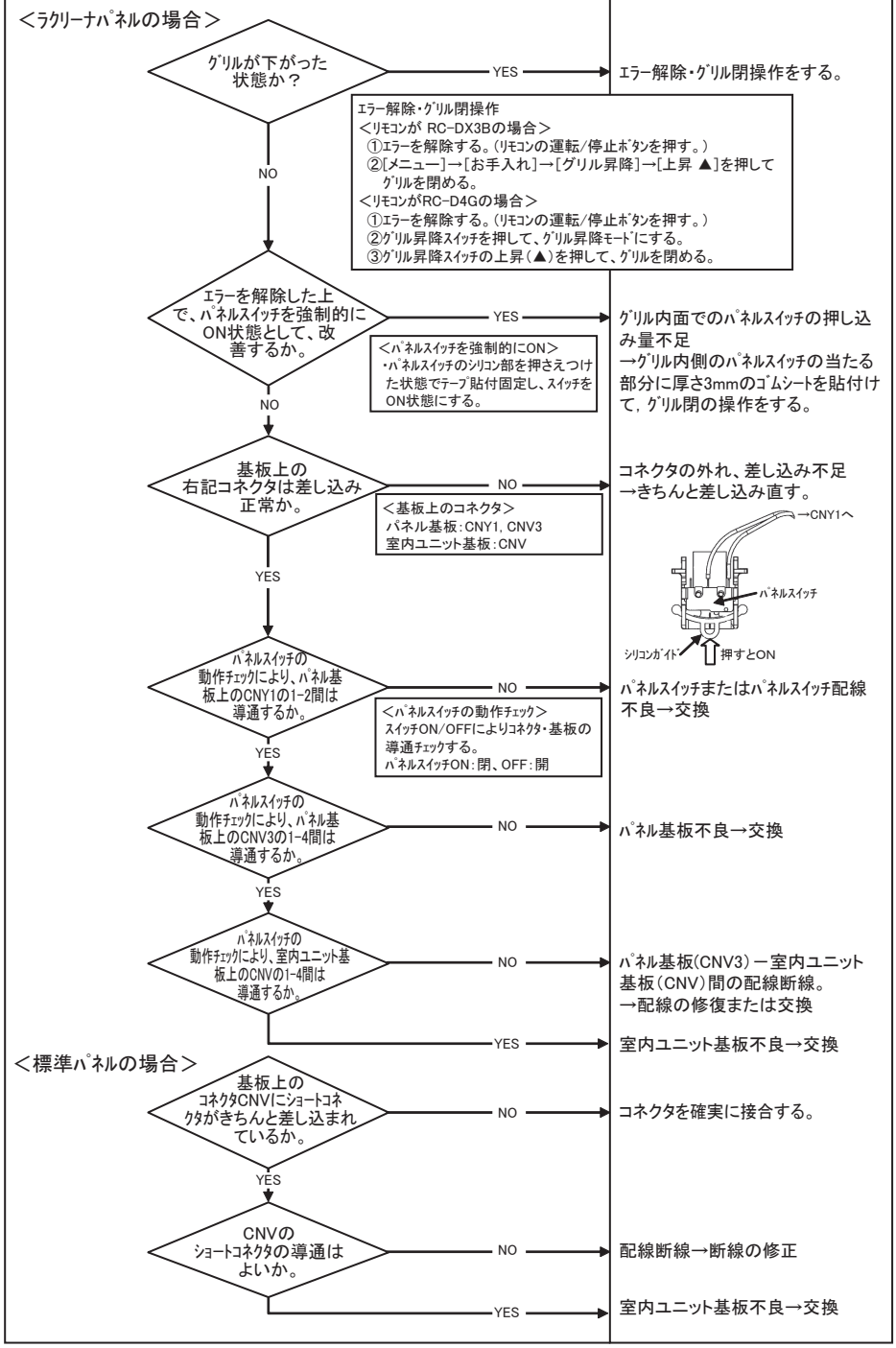
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・パネルスイッチ(PS)不良
・配線断線
・パネル基板不良
・室内ユニット基板不良

5. 故障診断と処置



注記：お掃除パネル装着時のみ,パネルの表示部で緑のLEDが4回点滅します。

表示 リモコン:E23	LED	緑	赤	内容	冷媒漏洩検知 （FDF シリーズ）
	室内	連続点滅	1 回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1．対象機種

FDF シリーズの R32 冷媒機のみ

2．異常検出方法

・冷媒センサから警報信号を受信した場合

3．異常発生条件

・冷媒センサが冷媒を検知した場合
・冷媒センサが冷媒以外のガスを検知した場合
・冷媒センサが劣化し，誤検知した場合
・一度冷媒を検知したセンサを再利用した場合

4．予想原因

・熱交換器からの冷媒漏れ
・配管接続部からの冷媒漏れ
・室内ユニット付近で殺虫剤等のガスを使用
・冷媒センサ劣化
・冷媒検知済みの冷媒センサ使用
・配線不良（故障出力を誤検知）

5．故障診断と処置

診　断	処　置
実際に冷媒が漏れているか? → YES	冷媒漏洩箇所を修復 →冷媒センサを交換
NO → 冷媒以外のガスを誤検知しているか? → YES	冷媒センサ付近のガスを取り除く。 →冷媒センサを交換
NO → 冷媒検知済みの冷媒センサを使用しているか? → YES	冷媒センサを交換
NO	冷媒センサの劣化か不良，もしくは配線不良が考えられる。 →冷媒センサを交換

注：一度冷媒を検知した冷媒センサは再利用できないため，冷媒漏洩箇所を修理した後に冷媒センサを交換してください。
修理前に冷媒センサを交換すると，冷媒センサが冷媒を検知してしまい，再交換が必要となります。

注記：リモコンに「E23」と表示された場合，修理を開始するまでに下記①②項を実施してください。
① 実際に冷媒が漏れていた場合，燃焼器具などの火気を消して，部屋の換気をしてください。
② 修理を開始するまでは電源ブレーカをしゃ断しないでください。
室内ユニットは異常停止しますが，漏洩した冷媒の滞留を防ぐためファンの送風運転をします。

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E28	室内	連続点滅	消灯	リモコン温度センサ不良
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコン温度センサ（Thc）の異常低温（抵抗）を検知

3. 異常発生条件

温度センサが－50℃以下を連続5秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3分間延長後に圧縮機を再起動させ，1回目の検知から60分間以内に再検知した場合。

4. 予想原因

・リモコン温度センサ接続不良
・リモコン温度センサ不良
・リモコン基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
リモコン温度センサの接続はよいか → NO	修正
YES → リモコン温度センサの特性は良いか断線は無いか? → NO	リモコン温度センサ不良→交換
YES	リモコン基板不良→交換（リモコン温度センサ入力回路不良）

リモコン温度センサ温度－抵抗特性（Thc）

温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)	温度(℃)	抵抗値(kΩ)
0	65	14	33	30	16	46	8.5
1	62	16	30	32	15	48	7.8
2	59	18	27	34	14	50	7.3
4	53	20	25	36	13	52	6.7
6	48	22	23	38	12	54	6.3
8	44	24	21	40	11	56	5.8
10	40	26	19	42	9.9	58	5.4
12	36	28	18	44	9.2	60	5.0

注記：リモコンセンサ無効→有効切替えの10秒間以降は，断線してもE28は表示しません。同時に使用するセンサをリモコン→室内吸込温度センサに変更します。リモコンセンサを有効にしても点検表示の吸込温度表示は室内吸込温度センサの値となります。

表示 リモコン:E34	LED	緑	赤	内容	電源欠相
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

電源 ON 後，5 秒間連続して R・S・T 相何れかの電圧が 0V の場合

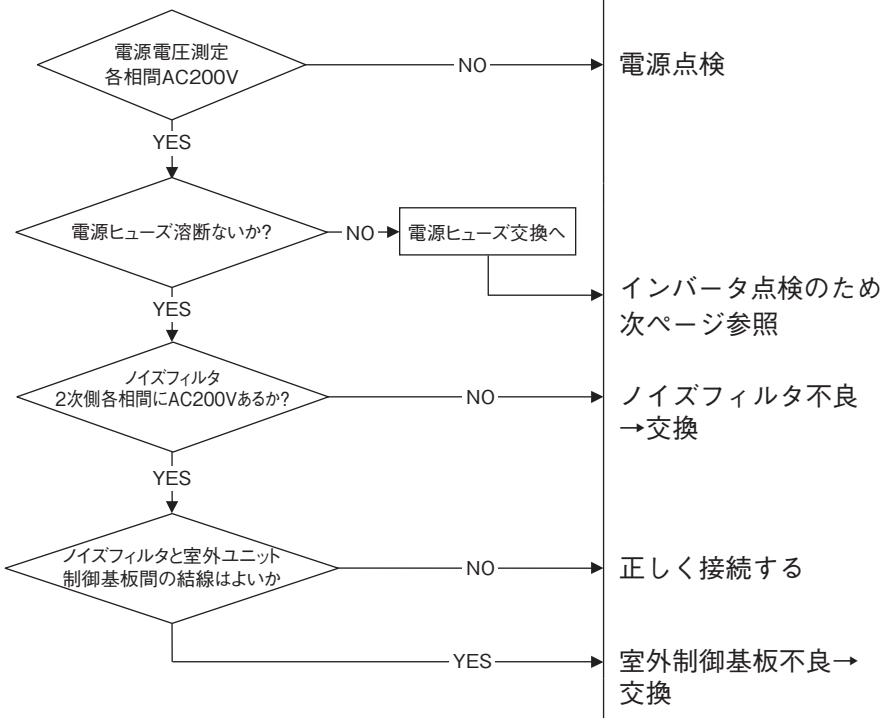
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・電源異常
・電源ヒューズ溶断
・ノイズフィルタ不良
・ノイズフィルタ制御基板結線不良
・室外制御基板不良
・インバータ基板不良
・室外ファンモータ不良
・ノイズフィルタ配線不良

5. 故障診断と処置



注記:電源電圧が逆相となっている場合は E34 が表示されます。その場合は, 電源の相を入替えてください。

表示 リモコン:E34	LED	緑	赤	内容	電源欠相(続き)
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種
電源ヒューズ交換前のインバータ点検方法
(ヒューズ溶断の場合,
電源ヒューズ交換前に
インバータを点検する)

2. 異常検出方法

電源 ON 後, 5 秒間連続して R・S・T 相何れかの電圧が 0V の場合

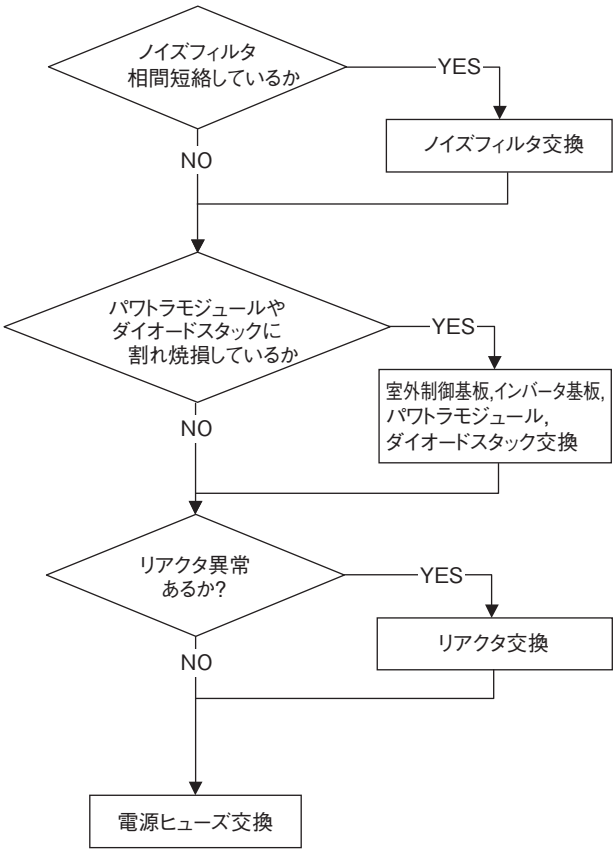
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・電源異常
・電源ヒューズ溶断
・ノイズフィルタ不良
・ノイズフィルタ結線不良
・室外制御基板不良
・インバータ基板不良
・リアクタ不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示 リモコン:E35	LED	緑	赤	内容	冷房過負荷運転
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	ー	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室外熱交温度が 62℃（外気温度が 32℃未満：56℃）以上を検知した場合。

3. 異常発生条件

室外熱交温度異常が 60 分以内に 5 回，或いは圧縮機停止中も含め異常検出状態が 10 分間連続した場合。

4. 予想原因

- 室外熱交温度センサ不良
- 室外制御基板不良
- 室内外の据付スペース
- 室内外ショートサーキット
- 熱交換器の汚れ，詰り
- 冷媒量過多

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
注(1)室外熱交温度特性は395ページ参照 室外熱交温度センサ特性は正常か → NO	室外熱交温度センサ交換
YES → 冷房過負荷運転? → NO	ユニット側を点検してください。 ・室外ユニットはショートサーキットしていないか ・据付スペースは適正か ・熱交換器の汚れ，詰りはないか
YES → 高圧制御は正常か? → NO	制御動作チェック ※
YES → 異常検知温度（実測）は正しいか → NO	室外制御基板不良→交換
YES	冷媒量過多：冷媒計量再チャージ

※
制御内容は対応する機種のマイコン制御機能の圧縮機回転数による保護制御,冷房高圧保護をご覧ください。

注記：

表示 リモコン:E36	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	消灯	吐出管温度異常
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

異常検出方法については対応する機種のマイコン制御機能の圧縮機回転数による保護制御，冷房高圧保護をご覧ください。

3. 異常発生条件

吐出管温度異常が 60 分以内に 2 回。

4. 予想原因

・室外制御基板不良
・吐出管温度センサ不良
・フィルタ詰り
・室内外の据付スペース
・室内外ショートサーキット
・熱交換器の汚れ，詰り

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吐出管温度センサ特性は正常か（注(1)吐出管温度特性は397ページ参照） NO →	吐出管温度センサ交換
YES ↓ 冷暖運転時に吐出管温度異常? NO →	冷媒量不足 : 冷媒計量再チャージ
YES ↓ 吐出管温度制御は正常か? NO →	制御動作チェック ※
YES ↓ 停止時の室外ユニット側圧力飽和温度と外気温はほぼ同じか NO →	空気混入：真空引き再チャージ
YES ↓ 異常検知温度（実測）は正しいか NO →	室外制御基板不良→交換
YES →	ユニット側を点検してください。 ・フィルタは詰まっていないか ・室内／外の据付スペースは適正か ・ショートサーキットしていないか ・室内熱交換器の汚れ，詰りはないか

※
制御内容は対応する機種のマイコン制御機能の圧縮機回転数による保護制御,冷房高圧保護をご覧ください。

注記：

表示 リモコン:E37	LED	緑	赤	内容 室外熱交温度センサ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室外熱交温度センサの異常低温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

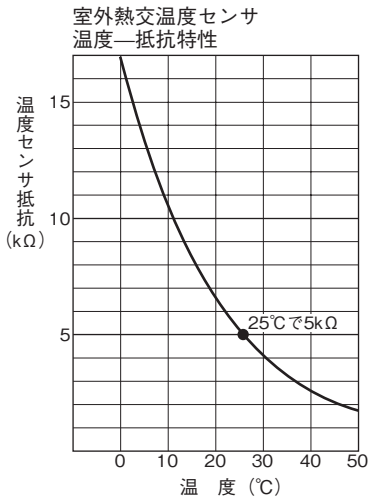
・圧縮機 ON 後 2 分～2 分 20 秒の間に温度センサが－ 50℃以下を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止，3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。
・電源投入時，20 秒の間に連続 5 秒間－ 50℃以下を検知した場合。

4. 予想原因

・室外制御基板不良
・センサ配線，感温部の断線(モールド部を確認)
・配線接合部(コネクタ)のはずれ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室外熱交温度センサコネクタの接続はOK → NO	コネクタを確実に接合する
YES → 室外熱交温度センサ特性は下図グラフ参照：室外熱交温度センサ特性はOKか → NO	室外熱交温度センサ不良→交換
YES	室外制御基板不良→交換 (室外熱交温度センサ入力回路不良)



注記：

表示 リモコン:E38	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	消灯	外気温度センサ不良
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

外気温度センサの異常低温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

・圧縮機 ON 後 2 分 ～ 2 分 20 秒の間に温度センサが－ 45℃以下を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止，3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。
・電源投入時，20 秒の間に連続 5 秒間－ 45℃以下を検知した場合。

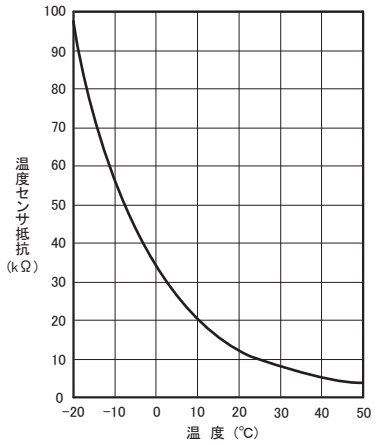
4. 予想原因

・室外制御基板不良
・センサ配線，感温部の断線(モールド部を確認)
・配線接合部(コネクタ)のはずれ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
外気温度センサコネクタの接続は OK か → NO	コネクタを確実に接合する
YES → 外気温度センサ特性は下図参照 外気温度センサ特性は OKか → NO	外気温度センサ不良→交換
YES	室外制御基板不良→交換 (外気温度センサ入力回路不良)

外気温度センサ
温度－抵抗特性



注記：

表示 リモコン:E39	LED	緑	赤	内容 吐出管温度センサ不良
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

吐出管温度センサの異常低温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

圧縮機 ON 後 10 分～10 分 20 秒の間に温度センサが－10℃以下を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止, 3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。

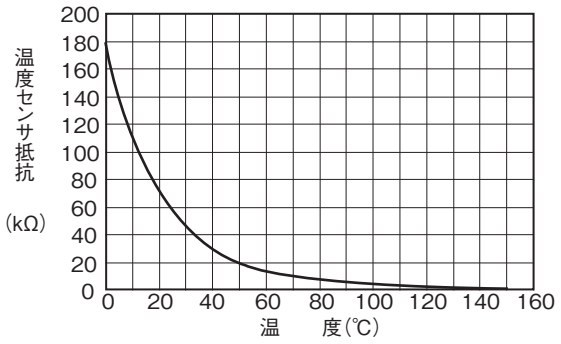
4. 予想原因

・室外制御基板不良
・センサ配線, 感温部の断線(モールド部を確認)
・配線接合部(コネクタ)のはずれ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吐出管温度センサコネクタの接続はOKか → NO	コネクタを確実に接合する
YES → 吐出管温度センサ特性は下図グラフ参照 吐出管温度センサ特性はOKか → NO	吐出管温度センサ不良→交換
YES	室外制御基板不良→交換 (吐出管温度センサ入力回路不良)

吐出管温度センサ
温度－抵抗特性



注記：

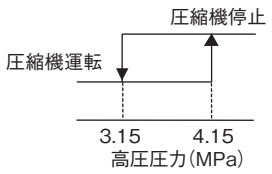
表示 リモコン:E40	LED	緑	赤	内容	63H1 作動
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

高圧圧力スイッチ 63H1 が作動。



3. 異常発生条件

63H1 が OFF(閉)すると圧縮機を停止します。3 分遅延後，再始動しますが 60 分以内に 5 回作動した時，または OFF(閉) の状態が連続 60 分間継続したとき。

4. 予想原因

- 凝縮器側熱交のショートサーキット／通風妨害／フィルタ詰り／ファンモータダウン
- 室外制御基板不良
- 63H1 コネクタ不良
- 電子膨張弁コネクタ不良
- 操作弁閉
- 不凝縮ガス(窒素等)の混合

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
速いタイミングで電源ブレーカのOFF→ONを行うとE40が表れることがあります。(異常ではありません)	
操作弁は全開か → NO	操作弁を開ける。
操作弁は全開か → YES → 63H1が作動したか → NO → 63H1のコネクタ接続はOKか? → NO	63H1 コネクタ修正
63H1が作動したか → YES → 63H1のコネクタ接続はOKか? → YES → 電子膨張弁のコネクタ接続はOKか? → NO	電子膨張弁コネクタ修正
電子膨張弁のコネクタ接続に異常があった場合は,必ず電源リセットしてください。 → YES	室外制御基板不良→交換 (63H1 入力回路不良)

63H1作動時 → YES

1.冷房時
・室外ファンモータ は回っているか
・室外にショートサーキットはないか
・吸込・吹出スペースは充分か
2.暖房時
・室内熱交温度センサが検知ケースから外れていないか
・フィルタが目詰まりしていないか
※冷媒オーバーチャージにより過冷却が増大し熱交センサ値での圧縮機回転数制御が遅れる可能性があります。

注記：圧縮機保護始動域(電源 ON1 回目の起動)では，63H1　OFF した場合一回目の作動で異常表示とします。

表示 リモコン:E41	LED	緑	赤	内容 パワートランジスタ電源電圧低下 （FDCKP805，1125 形のみ）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1．対象機種

FDCKP805，1125 形

2．異常検出方法

パワートランジスタの電源低下（DC15V 以下）。

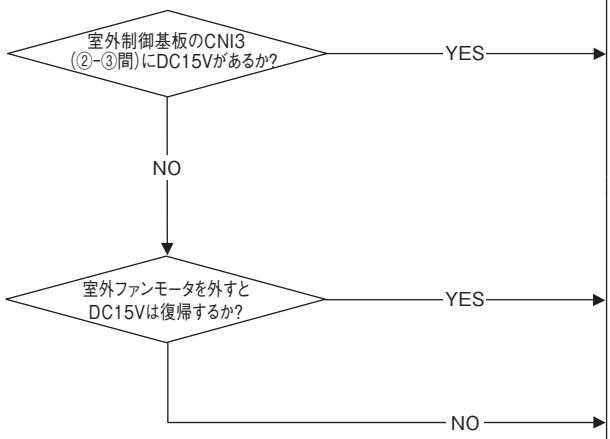
3．異常発生条件

同上

4．予想原因

・室外制御基板不良
・インバータ基板不良
・ノイズフィルタ基板不良
・室外ファンモータ不良

5．故障診断と処置



診　断	処　置
YES	インバータ基板不良→交換（それでも直らなければノイズフィルタ基板交換）
YES	室外ファンモータ交換
NO	室外制御基板不良→交換（それでも直らなければ室外インバータ基板交換）

注記：

表示 リモコン:E41	LED	緑	赤	内容 パワートランジスタ過熱 （FDCKP1405，1605 形のみ）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1．対象機種

FDCKP1405，1605 形

2．異常検出方法

パワートランジスタ内温度の異常上昇

3．異常発生条件

パワートランジスタ内の温度異常が 1 時間以内に 5 回作動した時。

4．予想原因

・インバータ基板不良
・室外ファンモータ不良
・パワトラ放熱フィン固定不良
・据付スペース不適格

5．故障診断と処置

診　断	処　置
圧縮機停止状態が10分程続くと異常ﾘｾｯﾄ可能 → NO	E51 故障診断フローへ
YES → 室外ﾕﾆｯﾄの据付ｽﾍﾟｰｽは適正か? → NO → 修理	
YES → 室外ﾌｧﾝは回っているか? → NO → 室外ファンモータまたは室外制御基板のどちらかを交換する	
YES → パワトラの放熱フィンへの固定はOKか ・固定ねじ ・放熱シリコン塗布 → NO	正しく固定する。
YES → 再発しない → NO	インバータ基板不良→交換
再発しない → YES	OK

注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E42	室内	連続点滅	消灯	カレントカット（その１）
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

インバータ部の過電流を防止，電流が設定値を超えると圧縮機を停止させます。

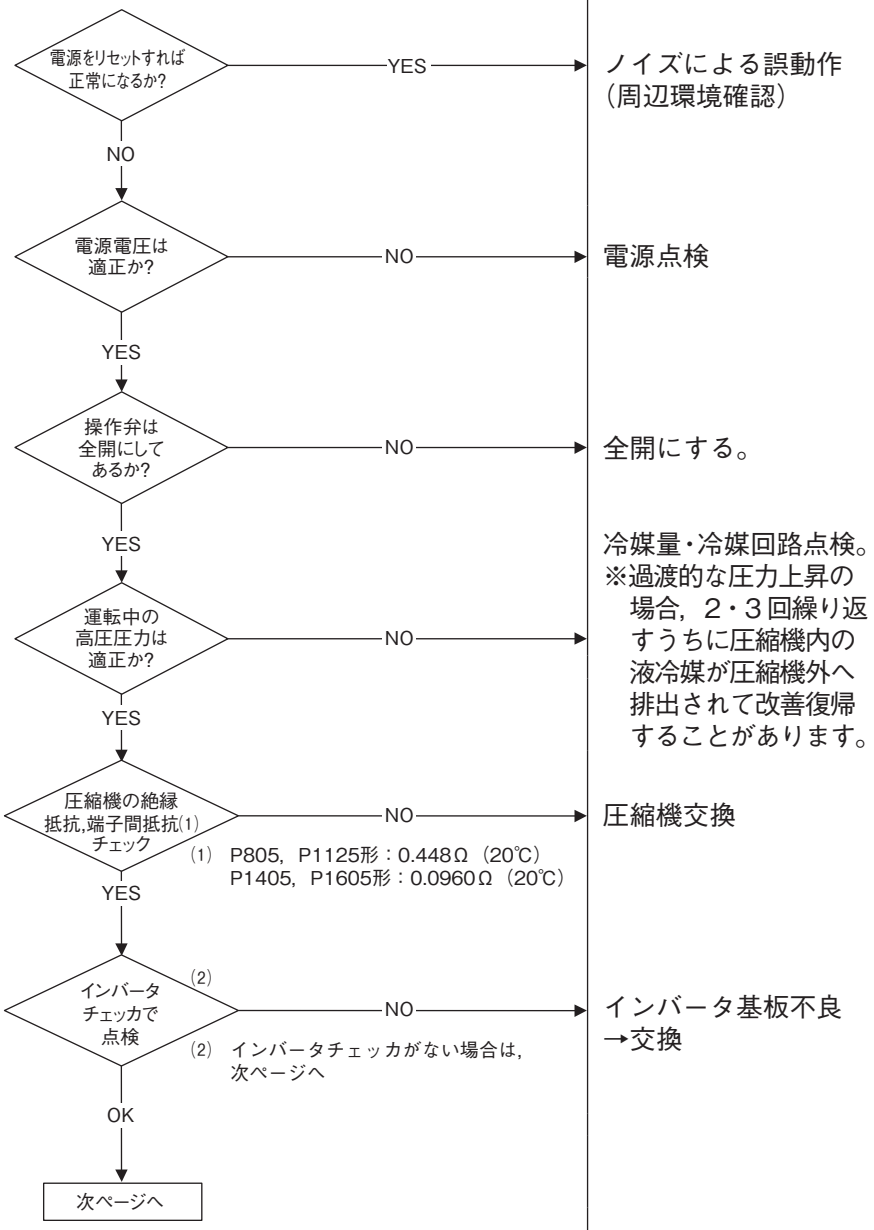
3．異常発生条件

インバータ出力電流が設定値を超えると圧縮機を停止します。3 分遅延後，再始動しますが 30分間に4回作動した時。

4．予想原因

・インバータ基板不良
・電源不良
・冷媒量不良
・圧縮機不良
・パワトラモジュール不良

5．故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E42	室内	連続点滅	消灯	カレントカット(その2)
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

インバータ部の過電流を防止，電流が設定値を超えると圧縮機を停止させます。

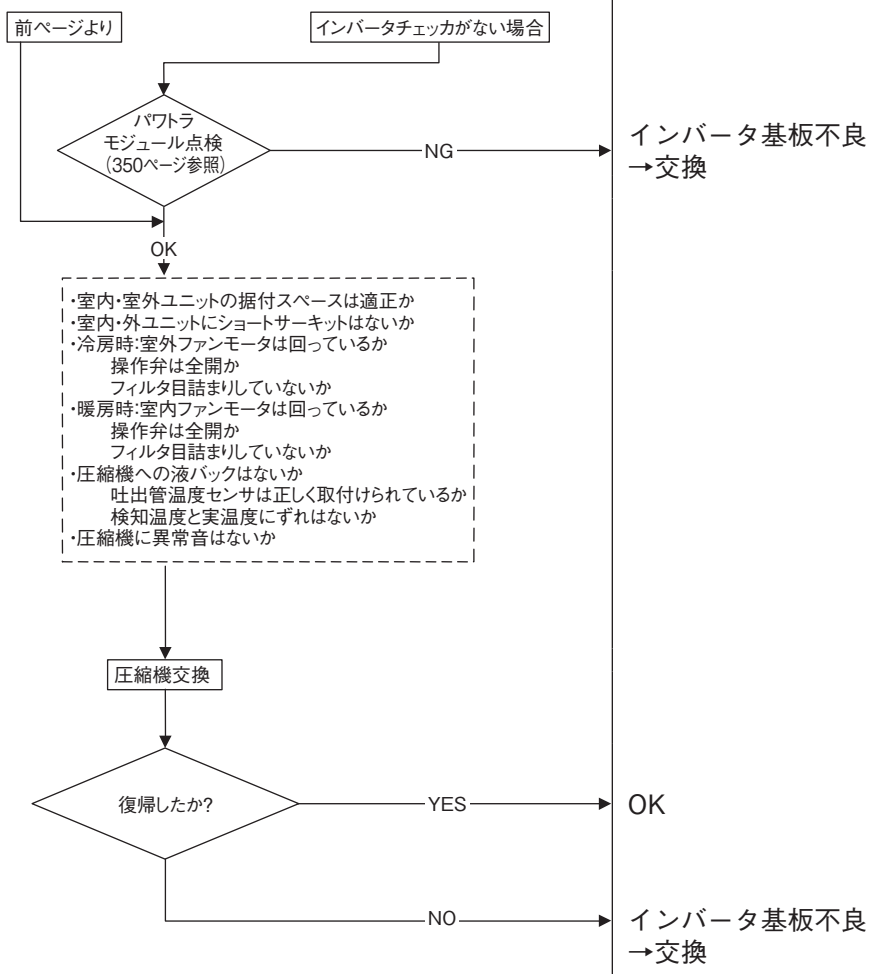
3. 異常発生条件

インバータ出力電流が設定値を超えると圧縮機を停止します。3分遅延後，再始動しますが30分間に4回作動した時。

4. 予想原因

・インバータ基板不良
・電源不良
・冷媒量不良
・圧縮機不良
・パワトラモジュール不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン: E45	LED	緑	赤	内容	インバータ通信異常 (FDCKP805, 1125 形のみ)
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

FDCKP805, 1125形

2. 異常検出方法

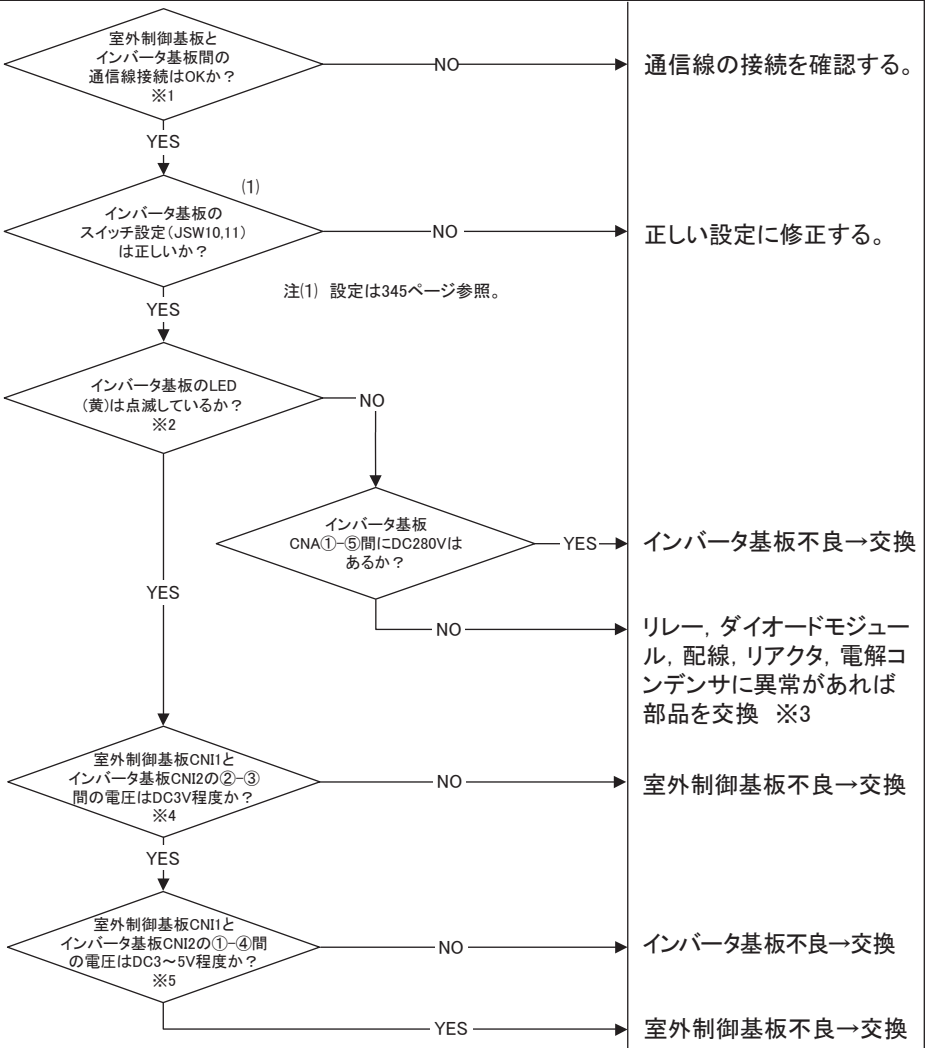
3. 異常発生条件

インバータ基板と室外制御基板間の通信が成立しないとき

4. 予想原因

- 室外制御基板ーインバータ基板間の配線接続不良
- インバータ基板不良
- 室外制御基板不良
- リレー, ダイオードモジュール, 配線, リアクタ, 電解コデンサ等の不良

5. 故障診断と処置



注記:※1 室外制御基板CnI1～インバータ基板CnI2の各ピン間の導通を確認する。 ※2 リセット後, 運転状態を確認する。
※3 下記部品の状態を確認する。リレーの溶着, ダイオードモジュールの短絡, 電解コンデンサの短絡, 配線の誤接続・損傷等。
※4 テスタの測定レンジをACレンジにして測定する。 ※5 テスタの測定レンジをDCレンジにして測定する。

表示 リモコン：E45	LED	緑	赤	内容	インバータ通信異常 （FDCKP1405，1605形のみ）
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1回点滅		

1．対象機種

FDCKP1405，1605形

2．異常検出方法

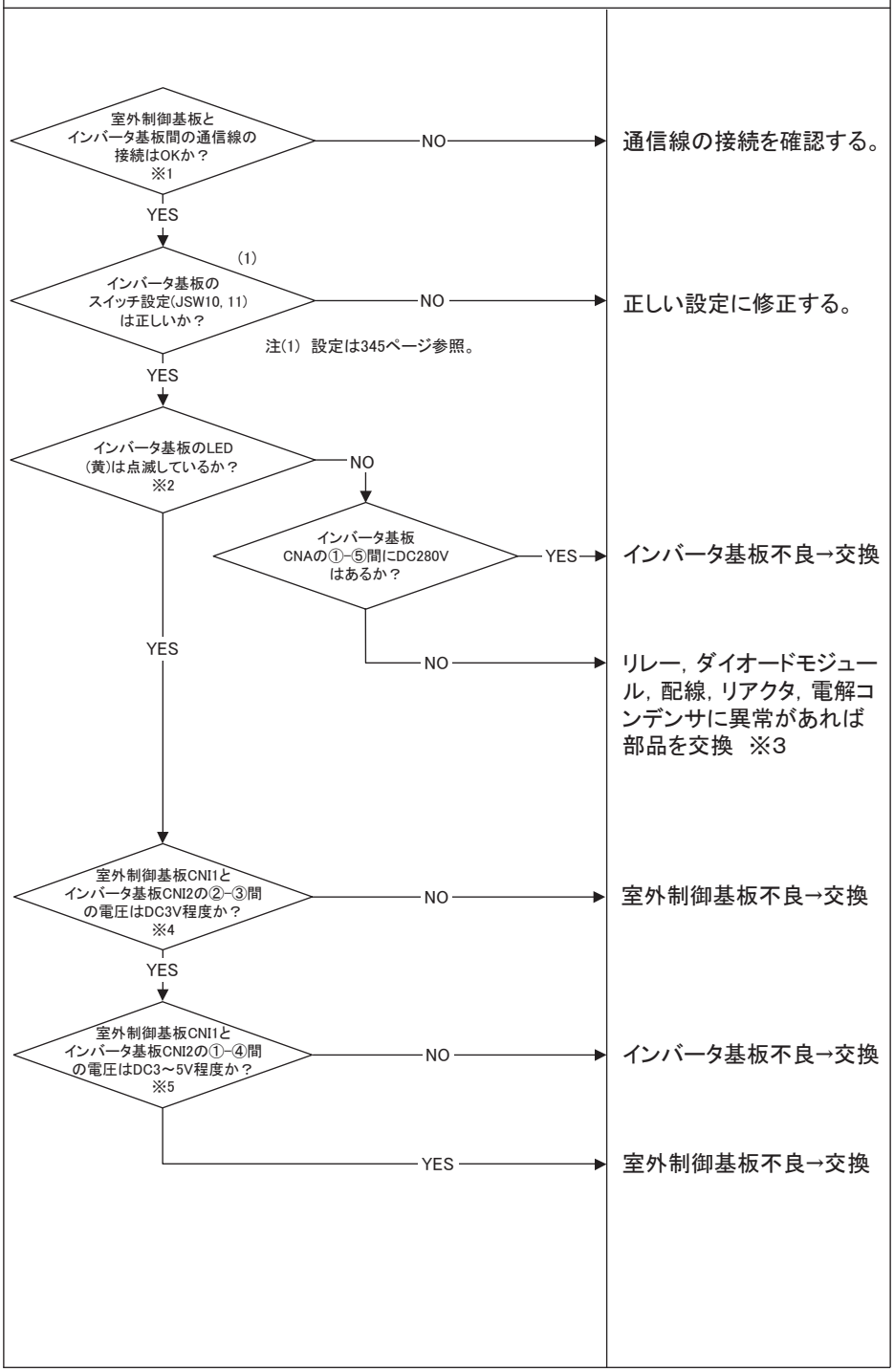
3．異常発生条件

インバータ基板と室外制御基板間の通信が成立しないとき

4．予想原因

- 室外制御基板ーインバータ基板間の配線接続不良
- インバータ基板不良
- 室外制御基板不良
- リレー，ダイオードモジュール，配線，リアクタ，電解コンデンサ等の不良

5．故障診断と処置



注記：※1 室外制御基板CNI1〜インバータ基板CNI2の各ピン間の導通を確認する。
※2 リセット後，運転状態を確認する。
※3 下記部品の状態を確認する。
リレーの溶着，ダイオードモジュールの短絡，電解コンデンサの短絡，配線の誤接続・損傷等。
※4 テスタの測定レンジをACレンジにして測定する。
※5 テスタの測定レンジをDCレンジにして測定する。

表示 リモコン:E47	LED	緑	赤	内容	AF 異常 （FDCKP805，1125形のみ）
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1．対象機種

FDCKP805,1125形

2．異常検出方法

インバータ基板より AF 異常を 60 分間に 4 回検知，または 15 分継続した場合

3．異常発生条件

同上。

4．予想原因

・インバータ基板不良
・インバータ基板の塵埃
・電源電圧異常

5．故障診断と処置

診　断	処　置
電源電圧は指定範囲内か?（AC200V±10%） → NO	電圧を点検してください。
YES → インバータ基板の半田面に塵埃･汚れ等の異物はないか? → NO	異物を取り除く。
YES	インバータ基板不良→交換

注記：

表示 リモコン:E48	LED	緑	赤	内容	室外ファンモータ不良
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

室外ファンモータ回転数

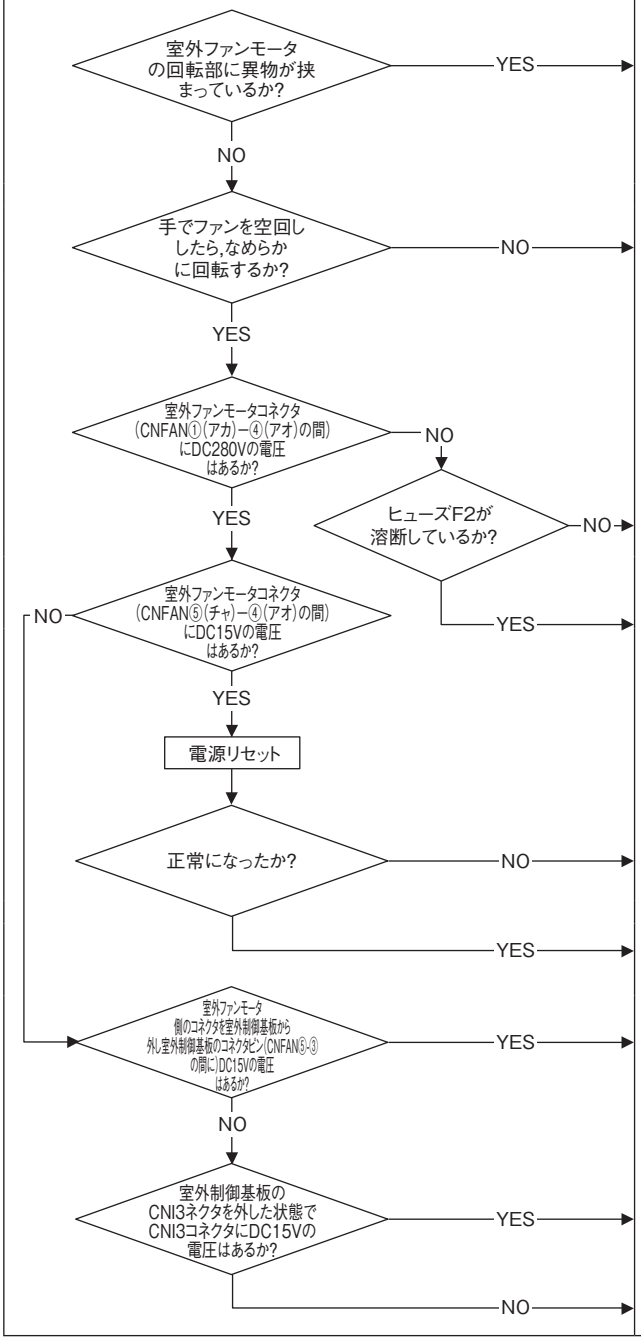
3．異常発生条件

室外ファンモータ（FMo1，2）の実回転が30 秒連続して 100min^{-1} 以下になると圧縮機，室外ファンモータを停止します。3 分遅延後自動復帰しますが 60 分以内に 5 回作動した場合。

4．予想原因

- 室外制御基板不良
- インバータ基板不良
- 室外ファンモータの回転部の異物
- 室外ファンモータ不良
- 室外制御基板の塵埃
- ヒューズ溶断
- 外来ノイズ，サージ

5．故障診断と処置



注記：E48 発生時は，ほとんどの場合室外制御基板上の F2 ヒューズ（4A）が断線しています。室外ファンモータ破損により，ヒューズが断線して E48 に至るケースが多く，室外制御基板（ヒューズ）交換のみを実施した場合には他のトラブル（※ 1）を発生するケースがありますので F2 ヒューズ断線時には，必ず室外ファンモータの故障有無をチェックし，室外ファンモータ交換後に通電確認を実施してください。室外ファンモータの故障有無未確認のまま電源投入しないでください。（※ 1：内機確認中表示／室外制御基板 LED 消灯，インバータ通信異常（E45）といった，一見室外ファンモータ異常と関係の無い異常が発生します。）

表示 リモコン:E49	LED	緑	赤	内容 低圧圧力異常　または低圧圧力センサ不良（その1）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1回点滅	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

低圧圧力低下，吸入過熱度の検知

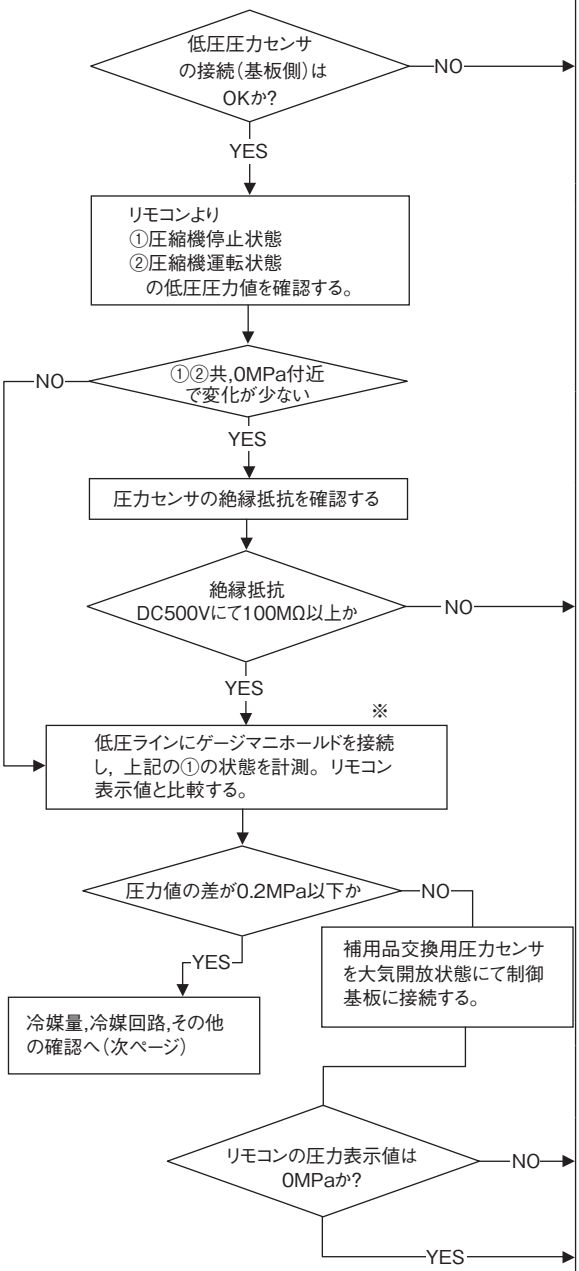
3．異常発生条件

①低圧センサが0.079MPa以下を連続15秒間検知（3分遅延後自動復帰）が60分以内に3回成立した場合に表示。
②圧縮機始動10分経過以降且つ低圧センサが0.15MPa以下を連続60秒間検知かつ圧縮機吸入過熱度が30℃以上を連続60秒間が，60分以内に3回発生した場合に表示。
③低圧センサが0.079MPa以下を連続5分間検知（圧縮機停止中含む）が成立した場合即表示。

4．予想原因

・室外制御基板不良
・低圧圧力センサコネクタ不良
・低圧圧力センサ不良
・吸入管温度センサコネクタ不良
・吸入管温度センサ不良

5．故障診断と処置



注記：※ゲージマニホールドは，冷房時は操作弁チェックジョイント，暖房時は室外ユニット機械室内より取出しているチェックジョイントに接続。

表示 リモコン:E49	LED	緑	赤	内容 低圧圧力異常　または低圧圧力センサ不良（その２）
	室内	連続点滅	消灯	
	室外	連続点滅	1 回点滅	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

低圧圧力低下，吸入過熱度の検知

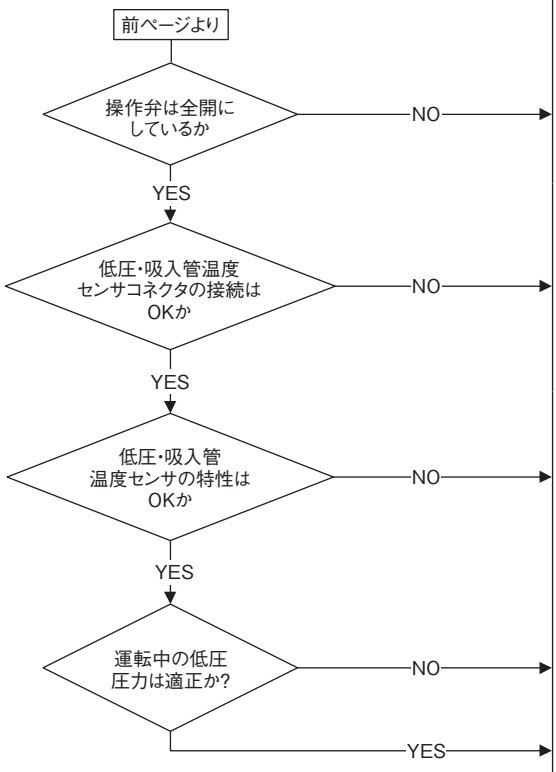
3．異常発生条件

①低圧センサが 0.079MPa 以下を連続 15 秒間検知（3 分遅延後自動復帰）が 60 分以内に 3 回成立した場合に表示。
②圧縮機始動 10 分経過以降且つ低圧センサが 0.15MPa 以下を連続 60 秒間検知かつ圧縮機吸入過熱度が 30℃以上を連続 60 秒間が，60 分以内に 3 回発生した場合に表示。
③低圧センサが 0.079MPa 以下を連続 5 分間検知（圧縮機停止中含む）が成立した場合即表示。

4．予想原因

・室外制御基板不良
・低圧圧力センサコネクタ不良
・低圧圧力センサ不良
・吸入管温度センサコネクタ不良
・吸入管温度センサ不良

5．故障診断と処置



診　断	処　置

注記：

表示 リモコン:E51	LED	緑	赤	内容	インバータ・ 室外ファンモータ異常
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

パワートランジスタ異常が 15 分継続した場合

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・室外ファンモータ不良
・インバータ基板不良
・室外制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
・FDCKP805，1125形	
室外制御基板のCNI3(②-③間)にDC15Vはあるか? YES →	インバータ基板不良→交換 (それでも直らなければノイズフィルタ基板交換)
NO → 室外ファンモータのコネクタを外すとDC15Vは復帰するか? YES →	室外ファンモータ交換
NO →	室外制御基板不良→交換 (それでも直らなければインバータ基板交換)
・FDCKP1405，1605形	
インバータ基板交換 → 復帰したか? YES →	OK
NO →	パワトラ交換

注記：

表示 リモコン:E53	LED	緑	赤	内容	吸入管温度センサ不良
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

吸入管温度センサの異常低温（抵抗）の検知

3. 異常発生条件

圧縮機ON後10分から10分20秒の間に温度センサが－50℃以下を連続5秒間検知すると圧縮機を停止，3分遅延後に圧縮機を再起動させ40分に3回検知した場合。

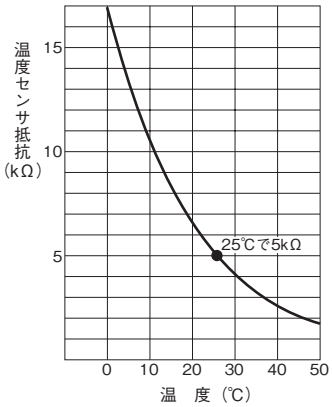
4. 予想原因

・吸入管温度センサ接続不良
・吸入管温度センサ不良
・室外制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吸入管温度センサコネクタの接続はOKか → NO	吸入管温度センサコネクタ接続修正
YES → 吸入管温度センサ特性は下図参照	
吸入管温度センサの特性はOKか → NO	吸入管温度センサ不良→交換
YES	室外制御基板不良→交換 （吸入管温度センサ入力回路不良）

吸入管温度センサ
温度－抵抗特性



注記：

表示 リモコン:E54	LED	緑	赤	内容	低圧圧力センサ不良
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

異常電圧（圧力）の検出

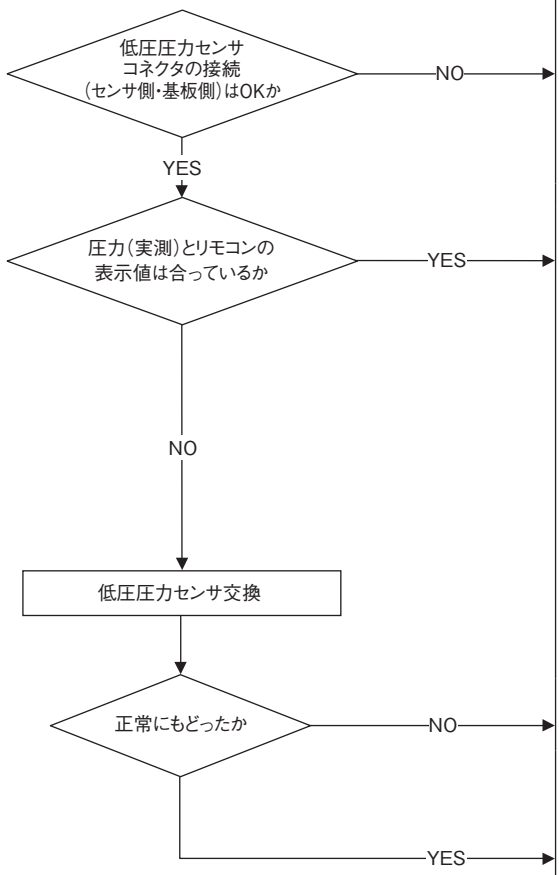
3. 異常発生条件

圧縮機 ON 後 2 分～2 分 20 秒の間に圧力センサが 0V 以下および 4.0V 以上を連続 5 秒検知すると圧縮機を停止，3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。

4. 予想原因

・低圧圧力センサ接続不良
・低圧圧力センサ不良
・室外制御基板不良
・冷媒量不適格
・冷媒回路異常

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E55	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	消灯
	室外	連続点滅	1 回点滅

内容 ドーム下温度センサ不良
（FDCKP1405，1605 形のみ）

1．対象機種

FDCKP1405，1605 形

2．異常検出方法

ドーム下温度センサの異常低温（抵抗）の検知

3．異常発生条件

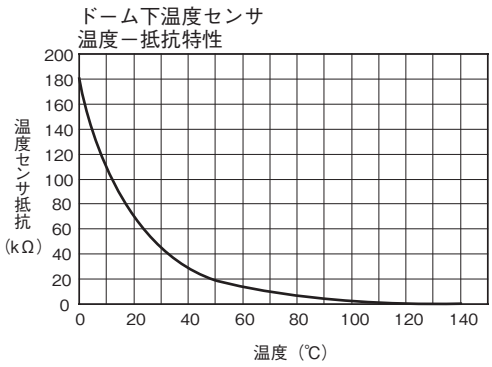
圧縮機 ON 後 10 分から 10 分 20 秒の間に温度センサが－50℃以下を連続 5 秒間検知すると圧縮機を停止，3 分遅延後に圧縮機を再起動させ 40 分に 3 回検知した場合。

4．予想原因

- ドーム下温度センサ接続不良
- ドーム下温度センサ不良
- 室外制御基板不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
ドーム下温度センサコネクタの接続OKか → NO	ドーム下温度センサコネクタ接続修正
YES ↓ ドーム下温度センサ特性は下図参照	
ドーム下温度センサの特性はOKか → NO	ドーム下温度センサ不良→交換
YES	室外制御基板不良→交換 （ドーム下温度センサ入力回路不良）



注記：

表示 リモコン:E57	LED	緑	赤	内容	冷媒量不足または 操作弁閉検出
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1 回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

・室内熱交温度（Thi-R）と室内吸込温度（Thi-A）差を検知しガスロー状態を判断します。
FDCKP805，1125形は，ブレーカ電源投入より1回目の冷房・除湿起動時のみ検出します。

3. 異常発生条件

冷媒量不足異常を 60 分以内に 2 回検知した場合。
注(1) FDCKP805，1125 形は 1 回で異常発生します。

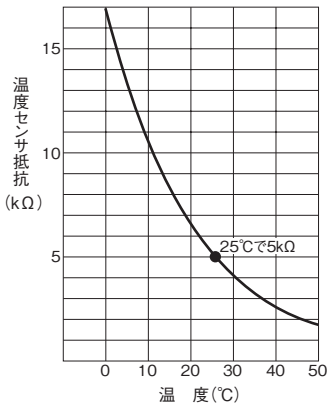
4. 予想原因

・室内熱交温度センサ不良
・室内吸込温度センサ不良
・室内制御基板不良
・冷媒不足

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
操作弁は全開にしているか → NO	全開にする。
YES → 室内熱交･吸込温度センサコネクタの接続はOKか → NO	室内熱交・吸込温度センサコネクタ接続修正
YES → 室内熱交･吸込温度センサ特性は下図参照 室内熱交･吸込温度センサの特性はOKか → NO	室内熱交・吸込温度センサコネクタ不良→交換
YES → 運転中の低圧圧力は適正か? → NO	冷媒チャージ
YES	室内制御基板不良→交換 （室内熱交・吸込温度センサ入力回路不良）

室内熱交･吸込温度センサ
温度一抵抗特性



注記：冷媒量不足保護制御は圧縮機始動から冷房・除湿：1 分，暖房 9 分経過後に室内熱交温度（Thi-R）と室内吸込温度（Thi-A）差を検知しガスロー状態を判断し圧縮機を停止します。（冷房：室内吸込温度（Thi-A）- 室内熱交温度（Thi-R）≧ 4deg，暖房：室内熱交温度（Thi-R）- 室内吸込温度（Thi-A）≦ 4deg）

表示 リモコン： E58	LED	緑	赤	内容	圧縮機脱調異常 （FDCKP805，1125形のみ）
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	1回点滅		

1．対象機種

FDCKP805，1125形

2．異常検出方法

E58発生

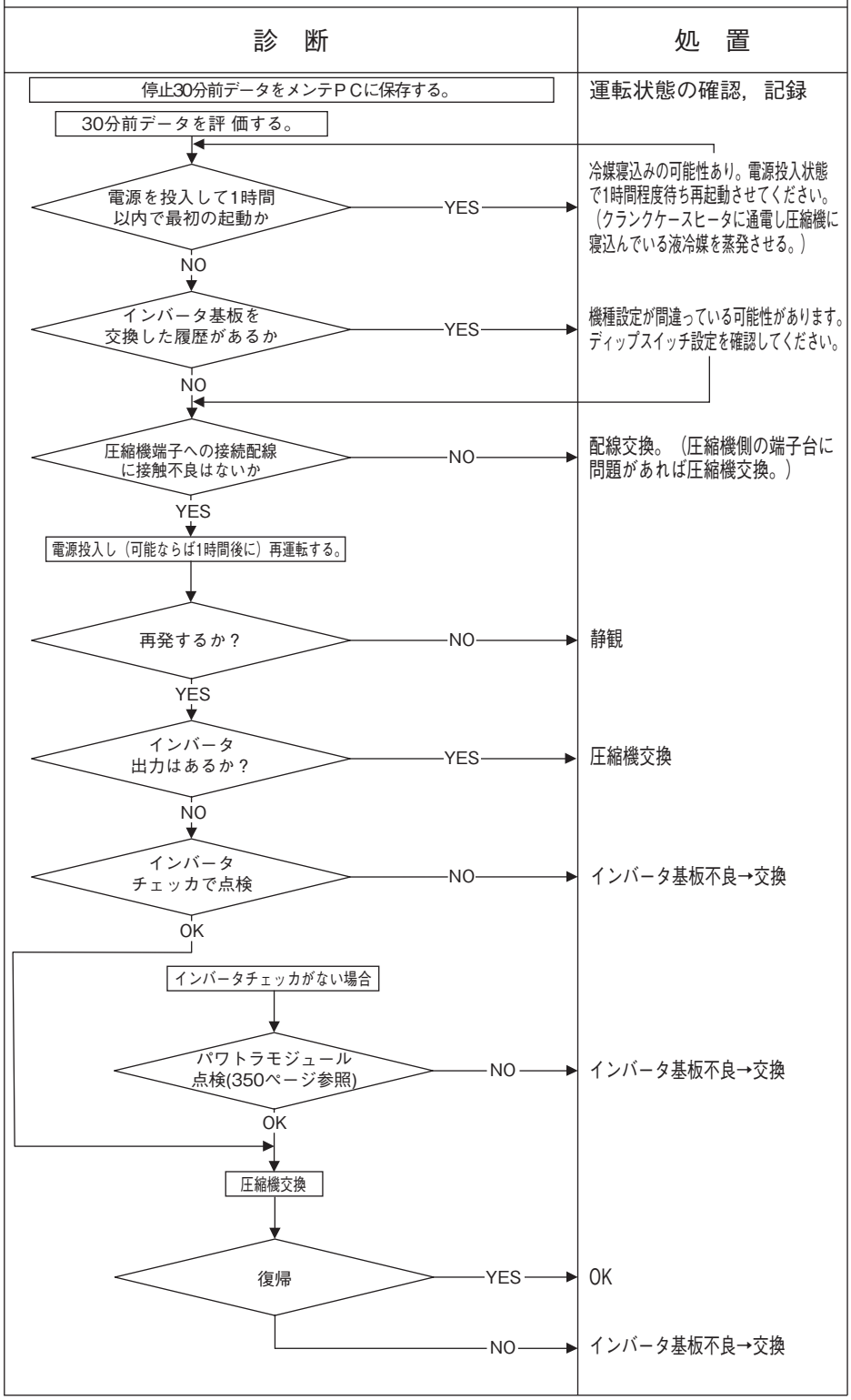
3．異常発生条件

15分以内に4回成立した場合

4．予想原因

・起動前の通電時間不足（クランクケースヒータ未通電による起動）
・圧縮機不良
・インバータ基板不良
・パワトラ不良

5．故障診断と処置



注記：　※1 測定箇所　C19の＋－間
　　※2 測定箇所　P-U,P-V,P-W,N-U,N-V,N-W,P-N間の抵抗値を確認する。（圧縮機の配線を外して確認すること。）
　　再現しない場合は、メンテPCを接続しデータ取得を継続する。（各地区の技術課が管理する。）

表示 リモコン:E59	LED	緑	赤	内容	圧縮機起動異常
	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	5回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

圧縮機モータのロータ位置検出運転に移行できない。

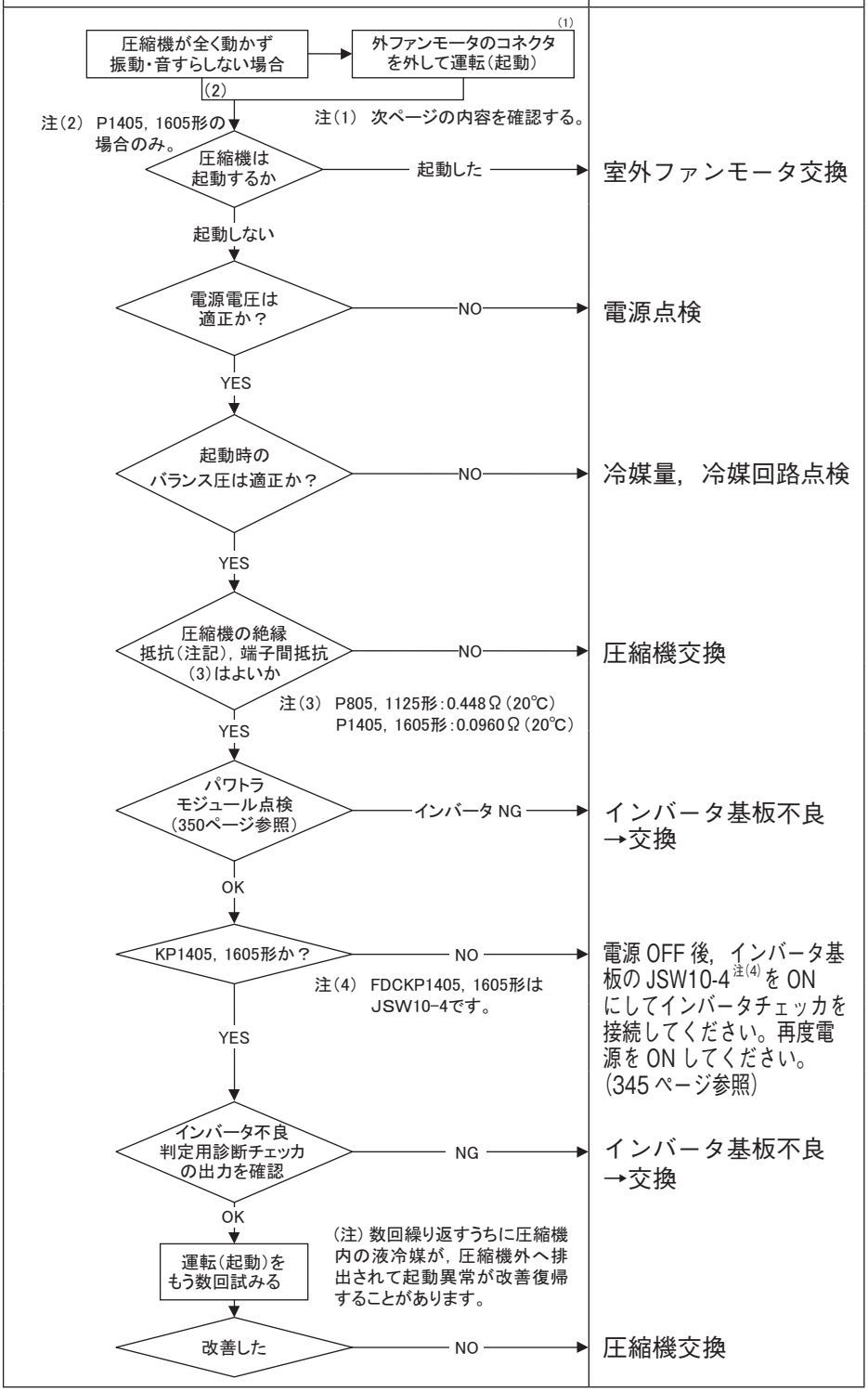
3. 異常発生条件

起動10回トライを20セット実施しても起動できない場合。3分経過後にリモコンリセット可能。

4. 予想原因

- 室外ファンモータ不良
- インバータ基板不良
- 電源電圧異常
- 冷媒量・冷媒回路不適合
- 圧縮機不良（モータ，軸受け）

5. 故障診断と処置



注記：絶縁抵抗について

●据付直後，もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合，圧縮機に冷媒が溜まることにより，絶縁抵抗が数MΩまで抵下することがあります。絶縁抵抗が小さく，漏電ブレーカが作動する場合は，以下の事項を確認ください。

①電源を投入し，6時間程度経過後，絶縁抵抗が復帰するが確認する。
電源を投入することにより，圧縮機に通電加熱を行い，圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。

②漏電ブレーカが高調波対応品であるか確認する。
本機はインバータを装備しており，漏電ブレーカの誤動作を防止するため，高調波対応品を使用してください。

表示	LED	緑	赤	内容	圧縮機起動異常
リモコン:E59	室内	連続点滅	消灯		
	室外	ー	5回点滅		

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

圧縮機モータのロータ位置検出運転に移行できない。

3. 異常発生条件

起動10回トライを5セット実施しても起動できない場合。3分経過後にリモコンリセット可能。

4. 予想原因

・室外ファンモータ不良
・室外制御基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室外制御基板のCNI3(②-③間)にDC15Vはあるか? → YES	前ページのフローにもどる。
NO → 室外ファンモータのコネクタを外すとDC15Vは復帰するか? → YES	室外ファンモータ交換
NO	室外制御基板不良→交換

注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:冷媒センサーが故障しています	室内	消灯	連続点滅	
	室外	ー	消灯	

冷媒センサ故障
（FDFシリーズ）

1．対象機種

FDFシリーズのみ

2．異常検出方法

・冷媒センサから故障信号を検知

3．異常発生条件

・冷媒センサが故障した場合

4．予想原因

・冷媒センサ不良
・配線不良（警報出力を誤検知）

5．故障診断と処置

診　断	処　置
配線に間違いはあるか? → YES	配線修正 →冷媒センサを交換
配線に間違いはあるか? → NO	冷媒センサ不良 →冷媒センサを交換

注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:冷媒センサーが外れています	室内	消灯	消灯	冷媒センサ外れ（FDFシリーズ）
	室外	ー	消灯	

1．対象機種

FDFシリーズのみ

2．異常検出方法

・冷媒センサからの出力により検知

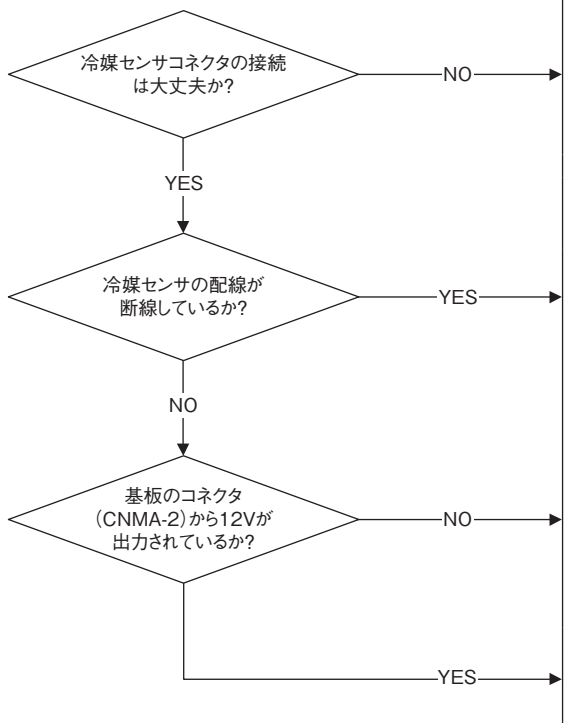
3．異常発生条件

・冷媒センサからCNMA-4,CNZ-1へのいずれかの出力が5秒間検知できない場合

4．予想原因

・冷媒センサコネクタ不良
・冷媒センサ不良
・冷媒センサ配線不良
・室内制御基板不良

5．故障診断と処置



注記：

16. 標準運転データ

◆ 暖ガンハイパーインバーターシリーズ

(1) 冷房運転

(a) 冷房定格

JIS定格条件　　室内：27℃DB/19℃WB　　配管長：7.5m
室外：35℃DB/24℃WB

項目 / 形式	圧縮機回転数 rps	高圧圧力 MPa	低圧圧力 MPa	吐出管温度 ℃	吸入管温度 ℃	ドーム温度 ℃	吹出温度 ℃
KP805	37	2.43	1.16	68	18	61	15
KP1125	57	2.60	1.06	77	15	70	14
KP1405	44	2.49	0.94	66	13	27	13
KP1605	53	2.55	0.88	69	11	30	12

(b) 冷房過負荷

室内：32℃DB/23℃WB　　配管長：10m
室外：43℃DB/26℃WB　　電源電圧：180V

項目 / 形式	圧縮機回転数 rps	高圧圧力 MPa	低圧圧力 MPa	吐出管温度 ℃	吸入管温度 ℃	ドーム温度 ℃	吹出温度 ℃
KP805 KP1125	100	3.41	1.01	94	12	85	18
KP1405 KP1605	84	3.25	0.81	92	13	41	14

(c) 冷房低温

室内：21℃DB/15℃WB　　配管長：10m
室外：-15℃DB

項目 / 形式	圧縮機回転数 rps	高圧圧力 MPa	低圧圧力 MPa	吐出管温度 ℃	吸入管温度 ℃	ドーム温度 ℃	吹出温度 ℃
KP805 KP1125	55	0.68	0.38	40	8	31	18
KP1405 KP1605	53	1.50	0.72	42	5	16	6

(2) 暖房運転

(a) 暖房定格

JIS定格条件　　室内：20℃DB　　配管長：7.5m
室外：7℃DB/6℃WB

項目 / 形式	圧縮機回転数 rps	高圧圧力 MPa	低圧圧力 MPa	吐出管温度 ℃	吸入管温度 ℃	ドーム温度 ℃	吹出温度 ℃
KP805	48	2.02	0.78	59	3	49	33
KP1125	68	2.20	0.75	68	1	68	36
KP1405	50	2.44	0.74	70	4	19	40
KP1605	58	2.63	0.72	73	4	22	44

(b) 暖房過負荷

室内：30℃DB　　配管長：10m
室外：24℃DB/18℃WB　　電源電圧：180V

項目 / 形式	圧縮機回転数 rps	高圧圧力 MPa	低圧圧力 MPa	吐出管温度 ℃	吸入管温度 ℃	ドーム温度 ℃	吹出温度 ℃
KP805 KP1125	72	3.09	1.00	85	11	74	46
KP1405 KP1605	52	3.54	1.10	82	16	31	59

17. 耐重塩害仕様室外ユニット

◆　暖ガンハイパーインバータシリーズ

耐重塩害仕様室外ユニットを受注生産品としてシリーズ化しています。商品ご注文時，耐重塩害仕様室外ユニットとしてご注文してください。

●形式記号　（例）ＦＤＣＫＳＰ１４０５Ｈ

└──── 耐重塩害仕様

(1)　**形　式**

FDCKSP805H，1125H，1405H，1605H

(2)　**仕　様**

耐重塩害仕様室外ユニットは離島・沖縄地区等の海岸線に近く直接潮風の当たらない場所に設置できる仕様ですが，設置に当っては(3)項以降に留意してください。

部品名		仕様
外板		塗装用亜鉛メッキ鋼板+塗装(総合塗膜厚さ70μ以上)　下塗：カチオン電着塗装 上塗：ポリエステル系塗料粉体塗装 ※塗装色　スタッコホワイト(マンセル4.2Y7.5/1.1近似)
底板		Zn-Al-Mg合金メッキ鋼鈑+塗装(総合塗膜厚さ70μ以上)　下塗：カチオン電着塗装 上塗：ポリエステル系塗料粉体塗装 ※塗装色　スタッコホワイト(マンセル4.2Y7.5/1.1近似)
フィンガード		鉄線+樹脂コーティング
ファンガード		鉄線+樹脂コーティング
ファン		プラスチック
ファンモータ		亜鉛メッキ鋼鈑+プラスチック+防錆剤塗布
モータベース		外板と同じ
熱交換器	フィン	高耐食仕様プレコートアルミ(青色)
	配管	銅管+防錆剤塗布
	側板	亜鉛メッキ鋼板+防錆剤塗布
圧縮機		鋼管・銅管+焼付塗装+防錆剤塗布
レシーバ	P805, P1125	鋼管・銅管+焼付塗装+防錆剤塗布
アキュムレータ,レシーバ	P1405, P1605	
基板		全ての基板　CEM3銅張積層板+防湿材塗布
電装品箱		外板と同じ
仕切板		外板と同じ
操作弁ブラケット		外板と同じ
ねじ	P805，P1125	外側：ステンレス＋亜鉛コーティング+クロメート処理（＋フッ素コーティング） 内側：ステンレス＋亜鉛コーティング+クロメート処理（＋フッ素コーティング）
	P1405，P1605	外側：ステンレス＋亜鉛コーティング+クロメート処理＋フッ素コーティング 内側：ステンレス＋亜鉛コーティング+クロメート処理＋フッ素コーティング 鉄鋼＋亜鉛コーティング+クロメート処理，ステンレス＋ニッケルメッキ＋三価クロムメッキ
他（機能品，銘板など）		標準機と同じ

注(1)「耐重塩害仕様」は，日本冷凍空調工業会標準規格 JRA9002 に基づいています。
(2)　上表にて＿＿＿下線は，標準機仕様と異なる点を示します。

PCA001Z867

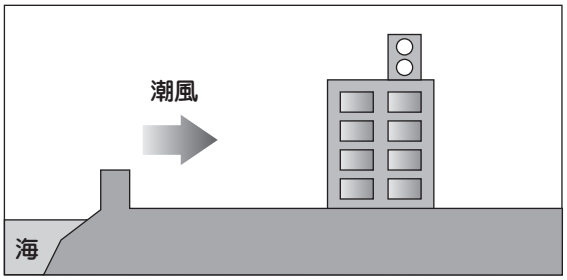
(3) 据付時・メンテナンス時の注意

(a) 建物の風下や軒下等に設置してください。
(b) 海岸線に設置する場合直接潮風が当たらないように防風板等を設けてください。
(c) 水はけのよい場所に設置してください。
(d) 据付時についた傷は補修をしてください。
(e) 取外したサービスパネル取付のねじは，作業終了後に確実に締付けられていることを確認してください。
(f) シーズンオフなどで長時間ユニットを停止する場合はユニットにカバーを掛ける等の処置をしてください。

(4) 据付上の注意（維持管理）

(a) 海水飛沫および潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。
また，波しぶき等が直接かかる場所への設置は避けてください。
(b) 外装パネルに付着した海塩粒子が雨水によって十分洗浄されるようにしてください。
室外ユニットには日除け等を取付けないなど配慮してください。
(c) 室外ユニット底板内への水の滞留は，著しく腐食状態を促進するため，
底板内の水抜け性を損なわないように，傾き等に注意してください。
(d) 海岸地帯への据付品については付着した塩分等を除去するために定期的に水洗いを行ってください。
(e) 据付，メンテナンス等に付いた傷は，補修してください。
(f) 機器の状態を定期的に点検してください。必要に応じて再防錆処理や部品交換等を実施してください。
(g) 基礎部分の排水性を確保してください。

(5) 据付場所について

	耐重塩害仕様
据付場所	潮風の影響を受ける場所 ただし，塩分を含んだ水が直接室外ユニットにかからない場所 
設置場所条件	• 室外ユニットに雨があまりかからない場所 • 潮風が直接当たる場所 • 室外ユニットの設置場所から海までの距離が約300m以内にある場所 • 室外ユニットが建物の表（海岸面）になる場所 • 室外ユニット設置場所付近のトタン屋根，ベランダの鉄製部の塗り替え等が多い場所

(6) 設置距離目安

直接風が当たるところ（設置環境により条件が変わります。）

設置する地域	設置距離目安		
	300m	500m	1km
内海に面する地域 ※1	H	L	–
外洋に面する地域	H		L
沖縄・離島	H		

H:耐重塩害仕様　L:耐塩害仕様　※1 瀬戸内海等

直接風が当たらないところ（設置環境により条件が変わります。）

設置する地域	設置距離目安		
	300m	500m	1km
内海に面する地域 ※1	L	–	
外洋に面する地域	H		L
沖縄・離島	H		L

H:耐重塩害仕様　L:耐塩害仕様　※1 瀬戸内海等

18. 別売品

(1) ワイヤレスキット

(a) FDT シリーズ

ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-T-5W，LA-T-5SB）

PJF012D034

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。

⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが侵入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-T-5W, LA-T-5SB

① 受信部		1
② 据付説明書 (本紙)		1

ワイヤレスリモコン (別売品)
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

現地設定

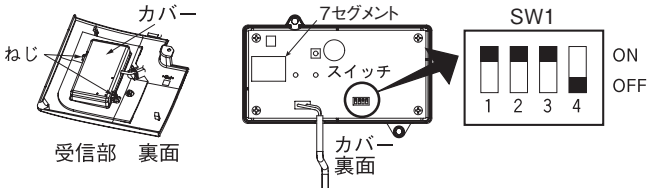
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は □ で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	ON : 通常	OFF : 切換
SW1-2	受信部の親子切換	ON : 親	OFF : 子
SW1-3	ブザー音	ON : 有効	OFF : 無効
SW1-4	停電補償	ON : 有効	OFF : 無効

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のねじ(2 本)を外し、カバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

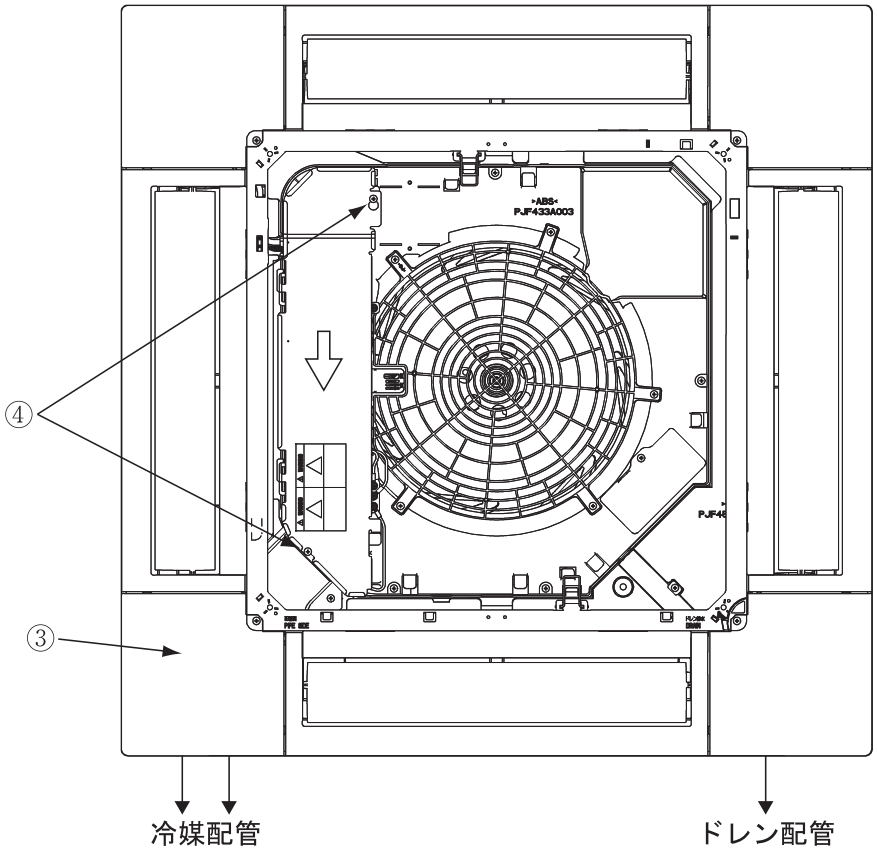
複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取付

取付前の準備

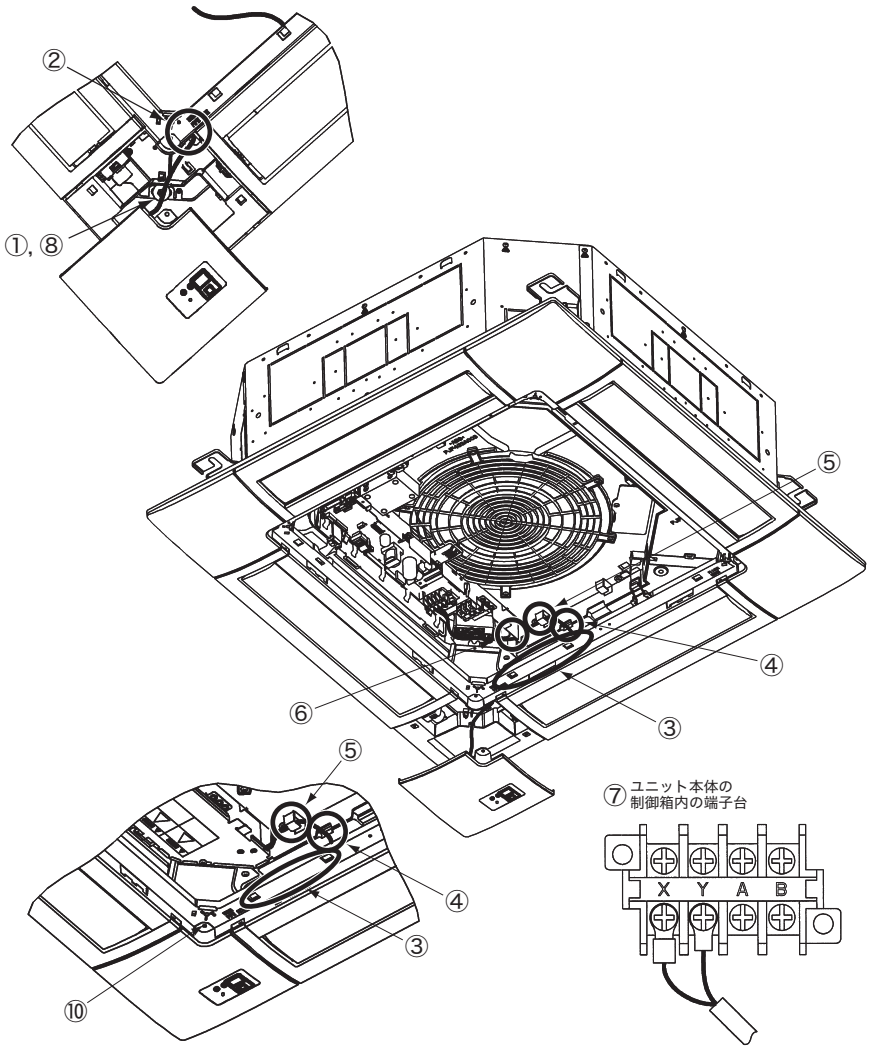
①パネルに付属の据付説明書に従って、パネルをユニット本体に取付けてください。
②吸込グリルを取外してください。
③冷媒配管部のコーナリッドを取外してください。
④ユニット本体の制御箱の蓋のねじ (2本) を緩め、図の矢印方向に蓋をスライドさせて取外してください。



③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

①パネル固定用ボルトを緩めて、パネルとユニット本体との隙間を開けてください。
②受信部の配線を開口部に通してください。
③パネルのユニット側にあるフックに配線を引掛けてください。
④図の位置より配線を引出してください。
⑤配線をユニット本体のフックに引掛けてください。
⑥図の位置より配線を制御箱の中に通してください。
⑦配線の丸端子を制御箱内の端子台（X、Y）に接続してください。配線に極性はありません。
⑧パネル固定用ボルトを締付けてください。
⑨受信部をパネルに取付けてください。
⑩パネルに付属のねじで受信部を固定してください。
⑪配線を噛込まないように、ユニット本体の制御箱の蓋を取付け、ねじ (2本) を締付けてください。

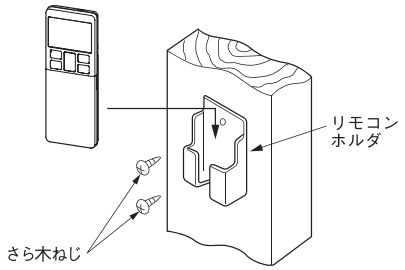


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

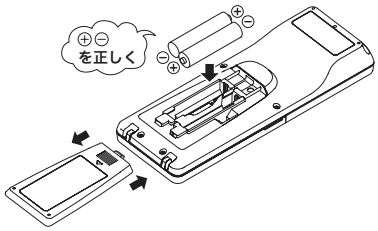
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



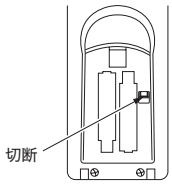
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



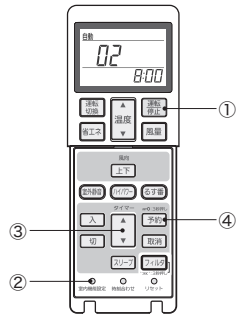
リモコンの設定変更

自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
　機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定1　※
	02	風速設定：設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：+1℃
	02	暖房室温補正：+2℃
	03	暖房室温補正：+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180時間
	02	フィルターサイン表示：600時間
	03	フィルターサイン表示：1000時間
	04	フィルターサイン表示：1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5時間
	02	冷房ファン残留運転：2時間
	03	冷房ファン残留運転：6時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5時間
	02	暖房ファン残留運転：2時間
	03	暖房ファン残留運転：6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は293ページを参照ください。

⑤ 受信部

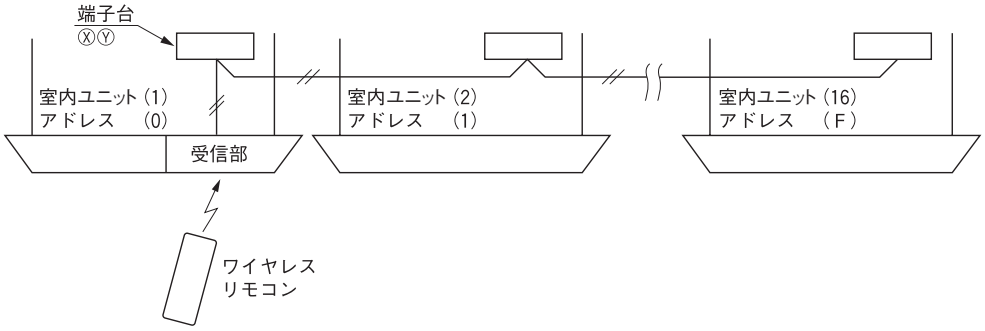
1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW２により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

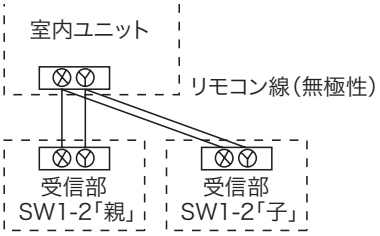


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

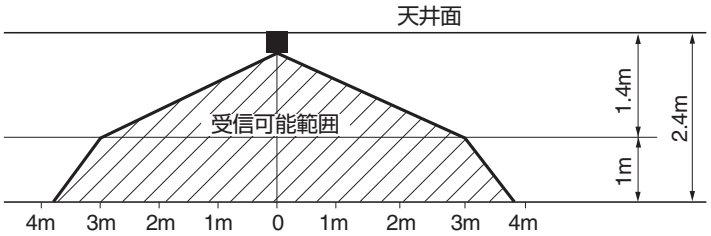
室内ユニット１台（または１グループ）に対して最大２個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

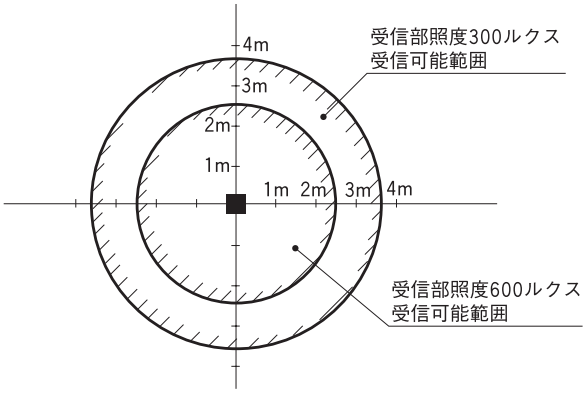
1. 標準的な受信距離
   ［条件］受信部照明度300ルクス
   （一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1.0m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となる。



3. 複数台近接設置の注意

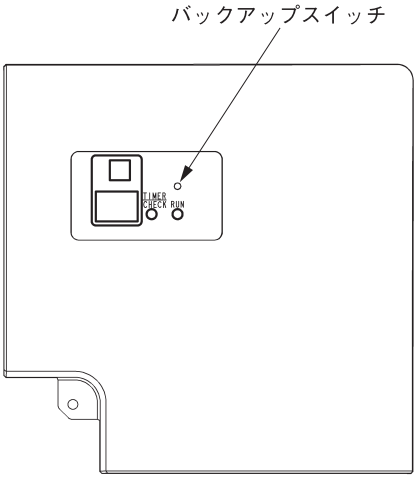
［条件］　受信部照明度300ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）

［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5 mです。

バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコンで操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
   風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. 2 秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信または、バックアップスイッチ「停止」操作後 3 分間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

(b) FDTW シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-TW）

PJB012D307

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが侵入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-TW

① 受信部	1
② パーツセット	1
③据付説明書	1

① 配線クランプ	2
② 同上ねじ	2
③グロメット	1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン	1
② リモコン用ホルダ	1
③ 同上用木ねじ	2
④ リモコン用電池	2
⑤ 取扱説明書	1

② 取付前の準備

受信部の設定

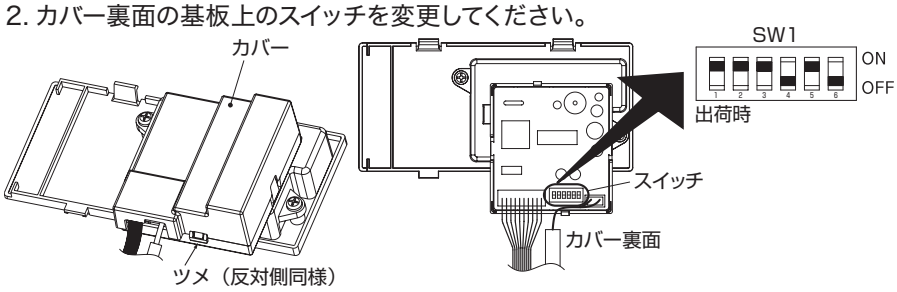
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [　] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常] OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON：親] OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有り] OFF：無し
SW1-4	停電補償	ON：有効 [OFF：無効]
SW1-5	点検表示	[ON：有効] OFF：無効
SW1-6	機種	ON：FDK [OFF：FDTW]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のカバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はリモコン側も設定変更 してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

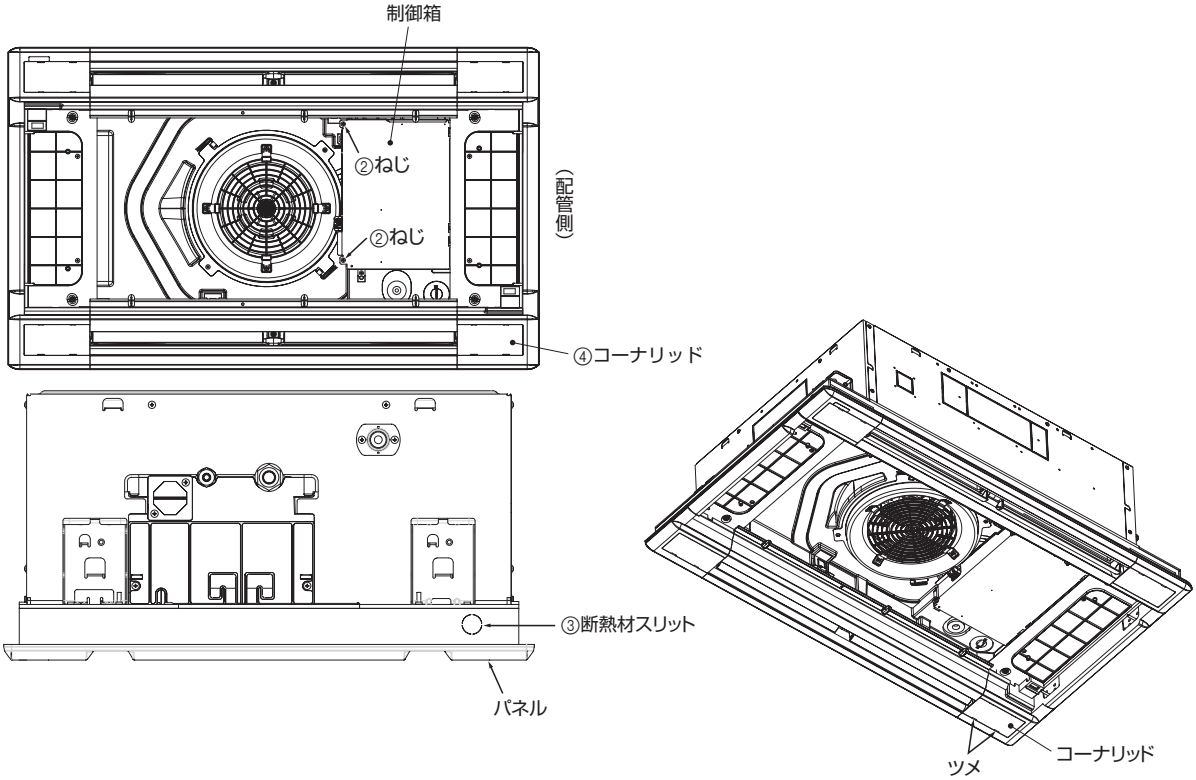
1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取付可能です。

取付前の準備

① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
② エアコン本体の制御箱の蓋（ねじ 2 個）を取外してください。
③ パネル側面に貼り付けられた断熱材のスリットを切取ってください。
④ コーナリッドのツメをマイナスドライバー等で取外してください。

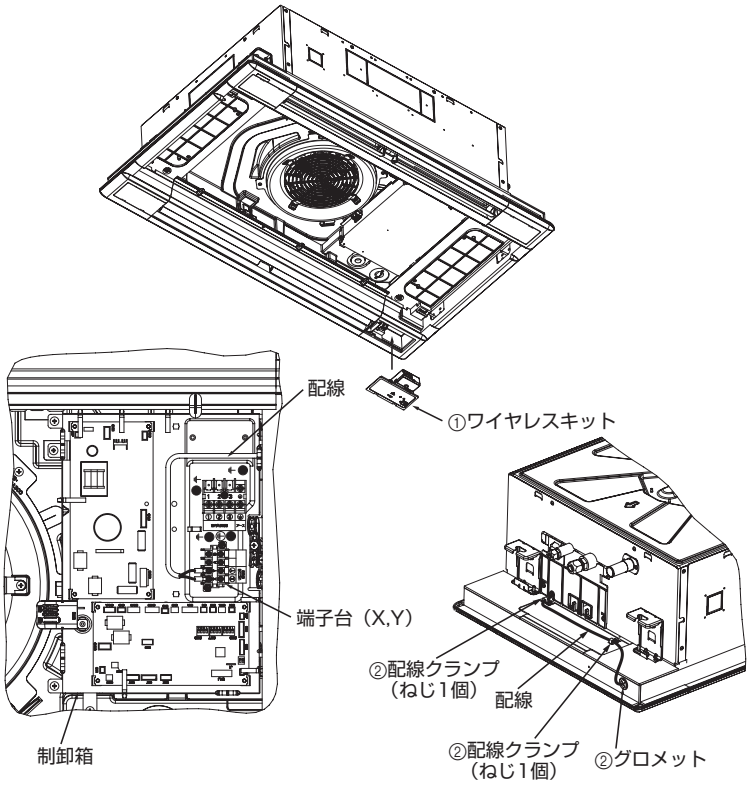


③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

① 下図に示すようにワイヤレスキットをパネルに取付けてください。
② グロメットおよび配線クランプを取付けてください。
③ ワイヤレスキットの配線を下図に示すように、コントロールボックスに入れてください。
④ 配線を制御箱内の端子台 (X、Y) に接続してください。(無極性)
⑤ 制御箱の蓋を外したねじ (2 本) を用いて取付けてください。

※ ご注意：取付の際、配線をはさまないようにしてください。

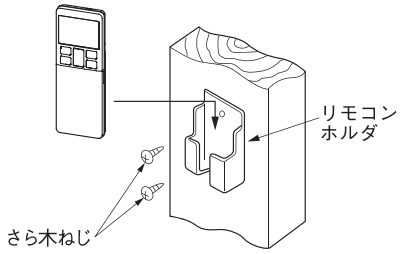


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

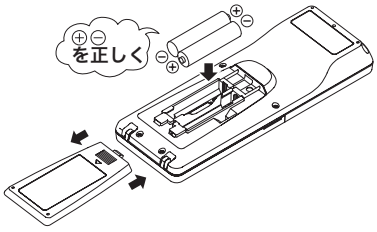
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



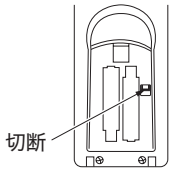
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



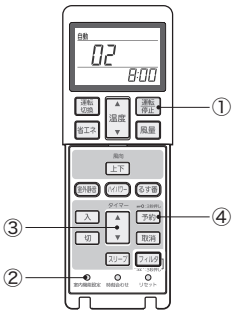
リモコンの設定変更

自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定:標準
	01	風速設定:設定1　※
	02	風速設定:設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正:無効
	01	暖房室温補正:+1℃
	02	暖房室温補正:+2℃
	03	暖房室温補正:+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示:なし
	01	フィルターサイン表示:180時間
	02	フィルターサイン表示:600時間
	03	フィルターサイン表示:1000時間
	04	フィルターサイン表示:1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定(エアフレックス設定):無効
	01	ドラフト防止設定(エアフレックス設定):有効
室外静音	00	人感センサー設定:無効
	01	人感センサー設定:有効
ハイパワー	00	人感センサー制御:無効
	01	人感センサー制御:パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御:オートオフのみ
	03	人感センサー制御:パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転:無効
	01	冷房ファン残留運転:0.5時間
	02	冷房ファン残留運転:2時間
	03	冷房ファン残留運転:6時間
切	00	暖房ファン残留運転:無効
	01	暖房ファン残留運転:0.5時間
	02	暖房ファン残留運転:2時間
	03	暖房ファン残留運転:6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED:輝度明
	01	リモコン信号受信部LED:輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED:消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長:0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長:0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長:2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長:3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長:4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数:50Hz
	60	グリル自動昇降周波数:60Hz

※　詳細は293ページを参照ください。

⑤ 受信部

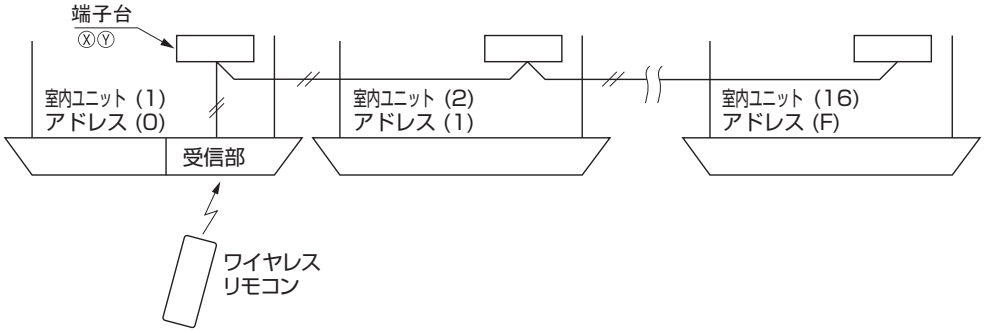
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

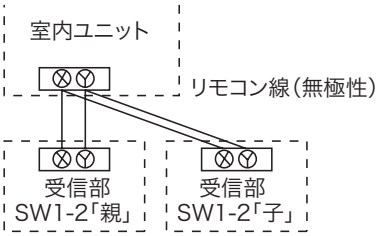


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

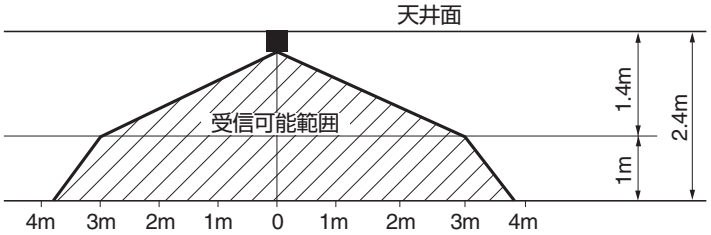
室内ユニット1台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

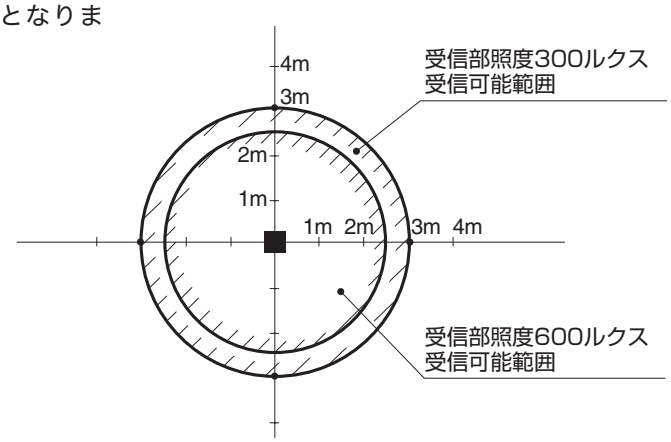
ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離
   ［条件］受信部照明度300ルクス
   （一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
   [条件] 天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。 照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となります。

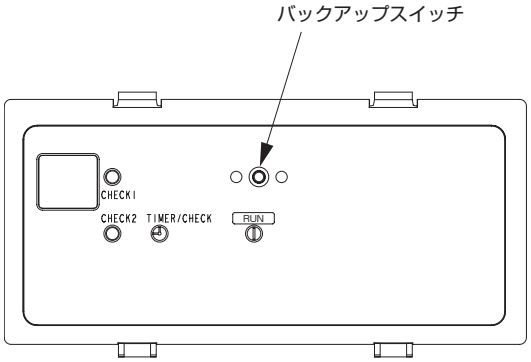


3. 複数台近接設置の注意
   [条件] 受信部照明度 300 ルクス
   (一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)
   [複数台近接設置] リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合 (電池切れ、紛失、故障) に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード (冷専は冷房モード) で運転します。
   風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. ラクリーナパネル使用時、2 秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



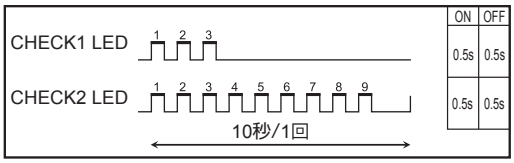
冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

点検表示の見方

- 点検 LED 表示 “CHECK1” ／ “CHECK2” の LED がエラーコードの “十の位” ／ “一の位” の数だけ点滅します。

例 : E39のとき



(c) FDR，FDU，FDF シリーズ
RCN-KIT4

PJZ012D111

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが侵入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータータイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

① 受光アダプタ	1
② 配線 (3m)	1
③ パーツセット (A)	1
④ パーツセット (B)	1
⑤ パーツセット (C)	1
⑥ 据付説明書 (本紙)	1

① ワイヤレスリモコン(RCN-D5)	1
② リモコン用ホルダ	1
③ 同上用木ねじ	2
④ リモコン用電池	2
⑤ 取扱説明書	1

① 受光アダプタ用ねじ	2
② バンド	1
③ クランプ	5
④ 同上用ねじ	5

① 受光部取付用ブラケット	1
② 同上用ねじ	2
③ 取付金具	2
④ JISボックス取付用ねじ	2

② 取付前の準備

現地設定

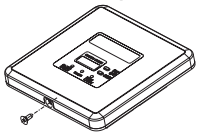
受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。

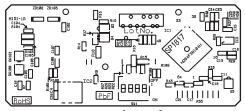
SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	ON：通常	OFF：切換(2ch)
SW1-2	受信部の親子切換	ON：親	OFF：子
SW1-3			
SW1-4	停電補償	ON：有効	OFF：無効

② 取付前の準備の続き

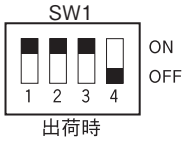
現地設定の変更方法

1. 受信部下面のねじ（1 本）を外し、基板を取外してください。
2. 基板上（7 セグメント表面側）のスイッチを変更してください。





スイッチ



出荷時

3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

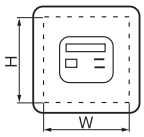
③ 受信部の取付

天井あるいは、壁面（以後あわせて壁面と呼ぶこととします）への取付方法として下記３種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。

〈取付け方法〉 (A) 壁面への木ねじによる直接取付
(B) JIS ボックス（現地手配）による取付
(C) 付属ブラケットによる取付

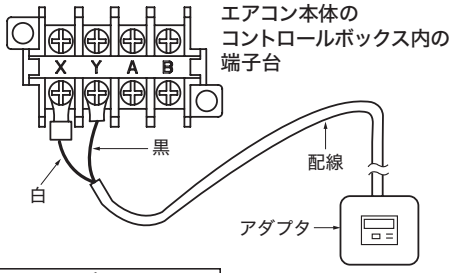
(1) 壁面への穴あけ（壁面開口）

取付用の穴を付属配線（3 m）で接続可能な壁面位置に、右表の寸法にてあけてください。



(A) 壁面への木ねじによる直接取付	88mm(H)×101mm(W)
(B) JIS ボックスによる取付 (C) 付属ブラケットによる取付	108mm(H)×108mm(W)

(2) 受光アダプタ用配線



⚠注意
配線を端子台 200V に接続しないこと。
プリント基板が焼損します。

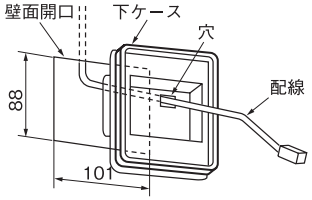
(3) 受光アダプタ取付

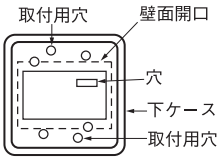
側面についているねじをはずし、上ケースと下ケースに分割してください。
下記４種（A～D）のうちのいずれかの方法により取付けてください。

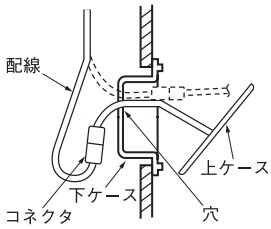
(A) 壁面への木ねじによる直接取付

▷ 壁面が木製などのもので、直接木ねじにより取付けても強度的に問題のない場合にこの方法で取付けてください。

① 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
② 下ケースを壁面開口にはめてください。この時、下ケース後面凸部と壁面開口とのすきまは両側ともできるだけ等しくなる様にしてください。
③ 上図 2 か所の取付用穴を用いて付属の木ねじにより下ケースを壁に固定してください。（他の 4 か所の穴は使用しません。）
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。







③ 受信部の取付の続き

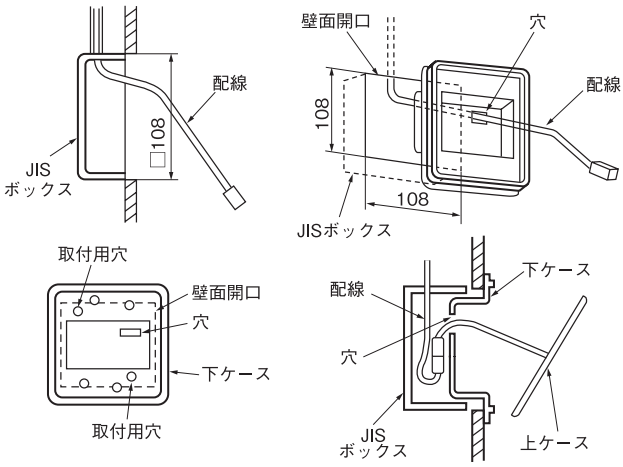
⑤ 接続したコネクタを①項にて配線を通した下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。

(B)　JIS ボックスによる取付 （JIS ボックス：現地手配）

① JIS ボックスと配線をあらかじめ設置しておきます。

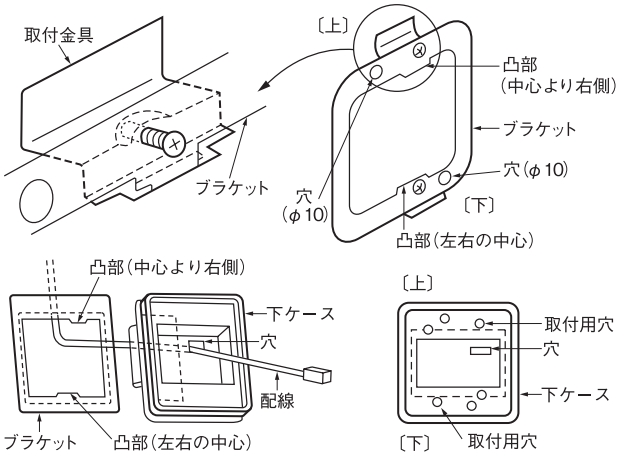
〔使用可能 JIS ボックス〕
JIS C 8435
埋込用四角アウトレットボックス中浅形
JIS C 8340
中形四角アウトレットボックス

② 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
③ 右図 2 か所の取付用穴を用いて付属しているねじにより下ケースは JIS ボックスに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません。)
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。
⑤ 接続したコネクタを②項にて配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスの間へ入れていください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。



(C)　付属ブラケットによる取付

① 上図の様に付属ブラケットの凸部（2 か所）に取付金具を引掛け、ねじにより仮止めしてください。(ブラケットには上下および表裏があります。上下凸部の位置およびブラケットにあるφ10 の穴と取付金具の取付面との位置関係を上図にてご確認願います。)
② 壁面開口より取付金具の端部を壁面裏側へ入れ、さらにねじを締めてブラケットを壁面に固定してください。
③ 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
④ 下ケースをブラケットにはめ込み、上図 2 か所の取付用穴を用いて下ケースをブラケットに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません)
⑤ 以降 Ⓐ の①～⑥を参照して取付けてください。

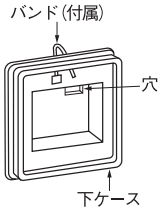


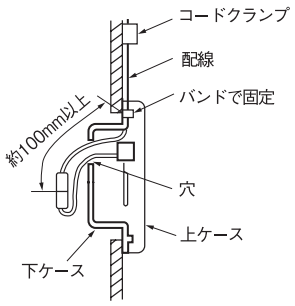
③ 受信部の取付の続き

(D)　配線露出取付

配線を露出させて取付ける場合は下記の通りに行なってください。

① 上ケース側面の薄肉部をニッパー、ナイフ等で切取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。(この部分に配線を通します。)
② 下ケースの配線取出部の穴に付属のバンドを通します。
③ 3 項の受光アダプタ取付方法 (A ～ C) のいずれかの方法に従い、下ケースを壁面に固定してください。ただし、配線は下ケースの穴に通さないでください。
④ バンドでの固定部から配線のコネクタの先端までの長さを 100 mm以上とした状態でバンドにより配線を固定してください。(ただし、JIS ボックスにより下ケースを取付けた場合は約 100 mmとしてください。)
⑤ 配線と上ケースより出ている配線をコネクタにより接続してください。
⑥ 接続したコネクタおよび不要な配線を下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑦ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじを締めてください。
⑧ 配線は付属のコードクランプで適宜固定してください。



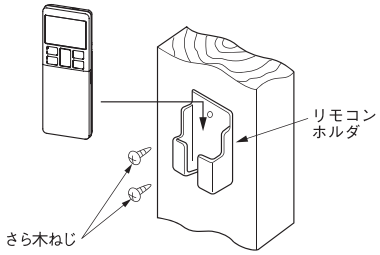


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

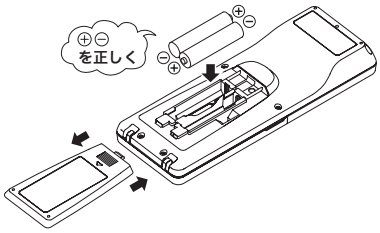
1. リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



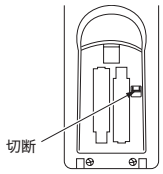
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。

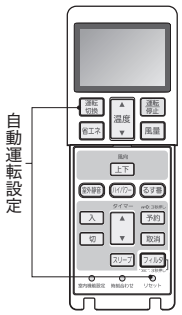


④ ワイヤレスリモコンの続き

リモコンの設定変更

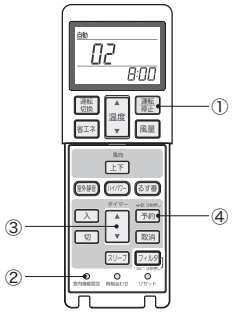
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定　標準
	01	風速設定　設定1　※
	02	風速設定　設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正　無効
	01	暖房室温補正　+1℃
	02	暖房室温補正　+2℃
	03	暖房室温補正　+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示　なし
	01	フィルターサイン表示　180時間
	02	フィルターサイン表示　600時間
	03	フィルターサイン表示　1000時間
	04	フィルターサイン表示　1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　有効
室外静音	00	人感センサー設定　無効
	01	人感センサー設定　有効
ハイパワー	00	人感センサー制御　無効
	01	人感センサー制御 パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御 オートオフのみ
	03	人感センサー制御 パワーコントロール+オートオフ

ボタン	番号表示部	機能設定
入	00	冷房ファン残留運転　無効
	01	冷房ファン残留運転　0.5時間
	02	冷房ファン残留運転　2時間
	03	冷房ファン残留運転　6時間
切	00	暖房ファン残留運転　無効
	01	暖房ファン残留運転　0.5時間
	02	暖房ファン残留運転　2時間
	03	暖房ファン残留運転　6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED　輝度明
	01	リモコン信号受信部LED　輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED　消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長　0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長　0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長　2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長　3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長　4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数　50Hz
	60	グリル自動昇降周波数　60Hz

※　詳細は293ページを参照ください。

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

② グループ制御用に各室内ユニット間を
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

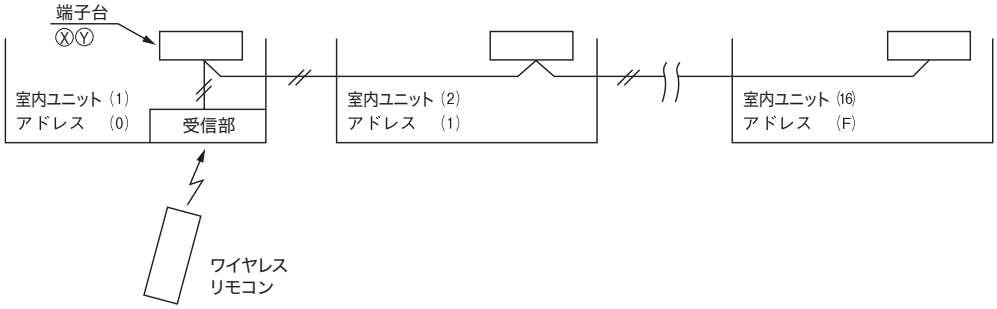
渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）

標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

⑤ 受信部の続き

店舗シリーズの場合

③ 室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

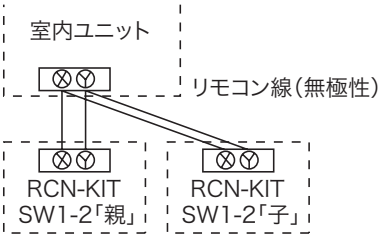


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

④ 室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。

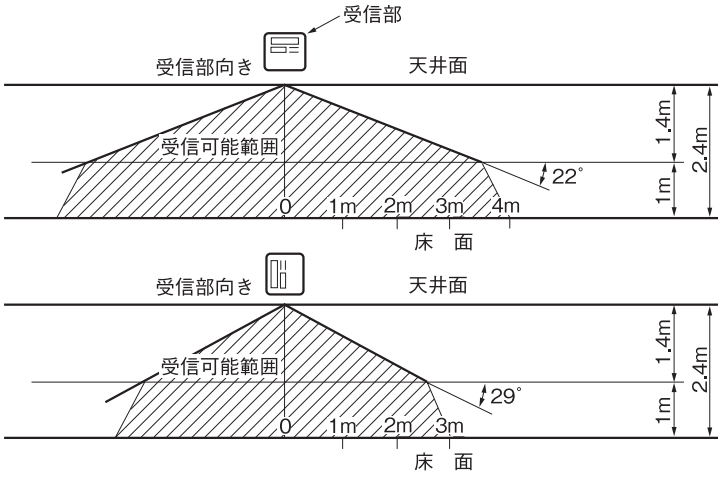


スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

天井面に取付けた場合

① 標準的受信距離

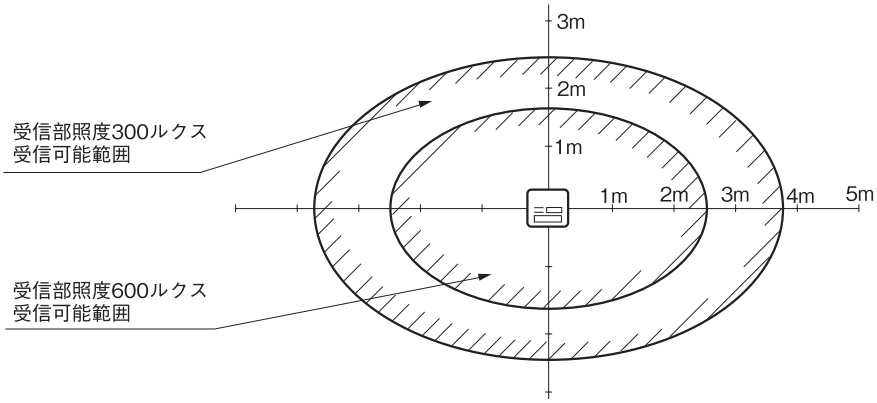
条件 受信部照明度 300 ルクス（一般事務所で受信アダプタ周辺 1 m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

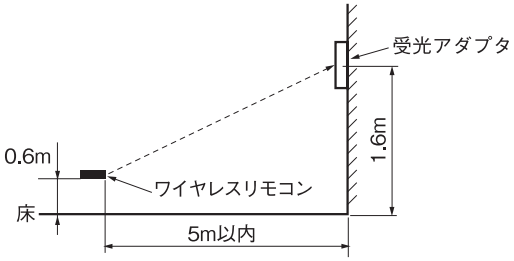
条件 天井高さ 2.4 m、床面より 1 mの高さより、リモコン操作をした場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2/3 となる。

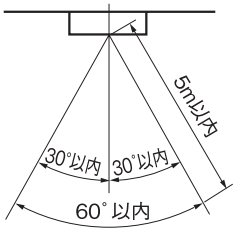
⑤ 受信部の続き



壁面に取付けた場合

条件 受信部照度 **800 ルクス**

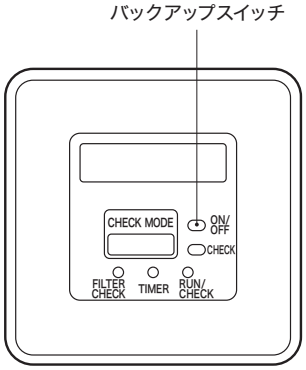




バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に
応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

⑴ 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
　風量「急」　温度設定「23℃」　ルーバ「水平」
⑵ 運転中に押すことにより「停止」します。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

6 桁表示の見方

受信部は 6 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

⑴ 表示は電源投入後 1 時間表示します。
⑵ エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
⑶ 上記の表示は、運転開始により消灯します。
⑷ 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
⑸ 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
⑹ 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信により
　クリアされます。

(d) FDE シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-E1）

PFA012D634

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取扱をしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取扱をしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが侵入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-E

① 受信部		1
② 据付説明書		1
③ 配線		1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

受信部の設定

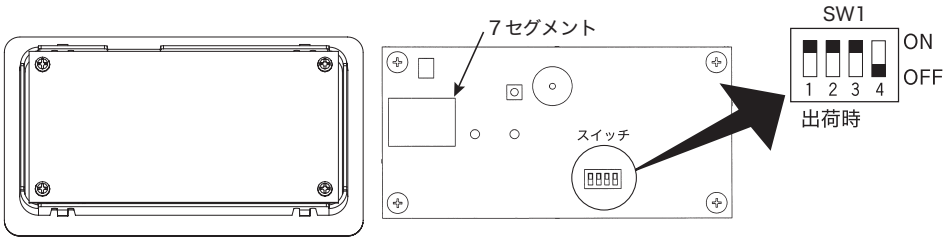
受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は □ で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	ON：通常 OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	ON：親 OFF：子
SW1-3	ブザー音	ON：有り OFF：無し
SW1-4	停電補償	ON：有効 OFF：無効

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のねじ（4 本）を外し、基板を取外してください。
2. 基板上（7 セグメント表面側）のスイッチを変更してください。



複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

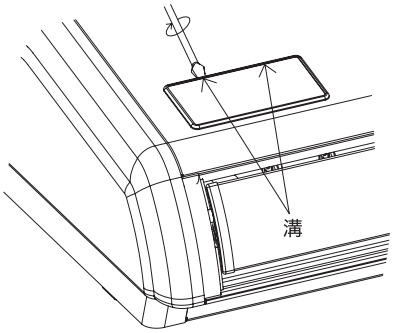
3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、パネルのカバーと交換することにより取付可能です。

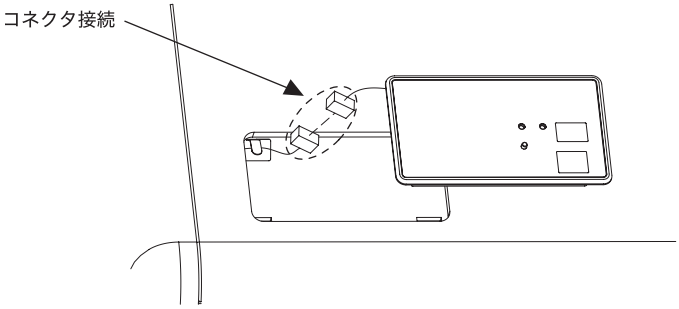
注意：**本体吊り込み前に受信部を取付けください。**
吊り込み後に取付ける場合、高所作業となり、転倒などによりケガの恐れがあります。

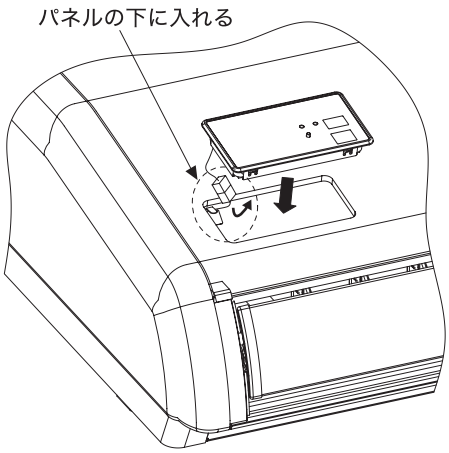


① カバーを取外し
カバーの溝（2 か所）に工具を挿し、パネル塗装面を傷付けないように軽くねじると外れます。

② 配線の接続
受信部の配線とパネル穴部の配線を接続してください。

注意：**配線を固定しているクランプは外さないでください。**



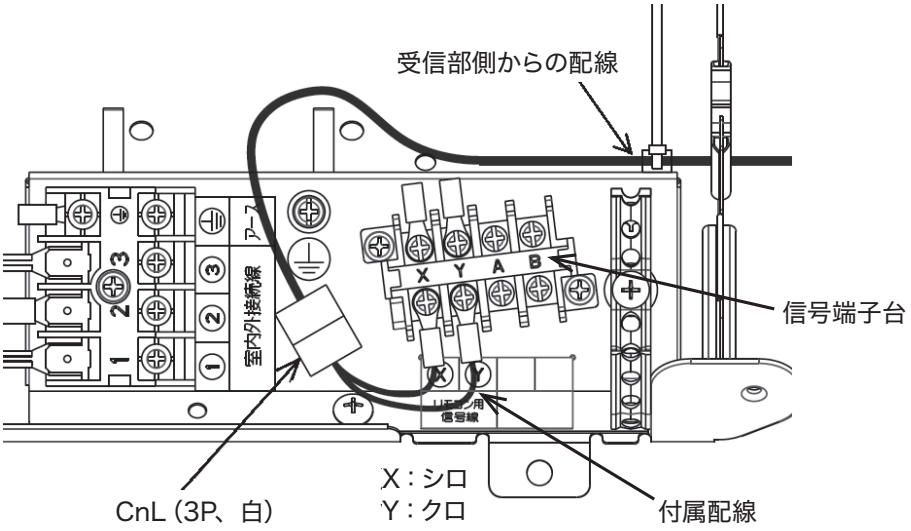


③ 受信部の取付
右図の様にコネクタをパネルの下に入れ、受信部の向きに注意し、パネルへ取付けてください。

注意：コネクタは受信部を取付ける前に接続してください。
取付後にコネクタを接続する場合、パネルを外す必要があります。

④ コントロールボックス側の配線接続

コントロールボックス内信号端子台ⓍⓎの1次側（吸込グリル側）に付属配線を接続し、
受信部側からの配線コネクタ CnL（3P 白）と接続してください。
※既に信号端子台からワイヤレス受信部側へ配線がつながっている機種は、この作業は不要です。

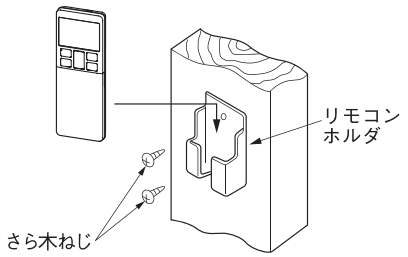


⑤ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

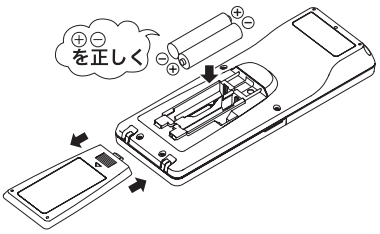
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



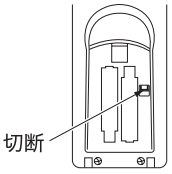
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

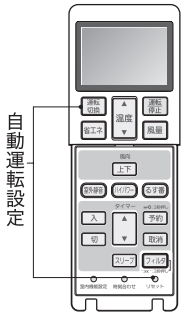
1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

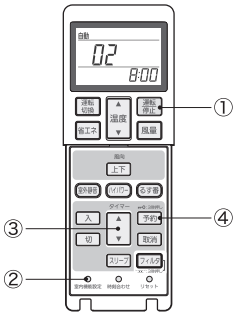
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



⑤ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
　機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定１　※
	02	風速設定：設定２　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：＋１℃
	02	暖房室温補正：＋２℃
	03	暖房室温補正：＋３℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180 時間
	02	フィルターサイン表示：600 時間
	03	フィルターサイン表示：1000 時間
	04	フィルターサイン表示：1000 時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転：2 時間
	03	冷房ファン残留運転：6 時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転：2 時間
	03	暖房ファン残留運転：6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2 m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0 m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9 m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0 m
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は293ページを参照ください。

⑥ 受信部

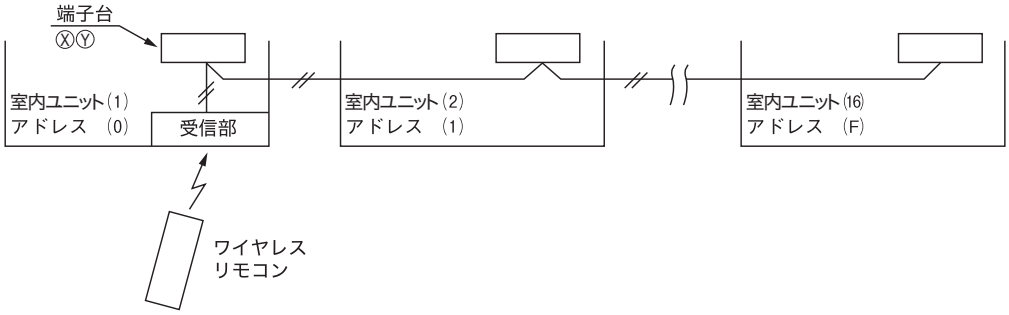
1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）	
標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチＳＷ２により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

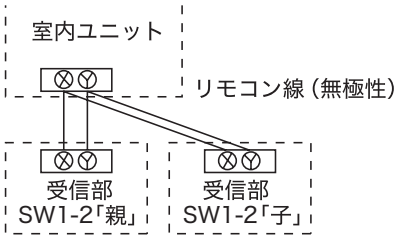


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外Ｎｏ. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチＳＷ1、ＳＷ2により、室内Ｎｏ. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット１台（または１グループ）に対して最大２個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

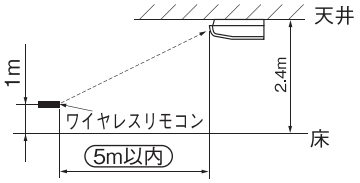
⑥ 受信部の続き

ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離

［条件］受信部照明度 300 ルクス

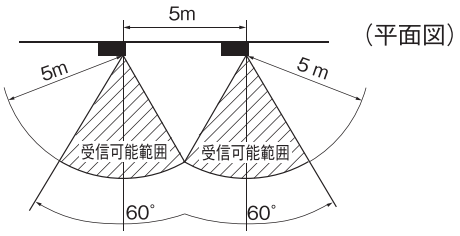
（一般事務所でユニット周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）

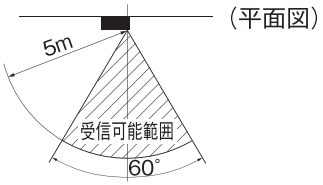


2. 複数台近接設置時の注意

［条件］受信部照明度 300 ルクス

同一動作を防止できるユニット間最小距離は 5m です。





お願い

○リモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。

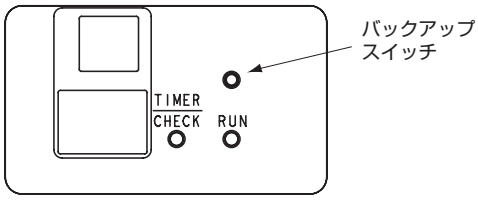
○操作距離は、受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。

○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小、また、受信不良が起こる場合があります。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
   風量「急」　温度設定「23℃」　ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. ラクリーナパネル使用時、2秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始により消灯します。
4. 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信によりクリアされます。

(e) FDK シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5K）・ワイヤレス受信部（LA-SK，LA-BK）

PHA012D048

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが侵入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受光部
LA-SK

① コントローラ		1
② ディスプレイASSY		1
③ 据付説明書（本紙）		1

LA-BK

① コントローラ		1
② ディスプレイ		1
③ 据付説明書		1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5K

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

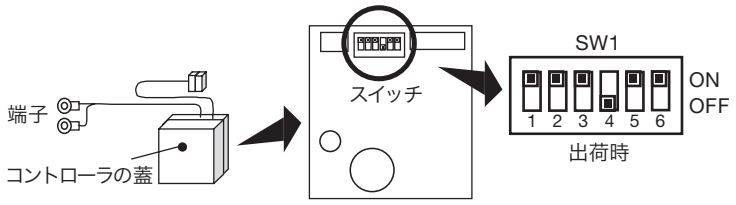
現地設定

受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出庫時の設定は □ で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	ON : 通常	OFF : 切換
SW1-2	受信部の親子切換	ON : 親	OFF : 子
SW1-3	ブザー音	ON : 有効	OFF : 無効
SW1-4	停電補償	ON : 有効	OFF : 無効
SW1-5	点検表示	ON : 有効	OFF : 無効
SW1-6	機種	ON : FDK	OFF : FDTW

現地設定の変更方法

1. ワイヤレスインターフェースの上蓋を取外してください。
2. 基板上のスイッチを変更してください。



複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

3. SW1 - 1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

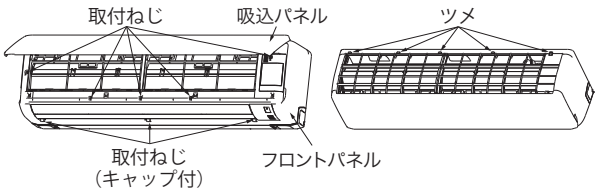
※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

③ 受信部の取付

コントローラとディスプレイASSYは室内ユニットの中に据付が可能です。
電源を落とし、安全を確認したうえで行ってください。

①フロントパネルの取外し順序

(a) 吸込パネルを取外してください。
(b) 取付ねじを取外してください。(5か所・キャップ付３か所)
(c) 上品のツメ(5か所)を外し、フロントパネルを取外してください。

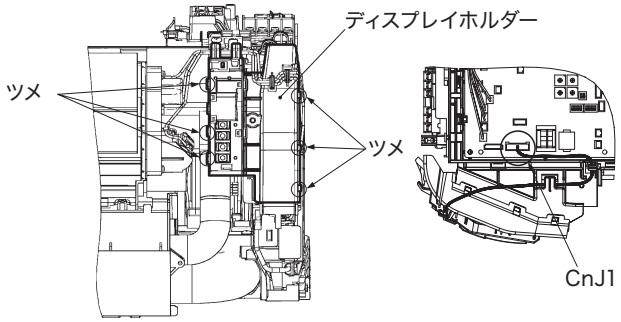


KP56, KP80

③ 受信部の取付の続き

②ディスプレイ ASSY の取付

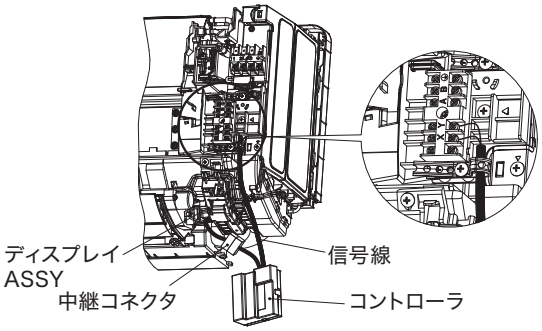
(a) ユニットのコントロール ボックスの蓋を外し、ルーバ線を基板のコネクタ（CnJ1）から外す。
(b) ディスプレイホルダーに引っ掛けてあるルーバ線を外す。
(c) ディスプレイホルダーのツメを外し、ディスプレイホルダーを取外します。（6 か所）
※ディスプレイホルダーのツメを外すときは、マイナスドライバ等を使用してください。
(d) ディスプレイASSYのツメを引っ掛け、ユニットに取付けてください。（6か所）
(e) ルーバ線をディスプレイ ASSY に引っ掛けてください。
(f) ルーバ線を基板のコネクタ（CnJ1）に差し、コントロールボックスの蓋を閉めます。



KP56，KP80

③配線接続とコントローラの取付

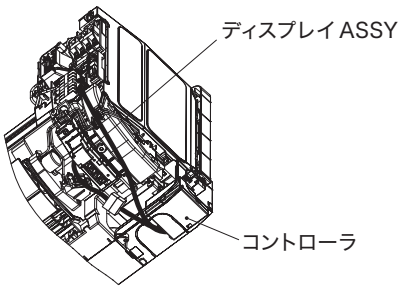
(a) 信号線（X、Y）をユニットの端子台に接続します。（無極性）
(b) 図に示すように配線をとりまわします。
(c) ディスプレイ ASSY とコントローラの中継コネクタを接続してください。



KP56，KP80

(d) コントローラの据付場所は下記を参照してください。

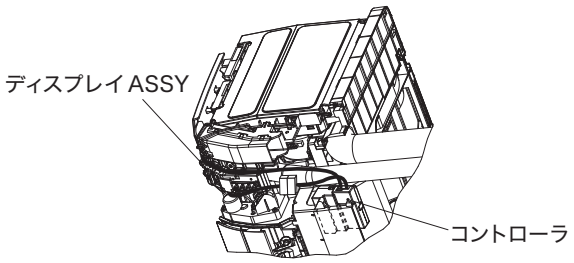
左引き配管の場合



KP56，KP80

③ 受信部の取付の続き

右引き配管の場合



KP56，KP80

④フロントパネルの取付順序

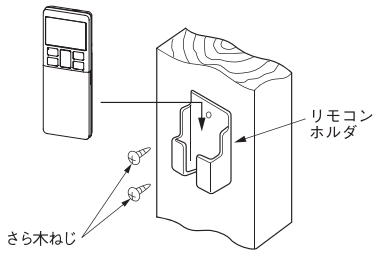
（a） フロントパネルをユニットにかぶせ、上部のツメ(5か所) を引っ掛けてください。
（b） 取付ねじを締めます。(5 か所・キャップ付 3 か所)
（c） 吸込パネルを取付けてください。

④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

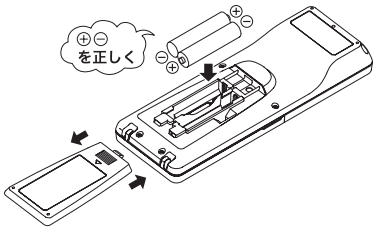
1. リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



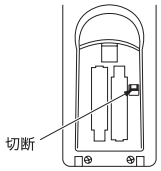
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



④ ワイヤレスリモコンの続き

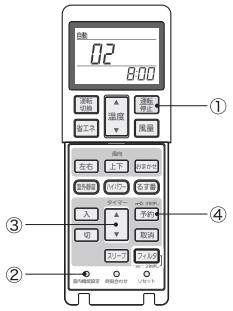
リモコンの設定変更

自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定　標準
	01	風速設定　設定 1　※
	02	風速設定　設定 2　※
運転切換	00	暖房室温補正　無効
	01	暖房室温補正　＋1℃
	02	暖房室温補正　＋2℃
	03	暖房室温補正　＋3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示　なし
	01	フィルターサイン表示　180 時間
	02	フィルターサイン表示　600 時間
	03	フィルターサイン表示　1000 時間
	04	フィルターサイン表示　1000 時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　有効
室外静音	00	人感センサー設定　無効
	01	人感センサー設定　有効
ハイパワー	00	人感センサー制御　無効
	01	人感センサー制御 パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御 オートオフのみ
	03	人感センサー制御 パワーコントロール＋オートオフ

ボタン	番号表示部	機能設定
入	00	冷房ファン残留運転　無効
	01	冷房ファン残留運転　0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転　2 時間
	03	冷房ファン残留運転　6 時間
切	00	暖房ファン残留運転　無効
	01	暖房ファン残留運転　0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転　2 時間
	03	暖房ファン残留運転　6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED　輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED　輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED　消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長　0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長　0.2 m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長　2.0 m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長　3.9 m
	4.0	グリル自動昇降降下長　4.0 m
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数　50Hz
	60	グリル自動昇降周波数　60Hz

※　詳細は293ページを参照ください。

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

② グループ制御用に各室内ユニット間を
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

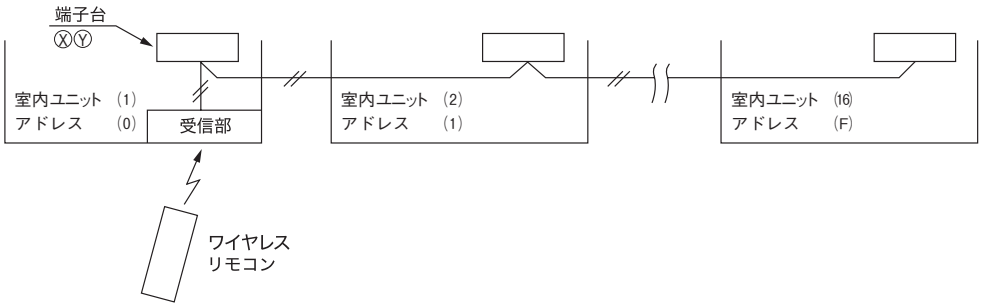
渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）

標準	0.3　mm² × 100m 以内
	0.5　mm² × 200m 以内
	0.75mm² × 300m 以内
	1.25mm² × 400m 以内
	2.0　mm² × 600m 以内

⑤ 受信部の続き

店舗シリーズの場合

③ 室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

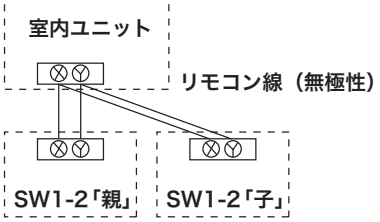


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

④ 室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。

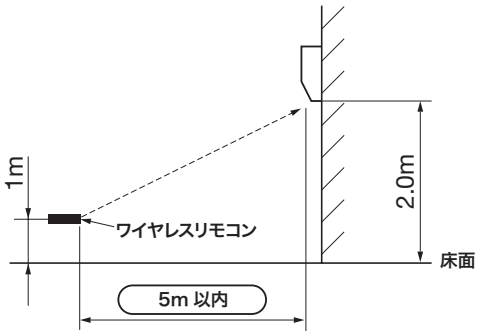


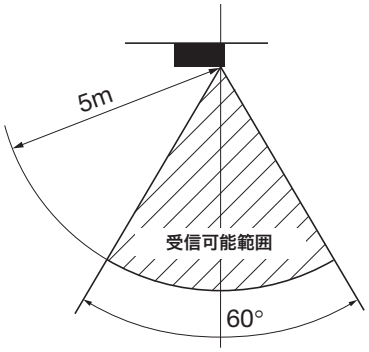
スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

壁掛の場合

① 標準的受信距離

条件 受信部照明度 360 ルクス（一般事務所で受信アダプタ周辺 1 m以内の天井面に照明がない場合）

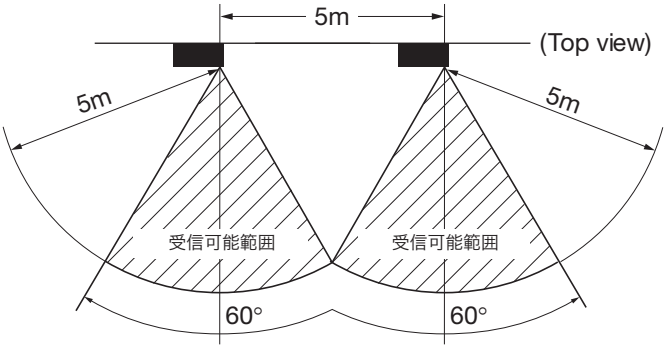




⑤ 受信部の続き

② 隣接設置時の受信部照度と受信距離の関係

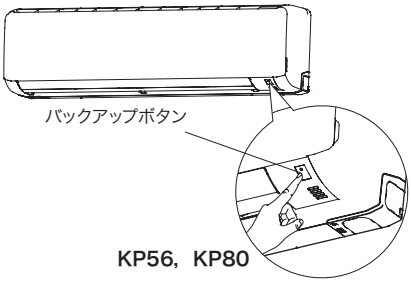
条件 **受信部照明度 360 ルクス**



バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

⑴ 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
　風量「急」　温度設定「23℃」　ルーバ「水平」
⑵ 運転中に押すことにより「停止」します。



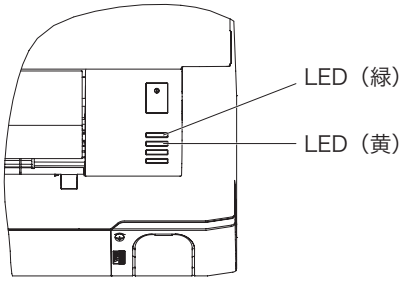
KP56，KP80

冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

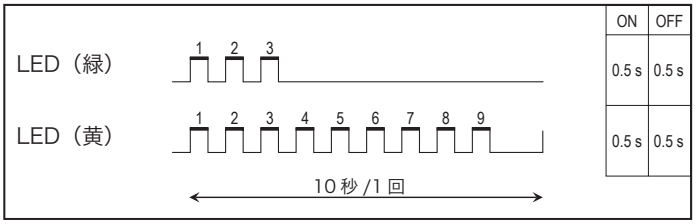
注意

・LED（緑）と LED（黄）はエラーコードを示します。
・点滅する回数でエラーコードを表示し、LED（緑）は 10 の位、LED（黄）は 1 の位を示します。



KP56，KP80

表示方法
例：E39 エラーの場合



⑵　人感センサキット

ⓐ　FDTW シリーズ（LB-TW-6W）

PJB012D310Ⓐ

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

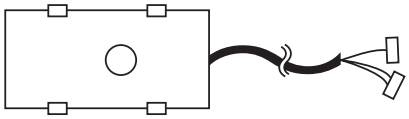
●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近くあるいは、直射日光が当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ 長時間振動が加わる場所
⑾ 静電気や強い電磁波のある場所
⑿ 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

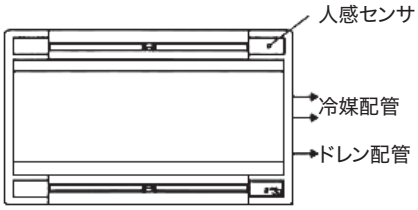
① 付属品

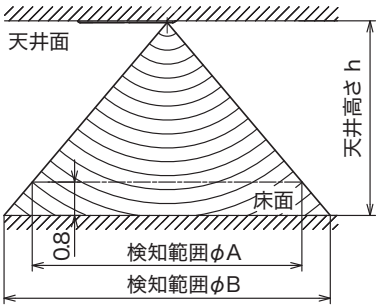
次の付属品を確かめてください。

受信部	グロメット	配線クランプ	ねじ	説明書
				

② 人感センサ据付場所、検知範囲

・据付高さは床面より４m以内としてください。
　センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。





高さ　h〔m〕	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φA〔m〕	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φB〔m〕	6.4	8.3	9.5

③ 受信部の取付＜パネル吊り込み前の作業＞

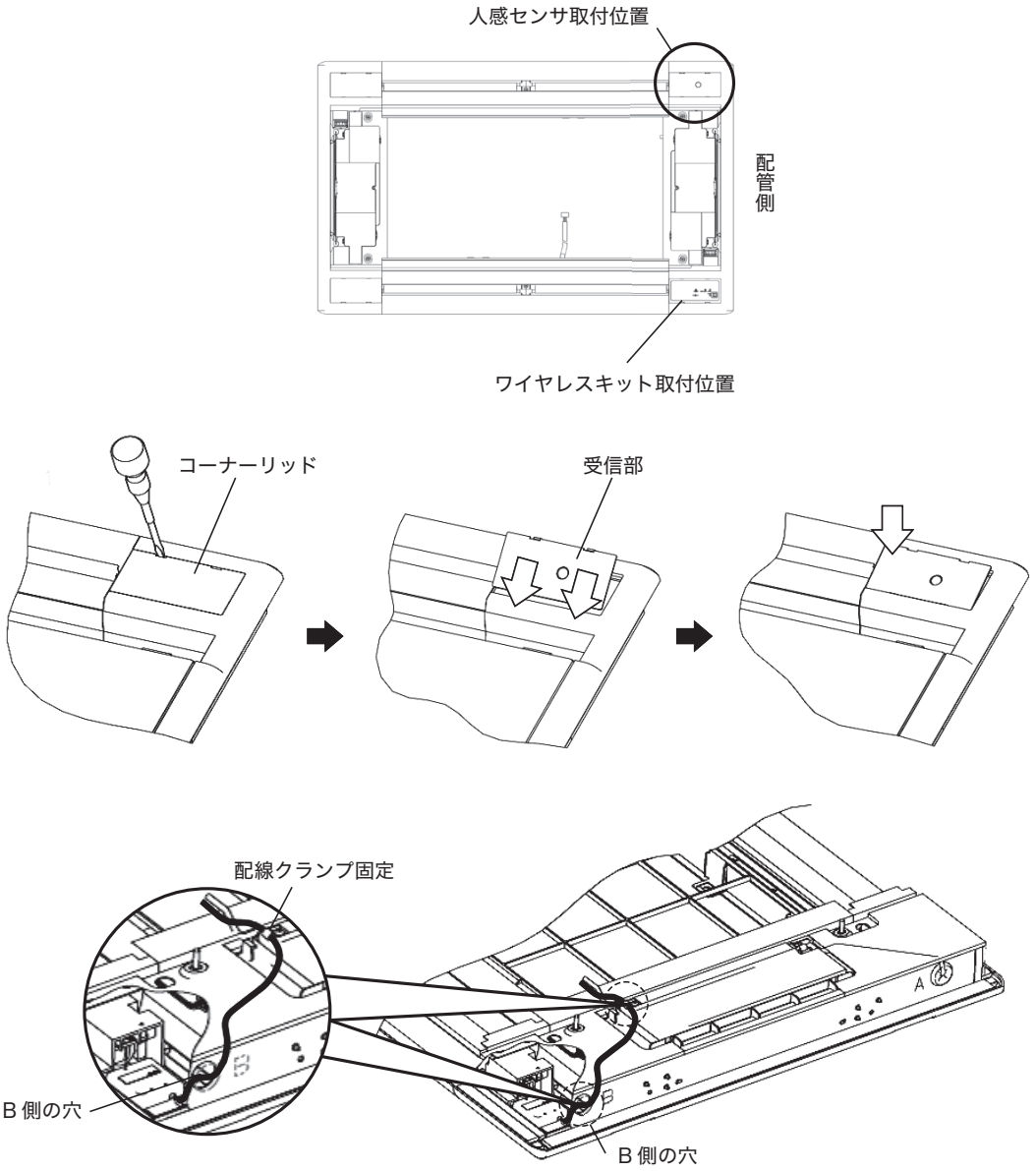
※注意： 下図に示すコーナーリッド部にのみ、人感センサを取付けることが可能です。
受信部の取付向きに注意してください。

① 人感センサ取付位置のコーナーリッドを取外してください。
溝に工具を挿し、フレームを傷付けないように軽く外側に倒してください。

② パネル側面に貼付けられた断熱材のスリット（丸穴（φ 25）、B側）を切取り、付属のグロメットを取付けてください。

③ 受信部の配線をB側の穴に通した後、受信部のツメ部（2か所）をフレームに挿しながら外側を押込み取付けます。

④ パネル天井裏側図に示すように配線を通し、付属の配線クランプ・ねじにて固定します。

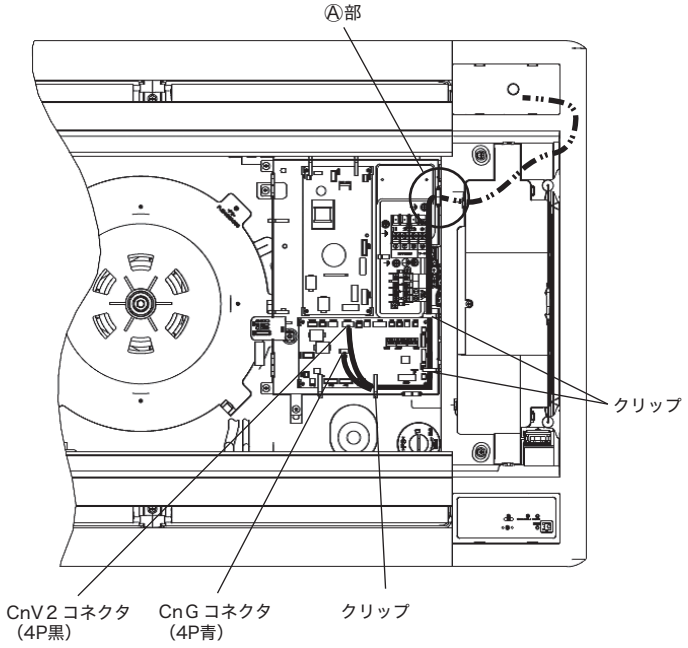


④ パネル付属の説明書を参照して、室内ユニットへパネルを装着してください。

※**注意：** パネル取付時、配線を挟込まないようにしてください。

⑤ コントロール ボックス内の配線接続

① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。（ねじ 2 か所）
③ Ⓐ部から配線をコントロール ボックス内へ入れてください。
④ 配線をクリップ（3 か所）で固定してください。
⑤ CnG コネクタ（4P 青）を制御基板に接続してください。
⑥ CnV2 コネクタ（4P 黒）を制御基板に接続してください。



(b) FDT, FDTS, FDR, FDU, FDK, FDF シリーズ（LB-KIT）

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ 長時間振動が加わる場所
⑾ 静電気や強い電磁波のある場所
⑿ 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所
⒀ 室内ユニットの電源線などの強電圧線と並走する場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

① 取付前の準備

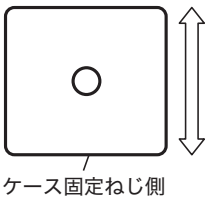
次の付属品を確かめてください。

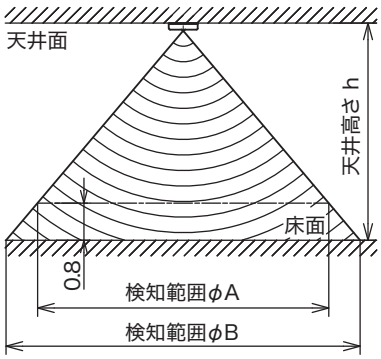
受信部	配線〈1〉	配線〈2〉	木ねじ 2 本	説明書
	室内ユニット基板に CnLコネクタがある場合 (FDT･FDK)	室内ユニット基板に CnLコネクタがない場合		

※受信部と室内ユニット間の中継配線は現地手配してください。(0.2mm^{2}以上 3心(赤､白､黒)通信用ケーブル 最大8m)

② 人感センサ検知範囲・設置場所

・据付高さは床面より4m以内としてください
　センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・⇔印方向の動きをより検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。
・本製品は壁面にも設置可能ですが、天井面設置を推奨します。
・壁面設置の場合、検知範囲は正面で約 5m、左右約 100°です。





高さ　h（m）	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φ A（m）	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φ B（m）	6.4	8.3	9.5

③ 受信部の取付

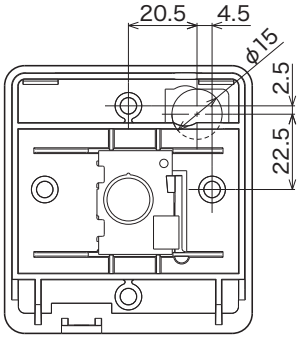
天井面あるいは壁面（以後あわせて天井面と呼ぶこととします）への取付方法として、下記3種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。

〈取付方法〉

（A）天井面への木ねじによる直接取付、配線を天井面内に収める場合

（B）天井面への木ねじによる直接取付、配線を部屋内にはわせる場合

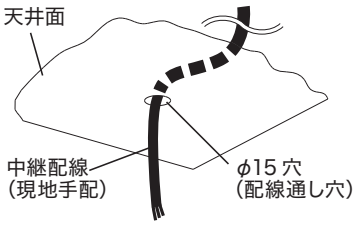
（C）JIS ボックス（現地手配）による取付の場合



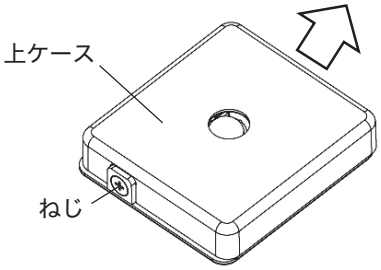
中継配線の取出穴とねじ取付穴との位置関係

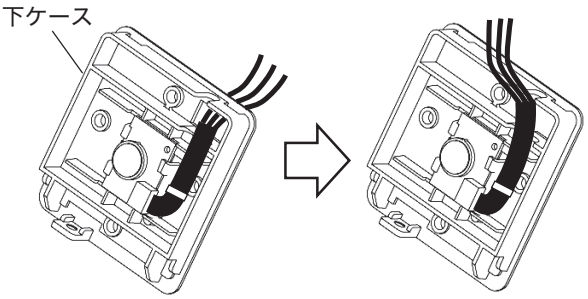
（A）の場合

▶天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

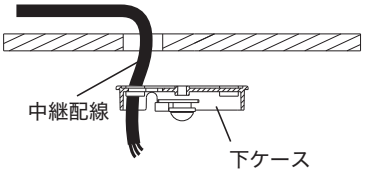


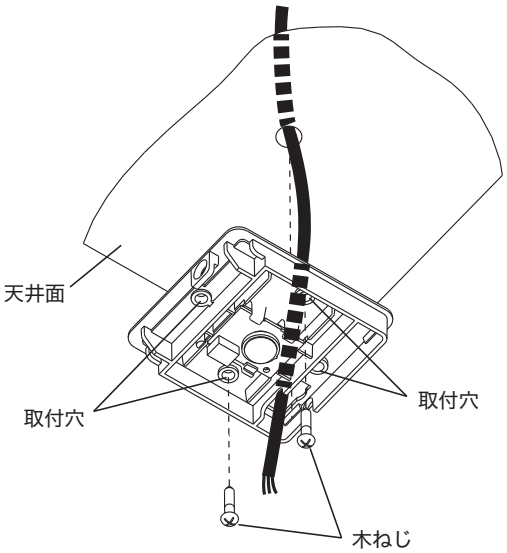
① 現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。
② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。
③ 受信部側の配線を下図のように手前へ取出してください。





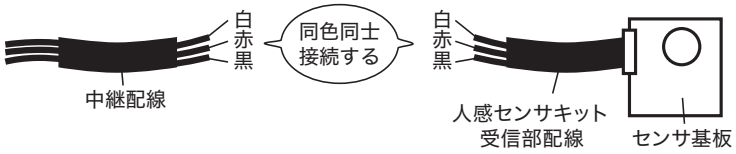
④ 中継配線を下ケース穴に通してください。
⑤ 下ケースを天井面に固定する際は、右図の取付穴（4か所）のうち、対辺2か所を付属の木ねじにより締付けてください。



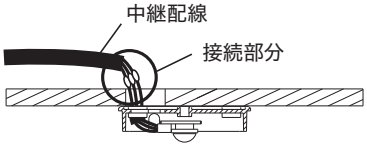


③ 受信部の取付の続き

⑥ 圧着端子等を用いて、現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。



⑦ 配線の接続部分を天井面の内側へ入れてください。
⑧ 下ケースの配線貫通穴をパテでシールしてください。
⑨ 配線をかみこまないよう注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。

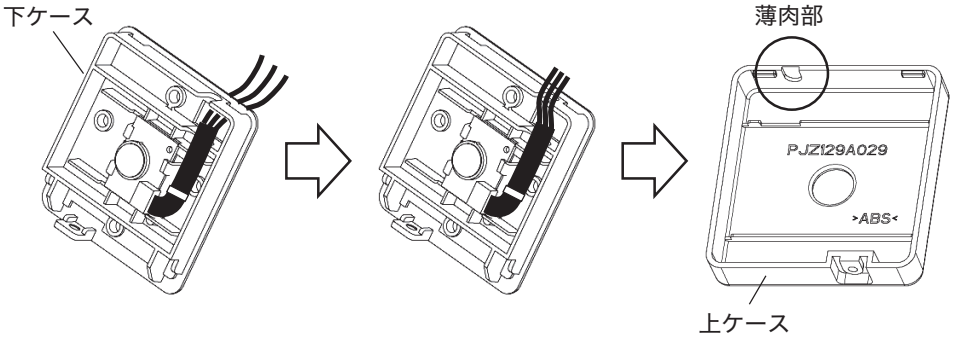


注意：トラッキング防止のため、接続部分にほこり等がつもらないよう施工してください。

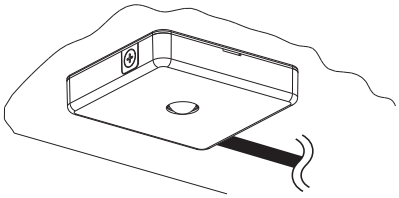
（B）の場合

▶ 天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

① 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。（A ②と同じ）
② 受信部の配線を側面方向へ取出します。
上ケースの薄肉部を削り取って使用してください。



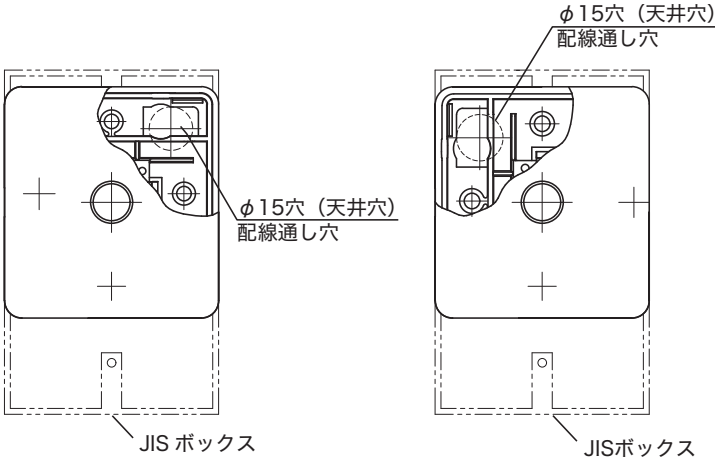
③ 下ケースを天井面に固定する際は、取付穴（4 か所）のうち、対辺 2 か所を付属の木ねじにより締付けてください。（（A）⑤と同じ）
④ 圧着端子等を用いて現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。
（（A）⑥と同じ）
⑤ 配線をかみこまないように注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。（（A）⑨と同じ）
⑥ ②で切取った部分をパテでシールしてください。



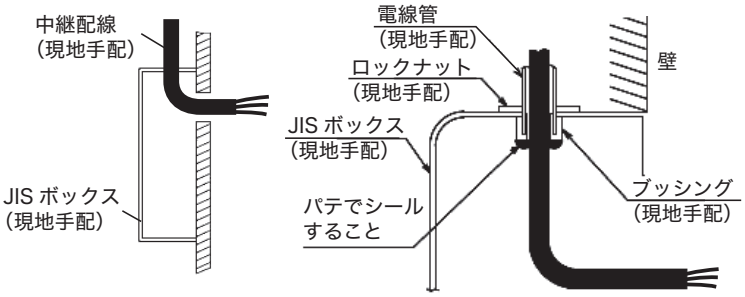
③ 受信部の取付の続き

（C）の場合

① JIS ボックスと現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。中継配線引込口はパテでシールしてください。（右図参照）



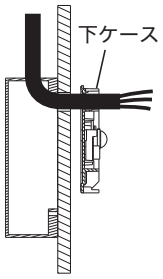
JIS ボックスと配線通し穴との位置関係



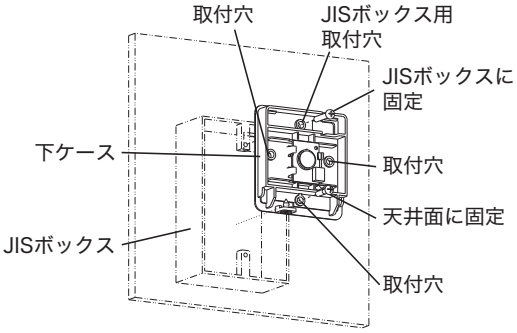
② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。（（A）②と同じ）

③ 受信部側の配線を手前へ取出してください。（（ A ）③と同じ）

④ 中継配線を JIS ボックス側から下ケース穴に通してください。



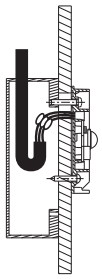
⑤ 右図の取付穴（1 か所）を用いて、下ケースを JIS ボックスに固定してください。



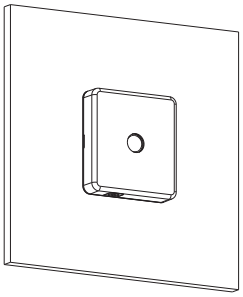
③ 受信部の取付の続き

⑥ 現地手配の中継配線と受信部側の配線を同色同士で接続してください。（(A) ⑥と同じ）

⑦ 配線の接続部分を④項で配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスとの間へ入れてください。



⑧ 配線をかみこまないように注意しながら 上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。（(A)⑨と同じ）

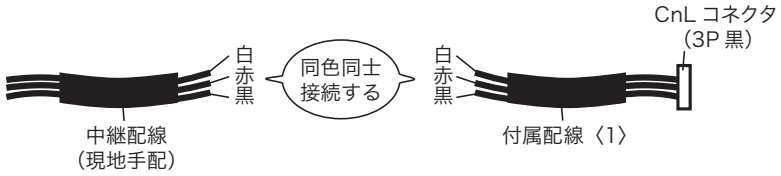


④ 本体コントロールへの配線接続

注意：人感センサ付属配線は、室内ユニットの機種ごとに使用する配線が異なります。配線取付前に、確認してください。

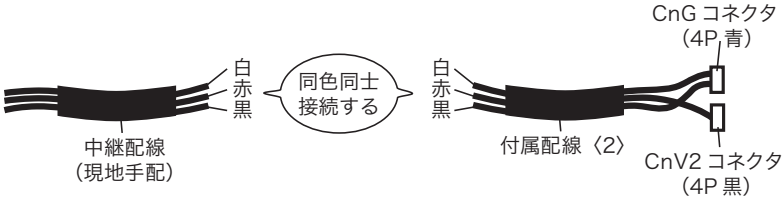
〈室内ユニット基板に CnL コネクタがある場合（FDT、FDK）〉

① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈1〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。
③ CnL コネクタ（3P 黒）を基板へ接続してください。

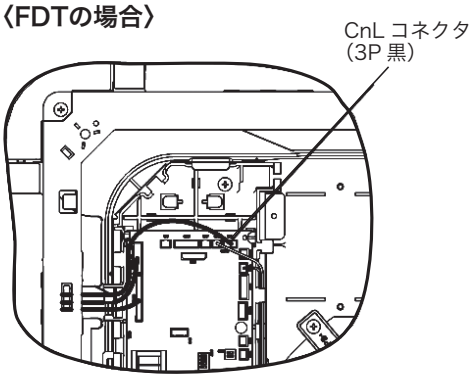


〈室内ユニット基板に CnL コネクタがない場合〉

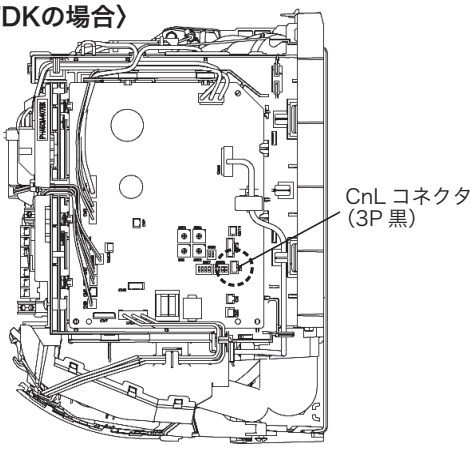
① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈2〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。
③ CnG コネクタ（4P 青）を制御基板へ接続してください。
④ CnV2 コネクタ（4P 黒）を制御基板へ接続してください。



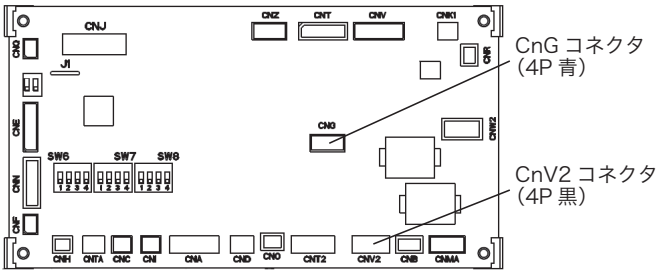
〈FDTの場合〉



〈FDKの場合〉



〈その他室内ユニットの場合〉



(c) FDE シリーズ（LB-E）

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に想定外の負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

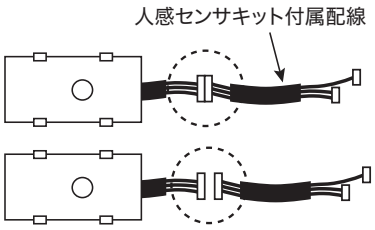
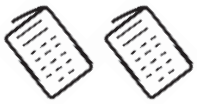
●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

(1) 直射日光の当たる場所
(2) 発熱器具の近く
(3) 湿気の多い所・水のかかる所
(4) 取付面が発熱・結露する場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(6) 取付面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
(8) 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近くあるいは、直射日光が当たる場所
(9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(10) 長時間振動が加わる場所
(11) 静電気や強い電磁波のある場所
(12) 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

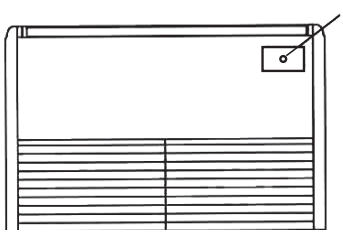
① 付属品

次の付属品を確かめてください。

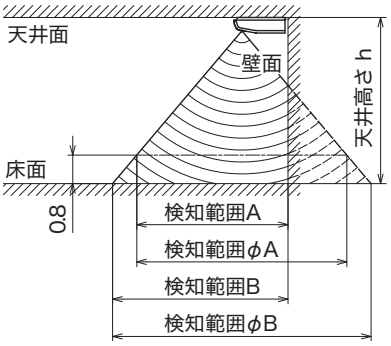
受信部（※）	説明書
 ※受信部側配線と付属配線はコネクタ接続した状態で出荷しています。 ○印部分のコネクタを取外してから室内ユニット付属配線へ接続し、使用します。	

② 人感センサ据付場所、検知範囲

・据付高さは床面より4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。
・人の活動範囲の近くで人感センサを使用したい場合は、別置形の人感センサを使用してください。
・ワイヤレスリモコンと人感センサを併用する場合は、別置形の人感センサを使用してください。



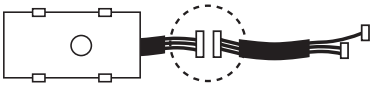
天井高さ　h（m）	2.7	3.5	4.0
検知範囲　A（m）	2.9	3.9	4.5
検知範囲 φA（m）	4.5	6.4	7.6
検知範囲　B（m）	3.9	4.8	5.4
検知範囲 φB（m）	6.4	8.3	9.5



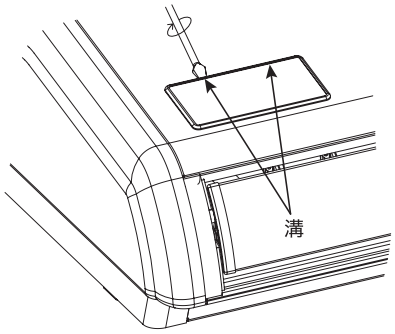
③ 受信部の取付＜ユニット吊り込み前の作業＞

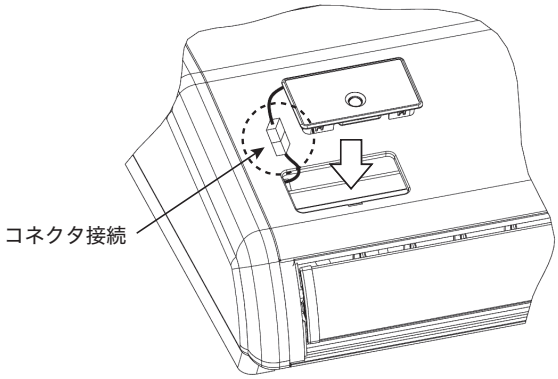
人感センサキットの受信部は、パネルのカバーと交換することにより取付可能です。
注意：**本体吊り込み前に受信部を取付けてください。**
　　吊り込み後に取付ける場合、高所作業となり、転倒などによりケガの恐れがあります。

① 受信部と配線のコネクタを取外してください。



② パネルのカバーの溝（2 か所）に工具を挿し、
　パネル塗装面を傷付けないように軽くねじり、カバーを取外してください。
③ パネル穴部の配線（室内ユニット付属、配線色：白・赤・黒、コネクタ：3P 白）と受信部の配線を装着してください。受信部の取付向きに注意してください。
注意：**配線を固定しているクランプは外さないでください。**





④ 受信部の取付
　コネクタをパネルの下に入れ、受信部の向きに注意し、パネルへ取付けてください。

注意：コネクタは受信部を取付ける前に接続してください。
　　取付後にコネクタを接続する場合、パネルを外す必要があります。

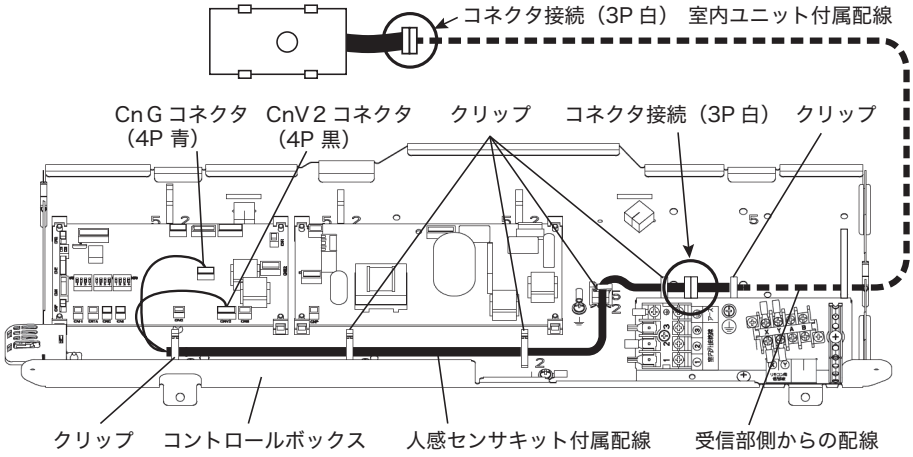
④ コントロール ボックス内の配線接続

① 受信部からの配線（室内ユニット付属、配線色：白・赤・黒、コネクタ：3P 白）と人感センサキット付属の配線を接続してください。

② 配線をクリップ（6 か所）で固定してください。

③ CnG コネクタ（4P 青）を制御基板に接続してください。

④ CnV2 コネクタ（4P 黒）を制御基板に接続してください。



(d) 共通事項（取扱方法）

PJZ012A163

ご使用上のご注意

⚠ 警告

●子供・病気の方など 補助を必要とする人が使う場合、周囲の人が十分注意する。
異常や人感センサ制御などにより空調機が停止した場合、体調不良や事故の原因になることがあります。

お知らせ

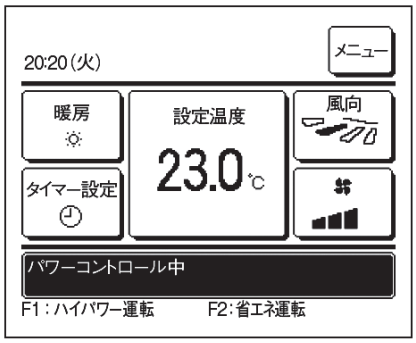
・検知エリアの隅では人を検知しにくくなります。
・周囲と温度差のある物体が動く場所に据付けた場合「人がいる」と検知する場合があります。
・設定温度の補正に伴い、肌寒く感じる場合があります。

本品は、赤外線センサを利用して検知範囲内の人の活動量を検知し、エアコンの制御を補助するものです。
リモコンからご希望の制御を設定して頂き、ご使用ください。

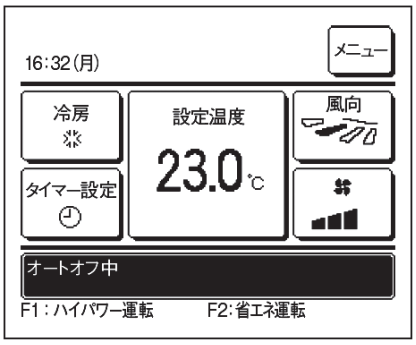
室内ユニット制御	検知状況	制御内容	エコタッチリモコン表示
①パワーコントロール	活動量が多い時	快適性を重視して室温設定を下げる。	パワーコントロール中
	活動量が少ない時	省エネ重視して室温設定を上げる。	パワーコントロール中
②オートオフ	検知無し 1 時間経過	運転停止＋待機状態	オートオフ中
	検知無し 12 時間経過	運転停止	ー
①＋②	上記の組合せ	上記のいづれか	上記のいづれか
全て無効（出荷時）	ー	標準制御	ー

センサ未接続・センサ不良の場合は活動量検知無し（少ない）状況の制御になります。

設定方法は、次項を参照してください。



・パワーコントロール有効の場合
人感センサにより人の活動量を検知し、
設定温度を補正します。
設定温度を補正中はメッセージ表示部に
「パワーコントロール中」を表示します。

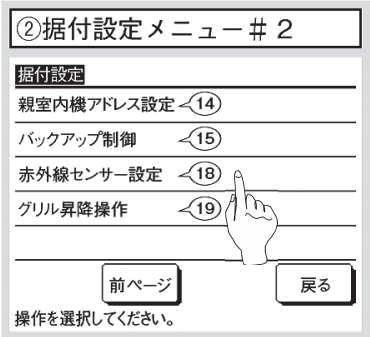


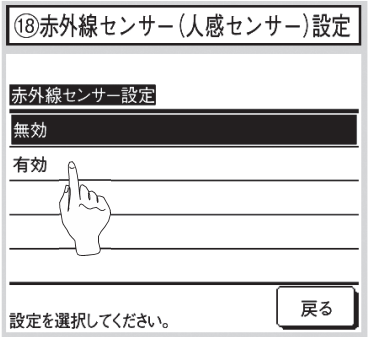
・オートオフ有効の場合
人が不在となって、1 時間すると『運転待機』状態、
さらに 12 時間経過すると『完全停止』します。
『運転待機』…エアコンは停止しますが、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』…エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

制御設定 <エコタッチリモコンから設定する場合>

●エコタッチリモコン付属の据付説明書を参照して、赤外線センサ（人感センサ）を有効に設定する。

TOP 画面 **メニュー** ⇒ **サービス設定** ⇒ **据付設定** ⇒ **サービスパスワード**

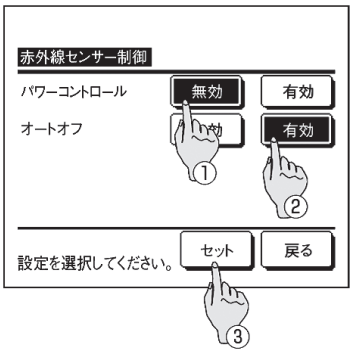




●エコタッチリモコン付属の取扱説明書を参照して、制御モードを設定する。

■赤外線センサ（人感センサ）制御
　人感センサにより人の有無・活動量をセンサで判定し、各制御を行います。

■リモコンが子リモコン設定されている場合､赤外線センサ（人感センサ）制御の設定はできません。



TOP 画面 **メニュー** ⇒ **省エネ設定** ⇒ **管理者パスワード** ⇒ **赤外線センサー制御** または **人感センサー制御** を選択してください。
赤外線センサ制御画面と現在の設定内容が表示されます。

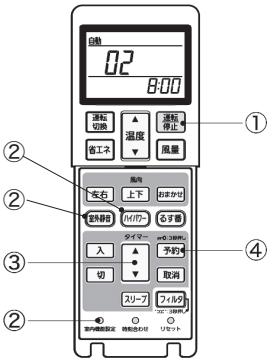
① パワーコントロールの有効 / 無効を設定します。
② オートオフの有効 / 無効を設定します。
③ 各項目設定後、**セット** ボタンをタッチしてください。
　省エネ設定メニュー画面に戻ります。

制御設定 <ワイヤレスリモコンから設定する場合>

●ワイヤレスリモコン付属の据付説明書を参照して、**室内機能設定** の人感センサを有効に設定する。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
　① 運転／停止を押し、停止状態にする。
　② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
　③ 選択ボタン▲、▼で設定番号を選択する。
　④ 予約ボタンを押す。
　　リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ

(3) コンパクトリモコン（RCH-D3）

PJZ012D068 A

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠警告

- **配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。**
  接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- **元電源を切った後に電気工事をする。**
  感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

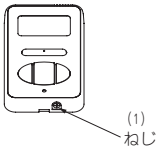
- **下記の様な所にリモコンを設置しない。**
  リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
  (1) 直射日光の当たる場所　(4) 取付面が発熱・結露する場所
  (2) 発熱器具の近く　(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
  (3) 湿気の多い所・水の掛る所　(6) 取付面に凹凸がある所
- **リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。**
  上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

付属品	リモコン本体、 木ねじ（φ3.5 × 16） 2 本
客先手配品	リモコンコード （2 心）(「2. リモコンコードを延長する場合の注意」を参照ください。) ［ 埋込取付の場合 ］ JIS ボックス、M4 ねじ（2 本） ［ 露出取付の場合 ］ コードクランプ （適時）

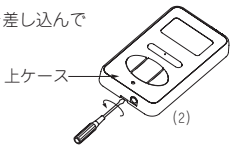
1. 取付要領

埋込取付けの場合

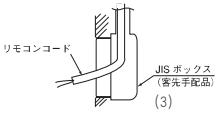
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



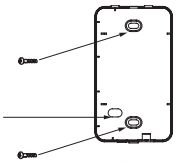
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。

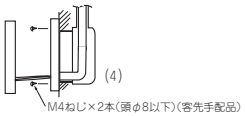


(3) JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。
［ 使用可能 JIS ボックス ］
JIS C 8336　1 個用スイッチボックス



(4) M4 ねじ 2 本（推奨長さ 12〜16mm）を用意して、下ケースを JIS ボックスに取付けてください。
ねじ穴の周囲の壁の高さより、ねじ頭の大きなねじを、使用しないでください。



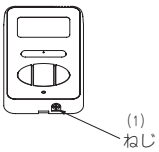


(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。
（X，Y の極性はありません。）

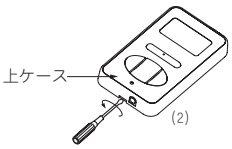
(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

露出取付の場合

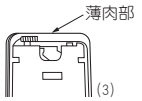
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



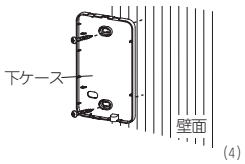
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。



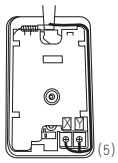
(3) リモコンコードの取出方向は、上部中央から可能です。
リモコン上ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。



(4) リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本で平らな壁に取付けます。



(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。（X, Y の極性はありません。）
配線経路は右図の通りとなります。



リモコンケース内を通る配線は、0.3mm^2（推奨）〜最大 0.5mm^2 以下としてください。
また、シース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

X 配線：160mm Y 配線：150mm

(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

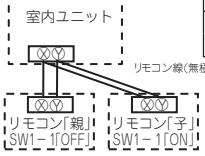
(7) 露出取付の場合は、リモコンコードがたるまないように、コードクランプ等で壁面に固定します。

2. リモコンコードを延長する場合の注意　最大総延長 600m

(1) リモコンコードは 0.3mm^2×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。
ただし、リモコンケース内を通る配線は0.3mm^2（推奨）〜最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
100〜200m 以内 ……0.5mm^2 × 2 心
300m 以内 ……0.75mm^2 × 2 心
400m 以内 ……1.25mm^2 × 2 心
600m 以内 ……2.0mm^2 × 2 心

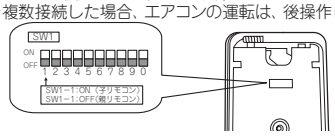
3. 複数リモコン使用時の親子設定

(1) 室内ユニット 1 台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



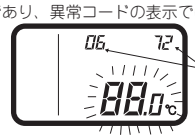
スイッチ	設定	機能内容
SW1−1	ON	子リモコン
	OFF	親リモコン

(2) 子リモコンの切換スイッチ SW1-1 を「子」(ON) に設定してください。工場出荷時は「親」(OFF)設定です。
(注)・リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
・親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください
・リモコンを複数接続した場合、エアコンの運転は、後操作したリモコンに従います。



4. 電源投入時の表示

(1) 電源投入時、最初の２秒間全点灯した後、下記表示となります。
リモコン LCD 上部に表示される番号は、ソフトウェアの管理番号を表示させているものであり、異常コードの表示ではありません。



ソフトウェア管理番号
（左記記号は一例です。別の番号が出る場合もあります。）

(2) その後、リモコンと室内ユニットの通信が確定するまで、リモコンには、「88.0℃」が点滅します。

(3) 室内ユニット１台（または１グループ）に、１個のリモコンを接続する場合は、必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。
子リモコンにすると通信ができません。

(4) リモコンと室内ユニットの通信ができない状態が30 分程度続くと、「 E」表示ががでます。
室内ユニットおよび室外ユニットの配線、およびリモコンの親子設定等をご確認願います。

5. 吸込温度の確認方法

リモコン操作により、吸込温度の確認ができます。

(1) **エアコンNo ボタンを５秒以上押す。**
温度設定表示部に、「88」が点滅します。
（データを読み込む間約２秒間点滅）
↓
その後、吸込温度を表示します。
（例）吸込温度：「27℃」（点灯）
（注）吸込温度は、通常の場合室内ユニットの吸込温度を表示しますが、リモコンセンサ有効の場合は、リモコンセンサ検知温度が表示されます。

(2) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

【リモコンセンサが無効で､一つのリモコンに複数台の室内ユニットが接続されている場合】

(1) **エアコンNo ボタンを５秒間押す。**
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの､最も若い番号を表示。）

(2) **TEMP △ または TEMP▽ ボタンを押す。**
室内ユニットの番号を選びます。

(3) **MODE ボタンを押す。**
室内ユニットNoを確定します。

（例）室内ユニットNo表示部：「U 000」
温度設定表示部に､「88」が点滅します。（データを読み込む間約2～10秒間点滅）
その後、吸込温度を表示します。 エアコンNo ボタンを押すと、室内ユニット選択表示（例「U 000」）に戻ります。

(4) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

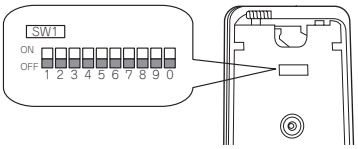
6. 機能設定

リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。ただし、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。**設定内容は記録して保管してください。**

(1) 基板上の切換スイッチによる機能設定項目

スイッチ№	設定	設定内容	初期設定
SW1－1	ON	子リモコン	
	OFF	親リモコン	○
SW1－2	ON	リモコンセンサ有効	
	OFF	リモコンセンサ無効	○
SW1－3	ON	「運転切換」ボタン禁止	
	OFF	「運転切換」ボタン有効	○
SW1－4	ON	「運転／停止」ボタン禁止	
	OFF	「運転／停止」ボタン有効	○

スイッチ№	設定	設定内容	初期設定
SW1－5	ON	「温度設定」ボタン禁止	
	OFF	「温度設定」ボタン有効	○
SW1－6	ON	「風量調整」ボタン禁止	※注１
	OFF	「風量調整」ボタン有効	※注１
SW1－7	ON	停電補償有効	
	OFF	停電補償無効	○
SW1－8, 9, 0	ON OFF	未使用	



・子リモコンは SW1-1 以外は設定無効です。
・風量1速の室内ユニットは「風量調整」ボタン有効にはできません。

(2) ボタン操作による機能設定項目

分類	機能番号	機能	設定番号	設定	初期設定	備考
リモコン機能	01	室内ファン速度	01	ファン速度３速	※注１	ファン風量が、急 - 強 - 弱の３速となります。
			02	ファン速度２速（Hi-Lo）	※注１	ファン風量が、急 - 弱の２速となります。
			03	ファン速度２速（Hi-Me）		ファン風量が、急 - 強の２速となります。
			04	ファン１速	※注１	ファン風量が１速のみで固定されます。
	03	冷房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	04	暖房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	05	換気設定	01	換気接続なし	○	
			02	エアコンと連動		シングル機は室内基板 CnT、マルチ機は室内基板 CND に換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転／停止を行います。
	06	「自動」運転設定	01	「自動」運転有効	※注１	
			02	「自動」運転無効	※注１	「自動」運転不可
室内機能	07	運転許可 / 禁止	01	無効	○	
			02	有効		運転許可／禁止制御を有効にします。
	08	外部入力切替	01	レベル入力	○	
			02	パルス入力		
	09	高天井設定	01	標準	注２	
			02	高天井１	注２	
			03	高天井２	注２	
	10	冷房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	冷房停止後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		冷房停止後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	１時間		冷房停止後、１時間ファン残留運転する。
			04	６時間		冷房停止後、６時間ファン残留運転する。
	11	暖房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	２時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、２時間ファン残留運転する。
			04	６時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、６時間ファン残留運転する。
	12	暖房室温補正	01	補正なし	○	
			02	室温補正＋３．０℃		暖房時の設定温度を＋３．０℃補正します。
			03	室温補正＋２．０℃		暖房時の設定温度を＋２．０℃補正します。
			04	室温補正＋１．０℃		暖房時の設定温度を＋１．０℃補正します。
	13	暖房ファン制御	01	弱風	○	暖房サーモ OFF 時、弱風で運転します。
			02	設定風量		暖房サーモ OFF 時、設定風量で運転します。電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。
			03	間欠運転		暖房サーモ OFF 時、間欠運転します。
			04	停止		暖房サーモ OFF 時、ファンは停止します。 リモコンセンサ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は、設定しないでください。
	14	吸込温度補正	01	補正なし	○	
			02	吸込温度補正＋２．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋２．０℃補正します。
			03	吸込温度補正＋１．５℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．５℃補正します。
			04	吸込温度補正＋１．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．０℃補正します。
			05	吸込温度補正－１．０℃		室内ユニットの吸込温度を－１．０℃補正します。
			06	吸込温度補正－１．５℃		室内ユニットの吸込温度を－１．５℃補正します。
			07	吸込温度補正－２．０℃		室内ユニットの吸込温度を－２．０℃補正します。

注１：「※」印の初期設定は、接続される室内ユニットおよび室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

スイッチ№ 機能番号	機能	設定	機種
SW1－6	風量調整	「風量調整」ボタン禁止	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
		「風量調整」ボタン有効	室内ファン風量切換えが２速または３速の機種
リモコン機能 01	室内ファン速度	ファン速度３速	室内ファン風量３速の機種
		ファン速度２速（Hi-Lo）	室内ファン風量２速の機種
		ファン速度２速（Hi-Me）	
		ファン１速	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
リモコン機能 06	「自動」運転設定	「自動」運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		「自動」運転無効	「自動」モードの無い機種

注２：高天井設定時のファンタップ

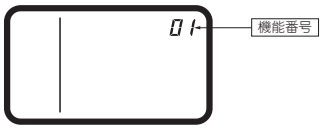
ファンタップ	室内風量設定		
	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強
標準	Hi － Me － Lo	Hi － Lo	Hi － Me
高天井１・２	UHi － Hi － Me	UHi － Me	UHi － Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

注３：ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・子室内ユニット各々設定してください。ただし、「07 運転許可／禁止」「08 外部入力切替」は親室内ユニットのみで設定可能です。

7. ボタン操作による機能設定の仕方

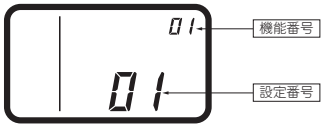
(1) **エアコンを停止させて、エアコンNoとMODEボタンを同時に長押しする。**
右上に、機能番号「01」が点滅します



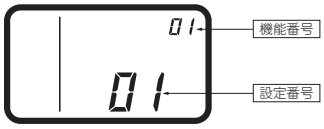
(2) **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
機能番号を選択します。

(3) **MODEボタンを押す。**
機能番号を確定する。

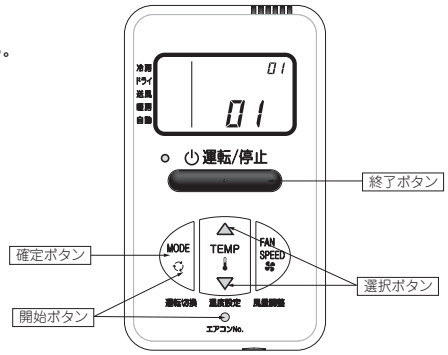
(4) **【リモコン機能（01～06）を選んだ場合】**
① 選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「01」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）



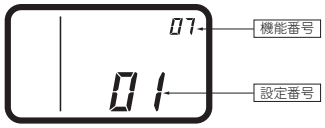
② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。
③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した機能番号と、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
機能番号：「01」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、
続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。
終了する場合は、(5)へお進みください。

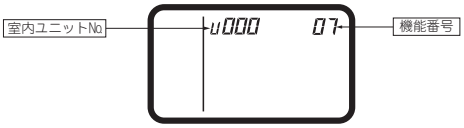


【室内機能（07～14）を選んだ場合】
① **温度設定表示部に、「88」が点滅します。**
（データを読み込む間約2～10秒点滅）
↓
その後、選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「07」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）



② へお進みください。

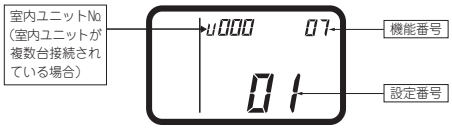
【注意】
a. 一つのリモコンに、室内ユニットを複数台接続している場合は、下記表示となります。
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。）



b. TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「U ALL」を選択すると、全台同一の設定ができます。
c. MODEボタンを押す。
室内ユニットNoを確定します。
温度設定表示部に、「88」が点滅します。（データを読み込む間2～10秒点滅）
エアコン Noボタンを押すと室内ユニット選択表示（例「U 000」点滅）に戻ります。

② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した室内ユニットNo、機能番号、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
室内ユニットNo：「U 000」（3～20秒間点灯）
機能番号：「07」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。終了する場合は、(5)へお進みください。

(5) **運転／停止ボタンを押す**
設定を終了します。

・設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されております。

【現在設定の確認方法】
上記操作により、「機能番号」を選び、MODEボタンを押した時に、最初に表示される「設定番号」が、現在設定されている内容です。
（ただし、「U ALL」（全台）を選んだ場合は、室内ユニットNoの最も若い機種の設定番号が表示されます。）

(4) ラクリーナ用リモコン（CRC-L）

外 観 図

外形寸法：86×40×6.2(H×W×D)mm

適用形式　FDT, FDTW, FDEシリーズ

〔備考〕ラクリーナ用リモコンを使用する場合は、必ず別売のワイヤレスキットを装着してください。

付 属 品

名　　称		個数
リモコン		1
リチウムコイン電池（CR2025）		1
ストラップ		1

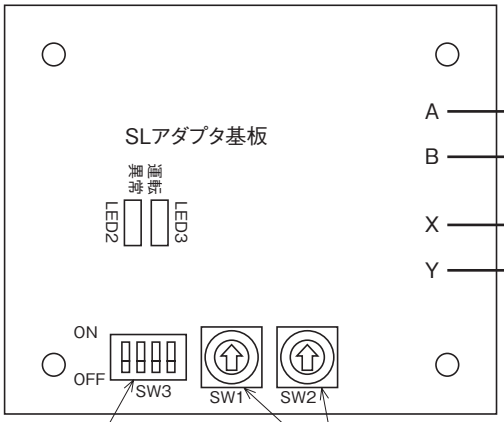
コンパクトサイズでラクリーナパネルの昇降操作を手軽に行えます。

- リモコン通信線上に,ワイヤードリモコン,ワイヤレス受信部は,合計2セットまで接続可能です。ただし，グリル昇降は「親」設定側のみ可能です。本機からグリル昇降させる時は，ワイヤレス受信部基板上の SW2 を「親」設定とし，ワイヤードリモコン側を「子」設定してください。
- 送信距離は最大で約 5m です。受信部に垂直に送信できなかったり，また受信部照度が大きくなると送信距離は短くなる場合があります。
- グリル昇降中はエアコンを停止させてください。

(5) スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA）

仕　　様		機能	
名　　称	スーパーリンクアダプタ		(1) スーパーリンクオプションからの設定内容を各室内ユニットに送信 (2) スーパーリンクオプションからのデータ要求に対し優先室内ユニットのデータを返信 (3) 接続室内ユニットの異常状態を点検コードでスーパーリンクオプションに送信
形　　式	SC-ADNA		
適用機種	室外-室内　2心通信仕様		
外形寸法（mm）	プリント基板　65×80×20 板金ボックス100×85×35		
制御可能な室内機台数	最大16台 （同一運転モード）		

接続要領



SW3-1	
ON	親
OFF	子

● **信号線**

0.75mm²～1.25mm²のシールド線（MVVS 2心）

注(1)　線径が0.75mm²時で1500mまで，1.25mm²時で1000mまでとなります。
2.0mm²は使用しないでください。誤動作となる場合があります。

注(2)　シールド線は，両端をアースしてください。

リモコンコードを延長する場合の注意

● コードは必ずシールド線を使用してください。

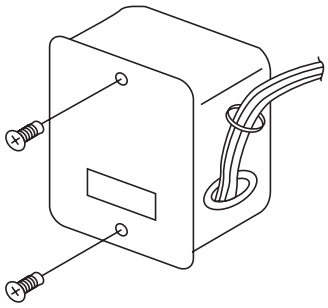
• 0.3mm²×2心

注(1)　延長距離が100mを超える場合は下記のサイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。

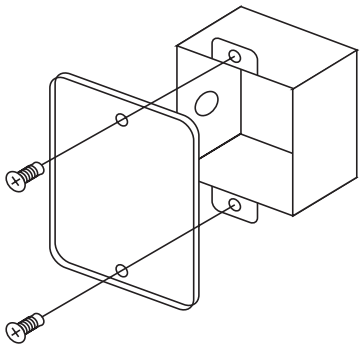
100～200m以内…0.5mm²×2心
～300m以内…0.75mm²×2心
～400m以内…1.25mm²×2心
～600m以内…2mm²×2心

取付要領

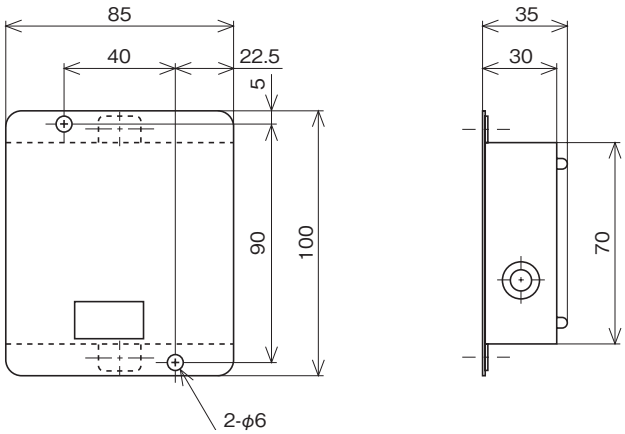
► 室内ユニット外へ設置する場合は，板金カバーを取付けてください。



► リモコン背面へ取付の場合は，直接リモコン下ケースへ取付けてください。



板金ボックス外形図



安全上のご注意

■工事前に，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく据付けしてください。お掃除ラクリーナパネル関連事項を抜粋しています。必ず室内ユニットの取扱説明書「安全上のご注意」もお読みください。
■ここに示した注意事項は，「⚠警告」，「⚠注意」に区分していますが，誤った取扱いをしたときに，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「⚠警告」の欄にまとめて記載しています。しかし，「⚠注意」の欄に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。
■絵表示の例

△記号は，危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

○記号は，禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

●記号は，行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合はアースを行なってください）が描かれています。

■お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。また，お使いになる方が代わる場合は，必ず本書をお渡しください。

据付上の注意事項

⚠警告

据付は，販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると，水漏れや感電，　火災，エアコン落下によるケガの原因になります。

配線は，確実に接続し，端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は，発熱，火災等の原因になります。

元電源を切った後に電気工事をする。
感電，故障や動作不良の原因になります。

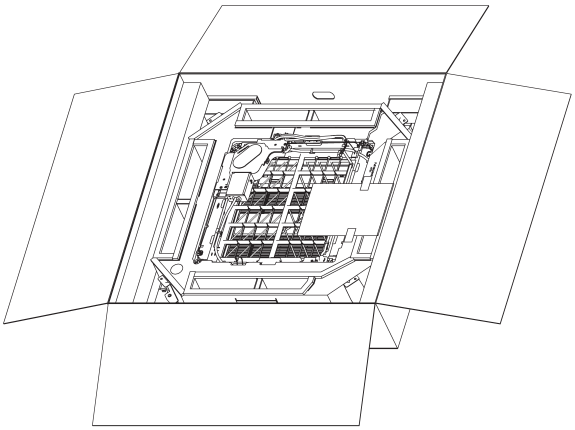
⚠注意

次の場所への設置は避けてください。故障の原因になります。
・油煙が発生する作業場
・粉が浮遊する作業場
・タバコの煙が多いところ
・水蒸気の発生，湿気の多いところ
・化粧品・特殊なスプレーを使用するところ

温度制御が重要なところへの設置は避けてください。トラブルの原因になります。
エアコン運転中に清掃運転を開始すると，風量 Lo・風向制御停止となります。24 時間運転等のところでは，自動清掃中（約 1 時間）運転状態（能力低下）が変わります。なお，清掃運転中は表示部に緑が点灯します。

お願い

吸込グリルの稼働範囲の周辺および下方に障害物を置かないでください。電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作・ブラシの試運転はできません。
吸込グリル取付後はリモコン「上がる」の操作を行い，吸込グリルを正規位置に収納してください。（マイコンが収納位置を記憶したのち，ブラシの初期位置設定を行います。）
この間は，風量・風向の変更は入力されますが，終了するまでは実行しません。この間は，表示部に緑が点灯します。



パネル装着手順

パネルからお掃除ユニットを分離
パネル裏面の突起で床を傷つける場合があります。
梱包箱から出す前に実施が有効です。

↓ (1)〜(5)

室内ユニットにパネルを装着
室内ユニットと配線接続

↓ (6)〜(10)

パネルにお掃除ユニットを装着

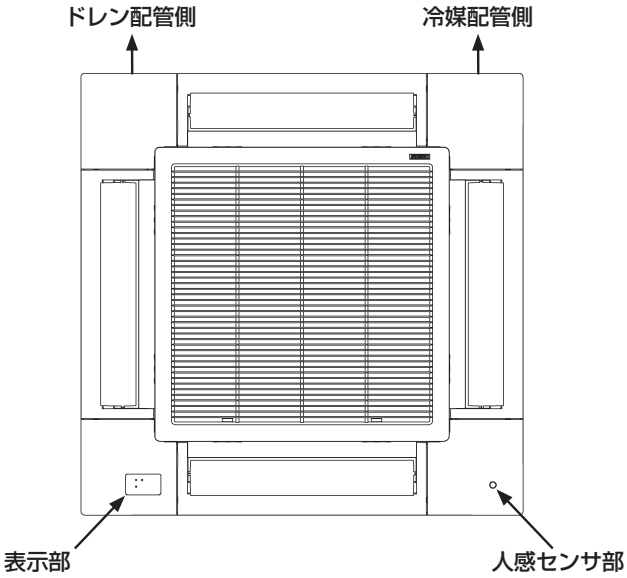
↓ (11)〜(16)

室内ユニット・リモコンの設定
試運転

(17)〜(21)

(I) 据付工事

(1) 据付のまえに



・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
　○パネル・リモコンのタイプ
　○付属品

吸込グリルに方向性があります。
90度回転方向には取付きません。

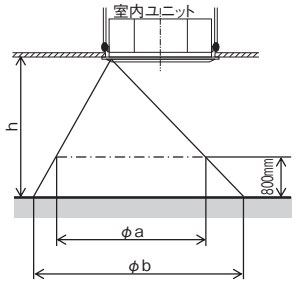
付属品

取扱説明書	1 冊			
据付説明書	1 冊			
電源線（赤，白）	1 本	⑩⑫		
パネル固定ボルト	4 本	⑧	室内ユニットへ取付け用	
ストラップ	4 本	⑨	コーナリッド落下防止用	
配線カバー	1 個	⑫	電源配線接続部カバー	
ねじ（銀色）	6 本	⑨	クランプ固定 コーナリッド固定用	共用 4 本
		⑫	配線カバー用 2 本	
アースねじ（黄銅）	2 本	⑫		
クランプ	4 本		吸込グリル仮止用	

機能名称について

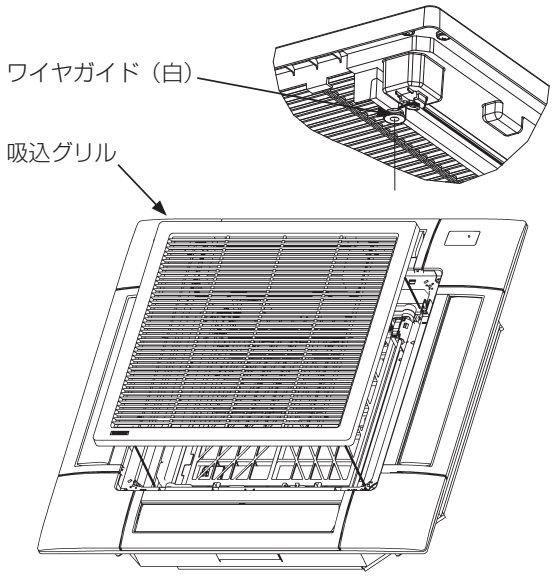
機能の名称の意味は下記のとおりです。
お掃除　　：エアフィルタ自動清掃機能
ラクリーナ　　：ダストボックス昇降機能
エアフレックス：ドラフト防止機能

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

(2) 吸込グリルの取外し



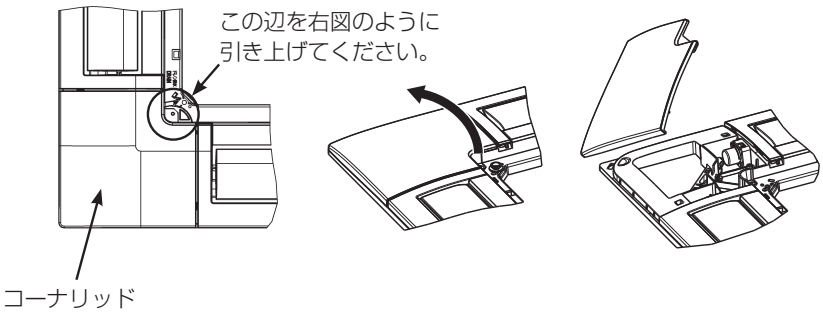
1. 吸込グリルを持ち上げて，吸込グリルを開けます。

2. 吸込グリル 4 コーナに取付けてあるワイヤガイドを外側にスライドさせて外してください。

ご注意
吸込グリルはゆっくり持ち上げてください。
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。

3. 吸込グリル内側のダストボックスの固定に使用していたダンボール・青テープを外してください。

(3) コーナリッドの取外し

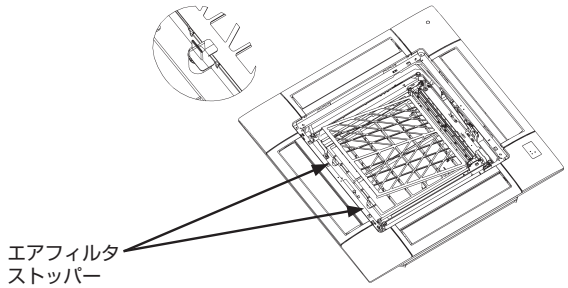


・コーナリッドを矢印の方向へ引き上げて取外してください。(4 コーナとも)

ご注意

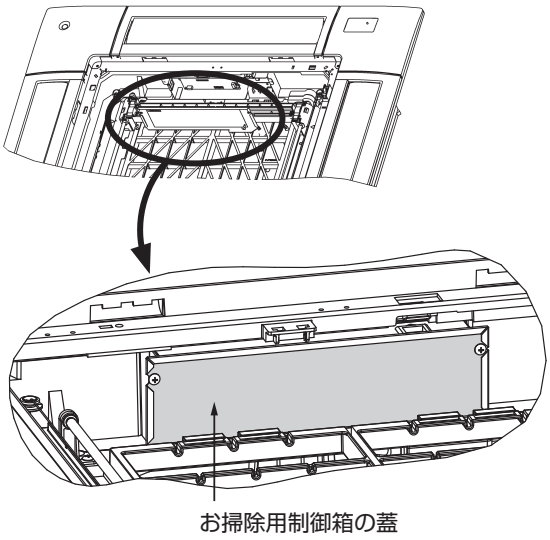
表示部および人感センサ部は，コーナリッド内で配線が接続されています。

(4) エアフィルタの取外し



・エアフィルタストッパー（2 か所・白）を廻しエアフィルタを手前に引出してください。

(5) お掃除ユニットの取外し



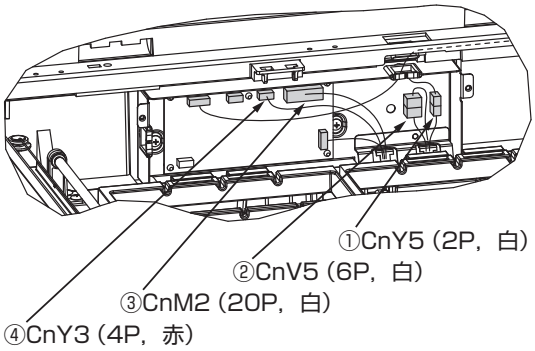
1. パネルのお掃除用制御箱の蓋を取外してください。
   左側のねじを緩め, 右側のねじを取外して, 蓋を取外してください。

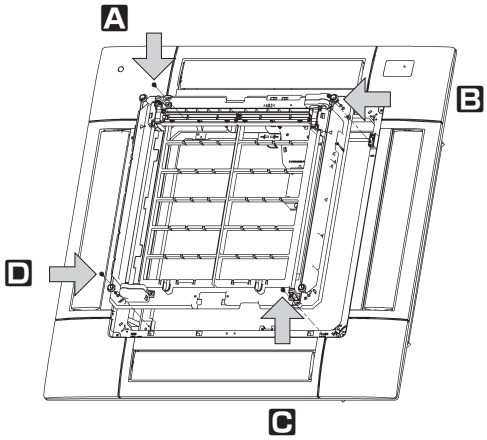
2. パネルのお掃除用制御箱内の配線を外してください。
   ①コネクタ CnY5(2P, 白)：グリル用リミットスイッチ
   ②コネクタ CnV5(6P, 白)：ラクリーナ信号線
   ③コネクタ CnM2(20P, 白)：お掃除用モータ線 1
   ④コネクタ CnY3(4P, 赤)：お掃除用モータ線 2

3. A・C 側のねじ 2 本を緩め，B・D 側 2 本を外し，お掃除ユニットを外します。

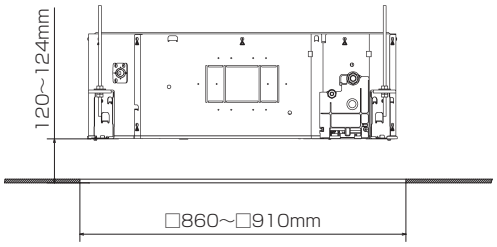
ご注意

ドライブシャフトを持たないでください。変形すると故障の原因になります。





(6) 室内ユニットの取付レベルの確認



・室内ユニット取付高さはパネル取付後，コーナ開口部より微調整ができます。（詳細は(8)パネルの取付をご参照ください。）

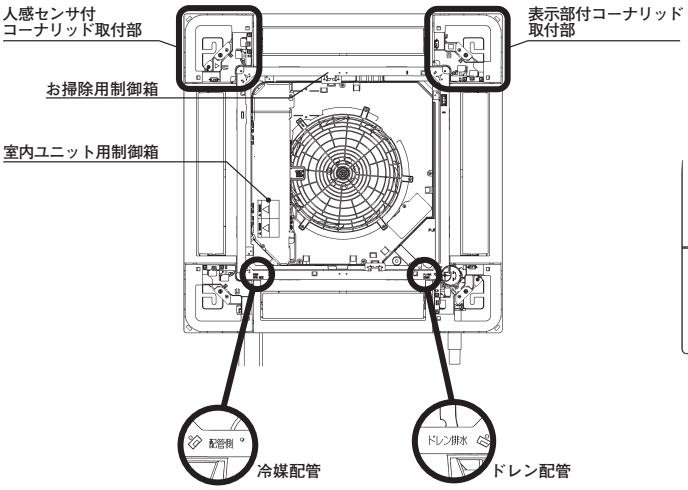
標準 +110 ㎜ 高く

・お掃除ラクリーナパネル据付の場合は，標準パネル据付に対し110㎜天井裏高さが増します。
天井下面と室内ユニット下面のレベル差は，120 ～ 124 ㎜の範囲内としてください。
天井開口は標準パネルと同一，□ 860 ～□ 910 の範囲にしてください。

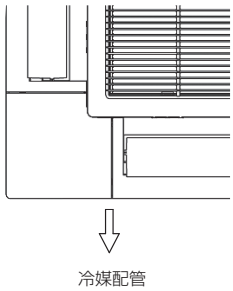
ご注意

室内ユニットと天井材との高さは，パネル取付の際，パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。パネルが変形し破損の恐れがあります。

(7) パネルの取付方向



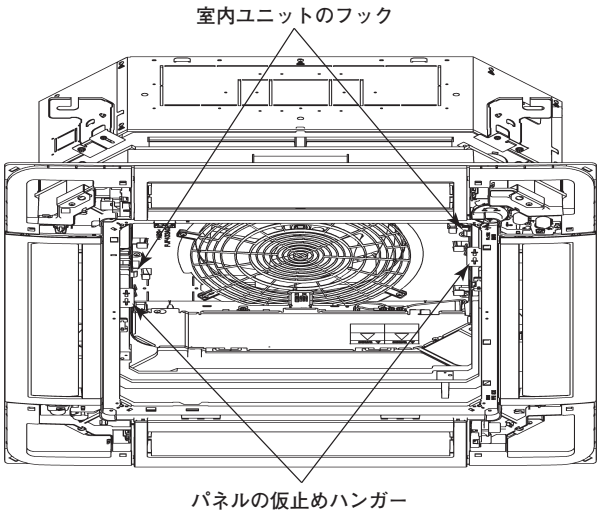
・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは，図に示す方向で取付けてください。
・パネルの「ドレン排水」と室内ユニットドレン配管の位置を合わせてください。
・パネルの「配管側」と室内ユニット冷媒配管の位置を合わせてください。

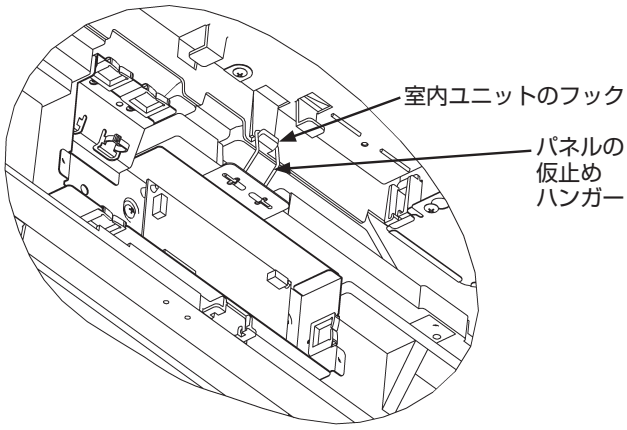


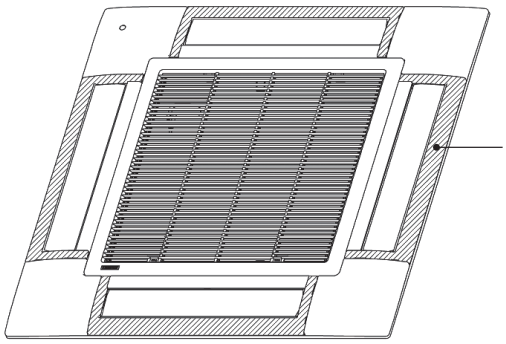
吸込グリルに方向性があります。
90 度回転方向には取付きません。

(8) パネルの取付

1. パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（2か所）
・パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて，パネルを室内ユニットに吊るします。







斜線部(４か所)は可動します。
手で無理に動かすと破損します。

ご注意

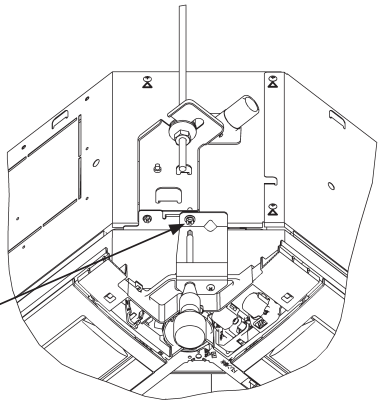
・パネルの吹出口周囲のエアフレックス (斜線部) は別部品です。
　パネルを持つ際は取扱いに注意してください。手で無理に動かすと破損します。

2. パネルの室内ユニットへの固定

・付属のパネル固定ボルト４本を用いて，室内ユニットに締付けてください。

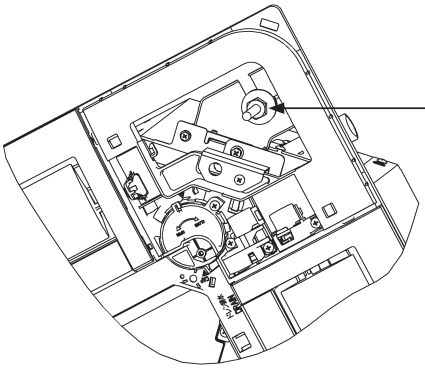
ご注意

仮止め状態のまま，コーナリッドの取外しは大変危険です。
仮止め状態のまま，室内ユニットの調整を行うことは大変危険です。



パネル固定ボルト

・室内ユニットの水平度，ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま，室内ユニットの据付高さを微調整できます。



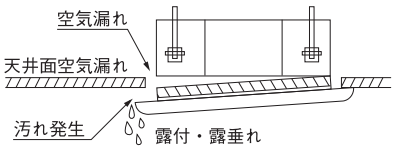
コーナ開口部よりスパナ等の一般工具にて
室内ユニットのナットを微調整してください。

ご注意

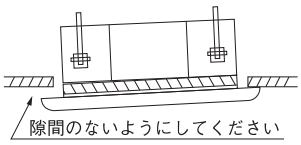
パネル取付の際，パネルに無理な荷重がかからないよう，室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し，吸込グリル，エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

ご注意

・吊りボルトの締込みが不十分な場合，下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。

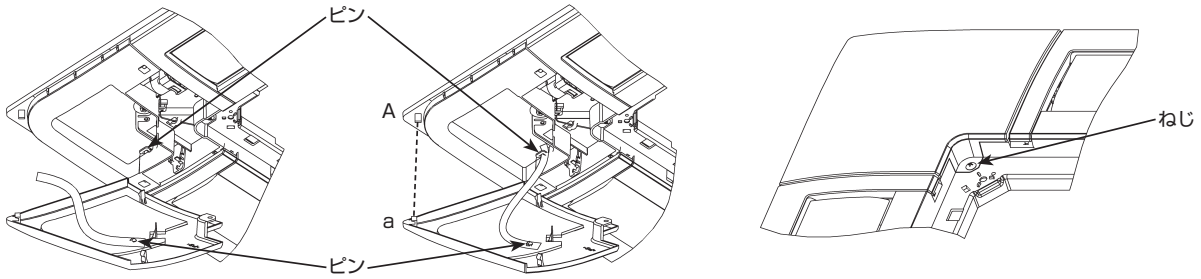


・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は，室内ユニットの高さを再調整してください。

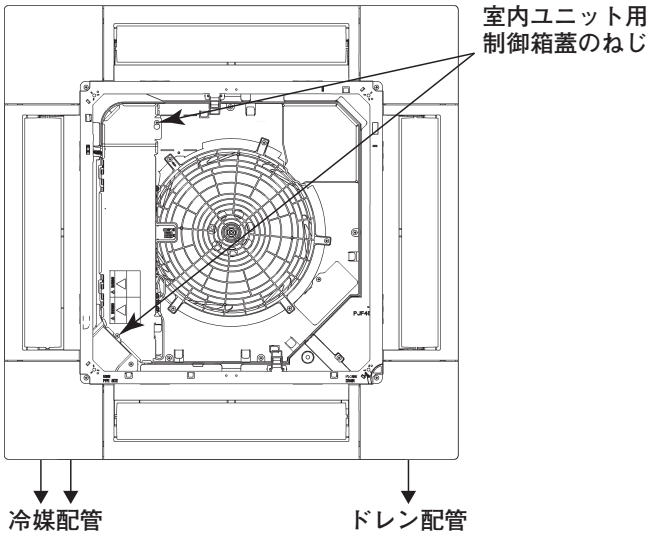


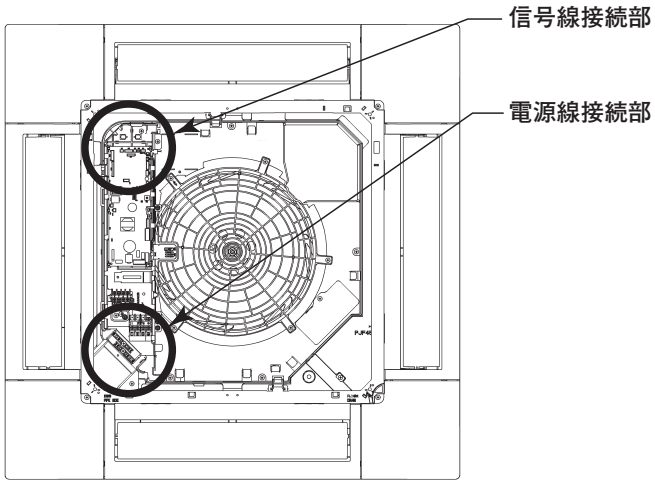
⑼ コーナリッドの取付

1. 付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折返して引掛けてください。
2. コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引掛けてください。
3. コーナリッドの a 部をパネルの A 部に挿入してから，コーナリッドのつめ（2か所）をはめてください。
4. 付属のねじで固定してください。



⑽ 電気配線





1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め，蓋をスライドして取外してください。

2. ルーバモータ線（20 線）を制御箱のフックに通し，コネクタ CnJ1（20P, 白）を接続してください。

3. エアフレックスモータ線（20 線）を制御箱のフックに通し，コネクタ CnJ2（20P, 白）を接続してください。

4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し, コネクタ CnL（3P, 黒）を接続してください。

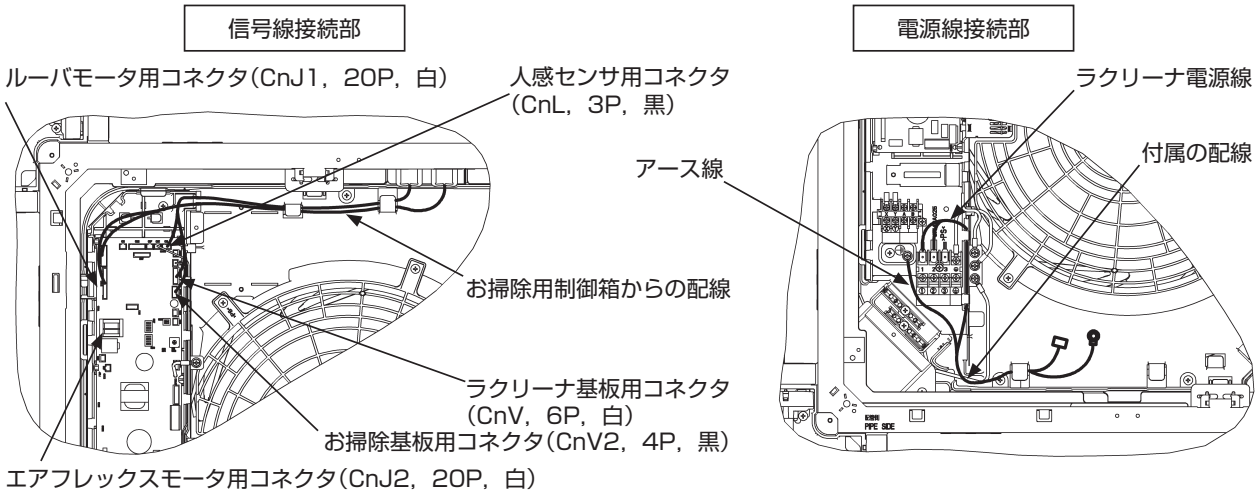
5. ラクリーナ電源 & アース線（付属品）のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の1番 , 2番に挿入してください。
   電源線の赤を端子台の1番に，白を2番に挿入してください。
   アース線 [緑] を室内ユニット制御箱の⏚に接続してください。

6. ラクリーナ基板用信号線（6線）を室内ユニットの制御箱内の基板のコネクタ CnV（6P, 白）に接続してください。
   コネクタ CnV にショートコネクタが接続されている場合は取外しの上，信号線を接続してください。

7. お掃除基板用信号線（4線）を室内ユニットの制御箱内の基板のコネクタ CnV2（4P, 黒）に接続してください。

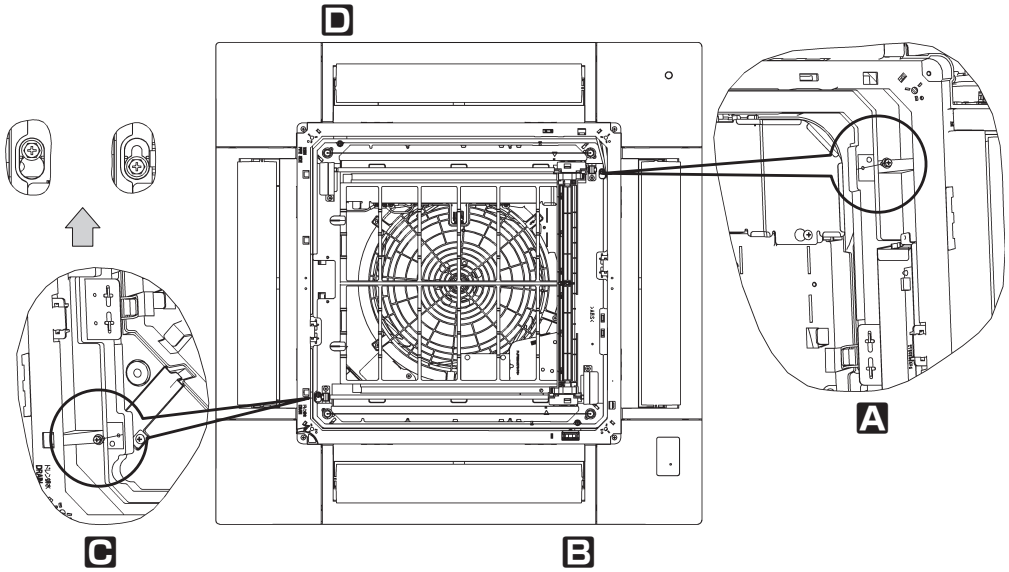
8. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け，ねじ（2本）を締付けてください。

9. 室内ユニットの形式 , 製造号機を取扱説明書裏ページ等へ控えてください。
   （お掃除ユニットを取付けると室内ユニットの装置銘鈑が見難くなります。）

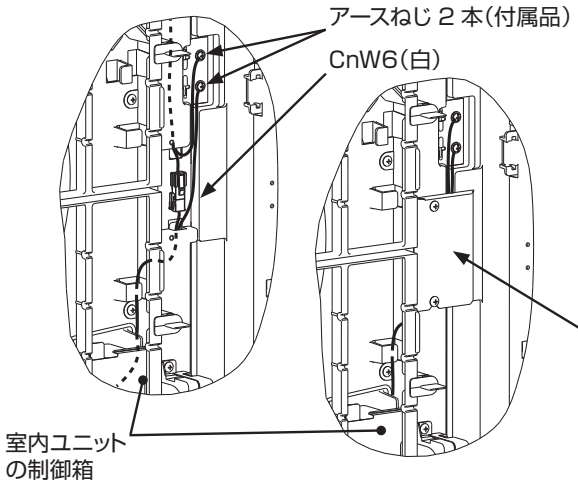


⑾ お掃除ユニットの取付

A･C 側のM4ボルト２本に仮止めした後, お掃除ユニットをはめ込みボルトを締めてください。残り B･D 側２本のボルトを締めてください。

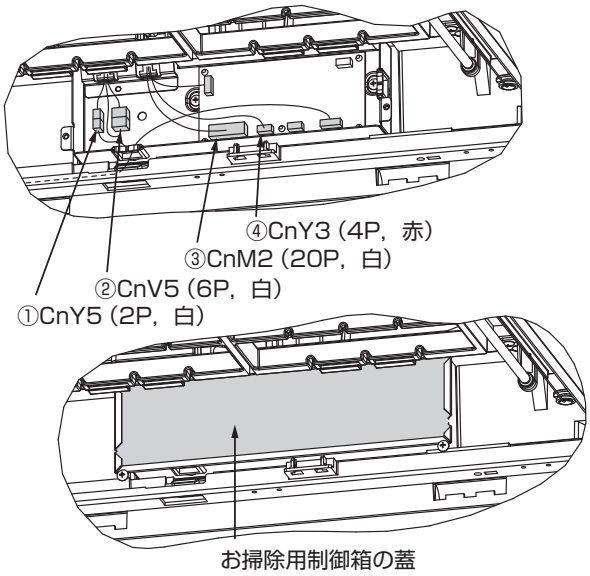


⑿ 電源線の接続



1. お掃除ユニットのアース線 [緑] をパネルの金具部にアースねじ(付属品)を使用して接続してください。
2. 室内ユニットの電源端子台に接続したラクリーナ電源＆アース線(付属品)をお掃除ユニットに接続してください。
   電源線(２線)コネクタ CnW6(2P, 白)を接続してください。
   アース線 [緑] をパネルの金具部にアースねじ(付属品)を使用して接続してください。
3. 配線カバー(付属品)をねじ(２本 , 付属品)で取付けてください。

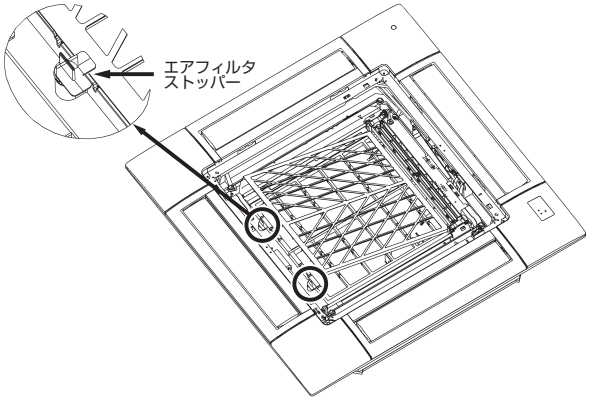
⑬ 制御配線の接続



1. パネルのお掃除用制御箱内の配線を接続してください。
   ①コネクタ CnY5（2P, 白）：グリル用リミットスイッチ
   ②コネクタ CnV5（6P, 白）：ラクリーナ信号線
   ③コネクタ CnM2（20P, 白）：お掃除用モータ線 1
   ④コネクタ CnY3（4P, 赤）：お掃除用モータ線 2

2. パネルのお掃除用制御箱の蓋を取付けてください。

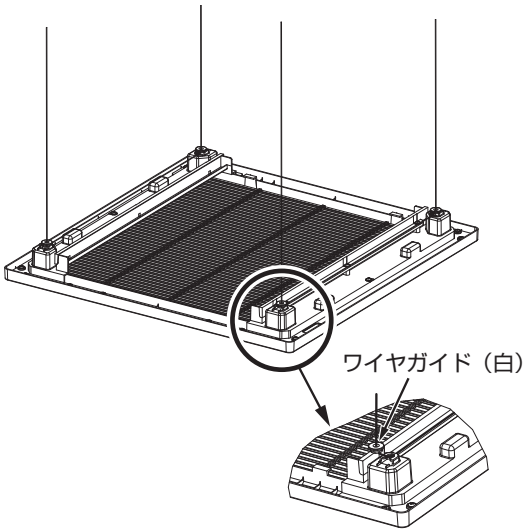
⑭ エアフィルタの取付



1. ブラシ組立とフレームの間にエアフィルタを装着してください。

2. エアフィルタストッパーで固定してください。

⑮ 吸込グリルの取付



1. 吸込グリル取付方向には方向性が有ります。吸込グリル方向を決定してください。
   90 度回転方向には取付けられません。

2. ワイヤを通してあるワイヤガイドを吸込グリルの 4 コーナの取付部に固定して装着します。

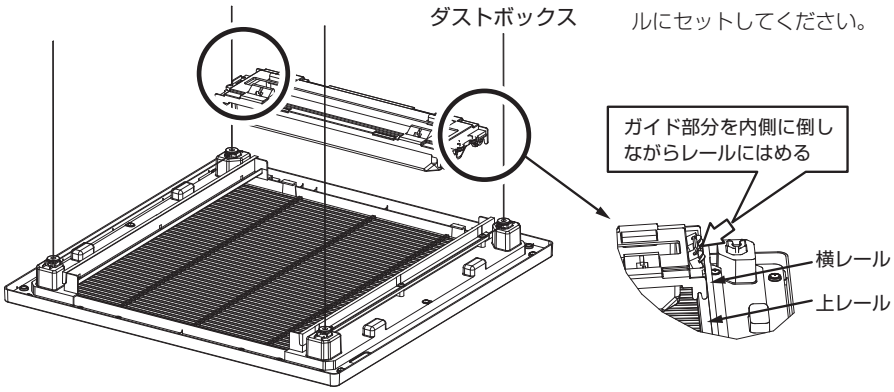
3. ワイヤガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。
   装着の際，取付部の隙間をワイヤが通過する様にワイヤの向きに注意して確実に取付けてください。

4. ワイヤガイド装着後，ワイヤの曲り・ねじり・噛込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと，吸込グリルの自動昇降ができなくなったり，吸込グリルが落下する恐れがあります。
ワイヤがお掃除部品に引掛かっていないか確認してください。引掛かりがあると吸込グリルの昇降・収納ができなくなったりします。

⑯ ダストボックスの取付



・ダストボックスのガイド部を内側に倒しながら，吸込グリルのレールにセットしてください。

ご注意

ボックス取付後，レールに沿ってダストボックスが端から端まで滑らかに移動できるか確認してください。
滑車がレールから外れていると，お掃除運転が正常に作動できなくなりますので確認してください。

⑰ 各種設定

＜ルーバ動作範囲の設定（フリーフロー設定）＞

ワイヤードリモコンを使用することで，吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると，ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に動作範囲の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜エアフレックスの設定（ドラフト防止設定）＞

お掃除ラクリーナパネルを取付，配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために，ワイヤードリモコンを使用して，ドラフト防止設定を有効にしてください。
本モードで有効に設定するとエアコンの運転開始時にエアフレックスが作動し，運転中は常時エアフレックスが開いています。また，エアコン停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効 / 無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。
（ワイヤードリモコン RC-DX2，RC-D4G 以前，ワイヤレスリモコン RCN-D3G 以前のリモコンでは設定できません。）

＜人感センサの設定＞

お掃除ラクリーナパネルを取付，配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために，ワイヤードリモコンを使用して，人感センサ設定を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。
（ワイヤードリモコン RC-DX2，RC-D4G 以前，ワイヤレスリモコン RCN-D3G 以前のリモコンでは設定できません。）

＜吸込グリル昇降の設定（グリル昇降操作）＞

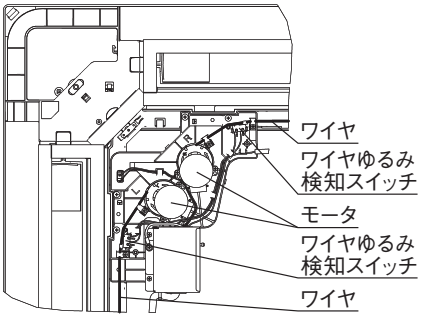
お掃除ラクリーナパネルを取付け，配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。
吸込グリルの昇降を可能にするために，ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して，吸込グリル昇降を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル下降長さの設定（降下長設定）＞

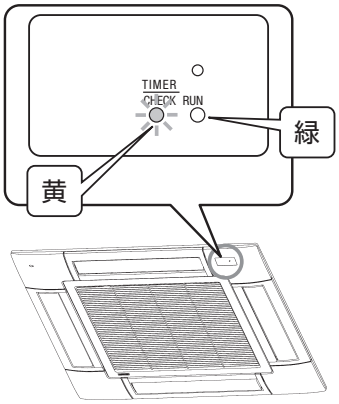
吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は２mに設定されています。
お好みの下降長さにしたい場合は，ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して，吸込グリルの下降長さを設定してください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

ご注意

＜ワイヤゆるみ検知機構について＞
ラクリーナパネルには，ワイヤの絡まり防止のため，「ワイヤゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤがゆるんだ場合，ワイヤゆるみ検知スイッチが働き，自動昇降用モータが自動停止します。
パネル据付後，グリルが動かない場合，「ワイヤゆるみ検知機構」が作動している可能性がありますので，据付時にワイヤの噛込み，絡まり等が無いか，ワイヤ経路をご確認ください。



⑱　吸込グリルの収納



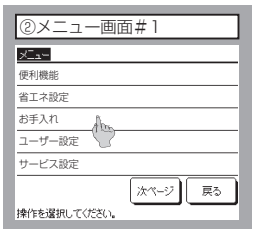
・リモコンのグリル昇降で「上がる」を選択して吸込グリルを収納してください。吸込グリルが収納されると，自動でダストボックスセッティングの運動を行います。この間は風量・風向の変更は入力できますが，終了するまでは実行しません。風量 Lo での運転は可能です。
・お掃除運転中は，表示部に緑のランプが点灯します。緑の点滅で点検モードを表示します。

表示部のランプ点灯パターンとその内容		
ランプ点灯パターン	内　容	点検項目
緑と黄の交互点滅	電源投入から 20 秒間	―
消　　灯	室内ユニット - お掃除メカ間の通信異常	配線コネクタの差込を確認
緑の連続点滅		
緑の 1 回点滅	位置検知不能	エアフィルタ装着・ダストボックスとレールの装着を確認
緑の 2 回点滅		
緑の 3 回点滅		
緑の 4 回点滅	グリル収納不良	グリルが正しく収納されていません。ワイヤ・ワイヤガイドを確認

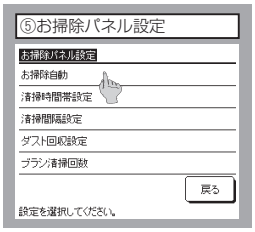
⑲ お掃除パネルの初期設定

・お掃除パネル設定は，FDTお掃除ラクリーナパネル接続時のみ可能です。接続せずにお掃除パネル設定を選択すると「操作無効です。」を3秒間表示します。
・お掃除ラクリーナパネルを使用する場合は，必ず時刻設定を行ってください。
・お掃除パネル設定は，親リモコンのみ可能です。

(a) TOP画面の「メニュー」より→「お手入れ」→「お掃除パネル設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

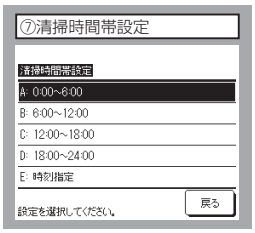


(b) 「お掃除パネル設定」画面より，各項目を選択してください。
設定する項目をタッチしてください。
・お掃除自動……自動清掃運転の有効/休止を設定します。
・清掃時間帯設定……自動清掃を開始する時間帯を設定します。
・清掃間隔設定……自動清掃する最小の間隔を設定します。
・ダスト回収設定……ダスト回収時期を設定します。
・ブラシ清掃回数……ブラシ清掃回数を設定します。

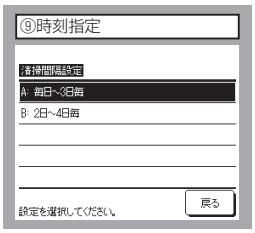


(i) お掃除自動の「制御有効」，「制御休止」を設定します。
・制御有効…自動清掃運転休止を解除します。
・制御休止…自動清掃運転が停止します。
リモコン・バックアップスイッチ操作ができなくなります。

(ii) 清掃時間帯設定
・設定された時間帯内の任意の時刻に自動清掃を開始します。
・エアコンの停止している時間を見計らって開始します。
・エアコンが運転している場合は，風量を弱まで下げ，ルーバを停止してから自動清掃を行ないます。
・お掃除運転中はモータ運転音が発生します。
・お掃除運転が気にならない時間帯（通常不在の時）を選択してください。
・「時刻指定」を選択すると，お掃除自動運転を開始する時刻を設定する画面が表示します。
▲ ▼ ボタンで，ご希望の時刻(5分単位)に合わせてください。
ご希望の時刻後，セット ボタンをタッチしてください。



(iii) 清掃間隔設定
自動清掃する最小の間隔を設定します。
エアコン運転時間により，清掃は1～4日間隔で行います。
・A 毎日～3日毎：エアコン運転中は毎日，エアコン停止中は3日毎
・B 2日～4日毎：エアコン運転中は2日毎，エアコン停止中は4日毎

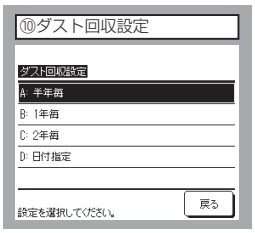


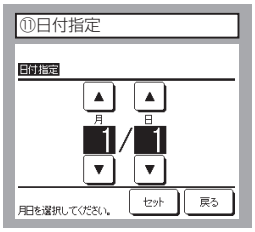
(iv) ダスト回収設定

・設定された日になると，リモコンに『ホコリを回収してください。』を表示します。

・一般事務所で１年毎を想定してダストボックス容量を決めていますが， ホコリの多少により設定してください。

・「日付指定」を選択すると，ダスト回収時期を指定する画面が表示され ▲ ▼ ボタンで，ご希望の日付に合わせてください。ご希望の日付に設定後，セット ボタンをタッチしてください。





(v) ブラシ清掃回数設定

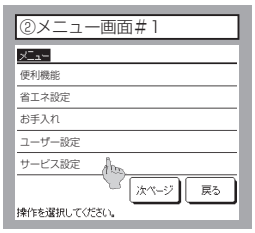
ブラシの清掃回数を設定できます。初期設定は5回ですが，2～9回の範囲で設定できます。

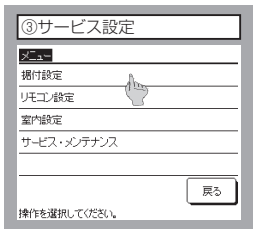
ブラシにホコリが残る場合，回数を増やしてください。

⑳ お掃除パネルの試運転

(a) ecoタッチリモコンを使用する場合の試運転手順

(i) TOP画面の「メニュー」より →「サービス設定」→「据付設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。



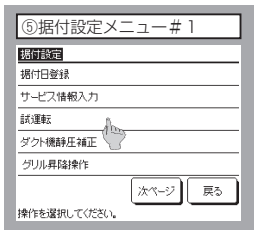


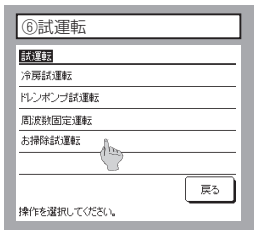
(ii) 「据付設定メニュー#1」画面から「試運転」を選択します。

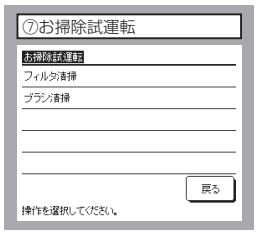
「試運転」画面から「お掃除試運転」を選択します。

「お掃除試運転」画面から「フィルタ清掃」または「ブラシ清掃」 選択し 運転 ボタンをタッチしてください。

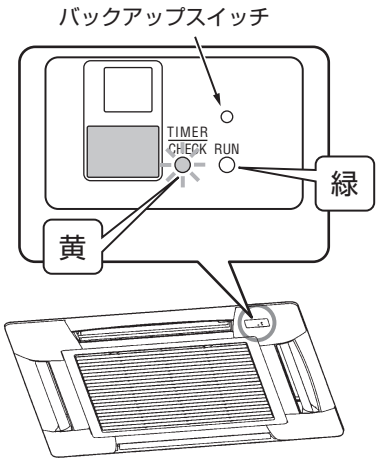
清掃運転を開始します。







(b) eco タッチリモコンを使用しない場合



バックアップスイッチを押す

パネル表示部のバックアップスイッチを押してください。
バックアップスイッチを押す時間により試運転モードが異なります。

ON 時間	試運転内容
3 秒未満	フィルター清掃開始
3 ～ 6 秒	ブラシ清掃開始
6 秒以上	表示消灯

お掃除試運転中はパネル表示部に緑のランプが点灯します。
緑の点滅で点検モードを表示します。
この間は，風量・風向の変更は入力できますが，終了するまでは実行しません。風量 Lo での運転は可能です。
運転中にバックアップスイッチを押すと停止します。

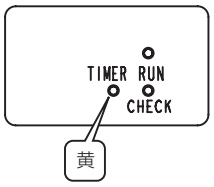
パネル表示部ランプ点灯モードとその内容		
表示パターン	内　容	点検項目
緑と黄の交互点滅	電源投入から 20 秒間	―
消　　灯	本体 - お掃除間の通信異常	配線コネクタの差込を確認
緑の連続点滅		
緑の 1 回点滅	位置検知不能	フィルタ装着・ダストボックスとレールの装着を確認
緑の 2 回点滅		
緑の 3 回点滅		
緑の 4 回点滅	グリル収納不良	グリルが正しく収納されていません。ワイヤ・ワイヤガイドを確認

お知らせ
フィルタ清掃は、約 1 時間 20 分で終了します。
フィルタ面を 11mm/ 分でゆっくり拭き取ります。

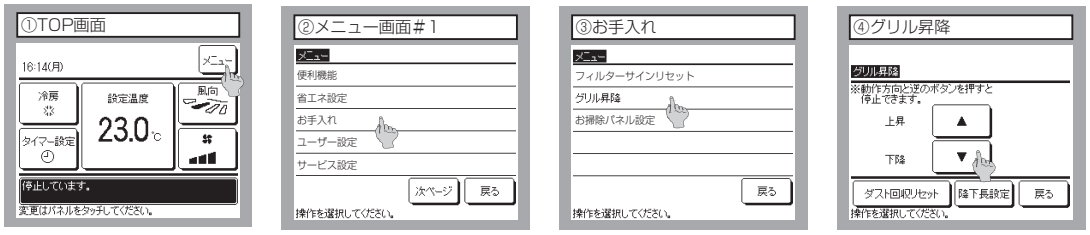
(21) ダスト回収のしかた

お掃除パネル接続ユニットにおいて，ダストボックスのホコリを回収する時期をお知らせするため，設定時間に達すると，「ホコリを回収してください。」を表示します。
以下の操作により，ダストボックス内のホコリを回収し，「ホコリを回収してください。」表示を消してください。

●パネル表示部に黄色の点灯



(a) TOP画面の「メニュー」より「お手入れ」→「グリル昇降」を選択します。
「グリル昇降」画面より降下 ▼ ボタンをタッチして，吸込グリルを下げます。



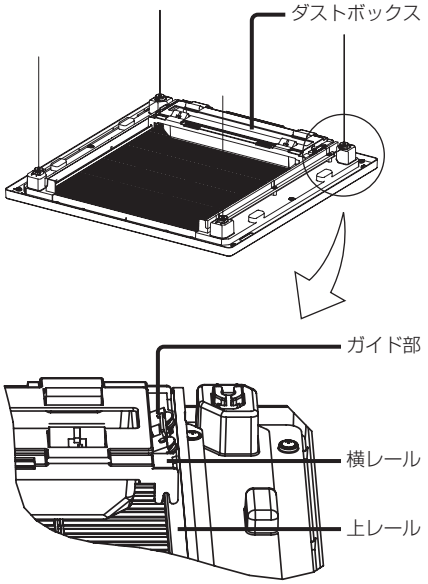
(b) ダストボックスを取外し，ホコリを回収してください。
ホコリを回収後，ダストボックスを元の場所に設置し，吸込グリルを上げてください。

(ⅰ) ダストボックスの取外し
吸込グリルが下降停止してから，ダストボックスをレールから取外してください。

(ⅱ) ホコリの回収
ダストボックス内のホコリを回収してください。

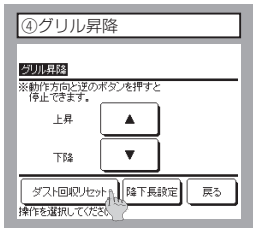
(ⅲ) ダストボックスのセット
ガイド部分を内側に倒しながら，吸込グリルのレールにダストボックスをセットしてください。

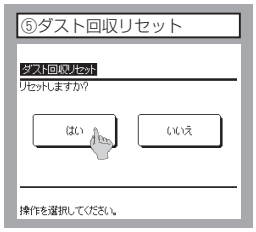
(ⅳ) 吸込グリルを上げる
吸込グリルが収納されると，自動でダストボックスのセッティング運転を行います。
この間は，風量・風向の変更は入力できますが，終了するまでは実行しません。



(c) ダスト回収リセット
「グリル昇降」画面より「ダスト回収リセット」ボタンをタッチしてください。
「ダスト回収リセット」画面より はい ボタンをタッチしてください。ダスト回収タイマーがリセットされ，「ホコリを回収してください。」の表示が消えます。

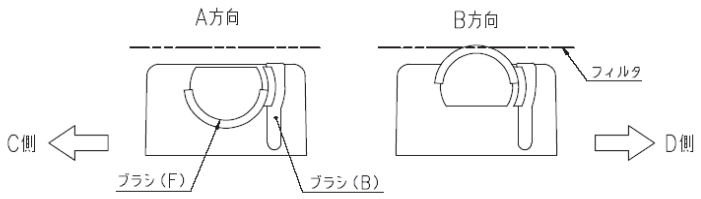
注(1) ダスト回収設定で「日付指定」を選択している場合，次回の「日付指定」設定が必要です。⒆，(b)，(ⅳ)項を参照して設定してください。



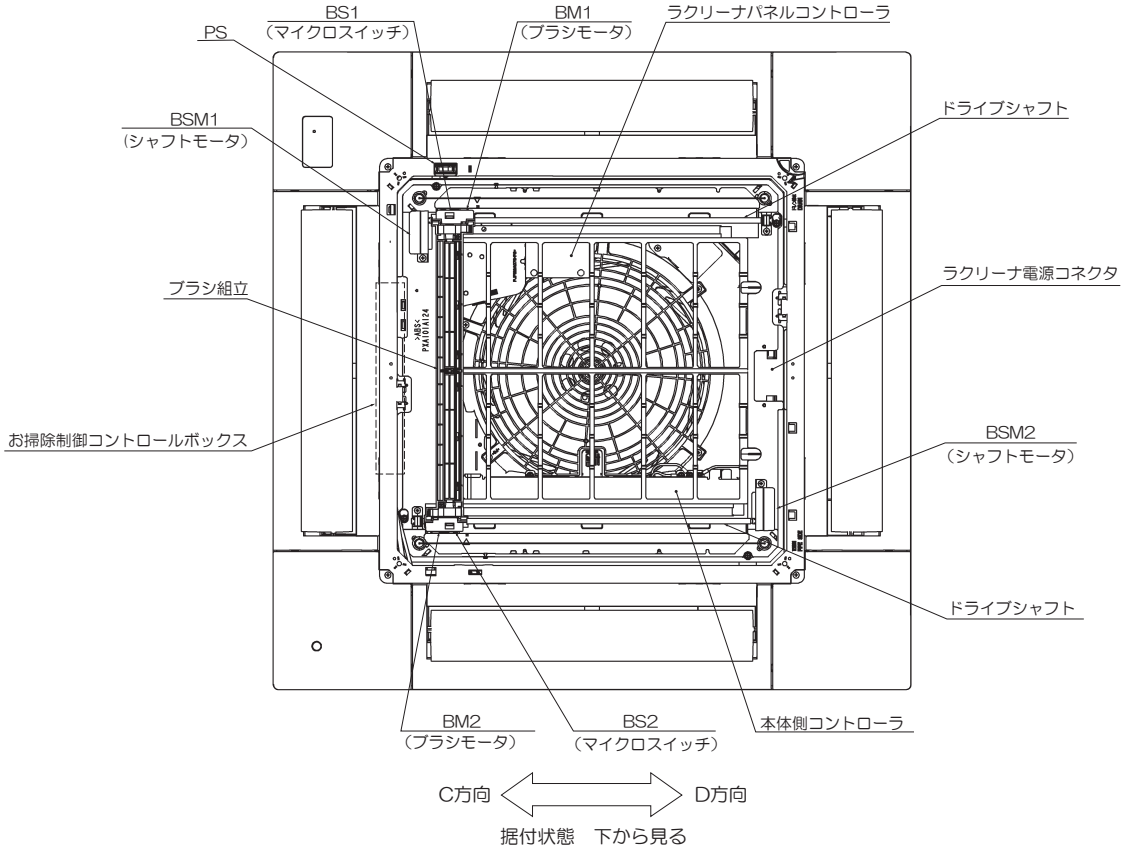


(Ⅱ) サービス関連

(1) 部品・機能



ブラシ組立断面図



部　　品	仕　様・機　能
フィルタ	ハイメッシュフィルタ　材料ＰＥＴ
ブラシＦ	フィルタからホコリを拭き取るブラシ
ブラシＢ	ブラシＦ・ブラシＢが交差してホコリをダストボックスに落とす為のブラシ
ドライブシャフト	ブラシ組立てをＣ方向⇔Ｄ方向へ移動させるシャフト （無理な力が加わると変形するので注意）
ＢＭ1,2	ブラシ回転用モータ，ブラシの向き（Ａ方向⇔Ｂ方向）を制御します。
ＢＳＭ1,2	ドライブシャフト回転用モータ，ブラシ組立て位置（Ｃ方向⇔Ｄ方向）を制御します。
ＢＳ1,2	位置検知用スイッチ，ブラシ組立ての位置（Ｃ方向⇔Ｄ方向）を検知します。
表示部　スイッチ	バックアップスイッチ、お掃除運転・ＬＥＤ消灯を制御します。
表示部　ＬＥＤ４	緑色、お掃除運転表示（点灯）・点検コード表示（点滅）を行います。
表示部　ＬＥＤ５	黄色，ダスト回収表示（点灯）を行います。
お掃除制御コントロールボックス	お掃除用モータ・スイッチ・表示部の制御基板を内蔵
ＰＳ	グリル収納位置検知スイッチ，吸込グリルがパネルに収納したことを検知します。
ラクリーナ電源用コネクタ	本体側からラクリーナパネルコントローラへの電源線中継コネクタです。
ラクリーナパネルコントローラ	グリル自動昇降用モータ・スイッチ・コントローラを収納しています。

注(1) フィルタ，ブラシF・Bは，消耗品です。3年を目安に交換を行ってください。ただし，環境条件や使用条件によっては，想定している交換周期よりも早く消耗が進みフィルタの目詰まり等の影響がでる場合がありますので，定期的な保守点検を行うことをお願いします。

(2) 制御

(a) お掃除運転

・ブラシ組立は，ブラシＦをＢ方向に向けてからＤ方向側へ移動させ，エアフィルタに付いたホコリをふきとります。約10mm/分で移動し，移動の途中でブラシＦとフィルタの接触面を変えています。

・Ｄ方向側に到着後，ブラシＦをＡ方向に向けてからＣ方向側へ約10mm/分で戻ります。

・Ｃ方向側に到着後，ブラシＦを往復回転させながら，ブラシＦとブラシＢを交差させてホコリを圧縮してダストボックスに落とします。往復回転数は２～９の範囲で設定できます。

・終了後，ブラシ組立はブラシＦをＡ方向に向けてからＣ方向側で停止します。

(b) 位置合わせ運転

・ブラシ組立とダストボックスの位置を合わせます。

・ブラシ組立がＤ方向側へ移動し、到着後Ｃ方向側へ約16mm/分で戻ります。

・ダストボックス上部のフックは､ばねで沈みながらブラシ組立に位置を合わせます。

・終了後，ブラシ組立はブラシＦをＡ方向に向けてからＣ方向側で停止します。

(c) 位置認識運転

・ブラシ組立を任意に移動させながら，位置検知スイッチによりマイコンが位置を認識します。

・終了後，ブラシ組立はＣ方向側で停止します。

(d) ラクリーナパネル収納

ラクリーナパネル収納後，パネルスイッチ(PS)により自動的に位置合わせ制御を行います。

(e) エアコン運転中の場合

・お掃除運転中，位置合わせ運転中および位置認識運転中でもエアコンの運転ができます。ただし，風量は自動的にLoに下がり，風向ルーバは上位置で停止します。

・お掃除運転中，位置合わせ運転中および位置認識運転中は，エアコンの性能が充分発揮できない場合が有ります。

<table>
<tr><th>リモコン</th><th>ecoタッチリモコン：RC - DX3B</th><th>RC - D4G（含むワイヤレスリモコン）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">清掃間隔</td><td>清掃終了から次回清掃開始までの間隔</td><td rowspan="3">清掃時間帯の設定はできません。
エアコン運転時間が８時間累積後に，停止が30分連続した場合に清掃開始します。
または，エアコン運転時間が１６時間累積後に清掃を開始します。
または，前回の清掃終了から７２時間経過後に清掃を開始します。
例えば，
１日８時間運転後に停止した場合は，停止３０分後から清掃開始します。
連続運転の場合は、１６時間毎に清掃を行います。
停止中でも３日毎に清掃を行います。</td></tr>
<tr><td>・毎日～３日　エアコン運転中は毎日
エアコン停止中は３日毎
・２日～４日　エアコン運転中は２日毎
エアコン停止中は４日毎</td></tr>
<tr><td rowspan="2">清掃時間帯</td><td>時間帯設定は，４パターンから選択できます。
・設定された時間帯に清掃を開始します。
・エアコンが運転中の場合停止するまで４時間まちます。
・エアコンが停止しない場合は風量をLoに下げてエアコン運転しながら清掃を開始します。
・通常使用時間外（在籍時間外）の選択を推奨します。</td></tr>
<tr><td>時刻設定：設定時刻に清掃を開始します。</td><td>時刻設定はできません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ダスト回収タイマー</td><td>設定された日になると，リモコンに『グリル昇降操作により､ホコリを回収してください』の表示が出ます。</td><td>フィルターサインの設定により切換可能。
設定１：1000時間，設定２：2000時間
設定３：2500時間，初期設定は2500時間</td></tr>
<tr><td>パネル表示部に黄色の点灯をします。</td><td>パネル表示部に黄色の点灯をします。</td></tr>
<tr><td>ホコリ回収完了をタッチした日から，設定期間をカウントします。</td><td>フィルターサインリセットした日から、設定期間をカウントします。</td></tr>
<tr><td>日付指定 毎年指定日に表示を行います。</td><td>日付指定はできません。</td></tr>
</table>

(3) メンテナンス

ＦＤＴお掃除パネル関連点検コード

(a) 異常を表示して､エアコン運転を停止します。

表　示	内　　容	処　　置
E21	通常パネルが閉じた状態で運転中に，グリルを開いた。 ＜パネルスイッチ（PS）が開いた場合＞ 通常パネルが閉じた状態で手動でグリルを開き，運転を開始した。 ＜パネルスイッチ（PS）が開いているとき＞ ラクリーナパネル制御で開いた場合は，運転が可能です。	吸込グリルが開いていないか点検してください。 ラクリーナパネルのワイヤ・ワイヤガイド装着方向確認

（b）点検を表示しますが、エアコンは運転を継続します。

表　示	LED表示(1)	内　　容	処　　置
Ｍ１	消灯	本体－お掃除間の通信異常	コネクタの差込を確認
	連続点滅		
	１回点滅	ＢＳＭモータを駆動中，25分間ＢＳが位置検知しないとき	フィルタの装着 （フィルタが変形していないか，引掛け部の外れはないか） ダストボックとレールの装着 （８個のホイールがレールに入っていますか）
	２回点滅	「フィルタ清掃制御」が１時間以内に終了しないとき	
	３回点滅	Ｃ方向端 ～ Ｄ方向端まで２０分以内に，終了したと誤認したとき	

注(1) LEDの点滅は，10秒間隔での点滅回数（青ＬＥＤ）示します。

（c）バックアップスイッチ操作

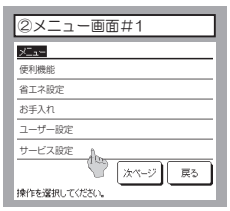
長押し時間	機　　能
３秒未満	フィルタ清掃開始
３～6秒未満	ブラシ清掃開始
６秒以上	表示消灯

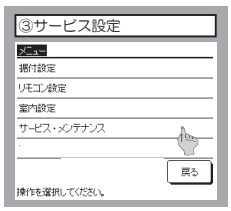
バックアップスイッチでのダスト回収表示（黄LED）消灯は，一時的に消えますが次の午前零時に再点灯します。
ダスト回収リセット・フィルターサインリセットを行ってください。

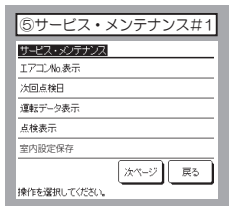
（d）トラブル対応
ブラシ組立が動かなくなった場合，および斜めに傾いた場合。

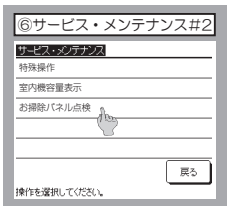
1	ブラシ組立は，位置検知を行いながら自動で平行に移動する様に制御しますが，ダストボックスがレールから脱線していたり，その他障害物により移動ができない場合，規定時間内で位置検知信号が入力されなかった場合点検コードを表示します。
2	ブラシ組立は，位置検知を行いながら自動で平行に移動する様に制御します。左右の位置検知スイッチが検知するタイミングが一致する様に先に検知した側が一旦停止して反対側の検知を待ちます。2個の位置検知スイッチが正常に検知できなかった場合，検知できない側のＢＳＭが回り続けブラシが斜めになって停止する場合があります。
3	以上のケースにて，ブラシが停止してしまった場合は、上表の処置を点検してください。
4	ecoタッチリモコン「ＲＣ－ＤＸ３Ｂ」の場合は，メニュー『サービス・メンテナンス』⇒『サービスパスワード』⇒『お掃除パネル点検』から復旧をさせてください。
5	停止している位置がＣ方向側（コントロールボックス側）の場合、個別操作［５］ 移動できた場合は、位置合わせ指令
6	停止している位置がＤ方向側（反コントロールボックス側）の場合、個別操作［６］ 移動できた場合は、位置合わせ指令
7	停止している位置がＣ方向側（コントロールボックス側）の場合、位置認識指令 移動できた場合は、位置合わせ指令
8	移動できない場合は、ドライブシャフトを回転させて、ブラシ組立が中央寄りで平行になるように外側になっている側を修正後、位置認識指令

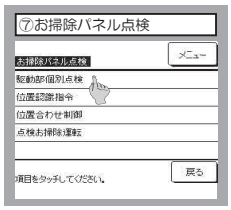
注(1) ブラシ組立および駆動の詳細については(1)項をご覧ください。











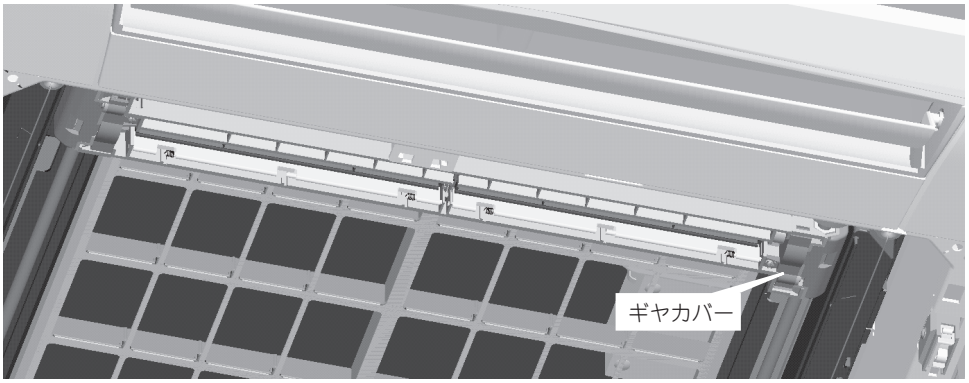
	駆動部個別点検内容
1	ブラシ１回転 Ａ方向 下向
2	ブラシ２回転 Ａ方向 下向
3	ブラシ１回転 Ｂ方向 上向
4	ブラシ２回転 Ｂ方向 上向
5	ブラシ移動 Ｃ方向 ｺﾝﾄﾛｰﾙ側
6	ブラシ移動 Ｄ方向 反対側
7	ダスト回収表示黄LED点灯

(4) ブラシ組立分解要領

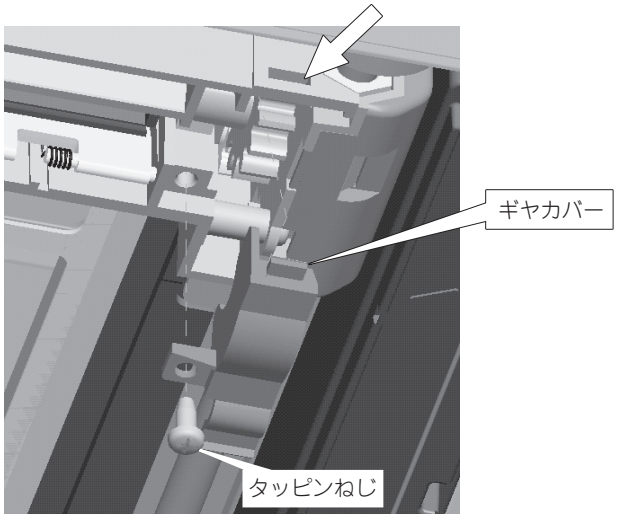
■ブラシセット

名　称	個数	備　考
ブラシ(F)	2	先端の形状が異なるブラシ(F)が各1個
ブラシ(B)	2	
ばねA	4	

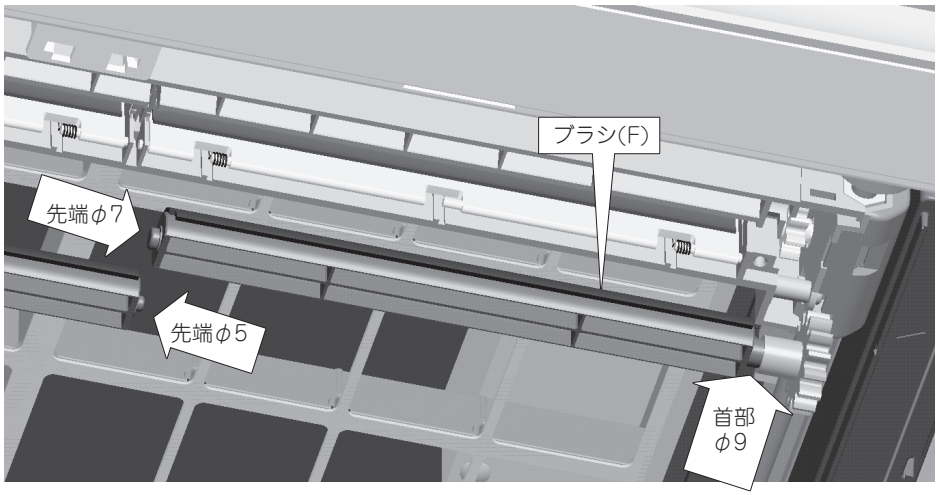
①タッピンねじを外してギヤカバーを取外してください。

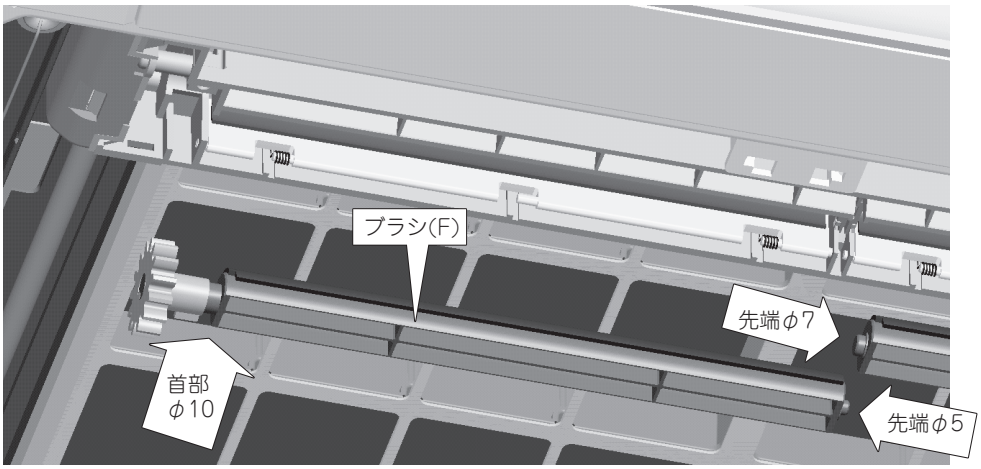


②ギヤカバーの取付は、左右共フレーム角穴(矢印)に爪を掛けてタッピンねじで固定しています。

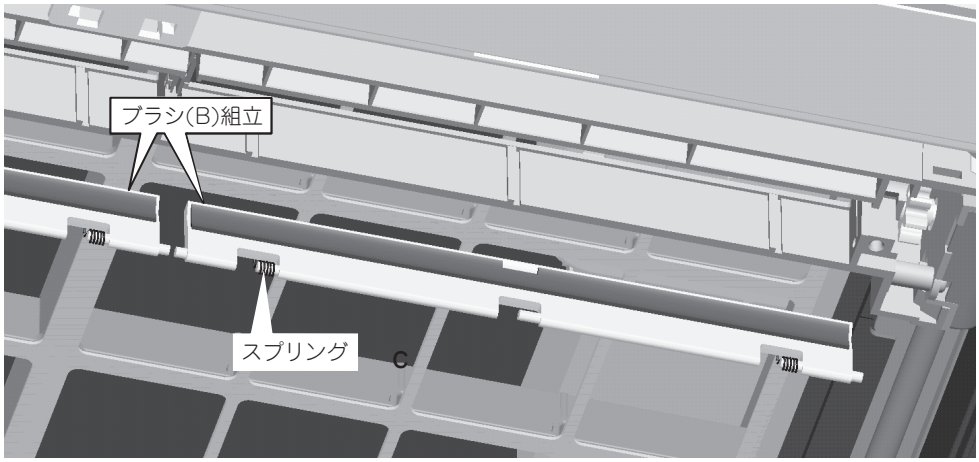


③ブラシ(F)を外します。ブラシ(F)は、左右で先端の形状が異なりますので，組立時は矢印部の先端の形状を確認し受側にあわせてください。

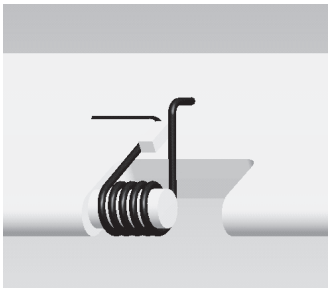


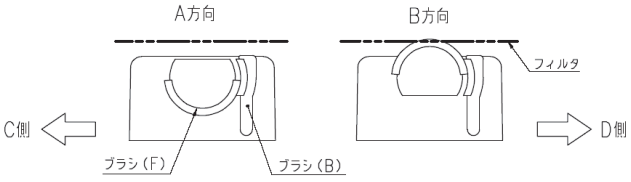


④ブラシ(B)を外します。ブラシ(B)には、左右にばねがあり，ばね取付には方向性がありますので注意してください。また，組立時には，ブラシ(F)とブラシ(B)が向き合うようにしてください。
（下図参照）



ばね取付方向



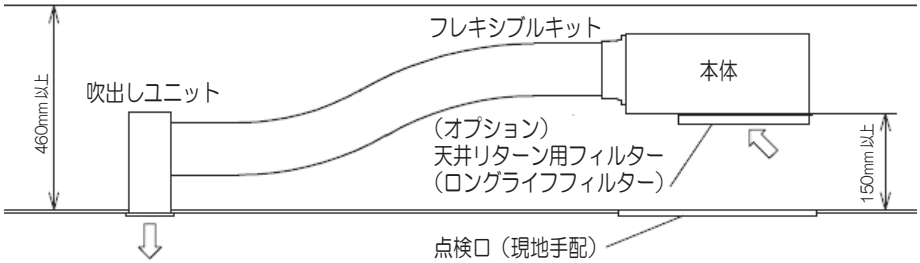


ブラシ組立断面図

(7) フィルターキット（FDR シリーズ）

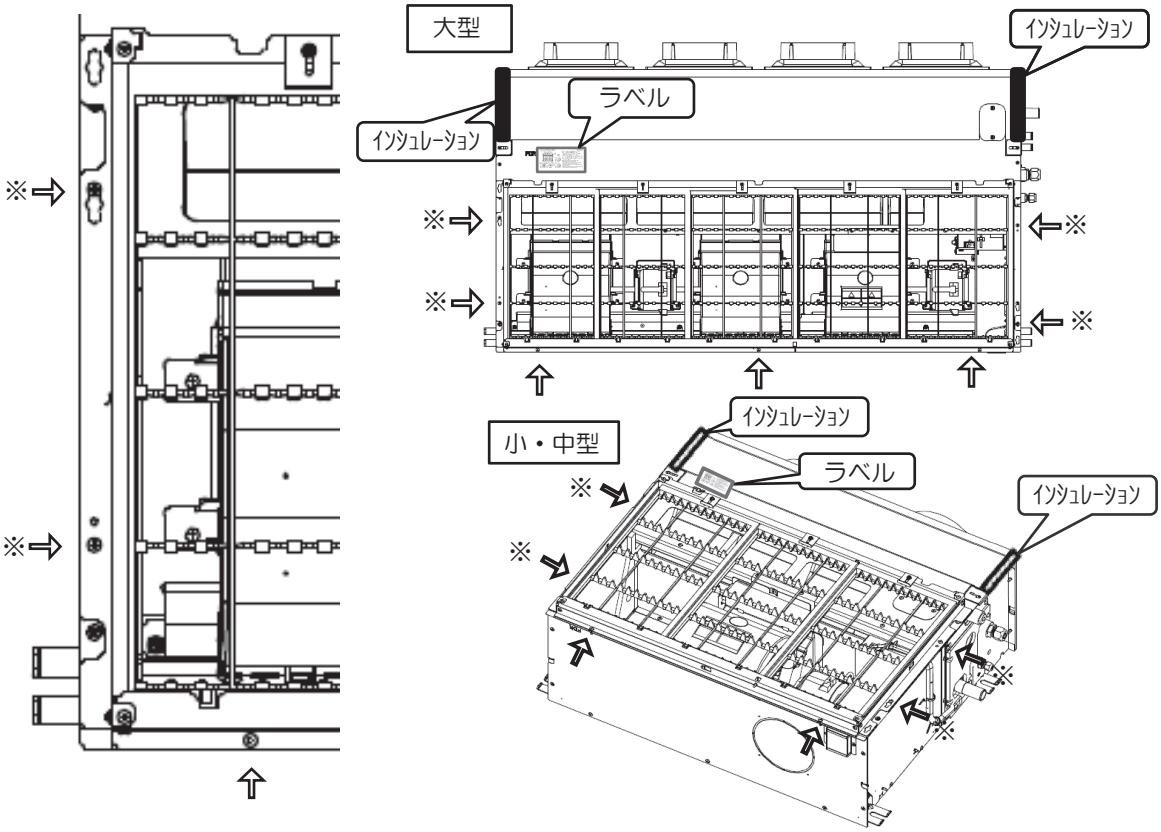
PJG012D011A B

室内ユニット付属の据付説明書と合わせて、ご覧ください。
フィルター清掃用・ユニット点検用に点検口を設置してください。
天井内が負圧にならない様に設計してください。



フィルターキット形式		R-FL-3A	R-FL-4A		
		KP56	KP71	KP112	KP160
適用機種	店舗	●	●	●	●
内容物	フィルター	フィルター大　3枚	フィルター小 2枚 フィルター大 3枚		
	ねじ	6本	7本		
	インシュレーション	2枚	2枚		

- 付属のラベル『エアフィルターの取付け・取外し方』を貼付けてください。
- ⇨ 矢印部を付属のねじで固定してください。　小型・中型は６本　大型は７本
- 機種によって、※部のねじがユニット側のねじと重なる場合があります。
  その場合はユニット側のねじを取外してから共締めしてください。
- インシュレーションを下図に従って2か所貼付けてください。
- 室内ユニット付属の据付説明書を参照に静圧設定を行ってください。

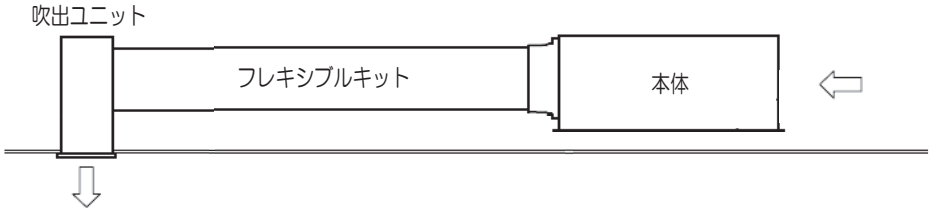


(8) 丸ダクト変換キット（FDU シリーズ）

PJG012D012A A

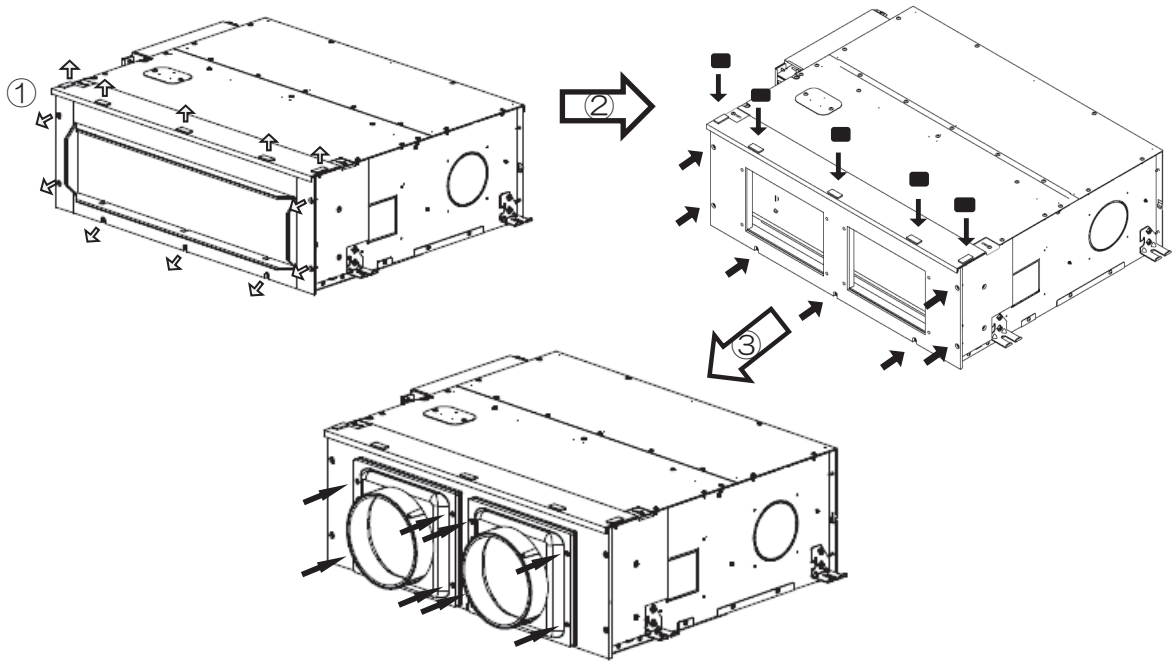
○ 室内ユニット付属の据付説明書と合わせて、ご覧ください。
○ φ200丸形ダクトを接続してください。
○ 各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
○ ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
○ ４スポットを３スポット、３スポットを２スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれかを塞いでください。
○ ２スポットから１スポットへの改修は、行わないでください。
○ 室内ユニット付属の据付説明書を参照に静圧設定を行ってください。

注意：丸ダクト仕様の場合、最大機外静圧は、１００Pa以下としてください。



シリーズ展開		中型	大型	
		KP56	KP71	KP112
シリーズ展開	店舗	●	●	●
丸ダクト変換キット	丸ダクト	3個	4個	
	形式	U-UM-3A	U-UM-4A	
付属品	付属ねじ（長さ12mm）	13本	14本	
	付属ねじ（長さ16mm）	12本	16本	
	断熱材	6枚	6枚	

● 本作業は、本体吊り込み前に実施してください。
① 熱交換器側の角ダクトフランジを取外してください。矢印のねじを外してください。 ⇨
② フロントパネルを取付けてください。付属のねじ（長さ12mm）を使用してください。 ➡
付属のインシュレーションを貼付けてください。 ■
③ 丸ダクトを取付けてください。付属のねじ（長さ16mm）を使用してください。 ➡



三菱重工サーマルシステムズ株式会社　〒100-8332　東京都千代田区丸の内３-２-３
三菱重工冷熱株式会社　〒108-0023　東京都港区芝浦２-11-５

●製品の仕様は改良のため予告なしに変更することがあります。